田村潔司敗戦で、さまよえる"秋山成勲問題"!?

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2007
113
880yen



すべての道は
UFCに通じるのか?

俺のものは俺のもの
PRIDEのものも俺のもの!!
ホントかよ!?

DANA WHITE
President of the UFC
ダナ・ホワイト UFC代表

Antonio R. Nogueira
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

Josh Barnett
ジョシュ・バーネット

Masakatsu Fanaki
船木誠勝

Kiyoshi Tamura
田村潔司

Sakurai "Mach" Hayato
桜井"マッハ"速人

Chris Benoit
クリス・ベノワ

Shiro Koshinaka
越中詩郎

Nobuyuki Sakakibara
榊原信行

Sadaharunba Tanikawa
谷川貞治

24時間プロレス・格闘技専門チャンネル「FIGHTING TV サムライ」

MONTHLY PROGRAM サムライTV FIGHTING 8 AUG2007



8月から新編成!
絶対中継宣言!

平日は夜10時から、週末は夜8時から試合中継がゴング!

バトステ・エクスプレス!
新日本プロレス
「G1 CLIMAX 2007～Winner Take All～」
8.6ツインメッセ静岡
●ON AIR…8/7(火)22:00～25:00、他
8.10愛知県体育館
●ON AIR…8/11(土)18:00～21:00、他

バトステ・ニアライブ!
全日本プロレス
「サマーインパクト2007」開幕戦!
8.19後楽園ホール
●ON AIR…8/19(日)19:00～22:00、他

バトルステーション(試合中継)
ZERO1-MAX「AWA World GP 火祭り'07」
天王山決戦! 7.31名古屋国際会議場
●ON AIR…8/1(水)22:00～24:00、他
優勝決定戦! 8.2後楽園ホール
●ON AIR…8/6(月)22:00～24:00、他

金曜の夜は、格闘技中継がラインナップ!
「DEEP GLOVE」7.26後楽園ホール
「DEEP 31 IMPACT」8.5後楽園ホール
修斗、パンクラス、ウォーリアーズ・カップなど
●ON AIR…毎週(金)22:00～24:00、他

火曜の夜11時は、レトロアワー!
新日本プロレス黄金史、全女CLASSICS、パンクラス・ヒストリーなど
土曜の夜8時は、新日本プロレス中継!
土曜の夜9時は、PRIDEアーカイブ!
日曜の夜10時は、サムライスペシャル!
武藤敬司☆SHOW、Versus、PRIDE特別番組など
日曜の夜11時は、ニュース「クローズライン」!
※放送内容は予告無く変更する場合がございます。
※この他にも、様々な番組を放送しています。

FIGHTING TV サムライの視聴方法

TVもHPも今夏リニューアル!
サムライTV FIGHTING
www.samurai-tv.co.jp

A.アンテナを付け、スカパー!で見る。

1. スカイパーフェクTV! カスタマーセンター　TEL.0570-039-888 受付時間/10:00～20:00(年中無休)
   サムライ視聴料: 1,890円/月(税込)　TEL.045-287-7777(PHS・IP電話 専用)
2. e2 by スカパー! カスタマーセンター　TEL.0570-012-110 受付時間/10:00～20:00(年中無休)
   サムライ視聴料: 1,890円/月(税込)　TEL.045-276-7777(PHS・IP電話 専用)

☆110度CS対応のデジタルBSアンテナ&テレビをお持ちの方は、B-CASカードを挿入の上、e2 by スカパー! ホームページから簡単にお申し込み頂けます。

B.ブロードバンドで見る。

3. スカパー! 光　カスタマーセンター　TEL.0570-013-999 受付時間/10:00～20:00(年中無休)
   サムライ視聴料: 1,890円/月(税込)　TEL.045-279-7777(携帯・PHS・IP電話 専用)
4. BBTVカスタマーサービスセンター　TEL.0120-936-582(一般電話/無料) 受付時間/10:00～18:00
   サムライ視聴料: 1,890円/月(税込)　TEL.03-6688-4895(携帯・PHS・IP電話 専用)　※著作権の都合により一部特別編成でお送りしています。

C.ケーブルテレビで見る。

5. サービス局についてはサムライオフィシャルホームページをご覧頂くか、またはお近くのCATV局までお問い合わせ下さい。
   ※視聴料金はCATV局によって異なります。

田村潔司、まさかの敗戦！ 討伐ムードに翳り——!?

さまよえる"秋山問題"



2007 No.113 CONTENTS

kamipro

表紙写真／FightSport
トランプイラスト／師岡とおる



Eの火種

07年上半期の〝MMAバブル戦争〟——。水面下で繰り広げられていたボードッグとの選手争奪戦に打ち勝ったUFCが、ますます勢力を拡大することになった。その予想以上の大勝利の要因の一つとしては、『PRIDE』の沈黙も挙げられるだろう。

それにしても、新生『PRIDE』はどうなってしまうのか？

4月8日『PRIDE・34 KAMIKAZE』以来、〝沈黙〟というとばりが下ろされたままの『PRIDE』——。なにしろ『PRIDE』そのものに大きく関わる事件、発言、動きがあったとしても、新組織はまるで無反応なのである。

たとえば、選手の他団体への移籍が相次いで起こっても、選手側からの一方的な離脱宣言、契約解除に対してもなんの声明もない。そりゃあ、あのTBSだって勝手に「PRIDEからの刺客」だの「PRIDE vs K—1」だの、わけのわからんことをやりだすって!! そのうえ別組織のはずなのに、UFCのダナ・ホワイト代表が〝PRIDEのスポークスマン〟と化している。UFCの大会前後の記者会見で、『PRIDE』の行方があたりまえのように語られるのは恒例になってしまった。

このように先行き不透明な状況だが、一説によれば〝年内開催〟に向けてついに再スタートを切った、という情報もある。『PRIDE』、ついにやれんのか!? しかし、こうやって『PRIDE』が沈黙を続けるあいだに、〝PRIDEの火種〟を持つファイターたちは、各方面に飛び散ってしまった。

はたしてその〝PRIDEの火種〟たちがマット界にもたらすものとは何か？ ……とりあえず、いまのところはダナ・ホワイトに聞くしかないんだよなあ。

飛び散ったPRIDE


北京五輪？
年明けUFC参戦？
UFC
9月UFC参戦
UFC
新生PRIDE？
エリートXCと契約？
PRIDE離脱表明
BODY ENGLISH



RIGO
RA

“PRIDEの守護神”と呼ばれた男、UFCのオクタゴンに立つ!
次の相手はなんとミルコ・クロコップか!?

2003年のミルコ戦のあと、ダナに言われたよ

「こんな試合をUFCで実現させるのが私の夢だ」ってね





元PRIDEヘビー級王者、ノゲイラが7.7『UFC73』でついにオクタゴンに登場。苦戦する場面もあったが、ヒース・ヒーリング相手にフルマークの判定で、UFCデビュー戦を白星で飾った。UFC第2戦の相手には、あのミルコという声も挙がっているノゲイラに、試合前と試合後、二度にわたってインタビューを行なった。

聞き手・撮影／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges（UFC）

ANTONIO RODRI
NOGUEIR

7・7『UFC73』で、元PRIDEヘビー級王者、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラが、ついにUFCデビューをはたした。

本誌はこの世界中のMMAファン注目の中、初めてUFCのオクタゴンで闘ったノゲイラに、試合前と試合後、二度にわたってインタビューを敢行。UFCへの意気込みと、実際に闘ってみた感想を聞くことに成功した。

はたしてノゲイラは、どんな気持ちで初のUFCのオクタゴンへと向かい、どんなことを感じたのか？　まずは大会前日、公開計量を終えたあとに収録したインタビューからお届けしよう。

ノゲイラ　カミプロ、ヒサシブリー！

――おひさしぶりです（笑）。この半年、『PRIDE』からUFCへの移籍、さらにブラジリアン・トップチーム（BTT）からの独立と、激動でしたね。

ノゲイラ　うん。自分にとって、とても大きな転機となる時期だった。だから、ちょっとナーバスになったけど、いまは状況が落ち着いて闘いに集中できているよ。

――では、いよいよ明日、UFCデビュー戦ですけれども、いまの心境は？

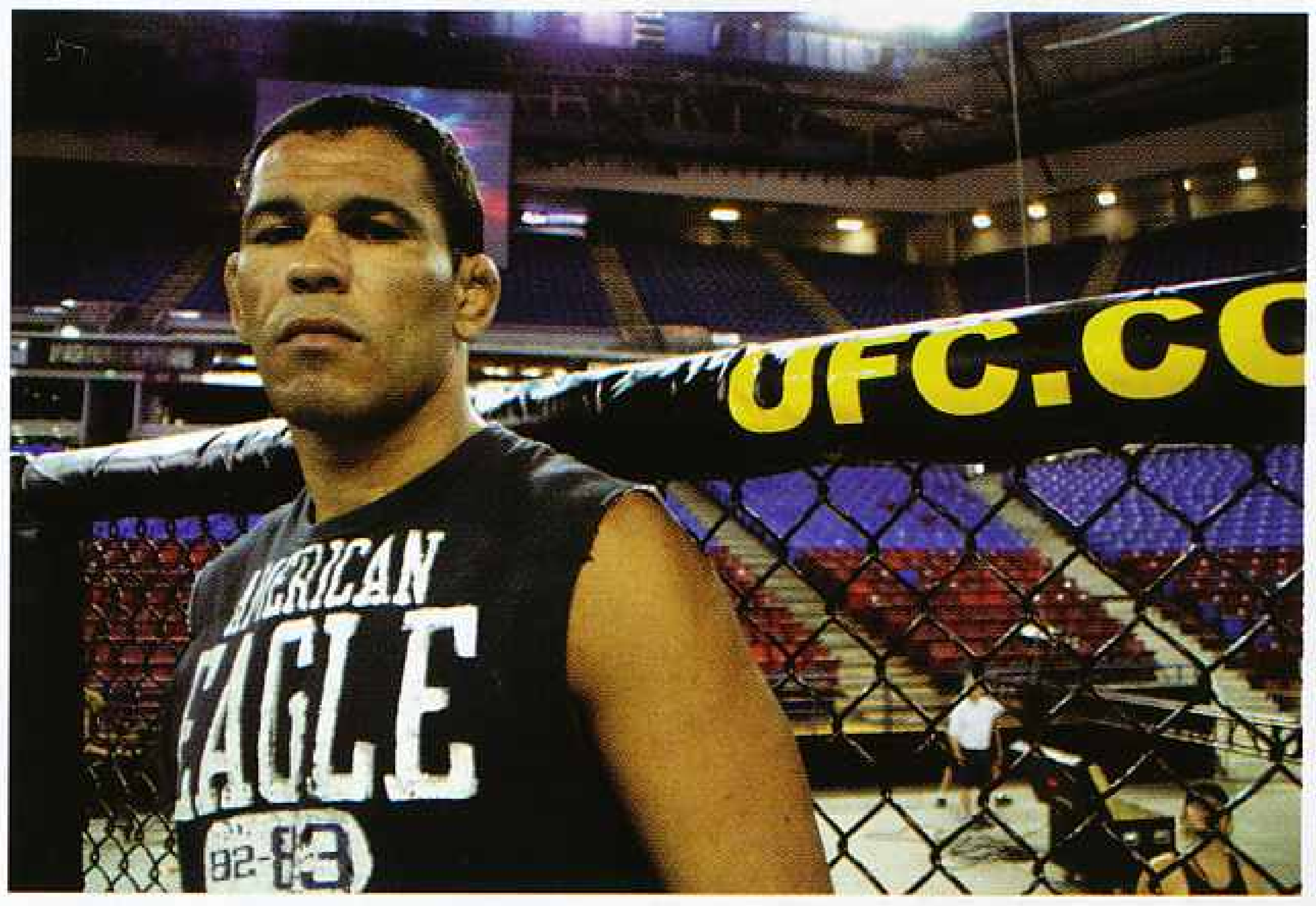
ノゲイラ　わくわくしているよ。初めてアメリカのファンの前で、UFCのオクタゴンで闘うわけだからね。ずっとこの日を楽しみにしていたんだ。

――初のUFCですけど、不安はありませんか？

ノゲイラ　不安は全然ないね。しっかりと準備はしてきたから、あとはオクタゴンに上がるだけさ。もちろん、ルールの違い、リングとオクタゴンの違いがあるから、さまざまなことに注意しなければならないと思う。でも、急にUFCに上がることになったわけではなく、ボクはこのルールに対応するための練習をしっかり積んできたし、トレーナーのサポートも受けているので、いい状態で闘えると思うよ。

――ノゲイラ選手のガードポジションを取るスタイルは、UFCでは不利だという人もいますが、その意見についてはどう思いますか？

ノゲイラ　ボクは『PRIDE』に初めて上がるときも同じことを言われたよ（笑）。ガードポジションで下になったら、パウンドでKOされてしまう、とね。でも、ボクはリング上で身をもってその常識を覆した。そしてガードポジションからの極めは、多くの選手たちが『PRIDE』で使うようになったんだ。



――確かに、そういえばそうですね。

ノゲイラ　それどころか、ボクは顔面へのパウンドが禁止されたリングス（KOK）で闘ってきたから、顔面ありのバーリ・トゥードじゃ通用しないとまで言われていたんだから（笑）。今回もボクの技術がUFCで通用するかしないか、明日になればみんながわかることだよ。

ボクのスタイルはUFCでは不利？ PRIDE初参戦時も同じことを言われたよ（笑）

――でも、同じ寝技でもオクタゴン用にマイナーチェンジもしてるんじゃないですか？

ノゲイラ　うん。もちろん改善しなければならないところは改善したよ。でも、ガードポジションになって危険なのは、ケージに押し込まれたときだけさ。ケージから離れたところでガードを取ったら、それはボクのペースだよ。

――UFC特有のルールであるヒジ打ちについてはどうですか？

ノゲイラ　ヒジについても、アンデウソン・シウバ（UFCミドル級王者）としっかり練習を積んできたので問題ない。明日のヒーリング戦では、日本のファンには新しいミノタウロを、アメリカのファンには見たこともないファンタスティックな柔術を見せて、しっかりと勝ちたいね。

――UFCで闘うのにあたって、アンデウソンが所属するチーム・ブラックハウスで練習することは、やはり大きな力になりましたか？

ノゲイラ　そうだね。でも、アンデウソンはBTTのメンバーではないけど、以前から一緒に練習はしていたんだ。ブラックハウスのジムもチーム・ノゲイラの練習場として使わせてもらっていたしね。ブラックハウスはリオのロケーションのいい場所にあるし、凄く使い勝手がいいんだ。

――BTTよりもいい環境ですか？

ノゲイラ　こと設備面に関しては、ブラジルでトップレベルにあると言えるね。BTTは素晴らしいメンバーが揃っているけど、マットがあるだけで設備的には、アメリカのジムと比べると見劣りしていた。でも、ブラックハウスは最新のウエート器具はもちろん、マットとオクタゴンも常設している。世界のヘビー級トップレベルにいるボクが使うにはもってこいのジムなんだ（笑）。

――では、現在ノゲイラ選手はチーム・ブラックハウス所属になるんですか？

ノゲイラ　いや、ボクが所属しているのはチーム・ノゲイラだよ。もともとチーム・ノゲイラは、ボクの自宅にトレーニング施設を作って練習していたんだけど、いまはブラックハウスを練習場所として使わせてもらっているんだ。

――では、チーム・ブラックハウスとは、協力関係という感じですか？

ノゲイラ　そうだね。凄くいい関係にあるよ。お互いを高め合っている。

――チーム・ノゲイラというのは、いまどんなメンバーがいるんですか？

ノゲイラ　所属選手は12人だね。弟のホジェリオやエジソン・ドラゴ、それからブラジルのレスリングチャンピオンやボクシングのチャンピオンもいる。軽量級の選手もいるし、いい選手が揃っているよ。

――多くの選手はBTT出身ですか？

ノゲイラ　BTT出身というか、ボクがBTTに所属していた頃からチーム・ノゲイラは別個に存在していて、その頃はチーム・ノゲイラのメンバーはボクの自宅とBTTの両方で練習していたんだ。それがいまは、BTTからブラックハウスに練習場所が変わった感じだね。

――では、BTT所属とされていたエジソン・ドラゴも実際はチーム・ノゲイラだった、と。

飛び散ったPRIDEの火種



ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

［7.7 UFC73 -stacked-］
米国カリフォルニア州サクラメント　ARCOアリーナ
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ヒース・ヒーリング×
（3R 判定3-0）

UFCデビューのノゲイラは序盤から寝技、立ち技ともに優位に立ち、ヒーリングはノゲイラのパンチとヒザ蹴りで流血。決着は時間の問題かと思われたが、1R4分過ぎ、ヒーリングの左ハイキックがモロにヒット！ ノゲイラはあわやTKO負けのピンチに陥ったが、なんとか凌ぎ、最終的にはフルマークの判定勝ちを収めた。

ノゲイラ　そうなんだ。ボクやホジェリオがＢＴＴ所属として出場しているのに、彼だけチーム・ノゲイラじゃ、ちょっとややこしいからね（笑）。

――ノゲイラ選手がＢＴＴから離れたのは、正式にはいつからなんですか？

ノゲイラ　……ＵＦＣとの契約が成立したときが、事実上ＢＴＴを離脱したときと言えるのかな。

――ＢＴＴから独立した理由は、いろんな噂が立っていますが、実際にはどうだったんですか？

ノゲイラ　なんだかインターネットを中心にいろいろ言われているみたいだね（笑）。でも、ホントは凄くシンプルなことなんだ。マネージメントが変わったことが一番の理由だよ。ボクは今回、ＢＴＴを通さずに個人でＵＦＣと契約しただろう？　ボクはＢＴＴで練習することが大好きだったから、マネージメントだけは個人で行ない、練習はこれまでどおりＢＴＴでやりたかった。でも、それは認められなかったんだ。だから新しい場所で練習せざるを得なくなったんだ。

――では、人間関係が原因ではないんですね？

ノゲイラ　それはないよ。ＢＴＴのメンバーとはいまでも仲がいいんだ。ビジネスとしての変化があっただけだね。

――ＢＴＴのメンバーとは、いまでも話をするんですか？

ノゲイラ　先月、ラスベガスでムリーロ（・ブスタマンチ）と個人的に会ったよ。ファイターとトレーナーとしてではなく友だちとして、一緒にランチを食べて話をしたんだ。ムリーロをはじめ、ＢＴＴのメンバーには本当に感謝している。でも、いまのボクにとっては、ＢＴＴから独立することがベストな選択だったんだ。もう後戻りはできないよ。

――ＢＴＴを離れ、『ＰＲＩＤＥ』からＵＦＣへ戦場を移すのは、自分のステップアップに必要だった、と。

ノゲイラ　それはこれからわかることだけど、きっとそうなると信じている。とにかくいまはいい感じで進んでいるからね。

――ＵＦＣに戦場を移したのは、やはり『ＰＲＩＤＥ』の危機とＵＦＣの急激な隆盛が影響しましたか？

ノゲイラ　やっぱりファイターをやっていると、いろんな情報が入ってくるんだよ。『ＰＲＩＤＥ』が危ないというのは、去年から周知の事実だったからね。逆にＵＦＣはいま凄く調子がいい。そういった状況を考えると、いいタイミングだったんだと思う。

――トップファイターとしては、やはりトッププロモーションで闘いたいという気持ちがあるわけですか？

ノゲイラ　それはもちろんある。あとは昨年大晦日のあと、『ＰＲＩＤＥ』での目標を失なってしまったということもあるね。ジョシュには借りを返したし、無差別級ＧＰに優勝したミルコはＵＦＣに移ってしまった。ヒョードルとは闘いたいけど、すでに3度闘っていたから、4度目は難しいのかなと思っていたんだ。そう考えた

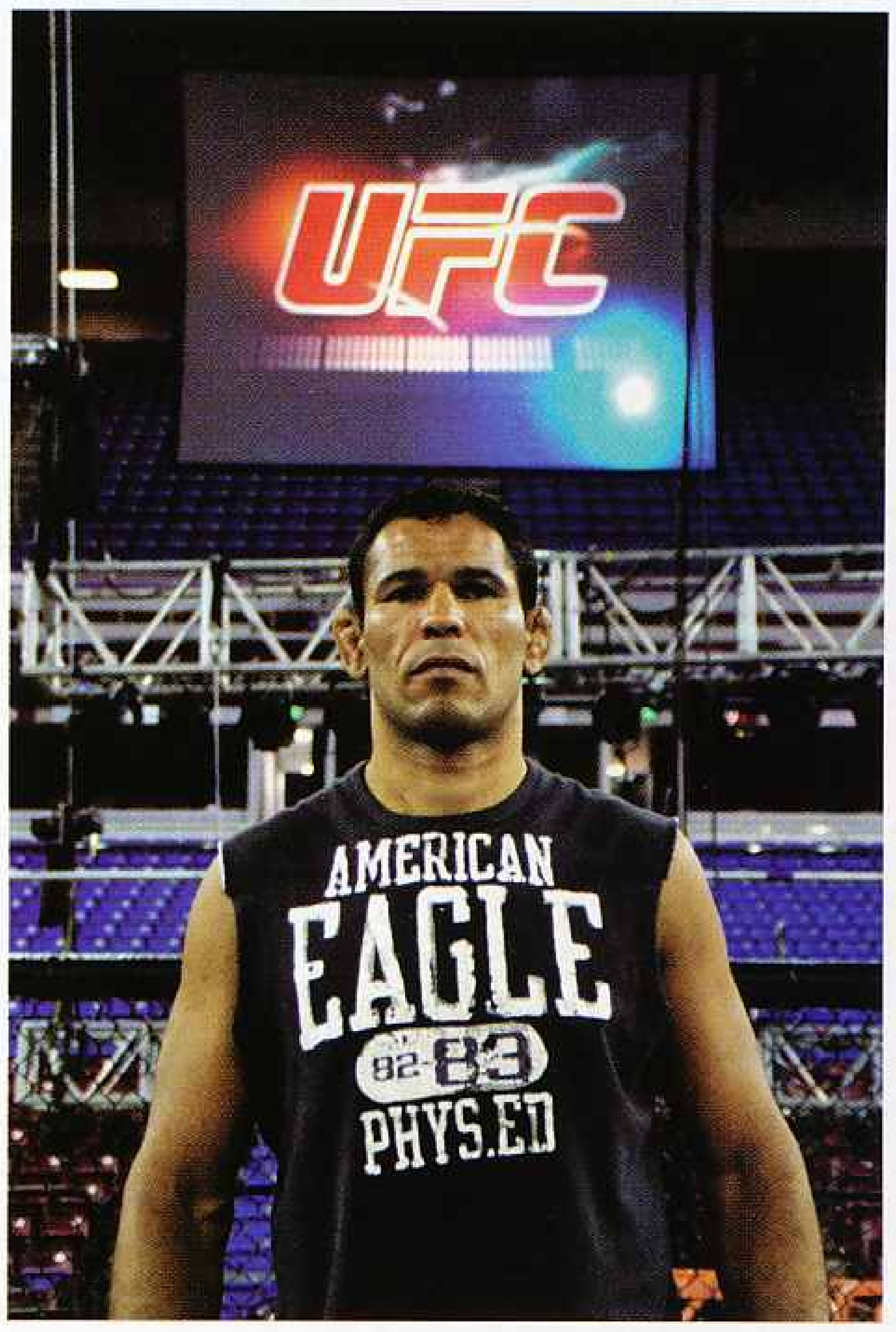
とき、自分にとって新たなチャレンジであるUFCというのが、凄く魅力的に感じたんだ。UFCにはランディ・クートゥアーという素晴らしい選手もいるし、自分の力がどこまで通じるか試したかった。やはり目標があったほうがモチベーションも上がるしね。

——UFCヘビー級は、かつてのPRIDEヘビー級と比べて、レベル的にはどう思いますか?

ノゲイラ　同じようにタフだと思うよ。ランディ、ティム・シルビア、アンドレィ・アルロフスキー、そしてミルコまでいる。間違いなくレベルは高いし、闘うのが楽しみだよ。ボクにとっては、新しい場所で、新しいルールで闘うわけだから、『PRIDE』以上にタフかもしれない。だからこそ、やりがいがあるんだ。

——8月にランディ・クートゥアーvsガブリエル・ゴンザガのUFCヘビー級タイトルマッチがありますけど、この試合はどうなると思いますか?

ノゲイラ　ゴンザガは若くてハングリーで力が強く、そして柔術が素晴らしい。対するランディは抜群のレスリングテクニックに加え、誰にも負けない経験がある。勝算はフィフティ・フィフティじゃないかな。どちらにしても、タフな試合になることは間違いないよ。



——この勝者に挑戦したい気持ちはありますか?

ノゲイラ　それはもちろんあるよ。すでに闘う準備もできている。いつでもOKだ。

——ただ、UFCヘビー級のベルトを獲ったとしても、ヒョードルに勝つまでは"最強"は名乗れないんじゃないですか?

ノゲイラ　ヒョードルだって、試合をしない限りは"最強"を名乗ることはできないよ。ファイターの強さというのは、常に変わっていくものなんだ。試合から離れて休んでいる人間より、試合に向けて仕上げたファイターのほうが強いに決まってるからね。

——そういえばミルコ・クロコップは、UFCデビュー戦で『PRIDE』のテーマ曲で入場してきましたけど、ノゲイラ選手はPRIDEファイターを代表して闘うという気持ちはありますか?

ノゲイラ　『PRIDE』はボクにとってかけがえのない故郷であり、あのリングでの闘いは自分にとってまさに"誇り"だ。

試合から離れているヒョードルは現時点での"最強"は名乗れないよ

でも、今回は『PRIDE』のために闘うというより、しばらくボクの闘いを観ていない『PRIDE』のファン、ボクの試合を観たことのないアメリカのファン、そして母国ブラジルのファン、みんなに新しいミノタウロを観てもらいたい。それがプロとしてのボクの務めだと思うからね。

【07年7月6日／『UFC73』大会前日計量終了後、米国カリフォルニア州サクラメント、ARCOアリーナにて収録】

ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

1976年6月2日、ブラジル・バイーア州出身。99年リングスに初来日。『KOK2000』優勝の実績を引っさげ01年より『PRIDE』参戦。02年には初代PRIDEヘビー級王者となる。以後、ヒョードル、ミルコとともに"ヘビー級3強"と呼ばれ、PRIDE黄金期を築くが、昨年大晦日のジョシュ戦を最後に、戦場をUFCに移した。191cm、109kg。

こうして7・7『UFC73』大会前日、UFCへの移籍、BTTからの独立の経緯と、新生ノゲイラとしてUFC参戦への意気込みを語ってくれたノゲイラ。

翌日、注目のUFCデビュー戦は、ヒース・ヒーリング相手に終始ペースを握っての判定勝ちを収めたものの、1ラウンドにハイキックでダウンを喫するなど、本領発揮とはいかなかった。とはいえ、無事UFCデビューを白星で飾ったノゲイラを、大会終了直後に再び直撃。

初めて足を踏み入れたUFCのオクタゴンでの闘いの感想と、来るべきミルコ・クロコップの"運命の再戦"についてうかがってみた。

——UFC白星デビュー、おめでとうございます！　じつにタフな試合でしたね。

ノゲイラ　うん。ヒーリングとは過去2回闘っているけど、今回も以前に劣らぬタフな試合だった。彼のキックは素晴らしかったね。いつも彼のキックには驚かされるよ。

——あのハイキックはかなり効いたんじゃないですか?

ノゲイラ　ちょっと驚かされたけど、ダメージはそれほどでもないよ。あのキックがなければもっと楽に勝てたかもしれないけどね。

——あのハイキックは見えませんでしたか?

ノゲイラ　彼はボクのパンチとヒザ蹴りで流血していたので、KOするチャンスだと思って、彼の顔ばかりを見ていたらキックが飛んできたんだ。自分のミスだね。ああいったことが命取りになることがあるから、気をつけないとね。

——初めてのUFCのオクタゴンはいかがでしたか?

ノゲイラ　いい経験になったよ。フェンスがある闘いも好きだよ。べつに難しいことはない。楽しんだよ。

——でも、金網際では動きづらくて極められなかったんじゃないですか?

ノゲイラ　まあね。でも楽しかったよ。寝技で極められなかったのは残念だけど、練習してきたボクシングの技術が出せたことは、自分にとって有益なことだったよ。

——逆に反省点はなんですか?

ノゲイラ　スタンドのガードが甘くなってしまったことかな。次の試合までには、これまで以上にムエタイを練習をしっかりやりたいね。

——ダナ・ホワイト代表は、大会後の会見で「ノゲイラ選手の次の相手は、9・8『UFC75』ロンドン大会で予定されている、ミルコvsチック・コンゴの勝者と闘わせたい」と言っていましたけど、そ

の意見についてどう思いますか？

ノゲイラ　エキサイティングだね。相手にとって不足はないよ。もし本当に次の相手がミルコvsコンゴの勝者になるなら、ロンドンまで行って、オクタゴンサイドで彼ら試合を観たいね。

――ミルコとの試合は、ＰＲＩＤＥ史上に残る名勝負でしたから、再戦が実現するなら、ファンにとってこんなに楽しみなことはないですよ！

ノゲイラ　あの試合はボクの人生でも最高の試合の一つだ。もし再戦が実現するなら、ＵＦＣ史上最高の闘いにする自信もあるよ。そういえば、２００３年にミルコと試合をしたあと、会場に来ていたダナ（・ホワイト）に言われたんだ。「素晴らしい試合だった。私は今日のような試合を自分のイベントで実現させることが夢だ」ってね。

――へぇー、それはいい話ですねぇ！

ノゲイラ　ダナはあれから、本当に世界最高のマッチメイクを実現できるプロモーターになった。そして、ボクたちもあれからさらに成長している。ミルコと再戦するには、一番いい時期なんじゃないかと思うよ。

――そして、その一戦に勝利したら、いよいよチャンピオンシップじゃないですか？

ノゲイラ　もちろんＵＦＣのベルトはほしいから、そうなるといいよね。今日はボクにとってＵＦＣで最初の試合だったから、すべてを見せることはできなかったけど、次の試合ではボクがチャンピオンシップにふさわしい人間だということを証明してみせるよ。

飛び散った PRIDEの火種

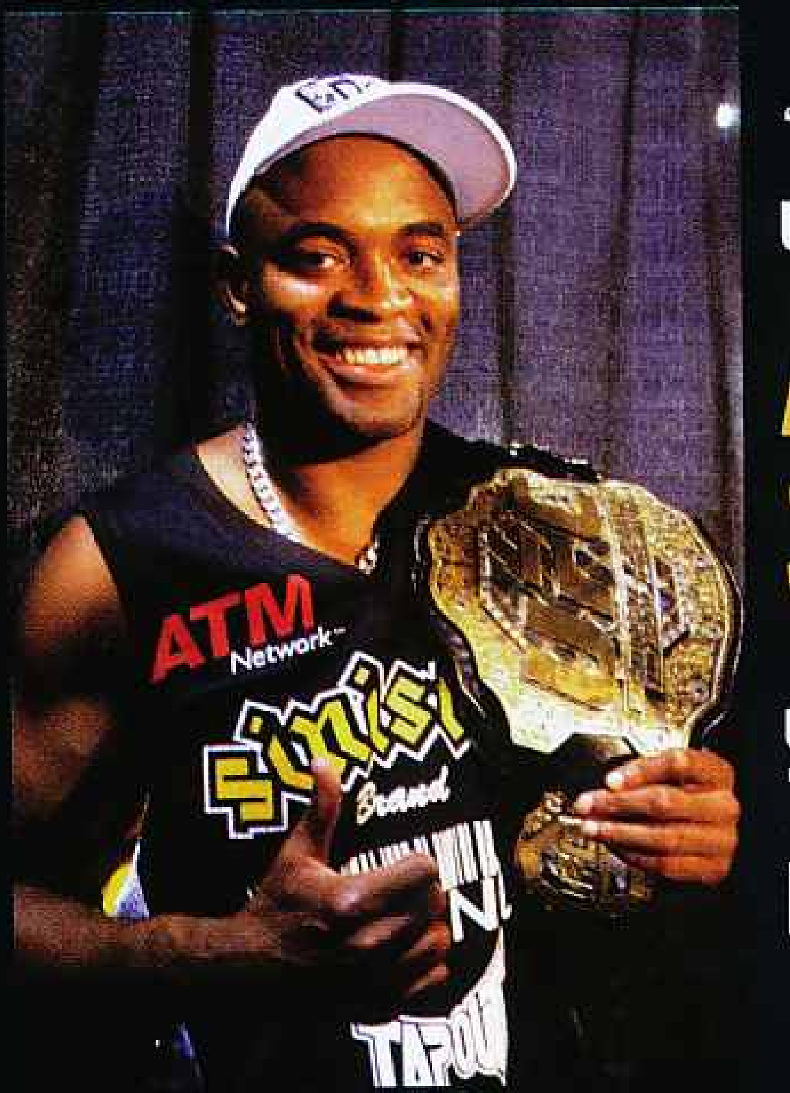
――でも、今日ヒーリングに食らったハイキックが、もしミルコのハイキックだったら、危なかったんじゃないですか？

ノゲイラ　ミルコのキックは２００３年にさんざん食らったから、どんなものか誰よりもよくわかっているよ（笑）。大丈夫、彼の研究は充分にできている。心配ないよ。

――わかりました。では最後に、日本のファンにメッセージをお願いできますか？

ノゲイラ　もちろん、ＯＫだよ。日本のファンのことはいつも思い出すよ。ＵＦＣでのボクの試合も気に入ってくれるといいな。今日は、関節技をあまり披露できなかったことは残念だけどね。（日本語で）ゴメンナサイ。でも次の試合では自分の力をすべて出したい。そして機会があればすぐにでも日本へ行きたいし、もし大好きな『ＰＲＩＤＥ』が日本で再開されるなら、もちろん参戦したいよ。ボクは必ず日本に帰ってくるから、その日を待っていてくれたら嬉しいよ。

【07年7月7日／『ＵＦＣ73』大会終了後、米国カリフォルニア州サクラメント、ＡＲＣＯアリーナにて収録】



"ノゲイラの盟友"を王座防衛後に直撃！

UFC MIDDLE WEIGHT CHAMPION

ANDERSON SILVA

UFCミドル級チャンピオン

アンデウソン・シウバ

「ノゲイラだけじゃない。これからドリームチームが結成されるよ」

"ブラジルのクモ男" アンデウソン・シウバ。彼こそが昨年、ダンヘン、パウロ・フィリオ、デニス・カーン、三崎和雄、郷野聡寛らでＧＰを争われたＰＲＩＤＥウェルター級とほぼ同階級にあたる、ＵＦＣミドル級の頂点に立つ男だ。

元・修斗ミドル級王者で『ＰＲＩＤＥ』でも活躍したシウバは、シュートボクセ、ムエタイ・ドリームチームを経て、現在はチーム・ブラックハウスに所属。ノゲイラとは親友同士で、ＵＦＣとの橋渡しを最初に行なった張本人でもある。

7・7『ＵＦＣ73』では、ネイサン・マーコートを破り、ＵＦＣミドル級王座を防衛。その試合後、会場でシウバを直撃。ノゲイラとの関係を中心に話を聞いてみた。

（聞き手／堀江ガンツ）

――ＵＦＣミドル級王座防衛おめでとうございます！

シウバ　サンキュー。

――足の使い方や寝技の体さばきが素晴らしかったですね。

シウバ　それは普段のトレーニングの賜物さ。

――試合前はノゲイラと練習していたそうですが、何かアドバイスはもらいましたか？

シウバ　もちろん、彼はヘビー級のトップの一人。たくさんのことを学んだよ。彼だけでなく、チーム・ノゲイラのメンバーからも多くのことを学んだね。逆にボクのほうからも、ＵＦＣでの闘い方、とくにヒジやケージの使い方をノゲイラにアドバイスしたんだ。

――ノゲイラとの練習では、どんなポイントを練習しましたか？

シウバ　彼と練習したことで、ゲームの見方が変わったね。ボクはもうグラウンドを苦にしない。チーム・ブラックハウスとチーム・ノゲイラが一緒に練習することで、二つのチームは家族のような関係になった。そこでは、2チームのメンバーみんながお互いに貢献するような関係になったんだ。

――ブラックハウスがほかのブラジルのアカデミーよりも優れている点はなんですか？

シウバ　みんな同じ目標を持って頑張っていることだね。これはまだ始まったばかりなんだ。これからもっとトップファイターが加入して、ドリームチームが結成されることになるよ。

――9・8『ＵＦＣ75』で、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンvsダン・ヘンダーソンという、ＵＦＣと『ＰＲＩＤＥ』の王者同士の試合が実現します。シウバ選手は同じくダン・ヘンダーソンが持つＰＲＩＤＥウェルター級（ＵＦＣミドル級とほぼ同階級）との統一戦には興味がありますか？

シウバ　もちろん興味はあるよ。彼がライトヘビー級に転向し、ＰＲＩＤＥウェルター級王座が空位になるなら、そのベルトも狙っていくし、彼が再び体重を落とせるなら、真の王者を決めるべく統一戦をやったっていい。どちらにせよ、ドリームマッチが実現することはいいことさ。

【07年7月7日／『ＵＦＣ73』大会終了後、米国カリフォルニア州サクラメント、ＡＲＣＯアリーナにて収録】



7.7『UFC73』。シウバは元ミドル級キング・オブ・パンクラシスト、ネイサン・マーコートとUFCミドル級王座防衛戦で対戦。蹴り足をつかまれ、テイクダウンされそうになったところを逆に体を入れ替え、パウンドでKO。秒殺完勝で、王座防衛を果たした。




eGAME WHITE

UFC PRESIDENT

“ベガスの帝王”がPRIDEの今後とUFCの世界戦略を語る

あったまテカテ〜カ、冴えてピカピ〜カ、それがどうした、ぼくダナえもん〜。というわけで、♪あんなこといいな、できたらいいな、というようなことをこともなげに次々と実現させる男、UFCダナ・ホワイト代表が今月も登場。いまや“一人勝ち”となったUFCの今後だけでなく、いまだ再開の声が聞こえてこない『PRIDE』の動向についてもうかがってきた。MMAという“ゲーム”は、すべてこの男の手の中にあるのか!?

聞き手・撮影／堀江ガンツ　写真提供（P.10-11）／FightSport　トランプイラスト／師岡とおる

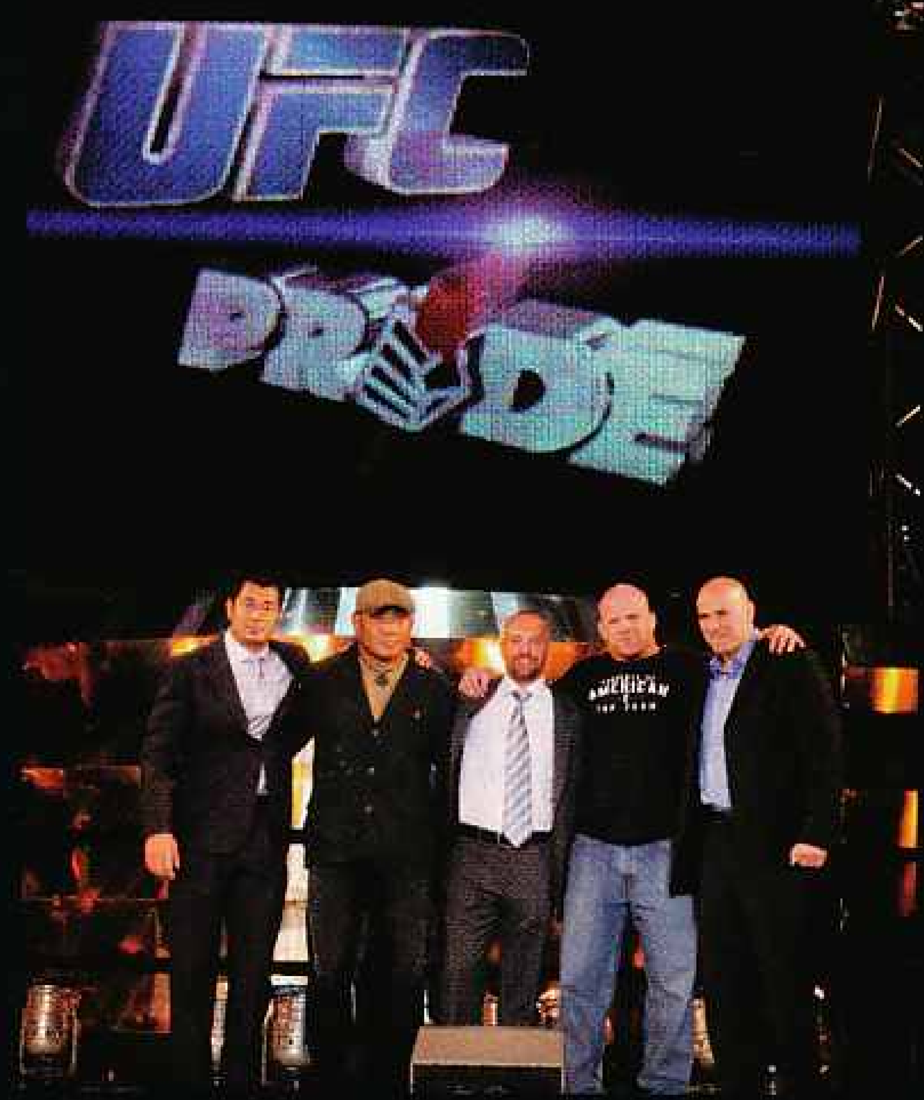


1年以内に6つのスーパーカードを実現させてやろう

The Master of the

DANA

――いまや日本の格闘技雑誌に最も頻繁に登場するアメリカ人と言ってもよい、UFCのダナ・ホワイト代表に今月も登場いただきたいと思います（笑）。
ダナ　私が最も頻繁に登場してるって、それはホントなのかい？
――はい。露出度で言えば、UFCのスーパースター、チャック・リデルやランディ・クートゥーをはるかに凌ぎますね。
ダナ　それは興味深いが、あまり好ましいことじゃないな。私はどこかのジョーク団体のオーナーみたいに、大会ポスターやビルボードに、選手ではなく自分の写真を載せるような、愚かな人間じゃないからね（笑）。
――ズバリ言って、カルビン・エアーとは違う、と（笑）。
ダナ　私はこのスポーツの素晴らしさを伝えたいだけなんだ。自分が目立ちたいわけじゃない。
――なぜ、こんなに頻繁にダナ代表に話を聞きにくるかというと、みんなUFCが何を仕掛けてくるのか、そして『PRIDE』がどうなるのか、ということに興味津々なんです。『PRIDE』は大会がないし、UFCはテレビ放映がないから、日本のファンはMMA情報に飢えてるんですよ。
ダナ　なるほど。だから私は日本のファンが大好きなんだ。世界一MMAを深く愛しているファンだ。私はずっと日本でイベントをやりたいと思っていてうずうずしてるんだ。
――そんな日本でUFCはおろか『PRIDE』まで興行が一向に開催されないのは、なぜなんですか？　毎月、UFCの代表に関係のない『PRIDE』のことを聞くのは少々気が引けるんですが（笑）。
ダナ　確かにPRIDEブランドは強力だ。しかし、いつも言っているように、まずはテレビ放送契約とスポンサー契約を結ばなくてはならない。そこから、このビジネスはスタートするんだ。
――では、いまはテレビとスポンサーの契約を模索しているところというわけですか？
ダナ　そうだ。それが決まれば、すぐにでもイベント開催に取りかかれるだろう。
――今年の10月11日は、『PRIDE』がスタートして満10周年の記念日なんですよ。
ダナ　そうなのか？　それは知らなかった。
――だからこそ、10周年のアニバーサリーイヤーである今年は、『PRIDE』にとって、本来は大きなビジネスチャンスのはずなんです。そこでイベントを開催しない手はないと思うんですが……。
ダナ　確かにそれはそうだ。このインタビューを読んでスポンサーが飛びついてくれれば最高なんだがね（笑）。
――スポンサー、テレビ契約をかなり気にしてるようですが、いまのように『PRIDE』が続くのかどうかも不透明な状態では、つくものもつかないんじゃないですか？　ですから、もし赤字になるとしても来年以降のプロモーションのためにも、いまこそイベントを開催すべきだと思いますが。
ダナ　我々は手堅いビジネスをやってるんだ。『PRIDE』が日本で強いブランドを持っているのに、赤字覚悟でやる必要はないだろう。
――でも、UFCも当初は赤字でしたよね？　それでも投資し続けたからこそ、今日の成功に結びついたんじゃないんですか？
ダナ　確かにそれはそうだ。しかし、UFCと『PRIDE』は違う。当時のUFCは、まったくブランドとして機能していなかった。しかし、可能性はあったから、投資し続けたんだ。逆にいまの『PRIDE』は抜群のブランドを持っていながら、人気や知名度とは違う問題によってテレビ放送が確保できない状態だ。それを打破するには、投資ではなく違う方法をとる必要がある。
――DSEは今年の4月まで、地上波復活を目指して、大きなスポンサーや地上波放送なしで大会を続けていましたが、その方法についてはどう思いますか？
ダナ　ファンにとっては良かったのだろうが、ビジネスとして正しいとは思わないね。前オーナーが、『PRIDE』を愛してたからこそできたのだろう。我々がUFCを買収する前のSEG（UFCの前運営会社）もそうだったのだが、SEGもできる限りのことはやっていたが、配給先（放送環境）がなくなり、機能しなくなって、それ以上続けることができなくなったんだ。
――そして、ズッファに身売りした、と。
ダナ　そう。私は損をするためにビジネスをやっているわけじゃない。私はテレビとスポンサーなしで興行を続けて潰れた会社を目の前で見ているんだ。そして我々はそれを克服し、危機を脱したんだ。見込みがあったからこそ我々はUFCに投資し続けた。『PRIDE』を今後どうしていくかについては、慎重に、そして現実を見てビジネスを進めていかなくてはならない。多くの人が「こうなってほしい」と思っていることが、実際には期待したようにならないことだってたくさんある。私はこと日本において、『PRIDE』が最も強力なブランドであることは認める。でも、それならなぜテレビ局がどこも放送しないんだ？
――その要因は一つではないと思いますが、あなたはどのように認識していますか？
ダナ　まったくわからないが悲しいことだ。なぜ、日本のテレビ局が『PRIDE』を放っておくのか、理解できなくて混乱している。多くのテレビ局は、MMAやどこかの団体と苦い経験があるんじゃないか？　そして、なぜ『PRIDE』にテレビがつかないのか、それは君たちがテレビ局に取材して聞いてみるべきことだ。私に聞く質問じゃないだろう。どうして日本のナンバー2のブランドである『HERO'S』を放送して、ナンバー1の『P


3月27日に行なわれた「PRIDE重大発表会見」では、オーナー交代とともに、UFCvsPRIDE開戦が大々的に発表されたが、いまだに実現していない。その鍵を握るのは、やはりオーナー、ロレンゾ・フェティータか。

DANA WHITE
PRIDEの前オーナーのやり方は、ビジネスとして正しいとは思わないね

RIDE』を放送しないのか。『P

飛び散った
PRIDEの火種



ミルコに続き、ノゲイラの獲得に成功したダナ。これからさらに、PRIDEトップファイターのUFC参戦が続くことになるのか？

RIDE』のオーナーが変わったこのタイミングで、どうして私のところに日本のテレビ局が契約を求めに来ないんだ？ 君たちが調べてきてくれ。

——逆にズッファから日本のテレビ局にアプローチはしなかったんですか？

ダナ 君はわかってない。『PRIDE』、そしてUFCを再び放送網に乗せることは私のやるべき仕事であることには間違いない。でも、日本でMMAがそんなに人気があってみんなが観たいと思っているなら、なぜテレビ局はどこも放送しないんだ!? 日本以外の国では契約に飛びついてきているんだぞ。問題は我々にではなく、日本のテレビ局のほうにあるとしか思えない。

——先ほど、『PRIDE』の前オーナーが『PRIDE』をなんとかして続けようとしていたやり方は、ビジネスの視点から見ると理解できないとおっしゃいましたよね？

ダナ そうだ。

——では、あなたは初代UFCと『PRIDE』の二つの例を見ているからこそ、同じ過ちを犯さないために慎重に事を進めようとしているわけですか？

ダナ 我々はロケットの科学者ではないんだ。放映契約もない段階で、これから何が起こるか探ろうとするのはもうやめておけ。

——では、『PRIDE』の新社長などの新しい陣営の発表すらないのはどうしてでしょうか？

ダナ 何度も言っていると思うが、それはいずれ時期がくればなされるだろう。ただ、言えることは、『PRIDE』のシチュエーションはWECの状況とほとんど同じということだよ。WECとUFCは

経営母体が同じで、いまでは我々ＵＦＣのスタッフが運営に参画している。『ＰＲＩＤＥ』もそうなるべきだと思うがね。

——そうした二重構造が原因で、テレビ契約がうまくいかないってことはないですか?

ダナ　それは、まったく見当違いだな。なぜいま『ＰＲＩＤＥ』にテレビ契約がないのかはテレビ局の人間だけが知っていることだ。

——テレビ局と交渉しているのは誰なのですか?

ダナ　私と必要な何人かの人間だ。

——『ＰＲＩＤＥ』の旧経営陣は、今回のミッションについて、もう一切関わってないんですか?

ダナ　『ＰＲＩＤＥ』の旧経営陣は通していない。そして日本のテレビ局との交渉は、日本にいる『ＰＲＩＤＥ』のスタッフにやらせる必要は、必ずしもあるわけじゃない。私はアメリカにいながらにしている。世界１７０カ国とテレビ契約を交わしている。それがどういうことかわかるだろう。

——現在、世界中でＭＭＡが売り手市場であるということですか?

ダナ　そうだ。どこの国に行っても「ウチで放送させてほしい」とテレビ局のほうから話がくる。それなのに、世界で最もＭＭＡ人気が高い日本だけが、こちらから「放送しませんか?」と持ちかけても話がまとまらない。おかしいと思わないか?

——まぁ、複雑な事情があるんだと思いますが……。『ＰＲＩＤＥ』の停滞が、日本で地上波放送がないことが原因なら、まずは日本でなくアメリカで開催するという選択はありえませんか?

ダナ　それもありえないことではない。

——可能性はあるということですね。

ダナ　ただし、それもテレビ契約次第だ。『ＰＲＩＤＥ』はそこがすべてだ。

——今年の春までＷＯＷＯＷがＵＦＣを放送していましたが、現在は終了しています。『ＰＲＩＤＥ』だけでなく、ＵＦＣの放送すらないことに日本のファンは非常にストレスを感じているんですが、日本でのＵＦＣのテレビ放送は交渉してないんですか?

ダナ　もちろん、それもやっている。私は『ＰＲＩＤＥ』とＵＦＣ両方を放送したいんだ。だからテレビ放送獲得の話は、両ブランドをセットでやりたい。この世界の二大ブランドが、なぜ日本でテレビ契約を結んでないのか理解できない。私は君たち日本のメディアにお願いしたい。投資家を動かして、日本のテレビ局のお偉いさんのケツを叩くように頼んでもらえないか?　きっと何か裏で動いてるに違いないからな。

——今日のノゲイラのデビュー戦という注目の試合でさえ、日本人はこっそりＹｏｕＴｕｂｅで観ているような状況なんですよ（笑）。

ダナ　ん?　UFC.com（ＵＦＣ公式サイト）で視聴できないのか?

——そういう人もいるでしょうが、極めて少数です。

ダナ　そうか、それは興味深い。日本からどのくらいの人がUFC.comで視聴してるか調べてみよう。

——ただ、問題点はUFC.comは英語サイトだってことなんです。多くの日本のファンは英語が得意ではありませんから、UFC.comを開いたとしてもサインアップしてたどり着くところまでいかないんですよ。だから写真やフラッシュなどを使ってナビゲートしてあげるといいと思うんです。

ダナ　それは興味深い話だな。ありがとう。早急に日本語版のUFC.comも作るべく動くことにしよう。

——日本でのイベント開催はなかなか実現しませんが、イギリスでは9月に今年2度目のイベントが開催されるなど、進出に熱心なようですね?

ダナ　確かにヨーロッパ市場は重要だが、イギリスの興行が多いのは、ヨーロッパで年に4大会やることになっているからにすぎない。ＵＦＣはどこでやるかは問題ではないんだ。テレビもしくはパソコンさえあれば、世界中のどこでだって観られるからね。テクノロジーの進歩やプラットフォームの変化に合わせて、我々が世界で最初のグローバルＰＰＶ放送をやるんだ。新しいテクノロジーデバイスが出てきたらそれに併わせて展開していく。そうして、ＭＭＡをもっとグローバルスポーツにしていくつもりだ。

——その過程で、『ＰＲＩＤＥ』からＵＦＣへ、トップファイターが続々と移籍している状況ですが、ノゲイラ以外の選手も引っぱるつもりですか?

ダナ　もちろん、魅力的なファイターはすべてＵＦＣに参戦させたいのが、私の本心だ。ただ、私は『ＰＲＩＤＥ』を弱体化させようと思ってやっているわけじゃない。問題なのは、『ＰＲＩＤＥ』がいま休止状態だということだ。『ＰＲＩＤＥ』がイベントを行なわなくても、選手は試合をして稼ぐ機会が必要だ。だから、ＵＦＣが契約し、彼らに試合のチャンスを与える必要がある。ヴァンダレイやマウリシオ・ショーグン、ダン・ヘンダーソンみたいな選手を試合もさせずにずっと放っておくなんてありえないだろう。

——彼らは『ＰＲＩＤＥ』の契約でＵＦＣのリングに上がるのですか?　それとも契約のリニューアルをするのですか?

ダナ　彼らはＰＲＩＤＥ ＦＣ ＷＯＲＬＤＷＩＤＥの契約があるだろうが、ＵＦＣのリングに上がる以上はＵＦＣの契約で上がってもらうことになる。

——いま現在、ショーグンやヴァンダレイとＵＦＣとの契約はどうなっているんでしょうか?

ダナ　現時点の話をすれば、彼らはＰＲＩＤＥ ＦＣ ＷＯＲＬＤＷＩＤＥとの契約がある。だが、ＵＦＣとしても契約の話はしている最中だ。

——ヒョードルとの契約はどうなりそうですか?

ダナ　彼は２００７年末か２００８年初頭にはＵＦＣで試合をすることになる。もちろんＰＲＩＤＥヘビー級王者としてだ。それ以上はまだ言えない。

——それ以外の大物でいえば、ジョシュ・バーネットやソクジュについてはいかがですか?

ダナ　ソクジュはエリートＸＣに行くようだが、もともとべつに興味はなかった。彼はまだＵＦＣでやるには実績がない。4勝1敗程度じゃだめだ。これがもし10勝1敗だったら、ビッグマネーを使ってでも引っぱったけどな。

——ジョシュはどうですか?

ダナ　ジョシュはわからないとしか言いようがない。彼とは目と目を合わせて話したことがないからね。ＵＦＣで試合をしている多くの選手のことを私はパートナーだと思っている。彼らをスターにするために、私は多額の金を投資してきたし、

ヒョードル、KIDヤマモト、サクライ、ゴミがUFCに来ることは明白だ



1971年、米国コネチカット州出身。チャック・リデルやティト・オーティズのマネージャーを経て、01年よりズッファＬＬＣの代表となり、ＵＦＣを運営。オーナーのロレンゾ・フェティータとは幼なじみであり、ダナ自身もズッファの株を所有する。

飛び散った PRIDEの火種

彼らもUFCを大きくするために頑張ってくれた。我々、経営陣とファイターはお互いに助け合い、支え合ってきたんだ。しかし、ジョシュとはそういう関係ではない。UFCを助ける気はないが、法外な金だけはほしいという非常識なヤツに興味はない（キッパリ）。

——日本人ファイターへの興味は？

ダナ　KIDヤマモト（山本KID徳郁）、サクライ（桜井〝マッハ〟速人）、ゴミ（五味隆典）が我々のところに来るのは、すでに明白だ。

——ホ、ホントですか？

ダナ　まぁ、そのうちわかることさ（ニヤリ）。

——いま挙げた選手は軽量級ばかりですが、重いクラスの日本人に興味はありませんか？

ダン　そんなことはない。ヨシダ（吉田秀彦）のことは好きだ。UFCはオールラウンド・ファイターを求めるので、通常、寝技だけ、立ち技だけが得意な選手は敬遠するんだが、彼は別だ。彼は必ず這い上がってくるよ、タフな男だ。

——K−1ファイターで興味のある選手はいませんか？

ダナ　残念ながら、KIDヤマモトを除いて、K−1（FEG）にはキックボクシング部門、MMA部門（『HERO'S』）両方を見渡しても興味があるヤツはいない（笑）。

——セーム・シュルトにも興味はありませんか？　かつてUFCに上がっていて、いまはK−1の世界チャンピオンですが。

ダナ　何年も前にUFCから脱落した人間が世界チャンピオンとは驚きだな（笑）。まぁ、MMAではダメでも、キックボクシングでは強いのかもしれないから、そっちの世界で生きていったほうがいいだろう。

——では、今後のUFCの計画を教えてください。

ダナ　いまはMMAファンにとって一番旬なときだ。これからの2年間は凄い試合ばかりになるよ。ビッグイベントだけでなく、すべての大会でスーパーカードが組まれることになるね。

——この勢いのまま、数万人規模のイベント開催へ打って出る気持ちはありませんか？

ダナ　アメリカ中の笑い者になったK−1（Dynamite!! USA）みたいにか？　私は100ドルで売れるチケットを、ドブに捨てるがのごとくバラまくような、金を失なうだけのビジネスはしたくないんだ。タダ券で5万人集めるのではなく、金を払ってチケットを購入した本当のファンを2万人集める、それがUFCのやり方だ。

——9月のロンドン大会（『UFC75』）はすでにソールドアウト状態らしいですね？

ダナ　そのとおり、すでに2万枚のチケットをソールドアウトにした。このスポーツは、これからどんどん成長していくが、それでも会場の規模としては、2万人というのが最高だ。今夜の大会は（『UFC73』）は1万2000人、ラスベガスのMGMでは1万5000人、マンダレイベイだと1万4000人だ。多くの団体が我々のやり方を見て、そして同じことができると思っている。だが、毎月2万枚近いチケットを売り、何十万件ものPPVを購入させることは、そんなに簡単なことではない。K−1（FEG）がロサンゼルスにやってきて、ブロック・レスナーで大量のチケットを売れると思っていたようだが、全然売れなかった。しかし、もし私がブロック・レスナーのチケットを売ったらどれだけ売れるか見ものではあるな（ニヤリ）。

——では、あなたはこれから、どんなカードを実現させていきたいですか？

ダナ　ヴァンダレイvsチャック・リデル、ヒョードルとランディー・クートゥアーvsガブリエル・ゴンザガの勝者。そしてシヨーグンとダン・ヘンダーソンとランペイジジャクソンの勝者。マット・ヒューズvsマット・セラ、ユライヤ・フェイバーvs山本KID、ショーン・シャークvsBJペン。まだまだいっぱいあるが、これらのカードは1年以内にすべて実現させることを約束しよう。

——それにしても、凄いカードばかりですね。

ダナ　私はみんなが観たい試合を組む。それがMMAのおもしろいところだ。ボクシングとは違う。ファンが観たい試合が実現するんだ。

——ところで、ファンが期待している、UFCvsPRIDEの〝MMA版スーパーボウル〟のようなビッグイベントの話は、どこへ行ってしまったんでしょうか？（笑）。

ダナ　こっちこそ聞きたいよ！　私はまだまだそのアイデアをあきらめてはいない。だから、この記事を通じて日本のファンに伝えてくれ。もし日本のファンがUFCや『PRIDE』を日本で観たいなら、日本のテレビ局に手紙を出すべきだ、と。そうすれば、日本のマガジンが私に同じ質問を何度も繰り返す必要もない。PRIDE FC WORLDWIDEは、生まれたばかりの赤ん坊と同じ、無垢でクリーンな会社だ。それでいながら、『PRIDE』という強力なブランドを持った会社でもある。ここと契約しない理由はないだろう。ファンのみんなは、そういう手紙を書いてくれ。以上だ！

【07年7月7日／米国カリフォルニア州サクラメント、ARCOアリーナにて収録】

桜井"マッハ"速人

――今回、アメリカに来た一番の目的はなんだったんですか？

マッハ　目的ですか？　まぁ、試合を観に来たっていうだけですけどね。

――ＵＦＣの視察というか。

マッハ　はい。

――それは、もちろん近い将来の参戦を見越して。

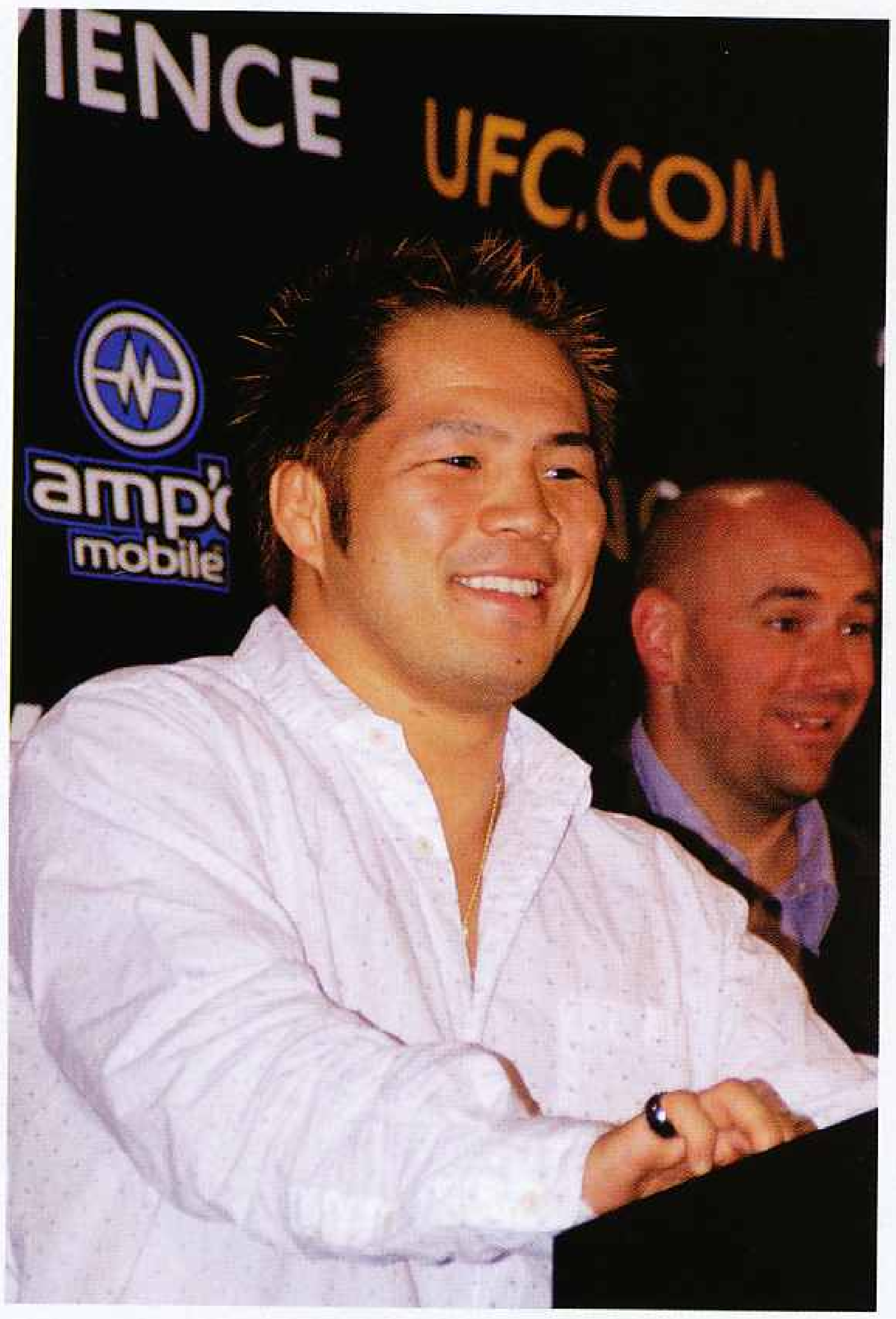
マッハ　そうですね。

――実際、ひさびさにご覧になったＵＦＣはどう感じました？

マッハ　そうだなぁ。僕はこれまで『ＰＲＩＤＥ』でやってきたんですけど。スケールというか、規模的なものは『ＰＲＩＤＥ』のほうがデカかったな、と感じましたね。熱はこっちのほうがありましたけど、それはアメリカ人が騒ぎすぎってだけで（笑）、『ＰＲＩＤＥ』は、さいたまスーパーアリーナだと5万人近く（観客が）いたじゃないですか。地響きがするんですよね。そういう意味で、衝撃は受けなかったな。

――試合自体はどのような感想を持ちましたか？

マッハ　なんかね、凄くもどかしさを感じましたね。（『ＰＲＩＤＥ』と）ルールが違うじゃないですか。だから「ここで踏みつけられるじゃねぇか」とか「ここでヒザ入れられるじゃねぇか」とか、「踏みつけがないから、相手休んじゃってるよ」とか。そんなことばっかり感じちゃって、観ていてもどかしかったですね。



7.7『UFC73』大会後記者会見に堂々登場!!

ついに日本人PRIDEトップファイターがUFC参戦宣言！ ノゲイラのオクタゴンデビューで注目された7.7『UFC73』サクラメント大会に、桜井"マッハ"速人が来場。場内のビジョンで紹介されただけでなく、大会後の会見ではダナ・ホワイト代表の呼びかけに応じ、壇上で「UFCで闘えたら光栄」と堂々UFC参戦意志があることをアピールした。大会翌日は早速WECフェザー級王者、ユライヤ・フェイバーのジムで練習をするなど、大きく動き出したマッハを現地で直撃した！

聞き手&撮影／堀江ガンツ

――闘い自体も『ＰＲＩＤＥ』との違いを感じてしまった、と。

マッハ　だから僕はヒジがありなら、踏みつけもヒザもありにすりゃいいのにって思いましたね。いまのルールじゃ、レスラーが有利なルールですよ。

――ショーン・シャーク（エルメス・フランカに判定勝ち）なんか、そんな感じがしましたね。ひたすらテイクダウンして押さえ込んで。

マッハ　そうだね。あれだって、ヒザがあれば全然違うんだけどね。

――でも、マッハ選手が実際にＵＦＣに上がるとなると、頭を切り替えなきゃいけませんよね？

マッハ　そうだね。やっぱケージって一回しかやったことないし、慣れてないんでね。もうデビュー戦と一緒でしょうね。

――以前、マット・ヒューズとＵＦＣでやったとき（02年3月22日『ＵＦＣ36』）は、やっぱりやりにくさはありましたか？

マッハ　もちろん、そりゃありましたよ！　タックルとかも切りにくいしね。

――オクタゴンは広く感じますか？

マッハ　広く感じますね。広いのに圧迫感を感じるというか。自分が追っていくときは凄く広く感じるし、逆に詰められたときは、すぐうしろにケージがある圧迫感がありますね。やっぱね、ケージとリングは全然違うね。自分がやったときも思ったけど、昨日試合を観て、あらためてそう思いました。

――ノゲイラの試合とかでもそれは感じました？

マッハ　やっぱり違ったね。ケージだからああいう展開になったんだと思う。広いから、なかなかパンチも連打でいけないし、逃げられるし。リングだったら、すぐ距離が詰まるからテイクダウンできるけど。怖いわ、やっぱり。

――リングだったら、ノゲイラが一本極



日本人PRIDEファイター初 UFC参戦宣言

飛び散ったPRIDEの火種

めてたと思いますか？

マッハ　そうですね。ＫＯできたとも思うし、テイクダウンして一本取れてたでしょうね。あ〜、怖いわ。

——そうなると、これからケージを想定した練習も……。

マッハ　やらなきゃいけないよね。でも、（ＵＦＣで試合を）やるとなったらだけど。出るかどうかわからないのにケージの練習してもしょうがねぇから（笑）。

——試合の出場も決まらないうちから、急遽、ＵＦＣの会見でスピーチすることになりましたけど、あれはビックリしました？（笑）。

マッハ　まぁ、ダナはいきなり思ってもみたいことをやる人だから。それもいいんじゃないですか。彼にとっては。なんてことないです。べつに大丈夫ですよ。

——ダナは「サクライがＯＫしてくれるなら、いつでもＵＦＣに上がってほしい」と言ってましたけど。

マッハ　そう言ってもらえるのは光栄ですよね。俺もいろんなものがクリアできれば、やってみたいと思うし。

——ＵＦＣに興味を持ったのは、やはり『ＰＲＩＤＥ』の開催見通しが立たなくなってからですか？

マッハ　……本音を言えばね、ＵＦＣじゃなくて、やっぱり『ＰＲＩＤＥ』がいいですよ。日本だし、リングだし、５万人近いお客さんの前で闘えるしね。だけど、いまどうなるかわからないからね。

——ファイターとしても大事な時期ですもんね。ここで空いてしまうというのは。

マッハ　そうですね。

——日本で闘う場所がないなら、闘う場所を求めていく、と。

マッハ　まぁ、そんなに焦ってはいないんですけどね。

——もちろん5月に『ＰＲＩＤＥライト級ＧＰ』が予定されていたわけですから、その準備が進んでいたわけですよね？　練習もして、減量もして。

マッハ　そうですね。そうだったんですけど、まぁ、しょうがないね。何を言っても、もうしょうがない。いいんじゃないですか？　これで良かったと思いますけど。



©Josh Hedges/UFC

現UFCウェルター級王者は、今年４月にジョルジュ・サンピエールを破ったマット・セラ。マッハとは体格差もなく、柔術をベースにしたスタイルは相性も悪くないだけに、マッハとしては、ぜひともタイトル戦を実現させたいところだ。

——時間が空いちゃってますけど、自分のキャリアや年齢って感じますか？

マッハ　考えてないんですけど、考えたほうがいいのかもしれませんね。でも、俺は一番いい時期に闘ってきたからね。ある意味、余興のつもりで闘うぐらいのほうが、気持ちのゆとりができていいのかもしれませんけどね。

——闘いをエンジョイするというか。

マッハ　そうですね。減量はエンジョイできないけどね（笑）。

——これまでＰＲＩＤＥライト級規定の73キロまで減量するのって、凄く大変だったと思いますけど、ダナはＵＦＣウェルター級、77キロ以下で上がってほしいと言ってましたが、どうですか？

マッハ　もちろん、ＵＦＣでやるなら、その階級ですよ。オフコース！

——77キロっていうのは、自分のベストですか？

マッハ　ベストですね。

——パフォーマンスもベストのものができる。その意味では、77キロがあるＵＦＣはやりがいがある、と。

マッハ　そうですね。

マット・ヒューズとはべつに闘いたくない。やりたいのはチャンピオンだけ!

——ＵＦＣウェルター級で興味がある選手は？　いま、あの階級はいい選手が揃ってますけど。

マッハ　まぁ、いろんな選手がいるんでしょうけど、やっぱりチャンピオンしかいないですね。でも、いまってマット・ヒューズがチャンピオンじゃないんだよね？

——いまはマット・セラですね（笑）。

マッハ　俺、ヒューズがチャンピオンだと思ってたよ。だから昨日の会見では「マット・ヒューズと闘いたいですか？」って聞かれて、「オフコース！」って答えたんだけど、チャンピオンじゃないなら、べつに闘いたくないです。ハハハハハハ！

——リベンジより、いまのチャンピオンとやりたい、と。

マッハ　そう。マット・セラとやりたい。チャンピオンとしかやりたくないです！

——でも、ＵＦＣって3連勝ぐらいしないとタイトルマッチ組まれないんじゃないですか？

マッハ　そうなの？　じゃあ、ディエゴ・サンチェスは？　あいつ勝ってるのに挑戦できねぇじゃん。

——まぁ、中にはそういう人もいるんでしょう（笑）。

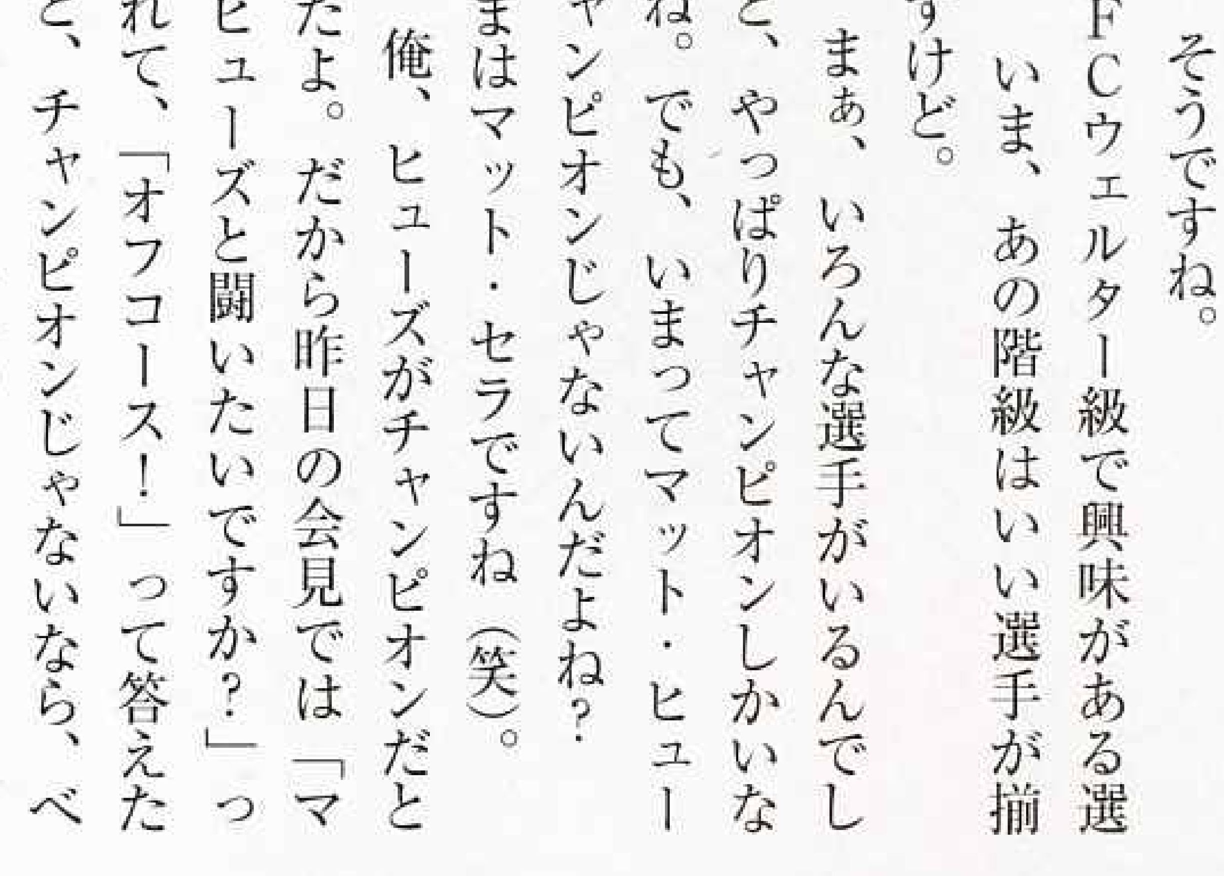
マッハ　じゃあ、アンデウソン・シウバだって2戦目ぐらいでチャンピオンシップだったじゃん。そのへんよくわかんないからね、チャンピオンとやりたいね。

——ＵＦＣ参戦の具体的な話はまだ進んでないんですか？

マッハ　まだですね。

——『ＰＲＩＤＥ』との契約はどうなってるんですか？

マッハ　まだ『ＰＲＩＤＥ』との契約はありますよ。細かいところまで、自分じゃ把握してないけど（笑）。だから、その





7.7『UFC73』の翌日、宿泊ホテルからほど近いWECフェザー級王者ユライヤ・フェイバーのジムを訪れ、スパーリングを行なったマッハ。オクタゴンを常設した米国のジムでの練習がこれから増えていくのか？

へんの調整がこれから必要ですよね。きっとやるかやらないかはすぐ決まると思うよ。

——では、次の試合が見えなかったところから、ようやく一歩前進して、気持ち的には変わってきましたか？

マッハ そうですよ。試合が決まれば、そりゃもちろん試合が決まってるのと決まってないのとでは、トレーニングの入り方が違う。同じサンドバッグを叩くのでも、叩き方が変わりますよ。

——日々の暮らしも。

マッハ もちろん！　あらゆるモードが変わりますよ。

——今回のUFC来場は、そのスイッチを替えるきっかけぐらいにはなりましたか？

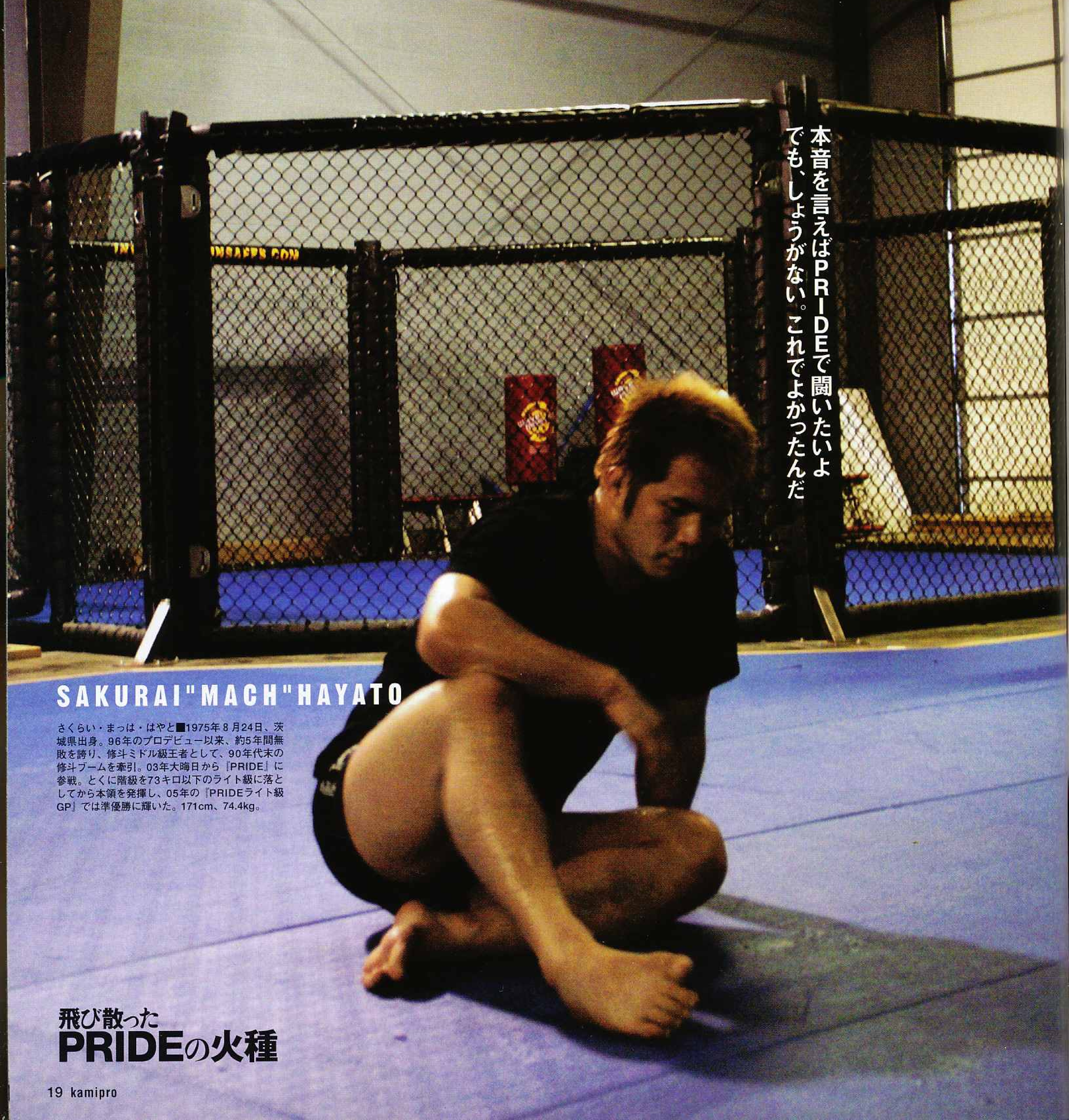
マッハ そうですね。だからこうやって、今日もアメリカまで来て練習してるしね。これで腹もへこむでしょう。ハハハハハ！

——では、なるべく早く何かしら試合が決まることを期待してます。逆に急転直下、『PRIDEライト級GP』開催が決まったら、そっちに出ることも考えますか？

マッハ いや、もう出れないですね。もう体重が落ちません（笑）。階級がUFCと統一されて、73キロっていうカテゴリーがなくなることだって考えられるし。だからライト級GPが、もし開催されても70キロ以下だったら、さすがに出れないよ。もうそれはしょうがない。77キロでやってくれりゃあ、いいんだけどね（笑）。


【07年7月8日／米国カリフォルニア州サクラメント、アルティメット・フィットネスにて収録】

本音を言えばPRIDEで闘いたいよ
でも、しょうがない。これでよかったんだ



SAKURAI"MACH"HAYATO

さくらい・まっは・はやと■1975年8月24日、茨城県出身。96年のプロデビュー以来、約5年間無敗を誇り、修斗ミドル級王者として、90年代末の修斗ブームを牽引。03年大晦日から『PRIDE』に参戦。とくに階級を73キロ以下のライト級に落としてから本領を発揮し、05年の『PRIDEライト級GP』では準優勝に輝いた。171cm、74.4kg。



［7.7 UFC73 -stacked-］
米国カリフォルニア州サクラメント ARCOアリーナ
UFCライト級タイトルマッチ（5分5R）
○ショーン・シャークvsエルメス・フランカ×
（5R終了 判定3-0）

ライト級もUFCvsPRIDE戦争、ついにボッ発か!? ダナ・ホワイトが「行け!」と言えば PRIDEライト級GPだって 出場してやるよ!

Sean Shark■1973年8月6日、米国出身。22年に及ぶレスリングキャリアを活かし、抜群のテイクダウン能力とパウンドで対戦相手の光を消す、現UFCライト級王者。30戦を超えるMMAキャリアの中で、敗れたのはマット・ヒューズ、ジョルジュ・サンピエールという現在は一階級上となっている強豪に喫した2試合だけ。今年2月に五味を破ったニック・ディアスにも勝利している。168cm、70kg。

UFC LIGHT WEIGHT CHAMPION

"The Muscle Shark"

SEAN SHERK

UFCライト級チャンピオン **ショーン・シャーク** 聞き手／堀江ガンツ 試合写真／Josh Hedges (UFC)

五味隆典、川尻達也、山本〝KID〟徳郁、宇野薫など、日本格闘技界は70〜73キロのファイターが空前の充実ぶりを見せているが、ほぼ同階級である米メジャーUFCライト級において、頂点に君臨しているのが、このショーン・シャークだ。

身長170センチにも満たない小さな身体ながら、長くウェルター級（77キロ以下）で闘っていたが、昨年10月にUFCライト級が再開されると、すぐさま王座獲得。7・7『UFC73』では、かつて宇野薫をKOしたエルメス・フランカを、テイクダウン＆グラウンドコントロールで完封。見事、UFCライト級王座防衛に成功した。

このUFCライト級の雄をフランカ戦後に直撃。来るべきPRIDEファイターとの決戦について話を聞いてみた。

——タイトル防衛おめでとうございます！

シャーク　ありがとう。相手は身体が大きいし、強い選手だったから勝ててよかったよ。汗で滑りやすかったから、レッグロックやアームバーにはいかずにポジションをキープしたんだ。それがうまくいったね。

——レスリング技術もそうですけど、凄いスタミナに驚きましたよ。

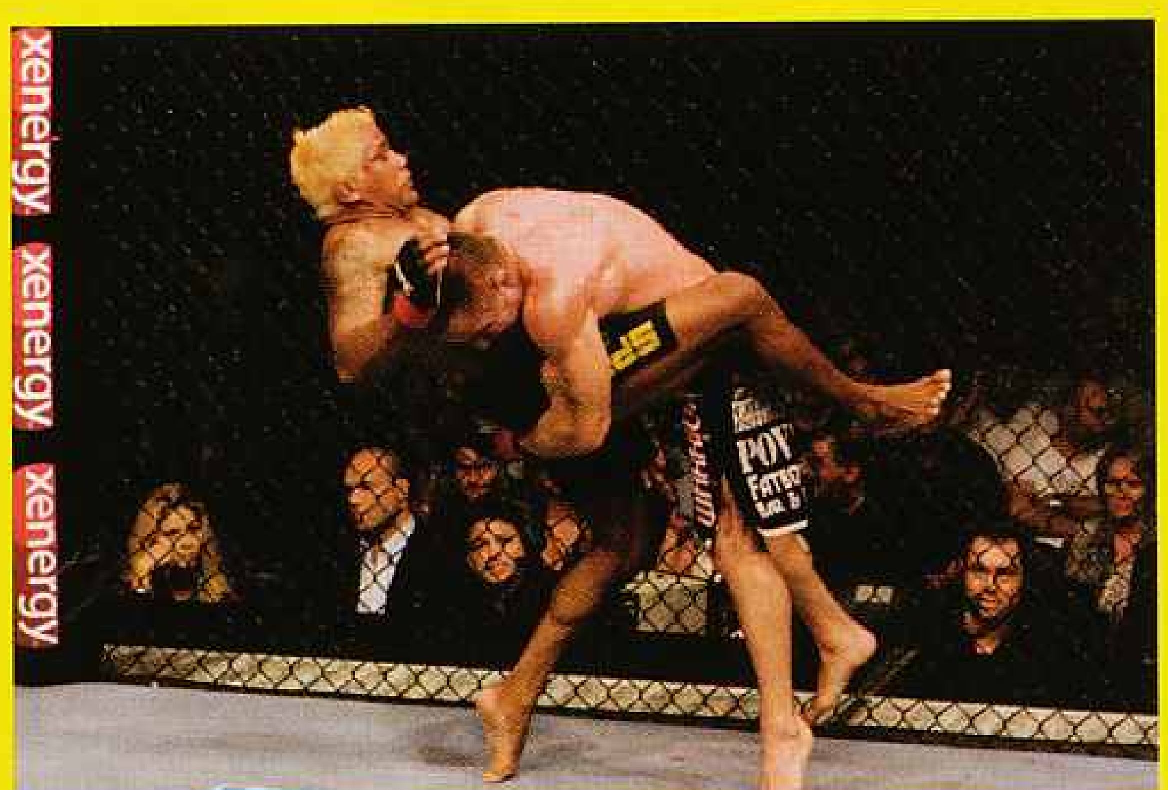
シャーク　本当に激しいトレーニングを積んできたからね。週に6日、1日2、3回のトレーニングをしているけど、コンディションコーチがついてくれているから、体調はまったく問題ないよ。

——普段は、どんなトレーニングをしているんですか？

シャーク　レスリング、ボクシング、キックボクシング、ムエタイ、コンディショントレーニング、エアロバイク、ウェートマシーンなんでもやったよ。すべてのことができないと、UFCでは勝てないんだ。

——今日の試合で、UFCのライト級の中で頭一つ抜けたと思うのですが、誰が次のチャレンジャーにふさわしいと思いますか？

シャーク　わからないね。それはダナ・ホワイト次第だから。彼が見つけてくれると思うよ。ジョー・スティーブンソン（三島☆ド根性ノ助に勝利）、BJペンら、この155ポンド（約70キロ）の階級にはいい選手が揃っているからね。ダナが俺にふさわしい対戦相手を見つけてくるだろうよ。それに、ロレンゾ（フェティータ）が『PRIDE』を買収したことによって、これから多くの素晴らしいファイターがUFCに来るだろうから、今後のUFCライト級は凄いことになると思うよ。



おもしろいようにテイクダウンを奪い、5Rものあいだ、終始エルメス・フランカをコントロールしたシャーク。スタミナも抜群であり、対戦相手にとってはなんとも嫌な、“難攻不落”のチャンピオンといえるだろう。

——具体的にPRIDEライト級ファイターで闘いたい相手はいますか？

シャーク　まずはもちろんゴミ（五味隆典）だね！　彼は世界でナンバーワンのライト級ファイターだろ。自分の実力を証明するためにも彼とは闘いたい。それからサクライ（桜井〝マッハ〟速人）が、155ポンドに留まれば、もちろん彼の挑戦も受けるよ。でも、彼らは日本では160ポンド（約73キロ）で闘っているんだろ？　だから、彼らがどの階級にいくかによるけどね。もしこの階級に来たら、ぜひ闘いたいね。

——今年、『PRIDE』はライト級GPを開催する予定でした。もし来年、あらためてGPが開催されたら、出場する意思はありますか？

シャーク　さっき言ったように、ダナ・ホワイトが「行け！」と言えば、誰とでも闘うさ。俺は、試合で稼いで家賃だって払わないといけないし（笑）、これが俺の仕事だからね。生きるために闘っているから、「闘え」と言われた相手と闘うだけさ。

——次のゴールは？

シャーク　このベルトをできるだけ長くキープすることだね。そのためにも、これから1ヵ月間は身体を休めたいと思う。テクニックを研究したいからね。そして、次の対戦相手が決まれば、また激しい練習に戻るさ。

——どれぐらいの間隔で試合をしたいですか？

シャーク　理想を言えば、4ヵ月に1回だね。試合のために、3ヵ月のトレーニングキャンプに臨みたいんだ。それで試合後は1ヵ月の休養をとって、テクニックだけを磨きたいから、このスケジュールが理想的だね。だから、年内にはもう1試合したいと思っている。

——この階級のタイトルマッチはまだメインイベントではありませんが、この階級の価値を引き上げたいという考えはありますか？

シャーク　じきにメインイベントになるよ。それは対戦相手次第じゃないかな。もし、相手がBJペンやゴミならメインになるだろう。だって、そのカードならみんな観たいに決まっているからね。

【07年7月7日／米国カリフォルニア州サクラメント、ARCOアリーナにて収録】




昔)夢なんだ……」
ARNETT
現実

PRIDE決別宣言!! 無想転生は哀しみとともに……



「PRIDEは遠い昔の夢

JOSH BA

哀しい現

聞き手／上杉シンスキー　試合写真／菊池茂夫

『PRIDE』は、すでに死んでいる……!!」

2006年『PRIDE無差別級GP』大成功の立役者、ジョシュ・バーネットから“ひでぶ”な発言が飛び出した!! ご存知の読者も多いと思われるが、“世紀の非常識イベント”6・29IGF両国大会出場のために来日したジョシュは、成田空港会見で事実上の『PRIDE』決別宣言を「あたたたたっ!」と行なったのだ。

いったいこの哀しい発言の真意とは……? そういえば、ジョシュが愛する北斗神拳の“無想転生”は、哀しみを乗り越えた強者だけが体得できる究極奥義だが、ジョシュも、そして我々も哀しい現実を乗り越えなければいけないのか!? ほわたっ!

――IGF旗揚げ戦お疲れさまでした! ジョシュさんが本当に来日したので、我々は驚いてるんですけど（笑）。

ジョシュ そうなの? （ブロック・）レスナーや（カート・）アングルが来るとか来ないとかいろいろと報道されていたみたい

だけど、ボクはイノキさんを信じていたから、心配していなかったけどね（キッパリ）。

——猪木さんを信用されてましたか！ 心がずいぶん大きいですね。で、半年ぶりの日本は楽しめましたか？

ジョシュ ひさびさに来られて、日本のファンに会えたことは嬉しかったよ。今回は実質3日半しか滞在しなかったから何もできなかったけど。アキハバラでのショッピングへは行けなかったし、試合以外ではAACCでフジメグ（藤井恵）やSAYAKAと練習したぐらいかな。

——フジメグは息吹のリングに上がったこともありますけど、ひょっとしてプロレスの練習をしたのですか？

ジョシュ いや、ボクシングのスパーリングだよ。

——体格差ありすぎです！ で、IGFですが、まずは安田忠夫戦の勝利おめでとうございます！

ジョシュ ん～、あの試合には素直に喜べなかったね。

——マッチメイクにはずいぶんご不満だったそうですね？



"フジテレビショック"後、『PRIDE』に暗雲が立ちこめる中、2006年のナンバーシリーズにフル出場。まぎれもなく主役の一人だったジョシュ。まさかこのような泥沼の事態になるとは1年前には想像もつかなかった。

なぜあの素晴らしかった『PRIDE』を売ることになったのか？ ボクにはわからない

ジョシュ 本当にガッカリした！ 成田空港に着いてすぐに日本のマスコミにも言ったけど、あのときはレスナーやアングル、マーク・コールマン、タムラキヨシ（田村潔司）と闘えると期待していたんだ。

——「安田とだけは闘いたくない！」とまで、言ってましたもんね（笑）。よりによって、その安田さんとの試合になったわけですが、このカードはどのタイミングで決まったんですか？

ジョシュ 日本に着いて、プレスの取材を受けたすぐあとだったよ。ヤスダの名前を聞いたときは、ちょっとヤル気をなくしかけたけど、試合を組まれたからには闘うのがプロレスラーでしょ？

——ある意味、「いつ何時、誰とでも闘う」という猪木イズムですね（笑）。

ジョシュ そうそう！ だけど、その直前にボクがあんな発言をしたから、IGFのオフィスは怒ってたみたいだけど（笑）。

——アハハハ！ 試合後、藤原（喜明）さんがリングに上がってきて、安田選手に張り手したあと、涙を見せてましたけど。

ジョシュ ん～、ヤスダもちょっとは賢くなったのかな。うまく新しい先生を見つけたようなものだからね。フジワラさんは素晴らしいコーチになるだろうから、引退前にもう一度、一花咲かせられるかもね。ただあんなコンディションじゃダメ！

——厳しいですね。ところで前号の本誌のインタビューで嫌がっていた"日本人vsガイジン"の構図に結果的になってしまったわけですが？

ジョシュ オールドファッション！ ただプロレスの基本のアイデアは"いいヤツvs悪いヤツ"だから、わかりやすい構図を作りたいのはわかるけど、どう考えても、ボクは外敵のキャラじゃないと思うんだ。むしろ、日本人のエースがいないのなら、ボクのような選手をエースにするべきでしょ。とにかく次は、もし闘えるならタムラサンと闘いたいね。一昨年の『U-style Axis』の借りも返したいし。

——キャプチュードを空中で切り返されて、腕十字で一本負けしているんですね。

ジョシュ あのときはミルコ戦の直後だったし、コンディションも悪かった。でも、いまなら絶対に負けないよ。フルネルソン・スープレックスで勝つね。あと、レスナーに勝ったアングルともぜひ闘いたい。IGFには多くの選手が集まってくると思うんだ。このリングでボクがプロレスラーの素晴らしさを表現したいね。あと、ボクのコーチであるエリック・パーソンにも参戦してほしいと思っているんだ。

——元修斗ライトヘビー級王者のエリック・パーソンですね。

ジョシュ そう。彼なら"IGFのヴォルク・ハン"になれるよ。エリックのテク


6.29『闘今BOM-BA-YE』に参戦し、安田と対戦したジョシュ。クロック・ヘッドシザースから腕十字と移行し、あっさり一本勝ち。その"キャッチ"の技術は総合の舞台でこそ見たい!!

ニックと戦術、そして長年にわたって蓄積された知識は凄い。IGFの選手が彼に勝つのは非常に難しいと思うよ。

——お話を聞いているとIGFにすっかり、のめり込んでますね。しかし、やはり日本のファンが最も気にしているのは、ジョシュさんが次にどこでMMAの試合をするか？ ということなんですよ。

ジョシュ それは、まだボクもわからないんだ。

——実際、IGFでもグッドシェイプで、非常にコンディションがよさそうでしたし、総合の試合も、いつでも出られる状態だと思いますが、試合の予定は立ってないのですか？

ジョシュ いや、まだだね。ボクは『PRIDE』の前主催者DSEとの契約が残っているからね。

——やはりそうなんですか。

ジョシュ 契約に関する詳細は話せないけど、いまはDSE側と話し合いをしている最中なんだ。

——なるほど。

ジョシュ いままでボクの弁護士が何ヵ月間も彼らと話し合ってきたから、もうすぐ結論は出るだろう。

——では、契約解除する方向で話し合いは進んでいるということですか？

ジョシュ そうだね。

——では、もう『PRIDE』に上がらないと……。

ジョシュ みんなにわかってほしいのは、ボクもDSEを信じて、『PRIDE』で闘い続けたかったってことなんだ。だけど、いまはそういったシチュエーションじゃないんだ。

——いまはどういう状況なんですか？

ジョシュ 『PRIDE』の大会開催は未定だけど、契約があるボクはほかのリングで闘うことができないんだ。だから一旦、その契約を解除しなくちゃいけない。もちろん、新会社とも話をしなくちゃいけないから、思った以上に話し合いに時間がかかっているのさ。

——今回の来日の際には、DSEの事務所に行かれて話し合われたんですか？

ジョシュ いや、IGFのバックステージで、DSEのスタッフと話したんだ。

——なぜ、IGFのバックステージでそんな話を（笑）。



Josh Barnett■1977年11月10日、アメリカ・ワシントン州出身。UWFや『北斗の拳』をはじめとする日本文化をこよなく愛する世界最強のオタク。2006年の『PRIDE無差別級GP』で、準優勝をはたす快進撃を見せてブレイク。第7代UFCヘビー級王者、現キング・オブ・パンクラス無差別級王者。191cm、116.5kg。

ジョシュ ボクは彼らと一緒に素晴らしいプロダクションを作り上げてきたと思っている。どうして売ることになったのか、わからないよ。

——残念に思われているんですね。ところで、ジョシュさんが成田空港に到着されたときに言った「『PRIDE』は死んでいる」の言葉にファンは悲しんでいるのですが。

ジョシュ それは済まなかったね。でも、ボクが彼らに言えることは、『PRIDE』は変わってしまった」ってことさ。哀しいけどそれが現実さ。

JOSH BARNETT

飛び散った PRIDEの火種

——哀しい現実ですか！

ジョシュ そしてファンには、あまり舞台裏のことを探ろうとしてほしくないね。なぜなら、そんなことを知ったところで、ハッピーになるわけでもないし、そもそも闘いとは無縁のことだろ？ それは彼らをもっと悲しませることになるだろうからね。だから、いま目の前にあるものを楽しんでもらうか、過去の記憶を思い出してもらうしかない。ボクにとっても『PRIDE』は遠い過去の夢なんだ……。

——う〜ん。

ジョシュ あの時間は素晴らしかったし、ボクも楽しんだ。エンターテイナーになることができたことも嬉しかった。あの素晴らしかった『PRIDE』がないいま、ボクが再び『PRIDE』で闘う可能性は低いだろうね。

——そういう状況ですと、ジョシュさんの次のMMAの戦場がどこになるのかますます注目が集まってくるんですけど、ほかの媒体で「パンクラスに出たい」と発言していましたが……、それはボードッグに出ることを意味するのでしょうか？

ジョシュ いや、そういう意味で言ったんじゃないよ。ただ、すべての可能性があるね。一つ言えることは、ボクはまだパンクラス無差別級王者だし、そこで闘うのは一つのオプションだということ。正直なところ、パンクラスとボードッグが提携しているいま、ボードッグに出るのは簡単なように思える。でも、なんにも決まってないんだ。それにボードッグのルールだと、シューズは履けないし、サッカーボール・キックやストンピングもできない。ボードッグのグローブは最近のパンクラスも大会で使用しているけど、薄くてカットしやすいから好きじゃないしね。

——しかし、ボードッグのコスタリカ大会にも、スペシャルゲストとして参加されてましたので、近い関係にあるんじゃないですか？

ジョシュ あれはあくまでゲストとして行っただけ。試合の話はしてないよ。『PRIDE』との契約があるから、具体的な話ができないしね。ただ、ボードッグもパンクラスも、多くの可能性の中の一つだよ。

——では、すべては『PRIDE』との話し合い次第だ、と。

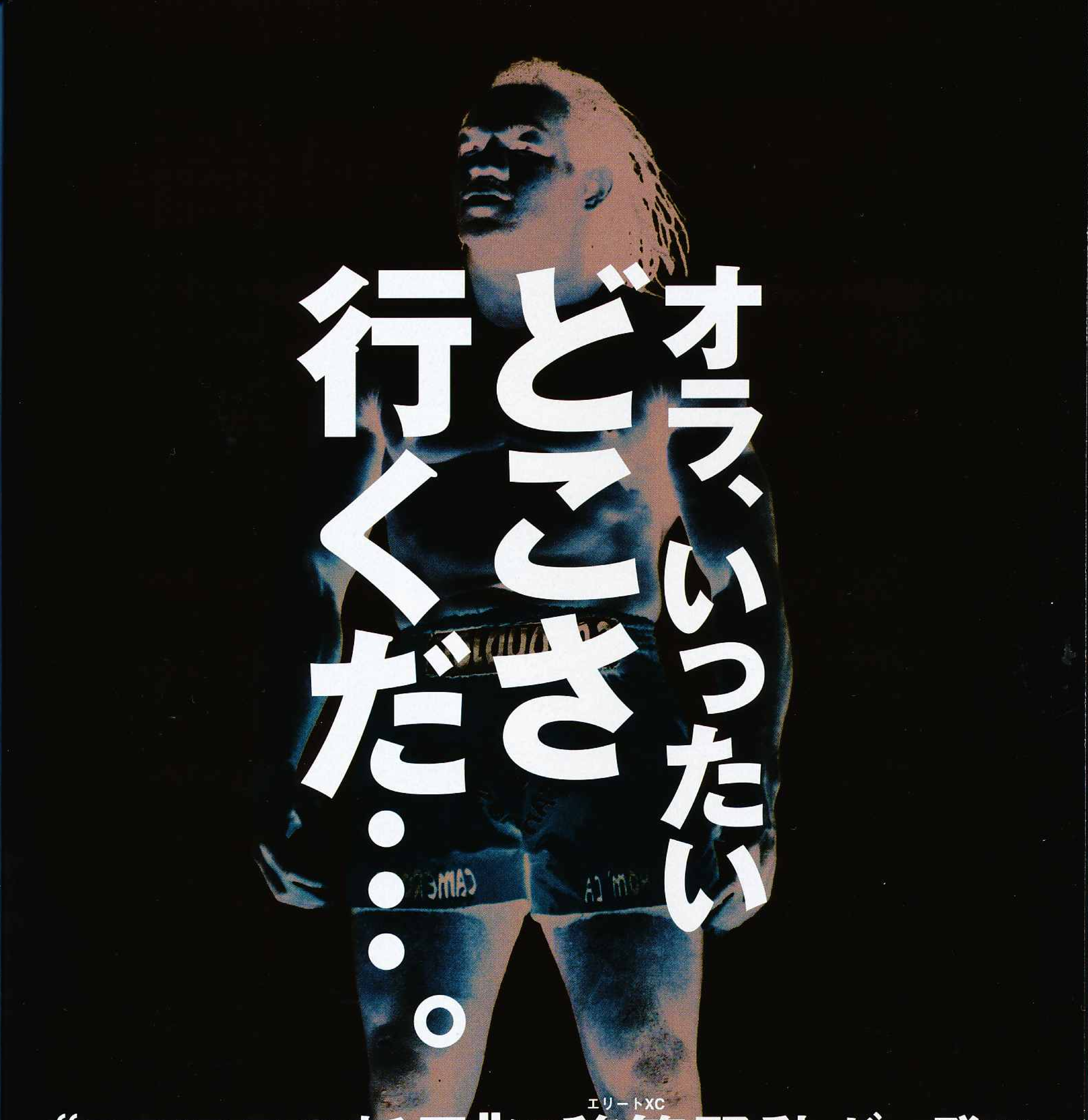
ジョシュ そうだね。ただ、どのリングでもいいけど、日本で活動したい。日本はボクの故郷のようなもので、大好きだからね。とにかく次のMMAの試合が決まったら教えるよ。

——わかりました。では、新天地でのご活躍、もしくは9月のIGFでの試合を楽しみにしています！

［07年6月30日／都内某所にて収録］

インタビューから1週間後、ジョシュは自身のブログでDSEとの契約解除を発表！ UFCからのオファーがないことを明かし、同時に各団体からのオファーを受け付けると宣言した。しかし一方では、まだ契約解除に至っていないという声も関係者から挙がっている。はたして北斗の男はどこへ向かうのか？




オラ、いったいどこさ行くだ・・・。

“PRIDEの新星”に移籍（エリートXC）騒動ボッ発!!
渦中のジャングルの王者を緊急捕獲!

今年2月に『PRIDE』デビューするや、アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラとヒカルド・アローナという、ブラジリアン・トップチームの二大双璧を破壊!!　マット界に野生の時代到来を感じさせたソクジュ。しかし、その後、新生『PRIDE』の沈黙により、試合から遠ざかることになった。PRIDEファイターがUFCやほかのリングに活路を求める中、当然ソクジュの今後にも注目が集まっていたが、なんとソクジュがエリートXCと新たに契約を結んだとの報道！　真相を確かめるべく、さっそくソクジュに国際電話でのインタビューを申し込んだところ、「最近覚えたメールならいいだ！」との答えが！　ナヌ？　ソクジュはパソコンが使えるのか!?　素朴な疑問を感じつつ、メールを送信！　えらくマジメに返信してきただ!!　構成／上杉ンスキー



メールで真相を直撃！
なんとソクジュはパソコンも使えた!!

SOKOUDJOU

King of Jungle

他団体に出たら法的手段をとるって？ なんだそれは？ うまいのか？ 難しい話はわからねえ

Q しばらく試合がないようですが、最近は何をして過ごしているんですか？

ここのところ、かなりヒマだから、リラックスしていたよ。まぁ、すべては順調なんだけどな。いつでも試合ができるように、再びトレーニングを始めたところだよ。

Q 試合がないときは、いつもどうやってリラックスしているんですか？

映画やテレビを観たり、友だちと遊んでいるよ。でも、基本的には、試合がなくてもトレーニングをしているんだ。（所属している）チーム・クエストでの練習は厳しいからな。ただ、それだけの見返りはある。

Q 『PRIDE』での2連勝で、アメリカでも、ソクジュさんを見る周囲の目は変わってきましたか？

ん～、そうだな。確かにみんなの見る目は変わってきたな。というか、より多くの人が自分を見ているような気がする。ホジェリオとアローナと闘えたことは光栄だったし、試合を受けてくれた二人には感謝しているよ。なにせ、みんなが俺を怖れて逃げていて、試合ができなかったからね。

Q ブレイクされて、怪しい儲け話がきたりしませんか？

たくさんの人が俺の周りにやってきてるし、いろんな話が舞い込んできている。だけど、俺の仕事はトレーニングに集中することだ。

Q ソクジュさんがエリートXCに参戦するという報道がなされていますが、本当ですか？

そんな噂があるのか。エリートXCとは契約してないよ。

Q エリートXCとはノン・エクスクルーシブ（非独占）契約を結んだという噂がありますが？

ノン・エクスクルーシブ？ なんだそれはうまいのか？ 難しい話はわからねえから、マネージャーに聞いてもらったほうがよさそうだけどな。

Q UFCのダナ・ホワイト代表は、『PRIDE』との契約下にあったソクジュさんが他団体へ出ることに対して、法的手段をとる可能性があると話していますが、それについてはどう思いますか？

法的手段？ なんだ、それもうまいのか？ 難しい話はわからないから、マネージャーに聞いてくれよ。



2月にホジェリオを秒殺KOしたのに続いて、『PRIDE.34』でアローナをアッパー1発で沈めたソクジュ。さらなる快進撃が期待されたが、『PRIDE』の活動休止により試合から遠ざかることに。7.16『HERO'S』来場も噂されたが……。

Q 今回はメールでの取材ですが、パソコンはよく使うのですか？

毎日インターネットを使っているんだ。いつもニュースをチェックしているし、いろんなことをリサーチしているんだ。俺の生まれたジャングルの村ではインターネットなんてなかったから、楽しくてしょうがない。村には電気もなかったからな。

Q クリス・ベノワの事件がアメリカでは一般社会でも話題になっていますが、それについてどう思いますか？

あれは悲劇だな。彼のファミリーについて考えると胸が張り裂けそうになるんだ。俺はステロイドを使わない。天から授かったものだけで、毎日激しくトレーニングしているんだ。それ以上のものを求めると、コントロールを失なう。

Q 昨年末の『Dynamite!!』で身体にクリームを塗ったことで謹慎中の秋山成勲が、ついに復帰するという噂があるのですが、同じ柔道家として、あのヌルヌル事件をどう思いますか？

アキヤマは素晴らしいアスリートだ。でもキリンがヌルヌルしていないように、ファイターもヌルヌルしていちゃいけないと思う。

Q MMA以外で、いま、もっとも関心があることはなんですか？

う～ん、あんまりないな。友だちと一緒に過ごすのは好きだけど、普段はトレーニングばっかりやっているし、それ以外のことはあんまりやってないからな。

Q へんな質問ですが、明日世界が滅びるとしたら、何をしますか？

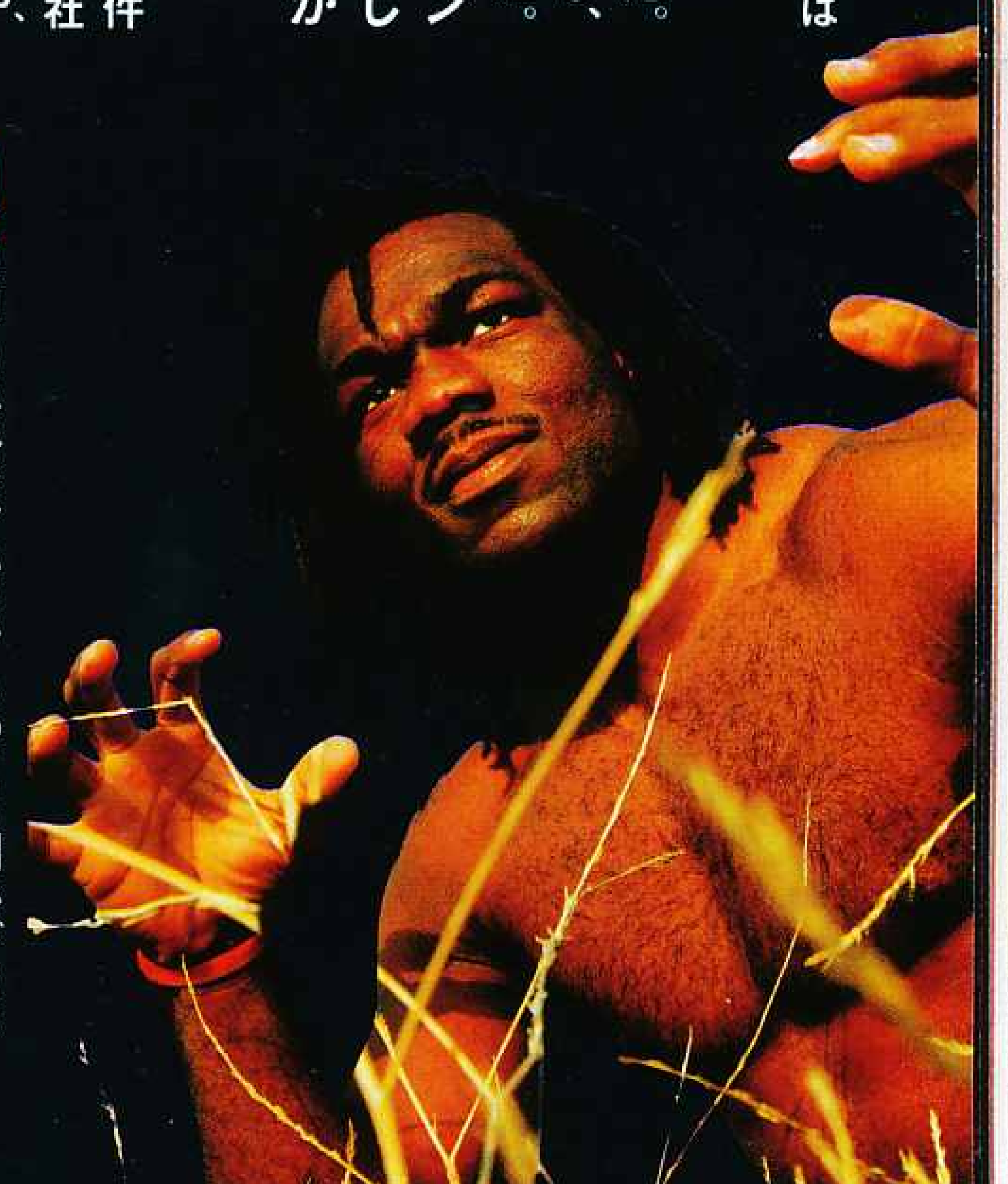
ん～～～。みんなが死ぬなら、キリンも死ぬのか？ だったら、俺も死ぬ。

Q ところで、ソクジュさんのブレイクをガールフレンドは喜んでいますか？

俺はシングルだ。自分の人生を楽しむ自由があるさ。

Q 日本のファンにメッセージをお願いします！

サポートしてくれてありがとう。日本のファンの応援がなければ、このブレイクはなかったよ。これからもよろしく！



7・16『HERO'S』出場の噂もあった!!
ソクジュはどこへ行くのか？ マネージャーを直撃！

チーム・クエスト マネージャー

ライアン・パーソン

「ダナ・ホワイトもソクジュの複雑な状況に理解を示してくれたよ」



前ページに掲載のとおり、エリートXCとの契約に関しては「マネージャーに聞いてくれ」というソクジュ。38ページからの『USA Cool宅急便』で詳細が書かれているが、一部ではエリートXCを通して、『HERO'S』に参戦するという報道もあった。彼のマネージャーは先走る一連の報道について過敏になっており、ぜひ本誌で〝ソクジュ側〟としての見解を述べたいと申し出てきた。

――ソクジュがエリートXCと4試合契約に合意した、と海外のMMAサイトで報道されていましたが、本当ですか？

ライアン エリートXCのスタッフとは交渉したよ。だけど、まだ彼は正式にサインはしていない。合意したという報道は、事実と異なるね。

――なるほど。では、次にソクジュが闘う姿が見られるのは、どのリングになりますか？

ライアン まだ決まっていないよ。『PRIDE』の新会社とも話し合っているところだ。PRIDEファイターとして、UFCに上がることも含めてね。

――UFCに上がる可能性もあるんですか！ ただ聞くところによると、ダナ・ホワイトUFC代表は「『PRIDE』との契約があったソクジュが、エリートXCに参戦するのであれば、法的手段をとる可能性がある」と話しているらしいのですが。

ライアン じつは、ダナとは最近、話をしたんだ。私たちは彼を尊敬しているし、UFCは素晴らしい団体だと考えている。そして彼は、ソクジュの状況について理解を示してくれたよ。いまは複雑な状況だからね。

――そうですか。一方でダナは「ソクジュはまだ4勝1敗だし、UFCに引っぱるには早い」といった発言もしているのですが。

ライアン それはどうかな。彼は二人のブラジリアン（アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ、ヒカルド・アローナ）相手に実力を示したと思うけどね。いま、彼のもとには本当に多くの団体からオファーが殺到しているんだ。

――ソクジュは、ボードッグのロシア大会にもいましたね。

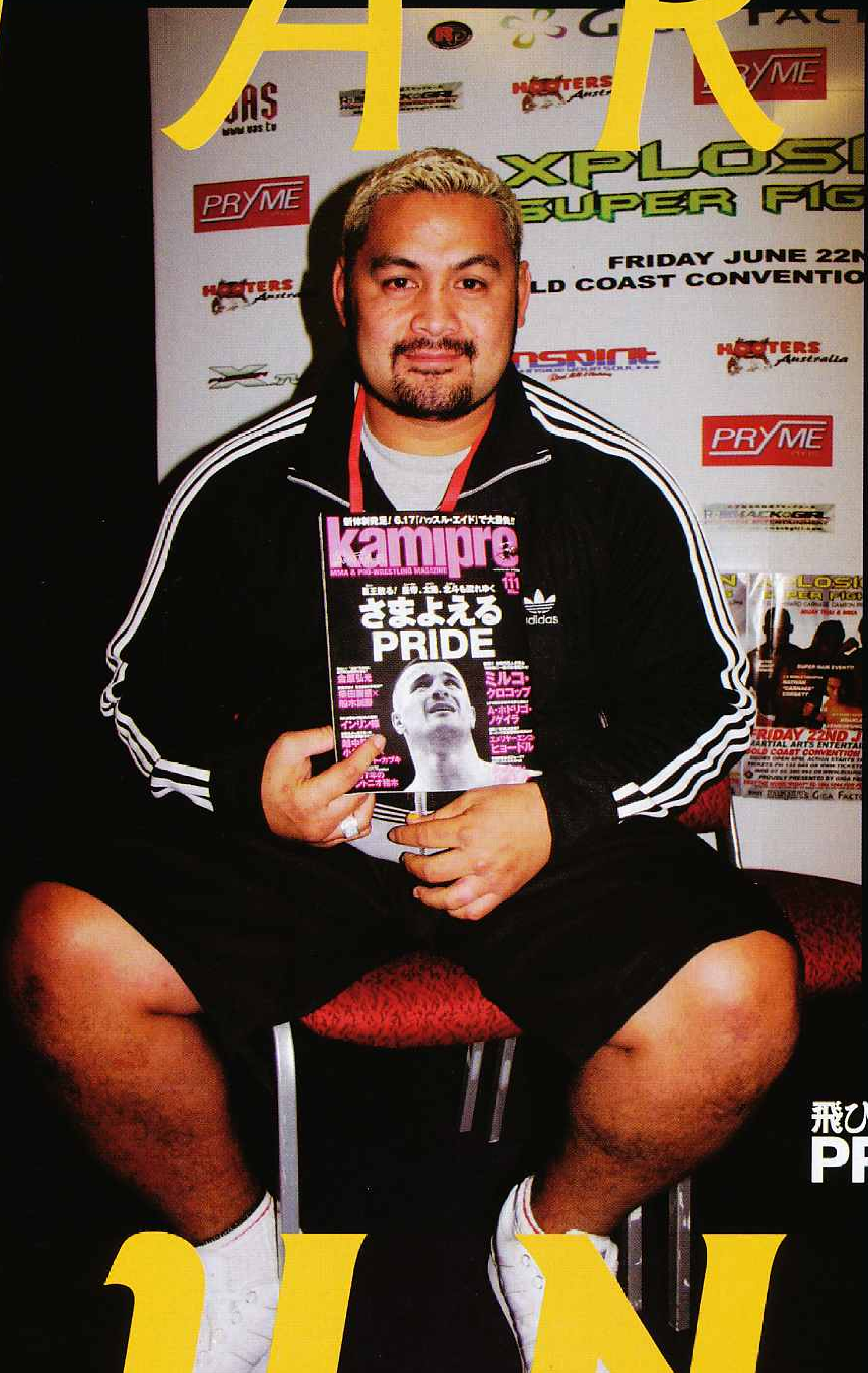
ライアン あのときは、ただマット・リンドランドのセコンドをしただけだけどね。正式には交渉してないけど、そのときボードッグのスタッフとも話したよ。

――ボードッグ参戦もありえる、と。

ライアン 可能性はいろいろあるからね。私の立場としては、彼にふさわしい舞台を用意してあげるだけさ。また日本に行くかもしれないから楽しみにしててよ。

“サモアの怪人”を
オーストラリアで発見！

MARK HUNT



「早くPRIDEが決まってくれないと銀行強盗でもするしかねえよ（笑）」

飛び散った
PRIDEの火種

“さまよえるPRIDEファイター”が今後について激白！

聞き手&撮影／松澤チョロ　試合写真（『PRIDE』）／平工幸雄

UFC？ オレのウェートが重すぎて相手を探すのが難しいらしい（笑）

ミルコ、ヒョードル、ノゲイラ、ダンヘンなど、『PRIDE』で活躍したガイジンファイターが続々とUFCやボードッグに戦場を移していくなか、その動向がなかなか伝わってこなかったのが、マーク・ハントだ。昨年の大晦日の『男祭り』ではヒョードルの持つ『PRIDE』ヘビー級王座に挑戦したハントだったが、惜しくも敗退。その後、『PRIDE』同様、沈黙状態を続けるハントをオーストラリアで開催された6・22『XPLOSION』（※話題の新興勢力『XPLOSION』については105ページからの特集をチェック！）**の会場でキャッチ。自らのジム「オセアニア・スーパーファイター」の後輩、フェリス・レヌーイのセコンドとして姿を見せたハントにインタビューを申し込むと、大会途中になって「いまから来てくれ」との指示が。というわけで、周りで選手がアップをしている控室の隅っこでハントの今後について直撃してきました！**

——日本の『kamipro』って雑誌の者なんですが、大会中にすみません！

ハント （ミルコが表紙の『kamipro』No.111を手に取り）あ〜、このマガジンはオレも出たことあるよな？

——はい。何度か出てもらってます。

ハント ここ、なんて書いてあるの？（表紙のコピーを指差す）

——え〜、「さまよえるPRIDE」ってことで、これまで『PRIDE』で活躍していたファイターの動向について特集してるんです。

ハント あ、そう。まあ、オレも"さまよえるPRIDEファイター"の一人だけどな。ガッハッハッハッ！

——確かに（笑）。ハントさんは去年の大晦日の『男祭り』でのヒョードルとのタイトルマッチ以来、試合から遠ざかってますけど、今後の動向について日本のファンも非常に気になってるんです。

ハント 見てのとおり元気にやってるよ（ニッコリ）。ミルコがUFCで（ガブリエル・）"ナパオン"（・ゴンザガ）に負けたのもインターネットでチェックしてるし（笑）。

——あ、ご存知でしたか。やっぱり、かつて闘った選手の動向は気になりますか？

ハント まあ、そうだね。ハイキックで負けるとは思わなかったけど。あと、ヒョードルがボードッグに出たのも知ってるよ。

——詳しいですね（笑）。ハントさんはヒョードル戦後は、どういった活動をされてたんですか？





©アンダーヴィジュアルウォーター

6.22『XPLOSION』では後輩のフェリス・レヌーイのセコンドについたハントだったが、フェリスはベン・エドワーズのパンチでKO負け。その後、ハントは日本でもおなじみのイアン・シャファー、ジョン・ウェイン・パーらとリングに上がり、ヤンヤの歓声を浴びていた。

ハント 試合はやってないけど、自分のジム（オセアニア・スーパーファイター）でMMAの大会を開いたり、あとは今日の『XPLOSION』に出るフェリス・レヌーイとか若手の練習を見たりとかで、けっこう忙しくやってるよ。

——え、いつの間にかMMAの大会を開催してたんですか？

ハント まあ、『PRIDE』とかと比べると、ちっちゃな大会だけどな。ちょっとは儲かるかと思ったんだけど、まったく利益は出なかったよ（苦笑）。

——ご苦労様です（笑）。今後も定期的に大会は開いていくつもりなんですか？

ハント 定期的にとはいかないかもしれないけど、自分の下には若い連中がたくさんいるんで、なるべく、そいつらのために闘う場を提供してあげたいとは思ってる。……まあでも、大会をやってみて実感したんだよなぁ……（ため息）。

——え、何を実感したんですか？

ハント プロモーターは向いてないなって（苦笑）。レイ（松村『XPLOSION』代表）は日本人なのに、よくやってるよな。オレはファイターのほうがいいよ。

——まだまだ33歳と若いですからね。ハントさんご自身の試合の予定は何か決まってるんですか？

ハント マネージャーからは、今年の8月に試合があるんじゃないかってチラッと話を聞いたんだけど、何か知ってる？

——それは『PRIDE』のリングなんですか？

ハント そう。でも、まだハッキリとしたことは言われてないし、自分でもよくわかってないっていうのがホントのところだよ。逆に『PRIDE』がどうなってるのか教えてほしいぐらいだ（苦笑）。

——いや〜、申し訳ないですが、ボクにはちょっとわからないです。

ハント 8月に試合があるかもとは聞いたけど、それが日本なのかアメリカなのかもまったくわからない。日本のプレスなら何か知ってると思ったんだけどな（笑）。

——お力になれなくて申し訳ないです（笑）。当然、『PRIDE』がUFCのオーナーであるロレンゾ・フェティータの傘下となったのは知ってますよね？

ハント もちろん知ってるよ。オレは『PRIDE』と契約してるから、その件に関して話も聞いてるし、インターネットでもしっかりチェックしている。

——かなりのネット野郎なんですね（笑）。

ハント 試合も決まってないんで時間はたっぷりあるからな（笑）。

——『PRIDE』の予定がなかなか発表されないので心配しているファンも多いんですが、ハントさんの次の試合は『PRIDE』のリングになるわけですか？

ハント そうだね。闘うんだったら『PRIDE』のリングになるだろうな。

——ミルコやノゲイラのようにUFCのリングに上がる可能性もあるんですかね？

もう一回ヒョードルと闘って『PRIDE』のベルトを、このシェイプされた腰に巻きたい（笑）


2006年のPRIDE無差別級ＧＰ開幕戦で高阪剛を下すも、二回戦でジョシュ・バーネットに一本負けを喫したハント。大晦日の『男祭り』ではヒョードルの持つヘビー級王座への挑戦権をゲットし、寝技でヒョードルの腕を極めかける場面もあったハントだが、最後はジョシュ戦と同じくアームロックで敗戦。それ以降、試合からは遠ざかっている。

ハント　UFCに関してはマネージャーがチラッと話を聞いたみたいなんだけど、UFCに出るにはオレのウェートが重すぎて相手を探すのが難しいらしい（笑）。

――あ、そうなんですか（笑）。

ハント　だから無理だろうな。まあでも、オレの一番の望みは、『PRIDE』のチャンピオンベルトを巻くことだから。

――『男祭り』でのタイトルマッチは残念ながら敗れてしまいましたが、やはりヒョードルの持つベルトがほしい、と？

ハント　そう。このシェイプされた腰にあのベルトを巻きたいんだ（笑）。

――アハハハハ！

ハント　ただ、『PRIDE』がいまの状態が続いて、UFCに出なきゃいけないってなったら、オレも減量しなきゃいけないかもしれないし（笑）、もしかしたら、UFCには出ないという判断をするかもしれない。いまはトレーニングをするにしても、ゴールがまったく見えないんで、何をすべきか、どこへ向かうべきか判断しかねるというのが現状なんだ。

――もう一つの可能性として、K―1とか立ち技ルールの試合をもう一度したいという考えはあるんですか？

ハント　それはないね。オレは、ずっと前を向いて新しいことをやり続けてるつもりだし。いまはMMA、それも『PRIDE』のチャンピオンというのが一番の目標さ。それにK―1は前にチャンピオンになってるからもういいよ。過去を振り返るつもりはないしね。

――では、先ほどから言ってるようにPRIDEヘビー級王者のヒョードルへのリベンジが一番実現させたい試合になるわけですか？

ハント　そうだね。

――ズバリ言って、今度ヒョードルと闘ったら勝つ自信はありますか？

ハント　間違いないね（ニッコリ）。このあいだはアームロックで負けてしまったけど、いまはグラウンドやレスリングでもいいトレーニングができてるんで、かなり自信もついてきてるんだ。

――それは頼もしい。でも、ハントさんはスイッチが入らないと、なかなか本腰を入れてトレーニングをしないという話もよく聞きますけど、いまは違うと？

ハント　ガッハッハッハッハッハッ！

――ちょっとウケすぎですよ（笑）。

ハント　ぶっちゃけ、いまは具体的な試合も決まってないんで、トレーニングも流してやってる感じなんだ。ただ、イメージトレーニングは充分に積んでいるんで、頭の中では凄いことになってる。これからはオレのことを〝ミスター・パーフェクト〟と呼んでくれ。ガッハッハッハッ！

――ホーストもビックリですね（笑）。

ハント　そういうことだ（笑）。8月か9月かわからないけど、このイベントで誰と、このルールでっていう具体的な目標が決まれば、すぐに戦闘モードに切り替えるんで安心してくれ。……ただ！

――え、何か不安材料でも？

ハント　ただ、いくら待っても具体的な目標が決まってくれないと……もう、銀行強盗でもするしかねえよ（笑）。

――アハハハハ！

ハント　いまのはジョークだけど、こんな状態がしばらく続くんだったら、ジョークにもならなくなってしまうけどな（笑）。

――銀行強盗で世間を騒がせることがないよう、一日も早く試合が決まることを祈ってます！（笑）。

ハント　ホントだよ。まあでも、実際のところ、前の試合は12月だったから、まだそんなに焦ってないんだけどな。

――ハントさんは昨年は無差別級GPに出たのもあって一年間で4試合もしましたけど、その前は年に1～2試合のときが多かったですからね。

ハント　そう。去年は我ながら働きすぎたね（笑）。それに、いまはちょっと腰の調子もよくないんで、しっかり治してからヒョードル戦へ向けて動き出すことにするよ。でも、どうなんだ？

――「どうなんだ？」って何がですか？

ハント　いや、ヒョードルは『PRIDE』のリングに戻ってくるのか？

――いや～、それぱっかりは本人に聞いてみないとわからないです。

ハント　そうだよな。まあ、すぐに闘えるとは思ってないけど、K―1のチャンピオンにもなったオレからすると、一番ほしいのは、何度も言うがヒョードルが持ってる『PRIDE』のベルトだから。オレの中では、あのベルトがMMAの王者の証しだと思ってるからな。

――いまだかつて、K―1と『PRIDE』、両方のチャンピオンになってる人はいないですからね。

ハント　そうだろ。そのためには……。

――そのためには？

ハント　一日も早く『PRIDE』の再開を願っているよ。

――では、近いうちにハントさんの試合が観られることを期待してます！

ハント　サンキュー！　ドウモ!!

【07年6月22日／オーストラリア・ゴールドコーストで開催された『XPLOSION』の控室にて収録】

MARK HUNT

MARK HUNT■1974年３月23日、ニュージーランド出身。2001年にK-1GP王者となり、04年からは『PRIDE』へ移籍。初参戦となった吉田秀彦戦は一本負けを喫したものの、その後はシウバ、ミルコ、高阪などに勝利。06年の無差別級GPでは二回戦でジョシュに敗戦。大晦日の『男祭り』ではヒョードルの持つヘビー級王座に挑戦するも惜敗。178cm、128kg。

4.8『PRIDE.34』
“最後の夜”から丸3ヵ月



撮影／乾晋也

表舞台から姿を消していた
あの男がひさびさに登場

「自分の娘を手放すようなもの」という言葉を残して10年間携わった『PRIDE』から身を引いた榊原信行前『PRIDE』代表。田村潔司vs桜庭和志という未来への希望を残したまま、『PRIDE』はその後、再開のめどが立っていない。ファンの焦燥感は限界寸前で、このトークショーもあっという間に当初設定した100枚が売り切れてしまい会場を変更したほど。熱狂と興奮が渦巻く東京・西麻布「SPACE LAB YELLOW」で開催されたトークショーのレポートをお届けします！

司会／ジャン斉藤　構成／坂井ノブ　撮影／平工幸雄



7.7七タの夕方に行なわれた
熱狂と興奮のトークを一部再録

スペシャル トークショー kamipro BOM-BA-YE KAMIKAZE

スペシャルゲスト 前『PRIDE』代表

榊原信行

約6年ぶりとなる『kamipro』主催のトークショーを開催することになったのは、とにもかくにも4月8日を最後に表舞台から姿を消していた榊原信行前『PRIDE』代表の話が聞けることになったから。『PRIDE』という愛娘を嫁に出した父親は、どんな心境でこの空白の3ヵ月をすごしてきたのか？　あるいは『PRIDE』の将来に関する重大な発表があるんじゃないか？　など、さまざまな憶測が飛び交ったが、一部海外MMAサイトが、「ミスター・サカキバラがトークショーをやるぞ！」とご丁寧に海の向こうで煽ってくれたおかげで、「アメリカのロレンゾ含め、新体制のチームがいろいろ細かく指示がありまして、今日は皆さんの期待に応えられるようなお話ができるか……、精一杯答えられるところはお話ししたいと思います」というお断りが最初に榊原氏から入った。

『PRIDE』の権利はすでにロレンゾに譲渡されているので、もちろん榊原氏の口から『PRIDE』の将来に関する話がされることはなかったが、いまさらながら榊原氏の持つ影響力の大きさには驚かされた。むしろ、主催者の立場としては榊原氏のトークをぜひナマで聞いてもらいたい、という気持ちのほうが強かった。誌面を通じてお届けできるものはどうしても限られてくるので、ライブ形式でお届けしたかったのだ。そして、その目論見は見事、成功したと言っていいだろう。

当然、活字にできないからライブで語るわけで、ここではそのほんの一部を再録させていただきたいと思う。そりゃ全部再録したら、トークショーに来てくれた人が怒るってもんです。それでも、誌面に掲載可能なギリギリのところまではいっちゃうぞ、バカヤロー！

というわけで、今回のトークショーはあらかじめ用意したいくつかのキーワードの中から、お客さんのリクエストに応じて話をしていくというパネルトーク形式でスタートした。





オープニングに「大物S氏」と紹介されて登場したスペシャルゲストは佐伯繁DEEP代表。『PRIDE』再開の予定を聞かれ、「俺もわからんて！　アディダス!!」と言い残して退場した佐伯氏に代わり、『PRIDE』のテーマで榊原氏が登壇した。大歓声が起こった！

パネルトーク「宮崎駿」「お台場」

まず最初のお題は「企画書」。榊原氏がたった二枚の企画書から『PRIDE』を誕生させた経緯を語っていく。3月の六本木ヒルズで行なわれた記者会見でも「奇跡の10年間」と言っていたが、その原点には髙田延彦との出会い、ヒクソン・グレイシーの出会いがあったという話である。『PRIDE』の10年間を振り返る上では絶対に不可欠な話であろう。

その次のお題は「宮崎駿」。これはべつに「榊原氏は『となりのトトロ』が大好き」とかいう話ではないようだ……。

――じゃあ、「宮崎駿」にいきましょうか。これは代表が宮崎アニメ好きってことなんですか？

榊原　いや、違いますね。えぇと……、宮崎駿さんというのは『PRIDE』っていうコンテンツを10年かけて皆さんに応援してもらい、日本で生まれて、全部で60大会近くやって、600試合ぐらいやっている。そういうスポーツ・コンテンツが海外でこれだけ評価されることってまずないと思うんです。世界中の人たちを魅了してるということで、宮崎駿さんのアニメのように、スポーツ・コンテンツとしては唯一、世界に出てると思うんですよ。（売却したのは）皆さんが愛してくれた『PRIDE』をいままでと同じようなクオリティで、同じような世界観で残す道が見つかったからです。

売上60億円で"30パーセント"減ると年間で15〜18億円ぐらいのマイナス

その道とはロレンゾ・フェティータへ『PRIDE』の営業権を売却するという究極の選択だった。一方、『PRIDE』を手放すきっかけの一つとなったのが昨年6月のフジテレビによるDSEとの契約解除である。そんな流れで次のテーマである「お台場」へと話題が移っていく。このへんから榊原氏の目にはバーニング・スピリットが宿り、トークもさらに勢いづいていく。

――いわゆる"フジテレビ・ショック"ということで、榊原さんからしたら裏切られたっていう思いが強いんでしょうか？

榊原　いや、裏切られたっていうふうには思ってない。『週刊現代』で十何週にわたって（『PRIDE』のことが）書かれて、フジテレビの社内に対して、「事実はこうです」って上申書を僕は書いたんです。で、フジの社内の人も「こういうかたちで上にあげよう、それなら放送が中止になることなんてない。芸能界だって、ほかの格闘技だって、この程度（の週刊誌のバッシング）で放送中止にしてたら、テレビで流すものなんてない」ってハッキリ言ってたんだから。（中略）僕もいま43歳です。サラリーマンを14〜15年やってたけど、『PRIDE』を支えるDSEという組織には僕より年上の人はいない。みんな若い力で、とにかく前に向かっていい

ものだけ作れば、みんなに理解してもらって、世の中で絶対に評価してもらえるって思ってやってたんですね。接待とか、付け届けとか、それこそゴルフ場で仕事することもないし、お酒もほとんど飲みに行くこともないし。でも、僕が社長って立場であれば、もっと年配の人たち、役員の人とかに対して、そういう人たちと、日本の社会の中で無難に生きていくためにやっておくべきことがあったんですよ。それこそお中元もお歳暮も贈ってないんだもん。

――そうなんですか！（笑）。

榊原　贈っときゃよかったな（笑）。

なんと、『PRIDE』を放送できない環境にまで追い込んだのは「接待や付け届けをしなかったから」、あるいは「お中元・お歳暮を送らなかったから」だった⁉ というのは極論だろうが、日本社会のある側面を象徴する話ではある。

榊原　僕も最初の入口がサラリーマンだったんで、サラリーマンの中の年功序列とか、努力もしないでふんぞり返ってるオヤジ連中が嫌でしょうがなかったんですよ。なんでこんな人の下で仕事しなきゃいけないんだって。それは凄く若気の至りだったんですね。かといって、世渡り上手になって、そういう人たちにうまく取り入って作り出されたソフトが、ファンの人とかテレビを通じて一般の人に届いたときに、たいして評価もされていないのに、なぜか放送されている、なぜかずっとやってる番組ってあるじゃないですか。

日本の社会の中で無難に生きていくために お中元もお歳暮も贈っておけばよかった

――まあ、そうですね。

榊原　それにはやってる理由があるわけですよ。ソフトとして視聴率を獲ることだけじゃなくて、人間関係がトップとつながってて、その力で政治的にやってる番組とか。（中略）放送中止になった会見のときに囲みの取材で「フジテレビの放送が中止になって、どれぐらい売上が減るんですか？」っていう質問があって、「30パーセントぐらい減る」って話をしたんですね。DSEっていう会社は2005年の決算では、60億円ぐらいの売上の会社なんです。そのうちの約30パーセントが減るっていうことだから、15～18億ぐらいが減るんですね。大会も年間で計画して、（06年）8月の『PRIDE武士道』はゴールデンタイムの放送がほぼ決まってたんですが、契約までは終わってなくて。8月の（名古屋）レインボーホールでやった日は、あえてその日の日本vs韓国戦のバレーボールの試合も含めて6時間ぶち抜きでスポーツ中継をやるっていうことで相談をされて、わざわざその日のイベント開催を決めたんですよ。

――そうだったんですか⁉

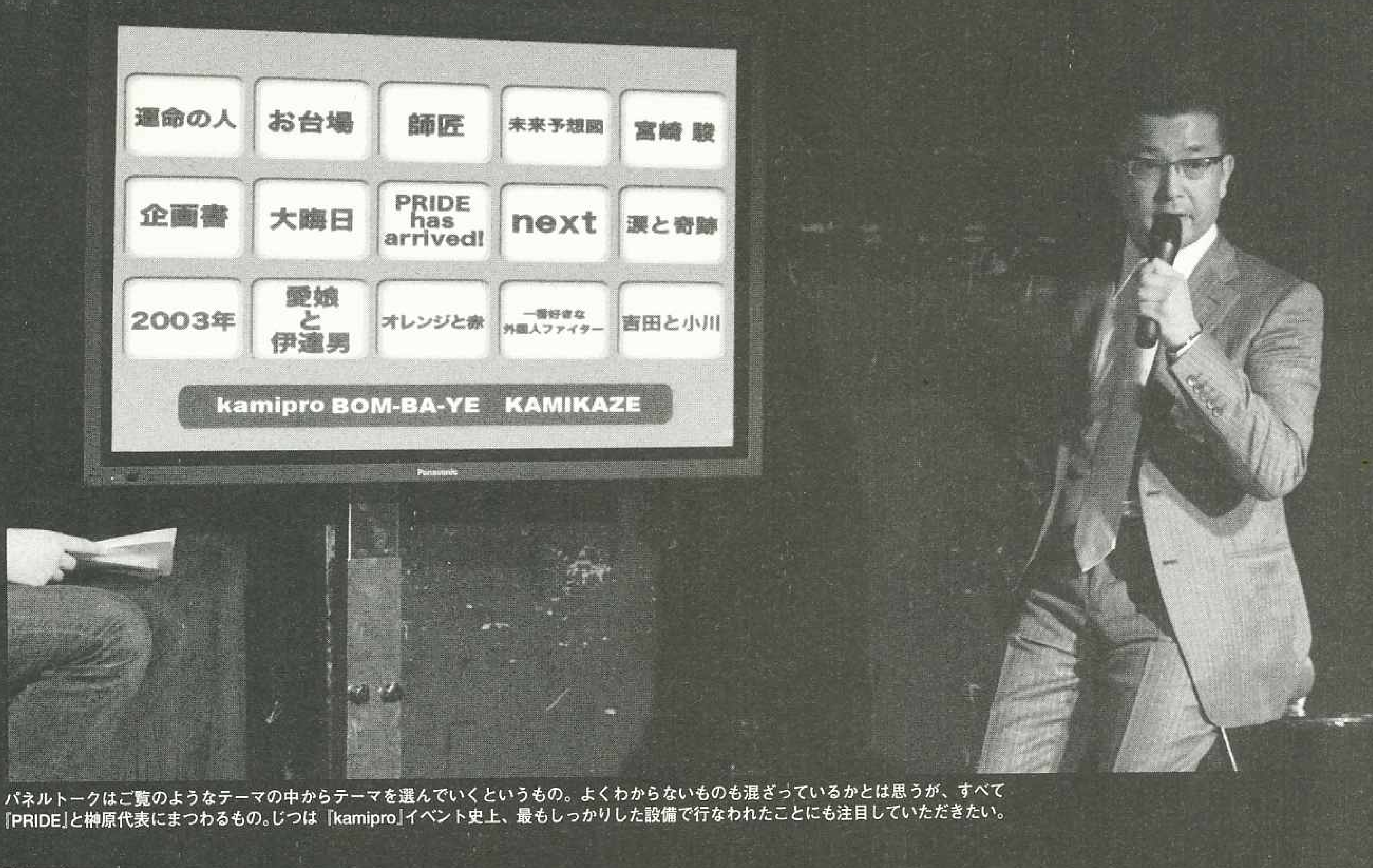
榊原　その日、空いてた会場がレインボーホールしかなかったんです。『PRIDE武士道』で頑張ってる川尻（達也）選手とか五味（隆典）選手とか、みんなに朗報をと思ってましたね……。だから6月4日の大会の頃には伝えられるんだろうなっていう矢先だったんです。

具体的な数字をあらためて聞かされ、どれだけフジテレビの放送中止が『PRIDE』に重くのしかかっていたかがよくわかる。また、それを語るときの榊原氏のテンション、口調、そのすべてが重く感じられたのも、きっとトークライブの醍醐味だろう。

パネルトーク「師匠」

続いての話題は「師匠」。03年2月の石井和義・正道会館前館長の逮捕から07年3月の『PRIDE』買収発表までのいきさつしか知らないファンにとっては、にわかに信じがたいだろうが榊原氏の師匠は、石井前館長なのだ。榊原氏はK−1と『PRIDE』が反目するきっかけについても言及した。

榊原　（石井前館長は）非常に頭のいい人なんです。学習能力の高い人だし。だからいい部分と悪い部分とあって、いいところはたくさん館長から勉強させてもらって盗ませてもらった。悪いところは反面教師ですね。こういうことはやめようっていうのは、たくさんあるんですけど（笑）。



パネルトークはご覧のようなテーマの中からテーマを選んでいくというもの。よくわからないものも混ざっているかとは思うが、すべて『PRIDE』と榊原代表にまつわるもの。じつは『kamipro』イベント史上、最もしっかりした設備で行なわれたことにも注目していただきたい。

――……僕は詳しいことはわからないのでノーコメントということで（笑）。

03年のK―1は石井館長が逮捕されるという事態で大波乱となったが、『PRIDE』も森下（直人）社長の急逝、榊原氏の代表就任という荒波に揉まれていた。しかし、ここから『PRIDE』は「REBORN」して一気に勢いづいていく。当時のK―1について榊原氏はこのように分析した。

榊原　石井和義っていう、K―1の表も裏もすべての面で牛耳るトップがいなくなるわけですよね。そうするとパンドラの箱を開けるようになってしまう。親分がいなくなったわけですから、扇でいうと扇の要が外れた状態ですよ。そうしたらどうなりますか？　放射線状にみんなの思いが向くわけですよ。石井館長がいなくなったあと、組織をまとめていく求心力のある組織のリーダーがいなくなったんですね。

結局、榊原氏が言うところの「パンドラの箱」が開いたおかげで、さまざまな問題が噴出するのが2003年である。このあとも、思い入れたっぷりに2003年のことを語りまくった榊原氏。よほど強烈な年だったのか、休憩を挟んでも2003年の話題で盛り上がり、その勢いでなんと榊原氏から突然その場にいた人にだけスペシャルなお土産が公開された。

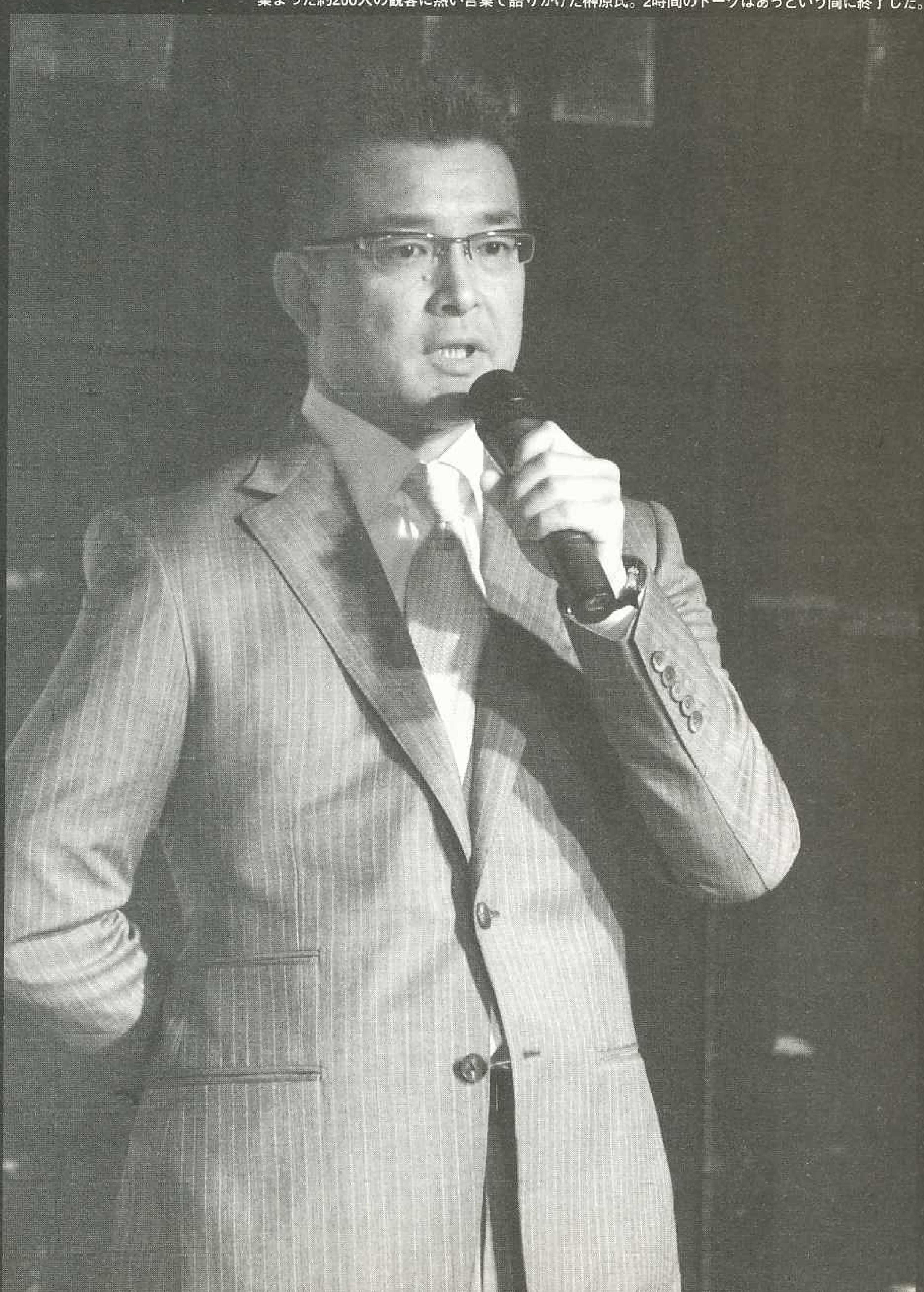
石井館長からは勉強させてもらった悪いところは反面教師ですね

門外不出の禁断のブツだけに、もう二度と公開されることはないかもしれない。あの場にいたお客さん、おめでとうございます！　そして、あの場にいられなかった皆さんは残念でした！　ライブとは、えてしてこういう思わぬ嬉しいことが起こるものなのだ。

その後は、たまたま会場に遊びに来ていた〝煽りVTRアーティスト〟佐藤大輔氏と、島田裕二レフェリーが飛び入り参加してトークに参加した。こうした公の場で佐藤大輔氏がしゃべるのも非常に珍しいことなので、お客さんもキラキラと目を輝かせてその言葉に聞き入ってました。島田レフェリーの登場時には、『PRIDE』の会場でおなじみのブーイングも飛び出して、ちょっと懐かしい空気が一瞬だけよみがえり、やはり『PRIDE』がないのは寂しいなぁとじみじみ思った方も多いはずだ。

なかなか再開しない『PRIDE』について、榊原氏は慎重に言葉を選びながらも、「必ず『PRIDE』は帰ってくると僕は信じてます」と断言した。

榊原　フジテレビの放送を切られたとき、銀行もお金を貸してくれなかったです。「いま貸してるのもすぐ返せ」というような状態でした。だから（フジテレビ・ショックの発生した）6月5日のあとからは、銀行の借り入れとかで会社を回してたお金がストップして、輸血ができない状態なんですね。当然、僕も私財を真っ先に投げ売りましたよ。給料もこないだひさしぶりにもらったんです。9ヵ月ぐらいもらってなかった。それでも大会を運営していったけど、大晦日の地上波は無理だった……、それが結局、自分は代表を辞めて、営業権はロレンゾに渡そうっていう思いに至った直接的な引き金ですね。



集まった約200人の観客に熱い言葉で語りかけた榊原氏。2時間のトークはあっという間に終了した。

榊原氏の生々しい証言には会場もシーンと聞き入っていた。昨年から台頭してきたMMA新興勢力の横ヤリにも悩まされてきた。ここで語られたのは昨年10月の『PRIDE・32』直前、闇の新興勢力による熾烈な横ヤリだった。メインで出場する予定だったエメリヤーエンコ・ヒョードルに、とてつもない額のオファーをふっかけて「『PRIDE』に出るな」と言ってきたというのだ。結局、ヒョードルはラスベガス大会に出場したのだが、こうした動きに榊原氏は苦しめられることとなった。結局、海外MMAマーケットの急激な拡大がもろに直撃した『PRIDE』の嫁ぎ先が決定したのは今年3月になってからだった。ロレンゾ・フェティータについて、榊原氏は以下のように語っている。

榊原　「『PRIDE』をいまのまま守りたい」「UFCっていう競争相手とぶつかっても、これまでどおり『PRIDE』を成長させて育ててくれる」っていうことが、ロレンゾとの男と男

の約束なんです（中略）「じゃあ、いまの状態はどうなんだ？」っていうのは皆さんの思いだと思うんですよね。でも、日本という国に来て、文化も、メディアとの対応も、経済的な環境も、慣習も含めて違う国に彼は初めて来るわけです。（中略）5月に会ったときも「おまえから譲り受けた『PRIDE』って娘が一日一日腐っていく。ホントに耐えられない」っていうのは彼自身が一番思ってることですから。彼は信じるに足る男です。なので、彼を信じて、新しい『PRIDE』が動き出す日を皆さんも、もう少し待ってほしいと思います」



石井前館長に対しては愛憎入り混じった感情が榊原氏の口から飛び出した。K-1という偉大なる先達に追いつけ追いこせとリスペクトしてきたからこその言葉であろう。

質疑応答

そして、ここからは会場のお客さんに書いてもらった質問に答える質疑応答のコーナーへ突入！

——まず、最初の質問は『HERO'S』のプロデュースをしないのでしょうか？」という質問です。

榊原　まあ、それはお呼びでないと思うし、いろいろ世界観も違うんで（笑）。やることはないですね。（中略）

——次の質問です。「榊原さんがこれからやってみたいことはなんでしょう？」と。

榊原　映像から伝わるもの、そしてインターネットで伝えられるもの、そして紙媒体で伝えられるものって限界があると思うんですね。人間が生身で生きてる以上はやっぱりライブで、匂いがあったり熱があったりね、こういうたくさんの人たちとともにすごす、そのライブという五感を刺激する空間を大事にしたものを作り続けたいですね。これからも『PRIDE』的な世界観がある、たとえば全然違うスポーツのイベントだったり、音楽のイベントだったり、いろんなものをまた手がけてやっていきたいと思います。『PRIDE』とお別れすることになってるから、格闘技に自分が残ってることはないです。ただ、ロレンゾとの約束の中ではロレンゾのサポ

自分がプロデュースして『PRIDE』に代わるようなものを作るとかは考えてない

ート役にはいつでもなるっていうふうには思ってますけど、表に立って何かするとか、自分がプロデュースして『PRIDE』に代わるようなものを作るとかはまったく考えてないです。

——わかりました。では、次です。「今後の格闘技界はどのような方向に進んで行くんでしょうか？　榊原さんの考えをお聞かせください」。

榊原　いま『PRIDE』っていうものが日本で一旦、姿を消していますよね。でも、どんな市場も競争があったほうが盛り上がるんです。今年の大晦日に『Dynamite!!』をやったら盛り上がるかといったら、たぶん盛り上がらないと思います（笑）。『PRIDE』がこういう状態のいま、K－1の視聴率がどうかっていうとボブ・サップが出ても10パーセントぐらい。まあ、（サップは）ほとんど何もしてなかったですけどね。あれが格闘技だと言われると、ちょっとショボリしちゃうというか。市場自体は落ち込むと思うんですよ。ナントカ王子でも出てこないと（笑）。ほかのスポーツに押されてるじゃないですか、ハッキリ言って。サッカーとか野球とかゴルフとか、いろんなスポーツがある中で桑田真澄選手がメジャーリーグに挑むとかね、そういうほうが人間ドラマとしてはみんなの共感を呼ぶと思います。格闘技の中では『PRIDE』が再開しないかぎりは、たぶんそういう熱は戻ってこないとは思いますけどね。

最後まで『PRIDE』に関わった10年を熱く濃いトークで振り返った榊原氏。なんと『PRIDE』の10年間を語った自伝が今秋に発売される予定だという。「いまだから語れること」が満載らしいので、今回のトークショーに来られなかった人はそちらを楽しみに待っていていただきたい。

今後も機会があれば『kamipro』主催のトークショーを開催していきたいと思うので、こちらにもご期待いただきたいです！　というわけで、また、いつか、どこかでお会いしましょう！　アディダス！



イベント終了後は出口のところで榊原氏が一人一人と握手を交わして、『PRIDE』のテーマのサイン入りCDを手渡した。こんな豪華なお見送りはほかにないって！

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA Cool 宅急便

Vol.16

いったいどこに行くんだ～!? ジョシュがフリー宣言し、シウバ、ショーグンらのUFC参戦についてダナ・ホワイト代表がコメントを出すなど、『PRIDE』を戦場としてきたファイターの新たな動向が表面化。マット界再編の中、それぞれの選手、そして団体側が抱える事情とは?

聞き手／デューク東郷　助手／上杉ンスキー

日本マット界とは別! UFCから見たPRIDEファイターたちの“適正価格”とは?

PROFILE



Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居をかまえ、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「弁護士を通して被害者側に1000万円を渡し、済んだ話」

—今月はスコットが行方不明のため、携帯サイト『kamipro Hand』で当コーナーのモバイル版を担当しているケビン・マスクがピンチヒッターとして登場です。

ケビン　いきなりだけど、今月はショッキングな話ばかりになりそう。

—どんだけ～っ!

ケビン　まだ何も言ってないよ!

—もしかして、また引き抜き関連?

ケビン　残念ながら、そうなんだ。エリートXCが『PRIDE』でブレイクした“アフリカン・アサシン”ソクジュと契約を結んだらしいんだ。

—ウッホ! 今号でソクジュや彼のマネージャーも微妙な発言をしているけど……。

ケビン　じつはもう結んだらしいよ。ダナ(・ホワイトUFC代表)が記者会見でその事実を認めてて、「法的手段をとるかもしれない!」と徹底抗戦を匂わす発言もしているんだ。

—ソクジュを引き抜かれるなんて、抜け目のないダナにしては珍しい失策だねぇ。

ケビン　ただ、そうはいっても、UFCはソクジュをそこまでほしがっているわけではなさそうなんだ。実際にダナは「ソクジュはまだ4勝1敗の選手で、UFCに上がるにはまだまだ」といった発言もしているしね。

—ふ～ん。『PRIDE』でブレイクしても、アメリカでの評価は違うってことなんだね。

ケビン　ソクジュ側とUFCは交渉の場を持ったらしいけど、ソクジュ側が提示した金額は、UFCの想像を超えていたらしい。

—それなのに、どうしてエリートXCはソクジュを獲ろうとしているのかな。

ケビン　さぁ、なんでだろうね。噂によると、エリートXCは、『HERO'S』にソクジュを派遣するという話もあったらしい。

—ああ、じつは「オラ、横浜さ行くだ!」なんて話もあったみたいだね。

ケビン　うん。でも、『PRIDE』サイドは契約の正当性を主張しているそうだから、もし強行していたら大事になっていたと思うよ。あたりまえだけど(笑)。この問題は、ソクジュ本人というよりも、ソクジュの周辺が浮き足立っているってことかなあ。

—どのジャンルでも、スター候補の宿命みたいなもんなのかね。

ケビン　戦場を移そうとしているのはソクジュだけじゃない。05年の『PRIDEミドル級GP』覇者、マウリシオ・ショーグンが9月の『UFC76』に出場することになりそうなんだ。そして、その動向が注目されていたジョシュ・バーネットも「フリーエージェントになった」と自分のブログ(「マイ・スペース」という、日本でのmixiのようなもの)で北斗フリー宣言をしている。

—ほわたっ! 今号のインタビューでも『PRIDE』離脱を表明しているけど。

ケビン　うん。ジョシュは「ある惑星が崩壊する音が聞こえたような気がする」と、『PRIDE』の消滅を暗示させるような表現を使って、フリー宣言をしたんだ。

—ジョシュは6月末のIGFに参戦したときには、報道陣に対して「10月まで契約が残っている。契約がクリアされたら、『PRIDE』から離れたい」と話していたけど……。

ケビン　契約の詳しいところはわからないけど、まだ話し合いの最中で、契約解除には至ってないという話もある。解除うんぬ

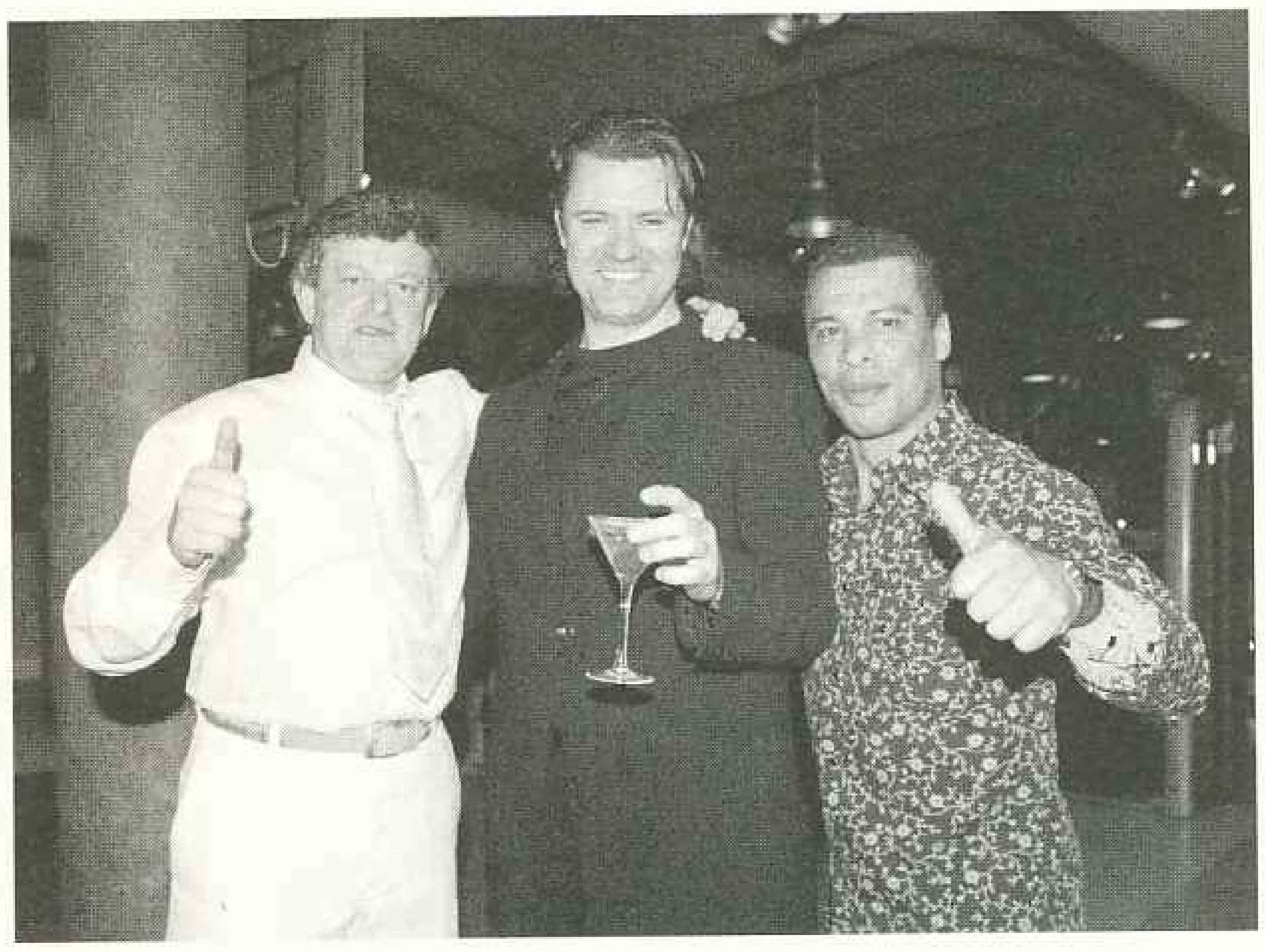


ショーグンのUFCデビュー戦の相手としては、MMA無敗、“猪木最後の愛弟子”LYOTOの名前が挙げられている。これは観たい! またシュート・ボクセからはヴァンダレイ・シウバの11月大会参戦も濃厚。相手は因縁のチャック・リデル!?

んの詳細はいずれわかることだけど、そのブログでジョシュは「（フリーになって）最初に考えたことは、UFCで闘うかどうかだった」とも書いている。というのは、ジョシュは02年の『UFC36』でランディー・クートゥアーを破ってUFCヘビー級王座を獲得したんだけど、試合後に抜き打ちで行なわれたステロイド検査で陽性反応が出て、王座を剥奪された過去があるんだ。それに対して、ジョシュは「UFCがボクをコントロールしにくいから追い出した」と反論して、アスレチック・コミッションの公聴会にも出席しなかった。それ以来、両者の関係はこじれていたからね。

――では、ジョシュはUFC参戦を希望していない、と。

ケビン ただ、そのブログでも認めているように、ジョシュはダナや『PRIDE』とUFCの統一オーナーであるロレンゾ（・フェティータ）とすでに会っているんだ。



ヒョードルを擁するレッドデビルのワジム会長（左）と、ボードッグとレッドデビルを結びつけた、MFCオーナーのファインスタイン氏（中央）。ディト・オーティズら手間のかかる選手との交渉をまとめあげてきたタフ・ネゴシエーターであるダナをもってしても、彼ら〝クレイジー・ロシアン〟とのヒョードル参戦を巡る交渉は簡単ではなさそうだ。

USA NEWS Cool宅急便

トンプソンも契約解除を要求!!

メガバンクもフリーに!? “ゴング＆ダッシュ”を信条とするファイトスタイルで『PRIDE』で人気を博したジェームス・トンプソンがフリー転向を希望していることを明らかにした。DSEと契約した5試合のうち2試合が残っているトンプソン。『PRIDE』が活動休止している中、『PRIDE』と同一資本傘下のUFCから独占契約を求められたが、「具体的な試合のオファーがなかった」ため拒否。逆に、他団体と交渉できるよう現在の契約解除を求めたとのこと。またトンプソンはこれまでの“ゴング＆ダッシュ”スタイルについて、「自分のキャラをわかっていたからやっていたが、これからはありのままの自分を見てほしい」とファイトスタイルの変化も希望し、スーパーヘビー級からヘビー級へのクラスダウンをも計画しているとのこと。でも、それじゃ男塾塾生じゃないよ!!

パウロ・フィリオ、WEC王座挑戦!

パウロ・フィリオのアメリカデビュー戦がタイトル戦に！　昨年の『PRIDEウェルター級GP』において、負傷のため決勝戦出場をキャンセルしたものの、同GP覇者、三崎和雄に準決勝で一本勝ちしたことから、“PRIDEウェルター級最強”との評価も高いフィリオ。『PRIDE』を離脱後、UFC傘下のWECと契約したことが明らかになっていたが、8月5日のラスベガス大会で、現在空位となっているWECミドル級王座を懸けてジョー・ドークセンと闘うことが決定した。またUFC ではなくWECを次の戦場に選んだ理由について「UFCウェルター級王者、アンデウソン・シウバは友人なので闘いたくなかった」とコメントしているが、フィリオには仲のよい選手との対戦を避ける傾向があり、前述の『PRIDEウェルター級GP』も、交流のあるデニス・カーンとの試合を望まなかったため、決勝をキャンセルしたとも言われている。

ブラジルでもMMAチーム別対抗戦がスタート!!

多くのMMAファンの関心を引きよせるには至ってないものの、米新興団体IFLが地道に展開していたチーム別対抗戦がブラジルでも開始！　ブラジルでは、IFLのコンセプト同様に、チーム別対抗戦を開催する新興団体MTL(MO Team League)が設立。4チームを設立し、それぞれのコーチにヴァンダレイ・シウバ、アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ、ムリーロ・ブスタマンチ、ペドロ・ヒーゾというビッグネームが就任したことを発表した。旗揚げ戦は8月11日でシウバの「ハリケーンズ」とブスタマンチの「ワイルド・ファイアー」が争うことになる。なお、この大会ではコーチ同士によるスーパーファイトは予定されていない。

ジョシュとUFCの参戦交渉は決裂したらしい

――つまり、無我ワールドで復帰した嵐みたいに土下座して、薬物使用の罪を許してもらいに行ったわけだ。

ケビン なんでいきなり非を認めるんだよ！　しかも誰の話だかわかんないよ!!

――でも、ジョシュはコスタリカ大会にゲスト出場したり、ボードッグとの距離が近かったんじゃないの？

ケビン いや、ジョシュはボードッグとも話しつつ、UFCとも交渉したんだよ。ただし！　関係者によると、ジョシュとUFCの交渉は決裂したらしいんだ。

――あ、わかった！　UFCは独占契約しか結ばないのに、ジョシュがIGFへの継続参戦を契約に盛り込もうとしたからだ！

ケビン （無視して）なんでもジョシュの要求した金額とUFCの提示した金額に大きな開きがあったらしいよ。

――ソクジュと同じ！　『PRIDE無差別級GP』準優勝者のジョシュなら、ある程度、市場での相場が決まっているんじゃないのかな？

ケビン いや、そんなに単純なことじゃないんだ。たとえばUFCからすれば、同じ『PRIDE』出身ファイターでも、ミルコはヨーロッパ進出の目玉となるから、UFCにとって、投資する価値はある。それにミルコがUFCに移籍した当時は、『PRIDE』、ボードッグ、エリートXCらと水面下で選手争奪戦が繰り広げられていたけど……。

――目下のところ敵なしだもんね、UFCは。そうなったら選手は駆け引きをしづらいよね。

ケビン それにジョシュの人気は日本で際だって高いものだから、UFCとしては、大金を投資しづらい対象なんだ。

――じゃあ、ヒョードルはどうなの？

ケビン ヒョードルについては、ダナは獲得に強い興味を示している。やっぱり名実ともに〝世界最強の男〟だからね。ただ、〝ジョーク団体〟呼ばわりしているボードッグとレッドデビルが提携していることもあって、交渉が難しそうだけどね。実際に、ダナも「ヒョードルの周りのクレイジー・ロシアンたちが面倒だ」とマネージマントチームとのネゴシエーションが一筋縄ではいかないことを嘆いている。

――なるほど。

ケビン ただダナは「1月までには参戦させたい」と話していることから、話は進んでいるみたいだね。その場合は、いきなりタイトルマッチでもよいとさえ話している。

――へぇ。ミルコやノゲイラでさえも、いきなりタイトルマッチではなかったのに？

ケビン ヒョードルは別格だね。アメリカ中のファンにもその強さが知れ渡っているから、『PRIDE』でのファイトマネー以上のオファーを受けるだろうね。

――では、タイトルホルダーでもなかったジョシュが、もし日本市場同様に高額のファイトマネーを要求していたとなると？

ケビン ダナからすると、「顔を洗って出直してこい！」ってことになるね。つまり日本格闘技市場での価値と、アメリカのそれでは、まったく違うってことなんだ。

――じゃあ、シミケン（清水健太郎）に価値は見出さない、と。

ケビン 誰だよ、それ（笑）。まあ、ソクジュやジョシュの例にたがわず、そうした日米のギャップは『PRIDE』から離れていったファイターの行く先に影響を与えることになるだろうね。

【07年7月14日／国際電話にて収録】


kamipro編集部が毎日更新!
『kamiブログ』は
他サイトに絶対載らない
㊙情報満載!
～BTT離脱の
"ガセ"と"真実"とは～
マット界一
スクープ!!
が多いケータイサイト
kamipro
Hand
～残虐超人、
衝撃の五輪挑戦～
～ブログで「PRIDE」
電撃離脱宣言～
独占取材、単独スペシャルインタビュー、本誌先出し情報も随時更新中!!
携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法
1 QRコードでクイック・アクセス!!
2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス
3 hand@kamipro.com へ空メールを送信
アクセス方法
DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!
au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
Soft bank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶
kamipro Hand
[QRコード]
[お問い合わせ] (株) ダブルクロス TEL.03-5368-1795

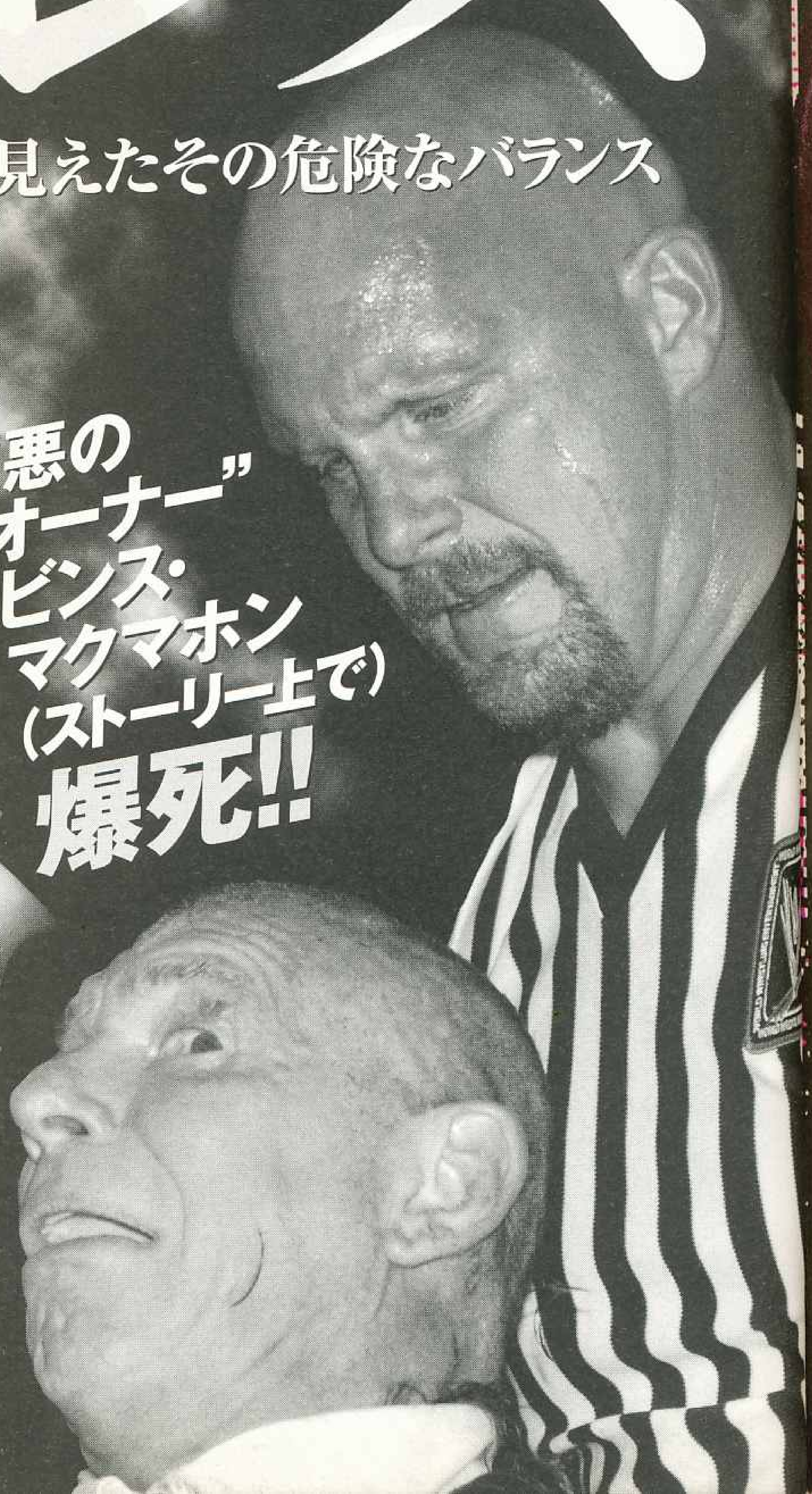
ビンス・マクマホン爆破テロアングルとクリス・ベノワの死を考える

特集 "死"とプロレス

究極のエンタメ団体WWEから見えたその危険なバランス

構成／坂井ノブ　写真／George Napolitano、平工幸雄

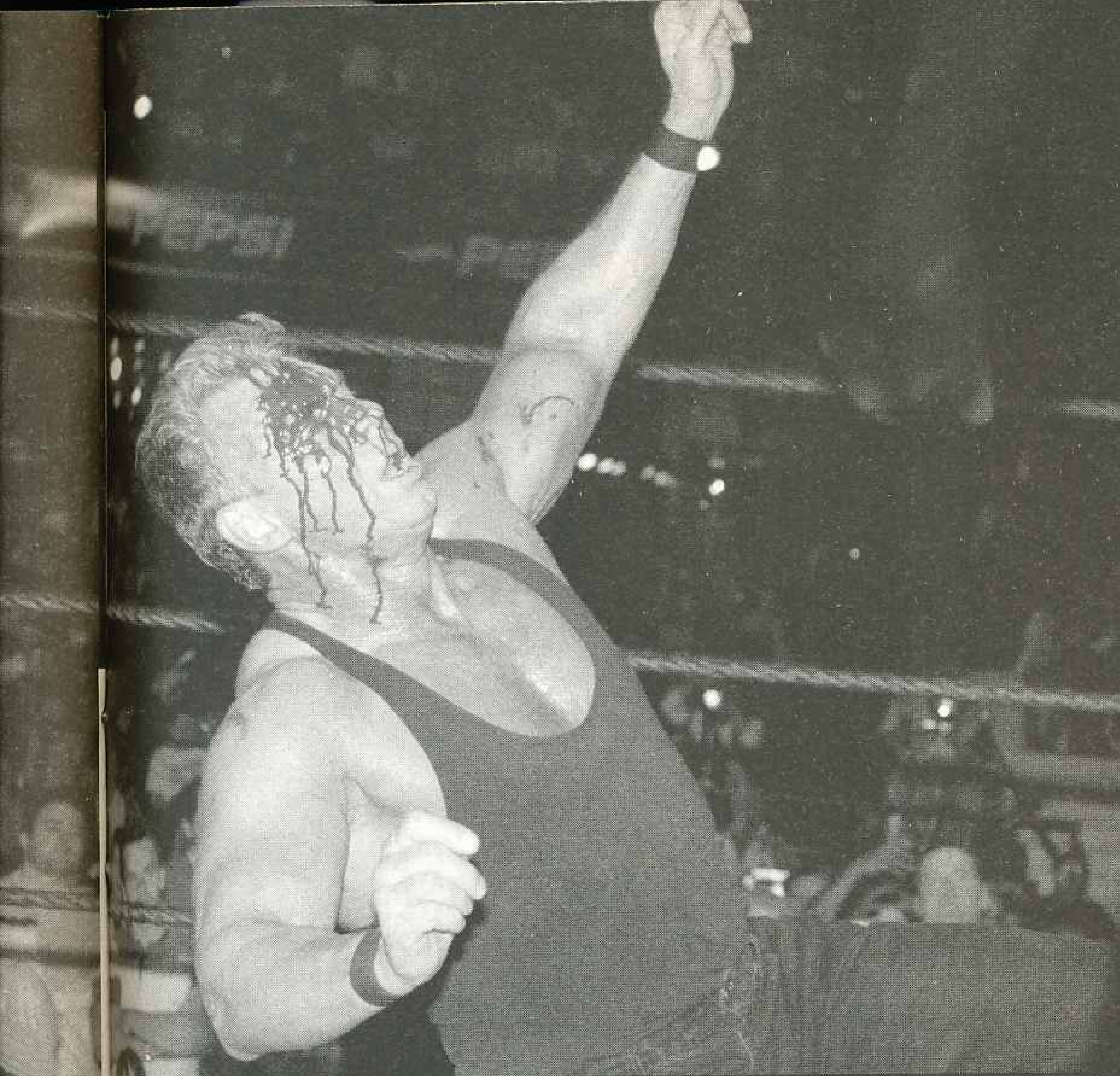
これはプロレスへの非常ベルなのか？



"悪のオーナー"
ビンス・
マクマホン
（ストーリー上で）
爆死!!



"凶獣"
クリス・ベノワ、
妻子を殺害後に
自宅で
自殺――。



最大のプロレス団体を揺るがした――
動ドキュメント

WWEオーナーのビンス・マクマホンが今年4月1日の『WRESTLEMANIA23』で丸坊主になった約2カ月後、いきなり爆死した。

もちろんストーリー上のことであって実際に死んだわけではない。しかし、その2週間後にWWEスーパースターのクリス・ベノワが妻子を殺害して自殺をするというショッキングな事件が発生した。これはストーリー上のことではない。

この二つの"死"を並べることは本来ならナンセンスなのかもしれない。だが、プロレスが究極の進化を遂げた団体で二つの"死"はどのように扱われたのか。まずは時系列に沿って振り返ってみたい。

6月11日(月)『RAW』
ビンスのリムジン爆破

ECW王座を失なったビンスのための『RAW』が開催されるが、放送のラストシーンでビンスが乗り込んだリムジンが爆発炎上した。ほとんどの選手やスタッフにはこの爆破について知らされていなかったという。徹底した情報コントロールはさすがだ。

6月12日(火)『ECW』
10カウントゴング

収録の冒頭でいきなり10カウントゴングが打ち鳴らされるが、観客からは一斉にブーイングが発生する。ちなみにテレビのローカルニュースでは「ビンスは無事」と報じる。そりゃそうなんだが。爆発炎上のシーンや放送されなかったリムジン消火作業などの動画がアップされたwwe.comは過去最高のアクセスを記録した。最も検索された単語もWWE関連が上位を独占。

6月13日(水)
FBIも出てきた!

地元紙がFBIに問い合わせたところ「いかなる爆破事件も発生していない」と回答。いくらショッキングだったからって、スポーツエンターテインメントなんだからFBIに問い合わせることはないだろうとは思うのだが。

クリス・ベノワ追悼番組が放送された日、ビンスの葬式が放送されるはずだった!?

6月15日(金)
シェリー・マーテル死去

元WWFの"センセーショナル・シェリー"ことシェリー・マーテルが自宅にて死去。ずっと腰痛を患っていたらしいが、ZERO1-MAXで招聘しようと計画していたことを中村祥之FOS社長がブログで公開。シェリーの死去を受けて、ビンスの死亡アングルが短縮されるらしいという噂も出始める。

6月18日(月)『RAW』
ステファニーが涙の演説

衝撃のラストシーンから一週間。ビンスの娘ステファニー・マクマホンが登場して「マクマホン家が総力を挙げて追及する」とビンス殺害犯の捜査を涙ながらに宣言した。なお、ビンスが爆死した週の視聴率は3・8パーセントだったが、この週は4・2パーセントに急上昇。センセーショナルな話題作りがとりあえずは成功したかたちだ。

6月19日(火)『ECW』
ベノワのカードが決定

週末のPPV大会『VENGENCE』でCMパンクvsクリス・ベノワが決定。

6月20日(水)

CNBCのサイトでWWEがビンスの爆死は「ワーク」であることを認めた。CNBCは経済ニュース中心の通信社のダウ・ジョーンズと三大ネットワークの一つであるNBCが設立した放送局。市場に株式を公開しているWWEだからこそ、ストーリーの裏側もいちいち明らかにしなければならないのだ。だが、ビンス爆死は「株価操作のための"風説の流布"にあたるのではないか?」というバッシングが一部で始まったりもする。

※この頃から「I did it」(ビンス殺害は俺がやった)Tシャツが発売される。
※wwe.comでは「誰が犯人だと思うか?」の投票も開始。

6月23日(土)ハウスショー
音信不通に……

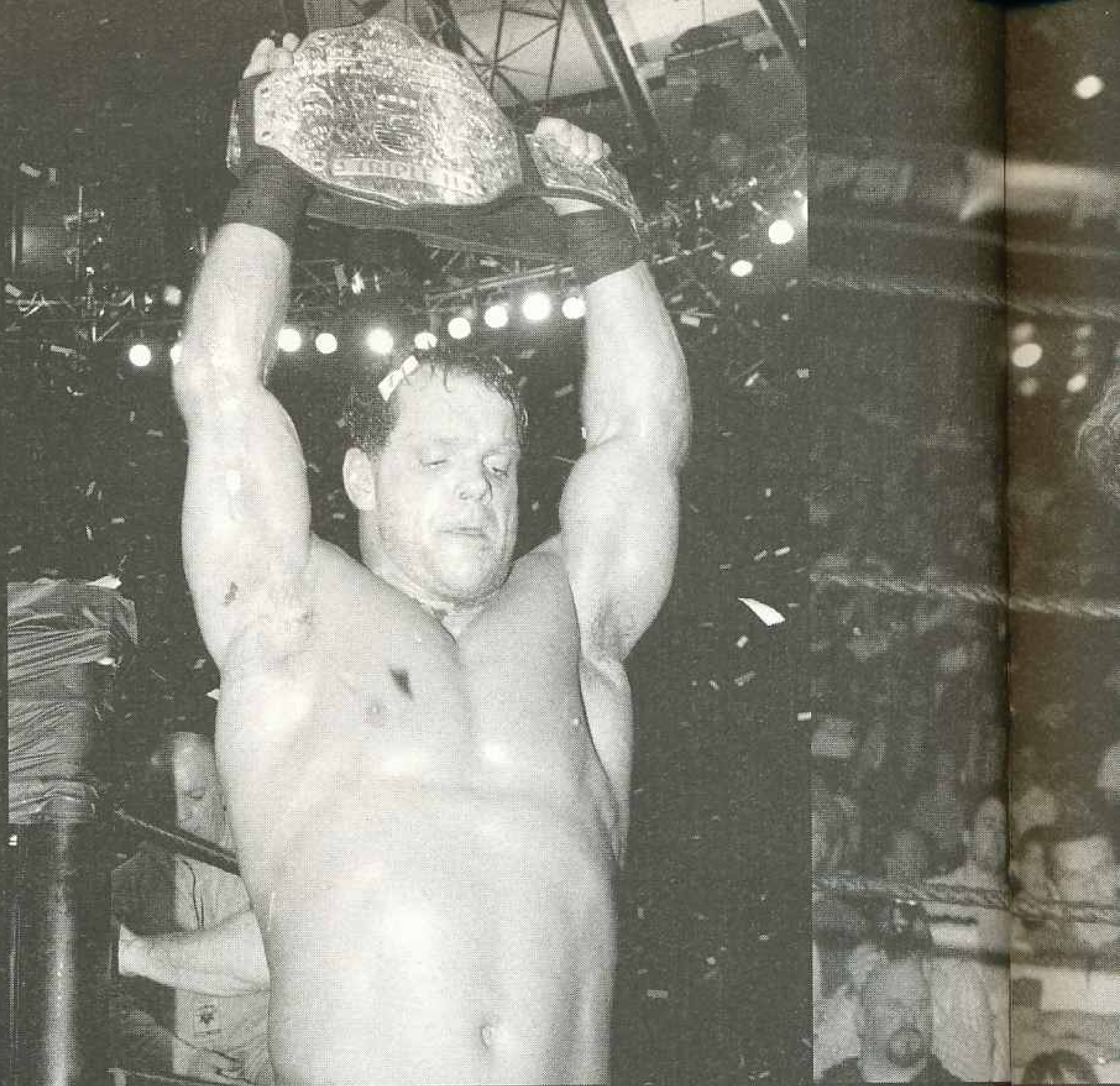
この日、テキサスで行なわれるハウスショーに「家庭の事情」で欠場するという連絡がベノワから入る。PPV『VENGENCE』に出場できるかどうかスタッフが問い合わせたところ返信がなかった。

6月24日(日)『VENGENCE』
PPV当日

結局、ベノワは欠場。放送では「個人的な理由」で欠場したことがアナウンスされる。当初、対戦予定だったCMパンクはジョニー・ナイトロと対戦した。ベノワはこの日の早朝に同僚に対してメールを送っていた。

6月、二つの"死"が世界最大のプ

WWE激動



事件性が明らかになるとWWEはHPからベノワの写真や映像、商品を削除!!

6月25日(月)『追悼番組』
遺体発見
クリス・ベノワの妻ナンシーさん、息子ダニエルくんの遺体が自宅で発見された。ベノワは地下のトレーニング・ルームで首を吊って亡くなっているのが発見された。それぞれの遺体の前には聖書が置かれていたという。WWEはこの日の『RAW』の中止を決定し、追悼番組を放送した。爆死していたはずのビンスが登場し、「私が死んだというストーリーを放送するはずだったが、クリス・ベノワの死は真実だ」と番組冒頭でコメントしている。

6月26日(火)『ECW』
徹底的に削除
ベノワの事件の全貌が明らかになるにつれて、追悼番組を放送したWWEに非難が集中。ビンスは番組冒頭で「私のコメントを除いてベノワに言及することはない」とコメント。会場ではクリス・ベノワの名前が書かれたファンのボードは没収され、wwe.comからはベノワの画像や動画も削除され、通販ページからベノワの商品も削除された。試合中などに発生した「We want Benoit」のチャント(合唱)も「ECW」チャントに差し替えられて放送された。

これが二つの〝死〟にまつわる大まかな流れである。ベノワ追悼番組が放送された週の『RAW』では、なんとビンスの葬式が催される予定で、しかもそこで犯人として逮捕されるのはビンスの妻リンダの予定だったという。

事件が報じられるとともに、ベノワの自宅からステロイドが発見されたこと、ベノワが過去にDUI(酩酊状態での運転)で逮捕されていたこと、息子のダニエルくんは脆弱X症候群を患っていたことなどが報じられるようになっていく。

WWEはベノワの事件後、選手に対してあらゆるメディアとの接触を3週間にわたって禁止、ビンス自身は大手ネットワーク局のトークショーに出演して今回の事件についてコメントしている。もっぱら話題はベノワの事件とステロイドとの関連性について。ステロイドが一大スキャンダルに発展する可能性があるということは、ビンスも90年代の裁判で体験しているだけに積極的に動いているのだろう。もちろん、ストーリー上で演じるビンスではなく(そもそもストーリー上では爆死している)、しごくまっとうなビジネスマンとしての登場だ。ここでは過去のステロイド・テストでベノワが陰性だったことなどを説明している。

こういった事件があったあとだけにビンスの爆死もなかったことになっており、どのようなかたちでビンスがストーリーに戻ってくるのかは明らかになっていない。しかし、今後も会社の代表として、一般世間への露出の機会は増えていくことだろう。

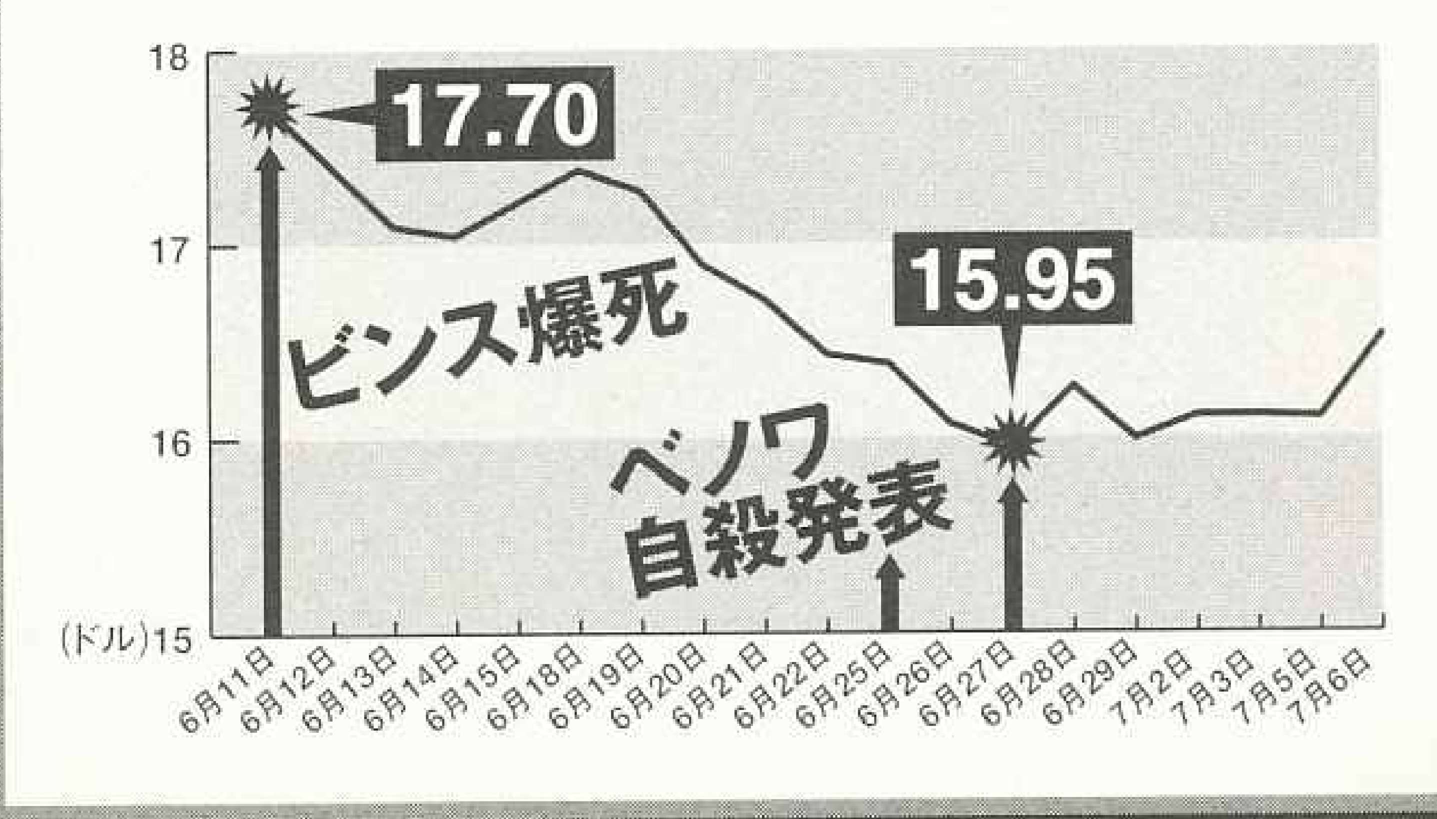
株式公開で上場企業としての企業倫理が問われるWWE。しかし、その裏では視聴率や利益を追求するためにストーリーは過激になり、選手にも負担が重くのしかかっていく。プロレスが究極に進化する過程で、前人未到の地で新境地を開拓し続けるWWEは今後どのような道を進むのか? プロレスの進むべき道、進んではならない道がここから見えてくるかもしれない。

(文/坂井ノブ)

※日付はすべて現地時間

事件と株価の推移にはどんな関係があるのか!?

WWEはニューヨーク証券取引所で株式公開を行なっている。約一ヵ月にわたってWWEの株価推移を追いかけてみると、ビンス爆死の直後から株価は下がり続け、ベノワの事件が起こったことでさらに株価は下がる。6月11日の時点では17・70ドルだったが、6月27日には15・95ドルまで落ち込んでいるのがグラフでもおわかりいただけるだろう。『WRESTLEMANIA23』直前から上がり続けていた株価が6月で一気に落ち込んだかたちだ。しかし、株価が下がれば買い手もつく。7月に入ると再び高騰している。何がどう作用するか、まったくわからない。



撮影／平工幸雄



語ろう クリス・ベノワ

〝凶獣〟よ、なぜだ……!?

WWEスーパースターの心と身体にはどんな重圧がかかっていたのか?

「語ろう」シリーズに現役プロレスラーが初登場 元同僚TAJIRIが、この悲劇について語る——。

突然の悲劇に言葉を失なったのは、プロレスファンだけではない。ベノワとともに世界最大のプロレス団体WWEで闘ってきたプロレスラーTAJIRIにも、今回の一件は大きな悲しみをもたらした。いったいベノワに何が起こったのか!?　WWEのキツさを誰よりも知っているTAJIRIに間近で見たベノワを語ってもらいたいと思い、座談会に出席してもらった。さらに、本誌でWWEを担当しているライター・阿部タケシには今回の悲劇が起こった背景やWWEを取り巻く状況について分析してもらいつつ、あらゆる角度からクリス・ベノワを語り尽くします!

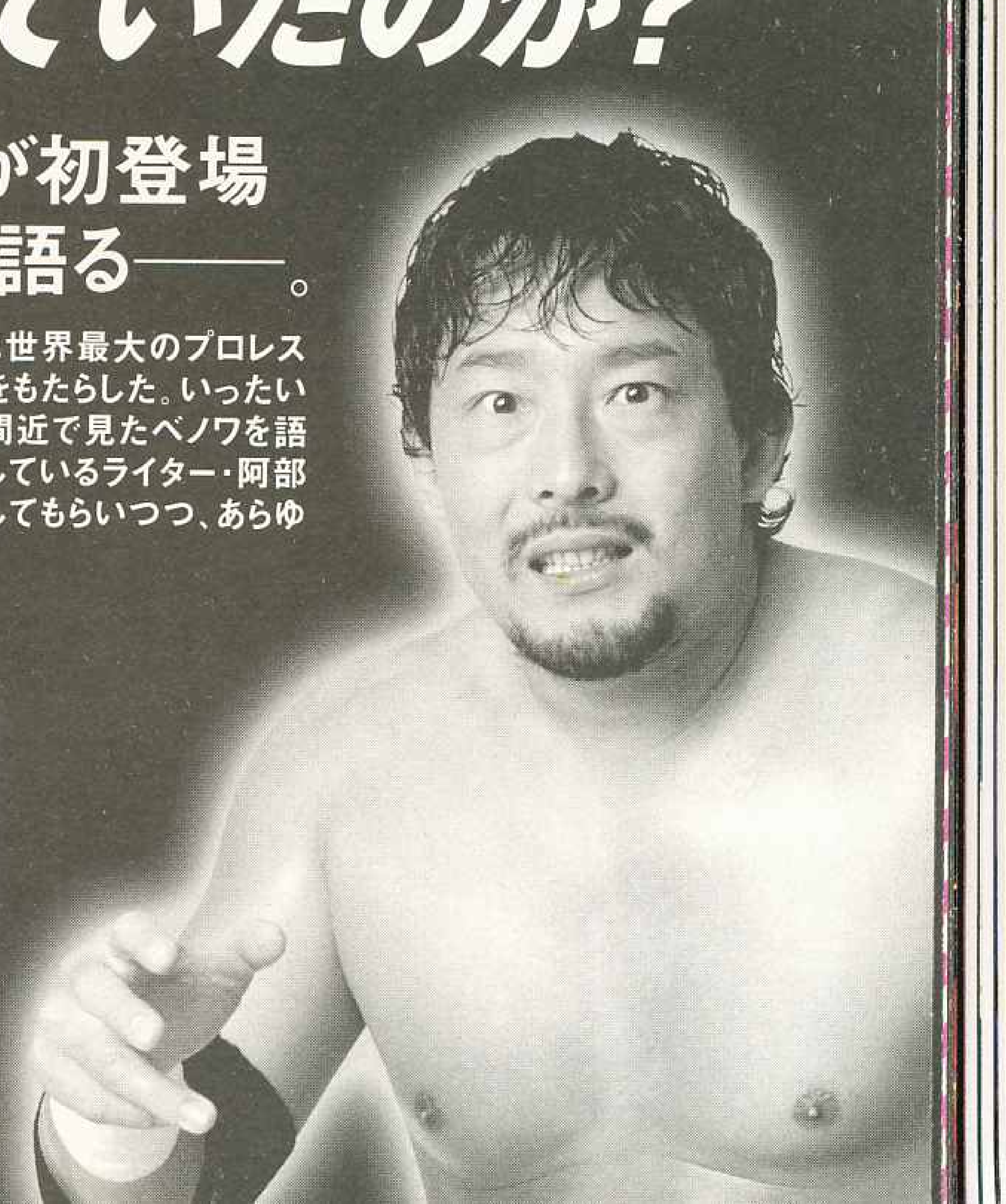
構成／坂井ノブ　写真／George Napolitano、平工幸雄

座談会出席者

TAJIRI
IWA JAPAN、大日本プロレス、ECW、WWEを渡り歩いたプロレスラー。現在はハッスルを主戦場としてさまざまな団体に出場中。ベノワと同時期にWWEで活躍していたこともあり非常にゆかりが深く、TAJIRIとベノワの試合からECW復活となった。

阿部タケシ
本誌でWWEを担当するライター。『デイリースポーツ』『WWEオフィシャルモバイルサイト』などでも活躍。今年、デトロイトで行なわれたWWEのパーティに参加し、あのリンダ・マクマホンと初遭遇。その美しさに思わず求愛するも「ピンスにバレたら、あなたは殺されるわよ」と言われた35歳。

坂井ノブ
本誌企画制作部。本誌のWWE担当。2004年3月、初めてアメリカで生観戦したのが、クリス・ベノワが戴冠し、それをエディ・ゲレロが祝福した『WRESTLEMANIA20』だったこともあり、今回の座談会に参加。



普段のあの人のことを悪く言う人は絶対にいないと思う（TAJIRI）

坂井ノブ（以下、ノブ）　この「語ろう」シリーズは、プロレスラーが亡くなったときや引退したときに、その功績をたたえようという企画なんですが……。

阿部タケシ（以下、阿部）　今回はホントにショッキングな事件だったので非常に気が重いですね。僕も第一報を聞いた瞬間に言葉を失なってしまいましたよ。

ノブ　そうですよねぇ。でも、気力を振り絞って、亡くなったベノワさんについて語り合いたいと思います。それで、今回は元WWEスーパースターのTAJIRIさんにもご参加いただいてます。

TAJIRI　よろしくお願いします。

阿部　まず、TAJIRIさんはどうやって第一報を聞かれたんですか？

TAJIRI　朝起きたらいろんな人からメールと着信が入ってたんで、何かがあったんだろうなぁと直感しましたね。

ノブ　ベノワさんってどんな存在でしたか？

TAJIRI　普段のあの人を悪く言う人は絶対にいないと思う。一緒にいてプロレスラーとして得るものも多かったけど、それ以上に人間的に得るものが多い人だったね。たとえば、そばに老人がいたら必ず道を譲るし、ドアのところで鉢合わせたら必ず自分が一歩下がるし。一緒にいると「俺はなんて悪い人間なんだ……」って思っちゃうような存在。

ノブ　とても道徳的な人だったわけですか。

TAJIRI　ただ、あの人は「自分はこうしないといけないからこうするんだ‼」って自分に課している感じだったのね。だから普通に生きてるだけで、エネルギーの消耗度は激しかったんじゃないかなぁ。

ノブ　トレーニングや試合では妥協のない厳しい人だったという逸話を聞きますけど、日常生活でも自分に厳しい人だったんですね。

阿部　TAJIRIさんが『週刊プロレス』で連載しているコラムでは「エディ（・ゲレロ）さんが亡くなったときとは違った感情があった」って書いてましたよね。

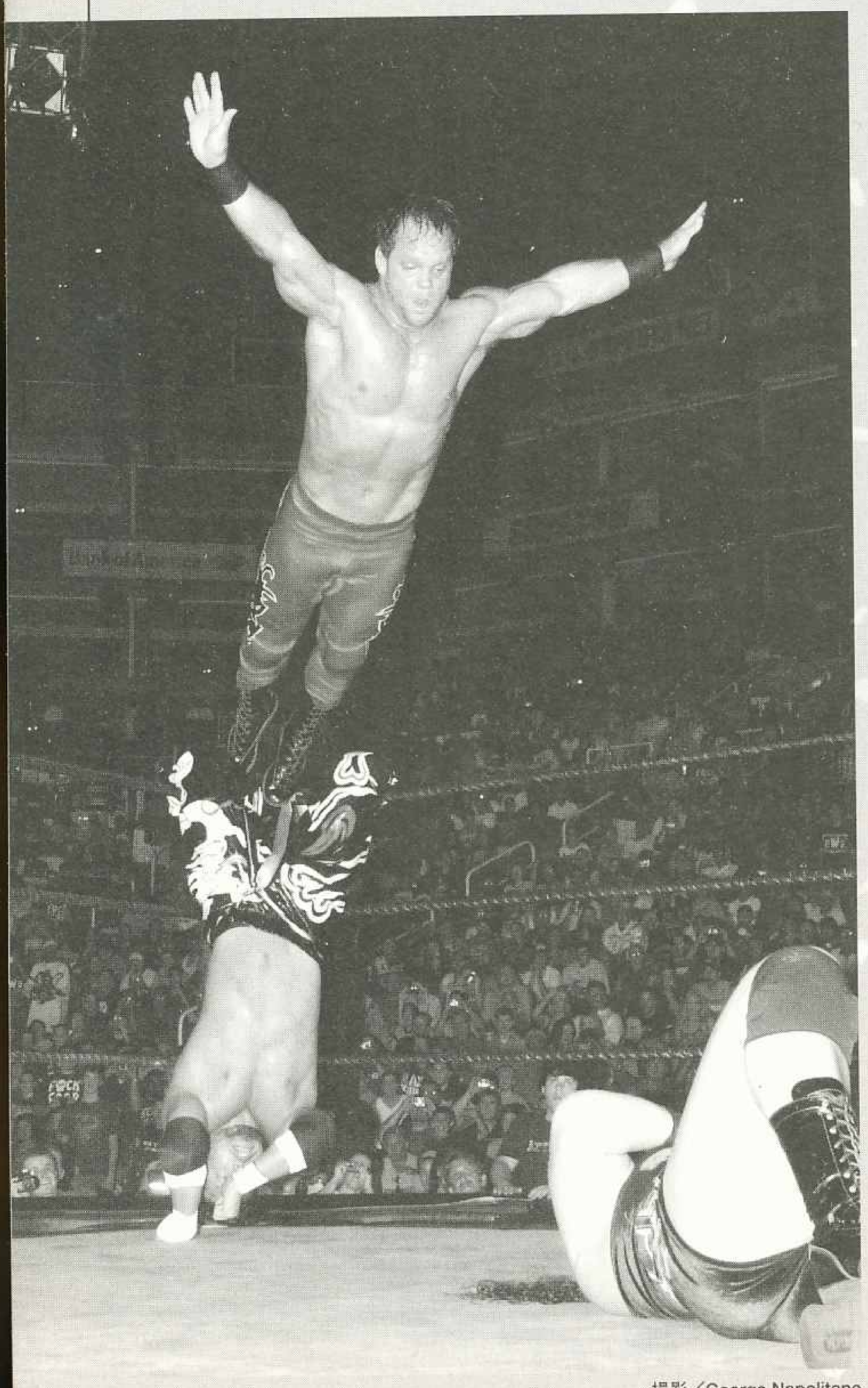
TAJIRI　エディさんとベノワさんはいつも一緒にいて仲が良かったんだけど、エディさんは孤高の人で、一方のベノワさんはもっと大衆的だったんだよね。二人のことを知らない人が見たら、「なんでこの二人が仲良しなんだろう？」って思うかもしれない。

阿部　〝陰〟と〝陽〟が作用していい関係だったんですかね。

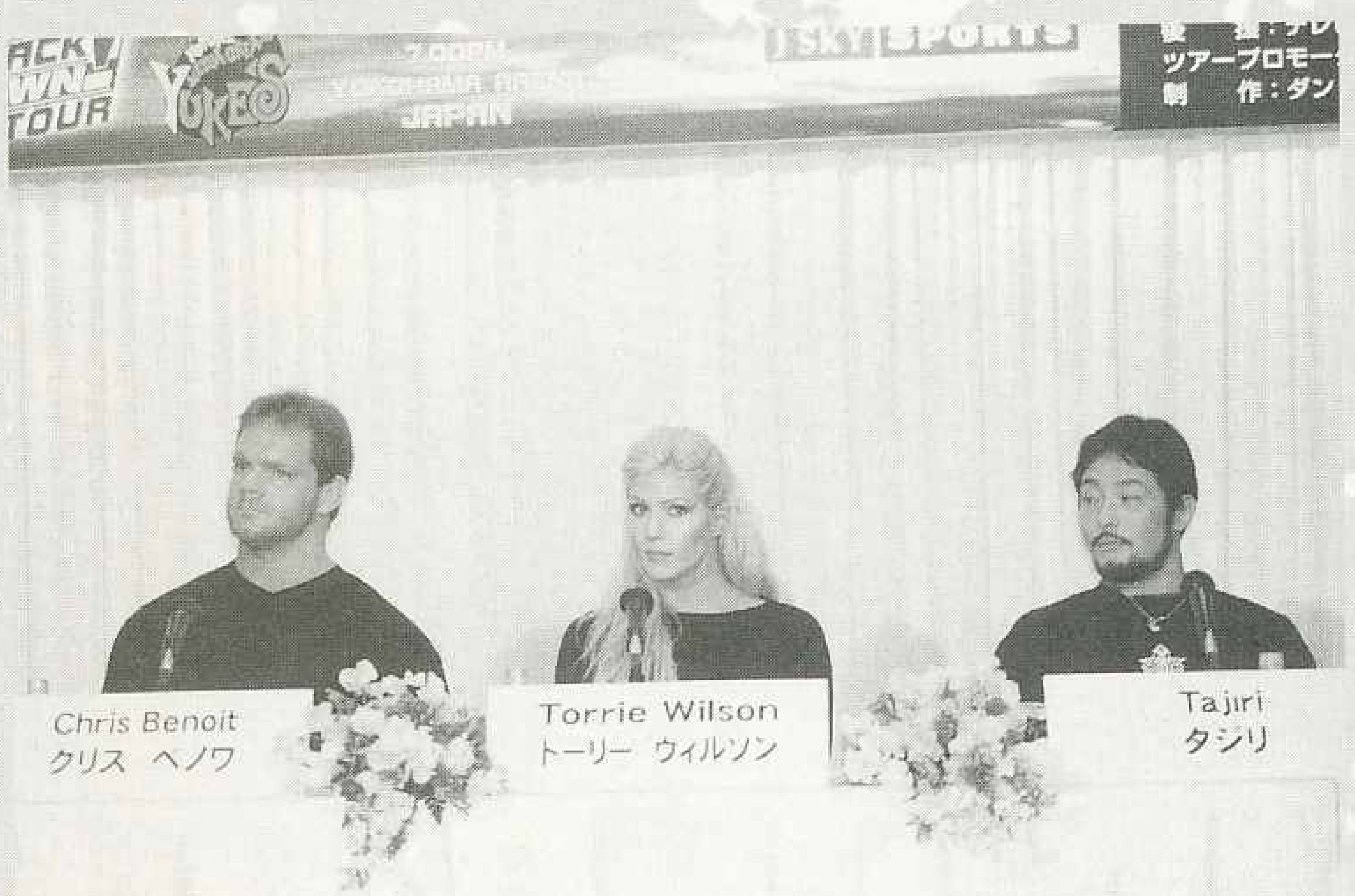
TAJIRI　そうそう。でも、どちらも自分から積極的にしゃべるタイプの人間じゃなかった。僕は一時期ずっと（ウィリアム・）リーガルとサーキットしてたけど、二人で食事をしてたら、同じ店にベノワさんとエディさんが入ってきたんで、しばらく見てたら、二人とも何も言わずに向かい合って座って黙々と食事をしてて、「うまい？」「ああ、うまいね」とか、会話もその程度なの。リーガルも「どうしたんでしょうねぇ？」なんて気にしてたけど（笑）。いま思えば、あのとき二人は目で会話してたのかもしれない。

阿部　あの二人は90年代の新日本プロレス時代からずっと一緒に闘ってきた仲だし、プロレスラーとしても人間としても共鳴してた部分は凄く大きいんでしょうねぇ。たとえて言うなら、漫才コンビなんかは顔を合

Chris Benoit



撮影／George Napolitano



ベノワとTAJIRIはWWEの来日会見で一緒になったこともある。もちろん試合でも何度となく闘っている。ベノワは「日本は第二の故郷だ」と語り、新日本プロレス道場出身の誇りを口にしていた。

過酷な移動も家庭に不安を抱える人には大きなストレスになると思う（ノブ）

わせても口もきかないけど、舞台に上がっちゃえば相手の考えてることが「あ・うん」の呼吸でわかるらしいですから。

TAJIRI　確かに『ハッスル』でもリング外のHGとRGはあまり絡んでないからね。むしろ、HGが積極的にRGを避けてる（笑）。

ノブ　そこまで仲の良かったエディさんが2年前に亡くなったことが、今回ベノワさんの一件に影響してるのかなとも思いますね。

阿部　エディさんが亡くなってしばらく経ってから、ベノワさんは長期欠場してた時期があるんですよ。「このまま引退しちゃうんじゃないか？」なんて言われてたんですけど、WWEでケガ以外での長期欠場は許されるんですか？

TAJIRI　ある一定のポジションにならないと、それは絶対に許されないでしょう。僕は子どもが生まれるときは一ヵ月間の休みをもらえたけど。

阿部　きっとWWEの選手の中には、子どもが生まれるときも立ち会えなければ、子どもが初めてしゃべるときも、立ち会うことができない人もいるんでしょうね。

ノブ　それは切ない話だなぁ。

TAJIRI　だからWWEの仕事って、心が「助けて〜！」って叫びだすぐらい、どこかに逃げだしたくなるぐらい過酷で……（しみじみ）。

阿部　そうやって選手がメンタル的に追い込まれたときは誰もケアしてくれないんですか？

TAJIRI　僕の場合はFUNAKIさんと話をすることで、お互いにケアするつもりはなくても、ストレスを発散してた部分はあるかもしれない。

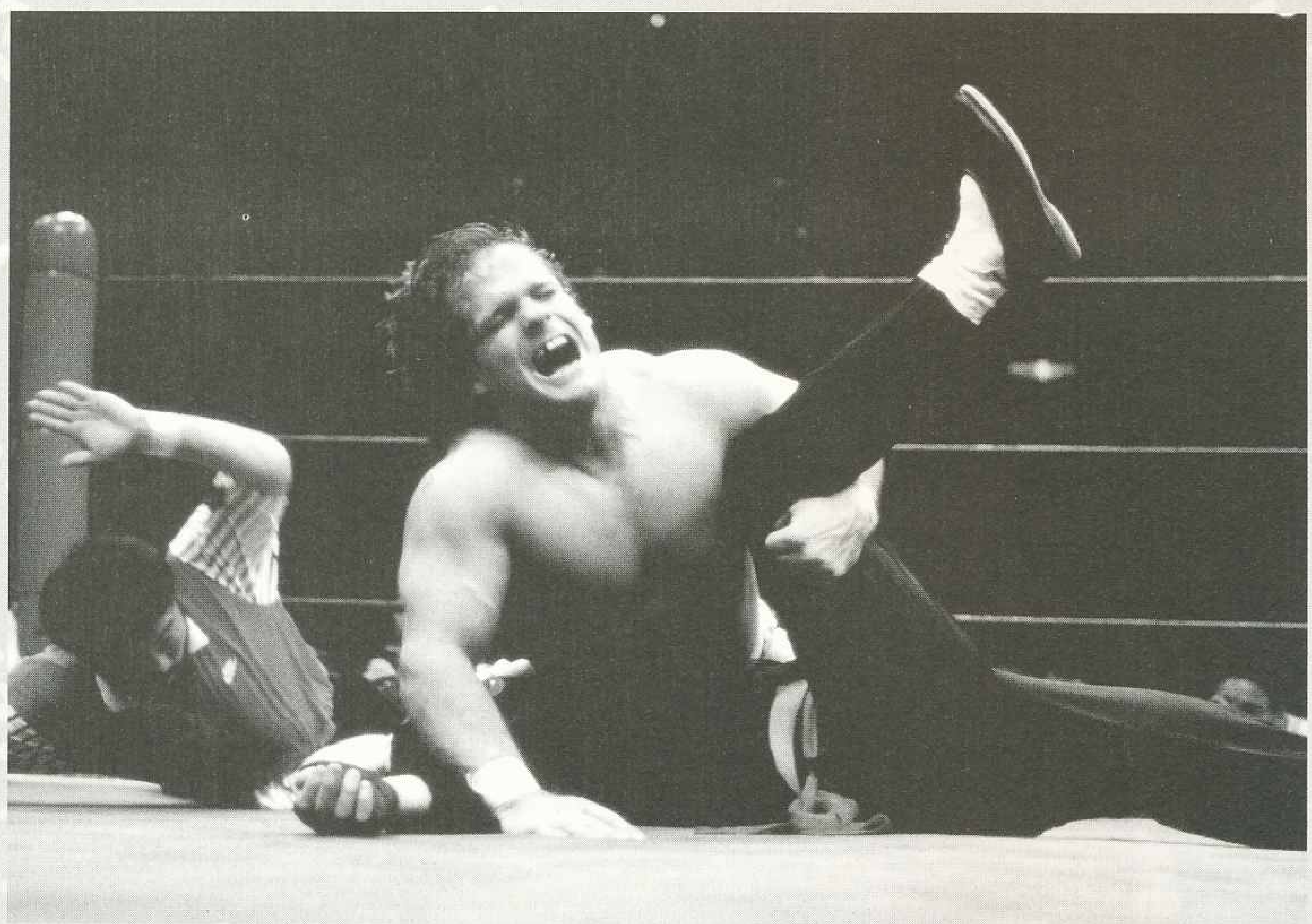
阿部　ベノワさんはWWEに対して不満を持ってたりしたんですか？

TAJIRI　いや、不平不満は一切言わない人だったね。

ノブ　でも、WWEって、リング上だけじゃなくて、会場移動も過酷なんですよね？　そうなると家庭に不安な要素を抱えている人は、それも大きなストレスになるだろうし。帰ったら帰ったで奥さんから「なんで家に帰ってこないのよ!?」みたいなことを言われるんでしょうし。

TAJIRI　そう！　家に帰ったら家族のプレッシャーとの闘いもあるんだよねぇ……（しみじみ）。こっちは世界中でプロレスやってるんだから、家に帰ってこられないことぐらいわかるだろ！　って叫びたくなる。

阿部　僕が以前、ベノワさんを取材したときに、テープを止めたあとで話してたことが凄く印象に残ってるんですよ。「休みはあるんですか？」って聞いたら、「〝休み〟なんて言葉はひさびさに言ったよ。それぐらい休んでない」って言ってました。「この業界で頂点に立っても続ける人もいれば、すぐに辞める人もいます。ベノワさんはどっちですか？」って聞いたら、「正直に言えば、この生活からは早く抜け出して家族と暮らしたいんだけど、会社が許してくれないんだよ」って言ってましたね。



1994年に新日本プロレスが主催した「スーパーJ-CUP」には団体の垣根を越えてジュニアの選手が大集結。ベノワはみちのくプロレスのザ・グレート・サスケを撃破して優勝した。撮影／平工幸雄

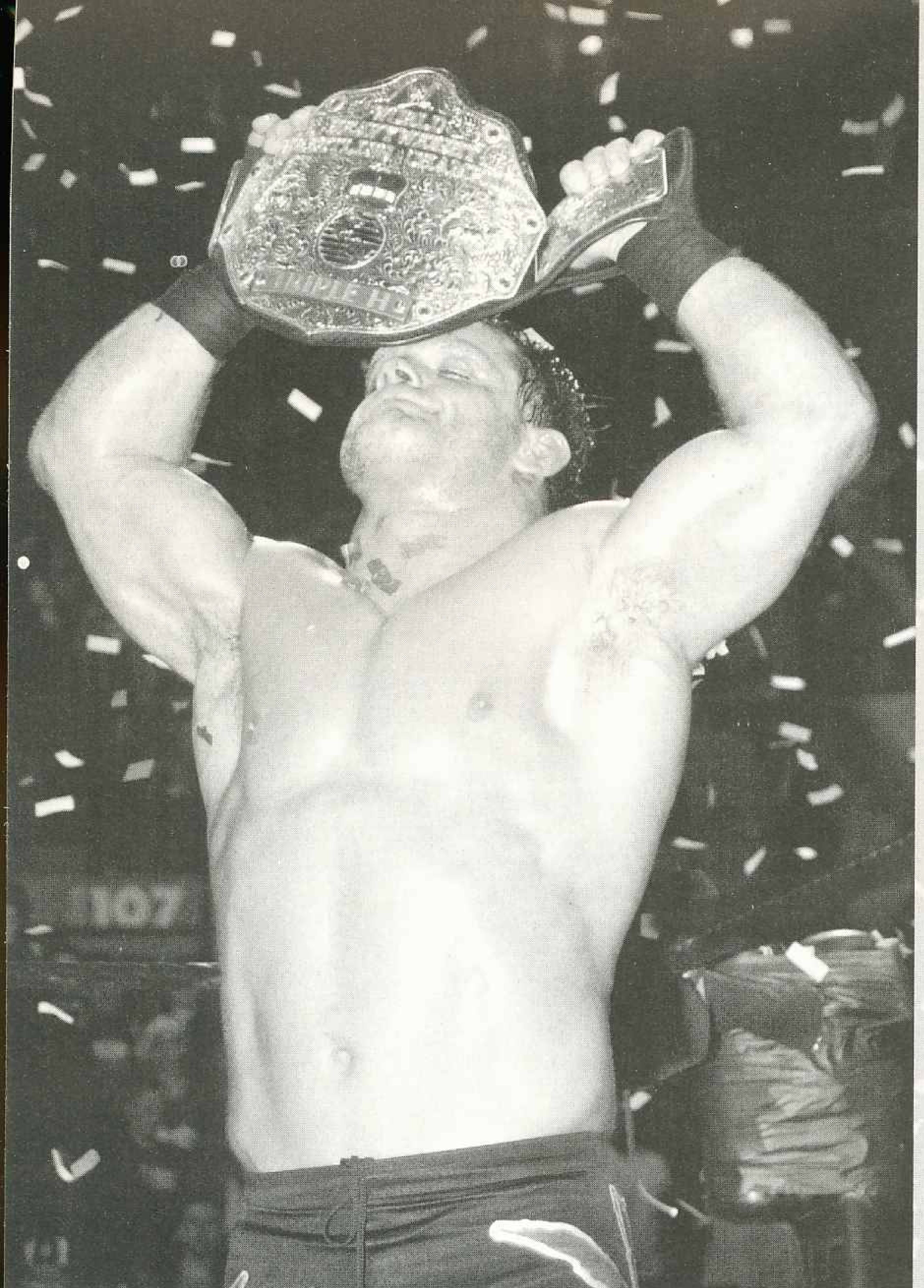
TAJIRI　あと、「（プロレスを辞めたあとに）何をやっていいかわからない」って言ってたよ。よくFUNAKIさんと、「ベノワさんって一人で中華料理屋を切り盛りしてるおじさんみたいな存在だね」って話してたなぁ。店を閉めてからダーッと一気に100枚ぐらい皿を洗ったあとにフーッとタバコを吹かしてるような、そんなイメージがベノワさんにあるんですけど（笑）。

ノブ　ああ、なんとなくわかります（笑）。誰も見てないところで、凄いテンションで皿を洗ってそうだなぁ。趣味とかそういうものもなかったんですかね。

TAJIRI　WWEの生活じゃ趣味なんか持てないからねぇ。移動中は本を読んでるわけでもなかったし、ゲームをやってる姿も見たことない。

ノブ　時間を惜しんでジムに行ってるようなイメージはありますよね。

TAJIRI　そうだね。どんなに時間のないときでも必ずジムを見つけて汗だくになってトレーニングをしてたなぁ。ジムが近くにないときは会場でスクワットを500回やったりして……。なんでここまでやるのかなっていうぐらい自分を追い込んでた。そうそう、ジムではエディさんと二人でずっと話し込んでる姿を見かけたなぁ。小さな声でずーっと話してたから、プロレスのことを話してたわけではないと思うんだけど。ひょっとしたら家庭のことを相談し



ていたのかもしれないし。エディさんが生きてたら、きっとこんな事件にはなってないんじゃないかな……。

阿部　やっぱりエディさんの死後、ベノワさんの中で何かが狂い始めたのかもしれませんね。ＴＡＪＩＲＩさんとは家族ぐるみでの付き合いをしてたんですか？

TAJIRI　家族が会場に来てるときは、お互いに顔を合わせたりしてたよ。ベノワさんはホントにしょっちゅう息子のダニーくんを会場に連れてきてたの。お父さんと同じように手首にテープを巻いて、リングに上がって一緒に準備運動やったり、でんぐり返しをさせてもらったり……、ダニーくんもレスラーになりたかったみたい。ダニーくんはお父さんのことが好きだし、ベノワさんも凄く子煩悩だったよね。二人ともそっくりで同じ顔をしてた。

阿部　今回、いろんなマスコミが息子さんの病気のことを書いていて、あたかも「ベノワさんはそれを苦に心中に至った」かのような報道になってるんですよ。でも、どうなんでしょうね？　個人的に言えば、そこは触っちゃいけなかった気がするんですよ。それが本当の理由か否かの決定的な真実はないわけだし。

Chris Benoit

2004年、世界最大のプロレスイベント『WRESTLEMANIA』20回目の記念すべき大会でメインイベントに出場、世界ヘビー級王座を奪取して世界の頂点をきわめた。
撮影／George Napolitano

エディさんの死後、ベノワさんの中で何かが狂ったのかもしれない（阿部）

ノブ　たぶん、息子さんの病気がクローズアップされたのは、事件から数日経って自宅からステロイドが発見されて、「ステロイドのせいだ！」っていうバッシングが一斉に始まったあとだったと思うんですよ。ＷＷＥとしては企業防衛が第一だから、ステロイドが事件の原因になったというバッシングの矛先をそらすためのスケープゴートとして息子さんの病気のことをリークした、という見方もできますよね。もちろん真相はわからないですけど。

阿部　今回のベノワさんの事件はＷＷＥ本編のストーリーにも影響が出てますよね。2週間前に爆死したはずのビンス・マクマホンが表舞台に出てきちゃったし、日本の放送ではビンス爆死のシーンが丸ごとカットされてましたから。

ノブ　あれだけ派手にやっておいて、なかったことになってるんですか⁉　それも凄い話だなぁ。

阿部　まあ、映画として観るか、作品として観るか、プロレスとして観るか、ＷＷＥの見方によって変わってくると思うんですけど、プロレスと死を並べて扱うのはやめたほうがいいんでしょう。最初は僕もビンスの乗ったリムジンが爆発炎上するシーンを観たときに「最高！」って大笑いしてたから、あんまり偉そうなことは言えないんですけど（笑）。

ノブ　番組のエンディングであいうショッキングな爆破シーンがあって、「え〜っ⁉　この先、どうなっちゃうの？」っていう興味の引き方は『24』とか『ＬＯＳＴ』のようなアメリカンドラマの手法と同じですよね。

TAJIRI　でも、ＷＷＥが映画と違うのは、その中核にリングの上で実際に命を懸けて闘っている者がいるって部分じゃないかな。だから、ああいうことはやっちゃいけないんだよ！　世界中で放送されてるＷＷＥが、死をああいうかたちで扱ったことで、目に見えない大きな歯車がゆっくり動き始めちゃったような、僕はそんな印象を受けたんだよね。

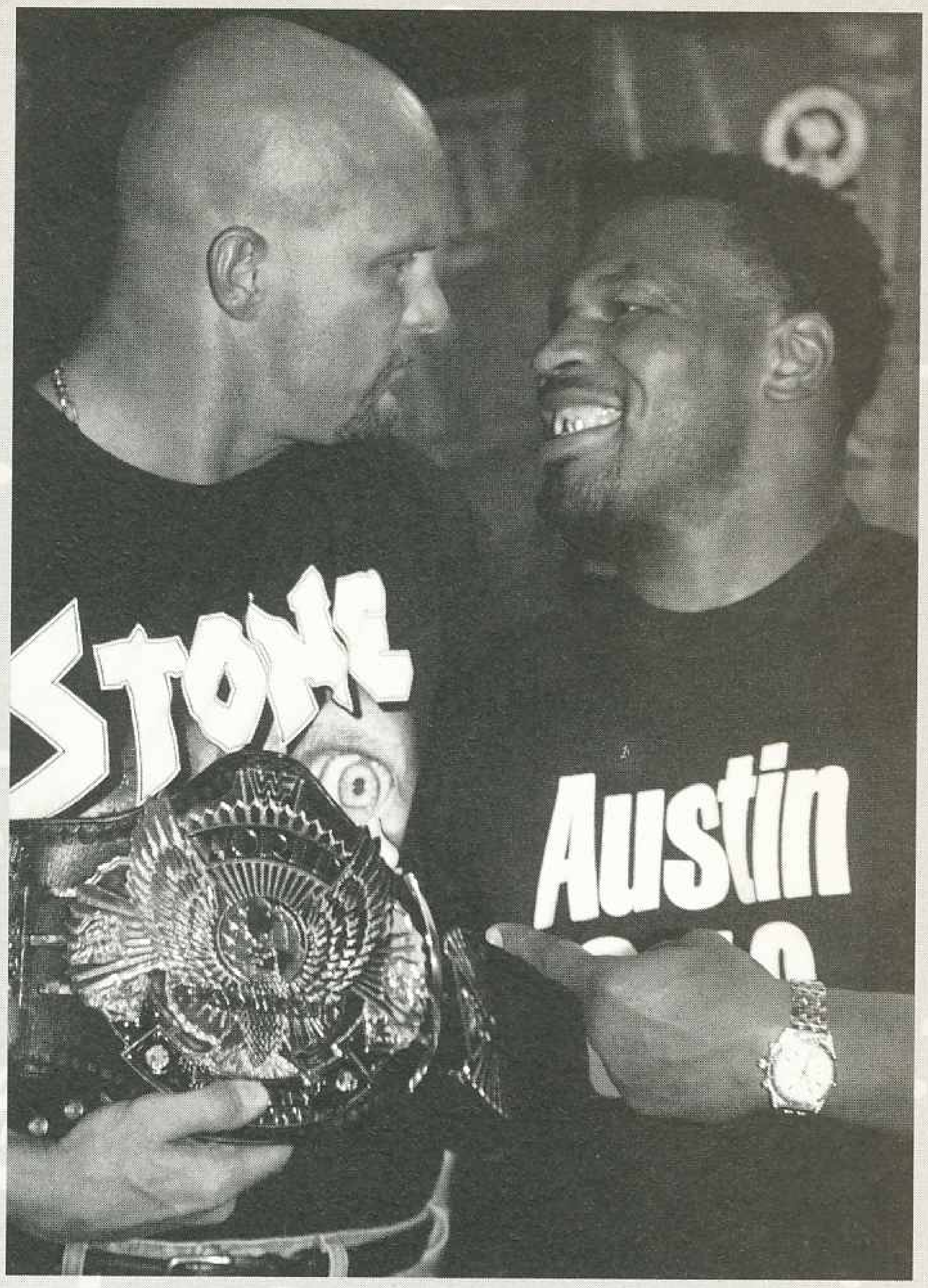
ノブ　なるほど。

TAJIRI　そういえば……、ベノワさんが亡くなる2週間前に「ベノワが死んだんですか？」ってどこかのテレビ局にファンからの問い合わせがあったっていう話、知ってる？

ノブ　えっ⁉　そんな話があるんですか？

TAJIRI　そんな電話があったらしいよ。こういう偉大な人に何かが起こるときって、得体の知れないことが起きるものなんだよね。あの世から誰かが電話をかけてきたんじゃないかなっていうぐらいの奇妙な出来事だよ。

決して家族のことをないがしろにしていた人ではないと思う（阿部）



センセーショナルな話題作りが功を奏してWWEはアメリカのプロレス界を完全に制圧したが、ストーンコールド（左）の時代が終わり、その代償が重くWWEにのしかかった。
撮影／George Napolitano

阿部　しかし、ビンスの爆死もどんなゴールを目指してたのか、よくわからないですよね。

TAJIRI　まさかビンスがIWA JAPANの浅野（起洲）社長みたいにダンボールの中から全裸で発見されたり、葬式中に棺桶の中から出てくるわけにはいかないからねぇ……。

ノブ　IWAは死を扱ったとしても、あそこの場合は悪霊すら寄りつかない目に見えない何かが作用してるような気がしますよね（笑）。

阿部　欲がないのがいいんでしょうね、IWAの場合は（笑）。でも、WWEの場合はさっそく翌日からコネチカット州スタンフォードのWWE本社に掲げてある社旗が半旗になってたし、10カウントゴングは鳴らすし、「1945〜2007 In memory of Mr.McMahon」ってビジョンに出しちゃうし。ビンス死去の一大キャンペーンになってましたよね。

TAJIRI　う〜ん……。ビンスがどんな気持ちであの爆破をやったのかわからないけど、軽い気持ちであれをやろうと決断したんだとしたら、ちょっとその神経は理解できないですね。

ノブ　考えられるのは、『RAW』を放送してるテレビ局や株主から「視聴率が稼げるストーリーを！」っていうプレッシャーがあったのかもしれないですよね。

TAJIRI　それはあるかもしれないなぁ。WWEは毎週2時間のドラマを制作してるわけだから、ライターや首脳陣を問近で見てるとホントに大変そうなんだよね。僕はWWEに5年ぐらい在籍してたけど、年を経るごとにどんどんキツくなってるのが目に見えてわかったから。昔だったらストーンコールドというスターを中心にストーリーを回していくことができたんだけど、いまはそういう存在がいない。だから、ライターにかかる負担は大きいと思うんだよね。

ノブ　となると、今回の爆死のように、より過激なストーリーや大仕掛けの演出で世間の注目を集めようという方向に流れていきますよね。

阿部　そもそもストーンコールドとビンスがやり合ってた頃って、オーエン・ハートの事故死（注／天井からワイヤーに吊られて降りてくるはずが転落してしまった）があって、大掛かりで危険な演出は自粛する方向になってたんです。WWE（当時はWWF）とライバル団体のWCWが月曜の夜に生放送番組をぶつけ合って視聴率競争をしてた時期だったんで、オーエンはその犠牲になったんだ、なんて声もありました。

ノブ　でも、01年3月に競争に敗れたWCWは崩壊しますよね？

阿部　そうするとライバル不在になって視聴率が低迷し始めたWWEが、今度は知恵を絞ってあれこれやろうとした結果がビンス爆死だったんじゃないかと思うんですよ。いままでも死ぬ寸前のことはいくつもやってるんですよね。DXのバスを爆破したり、ストーンコールドがひき逃げされたり、トリプルHの車を潰したり……。レフェリーのティム・ホワイトが負傷欠場で会社から干されて、アル中になった挙句ピストル自殺するっていう、あまりに唐突でワケがわからないストーリー（注／PPV『ARMAGEDDON 2005』）もありましたけど。

ノブ　はぁ、まったく意味がわからないなぁ。ストーリー上でビンス爆死があったから、ベノワさんの事件が起きたとは言いたくないですけど、とてつもなく因縁めいたものは感じますよね……。

TAJIRI　ベノワさんの最期は自殺だったけど、キリスト教では自殺って最大の罪なんでしょ？　そこを突っついていろんな人がベノワさんのことを非難してるけど、あれだけは西洋人の残念なところだなってしみじみ思ったね。

ノブ　一家心中や無理心中という概念自体がアメリカにはないらしいですね。ベノワさんのやったことを美化するつもりはないですけど、表面的にとらえると家族を殺して自殺した人という、背景が切り捨てられた単純なものに置き換えられてしまうわけですよね。

阿部　実際、アメリカではいろんな選手が自分のブログでベノワさんのことを批判してるんです。当初は追悼ムードだったWWEのホームページも、事件性が明るみになってくると手のひらを返したようにベノワさんの写真や動画が削除されていて。それは凄く残念だなと思いました。

TAJIRI　……起こってしまったことに対して、いいとか悪いとか言う資格なんて誰にもないはずなんだよ。いろんな選手がいろんなことを書いてベノワさんを批判してるみたいだけど、本来であればそんなことは絶対にやっちゃダメなのに！

阿部　僕がインタビューしたときに、「この職業をまっとうするためには一つだけじゃなく、いろんなものを犠牲にする必要がある。いまの僕にはプロレスしかできないから、休日や身体や家族も犠牲になっている。でも、それがあるからいまのクリス・ベノワがあるんだ。犠牲を補おうとしたらクリス・ベノワでなくなって

しまう」って言ってたんですよ。その言葉を思い出すと、決して家族のことをないがしろにしてた人ではないと思うんですよ。

ＴＡＪＩＲＩ　家族のことは凄く大事にしてたよ。今回のことはベノワさんがプロレスじゃなくて家族を選んだから、こういう結果になったんじゃないかと思うんだ。

阿部　家族を選んだ結果というと、クリス・ベノワというプロレスラーの地位を捨てても、家族を守ろうとしたということですか？

ＴＡＪＩＲＩ　うん。もし、仮に報道されてるようにダニーくんが病気だったとしたら、奥さんとベノワさんの仲が良くなかったとしたら、二人を殺して自殺することでベノワさんは永遠に時間を止めたかったのかもしれない。そうやって、家族を守ろうとしたのかもしれない。僕はそう思う。

阿部　つまり……、奥さんと息子さんを殺すことでしか、家族をいまの状態のままにしておけなかったということですか？

ＴＡＪＩＲＩ　そうじゃないかな。とにかく、かわいそうとしか言えないよ。責任感の強い人だったから、家族が置かれた状況に対して自分はなんらかの責任を示さなきゃいけないという強迫観念も凄く大きかったんじゃないかと思うんだよね。

ノブ　日本のプロレス界ではこういう家族の話は聞かないですよね。日本ならどこでも日帰りできるし、一年中ずっと巡業してる団体もないから、むしろ積極的に家に帰ろうとしないプロレスラーはいても、帰りたいのに帰れない選手ってあまりいないもんなぁ。

ＴＡＪＩＲＩ　まあ、ＷＷＥの場合は世界中でやってるからね。日本の場合は都内に住んでて後楽園ホール大会なのにホテルに泊まってる選手もいるけど（笑）。

ノブ　日本では「亭主元気で留守がいい」なんて言葉もありますから、そのへんは文化の違いもありますよね。

阿部　気になるのは、この事件がキッカケでＷＷＥは変化するのかどうかってことなんです。

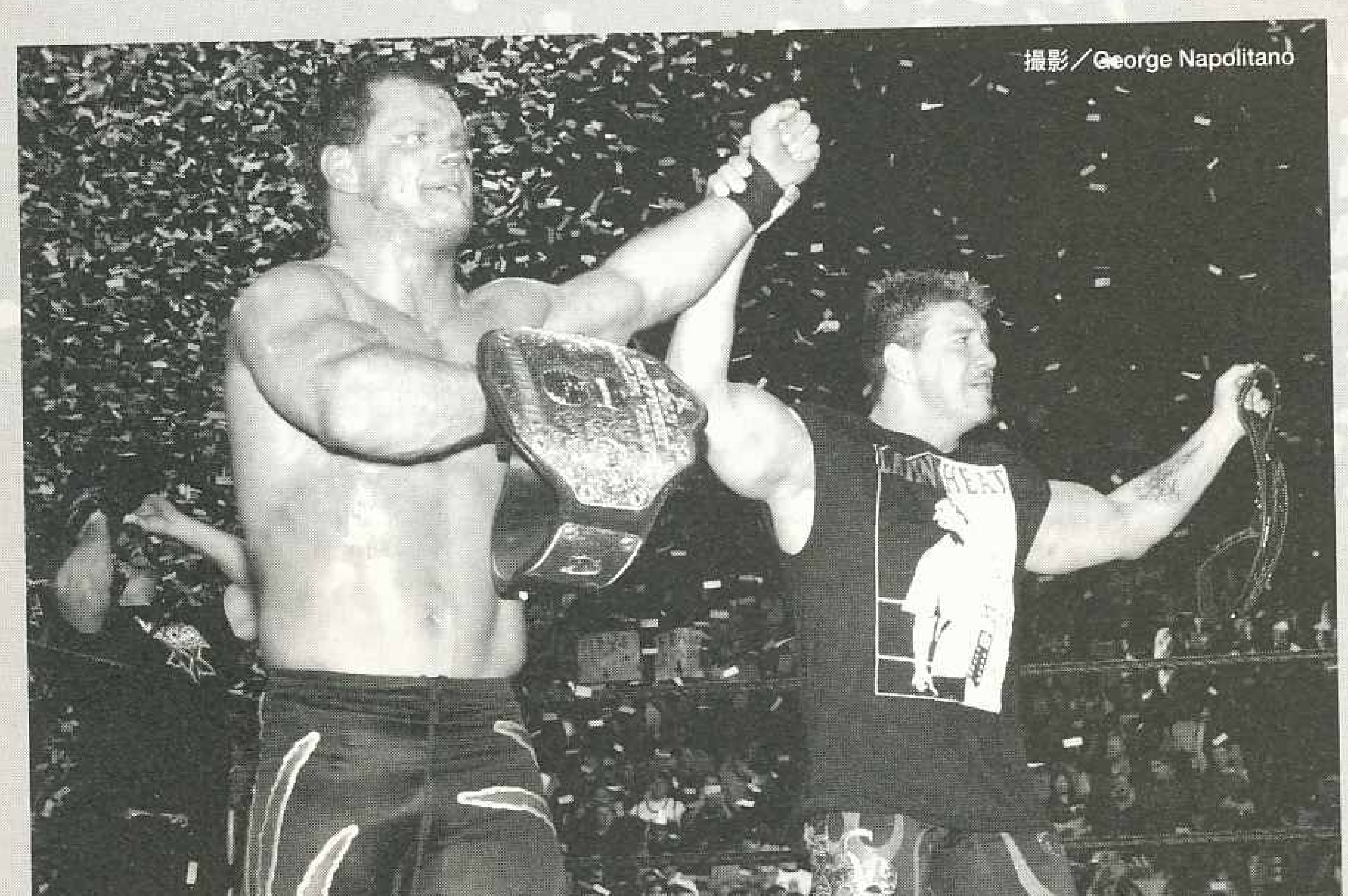
ＴＡＪＩＲＩ　それがねぇ……、ＷＷＥって何が起きてもまったく変わらないんだよね。そういうときは「個人ってなんて無力なんだろう」って思うよ。ストーンコールドが抜けたときも、ザ・ロックが抜けたときも、カート・アングルが抜けたときも、何も変化がなかったから。

ノブ　それが20年以上も変わらずに積み上げられたシステムであり、ビンスの強固な意志の産物なんでしょうね。

二人を殺して自殺することで時間を止めたかったのかなぁ（ＴＡＪＩＲＩ）

Chris Benoit

撮影／George Napolitano



撮影／平工幸雄



新日本時代、ＷＣＷ時代、そしてＷＷＥ時代と常に横に一緒に並んでいたのはエディ・ゲレロ（ブラック・タイガー）だった。上の写真は『WM20』のラストシーンだが、この二人がもうこの世にいないなんて……。

阿部　じゃあ、これから先、ベノワさんみたいなプロレスラーはまた出てきますかね？

ノブ　どうですかねぇ。最近、ベノワと同じカルガリー出身のレスラーがどんどん少なくなってるからなぁ。むしろ、こういう悲劇が起こる回数は増えてしまうんじゃないかという危惧のほうがデカいですね。

ＴＡＪＩＲＩ　普段のベノワさんと接してたら、絶対にこんなことをやるなんて思えないんだけど……、逆に言えばどんなにいい人でも、それがレスラーじゃなくても、こうなってしまう可能性はあるということだと思うんだよね。

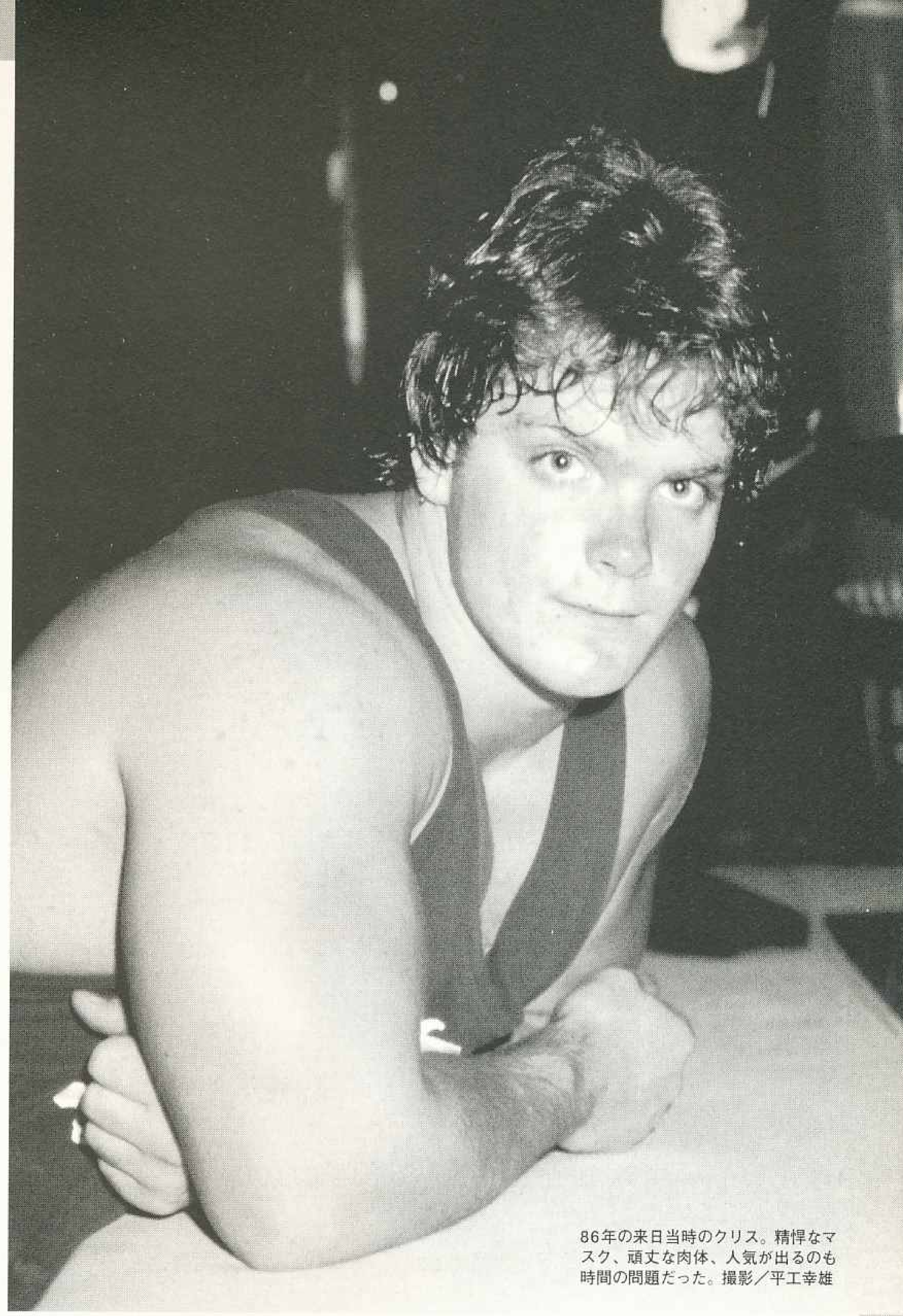
ノブ　あと、一部のレスラーは事件性の部分だけを懸念して追悼のコメントすら出してないですよ！　プロレスラーとして残した功績はとてつもなく偉大なはずなのに。

阿部　うん。歴史はＷＷＥのホームページみたいに簡単には抹消できないですからね。

ノブ　とにかく僕らは謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

【07年7月4日／『kamipro』編集部にて収録】

世界の頂点まで登り詰めたベノワの原点は野毛の新日本道場にあった！



86年の来日当時のクリス。精悍なマスク、頑丈な肉体、人気が出るのも時間の問題だった。撮影／平工幸雄

クリス・ベノワさんが新日本プロレスに留学生として来日したことはよく知られている。本人も「日本は第二の故郷」「日本が大好き」と繰り返し言っていた。では、その新日本留学時代のクリス・ベノワはどんな男だったのか？　マスコミ界で80〜90年代の新日本プロレスを最もよく知る男・金沢“GK”克彦が素顔のクリス・ベノワを綴る！

（携帯サイト『kamipro Hand』の連載コラム「プロレス村より愛をこめて」で6月29日に掲載された原稿を加筆・修正したものです）

一昨年の11月、エディ・ゲレロが急逝したのに続き、またも新日本プロレス育ちのスーパースターが亡くなった。クリス・ベノワ（本名＝クリストファー・マイケル・ベノワ、享年40）である。正直いって、エディのとき以上の衝撃。新聞報道によれば、ナンシー夫人（43歳）と息子ダニエル君（7歳）を手にかけたクリスが首吊り自殺。無理心中だという。

いまもって私は、その事実を信じることができないし、自分自身の中で消化することもできない状態でいる。

クリスと出会ったのは、いまからちょうど21年前の8月末だった。東京・港区の旧新日プロ事務所での記者会見の席に、突然二人の外国人が並んで現われた。2メートル、130キロの巨体を誇る男がダリル・ピーターソンで、少年の面影を残すマイケル・J・フォックス似（？）の小柄な男はクリス・ベノイと紹介された。これから新日本の野毛道場に留学生として入門し、デビューを目指すという。クリスのほうはすでに前年11月、スチュ・ハートのコーチを受け、カナダでデビュー済み。しかし、マスコミの注目は俄然、巨体のピーターソン（※のちにマックス・ペインに変身）へと向けられた。なんといっても、全米レスリング・ジュニア王者というアマレスの実績は大きい。同時期に、ビッグ・ジョン・テンタ（※テンタはカナダ・レスリング・ジュニア王者）が全日本入りしていたこともあり、何かと比較対照もされたのだ。二人はそのまま練習生として野毛の合宿所に住み込んだ。ところが、性格も態度も姿勢も、180度違っていた。ピーターソンは年齢も20代中盤に差しかかっており、本国には妻子を残していたし、当時にしては珍しくピアスをしていた。一方のクリスは19歳になったばかりで、とにかく真面目そのもの。たとえば道場の清掃にしても、ピーターソンは適当に切り上げてしまうのに、クリスは先輩レスラーの教えどおり隅から隅まで、きっちりとモップがけをしていた。そんなクリスに、これまた『週刊ファイト』の新弟子だった私は、つたない英語でミニ・インタビューを試みたことがある。

「日本の生活はどうですか？」

「ハイ、皆さん親切にしてくれるし、とても充実してます。トレーニングは聞いていたとおりにハードですね」

「チャンコは慣れましたか？」

「えっ？　ああ、チャンコスープですね？　とってもおいしいですよ」

「ガールフレンドはできたの？」

「いえ、それは……（※照れて赤くなる）」

「将来の目標とすべき、尊敬するレスラーを教えてください」

「ダイナマイト・キッド！　いや、ちょっと待ってください。訂正してもらえますか？　ミスター・アントニオ猪木ですね」

少しハニカミながら、一生懸命に答えてくれたクリス。ダイナマイト・キッドと即答しておいて、猪木に訂正するあたりは、仁義もよく心得ている。その数ヵ月後、私は二子玉川園・遊園地のバス停のベンチに座っているクリスを見かけた。同遊園地は野毛道場から近く、私のアパートからは徒歩5分とさらに近距離だ。クリスは制服姿の女子高生と並んで座っていた。はたして言葉は通じているのかどうか、恋人ムードが漂っているのにほとんど会話はない。まさに“純愛”という感じで、話しかけようと思ったがやめておいた。

クリスの日本デビュー戦は年明けの1・2後楽園ホール大会。相手は、ヤングライオンの船木優治（現・誠勝）だった。結果は15分フルタイム闘っての引き分け。試合後、船木はこう言った。「普段、一緒に練習しているから、できるのはわかっていたけど、とにかくパワーが凄い。ビックリしました。身体は小さいのに力の強さ、一発の重さはブッチャー（橋本）にも負けないですよ。これから何度も闘っていくと思うので楽しみ

追悼原稿

クリス・ベノワは新日本道場が生んだ 最高傑作である

文／金沢克彦（元『週刊ゴング』編集長）

ですね」。その言葉どおり、テクニックでは船木が上でも、パワーでは明らかにクリスが押していたのだ。ちなみに、その10日後に、蝶野戦（桐生大会）でデビューしたピーターソンは凄まじい急角度ジャーマン・スープレックスで蝶野を下している。しかし、見た目の派手さはピーターソンであっても、若さ、真面目さ、性格のよさ、練習熱心さで、将来的にクリスを推す声が徐々に高まってきたのも事実だった。

新日本留学を終えたクリスが来日外国人リストに乗ってガイジン軍として初来日（？）したときのリングネームは、ダイナマイト・クリスだった。しかし、本人は「まだダイナマイトを名乗る器ではない」と一度きりの来日で、その名前を返上。それ以降は、マスクマンのペガサス・キッドとして二代目ダイナマイト・キッドを目指すことになる。その後、ワイルド・ペガサスに昇格するもライガーとのマスク剥ぎマッチに敗れ素顔となる。しかしながら、93年の『トップ・オブ・ザ・スーパーJr.』に優勝、95年の『ベスト・オブ・ザ・スーパーJr.』にも優勝、もちろん、IWGPジュニアも巻いているし、なんといっても日本マット史上に残るジュニアの祭典、第1回『スーパーJカップ』（94年）に優勝して、世界一ハイレベルな日本ジュニア界の頂点に立ったのは特記すべき実績である。当時の長州現場監督も、ジュニア勢の名前を出すときは常に「ペガサス、ライガー、大谷……」という順番で、ペガサスの一番だけは不動であった。

当時の長州現場監督がジュニア勢の名前を出すとき、ペガサスの一番だけは不動であった

90年代後半からクリスの戦場は世界に広がった。ECW、WCWでも超売れっ子となったため、新日本マットに立つ機会も減少していった。ただ、クリス自身にはなんの変化もなかった。新日本のガイジン選手たちが新宿・京王プラザを常宿とする中、WCWのスター選手でありながら、クリスは野毛の合宿所で寝泊りしていた。寮生たちの空き部屋を間借りしていたのである。何のことはない、「合宿所にいれば、いつでも道場でトレーニングできるから」というのがその理由だった。周囲は驚いても、クリスにとってはあたりまえのことだったのだ。また、九州巡業の際に某体育館で観た光景。前半に組まれたクリスの試合内容はイマイチだった。クリスに原因があるわけではなく、相手がしょっぱかったのだ。その試合後、体育館の後方に試合コスチュームのままのクリスの姿があった。リング上の熱闘を見守りながら、黙々とスクワットを続ける。時間にして約40分間ほど、クリスはスクワットに没頭していた。納得のいかない試合への反省、あり余るエネルギー。そうするしか気持ちの収まりがつかなかったのだと思う。ただし、決してストイックなだけの男ではなかった。ファンには優しく接していたし、とくにちびっ子ファンのサインや記念撮影のリクエストには、常に笑顔で応じていた。

00年、WWEに移籍したクリスは04年3月、ついに世界ヘビー級王座を奪取して頂点に登り詰めた。その傍らに親友のエディが寄り添っていたことは言うまでもない。また、05年11月、経営危機に陥った新日本がユークスに身売り身売りした際、WWE日本公演で来日していたクリスは「俺の故郷の新日本がなぜそんな！」と絶句した。彼は日本と新日本が大好きだったのだ。実際に今年の『G1』か、10月の両国大会に来日予定もあったという。クリス自身が「35周年のお祝いに新日本に上がりたい」と希望していたのだ。口下手だが、ストイックな努力家で、リング上では常にベストファイトを披露するクリスをリスペクトする選手は数多かった。そんなクリスの一本気ぶりを如実に示す出来事がある。かつてケビン・サリバン夫人だったディーバのウーマン（ナンシー）との再婚である。これはもともと、WCWのリング上でのストーリーで、クリスによる〝略奪愛〟という図式。ところが、それがプライベートでも同時進行して、クリスは本当にナンシーさんと結婚した。この真っすぐさも、何かクリスらしいと思う。


当時の新日本ジュニア戦線は世界最高レベルだったことは、のちにベノワとエディが世界の頂点を極めたことで証明されたと言っていいだろう。撮影／平工幸雄

私には忘れられない試合がある。95年7月4日、青森市民体育館。ノーテレビで行なわれた『スーパーJr.』公式戦のワイルド・ペガサスvsブラック・タイガー（エディ・ゲレロ）はジュニア史上最高の闘いとなった。おとなしい東北のファンからスタンディング・オベーションが起こり、私も思わず立ち上がって拍手を送った。あの興奮と感動を超えるジュニアの試合にはいまだ出会ったことがない。

私の中に息づくクリス・ベノワは人間的にも、プロレスラーとしても新日本の野毛道場が生んだ最高傑作なのである。

kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ!
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!



吉田豪セメント
インタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の
最濃傑作!

★ストロング小林★田代まさし★猪木快守★イーデス・ハンソン★阿修羅原★鶴見五郎★サムソン・クツワダ★康芳夫★倉持隆夫★田中健一★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー——数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)



夕焼けがよく似合う
人生のガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる
凄玉たちの
壮絶インタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武志★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる——!! プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、『kamipro』誌上にて掲載されてきた、濃厚インタビューから特別厳選収録!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)



"殺し"文句が
プロレス心を熱く打つ!
"活字プロレスの哲人"
井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★殺しのI語録★アントニオ猪木★水道橋博士★金沢克彦★井上義啓・姪★モンターニャ・シウバ

多くの"プロレス者"に影響を与えた"I編集長"こと井上義啓氏の追悼本!! 幻の喫茶店トークから、涙なくしては読めない病床のエピソードまで……。プロレスという"底が丸見えの底なし沼"に浸かり続いた男の凄味を感じろ!!

B6変型判　304ページ
定価=1,680円(本体1,600+税)

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表) [通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

<RADICAL特選劇場>
ハッスルするんや! ノゲイラ×OH砲対談2連発!!

no.76 橋本×ノゲイラ対談



no.48 小川×ノゲイラ対談



●いまやUFCに闘いの舞台を移した“柔術マジシャン”ノゲイラだが、じつはNo.76では、「おまえ兄弟いるだろ！」「マルシア知ってるか？」とブチかます破壊王とノゲイラのトンデモ対談が実現していた！ この対談ではノゲイラのパパが破壊王似であることが発覚、さらに夜の六本木の課外活動話で意気投合！ 最後はトルネード・ハッスルポーズを伝授！ その奇跡ぶりを確かめろ！

●さらにNo.48では、なんと小川直也との“夢の編隊飛行対談”も実現！ いまだ直接対戦のない両者だが、この対談では当時、“ノゲラー”を自称していた小池栄子争奪戦をなぜかブチ上げるなど、これまた奇跡的な盛り上がりを見せているから、ぜひチェックしていただきたい。



“破壊王×ノゲイラ”
奇跡爆発のトンデモ対談は
RADICALで読める!!

『紙の破壊王』第1弾
(エンターブレイン刊)
にも収録!!

注 NO.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797
販売元 ㈱ダブルクロス　平日 13:00〜1[illegible]:00

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERは すべて50%OFF

特集 神秘とは何か?
no.14　780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15　780yen⇒390yen
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17　780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16〜87

格闘ノストラダムス!
no.16　780yen　'99.03
[表紙：エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／石川孝司

“新”プロレスとは何か?
no.32　840yen　'00.10
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34　840yen　'01.01
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ＆オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35　840yen　'01.02
[表紙：サクマシン (イラスト)] ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36　840yen　'01.02
[表紙：橋本真也 (イラスト)] ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン──ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か?
no.38　840yen　'01.05
[表紙：髙田延彦 (イラスト)] 忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39　840yen　'01.06
[表紙：前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40　880yen　'01.07
[表紙：アントニオ猪木] 蘇れ！ Uインター＆キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎

“最後の黒船”WWF来襲!!
no.41　880yen　'01.08
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42　880yen　'01.09
[表紙：アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／“ヒャッホーの真実”辻よしなり／高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43　880yen　'01.10
[表紙：桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44　880yen　'01.11
[表紙：桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々！ シーザー武志／怪物伝承対談！ 高山善廣＆杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45　880yen　'01.12
[表紙：アントニオ猪木 (ホームレス姿)] 悪魔の書、現る！ ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46　880yen　'02.01
[表紙：田村潔司] さらばリングス！ 金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利！エル・カネック／キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47　880yen　'02.02
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] “天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！／噂の馳浩がミスター高橋本を語る！

桜庭、満開の日は近い!
no.48　880yen　'02.03
[表紙：桜庭和志] 奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vs ノゲイラ＆スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に！ 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49　880yen　'02.04
[表紙：ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談！ 高山＆金原＆和田／菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50　880yen　'02.05
[表紙：桜庭和志]「地方発世界」開始！ 小川＆橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁！

揺るぎなきプロレスの確立
no.51　880yen　'02.06
[表紙：橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子／武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52　880yen　'02.07
[表紙：橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53　880yen　'02.08
[表紙：桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54　880yen　'02.08
[表紙：アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] “首の皮一枚”ホイス＆エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55　880yen　'02.10
[表紙：髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白！／金原が『PRIDE』参戦！／メガトン級の男、ボブ・サップ！

驚ガクの6周年記念号
no.57　840yen　'02.11
[表紙：高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる“U”が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58　880yen　'03.01
[表紙：武藤敬司＆船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59　880yen　'03.02
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60　880yen　'03.03
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61　880yen　'03.04
[表紙：橋本真也＆小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62　880yen　'03.05
[表紙：ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場！ 佐々木健介／現役復帰？ 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断！

マット界、超絶リボーン!!
no.63　880yen　'03.06
[表紙：橋本真也＆小川直也 (イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂！ 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64　900yen　'03.07
[表紙：桜庭和志] “異次元格闘技戦戦”田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65　880yen　'03.08
[表紙：ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上！ ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66　880yen　'03.09
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場！／『東スポとは何か？』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67　880yen　'03.10
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー！ ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68　880yen　'03.11
[表紙：髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69　900yen　'03.12
[表紙：橋本＆小川] 出てこい！ 泣き虫！ 橋本＆小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場！／田村潔司／美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70　880yen　'04.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告！／健介＆北斗WJの真実を語る！／紙プロ大賞＆語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71　880yen　'04.02
[表紙：ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ＆ノゲイラ／川田利明初登場！／猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72　840yen　'04.03
[表紙：ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73　880yen　'04.04
[表紙：小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74　880yen　'04.05
[表紙：小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75　880yen　'04.06
[表紙：小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也／奇蹟の独占インタビュー！ 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76　880yen　'04.07
[表紙：桜庭和志] 小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77　880yen　'04.08
[表紙：小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78　840yen　'04.09
[表紙：小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79　840yen　'04.09
[表紙：髙田総統] キャプテンに休息無し！ 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か？』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80　880yen　'04.10
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81　880yen　'04.10
[表紙：桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ／新日本でハッスル成功！ 小川直也／草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82　890yen　'04.12
[表紙：桜庭和志] “道場破り”の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露！ 永島勝司×ターザン山本！×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83　880yen　'05.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表！ 小川直也／橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84　880yen　'05.02
[表紙：セルゲイ・ハリトーノフ] “殺人落下傘”が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85　860yen　'05.04
[表紙：前田日明＆髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田／パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86　860yen　'05.04
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会！ 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87　860yen　'05.05
[表紙：吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法

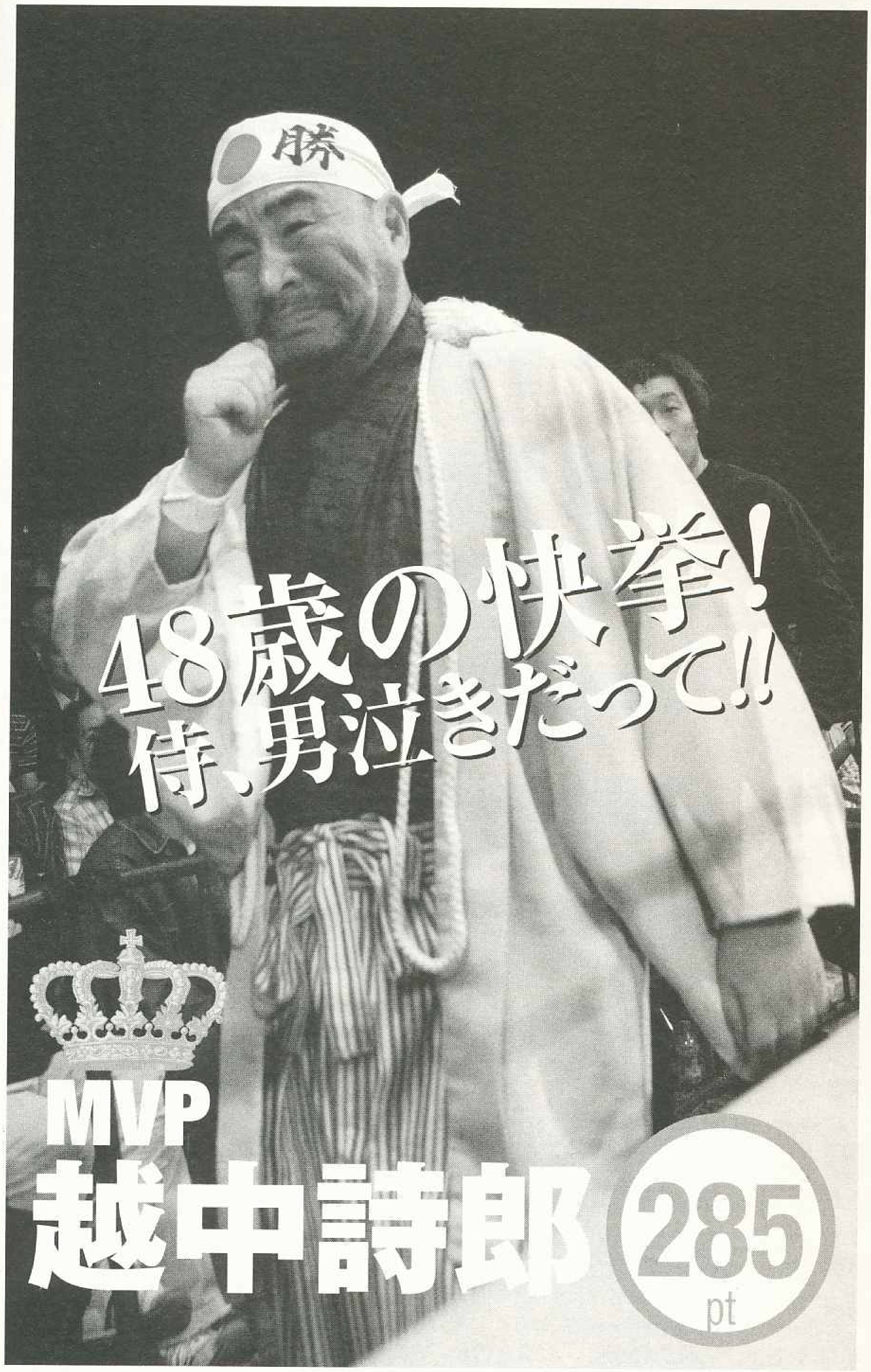
『kamipro』読者、『kamipro Hand』ユーザーが選ぶ

kamipro大賞

2007上半期発表!!

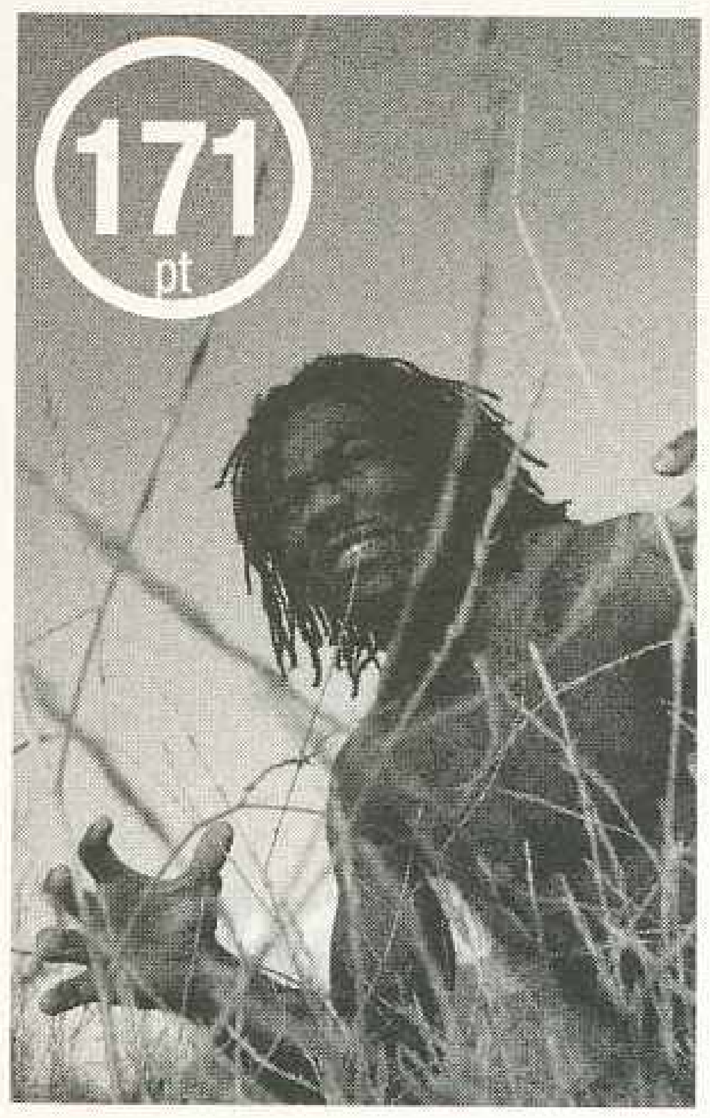
今年も早いもので後半戦に突入。ということで、恒例のkamipro大賞上半期集計結果を発表!『kamipro』読者ハガキと『kamipro Hand』のアンケート結果を合わせた集計はご覧のとおり。『PRIDE』のオーナー交代という激動のこの半年、ファンの支持を集めたのは、あの男だって!!

構成／堀江ガンツ

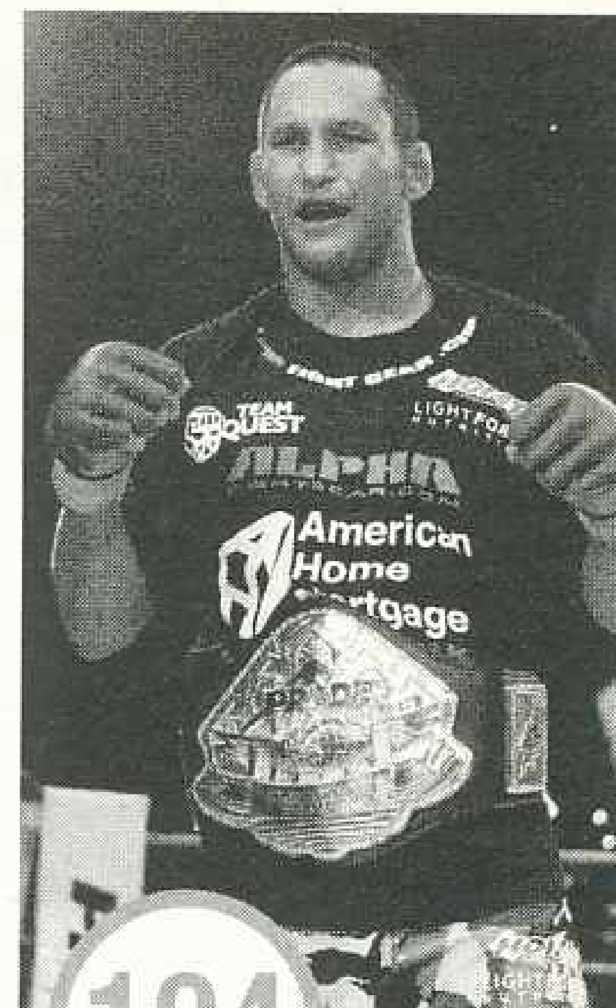


48歳の快挙！ 侍、男泣きだって!!

MVP 越中詩郎 285pt



2nd ソクジュ 171pt



3rd ダン・ヘンダーソン 104pt



4th 榊原信行 75pt



5th Q・"ランペイジ"・ジャクソン 48pt



6th 青木真也 39pt



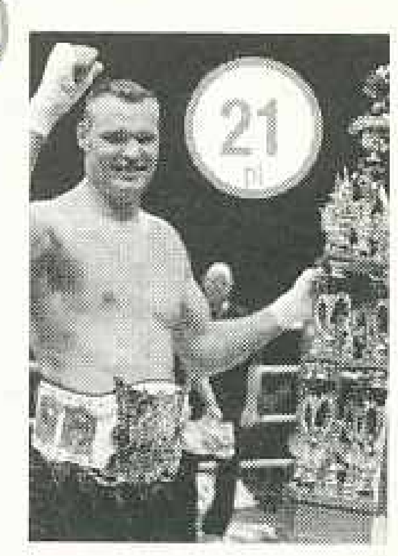
7th 田村潔司 32pt



8th マイティ・モー 27pt

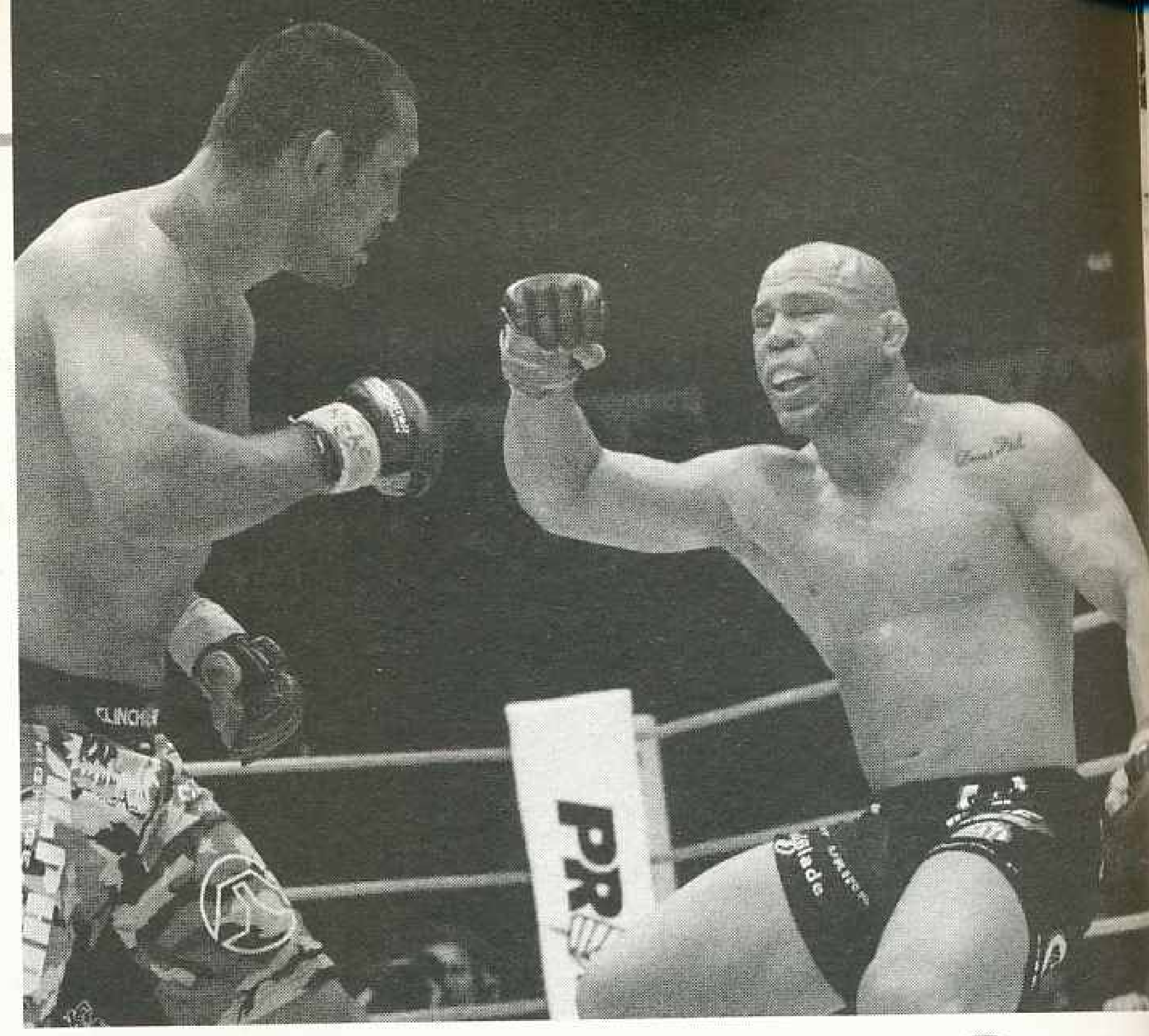


9th 桜庭和志 25pt



10th セーム・シュルト 21pt

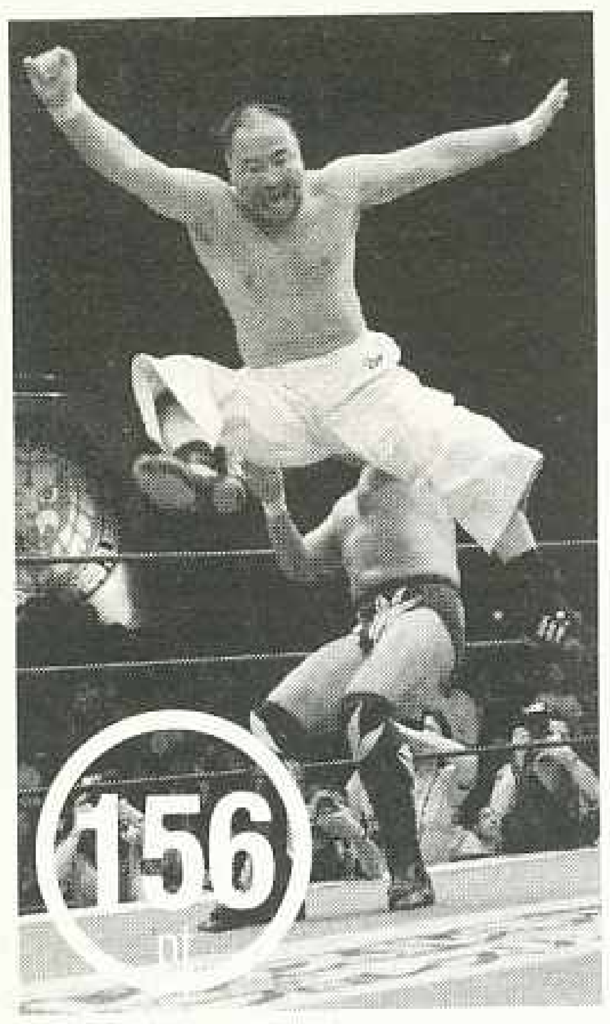
2007年上半期MVPは、侍・越中詩郎! 『アメトーーク!』で突如人気爆発した越中が48歳にして、初のkamipro大賞の栄誉に輝いた。この勢いで、年間MVPもいただきだって!! 惜しくも2位だったのは、アフリカ人初のPRIDEファイター、ソクジュ! 「ホジェリオはキリンより弱い」の名言とともにデビューしたこの田舎者は、PRIDEの明るい未来になるはずだったが……。また、あまたの格闘家を押しのけて榊原代表がなんと4位に登場。10年間ご苦労さまでした。そして下半期こそ、PRIDE復活してくれ!



BEST BOUT

1st ヴァンダレイ・シウバ vs ダン・ヘンダーソン 164pt

(2.24『PRIDE.33』　米国ラスベガス・トーマス&マックセンター)

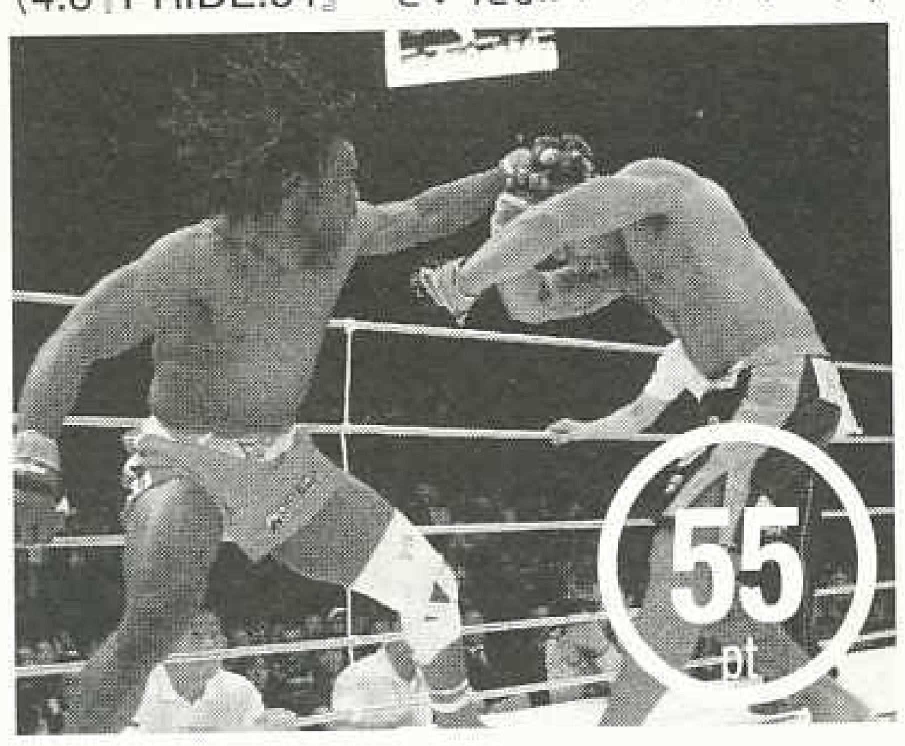


2nd 永田裕志 vs 越中詩郎 156pt

(5・2新日本プロレス　後楽園ホール)

3rd ソクジュ vs ヒカルド・アローナ 55pt

(4.8『PRIDE.34』　さいたまスーパーアリーナ)



4th ミルコ・クロコップ vs ガブリエル・ゴンザガ 48pt

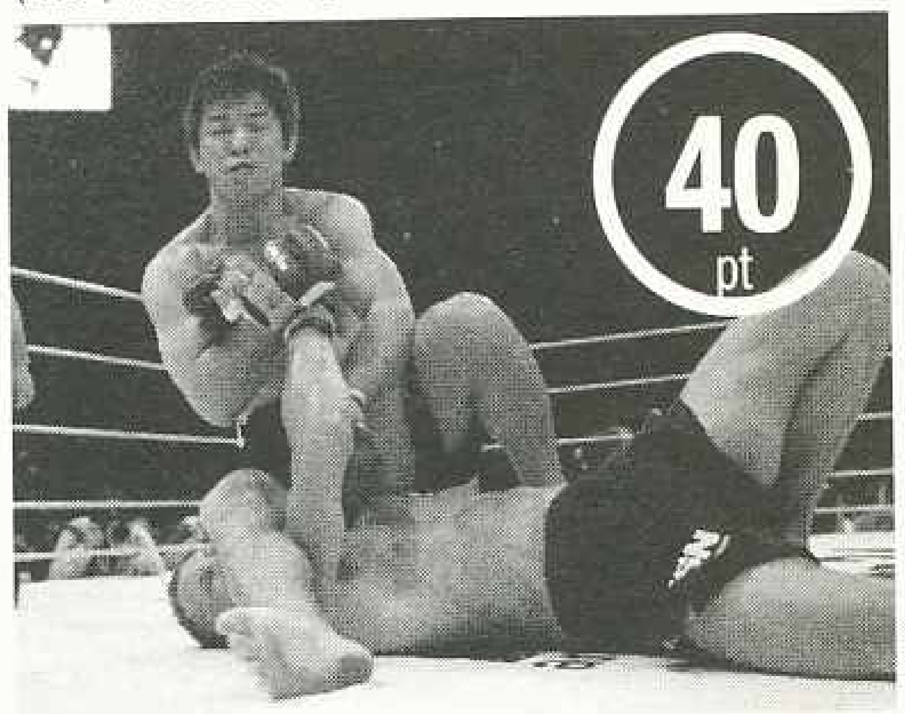
(4.20『UFC70』　英国マンチェスター・MENアリーナ)



©Josh Hedges/UFC

5th 瀧本誠 vs ゼルグ"弁慶"ガレシック 40pt

(4.8『PRIDE.34』　さいたまスーパーアリーナ)



6th 五味隆典 vs ニック・ディアス 31pt
(2.24『PRIDE.33』　米国ラスベガス・トーマス&マックセンター)

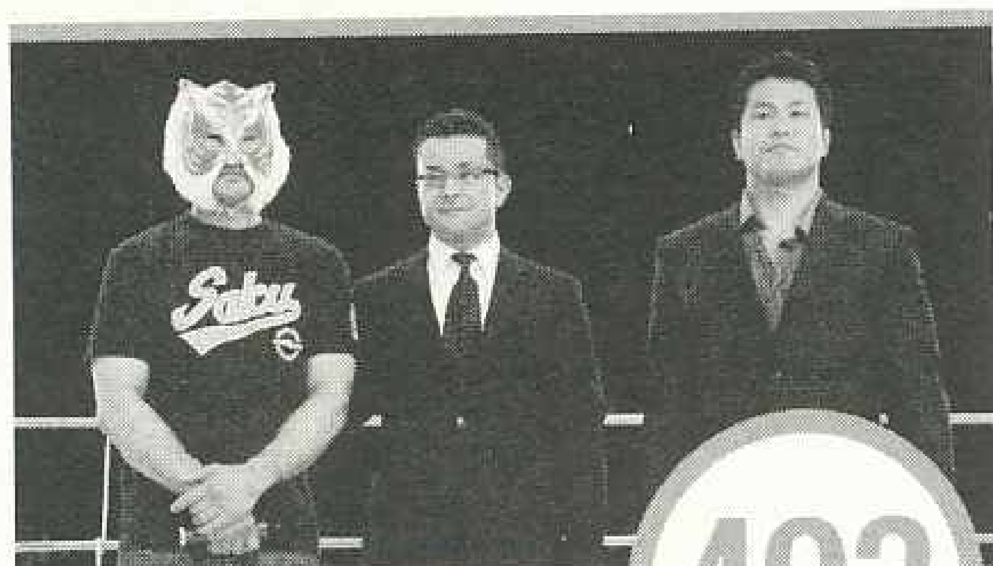
7th ルスラン・カラエフ vs バダ・ハリ 28pt
(3.15 K-1WORLD GP IN YOKOHAMA　横浜アリーナ)

8th ユン・ドンシク vs メルヴィン・マヌーフ 25pt
(6.2『Dynamite!! USA』　米国ロサンゼルス・メモリアム・コロシアム)

9th HG&RG vs 天龍&川田 17pt
(4.20『ハッスル22』　大阪府立体育会館)

10th マッスル坂井 vs 鈴木みのる 14pt
(5.4『マッスルハウス4』　後楽園ホール)

絶対王者シウバがダンヘンに敗れ、ついにPRIDEミドル級王座を明け渡した一戦が1位。ラスベガスでの一戦がトップに輝くのも、MMAが完全にワールドワイドとなった2007年を象徴していると言えるだろう。2位はここでも越中が登場。"聖地"後楽園ホールを異常興奮に包んだIWGP戦が、多くの"隠れコシナカン"のハートを鷲づかみにしたようだ。4位にはミルコ衝撃の敗戦がランクイン。ついにUFCの試合がトップ5に登場。下半期はさらにこの流れは顕著となるか。MMAに混じってHG&RGやマッスルの試合がトップ10入りしたことも見逃せない。



BEST SHOW

1st 4.8『PRIDE.34』 493pt

(さいたまスーパーアリーナ)

2nd 2.24『PRIDE.33』 221pt
(米国ラスベガス・トーマス&マックセンター)

3rd 5.2 新日本プロレス 39pt
(後楽園ホール)

4th 6.17 ハッスル・エイド2007 27pt
(さいたまスーパーアリーナ)

5th 5.4 マッスルハウス4 25pt
(後楽園ホール)

ベスト興行部門でぶっちぎりの1位に輝いたのは、"DSE体制最後の夜"4.8『PRIDE.34』! 全試合が一本決着の好勝負連発に加え、夢の桜庭&田村の揃い踏みまで実現したことに、「うわ～ん、サク、田村、バラさん、ありがと～!」と、客席みんな号泣の『プロスタ』状態となったことは記憶に新しい。また、越中ブームはベスト興行部門にも波及。なんと新日本の後楽園大会が3位に入った。また、ここでもハッスルとマッスルの健闘が光る。



WORST FIGHTER

1st ボブ・サップ 340pt
2nd ホイス・グレイシー 85pt
3rd 小川直也 52pt
4th 秋山成勲 39pt
5th TBS 33pt

このコーナーの常連、我らがビースト、ボブ・サップが恥ずかしながら帰ってまいりました。1年間の沈黙を経て、復帰即2部門制覇とはさすがビースト。下半期のさらなる活躍に期待したいが、はたして次はあるのか? それにしても、約5万4000人もの大観衆が詰めかけた『Dynamite!!』が1位だなんて間違ってる! IGFだってあんなにおもしろかったのに!!

WORST BOUT

1st ピーター・アーツ vs ボブ・サップ 289pt
(6.23K-1WORLD GP in AMSTERDAM　オランダ アムステルダムアリーナ)

2nd 桜庭和志 vs ホイス・グレイシー 221pt
(6.2『Dynamite!! USA』　米国ロサンゼルス・メモリアム・コロシアム)

3rd ブロック・レスナー vs キム・ミンス 39pt
(6.2『Dynamite!! USA』　米国ロサンゼルス・メモリアム・コロシアム)

4th 武蔵 vs 藤本祐介 27pt
(3.4K-1WORLD GP YOKOHAMA　横浜アリーナ)

5th 藤田和之 vs ジェフ・モンソン 25pt
(4.8『PRIDE.34』　さいたまスーパーアリーナ)

WORST SHOW

1st 6.2『Dynamite!! USA』 521pt
(米国ロサンゼルス・メモリアム・コロシアム)

2nd 6.23 K-1WORLD GP in AMSTERDAM 102pt
(オランダ アムステルダムアリーナ)

3rd 6.29 IGF 35pt
(両国国技館)

4th 3.12『HERO'S』 27pt
(名古屋ガイシホール)

5th 4.8『PRIDE.34』 23pt
(さいたまスーパーアリーナ)

越中詩郎の人生相談 アクセス急上昇中!



火 越中詩郎の人生相談「解ケツするって!!」

お題＝阪神の応援を強要されて困ってるって！（7月10日掲載文を紹介）

私の上司に越中さんと同様熱狂的な阪神ファンがいます。その上司は私にも阪神を応援するように強要してくるのですが、正直まったく興味がありません！ ハッキリ言ってもはや苦痛です。この人に迷惑だと知らせるにはどうしたらいいのでしょうか？（阪神オカマ監督・24歳・男性）

──人に趣味を強要する上司に困っているっていう相談でしたね（笑）。

越中（困り顔で）そりゃぁ、困ったもんだねぇ〜。というのはさ、じつは俺も経験があるんだよね（笑）。

──あ、越中さんも強要したことが？

越中 あるねぇ〜。じつは中学生のときに女の子を初めてデートに誘ったときに、間をもたそうとしゃべろうとするわけよ。でも、中学生なんてとくに話すことなんてないじゃない？ で、俺は阪神やビートルズが好きだから、ついついうんちくを語りすぎちゃったんだけど……。そしたらすぐに逃げられた！

──ダハハハハ！ つらい思い出ですね（笑）。

越中 俺はそういう痛い経験もしているからなぁ。でも、この上司はそういう経験がないんでしょ。確かにこういうのって苦痛だよ。だって女の子に、宝塚の話をされたりしても、男は興味ないでしょ？ すぐに「な〜に言ってんだ、フザケンナ、コノヤロー！」ってなっちゃうよ。

──宝塚の話をされただけで「フザケンナ」と（笑）。

越中 俺だったら、「興味ないよ！」って言っちゃうな。しかし、この一件は仕事が絡んでるからこそ、難しいよね。

──ええ。相手は会社の上司ですから。しかし、同じ阪神ファンとしては勝利の喜びを誰かと分かち合いたいという気持ちは理解できるんじゃないですか？

越中 そうねぇ。そういえば、昔、女房が……（つづきは『「kamipro Hand』で!!）

日 アメリカMMA事情を週イチでお届けする
デューク東郷の「Cool宅急便モバイル」

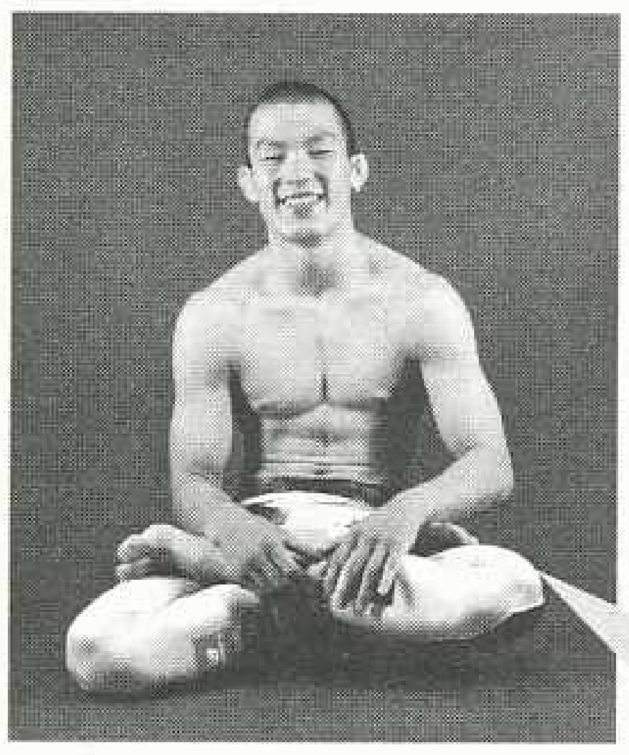
月 インディー界を網羅せよ!
三田佐代子の「あなたの知らない世界」

水 PRIDE、K-1、総合、キック……格闘技の真髄を読め!
橋本宗洋の「格闘裏グルメ」

木 "エッジ"なレスラーの声を聞け!
マッスル坂井の「ザッツ・エンターテインメント」

金 "プロレス冒険家"がマット界を斬る!
金沢克彦の「プロレス村から愛を込めて」

土 大会、選手、自分の人生の裏話まで!
佐伯繁の「DEEPな毎日」



青木真也ブログ「やる気! ◯起! 青木日記」毎日更新!!

タイトル：『サポート』

試合がないときにできることをいまのうちにしておきたいなぁと思ってるんだな。
でも旅行や遊びはあまり好きじゃないし、8月に試合をする仲間が多いからサポートに回る気でいるの。
俺が試合のときはいつも練習付き合ってもらってきたからなぁ。

というわけで8月5日のDEEPは会場まで♪

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

- DoCoMo：iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
  ※もしくは「kamipro」で一発検索!!
- au/TU-KA：トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
- Soft bank：メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
- WILLCOM：趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶ / エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

［QRコード］

［お問い合わせ］（株）ダブルクロス TEL.03-5368-1795

本誌にほとんど載っていない試合速報もバンバンUP中!!

日本の夏!!　越中の夏!!

なんと、『kamipro Award』2007上半期MVP獲得!!

この勢いで、この夏は“イタダキ”だって!!



G1クライマックスで 越中詩郎を優勝させる会!!



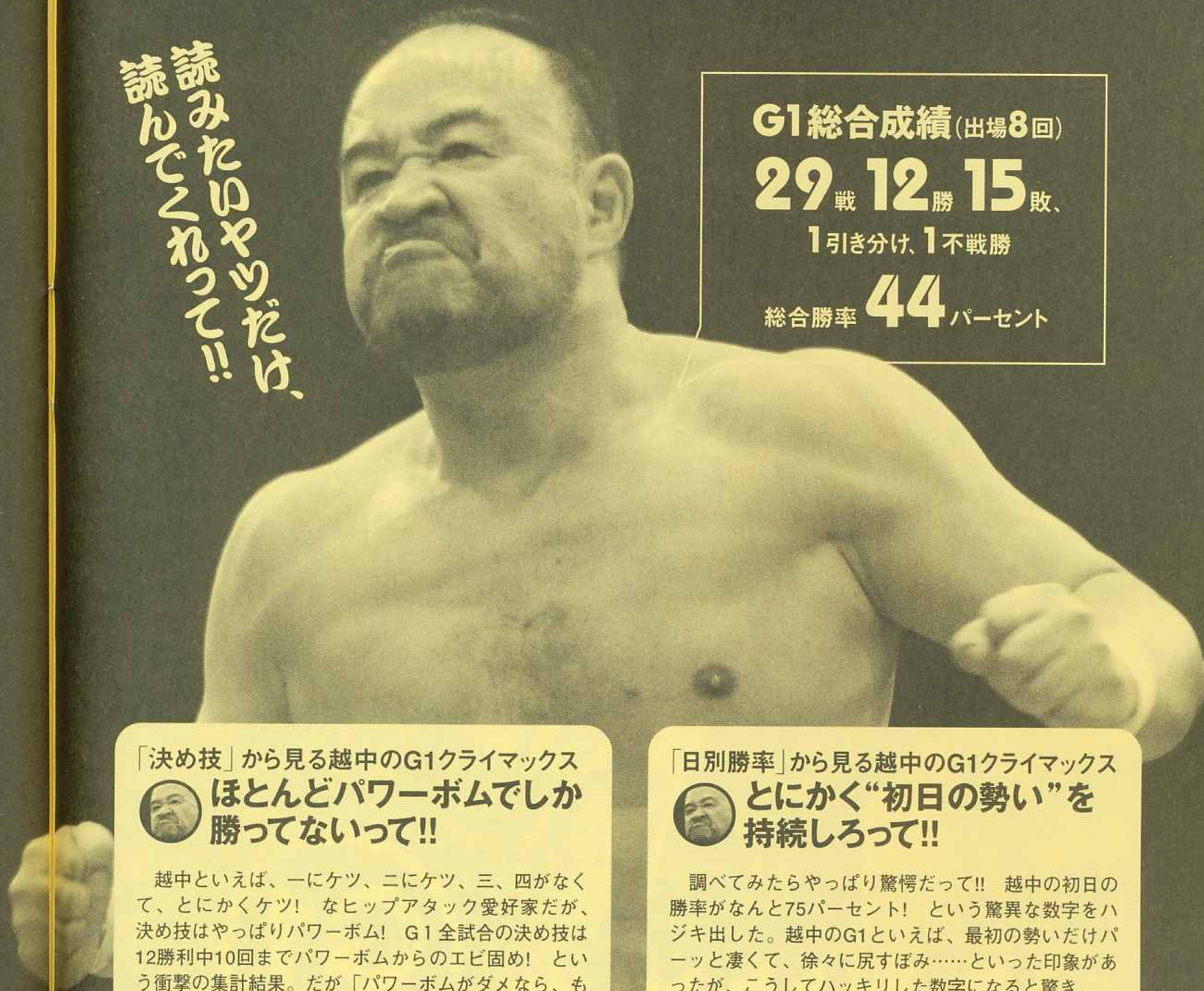
やってやるって！　上昇気流に乗る越中ブームは、ケンドーコバヤシとの共著『やってやるって!!』（扶桑社刊）発売！　さらに上半期の『kamipro Award 2007』まで獲得！　とさらに加熱中！　そこで本誌は“真夏の祭典”G1クライマックスの越中全面バックアップ！　“越中ブームの震源地”ケンドーコバヤシ&せき詩郎も巻き込み、急遽結成！　それが『越中詩郎をG1クライマックスで優勝させる会』だ！

構成／堀江ガンツ、真下義之　試合写真／平工幸雄

越中詩郎の人生相談

スカッとしろって

超徹底解剖 越中詩郎
これがG1全成績だって!!



G1総合成績(出場8回)
29戦 **12**勝 **15**敗、
1引き分け、**1**不戦勝
総合勝率 **44**パーセント

「決め技」から見る越中のG1クライマックス

ほとんどパワーボムでしか勝ってないって!!

越中といえば、一にケツ、二にケツ、三、四がなくて、とにかくケツ！ なヒップアタック愛好家だが、決め技はやっぱりパワーボム！ G１全試合の決め技は12勝利中10回までパワーボムからのエビ固め！ という衝撃の集計結果。だが「パワーボムがダメなら、もう一回パワーボム」というパワーボム一本やりなスタイルには不安が残るのも事実。

ここは「押してダメなら、引いてみろって！」とばかりに、ズル賢い一瞬の返し技や、起死回生の絞め技といったバリエーションを駆使することができれば、また一歩優勝に近づくこと間違いなしだって!

【越中詩郎、G1クライマックス決め技】

1位 パワーボムからエビ固め（12勝利中、10回）

1994年8月5日　両国国技館
○越中詩郎［20分50秒　パワーボム→エビ固め］馳 浩●

1995年8月11日　両国国技館
○越中詩郎［15分47秒　パワーボム→エビ固め］武藤敬司●

1995年8月3日　両国国技館
○越中詩郎［13分50秒　パワーボム→エビ固め］山崎一夫●

1995年8月4日　両国国技館
○越中詩郎［22分10秒　パワーボム→エビ固め］蝶野正洋●

1998年7月31日　両国国技館
○越中詩郎［10分29秒　パワーボム→エビ固め］西村 修●

1999年8月10日　大阪府立体育会館
○越中詩郎［13分05秒　パワーボム→エビ固め］蝶野正洋●

1999年8月14日　両国国技館
○越中詩郎［13分47秒　パワーボム→片エビ固め］橋本真也●

2000年8月7日　両国国技館
○越中詩郎［10分38秒　パワーボム→エビ固め］吉江 豊●

2000年8月9日　両国国技館
○越中詩郎［12分40秒　パワーボム→エビ固め］蝶野正洋●

2002年8月5日　香川・高松市総合体育館
○越中詩郎［11分02秒　パワーボム→エビ固め］天山広吉●

2位 ジャーマンスープレックス（12勝利中、1回）
横入り式エビ固め（12勝利中、1回）

「日別勝率」から見る越中のG1クライマックス

とにかく“初日の勢い”を持続しろって!!

調べてみたらやっぱり驚愕だって!! 越中の初日の勝率がなんと75パーセント！ という驚異な数字をハジキ出した。越中のG1といえば、最初の勢いだけパーッと凄くて、徐々に尻すぼみ……といった印象があったが、こうしてハッキリした数字になると驚き。

初日に大物食いで盛り上げる、“番狂わせ要員”的、“万年ダークホース”的な役回りすら浮かび上がってくる越中。また3日目の16パーセント、5日目の0パーセントという低い勝率には、明らかな取りこぼしの傾向もある。決勝トーナメント進出をはたすには、なりふりかまわず、初日の勢いのまま突っ走るしかないって!!

【越中詩郎、G1クライマックス日別の勝率】

初日の勝率＝75％（6勝2敗）
2日目の勝率＝43％（3勝4敗）
3日目の勝率＝16％（1勝5敗）
4日目の勝率＝40％（2勝3敗）
5日目の勝率＝ 0％（2敗1引き分け）

【初日の勝敗＝6勝2敗】

1993年	第3回 G1クライマックス	S・S・マシンに敗北●
1994年	第4回 G1クライマックス	飯塚孝之に勝利○
1995年	第5回 G1クライマックス	武藤敬司に勝利○
1996年	第6回 G1クライマックス	山崎一夫に勝利○
1998年	第8回 G1クライマックス	西村 修に勝利○
1999年	第9回 G1クライマックス	蝶野正洋に勝利○
2000年	第10回 G1クライマックス	吉江 豊に勝利○
2002年	第12回 G1クライマックス	棚橋弘至に敗北●

PAN… WRESTLING

初代 ネオ… 帰

をほのめ… 春を過ぎ… 再び立つ… 者の栄冠… トーナメ… 伊藤崇文…

[1993年] 第3回GIクライマックス

優勝／藤波辰爾　準優勝／馳浩

1回戦（左）	優勝	1回戦（右）
橋本真也	藤波辰爾	藤波辰爾
馳浩		藤原喜明
小原道由		木戸修
木村健悟		石川敬士
飯塚孝之		**越中詩郎**
冬木弘道		S・S・ストロングマシン
阿修羅原		武藤敬司
蝶野正洋		G・カブキ

越中悲願のG1初出場だって!　この第3回大会に維新軍のカブキ、木村健悟も出場、ヤル気マンマンの越中だったが、敵対していたマシンとの抗争に気をとられ、アッサリ初戦敗退!　ここから苦難のG1ロードが続くことに。

[1994年] 第4回GIクライマックス星取表

優勝／蝶野正洋　準優勝／パワー・ウォリアー

Aブロック	蝶野	長州	武藤	藤原	谷津	木戸	得点
蝶野正洋		●	○	○	○	○	8
長州力	○		●	●	○	○	6
武藤敬司	●	○		●	○	○	6
藤原喜明	●	○	○		●	●	4
谷津嘉章	●	●	●	○		○	4
木戸修	●	●	●	○	●		2

Bブロック	パワー	藤波	橋本	馳	越中	飯塚	得点
パワー		●	△	○	○	○	7
藤波辰爾	○		●	●	○	○	6
橋本真也	△	○		●	△	○	6
馳浩	●	○	○		●	○	6
越中詩郎	●	●	△	○		○	5
飯塚孝之	●	●	●	●	●		0

パワー＝パワーウォーリアー

越中マニア垂涎のG1名勝負がこの94年の橋本戦だって!　勝てば決勝進出の破壊王に鬼気迫るパワーボムラッシュでドローに持ち込む脅威の伏兵ぶりを発揮!　万年ダークホースの汚名返上の大車輪ぶりも、決勝進出はならずに終了。

[1995年] 第5回GIクライマックス星取表

優勝／武藤敬司　準優勝／橋本真也

Aブロック	武藤	蝶野	フレアー	越中	得点
武藤敬司		○	○	●	4
蝶野正洋	●		△	○	3
フレアー	●	△		○	3
越中詩郎	○	●	●		2

Bブロック	橋本	ノートン	佐々木	天山	得点
橋本真也		○	●	○	4
ノートン	●		○	○	4
佐々木健介	○	●		●	2
天山広吉	●	●	○		2

初日から大番狂わせだって!　第5回開幕戦で優勝候補の武藤を破った越中に場内大熱狂!　維震軍は総出で祝福!　彰俊は旗を振りまくって、越中の"初日最強伝説"が生まれるが、このあとキッチリと2連敗しているからさすがだ。

[1996年] 第6回GIクライマックス星取表

優勝／長州力　準優勝／蝶野正洋

Aブロック	長州	佐々木	天山	橋本	平田	得点
長州力		○	○	○	□	8
佐々木健介	●		○	○	○	6
天山広吉	●	●		○	□	4
橋本真也	●	●	●		□	2
平田淳嗣	●	●	●	●		0

Bブロック	蝶野	武藤	越中	山崎	小島	得点
蝶野正洋		○	●	○	○	6
武藤敬司	●		○	●	○	4
越中詩郎	○	●		○	●	4
山崎一夫	●	○	●		○	4
小島聡	●	●	○	●		2

リベンジやってやるって!　と前年、蝶野に敗れた越中は異常な執念でリベンジ成功!　またも優勝のような大熱狂を呼ぶも、そのあと気が抜けたようにズルズル連敗。初出場の小島にまで取りこぼすなど、典型的な負けスパイラルに陥った。

[1998年] 第8回GIクライマックス

優勝／橋本真也　準優勝／山崎一夫

1回戦（左）	優勝	1回戦（右）
橋本真也	橋本真也	蝶野正洋
後藤達俊		中西学
武藤敬司		西村修
天龍源一郎		**越中詩郎**
B・タイトン		佐々木健介
安田忠夫		小原道由
小島聡		山崎一夫
天山広吉		藤波辰爾

またまた蝶野絡みでヤラれたって!　もはや毎年恒例の蝶野戦だが、越中もガウンのままケツ2連発!とヤル気は充分。だが金的攻撃まで繰り出す、なりふりかまわないワルの方程式に敗北!　サムライの夏はわずか2戦で終了した。

[1999年] 第9回GIクライマックス星取表

優勝／中西学　準優勝／武藤敬司

Aブロック	藤波	武藤	佐々木	小島	永田	安田	得点
藤波辰爾		○	●	○	●	○	6
武藤敬司	●		○	○	○	○	8
佐々木健介	○	●		○	●	○	6
小島聡	●	●	●		●	○	2
永田裕志	○	●	○	○		○	8
安田忠夫	●	●	●	●	●		0

Bブロック	橋本	蝶野	越中	山崎	天山	中西	得点
橋本真也		●	●	○	○	●	6
蝶野正洋	○		●	○	●	○	4
越中詩郎	○	○		□	●	●	6
山崎一夫	●	●	●		●	●	0
天山広吉	●	○	○	○		●	6
中西学	○	●	○	○	○		8

またもしてやったり!　"初日に蝶野戦"という大好物のカードに当然勝利した越中。このままパーッ!と独走だって!　と思いきや、天山と中西にまたしても連敗。だが、最終戦で橋本に土をつけるサムライぶりも披露。

[2000年] 第10回GIクライマックス星取表

優勝／佐々木健介　準優勝／中西学

Aブロック	藤波	飯塚	永田	後藤	ライガー	得点
藤波辰爾		●	●	○	○	2
飯塚高史	○		●	○	○	3
永田裕志	○	○		●	○	3
後藤達俊	●	●	○		●	1
ライガー	●	●	●	○		1

ライガー＝獣神サンダー・ライガー

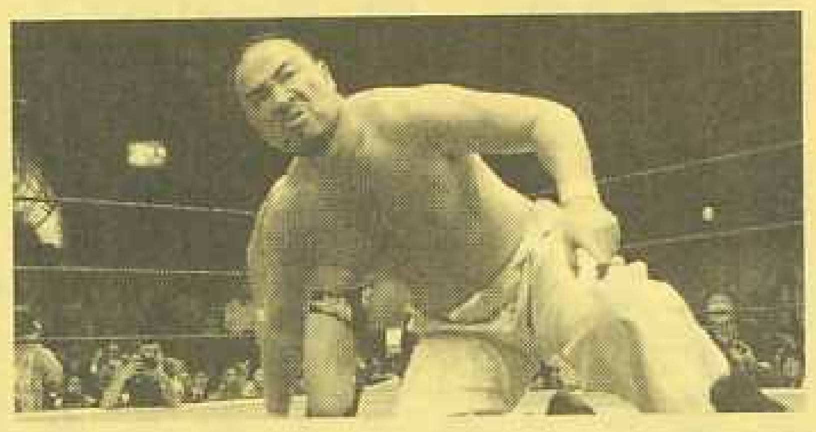
Bブロック	佐々木	木戸	ジョンストン	小島	ヒロ	得点
佐々木健介		○	○	○	△	3
木戸修	●		●	●	△	0
ジョンストン	●	○		●	○	2
小島聡	●	○	○		△	2
ヒロ斉藤	△	△	●	△		0

ジョンストン＝ブライアン・ジョンストン

Cブロック	中西	安田	西村	天山	鈴木	得点
中西学		○	○	●	○	3
安田忠夫	●		○	●	○	2
西村修	●	●		○	○	3
天山広吉	○	○	●		○	3
鈴木健三	●	●	●	●		0

Dブロック	蝶野	越中	平田	吉江	高岩	得点
蝶野正洋		●	○	○	○	3
越中詩郎	○		●	○	●	2
平田淳嗣	●	○		●	○	2
吉江豊	●	●	○		○	2
高岩竜一	●	○	●	●		1

越中のG1史上に残る、"最大の取りこぼし"といえば、第9回の高岩戦であろう。2勝1敗で迎えた最後の高岩戦、突然のウラカンラナで敗北。慢心この上ない失策で決勝進出を逃す。肝心なところでコロリと負ける越中スタイルの代表試合だ。



[2002年] 第12回GIクライマックス星取表

優勝／蝶野正洋　準優勝／高山善廣

Aブロック	佐々木	越中	吉江	棚橋	天山	高山	得点
佐々木健介		○	○	●	●	○	8
越中詩郎	●		○	●	○	●	6
吉江豊	●	●		○	●	●	6
棚橋弘至	○	○	●		●	●	4
天山広吉	○	●	○	○		●	4
高山善廣	●	○	○	○	○		2

Bブロック	永田	中西	西村	鈴木	蝶野	安田	得点
永田裕志		●	△	○	○	●	8
中西学	○		△	○	●	●	6
西村修	●	△		●	△	○	6
鈴木健想	●	○	○		●	○	4
蝶野正洋	●	●	△	○		□	4
安田忠夫	○	●	●	●	●		2

越中の最も近年のG1出場となっている第12回大会。初出場の棚橋に敗北と初日から取りこぼし、さしたる大物食いもなかったが、高山に猛烈なケンカファイトで気を吐いた越中。このあと、WJ入団でG1から遠ざかることとなる。

「敗北」から見る越中のG1クライマックス



"格下"相手にこそ、要注意しろって!!

初日で大物食いをはたす一方、越中はG1初出場の格下相手に食われちゃうことが多すぎだって!!

これはサムライ特有の優しさからくる油断なのか?　それともこれこそが、「俺が、俺が」という自己中心型の多いプロレスラーにあるまじき、平成維震軍特有の「どうぞ、どうぞ」精神による気の緩みなのか?

振り返ると96年の小島聡といい、00年の高岩竜一といい、02年の棚橋弘至といい、今回の集計からG1初出場選手の"白星献上係"といった非常に不名誉な役回りまでが浮かび上がってきた。

こうした取りこぼしとしかいいようのない格下との対戦にこそ、全力を傾けてドーン!　と押しまくるしかないって!

【過去の初出場選手との勝敗】

1996年8月6日　第6回 GIクライマックス　両国国技館
○小島聡［10分33秒　首固め］越中詩郎●
※小島はG1初出場で、1勝3敗（勝ち点1）、越中戦が唯一の勝利

2000年8月12日　第10回 GIクライマックス　両国国技館
○高岩竜一［9分04秒　ウラカンラナ］越中詩郎●
※高岩はG1初出場で、1勝3敗（勝ち点1）、越中戦が唯一の勝利

2000年8月3日　第10回 GIクライマックス　大阪府立体育会館
○棚橋弘至［8分52秒　首固め］越中詩郎●
※棚橋はG1初出場で、2勝3敗（勝ち点2）、越中と佐々木健介に勝利

「蝶野戦」から見る越中のG1クライマックス



毎年毎年、蝶野戦にこだわりすぎだって!!

G1きっての夏男といえば、やはり"ミスターG1"蝶野正洋!　そして、越中のG1といえば、99年に越中を選手会長から除名、反選手会同盟結成時からの大の犬猿の中である蝶野相手に、なぜか好試合が異常に多いことでも知られる。

裏を返せば、vs蝶野の勝敗にこだわるあまり、大事なところで決勝トーナメント進出を逃してしまうといった"木を見て森を見ず"的な燃え尽きパターンも非常に多く見受けられる越中。じつは勝率的には3勝2敗と勝ち越しているだけに、蝶野相手にもあくまで平常心を保ったまま、熱い風を吹かせれば、新"夏男"襲名も夢じゃないって!!

【過去の蝶野戦の勝敗＝3勝2敗】

1995年8月13日　第5回 G1クライマックス　両国国技館
○蝶野正洋［11分10秒　ケンカキック→片エビ固め］越中詩郎●

1996年8月4日　第6回 G1クライマックス　両国国技館
○越中詩郎［22分10秒　パワーボム→エビ固め］蝶野正洋●

1998年8月1日　第8回 G1クライマックストーナメント2回戦　両国国技館
○蝶野正洋［16分03秒　羽根折り固め］越中詩郎●

1999年8月10日　第9回 G1クライマックス　大阪・大阪府立体育会館
○越中詩郎［13分05秒　パワーボム→エビ固め］蝶野正洋●

2000年8月9日　第10回 G1クライマックス　両国国技館
○越中詩郎［12分40秒　パワーボム→エビ固め］蝶野正洋●

越中詩郎の人生相談

スカッと
しろって



こうすれば優勝確実だって!!

〝元祖〟越中詩郎ウォッチャー
せき詩郎

せきしろう■北海道出身。ライター、コラムニスト。週刊『SPA!』の投稿ページ『バカはサイレンで泣く』などで活躍中。本誌では『ザ・検証』、『サムライ・シローニ昧』を連載する、〝元祖〟越中詩郎ウォッチャーとして知られており、数々の伝説企画を手がける。06年には初エッセイ集『去年ルノアールで』（マガジンハウス刊）を発表。07年7月にテレビ東京でテレビドラマ化され、話題となる。

〝元祖〟越中詩郎芸人
ケンドーコバヤシ

けんどーこばやし■1972年7月4日、大阪府大阪市出身。プロレス・格闘技に造形の深い吉本興業のお笑い芸人。〝越中詩郎芸人〟で、越中ブームの火つけ役となり、越中詩郎との共著『やってやるって!!』（扶桑社刊）も発売中！『HEY！HEY！HEY！』（フジテレビ系／月曜日）、『オビラジR』（TBS系／毎週火曜日に出演）。『Shibuya DeepA』（NHKBS-2／金曜日）、『うえぶたき』（テレビ東京／隔週金曜日）などに出演中。

越中ブームの震源地！“48歳のG1初優勝”を目指して

“あの男たち”が立ち上がった!!

維震ファン待望！　“越中ブームの震源地”としておなじみケンドーコバヤシ、そしてせき詩郎。二人の越中ウォッチャーによる対談がついに実現！　もはや機運は最高潮！　“48歳のG1初優勝”へ向けて、徹底的に語り尽くしてやるって！

司会／真下義之　撮影／堀江ガンツ

――今日は〝越中詩郎をG1で優勝させる会〟のお二人に、「どうしたら越中はG1で優勝できるのか」をお話しいただけたらと思います！ ケンドーコバヤシ（ケンコバ）待って下さい。いつの間にか、そのような会に入会していましたか（笑）。

――はい。こちらで強制的に入会とさせていただきました（笑）。

せき詩郎　でも、この時点（7月3日）で、越中さんのG1出場は決定してないんですよね？

ケンコバ　そうですよ！　なんか長州さんと勝ったほうが出場、という話（7月12日、新日本プロレス宮城大会で長州力とG1出場者決定戦に勝利し、出場決定!!）らしいですけど。

――そこはおかまいなしで。あくまで越中はG1出る、という前提でお話していただこうと思います！　で、せっかく〝越中詩郎芸人〟と〝越中詩郎ライター〟が揃い踏みしたので、お互いについても聞きたいんですが。やはり越中ウォッチャー同士、意識されてましたか？

ケンコバ　そうですね。『紙のプロレスRADICAL』時代、せき詩郎さんの『ザ・検証』を真っ先に読んでましたし（笑）。いろんなことやられてたじゃないですか？

――あの連載は伝説が残ってますよね。せき詩郎さんがたった一人で越中さんの誕生日を祝ったり。

せき詩郎　アレは自宅でやったから、早起きして準備してね（笑）。

ケンコバ　ハハハハ！　それ、ただのサイコパスじゃないですか（笑）。

せき詩郎　あと自宅に越中のパネルも持ってたから、そのパネルに合わせて神棚を買おうかなとか。

――越中詩郎の神棚！

せき詩郎　毎朝、手を合わせるため

PANK
WRESTLING
初代
ネオ
帰
をほのめ
春を過ぎ
再び立つ
者の栄冠
トーナメ
伊藤崇文

手を合わせるための〝越中詩郎神棚〟を買う寸前までいきました（笑）（せき詩郎）

に（笑）。越中パネルと維震軍の旗を貼ろうって。でも神棚ってけっこう高いから断念したんですけど。そういう時期もありました。ただ、僕のそういう地味な活動ではブームに火はつけられなかったんですけど（笑）。

――その同時期くらいからケンコバさんも越中さんに着目していた、と。

ケンコバ　じつは、僕も生まれて初めて全国ネットの番組のネタが、越中さんのモノマネだったんです。

――全国デビューから、すでに越中だった！

ケンコバ　ただそれは僕の中では完全に暗黒史で。なぜかというと、結局、カットやったんです（笑）。

――ダハハハ！　全国のお茶の間的には意味不明だから、カットでしたか（笑）。

ケンコバ　いま思えば、危険な賭けやったな、と（笑）。

――それが『アメトーーク！』（テレビ朝日系）の〝越中詩郎芸人〟から約半年でここまで盛り上がったのは凄いですよ。せき詩郎さんは、こういった越中ブームをどうご覧になってました？

せき詩郎　いや、もうね。ホントに助かりましたよ（しみじみと）。

ケンコバ　ハハハハ！

せき詩郎　僕がいっくら焚いても火がつきませんでしたから。やり方によって、火ってこんなに簡単につくんだな、と（笑）。しかし、ケンコバくんの越中仕事はかなり増えてそうですね。

ケンコバ　ええ。じつは、どういうパラドックスが起きているのか、わからないですけど、最近は「越中詩郎としてテレビに出てくれ」っていうオファーもあるんです（笑）。

――〝越中詩郎芸人〟ではなく、〝越中詩郎キャラ〟で（笑）。

ケンコバ「自己紹介も越中でいってくれ」と。それは越中さんを呼んだほうが早いんじゃないかって（笑）。

――越中ブームの大きなトピックとしては永田（裕志）とのＩＷＧＰ王座挑戦というのもありました。

ケンコバ　僕はあの試合の煽りＶＴＲのナレーションをさせていただいたんですけど、『ワールドプロレスリング』のスタッフが、みんな「越中さん、勝ちますから」って自信満々で言ってくるんですよ！（笑）。

――ハハハハ！　それはまたギリギリのリークというか（笑）。

ケンコバ　残念ながら、負けてしまったんで〝リーク〟ではなかったんですけど（笑）、番組制作スタッフの雰囲気的に完全に勝ちムードだった。勝つ機運は凄くあったんですね。

――なるほど。せき詩郎さんは、そんなＩＷＧＰ戦をご覧になられていかがでしたか？

せき詩郎　…………。

――どうしました？

せき詩郎　じつはボク……、観てないんですよ（笑）。

――えぇ〜〜！（笑）。

ケンコバ　それはちょっとアカンでしょう！（笑）。

せき詩郎　だって僕はもう何回、裏切られたかわからないですから。大阪や静岡にまで越中の応援に行って、ガッカリしたことも何度もありますしね……（しみじみと）。

ケンコバ　もう沈みたくなかった。

せき詩郎　ええ。悲しい思いはこりごりというか……。ま、すっかり忘れていただけなんですけど（笑）。

――ダハハハ！　結局、忘れてただけ（笑）。でも結果を聞いたときは、「なんで？」と思いませんでした？

せき詩郎　じつはその前にケンコバくんからメールをもらってたんですよ。「ベルト、獲るっぽいですよ」みたいな（笑）。

――あ、テレ朝スタッフからのリークをさらにリークして（笑）。

ケンコバ　せっかくなんで、お知らせしておこうかな、と（笑）。

せき詩郎　でも、ホントに勝っても全然、おかしくなかったですね。

ケンコバ　そのあと、別企画で『アメトーーク！』に出たんですけど、番組スタッフも越中好きが多いから、「長州力現場監督に手紙を書く！」って憤ってました（笑）。

――ハハハハ！　『アメトーーク！』スタッフから抗議文！

ケンコバ　この本（越中詩郎、ケンドーコバヤシ共著『やってやるって!!』扶桑社刊）もベルトを獲ってれば部数も変わってたかも……。

せき詩郎　表紙写真にチャンピオンベルトだって巻けたでしょうね。

ケンコバ　でも、Ｇ１で優勝すれば、この本も重版がかかるかもしれないし、やっぱりここはＧ１で優勝してほしいですねぇ。

――ということで、いよいよＧ１のお話をうかがいたいと思いますが、じつは越中さんはなんと07年度上半期の『ｋａｍｉｐｒｏ』大賞のＭＶＰに選ばれたんですよ！

ケンコバ　おお！　マジですか!!

――しかも、ベストバウトで永田さんとのＩＷＧＰ戦が2位につけてますから。

ケンコバ　これは『東スポ』プロレス大賞だって夢じゃないですねぇ。もしＧ１に優勝して、さらにＩＷＧＰベルトを巻いたりすれば……。

――可能性はありますね。

ケンコバ　しかし！　Ｇ１に出るのに、まず長州力に勝たなアカンて……。負けたら、どうするつもりなんですか？　この件に関して、新日本からの事情説明もないでしょ！

――5月にベルトに挑戦したばかりのトップコンテンダーが、査定試合をするわけですから（笑）。それでお手元に越中さんのＧ１の過去の全成績の傾向の資料をお渡ししております。ご覧になっていかがですか？

ケンコバ　いや〜。初日の勝率がメチャクチャ高いですね（笑）。

――最初の勢いは凄いんだけど、最後のほうは明らかに取りこぼしが多いという、じつに越中さんらしい傾向があらわになって（笑）。

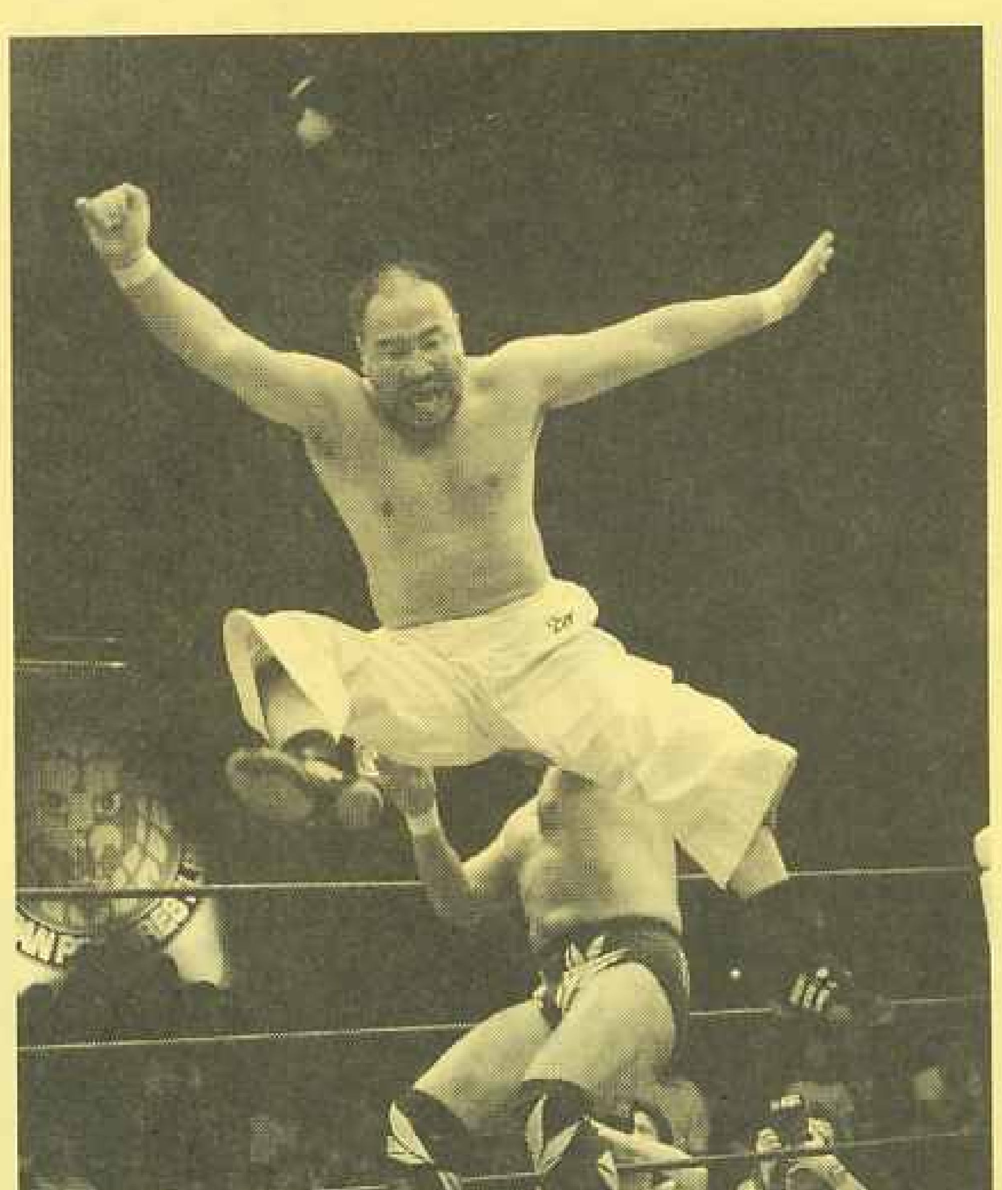
せき詩郎　凄くわかりやすい（笑）。

ケンコバ　あの〜。Ｇ１といえば、僕が違和感を感じつつも、どう噛み砕いていいのだろう？　っていまだに思ってるのが、第6回大会なんです。これは『週刊プロレス』とか『週刊ゴング』誌上で、大々的に出していたんですけど〝パワフルブロック〟と〝テクニシャンブロック〟に分けたという煽りだった（笑）。でも、越中さんって、どっちに入ったらええんやろ？　と。

――越中さんをパワフルとテクニシャンのどちらかに振り分けるのは、確かに難しいですね。

せき詩郎　べつに、その境界線上にいるわけでもないですし（笑）。

ケンコバ　完全に次元が違うというか。結局、テクニシャンブロックに入ってたんですけど（笑）。それで、初出場の小島（聡）にコロッと負けたりしてるんです。



優勝するって！　と気合いは常に満点以上だが、G1は決勝トーナメント進出経験すらない越中。だが83年のルー・テーズ杯、86年のIWGPジュニアリーグ戦、88年のトップ・オブ・ザ・スーパージュニアに優勝！　リーグ戦が苦手でもないんだって！

越中詩郎の人生相談

スカッと
しろって

——初日は大物食いや、優勝候補に勝ったりと絶好調なんですけど、だんだん落ちて、4、5日目に格下に負けるというパターンで決勝進出を毎度逃してるんですよね。

ケンコバ 最初においしいものを食べちゃうタイプというか（笑）。データ的には、後半がとくに弱いですね。

——5日目なんて、ほぼ間違いなく負けるっていうことですから。

せき詩郎 なんかスタートダッシュだけはいい、ドラッグレースみたいなスタイルで（笑）。でも越中さんのレスラー生活って、全部そうなんです。立ち上げは調子いいんだけど、だんだん扱いがヒドくなる。

ケンコバ 扱いのことでいったら、その昔も平成維震軍vs昭和維新軍の3対7のマッチメイクがあったじゃないですか？ 僕はあれはいまだに許せないんですよ！

——新日本の伝統的に、越中さんの扱いというのはいいんだか悪いんだかよくわからないですよね。

ケンコバ ズバリ言って悪すぎですよ！ イヤミなマッチメイクが多いんですよねぇ（と腕を組んで）。

——マッチメイカーは、その時々で変わっているハズなのに、そこだけはなぜか変わらないわけですか。

ケンコバ そこだけは不思議と、伝統が代々受け継がれてるんですよ。マッチメイカーの引き継ぎ時の懸案事項として〝越中の扱い方〟が入ってるんじゃないかって（笑）。

せき詩郎 ただ新日本が低迷すると、越中が活躍するジンクスはあるんですね。反選手会も、平成維震軍も。今年の活躍にしても。

ケンコバ メシア（救世主）的に突如として活躍し始める、と（笑）。

——G1に話を戻すと、もう一つの傾向として、蝶野戦にこだわりすぎる部分もありますね。

ケンコバ 蝶野戦はやたらと名勝負が多いし、去年のリベンジとか細かいドラマがありますし。でも蝶野さんには3勝2敗で勝ち越してるんですねぇ。……ん？ どうしました、せき詩郎さん？

せき詩郎 いや、このデータを分析するとですね……。

——おっ！ ついに分析結果が！

せき詩郎 ええ。初日の勝率が75パーセントと異常に高いじゃないですか？ だから勝利の方程式として〝カレンダーをずらす〟という作戦はどうですかね（真顔で）。

——カレンダーをずらす！ どういうことですか？

毎日、「今日の相手は蝶野だ！」と思い込ませるのもいい（ケンコバ）



東西を代表する越中ウォッチャーだけに越中話は尽きない。せき詩郎は「越中には、外人相手の名勝負が一個もない!」という意外な持論を展開! その原因は「ファイトスタイルがオルタナティブすぎて、外人には理解不能」とズバリ。また、ケンコバは長年に渡る、新日本での越中の扱いの低さの要因を「新日本の美人広報を奥さんにしたことのうらみつらみでは？」と鋭い分析。

せき詩郎 毎日、越中さんが帰ってくる前に、奥さんが日めくりカレンダーで初日の日に戻しておく。すると越中さんも毎日が「よーし！ 今日から初日だって！」という気持ちで挑めるんじゃないかって。

——映画『時をかける少女』みたいに、越中さんは毎日、タイムリープしてる感じで（笑）。

せき詩郎 ええ。奥さんには、腕時計や携帯の日付にも気を使ってもらうと完璧じゃないですか。

ケンコバ ただ、越中さんが異変に気がつかなければいいですけどね（笑）。「俺は同じ時間をループしているんじゃないか？ 同じ時間のラビリンスにいるんじゃないか？」と疑心暗鬼にならなければ（笑）。

——控室のGBH軍のメンバーの全面協力も必要ですね。

せき詩郎 ええ。真壁は毎日、同じ日のスポーツ新聞を読むようにするとか（笑）。

ケンコバ あと越中さんは蝶野さんへの勝率がいいし、蝶野さん相手だと燃えますから。毎日、「今日の相手は蝶野だ！」って思い込ませるのも一つの手ですね。

——どうやって蝶野だと思い込ませるんですか（笑）。

ケンコバ やっぱり蝶野さんといえばヒゲ。だから第6回大会を〝パワフルリーグ〟と〝テクニシャンリーグ〟に分けたなら、今回は〝ヒゲリーグ〟と〝ヒゲなしリーグ〟に分ける、と。こうすれば、優勝の可能性

■緊急、意識調査！

①今年のG1、誰が優勝すると思いますか？

はたして越中はホントに優勝できるのか？ 唐突ながら、携帯サイト『kami-pro Hand』にて「G1の優勝者をズバリ予想してください！」とユーザーへの意識調査を緊急実施！ さて、その結果は……？

- 1位 越中詩郎 57pt
- 2位 中邑真輔 32pt
- 3位 永田裕志 21pt
- 4位 真壁刀義 14pt
- 5位 蝶野正洋 12pt
- 6位 天山広吉 9pt
- 7位 中西 学 7pt
- 8位 ミラノ・コレクションA.T. 4pt
- 9位 棚橋弘至 3pt
- 10位 ジャイアント・バーナード 2pt

サムライがぶっちぎりの1位だって！ ……でもちょっと待て！ いまだに決勝トーナメントにすら進んだことのない越中なのに、これじゃあ予想じゃなくて願望だって！

ともかく機運だけは最高潮であることが判明したものの、絶好調のIWGP王者・永田さんを押さえて、2位につけた中邑、4位の真壁の動きにも注意したいところ。越中詩郎よ、ふんどし締めてかかれって！

②G1優勝はこの男！ その理由を一挙に掲載！

- ●優勝は世界の永田さんです。デエエエエィ！
- ●断然、越中詩郎！ 今年優勝しないでいつするんだって！
- ●白目パワーを生かすことさえできれば、永田の優勝は堅いと思われます。どれだけなりふりかまわぬ闘いができるかがポイント
- ●優勝は真壁刀義。荒れる試合が続けば、真壁が一つ抜け出すと思う
- ●越中に優勝させないでどうする。これ以上の感動があるか？ 若手時代から何一つ変わってない三流レスラーを何回も優勝させるようなことをするから、プロレスが廃れていくんじゃ
- ●ミラノ・コレクションに一票！ 新風＝神風を吹き起こしてくれそうなので
- ●越中さんに一票。個人的には永田さんに勝って頂きたいが、今年の侍ブームは本物かと。天山、真壁も含めGBHのメンバーには期待しています。
- ●越中詩郎！ といいたいところだがバーナードでしょう。初の外国人優勝という間違いないストーリーでしょう！
- ●夏男・蝶野完全復活！
- ●優勝は蝶ちゃん。理由はSTFの精度があがっとる。事実上、脱出不能なため。
- ●優勝は中邑真輔。結婚したご祝儀で。
- ●優勝は越中にケツ定だって！

G1に優勝し、メキシコで痩せて、来年は『スーパージュニア』！（せき詩郎）

が一気に高まりますよ！（7月14日に、リーグ分けが決定!!　詳細は別表を参照!!）

――ホントはジャイアント・バーナードだけど、あくまで蝶野が相手だと思い込ませて闘わせる、と（笑）。

ケンコバ　そうです。「お！　今日は蝶野、身体を作ってきてるな」ぐらいな感じで（笑）。ちょうど（中邑）真輔も、蝶野に近いヒゲをたくわえてますから、これはいけるんじゃないかと思いますけどねぇ。

――お二人の意見を合わせると、毎日が初日で、毎日が蝶野戦だと思い込ませれば優勝できる、と（笑）。

ケンコバ　ええ、科学的データをもとに分析した結果ですから（笑）。

――あと歴代の優勝者を見ると、G1用の新技を引っさげてリーグに参戦する選手が優勝するケースが多い。だから、越中さんも新技がほしいところなんじゃないかと。

ケンコバ　なるほど！　天山のアナコンダ・バイスとか、蝶野さんのSTFの改良バージョンとか、そういった切り札が必要ですよね。いままでの勝率では、ほとんどがパワーボム一本やりですから（笑）。

せき詩郎　完全な新技じゃなくて、改良式の〝パワーボム・ガンマ〟みたいなものでもいいですね（笑）。ホント、越中さんは侍ドライバー以降、新技ってないですからね。

ケンコバ　三沢（光晴）戦のために生み出した侍ドライバーも、ほぼ使用していないといっても過言ではないし（笑）。この前、何年かぶりに出したら、しっかり負けてますし。

――じつは侍ドライバーで勝ったことはないんじゃないかという（笑）。

せき詩郎　（ポツリと）ここは越中ロック？　越中クラッチかな？

ケンコバ　そういう、ドラゴンスリーパー的な絞め技系はほしい。

せき詩郎　サムライ・ロック的な技はほしいですね。具体的には想像もつかないですけど（笑）。

ケンコバ　もし、〝サムライ・ロック〟を前提として考えるならば、サムライの死に様というのは切腹でしょ？　だから相手の腹をねじり切るような技はどうですか？

――相手を正座みたいに座らせて。

ケンコバ　いいですねぇ！　どうやって正座に持ち込んでいいかまったくわからないですけど（笑）。ダイビング・ニードロップをかわすと、相手が正座みたいな体勢になるから、そこで極めるのもいいかも。

せき詩郎　それは凄いチャンスですね（笑）。

ケンコバ　相手がダイビング・ニーの体勢に入ると、越中さんが目をギラギラさせると（笑）。それはチャーンス！　ですよ！

せき詩郎　ホントはピンチなんですけどね（笑）。

ケンコバ　でも、ダイビング・ニーを使う選手ってG1出場者の中に見あたらない。大森隆男あたりが緊急参戦してくれると心強いけど。

――サムライ・ロックをかけられるために、緊急参戦（笑）。

せき詩郎　あとは四の五の言ってられないですから、うしろからヒザをカックンとやるとか（笑）。

ケンコバ　それもチャーンス！　ですよ（笑）。相手が背中を向けたら、後頭部にヒップアタックが正攻法でしたけど。そこでヒザ・カックンは度肝を抜くでしょう。

せき詩郎　大観衆の前で、正座をして、何が起こったかわからない蝶野さんの姿が浮かびますね（笑）。

――じゃあ、ちょっと振り返ると、まず一つ目は「カレンダーの日をずらせ！」と。そして毎日が開幕戦の気持ちで挑め、と。そしてブロック分けでは、必ず〝ヒゲリーグ〟に入れてもらって、「常に蝶野戦であると錯覚させる」。さらにパワーボムに続く決め技、「サムライ・ロックをG1までに完成させていただく」と。

ケンコバ　完璧ですねぇ。いや、ここまで来たら、ホンマにG1は優勝してもらうしかないし、優勝までいかなかったら、さすがの上昇気流も止まってしまうかもしれない。

せき詩郎　IWGP王座が獲れなかったとき、越中ファンの気持ちのよりどころは、「まだG1がある！」でしたから。

ケンコバ　すぐに切り替えましたから。逆に「なるほど！　G1か！」とヒザを打ったくらいで（笑）。

せき詩郎　獲ってもらうしかないでしょう。そして、獲ってもらったあと、10月にメキシコに行くらしいですから、そこで痩せて帰ってきて。次はジュニアですか？（笑）。

――ハハハハ！　今度はジュニアでもやってやるって！　と。

せき詩郎　そうすると、少なくとも来年のスーパージュニアまではストーリーがつながりますよね。

――越中ストーリーはまだまだこれからだって！　と（笑）。

ケンコバ　でも、ホントに決勝まで上がったら、どれほどお客が集まるかは正直、見てみたいですね。

せき詩郎　それは本気で応援するでしょうねぇ。それで、相手がトップロープに登ったら……

――「チャーンス！」と両国が大騒ぎになると（笑）。ぜひ、この夏はそういった光景を実現させてもらいたいですね。今日はどうもありがとうございました。

【07年7月3日／東京・目黒『ルノアール』にて収録】

こうすれば優勝できるって!!

一、初日の勝率が高い越中
自宅のカレンダーをずらし、“毎日が初日”と錯覚させる！

二、蝶野相手に勝率が高い越中
ヒゲの選手が多い“ヒゲ・ブロック”で、“毎日が蝶野戦”と錯覚させる！

三、G1優勝には新必殺技が不可欠
切腹をイメージした新技“サムライ・ロック”を開発する！

越中詩郎の人生相談

スカッとしろって



出張版!!

越中詩郎の人生相談

『解ケツするって!!』

どうしたら、G1に優勝できますか？
（東京都・48歳プロレスラー）

なんでもドシドシ質問してこいって！ と現在、携帯サイト『kamipro Hand』で好評連載中なのが越中詩郎の人生相談『解ケツするって!!』。今日は本誌への出張企画として緊急登場！ さぁ、この難問に答えてみろって！

聞き手&撮影／真下義之

――さて、越中さん。今日は『kamipro Hand』で好評連載中の人生相談の出張版！ ということでうかがいました。

越中 もう、どんな質問でも、ガタガタ言わずに受けて立ちますよ（笑）。

【質問】 私は48歳のプロレスラーです。いままで、新日本プロレスのG1クライマックスに何度も出場しているのですがどうしても優勝できません！ 今年は自分にかつてない追い風が吹いていることもあり、ラストチャンスではないかと思ってます。どうしたらG1に優勝できるでしょう？

（48歳・プロレスラー・男性）

――……という質問なんですが。

越中 オイオイ！ なんだ、この質問は！ そんなヤツ、俺以外にいるのかって（笑）。

――まぁ、そういわずに相談に乗ってください（笑）。ただ、この時点（7月5日）では、まだG1への出場が決まってないんですね。

越中 そう！ ヒデェ話だよ！ シリーズを闘って、選手権で結果を残してきてるヤツが、なんで決定戦なの？ たいしたケガもしてないのに、休んでたヤツが出場が決まってるなんて、フザケンナって！

――「俺から言わせたらフザケンナ！」と（笑）。ただ、今年は越中ファンのG1優勝にかける期待は、もの凄いと思います。

越中 そういう声は力になるねぇ。でも、今回は期待してもらっていいですよ（と不敵な笑みで）。

――お！ 早くも優勝宣言。じつは今号では『越中詩郎をG1クライマックスで優勝させる会』というテーマで、盟友のケンドーコバヤシさんにも登場してもらって、徹底研究してるんです。

越中 フフフ。俺は「予想なんていらないよ！」って言いたいね。

――予想なんてするな！ と。

越中 取組の得点表もいらない！ 全勝すりゃいいんだろ？

――全勝すれば、優勝ですね（笑）。ただせっかくなんで、少し話をすると過去の越中さんのG1の日別の勝率で、初日がメチャクチャ勝率が高い！ それで、後半は非常に勝率が悪くなるんですけど（とデータを見せる）。

越中 全試合、気合いを入れて闘ってるつもりだけどなぁ。後半は息切れしちゃってるってことか。

――ええ。あと初出場の選手にコロッとイカれたり（笑）。

越中 緩んでるつもりはないけどねぇ。ま、そういうのも自分の魅力っちゃあ魅力でもあるから（笑）。

――ハハハ！ そこも魅力ですか。それとG1の傾向として新しい技を引っさげて出場すると優勝するというジンクスもあるんですけども。

越中 いや～。自分では技は充分だと思うけど（笑）。……なんか、今日は『東スポ』（東京スポーツ）みたいなこと聞くから、調子狂うよ！

――ダハハハ！

越中 ただね。俺も技については最近考えてることがあるよ。

――ぜひ、うかがわせてください！

越中 回転エビ固めとかクラッチ技とか、昔の技っていまなぜか通用しなくなっちゃったでしょ。でも冷静に考えれば、通用しないのもおかしな話。だから、あえて古い技にこだわるのもおもしろいよね。若いヤツらには〝未知の技〟なんだから。

――そこが秘策のヒントだと。

越中 ま、これは過去の統計ですから。今年の俺を見てくれって！ だいたい俺はデータ野球とかガタガタ言うのは好きじゃない！

――あ、野村（克也）さん的なデータ野球はお好みじゃない。

越中 俺は来た球をとにかく打つタイプ。ストレートだろうが、フォークだろうがストライクをポコン！と打ち返すのが好きなわけ（笑）。

――じゃあ、データも吹き飛ばす勢いでお願いします。さらに！ こういう追い風の中、なんと2007年上半期の『kamipro』本誌のMVPに越中さんが輝いたんです！

越中 オ～ッ！ ホント？ これも『kamipro』さんのプッシュのおかげだねぇ（満面の笑みで）。でも、ファンが評価してくれるのは嬉しいよ。べつに新日本がプッシュしてくれたわけでもないし、ホントに苦しい時期も、こらえてやってきてよかったよなぁ（しみじみと）。

――もし、G1に優勝したら、プロレス大賞も見えてきますね。

越中 ま、ともかくいまは立ちはだかっているものをぜ～んぶふっ飛ばして、優勝したいね。もう吹かすのは風じゃない！ G1では〝嵐〟を吹かせまくってやりますよ！

――ええ。両国の天井をふっ飛ばすくらいの勢いで。

越中 このメンバーだったら、楽勝ですから。どうぞ期待してくださいって！ あとさ、今回はケンコバくんも予想してるんでしょ？

――ええ、お願いしてますね。

越中 予想なんかしてるくらいだったら、会場に応援しに来いって！ G1の開幕戦は大阪だから、長州戦を勝ち抜いて、「大阪で待ってるぞ！」と言っておいて（笑）

――了解しました。では心から、G1の優勝を期待してます！

越中 やってやるって！

【07年7月5日／東京・後楽園ホールにて収録】

今回のプロレス探険隊は鼻の下が伸びっぱなし!?

全日本プロレスの会場で華麗に舞う"美女軍団"武富士ダンサーズとは何か!?



7月1日、横浜文化体育館の第5試合前、リングに舞い降りた武富士ダンサーズは、おなじみの曲でド派手なダンスを披露！　プロレスファンからも熱い声援が飛び交った。最高です、マジで！



GK探検ファイル
No.004



金沢克彦 隊長

かなざわ・かつひこ■元『週刊ゴング』編集長。テレビ朝日『ワールドプロレスリング』の解説も務める。プロレスマスコミの重鎮として幅広い取材活動を行なうが、このたび探検隊を結成。体当たりで取材に挑む!

小松伸太郎 隊員

こまつ・しんたろう■元『SRS・DX』編集部。以前からGKと親交があり、『週刊ゴング』で座談会も担当していた。元相撲部でもあり非常にグッドルッキンなボディを持つ。"受け"の美学は今回も全開だ!! 通称「モグラ」。

GKスペシャル プロレス探検隊



GK隊長、念願の取材がついに実現!!

「俺の人生にも一度くらい幸せなときがあってもいいだろう」

元『週刊ゴング』編集長・金沢“GK”克彦氏が「プロレス界に残された数少ない“謎”を解き明かす」という使命のもと立ち上がった当企画。往年のテレビ朝日「水曜スペシャル・川口浩探険隊」をリスペクトして同番組のツナギを愛用するGK隊長と元『SRS・DX』編集部、現・ペールワンズの小松隊員が織り成す冒険ロマンの数々はいろんな意味で大反響を呼んでいる。インリン様、GBHと豪華なゲスト陣が続いたが今回のゲストも凄い！　全日本プロレスの『チャンピオンカーニバル』で初登場、そして7月1日の横浜文化体育館大会でも場内の温度を急上昇させたホットでセクシーな武富士ダンサーズが登場だ！　じつはGK隊長はかねてから「俺、武富士ダンサーズに興味津々」と言い続けていたのだが、今回はようやく念願がかなって初遭遇。嬉しさのあまり最初からエンジン全開で質問しまくるGK隊長に、小松隊員はついていけるのか!?

そして、プロレス雑誌なのになぜダンサーズにインタビューをするのか!?　すべてがこのインタビューで明らかになる！

撮影／平工幸雄

我々にはプロレスと武富士ダンサーズのあいだに共通点を見つけるという崇高なる使命がある（GK）

小松 さあ、隊長！ 今回は待望の武富士ダンサーズの探検ですよぉ！

GK （小声で言い聞かせるように）小松隊員、浮かれるな！ 我々にはプロレスと武富士ダンサーズのあいだに共通点を見つけるという崇高なる使命があるんだ。さらに、こういう探検では第一印象が非常に重要だからな。気をつけるんだぞ。

小松 （軽くステップを踏みながら）ラジャーです、隊長。

武富士ダンサーズ一同 よろしくお願いしま～す！

GK う～ん、じつに健康的な色気だ！（ニンマリ）。前回のむさ苦しいGBHと違って探検のしがいがあるなぁ。ということで、まずこれをMAMIさんに（と言いながら武富士のポケットティッシュを差し出す）。

MAMI キャ～！ 凄～い！

小松 （小声で）た、隊長！ キャバクラじゃないんですから！

GK じつはボクね、MAMIさんにしか興味ないんです、ンムフフフ。

一同 ええ～、ひど～い！

小松 （小声で）MAMIさんはともかくほかのメンバーの第一印象が最悪じゃないですか！ 崇高な使命はどこにいっちゃったんですか!?

GK （まったく耳を貸さずにハイテンションで）では、取材を始めま～す！ 初登場は『チャンピオン・カーニバル2007』の決勝戦（3月30日後楽園大会）でしたけど、あのときの会場の盛り上がりは凄かったですよね。

一同 気持ち良かった～！

小松 確かに会場全体が「たっけふじッ！」コールに包まれましたからね！

MIHO 終わったあとにまさか「たっけふじッ！」コールが起こるとは思わなかったし、凄く嬉しかったですよ（笑）。

YUKA 「勝った！」っていう感じだよね（笑）。

GK あれは凄かった！ 俺も自分のことのように嬉しくて、「勝った！ 100パーセント、勝ったのだ!!」と思ったよぉぉぉ!!

小松 隊長、それじゃまるでターザン山本！の感想ですよ。

GK （無視して）たぶん、あのあとすぐにネットで武富士ダンサーズを調べて、ブログまで行き着いた人がたくさんいると思いますよ。

小松 お言葉ですけど、それって隊長のことですね？

GK 黙るんだ、小松隊員！ 私は武富士ダンサーズとプロレスの関連性を探っていただけだ！

小松 はあ。

GK （気を取り直して）リングに上がった瞬間はどうでした？

YOSHICA もう、嬉しくてニヤニヤしましたね（笑）。会場の雰囲気が凄く伝わってきたし、逆にお客さんから「どのぐらい踊れるんだ？」っていう挑戦的な視線も感じましたね。だからこっちも、「やってやろう！」って気持ちになったし。

MIHO そこはもう闘いだよね！ それでこっちが一歩引いたら弱気なのが見透かされちゃうから、絶対に引かないでさらに踏み出そうって。ねっ？

一同 うん！

GK まあ、プロレス的に言えば「一歩踏み出す勇気」というかね、ンムフフ。

小松 た、隊長。アゴも伸びてますけど、鼻の下も伸びてきてますよ。

GK （無視して）で、やっぱり皆さん、身体が資本だから体調管理のために節制しているんですか？

MIHO いやぁ、もちろんしてますよ（笑）。メリハリつけてやってます。

GK ああ、食べたらそのぶん、動くと。

MEG そう、食べるために踊る（笑）。

小松 プロレスラーもムチャクチャ食べるぶん、運動量も凄いですよね。そろそろプロレスと武富士ダンサーズの共通点が近づいてきてますよ（ゴクリと唾を飲み込む）。

GK （小声で）あわてるな、小松隊員。こういうことは遠回しに聞くほうがいいんだ。

小松 （小声で）ラ、ラジャーです。隊長！

GK 皆さん、ダンスをやっててプロレスと共通点を感じます？

小松 （小声で）どこが遠回しなんですか!? おもいっきり直球な質問じゃないですか。

GK （無視して）やっぱり、どちらも緊張感がハンパじゃないですよね。

MIHO そうですね。プロレスもダンスも本番は一回だけじゃないですか？ その本番にやってきたことのすべてを懸けなきゃいけない。



初登場時には後楽園ホールで「武富士」コールが発生！ ダンスでプロレスファンの心を一発でとらえた歴史的な瞬間だ。



一歩引いたら弱気なのが見透かされちゃうから、絶対に引かないでさらに踏み出します（MIHO）

GK　NGなしですからね。テレビの前で踊るのとライブは全然違います？
YOSHICA　全然違うよね〜？
MIHO　お客さんがいる場合は反応がダイレクトに返ってきますから、自分たちのテンションも違いますよね。だから、プロレスの会場みたいにお客さんが先に盛り上がってくれていると、ダンス自体も盛り上がります！
小松　隊長！　やはり、プロレスと共通点がありましたね！
GK　焦るな、小松隊員！　ダンスに必要な素質ってなんですか？
一同　気持ち〜！
MIHO　どんなに技術があっても、情熱とか自分たちの気持ちがないとお客さんには伝わらないと思うんですよね。なんでもそうだと思うんですけど、何かを伝えるためにパフォーマンスをしているわけだから、気持ちが一番大切だと思います。
GK　でも、好きでなきゃできないですよね？
MIHO　はい。ダンスが好きでこういう仕事を選んだわけですから。気持ちを込めて練習すれば技術もつくし。だから、一番大事なのは気持ちです！
GK　なるほどね。そこもプロレスと共通しているところだな。当然、プレッシャーもありますよね？
MIHO　やっぱり、いろいろな名前を代表して踊ったりするわけですからね。自分たちがそれを落とすわけにはいかないし。それに、こういうプロレスの会場に来たら、プロレスファンの方にも楽しんでもらいたいですから！
GK　いいっ！　このプロ根性はプロレスラーにも見習ってもらいたいよ。小松隊員、武富士ダンサーズを見習えよ！
小松　ラジャーです、隊長。僕からも質問したいんですけど、いいですか？　お客さんが冷めている雰囲気だった場合はどうですか？
MIHO　それはそれでモチベーションが上がる！　もう、冷めきったお客さんの中に出ていくと、笑うしかないんですよ（笑）。そういう場合は、「こっちがやってやる！」みたいな感じで、一人でもお客さんが笑ったら「勝ち！」みたいな（笑）。
GK　いいですねぇ、その負けず嫌いなところも。ところで、プロレスと格闘技ってちょっと違うんですけど、ダンスってどっちですかね？
MAI　ああ、難しい質問ですねぇ。ダンスもジャンルによっていろいろありますからねぇ。
GK　でも、これだけの人数で踊るとなるとチームワークが必要ですよね。踊っているときに一人のリズムが崩れると全部が台なしになるわけでしょ？
MIHO　そうですね。
GK　それってプロレスと一緒なんですよ。
一同　（声を揃えて）へぇ〜〜!?
GK　試合では闘っているんだけど、第1試合からメインイベントまでの流れを作るのは一つのチームワークだからね。たとえば、ある試合で空中殺法がバンバン出たとします。で、次に試合をする人も空中殺法が得意だ、と。そうすると、自分の前の試合でそれをやられちゃったら、「なんだよ！」ってことになっちゃうでしょ？
IKU　そうだよね。ポーズとか曲がかぶるとイヤだもんね。
GK　前の試合と同じことをやったら、お客さんは引いちゃうし、やっている人間にしても「同じ技使いやがって！」ってなっちゃうんですよ。だから、他人の試合を注意深く見ながら、自分の試合の組み立てを考えるんですよ。
MIHO　へぇ〜、そこまでは知らなかった！　それを聞いたら、ダンスはプロレスっていう気がしますね。格闘技って、「どっちが勝つか？」っていうのしかないですよね？
GK　そう。「ほかの選手があんなことしやがった！」なんて、そこまで考える余裕がないですよね。余計なことをしていたら、負けちゃうわけだから。
MIHO　いまの話を聞いてると、プロレスはお客さんが主役っていう気がしてきた。そこを一番に考えているっていうことは、ダンスはプロレスなのかな？
GK　知らなかった？　ああ、なんか俺、凄いこと教えちゃったかな（ニヤニヤ）。
一同　ハハハハハ！
小松　（小声で）た、隊長！　凄いっす。
GK　ちなみに、皆さんのチームワークはいいんですか？
CHIKA　自信を持って、いまの武富士ダンサーズが一番仲がいいって言えます！
小松　自信タップリですね！　隊長、最後の最後で結論が出ましたね！　武富士ダンサーズは間違いなくプロレスラーですよぉ！
GK　フフフ。それじゃあ、我々にも手取り足取り、ダンスとプロレスの共通点を教えてもらうとしよう！
小松　（小声で）た、隊長！　いい加減にしないとダンスでしごかれちゃいますよ！
GK　（まったく耳に入らず）ね〜、MAMIちゃん？　（ニヤニヤ）。
小松　……ダメだ、コリャ。

【07年7月1日／神奈川・横浜文化体育館にて収録】

次ページより
命を懸けて
プロレス探険隊が
ダンスに挑む！





武富士ダンサーズに一日入門、手取り足取りダンス特訓!



「どんだけ～!?」(by小松隊員)な振り付け編

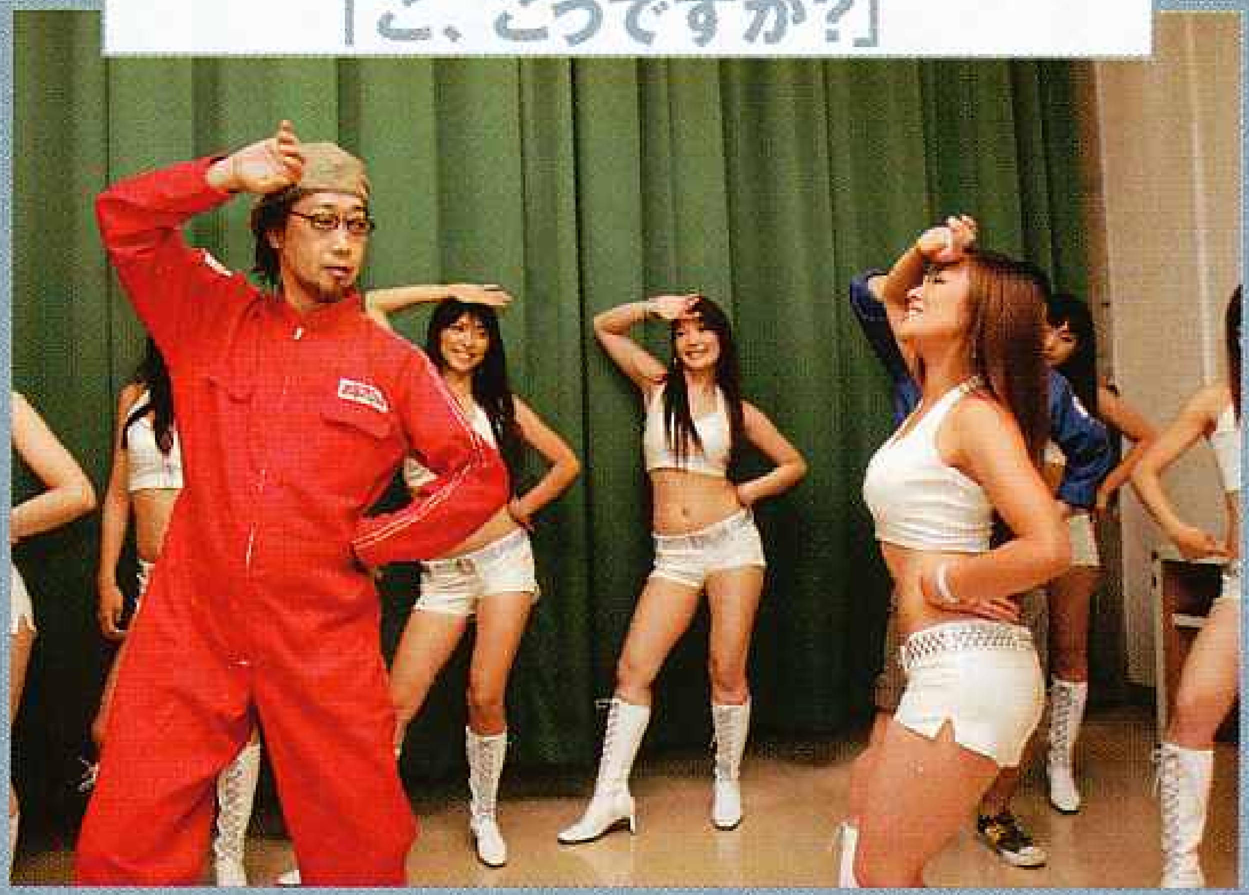


※注:変質者ではありません



武富士ダンサーズの振り付けを見て覚えるところからスタート。こんな特等席で華麗なダンスを拝めるなんて探険隊冥利につきる。あくまでも仕事なので没頭しすぎないように!

「こ、こうですか?」



慣れない振り付けでGK隊長は四苦八苦。それでもリーダーは優しく教えてくれます。それを見守るダンサーズはみんな笑顔。GK隊長、踊れる喜びを笑顔で表現するのを忘れずに!

「こ、腰の動きが……」



腰の振り付けがかなり難しい!　というわけで、ダンサーズが小松隊員を手取り、足取り、腰取り指導!　うらやましい!　先月、GBHに首を絞められてたのとは雲泥の差!

決めポーズをマスターせよ!



CMでおなじみの決めポーズを指導中。躍動感あふれるダンスを締めくくるにふさわしいセクシーかつ美しいポーズだ。GK隊長と小松隊員は真剣に聞き入っている……はずだ。

「柔らかいでしょ?」(by GK隊長)なストレッチ編



まずは柔軟な身体を手に入れろ!



まずは身体をほぐすストレッチから。「ツナギさえ着てなければ僕はもっと柔らかいですからね」と、ダンサーズにいいところを見せようと早くも豪語するGK隊長。

GK隊長、ストレッチに悶絶!?



前屈ではなかなかの柔軟性を発揮したGKだったが、体側を伸ばすのはなかなかきつそう。しかし、武富士ダンサーズは満面の笑顔。

「イッテー!」小松隊員、絶叫!



こちらもストレッチで苦悶の表情を浮かべている。普段、使っていない筋肉を伸ばすだけでこんなにきつそうだと先が思いやられるが……。

正直しんどい……。



本格的なダンストレーニング前の準備運動の段階ですでにバテバテのプロレス探険隊。ダンスもプロレス同様、身体が資本!　優しいダンサーズは拍手でたたえてくれました。



時は来た！
本番編




なんかズレてないか？



先ほど習った振り付け。手の甲を額に当てて、腰をクイッ、クイッとセクシーに突き上げるのだが……、小松隊員のダンスがどうもおかしい。



武富士ダンサーズは間違いなくプロレスラーですよぉ！（小松）

もっと腰を突き出して！



リーダーが前に出て小松隊員のダンスをチェック。「もっと腰を突き出して〜！」と指導が入ると、小松隊員はなぜだか嬉しそうに腰をシェイクしたのだった。いい笑顔だ。

レッツ・ダンス！



「ワン、ツー、スリー、フォー」というリーダーのかけ声でダンスがスタート。はたしてGK隊長と小松隊員は武富士ダンサーズのダンスについていけるのか!?

完璧だ！



フィニッシュシーンを別の角度から。美しい武富士ダンサーズになぜかメガネ男子が2名まじっているが、これこそが今回の探険隊が追い求めていたものだ。ダンス、最強！

き、決まった！

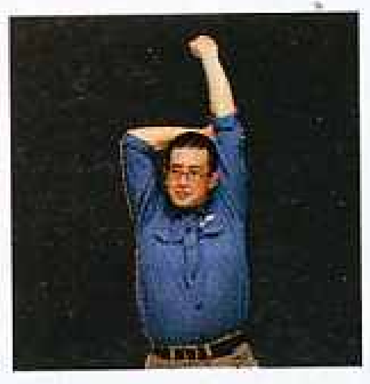


武富士ダンサーズの振り付けになんとか食い下がっていった探険隊。「♪ダダダダン！」というおなじみのクライマックスで全員が揃ってご覧のポーズ。完璧だ！



金沢"GK"克彦隊長の探検レポート

「顔の彫りが深い女性はヘソの彫りも深い」。最近、私が気づいた真理である。それを完璧なまでに象徴する女性がMAMIサン。「だから？」と言われても、「そういうことです」と答えるしかない。それはともかく、最後に私は意地悪なプレッシャーをかけてみた。「ここ横浜では後楽園ホールのようにはいかないと思うけど」。確かに最初こそ場違いなムード。しかし、彼女たちは堂々たるパフォーマンスで見事に空気を一変させた。プロだよなあ！



小松伸太郎隊員の探検レポート

今回の探検のテーマは「武富士ダンサーズはプロレスラーなのか？」という難易度の高いものだった。あまりのテーマの難しさに尻込みする私。しかし百戦錬磨の隊長は、臆することなく武富士ティッシュのプレゼントを皮切りに、終始ニヤニヤしながら核心に迫っていったのだ。さすが隊長！　さて、ダンスレッスンの際に身体の硬さを露呈してしまった私だが、腰使いの上手さだけはほめられた。これが私が今回の探検で得た、唯一の成果だ！



妻だけが知っているプロレスラーの素顔

すてきな奥さん2007

ちっちゃい版型の頃の旧『紙のプロレス』人気企画、「すてきな奥さん」がじつに12年ぶりに帰ってきた！　今回登場していただくマダムは、我らがドラゴン、マサさん、そして永田さんの各奥さま方。こんな抜群なメンバーの素顔を最もよく知るマダムたちが、旦那の"真の姿"を赤裸々に大公開！　これを読めばプロレスラーがもっと好きになる！



すてきな奥さん2007

恋のゴー・フォー・ブロック！
マサ斎藤の優しき素顔がついに明らかに!!

「カルピスはいま、私が飲ませてないんですよ(笑)」

斎藤倫子
(マサ斎藤夫人)

強靭な肉体と大和魂を武器に、腕一本で米マット界を生き抜いてきた“男の憧れ”マサ斎藤。そんなマサさん最愛の奥さまがついに『kamipro』に登場！ 知られざるマサさんの素顔だけでなく、ネットで出回った“マサ斎藤重病説”についても真っ向から語ってくれた！ 冷たいカルピスを飲みながら、正座して読むべし！

聞き手・撮影／堀江ガンツ



『オーラの泉』を見ながら「この人、なんで死んだあとのことがわかるんだろう?」って、真面目な顔して考え込んでるんですよ（笑）

——今回は「すてきな奥さん」という企画なんですけど、マサ斎藤夫人に登場いただけて光栄ですよ！

倫子　マサさんはいま、あまり公の場に出てないので、どうしているのか心配してくださるファンの皆さんもいらっしゃると思うし、こっちがひっくり返っちゃうような噂もあるので、彼の名誉のためにも、きちっと説明させてもらおうと思って、お受けしたんですよ。

——ぜひ、マサさんの真の姿を聞かせていただけたらと思います。

倫子　でも、私でいいんですか？　べつに〝すてきな奥さん〟じゃないし、マサさんの3番目の奥さんだし（笑）。

——あ、マサさんは再々婚だったんですか。

倫子　結婚して13年目になるんですけど、彼は最初の奥さんと二番目の奥さん、両方とも〝10年周期〟なんですよ。

——そんな周期がありますか（笑）。

倫子　だから私は3年ちょっと記録更新中なんです（笑）。

——もともとどんなふうに出会ったんですか？

倫子　最初に出会ったときは、彼がまだ前の奥さんと一緒だったときで、近所のお寿司屋さんで会ったんですよ。それで私は通訳・海外コーディネーターという仕事上、英語が話せるから前の奥さんと仲良くなったんです。

——マサさんの前の奥さんって、確かアメリカ人なんですよね？

倫子　そうなんです。テリーちゃんという典型的な明るいアメリカンでした。彼女は日本語は、アメリカ人なりに達者だったんですが、流暢とまではいかなかったので、英語が話せる私と仲良くなったんですね。そのときの印象としては、彼女は凄くいい人で、その隣にいる旦那は「なんなんだ、この人は？」みたいな。

——なんだ、この熊のようにゴツい人は、と（笑）。

倫子　私は彼がプロレスラーだってことはもちろん知らないし、おでこは野武士みたいにギザギザで、目はどっち向いてるかわからないし（笑）。私が彼女と話してるのにも関わらず、「なんでそんなに英語しゃべれるの？」とか、何回も何回も同じこと聞くし、むさ苦しいし、「ちょっとうるさい、黙っててよ。奥さんはいい人なのに、この旦那はイヤだわ！」みたいな感じだったんです。

——見事なほど、第一印象は悪かったわけですね（笑）。

倫子　当時、私はボーイフレンズもいたし、将来この人と結婚することになるなんて、そのときは夢にも思いませんでしたね。

——そこからどうやって親しくなっていったんですか？

倫子　私も彼女もお酒が好きだったんで、ちょくちょく一緒にお酒を飲むようになったんですよ。マサさんがいないときを狙って。で、まだまだ男尊女卑的な日本の習慣が理解できない彼女の悩み相談に乗ったりして。そこに、たまにマサさんも入れてあげたって感じ。でも、それからしばらくして彼と彼女がうまくいかなくなって、彼女はアメリカに帰ってしまって別居状態になったんです。で、私は日本人だけどアメリカでの生活が長かったから、両方の文化も知ってるということで、今度は、マサさんからも身の上相談みたいなことをされて、私は二人を仲直りさせようと一生懸命やってたの。ところがそうやってあいだに入っているうちに……。

——より親しくなっていった、と。

倫子　これは（当時マサさん夫婦が行きつけのスナックのママから）のちに話を聞いて、初めて、「へぇ、そんなことがあったの……？」みたいな感じだったのですが、彼女（当事の奥さん）は、〝女の第六感〟というのでしょうね。マサさんが私に特別な感情を持っていたのを感じていて、そのスナックのママに「マササン、ミチササンとアウトキ、カガミミルノナガイデス、オシャレ、タクサンシマス、ナゼデスカ？　ナゼセスカ？」を連発して彼女の気持ちを訴えていたそうで。私はその時点では、先にも言いましたけど、ボーイフレンズもいたし、マサさんは、あくまでもテリーちゃんの旦那で、そういう〝対象〟として見ていなかったら、それを聞いたとき、もう、びっくりしちゃったんですが、彼女（奥さん）は、そんなことおくびにも出さなかったんで、私はちっとも知らなかったんです。

——そうだったんですか。倫子さんのほうが結婚を意識されたのはいつ頃からなんですか？

倫子　意識も何もね……、彼は別居状態だったわけじゃないですか。もちろん重婚はできないですよね。そしたらある日、自分でアメリカ大使館に行ってきて、そのあと「離婚しました。結婚してください」って。

——そんな単刀直入な（笑）。

倫子　そう、彼はホンットに単刀直入です。あれだけシンプルに生きられればいいなと思う。凄いクリアで、何事にも凄く決断が早い。

——回りくどいことなく。

倫子　余計なこと一切なし！　で、私のほうも毎日のように一緒にお酒を飲むようになって、彼の優しさやピュアな部分、それから見かけによらずとってもインテリなところを知って、それが意外だったのかな。

——逆に第一印象とのギャップが良かったのかもしれませんね。

倫子　そうかもしれませんね。ホントに第一印象は悪かったから（笑）。でも、本当の彼は凄く気持ちがきれいで、邪念がなくて、子どもがそのまま大人になっちゃったみたいな人なんですよ。だから困るときもありますけどね。あまりにも純粋で子どもと同じだから、心で思ったことをそのまま言葉に出しちゃうから。

——プロレスのテレビ解説でもそうでしたからね（笑）。

倫子　だから最近でいえば、健介さんが目の手術をしたじゃないですか。その快気祝いでみんなで食事したとき、健介さんが「まだ両目のバランスがおかしい」ようなことを言ったんですね。そしたら、いきなり健介さんを指差して、「そうだよな。健介の目はおかしいよな」とか大きな声でみんなに言ったりして、困っちゃうんですよね。しかも、みんな下向いてモジモジしてるのに、何度も繰り返して、相づちを求めるんですよね。

——みんな心の中では思ってても、「ずいぶん良くなってますよ」って言うもんですよね（笑）。



昨年、本誌NO.96でAWA時代の盟友ニック・ボックウィンクルと対談で登場していただいたマサさん。すっかり病気も良くなってきていたが、現在はさらに元気ということなので、近いうちにマサさんインタビューを行ないたいと思います。お楽しみに！

倫子　あとは『オーラの泉』を観ながら、「なんでこの人（江原啓之）、人が生まれる前とか死んだあとのことがわかるんだろう?」とか言って、マジメな顔して考え込んでるんですよ（笑）。

――ガハハハハ！

倫子　私にも「この人、ホントにわかるの?」とか聞いてくるから、「わかるんじゃない?」って言ったら、また考え込んでるんです。

――子どもがお母さんに聞くような感じですよね（笑）。

倫子　でも、そんなふうにシンプルだからこそ、心に響くようなことも言ったりするんですよ。マサさんの引退を記念して、私の友人のディレクターが日野皓正さんと二人で『アメリカで戦った男達』というNHK BSで1時間のドキュメンタリー番組を制作してくれたときなんですけど。そのニューヨークロケのラストで、二人をエンパイアステートビルの屋上に立たせたとき、ニューヨークの全景を見渡しながら、マサさんが感慨深げに『たった200年で、こんな凄い街を作ってしまうなんて、アメリカは凄い国だなぁ。ここでトップを張れたことを誇りに思うよ』って言ったんです。

――へぇ、いい言葉ですねぇ！

倫子　モニターを見ながらイヤホンで聞いていたディレクターも、OKを出したあと、マサさんのところにすっ飛んできて、興奮しながら『マサさん、いま凄いコメント出しましたね』って言ってましたね。やっぱり"うまく言おう"とか、"かっこよく言おう"とかの雑念がないから、心に響く言葉も言えるんですよね。

――なるほど。じゃあ、プロポーズなんかもシンプルで。

倫子　そうですね。彼は一途っていうか、真っすぐな人ですから。自分でも言ってますけど「僕は午年だから前にしか行けないから、うしろは絶対下がらないから」って。

――恋愛も「ゴー・フォー・ブロック」で（笑）。

倫子　ケンカしたときも「もう帰ってくれる?」って言ったら、出ていくときに「ミチ、俺をいま止めないと俺は午年だから、前にしか進めないから、戻ってこないよ。ホントに出てったらもうそのまま行っちゃうよ」とか言われて。そして一途な人だから、毎日のように飲みに誘ってきて。私も飲むの大好きだから、二人で19時ぐらいから始まって、朝方、スズメがチュンチュン鳴くぐらいまで5～6軒ハシゴして、朝の7時ぐらいまで飲んでました。

――マサさんと一緒のペースで飲めるって相当ですね（笑）。

倫子　はい。それは素直に認めます（笑）。ただ、私はビールがそんなに飲めないんで。あれだけビールを飲める人がいるっていうのはビックリしましたね。普通に2ダースぐらい飲んじゃうから。

――2ダース！

倫子　だって巌流島の決闘のあとは缶ビール51缶飲んだって言ってましたよ。身体が痛いからお酒で紛らわすって。しかも脱水症状になってるじゃないですか、2時間何分も闘ってたから。だから51缶飲んだって。

昔ほど重いバーベルは挙げてないみたいですけど、その代わり加圧トレーニングを始めたんです（笑）

――ガハハハハ！　水分をビールで摂ってましたか（笑）。医学的には絶対に逆効果だと思いますけど。

倫子　私、結婚してからビックリしたけど、プロレスラーの人たちって凄い回復力が強いでしょ、鍛えてるから。マサさんも結婚してから3回ぐらいアバラ折ってるんだけど、結局、筋肉が自前のコルセット着けてるみたいになってるから、鍼治療をチョンチョンってやったら治っちゃうのよね。それで私が、東洋医学で有名な先生のところにマサさんやブライアン（・ジョンストン）、ドン（・フライ）なんかを連れていったら、先生がビックリしてました。「信じられない！　この人たちの鍛え方と回復力の速さは！」って。

――ホントに鎧を着ているのと一緒なんですね。

倫子　そうですね。だから鎧が取れちゃったら大変だってことで、延々と死ぬまでトレーニングしてなきゃいけないんじゃないですかね。

――マサさんは引退するまでずっと体型が変わらなかったですもんね。

倫子　いまも変わりませんよ（笑）。佐々木健介さんの道場で、アマチュアレスリングのチャンピオンをプロデビューさせるってことで一生懸命やってますから。それに負けず嫌いですからね。若い選手と張り合って練習しちゃうんですよ。今年65歳になるのにね。病気のせいで、脚はかなり細くなりましたが、上半身は引退直後と、ほとんど同じ身体なんです。

――65歳で現役みたいな身体ですか（笑）。やっぱり身体がちっちゃくなっちゃうのは自分でもイヤなんでしょうね。

倫子　レスラーは皆さんもちろんそうでしょうけども、マサさんはとくに過剰らしくて。新日本プロレスのオフィスで語り継がれてるって聞きました。これは倍賞（鉄夫）さんに聞いたんですけど、以前オフィスでね、「マサさん、ちょっと腕が細くなったんじゃない?」って軽く言ったら、急にいなくなっちゃったんですって。そしたら上野毛の道場へ行って練習してたらしくて。

――ダハハハ！　「ちょっと細くなった」って言われたら、いてもたってもいられなくなったんでしょうね。

倫子　ダメですね。身体がしぼんだら、自分が自分じゃないっていうか、それに対するプライドは異常なぐらいですね。だから一度、血圧が上がって2～3日入院したときも、病室でスクワットとか腕立てとかやってましたからね。

――どんな入院患者ですか（笑）。

倫子　あと海へ行くときも必ずパンプアップしますね。

――プロレスラーとして、他人に裸を見られるときは、ちゃんと身体を作るっていう意識が強いんでしょうね。

倫子　そうですね。だから風邪ひいてちょっとでもしぼんじゃったら絶対に外へは出ませんよ。

――引退してもそうなんですか?

倫子　一生そうだと思います。いまでも街中で「あ、マサ斎藤だ！」とか言われるじゃないですか。

――「マサ斎藤だ！」って必ずわかる風貌ですからね（笑）。

倫子　そうそう、あの顔は世界中を探してもほかにいないから（笑）。

――引退してもファンの中の「マサ斎藤」のイメージは崩しちゃいけないっていう、プロ意識は強いんでしょうね。

倫子　一時は確かに、ちょっと発病したときは本人の精神的な落ち込みもあって縮まったときもあったんです。鬱状態みたいな感じになって、本人も練習すらやる気がなくなっちゃって。それで、ファンの皆さんのあいだで「マサ斎藤はボケちゃった」みたいな噂が出たんだと思いますけど。

――それはいつ頃の話なんですか?

倫子　一番、精神的な落ち込みがあったのは、WJが崩壊したぐらいの時期ですね。それで記者会見のときにも唇に震えが出て話せないときがあったんで。それで本人も鬱だっ







Masa & Michiko

見てみぃ、このアツアツぶり！ 照れるマサさんの表情がじつにかわいらしい。アントン総帥をはじめ新日本勢はこの結婚式はもちろん、WCWのエリック・ビショフまで出席した。



すてきな奥さん2007







たから、表情もなかったし、そんなこともあって、ボケ老人だって噂が飛んじゃったんでしょうね。

――ちょうどそのお話が出たんでうかがいますが、その病気というのは、どんな病気だったんですか？

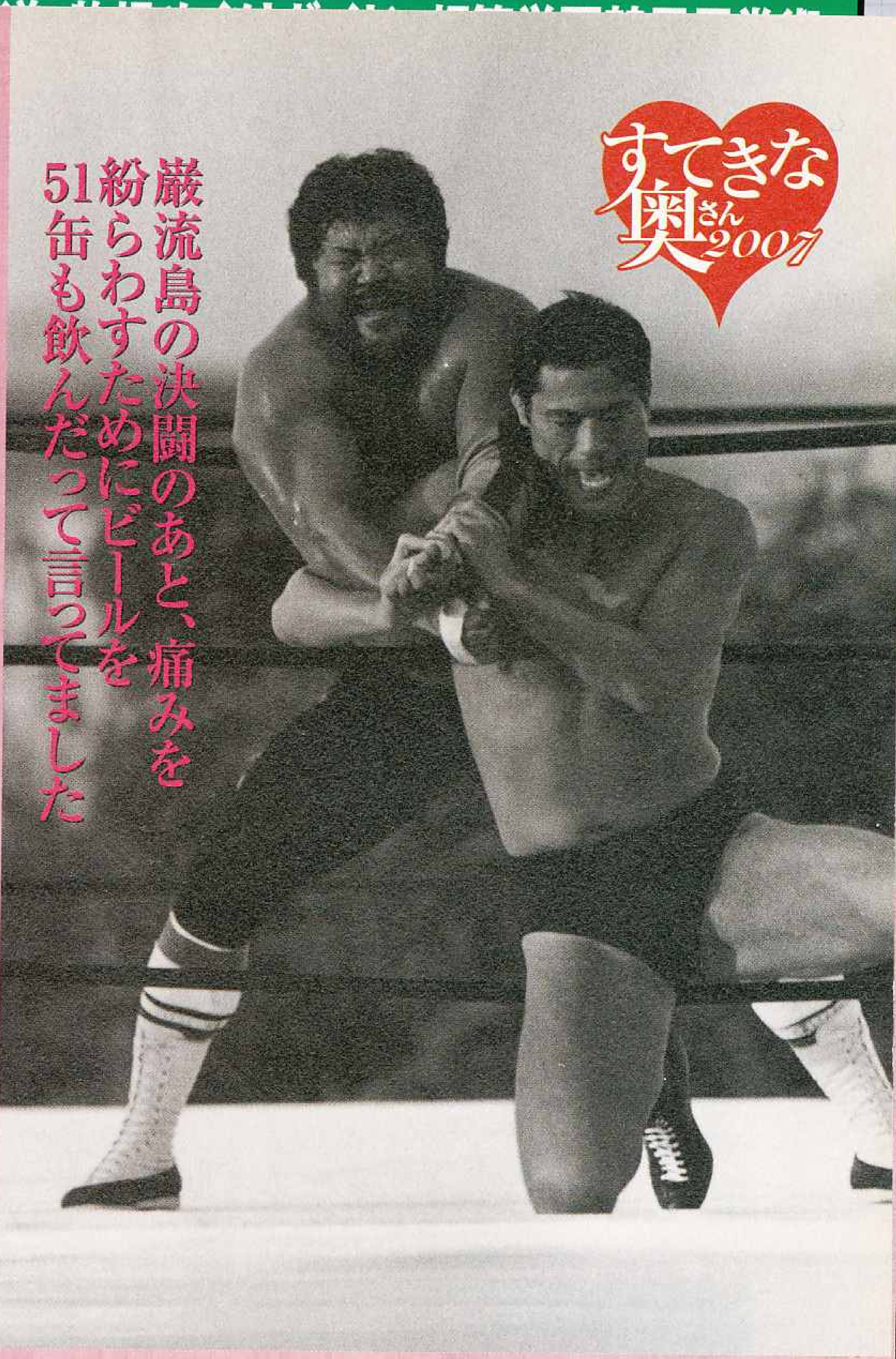
倫子　平たく言うと、いわゆるパンチドランカーみたいな感じですね。

――それで震えが出たり、舌があまり回らなくなったり。

倫子　そうですね。ちょうど引退するとき（94年）、私の友だちがNHKのBSでマサさんが出演するドキュメンタリーを作ったんです。その映像をよく見ると、あのときから微かな口の震えが始まったんですね。でも、私は全然気づかなかったんです。それで、いきなり「俺の唇、震えてないか？」って言うから、よーく見たら、微かに振動してるみたいのがあって。それから、ちょっと話しにくくなっていって、聞きとりづらくなってきて。テレビ解説のとき、テレビ朝日のほうからも「マサさん、もうちょっとハッキリ話してください」って言われたりしたんですけど、スムーズにしゃべれなくなってきちゃったんですね。

――解説ですから、普通にしゃべる以上にハッキリしゃべらないといけませんからね。

倫子　それで自分から解説を辞退したんですね。「もう長くやったし、次の人に替えてください」って。そこから、だんだんひどくなっていったんですよ。でも、原因や病名がわからなくて、初めは日本だけじゃなく、アメリカの大きい病院も回った



巌流島の決闘のあと、痛みを紛らわすためにビールを51缶も飲んだって言ってました

んですけど、それでもわからなかったんです。最終的にはジェフっていたじゃないですか。白いお化粧した人。リングネーム忘れちゃったけど。

──nWoスティングですかね。

倫子　そうそう。彼のお兄さんがハーバード大学病院の名医で、そのつてでハーバードのナンバーワンの神経内科の先生を紹介してくれたんですよ。でも、その先生でも「これは僕にもわからない」と。

──そんなに珍しい症状だったんですか。

倫子　だから、「ちょっとこの症状は珍しいから」ということでビデオまで撮られちゃって。そのあと、その先生が「あなたのご主人をヘルプできるのは、世界で一人しかいない。そのドクターは御茶の水にいる」って言うんです。

──御茶の水ですか、また近いですねえ！

倫子　だから灯台下暗しだったんですよ。それで3カ月ぐらいいろんなテストをやったところ、初めはパーキンソン病だ、と診断されたんです。確かにパーキンソン病の徴候はあるんですけども、検査をすると、どうもパーキンソン病じゃないんですよね。だから先生はシステマチック・ジストニアっていう言い方をしてます。

──ジストニアですか？

倫子　それはどうやってなるかっていうと、脳の大脳規定核というところに問題があり、それは本人の意思とは関係なく、身体の一部が震えたり、言語障害や多少の歩行困難がくる病気だそうです。原因はやっぱり試合のダメージなんですよ。マサさんの場合は、当時の日本では大きかったけど、アメリカのヘビー級相手にずっと闘ってきたわけじゃないですか。

──向こうはバケモノみたいなレスラーばっかりですよね。

倫子　そんなバケモノ相手に、長年バンプもとってたし、頭から落とされたりもしてたわけですから。

──それはダメージも蓄積されますよね。

倫子　そのため身体もそうですけど、脳にダメージもきてる、と。それでちょっと回線がうまくいかなくなっちゃって、震えやしゃべりづらさっていうのが出てきたみたいなんです。あとは凄い暴飲暴食でしたからね。

──噂には聞いております（笑）。

倫子　毎日、延々とビール2ダース飲んで、あとは大きなピザを2枚食べて、キャベジン飲んで寝てたそうですから。そういう複合的な作用でそうなったんじゃないかと先生はおっしゃったけど、じつは先生もまだ正確にはわかってないんです。

──あ、まだ正確には判明してないんですか。

倫子　だから1ヶ月に1回、いろいろ細かく検診するわけですよ。その検診の結果が、どの検診も凄くいいんです。だから先生も「マサさんはパーキンソン病ではないですね。何をやってもよくできるし」っておっしゃってて。だから不治の病ではないんですけど、100パーセント元には戻らないとは思うんですよね。でも凄くよくなってますよ。

──じゃあ、言い方を変えると職業病みたいなもんですね。

倫子　そういうことですね。だから、いまでもたまに震えちゃうんで、ちょっとしゃべりにくかったりとか、あと左の足の付け根のところがちょっとこわばるらしいんです。それでリハビリ用の杖を使うようになりましたけど、朝はすこぶる調子がいいので、道場へ行くときなんかはね、杖をブラブラさせて歩いてますよ。小学生が学校へ行くときに傘をブラブラさせるように（笑）。

──それで道場ではベンチプレスとかをガンガンやって。

倫子　まだやってますね。昔ほど重いのはやってないと思いますけど、だから加圧かけてやってますね。

──加圧トレーニングまでやってるんですか！

倫子　大好きですよ。それで、「そんなにやっちゃいけないんじゃない？」って言っても、聞かない。インストラクターに、より長い加圧のコードを買ってもらって、ぐるぐる巻きにしてやってるんです。

──圧かけまくりで（笑）。でも、それって現役のトップアスリートがやるトレーニングじゃないですか。さすがだなあ！　いま言葉のほうはどうなんですか？

倫子　もう普通ですね。でも1日でアップダウンもあるんですよ。朝から晩までペラペラしゃべってるときもあるし。だから皆さんビックリしますよね、精神的に落ち込んでるときは全部ダメになるじゃないですか。でも、いまは凄くわかりやすいんで、今度会ってあげてください。あの人おもしろいですから。

──こちらこそ、ぜひマサさんのロング・インタビューやらせてもらいたいですよ！

倫子　いろんなプロレスラーとの交流のお話とかもあるんですけど、それはマサさん本人がしゃべったほうがおもしろいでしょうからね。

──では、奥さんからご覧になられたマサさんって、一言でいうとどん

マサさんは先のことを考えない人なんですよ「明日は明日の風が吹く」、その吹いた風に「ゴー・フォー・ブロック」が信条なんです

な方ですか？

倫子　とにかく優しいというのが一番ですね。家に新聞の勧誘とか営業が来ても、私はインターホンで冷たく「営業は郵便でお願いします」ってガチャッと切っちゃうのね。でも彼の場合はちゃんと出てね、話をずっと聞いてるの。「営業なんだからそんなの聞かなくてもいいのに」って言うと「だって一生懸命話してるから悪いじゃん」って、一応パンフレットももらってあげて。そういうとこ凄く優しいの。

――相手の立場になって考えてくれる人というか。

倫子　だからアメリカで刑務所に入ってたときも、看守さんにレンタルビデオを借りてきてくれるように頼んだら、何度も同じビデオを借りてきちゃってたらしいんですね。でも、「せっかく借りてきてくれたんだから」と仕方なく同じ物を何回も見てたらしいんです。

――いやぁ、マサさんは「すてきな奥さん」ならぬ「すてきな旦那さん」ですね（笑）。マサさんって食事はどんなものが好きなんですか？

倫子　結婚した当時は完全な肉食動物だったんです。でも、そのおかげでいろいろと身体も悪くなったりしたじゃないですか、膵臓炎やってみたりとか。それでで徐々に食生活を変えてきまして、いまはずいぶんと野菜も食べるようになったし、お魚も少し食べるようになりました。

――「少しは食べるようになった」っていうぐらい、肉ばかりだったんですか？

倫子　そうですね。肉とか、脂っこいもの、ジャンクフードが大好きで。

――あの年齢で（笑）。

倫子　味オンチなんですよ。ステーキとジャンクフードが好きな反面、お豆腐、海藻、野菜など、身体にいいものは全部嫌いだったんです（笑）。よくも、こんな食生活で生き延びてきたな、とへんな感心と同時に、それを改善するのに結婚してから13年かかりましたね。

――それで飲み物はカルピスが大好きなんですよね？

倫子　大好きなんですけど、最近は飲まないですね。

――え〜っ⁉　あのマサさんがカルピスを飲んでないんですか！

倫子　あれば喜んで飲むんですけど、身体のことを考えて、私があまり飲ませないんですよ。無糖のものを飲ませるようにしているので。

――カルピスは断っても、お酒はガンガン飲んでるんですか？

倫子　お酒のほうも、ずいぶん量は少なくなりました。もう65歳ですからね。見た目は初めて会った頃と、全然変わらないんですけど（笑）。

――じゃあ、マサさんはいまも変わりなくお元気で。

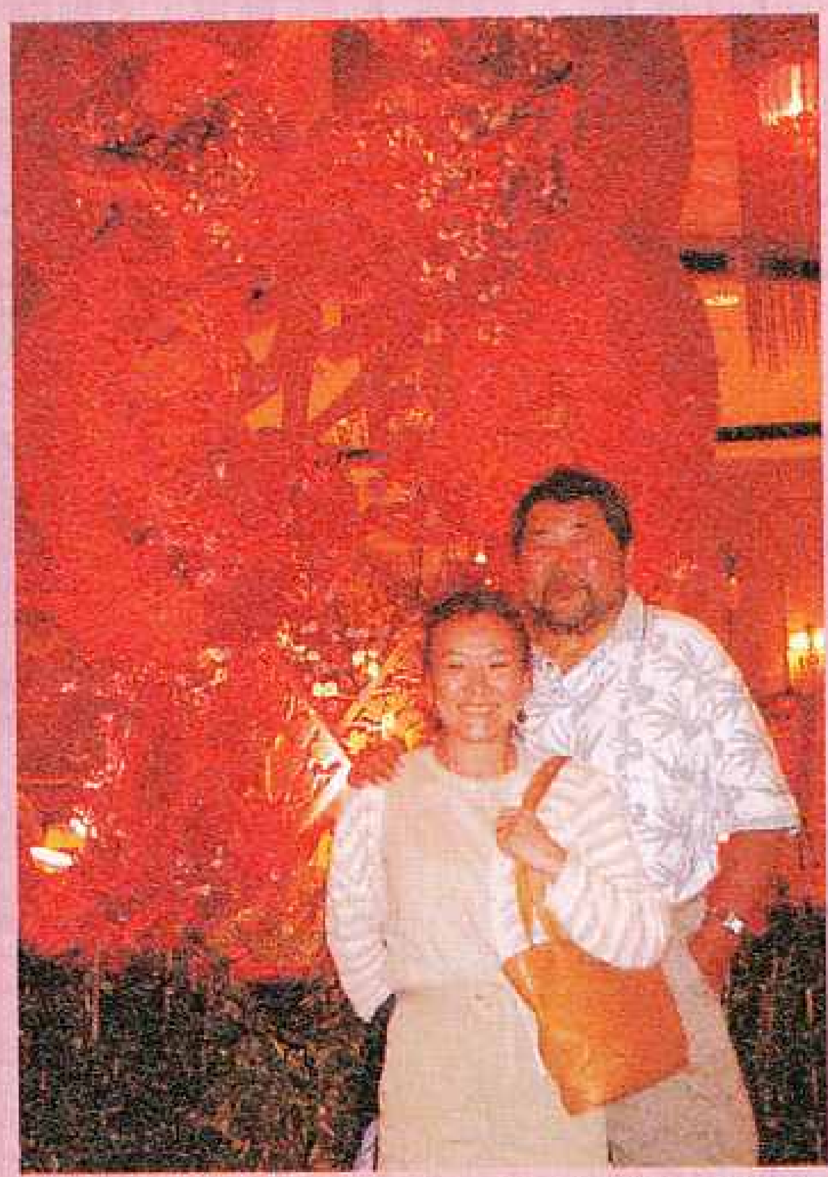
倫子　いまは、毎日が楽しくてしょうがないみたいですよ。やっぱり道場でかわいい子たちを教えてるんで。

――やりがいがあるんでしょうね。

倫子　そうだと思います。最初は「プロレスなんていうのは見て盗むもんだから、教えることなんて何もない」とか言ってたんですよ。でも私は「そんなことないと思うよ」って。で、彼は余計なこと言わないし、聞かれたら言うってスタイルなんですよ。自分から「こうしろ、ああしろ」って言わない人ですから。

――スパルタではなくて、アドバイスをしてくる、と。

倫子　昔からそこらへんは偉くて。「『昔はこうだったんだ』っていう言葉は絶対若いレスラーに言っちゃいけない」って、いつも言ってたんですよ。「時代が流れてるんだから、みんな考え方が違ってるんだから、昔はこうだったって押しつけてもダメだから」って。だから凄くいい教育者だと思いますよ。本人にも「ほめるところはちゃんとほめてるみたいだし、おおらかだから、とってもいい教育者だと思う。彼らはとってもラッキーだと思うよ」って私が誉めてあげるの。照れてますけどね、「そうかなあ？」とか言ってね（笑）。



さいとう・みちこ■1950年、東京都出身。67年に高校２年でアメリカへ転校し、68年卒業。72年にユタ州ブリガム・ヤング大学卒業。帰国後、フリー通訳、テレビレポーターを経て、（株）メディア・エスコート（現在のエムエム・サイトー）設立。通訳、海外コーディネート(主にテレビ番組やイベント)、コンサル等の業務を行なう。94年にマサ斎藤と結婚。

――かわいいですねえ（笑）。

倫子　かわいいですよ。たまに憎たらしいところもありますけどね。面倒くさがりで何もやらないから。そんなときには「子どもだからしょうがない、子どもだからしょうがない」って、自分に言い聞かせるんですけど、ふと見ると、やっぱりおじさんじゃないですか。それが頭にくるんですけどね。

――あんなゴツい子どもはいませんよね（笑）。では、いまは趣味が健介道場で教えることみたいな感じですか？

倫子　趣味というか、ライフワークですね。それは健介さんと北斗さんが凄い頑張り屋だから、マサさんも期待に応えたいと、より一生懸命頑張れるんだと思います。

――マサさんはこれからどうしたいとかって言われてますか？

倫子　あの人ね、あんまり先のこと考えない人なんですよ。そのときになったら考えればいいっていうタイプですから。私は逆に先を考えるから、よく言われますよ「なんで先のことを考えるの？」とか、「なんで物事を複雑に考えるんだ？」って注意されるんですね。「もっとシンプルに考えりゃいいじゃん」って。だから「明日は明日の風が吹く」で、その吹いた風に「ゴー・フォー・ブロック」で体当たりしてきてるんじゃないですかね、ずっと。

――なるほど！　人生すべてが「ゴー・フォー・ブロック」なんですね。

倫子　そうなんです。あんまり先のことは考えてない。だから、二人とも（健介道場がある）吉川は凄く気に入っているんですが、ミッションが終わってからも、ずっと住むかどうかはわかりません。「前の会社（WJ）では、グチャグチャで終わっちゃったから、今回はちゃんと完全燃焼して、自分のプロレス人生をしっかりいいかたちでピリオドを打ちましょうね」って。だから、いまはとにかく、道場の若い選手を一人前に育てようと頑張ってます。みんな、有望なので、彼らの成長を楽しみにしてるみたいです。

――わかりました。では、ぜひ今度はマサさん本人にもインタビューさせてください！

倫子　どうぞどうぞ。マサさんは凄くおもしろいですから、お話を聞いてあげてください。

――はい、よろしくお願いします！

【07年5月31日／都内・『ルノアール』にて収録】



すてきな奥さん2007

我らがピープルズ・チャンピオン！
好漢・永田さんの素顔がついに明らかに!!

「最初に『ごはん食べに行きましょう！』と連れていかれたのが立ち食いうどん屋でした」

永田ちえこ
（永田裕志夫人）

「出しちゃっていいんだね？」とばかりに、永田裕志夫人・永田ちえこさんが『kamipro』単独初登場!!　IWGPチャンピオンにして我らが庶民の味方、永田さんの素顔を、10年間にわたってもっとも近くで見てきたちえこさんが赤裸々に告白。またマット界に大きな衝撃を与えた2003年の『INOKI BOM-BA-YE』でのヒョードル戦の知られざる舞台裏も語ってくれました（敬礼!）。



聞き手／小松伸太郎　撮影／乾晋也

「IWGPを獲るか、G1で優勝したら結婚も考えられる」って言ってました

—今日は永田裕志さんの魅力を奥さんの視点から存分に語っていただこうと思います！

ちえこ よろしくお願いします（笑）。

—まずなれそめを教えていただけませんか？ いきなりですけど（笑）。

ちえこ 共通の知り合いの方に紹介していただいたんですよ。その方がやっているバーがあって、永田がよくそこで飲んでいたんですね。そこに連れられて遊びに行ったときに会ったんです。それで、ちょっと話をしておもしろかったので、「じゃあ、今度ごはんを食べましょう！」ということになって連れていかれたのが……。

—連れていかれたのが？

ちえこ 立ち食いうどん屋でした。

—ダハハハハ！ さすが庶民のヒーロー、永田さんです（笑）。しかし、とんでもない初対面ですねえ。

ちえこ ちょっとジャイアンみたいだなと思いましたね。

—ああ、確かに髪型は似ていますし（笑）。出会ったのはいつ頃になるんですか？

ちえこ ちょうど、WCW遠征に行く直前だったんですよ。

—というと、97年頃ですね。

ちえこ WCWに行くことは決まっていたのに、何ヵ月も動きがなくて本人はヤキモキしていたらしいですね。だから、その頃は私どころじゃなかったみたいですけど。

—その頃からお付き合いは始まっていたんですか？

ちえこ まあ、付き合うというよりかは……、憎からず思っていましたね（笑）。

—憎からず！ 粋な言葉ですね。でも、当時はメールとかはありませんでしたから、連絡をとるのも一苦労だったと思うんですよ。

ちえこ だから私がアトランタに何回か行ったり、あとは手紙のやりとりですね。手紙を送ると「手紙が届いたよ」って電話をくれたりして。だから、いい距離感を保ちながら、お互いの心の中に存在を残しているような感じでしたね。それが凄くうまくいったのかなって。

—お話を聞くかぎり、どちらかというとプッシュしたのはちえこさんのほうみたいですね。

ちえこ そうでしょうね（笑）。寂しいときに手紙を書いたり、電話をしていたんですけど、それがまた絶妙なタイミングだったと思います。

—しかし、気になるのは永田さんからの手紙の内容なんですけど。

ちえこ それが返事はないんです、一度も。筆無精だし、字はヘタだし（笑）。電話だけでしたね。

—そうだったんですか（笑）。そんな関係を経てご結婚を考えたのはいつ頃ですか？

ちえこ 30歳を過ぎたぐらいですかね。本人が「IWGPを獲るか、G1で優勝したら結婚も考えられる」って言ってましたけど、何かきっかけがほしかったみたいなんです。一つの目標が達成できれば、もう一つの人生の目標も達成できる、と。





（写真上）02年の結婚式には、破壊王、蝶野、健介、小島、大谷、棚橋ら豪華なメンバーが集合。（写真下）4年前、ロス道場で猪木を訪れた永田夫妻。その年の大晦日にヒョードル戦を組まれることになるとは……。

—そのへんは古風な考え方ですよね。

ちえこ 古風ですね。まあ、古風というか昔ながらの、都会育ちでなく千葉の田舎で育てられたので。お年寄りの知恵というか。

—お年寄りの知恵で結婚するんですか？（笑）。

ちえこ まあ、おばあちゃん子でしたからね。とにかく自分が胸を張って何かを成し遂げたいって思ったんじゃないですかね。プロレスを生業にしているなら、プロレスで何かを成し遂げてから、と。

—ちえこさんは永田さんのそういう男っぽいところに惹かれたんですか？

ちえこ うん。人柄もいいですし、とっても尊敬してますね。それに、私はそれまで体育大学出身の男性と接点はなかったんですよ。武骨で男社会に身を置いている人自体が珍しかったので、一緒にいるとおもしろかったんですね。

—ちえこさんは女子大でチアリーダーをやられていたわけですから、そりゃあもの珍しい人種に見えますよね。

ちえこ そうですね。高校から女子高、続いて女子大で、就職してからも女の人ばかりの職場だったんですよ。だから、そういう異質なところに惹かれたのかもしれないですね。

—それが日体大のレスリング部出身ですからね。

ちえこ だから、全然違いますよ。一緒に食べるものも見るものも。一緒にビデオやDVDを借りに行っても、私がラブコメを借りるとあっちは『ツチノコ発見！』とかドリフを借りてきちゃうし。

—ちえこさんにとって、永田さん自体が〝ツチノコ〟だった、と（笑）。先日はひさしぶりにIWGP王者になりましたけど、いろいろ会社から無理難題を押しつけられたこともありましたよね？

ちえこ そうですねえ。煮え湯を飲まされてきたかもしれませんね（笑）。

—煮えたぎったお湯を！（笑）。最初の煮え湯が01年『猪木祭り』のミルコ（・クロコップ）戦だと思うんですけど、あの試合前後の様子を教えていただけますか？

ちえこ それがまったく覚えてないんですよ。

—え？ まったく？

ちえこ はい。私は本当に得な性格ですね。全て忘れちゃいました（笑）。

—きれいサッパリと消去しましたか（笑）。でも、永田さんはかなり追い詰められていたと思うんですけど。

ちえこ うん。なんか大変そうでした。練習方法がプロレスと違うじゃないですか？ 2週間程度でできることじゃないのにアメリカにも行ったりして。

—安田（忠夫）さんと一緒にマルコ・ファス道場へ行きましたよね。

ちえこ いろいろ精神的な疲れはあったみたいですね。あと私の中では



カードが二転三転した末、大会前日（！）になって正式発表された、03年『INOKI BOM-BA-YE』での対ヒョードル戦。いつ何時、誰とでも闘う姿勢を見せたが、さすがに結果は残せなかった。

ヒョードル戦の前は普段と様子が違ったので「もしかしたら死んじゃうのかな？」と心配してました

とくに（エメリヤーエンコ・）ヒョードル戦が煮え湯を飲まされた！って思いましたね。

——03年の大晦日の『INOKI BOM・BA・YE』ですね。

ちえこ 会社の事情とかでやりたくないこともやらなきゃいけないわけですからね。あのときは本当に人柱でしたよね（キッパリ）。

——人柱でしたか！

ちえこ 関係者から「おまえが出なきゃ開催できない!!」なんて泣きつかれたみたいなんです。しかも、試合が決まったのは大晦日の前日ですからね。

——ずいぶんな話ですよねえ。

ちえこ あの大会の放送局は日本テレビだったじゃないですか。日テレに親戚がいるんですけど、大会の何日か前の時点で「全部、白紙になりそう」っていう話を聞いていたんですよ。だから、「大会がなくなったらいいなあ～」って期待していたんですけどね。

——アハハハハ！

ちえこ だって、（総合格闘技の）練習してないんですよ？ 練習なんてできなかったんですよ、直前までどうなるかわからなかったし。

——なんせ相手が直前まで決まらなかったわけですからね（笑）。

ちえこ マイケル・マクドナルドとか、日本人の名前を言われたりとかしてね。でも、そういうトラブルがたくさんあったのに私には優しかったですよ。

——あ、そうだったんですか？

ちえこ ええ。気持ちがすさんでいるんじゃなくて、あきらめてたんでしょうね。ごはんを作っても「……ありがとう」とか、普段言わないようなことを言っていたので、「……もしかしたら死んじゃうかな？」と心配してました。

——……とんでもないシチュエーションですねえ。まるで刑の執行を待つ死刑囚じゃないですか！

ちえこ だって、本当に人柱ですもん!! あのときに『北斗の拳』が好きなお友だちも泣いてたらしいですし。永田の立場があまりにも不憫だということで。

——それはジョシュ・バーネットですか？（笑）。

ちえこ そうです。私は会社の人からメールをもらってその話を知ったんですよ。

——いい話ですねえ……。そういえば、ヒョードル戦のギャラっていまだに出てないんですか？

ちえこ いや、結局新日本プロレスが肩代わりしてくれたんですよ。●

棚橋選手とのIWGP戦のポスターを見ながら「タナ、カッコいいなぁ。それに引き換え俺はへんな顔だなぁ」ってボヤいてました(笑)

●●●●が全部持っていっちゃってましたからね。

——悪い人たちですね(笑)。しかし、総合格闘技の試合に出るときって、いつもとは様子が違いますか?

ちえこ 私も「バックドロップやっちゃいなよ!」とか「パイルドライバーやっちゃいなよ!」って言うんですけど、そういうことじゃない、と。「筋肉を使うところが全然違う」とか言ってたので、まったく違うということだけはなんとなくわかるんですけどね。(永田)克彦くんも試合をする前に来て話をするんですけど、プロレスとは全然違うことを話していますね。

——しかも、負けたらファンやマスコミから叩かれるし。

ちえこ やっぱり幅広いメディアに出ているし、プロレスに出ている人が肩身の狭い思いをするでしょうしね。そうやって叩かれたりしましたけど、闘い方がまったく違うっていうのを認識できたっていうのはよかったと思うんですよ。

——そこは前向きですね。

ちえこ 「付け焼き刃じゃできない」ってことをわからせるには、誰かがやらないといけませんでしたからね。だから、貧乏くじを引いたわけじゃないですけど、「永田さんならできる」と思われたから、彼にそういう役目が来たんだと思って、それはいいように受け止めて消化したんですよ。それを経験したから凄く成長していると思いますね。だから、もの凄い糧になったと思いますよ。

——確実にいまのブレイクの礎にはなっていますよね。

ちえこ 永田のスタイルを応援してくださる方がいてありがたいですよ。でも、ヒョードル戦のときはそういう役目に追い込んだ人間が悪いと思いましたね。まあ、あの大会のボロがきっかけで猪木事務所は解体したんですけど。

——あの大晦日の失敗が原因ですもんね(笑)。今度のIGFもけっこう凄そうですけど。

ちえこ IGFだって噂はいろいろありましたけど、新日本から誰も選手は移ってないじゃないですか?

——見事なまでに誰も行かないですね(笑)。

ちえこ ○○○○さんの奥さんなんか「みんな予習、復習ができてないね」って言ってましたね。「わざわざ地獄の入口を覗くことはない」と。

——ボンバイエなIGFは地獄の入口ですか(笑)。

ちえこ やっぱり予習、復習ですよ。まあ、ウチは復習ですけど(笑)。でも、一歩間違えれば明日は我が身ですからね。口車に乗せられたりとか、何かを見誤らないようにしようと手綱を締めてます。

——ここ数年、選手にとってそういうギリギリの選択を迫られることは多いですもんね。

ちえこ そうですね。だから、株式会社ナガタロックを立ち上げてこの『enishing』を作ったのも、いまは小さいけど自分の中で拠りどころみたいな場所を探したほうがいいって税理士の先生に言われたからなんですよ。

——なるほど。それもこれも永田さんが稼いでくれるからだと思うんですけど、あらためて永田さんの魅力を教えていただけますか?

ちえこ 敬愛すべき人物ですね。私の生まれてきた意味の大きな一つに彼と巡り会うことがあったんだなと思いますね。それに非常に優しいので、私が鬼になってバランスをとっている部分もありますけど。

——やっぱり、永田さんは優しいですか?

ちえこ 優しすぎる部分もあるんですよ。昔、藤田(和之)さんと試合をしたときに永田さんのお母さんが泣きながら、「あの子は優しすぎるから、プロレスとか人を殴るようなことができる子じゃない」って言ってましたからね。

——それぐらい優しい、と。

ちえこ 優しいからこそできるんでしょうけどね、精神が強いから。頼りがいがありますよね。私の両親も大切にしてくれますし、お年寄りや子どもにも優しいですから。

——いやあ、もう完璧な旦那さんですね!

ちえこ う~ん……、でも顔がへんだから。

——ええ!? 味のあるステキなお顔じゃないですかぁ!

ちえこ だって、このあいだ、棚橋(弘至)選手とIWGP戦をやったときのポスターに、一緒に顔が出たじゃないですか? そのときに「タナ、カッコいいなあ。それに引き換え、俺はへんな顔だなあ……」ってボヤいていましたからね(笑)。かわいい顔なんですけど。

——顔といえば、白目は大好評ですけどね。

ちえこ おもしろいですよね(笑)。初めはわざとやってんのかなって思ったんだけど、力が入ると白目になるらしいんですよ。

——天山さんのお子さんがマネするので、天山さんが「子どもの教育上、よろしくない!!」って、クレームをつけてるみたいですね(笑)。

ちえこ そうそう!! よくウチに来て、マネしてますよ。

——子どもにも大人気(笑)。では、最後に今後の永田さんに期待することをお願いします!

ちえこ いつまでも現役で頑張ってほしいので、目指せ! 天龍源一郎ですね!

——50歳を過ぎても現役で白目! 永田さんのご活躍と『enishing』のご発展をお祈りしています!

【07年4月25日/都内・『enishing』にて収録】



ながた・ちえこ■1969年11月7日、長野県出身。大学を卒業後、航空会社に勤務。知人の紹介で永田裕志と知り合い、約5年間にわたる交際期間を経て、02年に結婚。06年、自由が丘でヨガ&ネイルサロン『enishing』をオープン。また永田裕志の個人事務所、株式会社ナガタロックの社長も務め、公私に渡って夫を支え続けている。

『enishing』

自由が丘の優雅なマダムとプロレスファンのコラボを期待されつつ、1年前にオープンしたリラクゼーションエステ『enishing』。永田さんも絶賛活用中の、ミスト浴YOSAで身体に溜まった毒素をはき出せ!

東京都世田谷区奥沢3-35-13
Tel.03-6231-2262
営業時間11:00～20:00
http://www.nagata-lock.jp/enishing/about.html





すてきな奥さん2007

マット界随一のおしどり夫婦、伽織さん再登場！
プライベート・ドラゴンを大公開!!

「沖縄の飛龍革命“髪切り事件”のときは切ったことを凄〜く後悔してました（笑）」

藤波伽織

（藤波辰爾夫人）



“すてきな奥さん”といえば、マット界随一のおしどり夫婦として知られるこの方！ “我らがドラゴン”藤波辰爾の妻、伽織さんがひさびさに本誌登場！今回は、「何から何まで手がかかる」プライベート・ドラゴンの日常から、新日本プロレス社長時代のドラゴンの苦悩、そしてドラゴン・ジュニアのプロレス入り問題まで、「エ〜！　ホントなの！」と衝撃のエピソード満載でお届け！

聞き手／真下義之　撮影／平工幸雄

一日7食も食べるんで、主人が家にいるときはキッチンから出られないんです

——今回は『すてきな奥さん2007』特集ということで、〝マット界一のおしどり夫婦〟として知られる藤波伽織さんに、またまたご登場いただくことになりました！

伽織　それは光栄ですねぇ。よろしくお願いします。

——こちらこそよろしくお願いします！　それで、藤波さんとのなれそめは、前回たっぷりとお聞きしましたが、今回は結婚生活の苦労話をお願いしたいんです（笑）。

伽織　う～ん。それはやっぱり、手がかかりすぎるところじゃないですかね！（笑）。

——藤波さんは手がかかる！

伽織　ええ。たとえば、私は主人の髪の毛をいつも切らされてるんですよ。知り合ってすぐの頃に「髪の毛切ってくれない？」って言われて。でも、家には洋裁用のハサミしかなかったんですけど……。

——洋裁用って、布とかを断裁するゴッツいハサミですよね（笑）。

伽織　「これしかないんだけど」って言ったら、「それでいい！」って（笑）。それからず～っと切ってます。主人は家に帰ってくる時間が遅いんですが、夜中の1時でも2時でも「髪の毛を切りたい」と思い立ったら気がすまない。「いますぐじゃなきゃダメ！」って言い張って（笑）。

——ダハハハ！　切るまで絶対に許さん！　と（笑）。

伽織　そこは本当にガンコですねぇ。あと、いまヒゲを伸ばしてるじゃないですか？

——まさかヒゲも伽織さんが……。

伽織　はい。おヒゲも切ってます（笑）。普通はご自分で手入れされてるでしょ。でも主人は全然やらなくて。だからツアーに出たりするとおヒゲがボウボウで帰ってくる。とにかく家に帰ってきたらなんにもできない人なんですよ。

——そこまでぐうたらドラゴンなんですか（笑）。

伽織　そういえば、沖縄の髪切り事件があったじゃないですか？

——あの有名な飛龍革命（1988年、新日本プロレスの沖縄・奥武山体育館の控室で、アントニオ猪木との口論から、藤波が決起をアピール）の「やりますよ！」と吠えながら、前髪を切ったときですね。

伽織　あのとき家に帰ってきてすぐに「（髪型を）なんとかして！」って言いだして（笑）。

——ダハハハハ！

伽織　一部分だけ短くなっちゃってますから。仕方なく長さを前髪に揃えたら、新弟子みたいな頭になっちゃって、あのときは凄～く後悔してました（笑）。

——そんな後日談があったんですか！（笑）。ところで、そんなお二人には趣味の部分の対立ってあるんですか？

伽織　お互いに譲れない部分はありますね。家の造りにしても、「私は絶対にお城みたいなのはイヤ！」って反対しましたし。

——ああ、藤波さんの夢はお城みたいな家を建てることですけど、あれってかなり本気だったんですか？

伽織　本気も本気ですよ！　でも私は「絶対にイヤ！　もしアナタがお城にしたいんだったら、私好みのお家をもう一軒建てて。それで地下通路で家をつなぐのならいい」と（笑）。さすがに主人も言葉を失なってましたけどね。

——でも、あきらめきれない藤波さんはお城の見積を取り寄せていたんですよね？

伽織　あれは私の知らないところで、勝手にやってたんですよ（笑）。でも、主人もアメリカ遠征のときにレスラーの自宅パーティとか呼ばれたりして、だんだん洋風的な感覚も気に入ったんだと思いますね。アーノルド・スコーラン（元プロレスラー）なんか、おウチがゴルフ場の中にありましたし。

——もしかして、ゴルフ場が隣接している藤波邸はその影響なんですか？

伽織　そうなんです！　あの素晴らしい環境に二人とも感激しちゃって、「こんなの日本じゃありえない！」と思っていたら、千葉にたまたま同じような場所があったんです。私は金額的に無理って反対したんですけど、主人が「頼むから、買わせてくれ！」と。私が「しばらくは引退できないよ」と言っても「そのぶん働くから！」と懇願されて。その結果、まだローンで大変な思いをしてます（笑）。

——藤波さんがいまだに現役なのはそんな理由もあるんですか！　話は変わりますけど、伽織さんは料理本（『ちょっと、ごはん食べにこない』ムーンライトファクトリー刊）も出されているくらいの腕前ですが、レスラーの食事っていうのは大変じゃないですか？

伽織　ええ。主人はいまもかなり食べますから。主人が家にいたら、私はキッチンから出られない状態なんですよ。

——といいますと？

伽織　たとえば、朝食を片づけ終わったくらいのタイミングで、「ちょっとお腹減ったねぇ」って（笑）。

——ワハハハハ！　それはとんでもない腹ぺこぶりですね（笑）。

伽織　とりあえず軽食を食べさせて、それを片づけて、しばらくしたらお昼の準備ですから（笑）。でもお昼のあとは夕飯までもたないから、夕飯の前にもう一度食べさせて、そのあと夕飯を食べさせて、夕飯のあとは夜食をほしがりますし。

——じゃあ藤波さんは一日7食‼

伽織　7食ですね。それに二人で旅行に行ったりすると、ホテルとかじゃなくて、必ずコンドミニアム（キッチンがついている宿）。とにかくキッチンがついてないと絶対にダメな人なんです（笑）。

——じゃあ、伽織さんは旅行先でも全然休めないじゃないですか？

伽織　休めないです！（キッパリ）。国内でも国外でも、ず～っと主人のためにごはんを作ってますし、本人は「これでいいんだよ！」なんてのんきに言ってますけど（笑）。

——伽織さんのほうはよくないですけどね（笑）。

伽織　友だちには、「そんなのイヤって、言えばいいのよ！」って言わ



これが新婚当時のヤング・ドラゴンと伽織夫人！　いまでも無敵のラブラブぶりを見せつける二人だが、フロリダのディズニーランドをペアルックで闊歩など、想像以上のアツアツぶり。

れるんですけど。ただ、私も料理が嫌いじゃないんで。海外で日本にない食材があったりすると、ワクワクしますし（笑）。

——ちなみに藤波さんの大好きメニューってなんですか？

伽織　おしるこは大好きですね。

——ドラゴンはあんこ好き！

伽織　ええ。年中、食べてます。あんことお餅は冷蔵庫に常備していないと主人の機嫌が悪くなりますから（笑）。

——そういったご苦労もある一方、レスラーの妻としては、やっぱりケガも心配だと思いますが、藤波さんが腰を悪くされたとき（1989年6月22日、新日本プロレス長野大会でビッグバン・ベイダーとの対戦で腰を強打し、長期欠場）は心配されたんじゃないですか？

伽織　そうですね。主人と結婚したとき、プロレスラーの妻として、ある程度の覚悟はしてましたけど、お医者さまには「普通の生活にも戻れるかはわからない」とまで断言されて……。

——それで全国の病院や温泉を転々とされたわけですよね。

伽織　ただ、私は主人の身体に何があってもメスは入れたくなかったんです。〝スポーツ選手にメスを入れる〟のはいけないって思いがありましたから。お医者さんに「何日に（メスを入れる）手術をしましょう」と言われたら、その場で「わかりました」とは言いながら、二度とその病院には行かなかったり……。

——……。

伽織　日本の名医と言われる人のところには、どこだって行きました。でも、「メスを入れる」って言われたら、それっきり連絡をとらなかったり。皆さんには不義理をしちゃいましたけど、仕方なかったですね。それで藁にもすがる思いで、〝神頼み〟みたいなところまで行きましたから（笑）。でもメスを入れなくてよかったと思いますね。

——それから、藤波さんといえば新日本プロレスの社長時代（1999年6月24日に就任）も大変だったんじゃないですか？

伽織　ええ。最初に話があったときは、戸惑いのほうが大きかったんですよ。坂口（征二、当時・新日本プロレス社長）さんもまだ任期が一年残ってらっしゃいましたし。でも主人は一本気ですから、引き受けたら、もう一生懸命でしたね。寝るときも枕元にメモとペンを置いていましたし。

——なんと、寝ていてもメモを離さなかった！

伽織　はい。寝ていても、ガバっと起き上がってアイデアをメモしておくんです。彼は「会社をクリーンにしたい」という気持ちが人一倍強くて、毎晩毎晩、帰りは遅かったんですね。

——しかし、藤波さんへの風当たりはホントに強かったですね。

伽織　正直、かわいそうでしたねぇ……（しみじみと）。でも社長さんって、周囲から非難されても、表に出せないこともあるじゃないですか？　そういう面で、主人はかなり慎重ですから。

——「感じたら走りだせ！」の猪木さんとは正反対で（笑）。「コロコロ意見が変わりすぎ！」なんて批判もありましたけど。

伽織　う～ん。彼なりに一生懸命考えてはいたんですけど、会社側に意見が通らないことが多すぎたし、結局、自分が折れなきゃいけない部分も出てくるから、そこで誤解があったんでしょう。私なんか「もっと非情になればいいのに！」って思ったりしましたけど（笑）。

——キラー・ドラゴンだったらよかったのに！　と。その反面、いまの『無我ワールド・プロレスリング』は、バーベキューパーティをやったり、凄く和気あいあいとしたムードを感じますね。

伽織　雰囲気はとてもいいですね！　大所帯じゃないから、まとまりが凄くいいし、巡業中もホントに楽しいですし。

——伽織さんも裏方として参加してますけど、藤波さんは当初、伽織さんをプロレスビジネスにあまり入れたくないという気持ちもあったみたいですけど。



昨年、12月の千葉のドラゴン邸内でのツーショット。和風好きなドラゴンだが、室内は伽織夫人によって洋風で統一！　そんなドラゴンの座右の銘は「とにかく尻に敷かれろ」だ。

主人は息子のプロレス入りには基本的に反対なんですけど、「やったらイケる」なんて言いだしたりしてるんですよ（笑）

伽織　そうですね。主人は家では仕事の話は一切しないタイプでしたから。でも、腰を痛めてからは、私になんでも話してくれるようになりました。それでも私は客観的なスタンスは保ってたんですけど、『無我』のスタッフとして私を引っぱり出さざるを得ない状況で。

——それは藤波さんからお願いされたんですか？

伽織　ええ。というのは、身内って無理がきくんですよ。ある程度の無茶なお願いができるし、あとは24時間営業ですし（笑）。

——確かに（笑）。具体的にはどういったお仕事を？

伽織　私は経理や事務関連です。お金の問題は主人がチェックして許可を出すんですが、振込とかの実務的な処理とか。あと売店の売り子やグッズの商品会議もしてますね。もう、なんでも屋さんです。

——全面的にバックアップされてるわけですね。

伽織　さすがにマッチメイクはやりませんけど（笑）。とにかくできることはやりたいし、会場の雰囲気を少しでもよくしたいですから。

——家族という意味では、プロレスラー志望の息子さんの進路問題はどうですか？

伽織　じつは先日、家族付き合いをさせてもらってるイギリスのロイ・ウッドさん（カール・ゴッチ、ビル・ロビンソンらを排出した、〝蛇の穴〟ビリー・ライレージム出身の伝説的なプロレスラー）がプライベート旅行で日本に来てたんですよ。

主人は自分の行動を知らせたがる人　浮気は絶対にないと思っています!!

そのときにロイに「僕は（プロレスラーに）なりたい」とハッキリ言ってましたね。息子は「この夏にイギリスへ行って、ロイ・ウッドのジムで練習してみようかな」なんて考えもあるみたいで。

―〝蛇の穴〟に留学ですか!!

伽織　じつは主人も「アイツはセンスはある！」とも言ってるんです（笑）。基本的に主人はプロレス入りには反対ですけど、「ヘタな新弟子より全然いい」とか、「やったらイケる！」なんて突然言いだしたり（笑）。

―じつに藤波さんらしい展開というか（笑）。

伽織　メディカルチェックをしたら、筋肉の質やバネも、主人と同じモノを受け継いでいるみたいなんです。運動神経も凄くいいし、身体を動かすのが大好きだし、そこは〝血〟なんでしょうね。

―じゃあ、いずれは親子タッグなんて可能性も？

伽織　う～ん。私としたら複雑な思いはありますけど、その可能性はあるかもしれないですね（笑）。

―レスラー生活の厳しさを知ってるだけに。ちょっと聞きづらいんですが、レスラーは家を留守にする機会も多いですけど、ズバリ、浮気みたいなことってなかったですか？

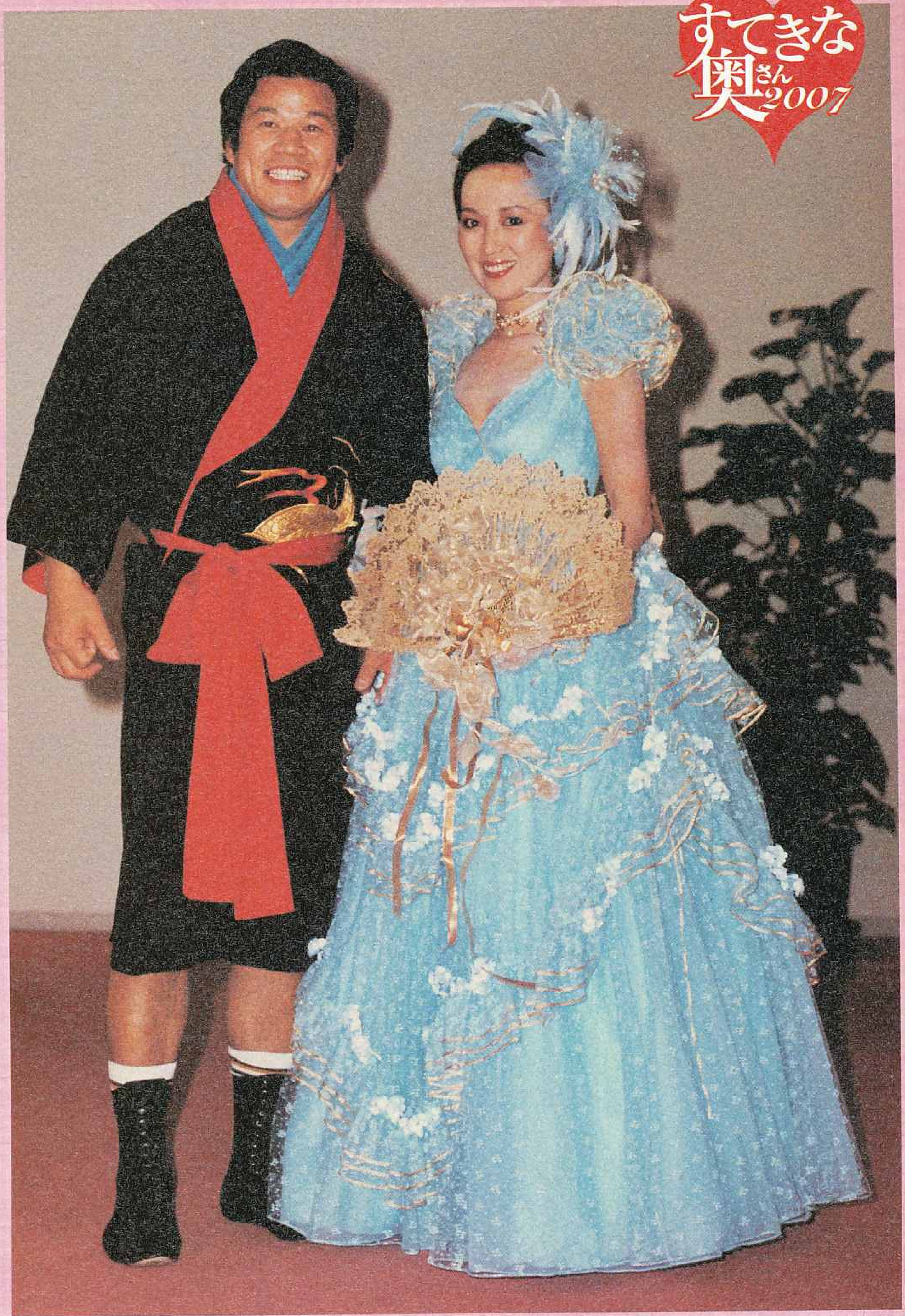
伽織　ああ、いろんな人に「巡業中、心配でしょう？」とか言われるんですけど、私は絶対にないと思ってます！（キッパリ）。というのは、主人は自分の行動を全部、私に知らせないと気がすまないタイプですから（笑）。

―ダハハハ！　確かに、一日に7回も電話する究極の電話魔ですからね。

伽織　彼が家族を思ってくれる気持ちはわかってるし、あまり気にしてもこのお仕事やってられないですし。ただ、私はお店に飲みに行くのにも反対はしないですし、逆に「飲みに行きなさい！」って言ってるくらいなんです。でも本人は「高いお金払って、わけのわからない女の人が横にいてもおもしろくない！　それよりウチでごはん食べるほうがいい！」って（笑）。

―おしるこを食べてるほうがいい、と（笑）。レスラーの奥さまとして「ここが大事！」というポリシーはありますか？

伽織　やっぱり、主人の一番のファンでいてあげなきゃいけないし、客観的な面も絶対に失なってはいけない。健康や体調管理はあたりまえですけど、精神面でもレスラーって強そうでいて、もろい部分もありますから。そのへんは一段上に立っ



1981年12月14日、東京・新宿京王プラザホテルで結婚式を挙げたドラゴン夫妻。当時、猪木に心酔していたドラゴンは、「猪木と同じ歳（28歳）、同じ場所で結婚！」というこだわりぶりを貫いた。



今年4月11日後楽園ホールで"永遠のライバル"チャボ・ゲレロの引退セレモニーより。過去、何度も引退を口にしては撤回してきたドラゴンは、まだまだ現役続行というからさすが。アイ・ネバー・ギブアップ！

引退するなんて話もありましたけど あと10年ぐらいやるんじゃないですか？

てあげなきゃいけないかなって。

――母のような視点も大事だと。

伽織　下からじゃなく、上からよーく見ていてあげて、「いまは押してあげなきゃ」とか、「引いてあげなきゃ」といったアドバイスは大事かもしれないですね。あとは、正直な意見を言うことかな。

――それは試合のダメだしもされるんですか？

伽織　言いますね！（キッパリ）。だって、関係者はどんな試合でもほめるじゃないですか？　でも私は「あなたのためになることを言います！」って、厳しいことを言いますね。たとえば、いま主人と一緒に水中トレーニングしてるんですよ。一緒に水中で身体に負荷をかける、アクアビクスみたいな練習を週に2回ほどやってるんです。そのトレーニングの先生が主人に「もういいですよ」と言っても、私は「まだまだ足りない！」ってシゴいてますから。

――トレーニングでも女房役で（笑）。そのトレーニングのエピソードは伽織さんのブログで拝見しています。



ふじなみ・かおり■1953年9月14日。大阪府出身。藤波辰爾（当時・辰巳）と81年に結婚。同い年のおしどり夫婦として知られ、公私に渡り藤波をサポート。また親友であり、女優の山口いづみとテレビ東京の旅番組に出演するなど、テレビタレントとしても活躍。料理の腕前はプロ級で、著書に『ちょっと、ごはん食べにこない』（ムーンライトファクトリー刊）がある。

伽織　ありがとうございます（笑）。

――伽織さんのブログはドラゴンファミリーの動向がわかるので評判いいですよ。

伽織　文章力がないから、恥ずかしいんですけど（笑）。でも最近、主人が私のマネして始めたんですよ（6月23日より休止中）。

――ダハハハ！　伽織さんの影響だったんですか！　そこもまた仲睦まじいですね（笑）。

伽織　（困った顔で）ただ、二人で一緒に動くとネタが一緒になるんですよ！　たまに、主人から「アナタの写真、貸してよ」なんて言われるんですけど、そこは「ダメよ、カブるから！」とキッパリ断ってますね（笑）。

――ダハハハ！　最後に藤波さんの今後についてお願いいたします。

伽織　主人も「まだまだやる！」と言ってましたね。引退する、しないという話もありましたけど、いまは凄いやる気ですし、あの調子ならまだ10年くらいやるんじゃないですか？

――ネバー・ギブアップ！　と。今日はありがとうございました！

【07年4月27日／東京・新宿スターホテル喫茶室にて収録】



kamipro読者の皆さん!!
我々プロレスマスコミからすると
天龍源一郎がHGに負けたことは大大大事件なんです!!

プロレス村からの
悲痛なシャウトを聞け！
……いや、聞いてください!!



元『週刊ゴング』編集長かく語りき

小佐野景浩

せーの！　俺たちはプロレスをどー観ればいいんだ〜〜ぁ!?　（セレブ小川へのヤジ調）。

え〜、何があったかといえばですね、6・17『ハッスル・エイド』のことである。「もういまさらだよ！」という声もあるかもしれないが、とりあえず聞いてください。

『ハッスル・エイド』といえば、RGのミラクルバンプやグレート・ムタの降臨、クロマティのフルスイングぶりなど、あいかわらずの『ハッスル』カラー全開のイベントだった。『kami-pro』編集部で議論の的になったのは、オープニングの髙田総統＆〝モンスターK〟川田利明の熱唱が「PPVだとあきらかにすべって見えた」ということぐらい。まあ、おおむね違和感なく受けとめられていたわけだが、そんな**〝バッスルボケ〟**から目を覚ます大衝撃が編集部に走ったのだ!!

その震源地は、元『週刊ゴング』編集長で現在フリーライター、プロレスマスコミの重鎮である**小佐野景浩**氏のブログ。**「天龍がHGに負けた。これは大事件である」**から始まるそれは、〝龍魂〟あふれるものだった！

「（HGの）真剣な取り組みは十分理解している。**『でも…』なのだ。**この結末にショックを受けたファンは多いだろう。いや、**何も感じないプロレス・ファンはいないはず**」

……全文は各自調査していただきたいが、ズバリ、**なんのショックも受けてない『kami-pro』編集部は、どーすればいいんだ〜〜ぁ!?**　小佐野さんは何にショックを受けているのか知りた〜い！　……というわけで、さっそく小佐野氏のもとに全力で向かいましたよ!!

（文／セレブ子川　聞き手／井上崇宏）

——今日はプロレスマスコミの大先輩である小佐野さんが、6月の『ハッスル・エイド』で天龍さんがHGに負けたことに**大ショック**を受けていると聞いて、慌ててハワイまで飛んできたんですよ。イテッ！　カニに足を挟まれたぁ……!!

小佐野　いや、ここ代々木だろう（笑）。しかもやってきたのは僕のほうだし！



おさの・かげひろ■『週刊ゴング』の編集長を務めたプロレスマスコミの重鎮。『月刊ゴング』時代からマット界に携わり、ジャイアント馬場、長州力、天龍源一郎、大仁田厚の番記者としても活躍。現在はフリーライター。馬場さんからハワイアンスピリットを叩き込まれたハワイ大好き男でもある。

——ああ、軽口かつ『kami-pro』読者には意味不明な前フリを叩いて、しんずれいしました（笑）。いや、小佐野さん！　こないだの天龍敗戦は**大ショック**だったようですね。

小佐野　そりゃあ、**ショックを受けるでしょう!!**

——あ、またまたしんずれいしました！

小佐野　これは僕がずっと天龍番をやってたうんぬんというのに関わらず、プロレス業界全体から見ても、馬場さんと猪木さんにフォール勝ちし、大仁田と有刺鉄線マッチをやり、髙田延彦といったU系とも闘った〝ミスター・プロレス〟と呼ばれる人間がね、やっぱりこういうふうに……。

——お笑い芸人にフォール負けですよ！

小佐野　いや、HGを「レスラーか？　お笑い芸人か？」って言ったらね、**『東スポ』の『プロレス大賞』で新人賞**を獲ってるから**レスラーとみなしていいと思うんですよね。**

——あっ、賞を獲ったからレスラーとみなす（笑）。

小佐野　**でも！**　それを割り引いたとしても、やっぱり**レスラーとしては新人**じゃないですか。

——ド新人かつ、ド変態野郎ですよ。

小佐野　とにかく今回天龍さんが負けたというのは、けっこう大きなニュースだと思うんだけどなあ！　たとえば『東スポ』さんとかその他のスポーツ新聞、『週プロ』さんもそうだけど、意外とサラッと**よけて通ったよね！**

——『kami-pro』なんかはよけるどころか、近づいてもないですよ！

小佐野　もっと本当は、誌面にバンと**〝天龍が負けた!!〟**というのが出てもよかったと思うんだけどなあ。意外にみんな触らないでさりげなくスルーしたなあという印象を受けましたよ。

——素通りしてんじゃねえぞ、と。

小佐野　う〜ん、だからどういうふうに言ったらいいのかなあ……。負けたことはショックなんだけども、どっちみち試合をするってことは**「勝つか、負けるか」どっちかしかない**わけで、裏目に出ることもあるわけじゃない？　結果として負けることもね。だから、それはもう勝負事っていうか……。**しょうがないこと**だと思うんだけども、やっぱりファンの人はネットとか見てるといろんな意見が飛び交ってるじゃない。**みんな批判的なこともいろいろ言ってる**けども、僕にしてみれば**天龍さんは全然ブレてないぞ、と。**負けたこと自体のショックはあるけども、それによって天龍さんのレスラーとしての価値が落ちたっていうふうには思わないよね。

——あっ、そうなんですか？　**じゃあ、何にショックを受けてるんですか？**

小佐野　たとえば「乱入があったりとか、誤爆があったりとかで負けるっていう**言い訳的なものがほしかった**」っていうプロレスファンが多かったと思うんだけど。

——**言い訳**がほしかった!!

小佐野　僕は逆に**言い訳**なしに負けた天龍っていうのは凄いなと思う。だって、**言い訳**できないじゃない！　ホントに真っ当な試合をしてフォール負けしちゃう天龍源一郎、それは僕は凄いなと思う！

——ガーン!!　**小佐野さん、さほどショックを受けてないじゃないですか！（笑）。**

小佐野　（無視して）だから**言い訳**を作らないで、HGをちゃんと一人のレスラーとして扱って闘ってきっちり負けちゃった、と。逆に僕はそっちの評価のほうが高いんですよ。**ショックはあっても。**

——各マスコミが敗戦をスルーしたっていうのも、そういう小佐野さんと同じ評価を下したからとはいえないですかね？

小佐野　**でもさ！**　新聞なんかは報道の仕方としてできないとは思うんだけども、専門誌だったらもうちょっと**噛み砕いてできなかったものかなあ、と。**だってこれだけのキャリアとこれだけの実績を

持った人間がさ、HGと試合をするっていうことだけで……、HGの頑張りは別としてだよ? **世間一般から見ればやっぱり「えっ?」って思うことじゃない!** それが普通の試合をして結果的に負けてしまったっていう、**こんなリスクはない**もんねえ!

――男・天龍は常にリスクと隣り合わせですよ。

小佐野 でも、そこで天龍さんがHGと真っ当に試合をしたってことは、「『ハッスル』というものに真剣に関わってるんだな」っていうふうには感じたけどね。そこで「ゲスト的に参加しておいしいとこだけ取ってサヨナラ」っていう人じゃないなって。だって『ハッスル』参戦当初は坂田（亘）とガチガチの試合をやってて、いわゆる『ハッスル』のストーリーには彼は入ってこなかったじゃない?

――いわゆる長州力的なポジショニングでしたよね。「ありのままでいいです」っていうか。

小佐野 そうだよね。あくまでも天龍源一郎なんだよっていうね。でも、そのときに天龍さんが言ってたのは、「『ハッスル』が俺に触ったんだったら、何を俺に見せてくれるんだ? それを見せてくれなきゃおもしろくないだろう」っていうのが、あの人の考え方だったから。けっしてゲスト扱いで終わろうとはしてなかったよね。

――そもそも天龍さんって、けっこう頭が柔らかいんですよね。

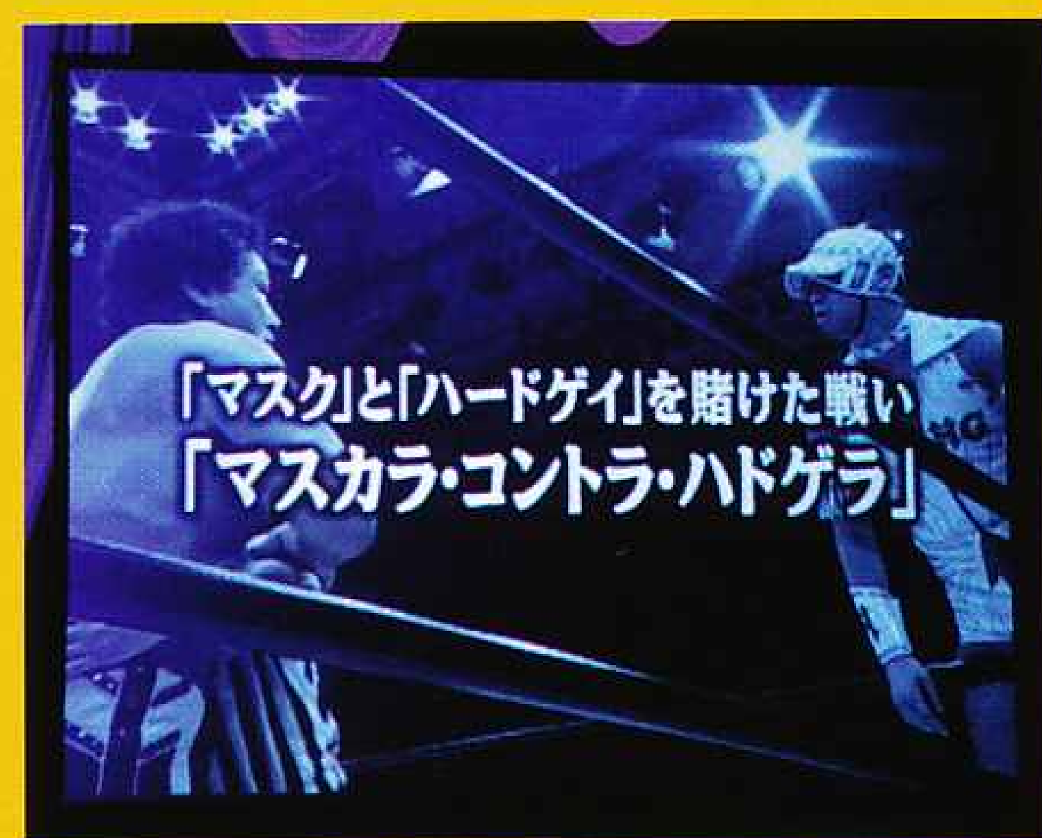
小佐野 いや、天龍さんに限らず**プロレスをやる人も観る人もたぶん頭は柔らかい**と思う（笑）。だって、頭が柔らかいからファンの人もこれだけいろんなプロレスを楽しめるわけでしょ? だから僕



結果はご存知のようにHGのフォール勝ち。ミスター・プロレスがハードゲイ野郎に負ける!! そんな敗戦ですら受け入れがたいのに、RGからはハードゲイ・コスチュームを突きつけられ、髙田総統からは足蹴にされ、一人寂しく会場をあとに。一連の流れは天龍が『ハッスル』ワールドに踏み込んでいる証でもあるが……。



クロマティ、ムタvsインリン様の華やかさに隠れてしまっているが、HGと天龍はじつに"プロレス"な攻防が繰り広げられた。とくにHGは学生プロレスの経験があるとはいえ、デビュー1年足らずとは思えないインサイドワークを披露。"HGならできてあたりまえ"の雰囲気が蔓延しているが、もっと評価すべきだ。



新生『ハッスル』初のビッグマッチとなった6.17『ハッスル・エイド2007』。メインには天龍vs HGという直球カードが組まれたが、「マスカラ・コントラ・ハドゲラ」という、両者のプライドを懸けたオプション付き!! 保守系プロレスファンからすれば、天龍がハードゲイの格好をするわけがない、と確信しても不思議ではないが……。

なんかも、大仁田厚がFMWを作ったときとか、冬木（弘道）さんのエンタメ路線とか、ああいうの好きだったもんね! 全然アレルギーがなかったし。だから『ハッスル』の場合もいざ始まってみたらこれはこれでアリじゃないか、と。だって、それでお客さんが観に来てるわけだし、楽しんでるわけだしね。……ただ。

――**ただ!（笑）。**

小佐野 どんなにおもしろおかしいトッピングがあっても、リング上の試合はガッチリしてほしいなっていうのは、もうずっと思ってることなんだけどねえ……。だってやっぱり天龍ファンや『ハッスル』を観て楽しんでない人にとってはまったく今回の結果は受け入れられないだろうし。で、受け入れられた人も、内心やっぱり「**わかるんだけど……でも!!**」ってところだと思うんだよねえ……。

――**いくら柔軟な頭でもわかりたくない、と（笑）。**しかし、それは天龍ファンというより、小佐野さんの心の叫びですよ（笑）。

小佐野 天龍よりHGのほうが強いわけないんだよねえ……。だってこれ、まさか天龍さん負けないでしょう!? でねえ、一番イヤなのが**「天龍が金で転んだ」**みたいな意見も出たりするじゃない?

――それは初耳でしたが、男・天龍に限ってそんなわけないですよ!

小佐野 ねえ! もともと天龍嫌いな人が言うんだったらともかく、もし応援してた人が言ってるんだったら**「あなた、何を観てきたの?」って!（怒）**。ホントだったら、これまでもお金でいろいろなものが築けた人なのに、自分でヨシとしないものは全部蹴ってここまできてる人なんだから! ここ数年だっていろんな団体から話がきても「えぇ、受けりゃあいいのになぁ」っていうようなお話も、本人の中でヨシとしないものがあるのか、けっこう蹴ってきてるからね。**プロはお金だけど、お金だけじゃないんだから!** 僕のところにだってね、いろんな話がきますよ。

――**それはズバリ、暴露本の執筆話とか（笑）。**

小佐野 でも、**いくら金がもらえるったって、それをやっちゃあ、お終いじゃない!** そこまでして業界にいたいと思わないもんね。

――たとえそれによって、大好きなハワイに行ける回数が増えようとも受けない、と（笑）。そんな男・小佐野さんから見て『ハッスル』での川田選手はどうですか?

小佐野 そうね、僕は『ハッスル』に関わってる人たちに関して思うのは、たとえば川田も髙田総統も、天龍さんもTAJIRIくんもそうなんだけど、その演じているキャラクターが好きとか嫌い、いい悪いは別として、真剣に取り組んでる姿勢は好きだよね。

――「真剣に歌うんなら、OK!」と（笑）。

小佐野 **あのね、川田と髙田がリングの上で一緒に歌を歌うって凄いことだよ!?**

――いや、凄いですよね。



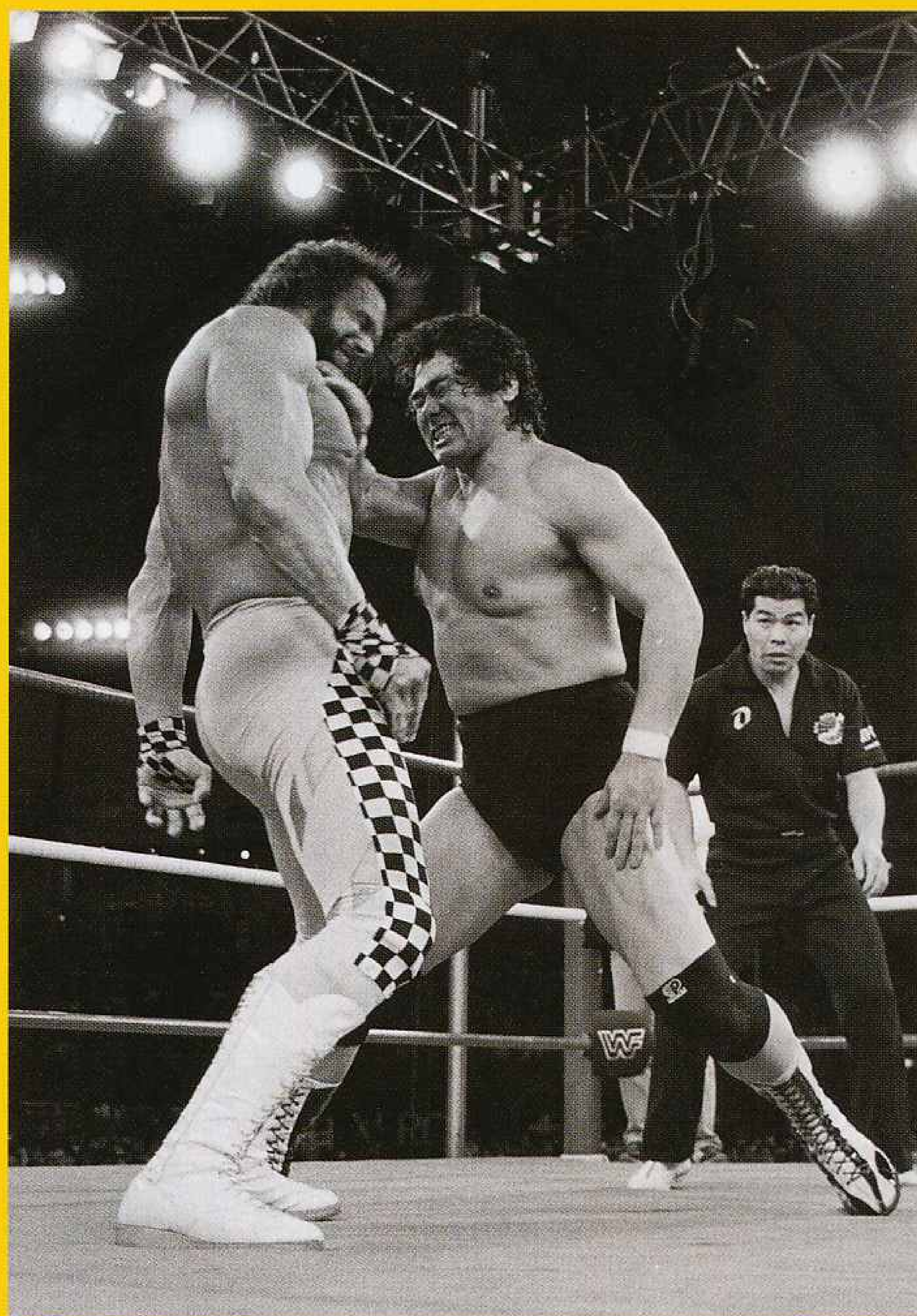
小佐野 “王道”と“最強”が歌を歌ってんだよ!? その当時、髙田延彦を世界最強だと思ってたファンと「王道こそがすべて」と思ってたファンが**あの光景をどう観るんだよって!!** まぁ……、**俺なんかは笑って観てるけどねえ。**

——かろうじて笑ってますか（笑）。

小佐野 で、『ハッスル』での川田を**「コイツはブレてないな」**と思うのは、これは全日本時代からそうなんだけど、とにかく来たお客さんを満足させる、チケットを買ってくれた人が「観に来て良かった」と言って帰ってくれる試合をしなきゃいけないっていう考えなわけ。それをいま違うかたちで『ハッスル』でやってるだけでしょう。歌を歌って、それでお客さんが儲かったなと思うんだったらそれでいいわけだし、それを考えると川田は考えがまったくブレてない。「やっぱり川田も**天龍同盟**なんだよな」と思ったね。

——**天龍同盟を再確認!** 詳しく教えてください。

小佐野 結局、天龍革命の始まりって長州たちが全日本プロレスから離脱して何もなくなっちゃったじゃない。じゃあ、これからどうするか? まずは「とりあえずお客さんにチケットを買ってもらえるようにしよう」っていうこと。当然そのためには来たお客さんが満足して、次に来るときにはそのお客さんにもう一人お客さんを連れてきてもらうようにしようというのが、天龍革命の根本の精神ですよ! そこで、天龍と阿修羅原がまず一番最初にやったのが、「地方でこそ、長い試合をする」と。地方の人は「やっぱり地方だから、手を抜くんだろう」と思ってたのが、そうじゃない。そうすると地方のお客さんは「テレビで観る武道館の試合と一緒だ!」って、会場に観に来てくれる。それがやっぱお得感でしょ? で、いまの『ハッスル』はというと**「どんなおもしろい催しものがあるんだろう?」**っていうお得感が凄くあると思うんだよね。だから川田はいまでもそういうことを凄い考えてると思う。そうでなきゃテツandトモなんてやらないでしょう（笑）。



プロレスの醍醐味とは何か? その答えは一つに縛られることはなく渾然となっているものだが、主にハードヒットが象徴とされた時代もあるだろう。格闘技志向だったときもあった。そして時代のニーズとともに変動していくものだが、固定観念にとらわれない天龍は、時代性に敏感だとも言える。

——それでもハッキリ言って、小佐野さんの中で「それでもこの方法論は……」っていう**寂しさ**みたいなものはあるんですよね?（笑）。

小佐野 あのねぇ……、ハッキリ言うと、寂しさっていうか実際いまプロレス人気って、たとえば土・日になるとちっちゃいハコ（会場）とかでインディーとかがいっぱい大会をやってて、とりあえずお客さんがいるじゃない? ということは、プロレスファンはいるんだなとは思うんだけども、専門誌が売れなくなったり、テレビ中継の時間帯も深かったりしてる。じゃあ、**こうなったらたとえどんな手法でもいい**から、たとえば『ハッスル』に地上波がついてプロレス人気が上がるんだったら、**かまいやしないや!** と思うよね!

——かまいやしないですか!（笑）。

小佐野 **ただ、**だからこそリング上のことを言うわけよ! ほら、こないだ山口（日昇）社長が記者会見をやったときに**「プロレスの尾てい骨**を残しつつ……」という言い方をしてたけども、ちゃんとその尾てい骨さえ残してくれればいいかな、と! だって、そっちの尾てい骨の部分こそがファンが観たいものだとなれば、そういう試合をみんなせざるを得なくなってくるだろうし、それはもう観る人のチョイスだから。プロレスの起爆剤になるんであれば、**もう手法はかまいやしないよね。**

——さすがハワイがお好きなだけあって、考え方が合理的ですねえ。自分で言ってて意味がわかんないですけど（笑）。

小佐野 そこは僕もちょっと冬木弘道的な考えなんだけどね。「とりあえずなんでもいいからお客さんに来てもらう。勝負はそこから」っていう。それはたとえば、輪島さんが相撲からプロレスに来たときもそうだし、北尾、曙もそうだし、彼らを観たくてお客が来るんだったら、もうどうぞ、どうぞ! と。**それでプロレスを好きになって帰ってくれたらそれでいいんだから!**

——そういう意味では、意外と『ハッスル』に期待を寄せてるわけですね。

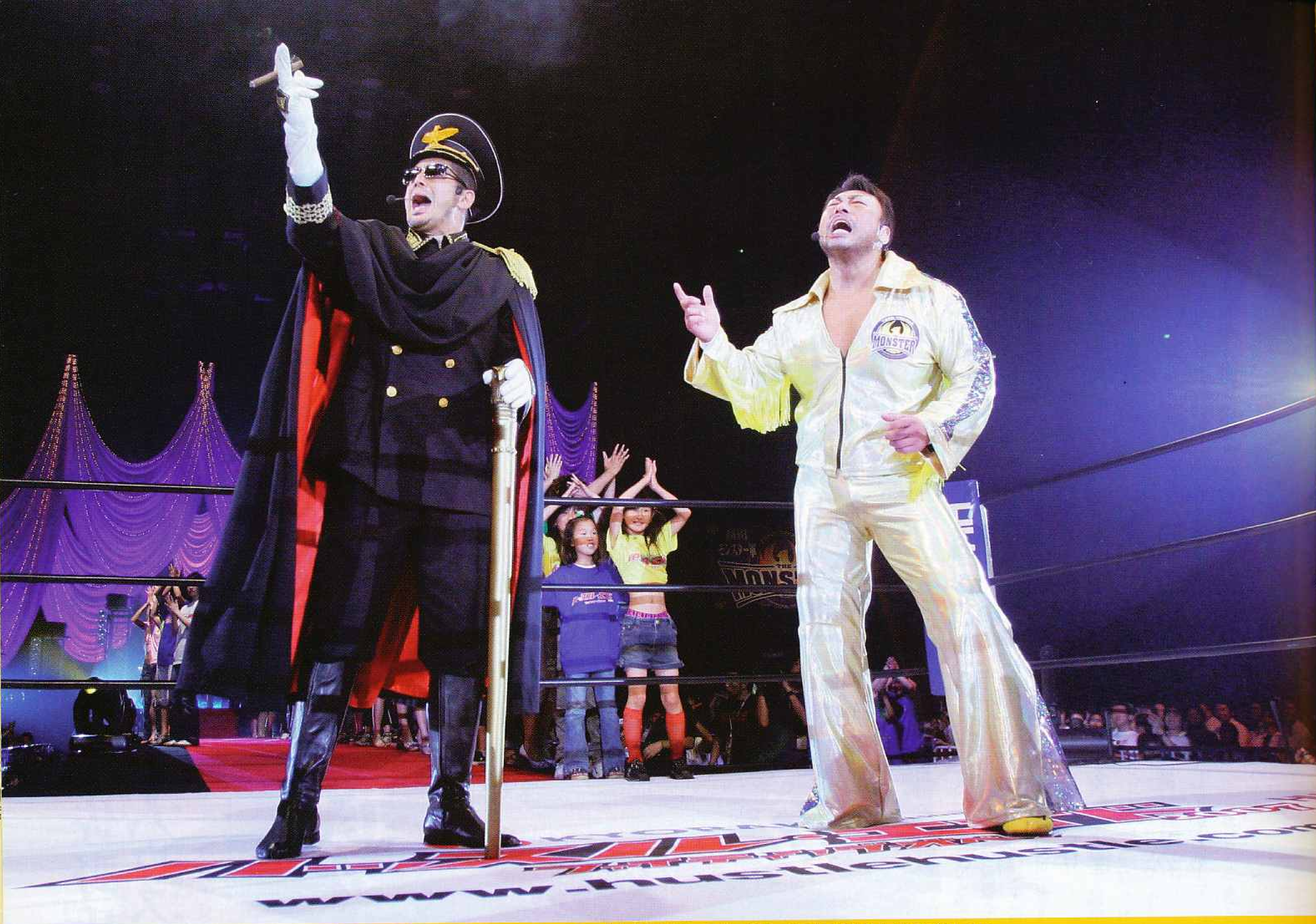
小佐野 う〜ん、**でもあんまり「いいよいいよ」と言ってても逆にダメだよなあ……。**

——どっちにしましょうか?（笑）。

小佐野 だからねえ、やっぱ『ゴング』時代でも問題だったのは、この**『ハッスル』の扱いをどうするかだったから!**

——やっぱり問題でしたか。

小佐野 ハッキリ言って、とくにかたちができてない頃の『ハッスル』って**突っ込みどころ満載の大会**だったでしょ? だからやり方としては**「徹底的に『ハッスル』をおもしろがる」**のが一つ。あるいは**「あっちこっち突っついて批判する」**のも一つ。あと記事の書き方も、一番安易なのは起こったことをそのま



組み合わせとしても、パフォーマンスとしても、数年前なら信じられない光景。ここまで突き動かされるプロレスには、いったい何が起こっているのか？　そしてどう消化していけばいいのか？　プロレスはいつ何時でも“底なし沼”だ!

ま書くこと。でもそれじゃあ**大人が読んだらバカみたいじゃない！**　じゃあ、起こったことの意味を書くようにしたほうが僕はいいんじゃないかなって。だから鈴木健想と和泉元彌が闘ったとき、僕はフリーの立場で『ゴング』の記事を書かせてもらったんだけども、やっぱり試合展開なんてどうでもいいんですよ。和泉元彌のプロレスへの取り組み方を書き、健想がその素人をどうさばいたのか、どういう気持ちでさばいてるのかを書く。新聞はやっぱり報道だから試合展開を書かなきゃいけないんだろうけど、我々はやっぱりその裏を読むじゃないけど、その意味を考えていかないとね！

――さすが、華麗に問題を解決しますねえ。

小佐野　ただ、意味を考えるったって、いまみたいにスキのないストーリーで進まれたら、考える余地もないよなあ……。

――よわりましたねえ（笑）。

小佐野　だから、やっぱり作られた世界でもいいんだけど、そこから見える本当の部分というか、本音の部分？　人間がやってることだからやっぱり感情が出るんだよね。そこの本音の感情の部分を観て書くってことだよなあ。

――それこそ、こないだの天龍vsHG戦で僕がその本当の部分を垣間見たのは、「天龍チョップを食らい続けると、声がかすれちゃうんだ……」っていう部分で（笑）。そんなとこにダメージが表われるのかっていう感動があったんですけど。

小佐野　いや、確かにHGも身体を張って頑張ってるよね。みんなもっとほめてあげないと。

――HGをもっとほめろ！　と。

小佐野　**ただ！　まだまだ天龍に勝つレスラーじゃないだろうって!!**

――小佐野さん、ちょっと声がかすれてきてますよ（笑）。

小佐野　ところで、今度の11日の『ハッスル・ハウス』には天龍さん出るの？

――展開上、当然出てくるでしょうね。

小佐野　11日はね、凄く興味があるんだよなあ！　**「はたして天龍さん、どうするんだろうか？」**って。ただ、僕の立場として興味があるのは、やっぱりそこまでして天龍さんがこの『ハッスル』ってものに真剣になってるってことは、あの人がそうなるぐらいの何かがこの『ハッスル』の中にあるんだなっていう部分だよ！



――ズバリ、僕の興味もそこですね。レスナーとアングルにきっちり完全決着をさせるアントニオ猪木のプロモーター手腕と同じくらい気になってますよ（笑）。

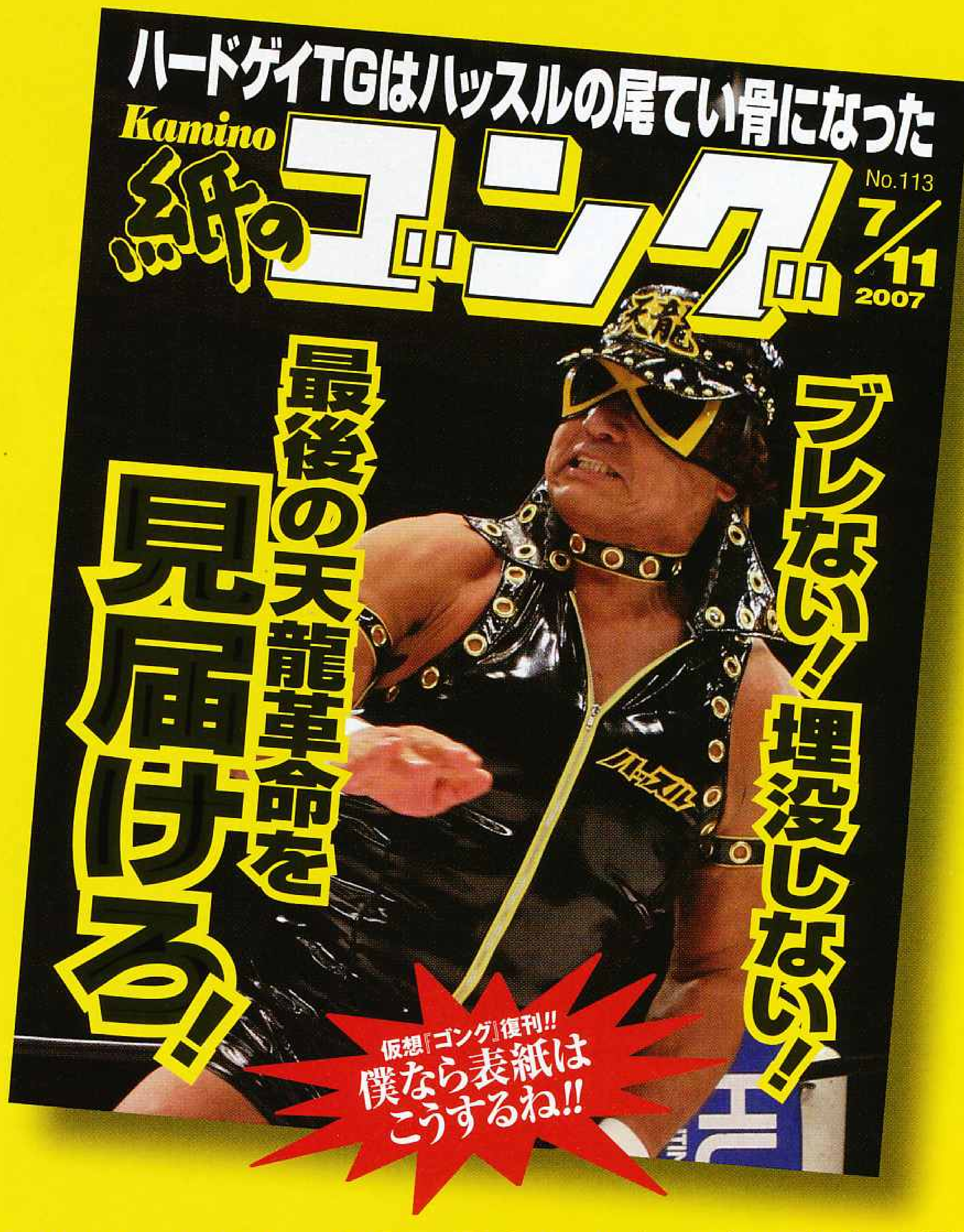
小佐野　そこが何かと思うから、ちゃんと『ハッスル』の会見にも足を運んでみたりだとかね、『サムライTV！』で（タイガー・ジェット・）シンに殴られたりしてるわけだよ！（笑）。

【07年7月2日／都内・本誌編集部にて収録】

……というわけで、小佐野氏は、7・11『ハッスル・ハウス』で“変身”した天龍源一郎をどう観たのか？　ショックどころかショック死寸前!?　“龍魂”溢れる王道リポートは次のページです!!

緊急
企画

元『週刊ゴング』編集長、小佐野氏が“龍魂込めて”7・11『ハッスル・ハウス』レポート!!



7・11『ハッスル・ハウス』にて天龍にまたもや大大大事件勃発!? ということで、大会のあと、急遽、小佐野氏に『週刊ゴング』ふうの表紙まで作っていただきました！ まさに“龍魂”、いや“ゴング魂”あふれるこのキャッチコピー！ 以下、小佐野氏の渾身のレポートをお届けします！

メイン終了後、『サンダーストーム』のメロディとともにハードゲイのコスチュームで乱入し、モンスター軍を蹴散らした天龍は理屈抜きでカッコよかった。ハードゲイ姿だろうが、腰を振ろうが、キャラに負けていない。それは天龍源一郎そのもの。迷いもなく、ここまでやる覚悟はどうだ！

7月11日の後楽園ホール。天龍は、私の中で何か釈然としないモヤモヤしていたものを一気に晴らしてくれた。

「大変なことが起こってるよ！」という髙田総統の驚き、「大将の芸の引き出しにそんなものがあったなんて、ある意味、俺、ちょっと悔しいな」という川田のボヤきには、客席から笑いが起こったが、二人の言葉には、素の感情の驚きと感嘆があったように感じられた。

天龍がHGに言い放った「男はな、覚悟を決めたら脇目も振らずに突き進むんだよ！」という言葉は決意表明だったと思う。キッチリと作られたストーリーの中で時折、垣間見えるナマの感情が『ハッスル』の醍醐味とも言える。

この日、天龍は『ハッスル』のデッカイ尾てい骨になった。これは、今後を考えると非常に大きいことだ。

例に出せば、全日本ではいくらお笑い芸人が試合をしてもファンが支持するのは「それも武藤敬司の世界の一部」と認識しているからだと思う。武藤への信頼感があるから、全日本では何があっても許される。だが、『ハッスル』にはプロレスファンが全面的な信頼を寄せられる何かが欠けていた。それが『ハッスル』を基本的には肯定している私が、いま一つ踏み込めない違和感、天龍敗戦の際のモヤモヤだったのだと思う。

そこで天龍がいま、『ハッスル』の中心人物になったことに意味がある。天龍という大きな存在によって、腰が引けていた従来のプロレスファンも違和感なく『ハッスル』を楽しめるのではないか。またモンスター軍と敵対するポジションになったことでvs川田、大谷、TAJIRI、ノートン、シン、はてはエスペランサーと、必然的にグレードの高い試合を提供できるはずだ。

馬場・全日本で古きよき時代のアメリカンプロレスを学んだところからスタートして、WWE、新日本、邪道・大仁田厚、Uインター、どインディー、冬木FMWのエンタメプロレス、全日本復帰＆ノア参戦での四天王プロレス、時代最先端のドラゴンゲート……と、あらゆるプロレスを体感してきた天龍が、最後に足を踏み入れたのはファイティング・オペラ。

ゲイ・コスチュームの背中にはWARの『WRESTLE AND ROMANCE』の文字があったが、これはシャレではない。天龍の『ハッスル』に懸ける決意である。

名前にあぐらをかかず、時代の流れの中に埋没しないで常にリアルタイムに生きようとする天龍。これこそ『LIVE FOR TODAY』だ。レボリューションをスタートさせてから丸20年……、天龍源一郎の生き方はなんらブレていない。

（小佐野景浩）



『WRESTLE AND ROMANCE』とは、1992年7月14日後楽園ホールで天龍が旗揚げしたWARのキャッチコピーであり、当初の団体名（団体名はのちにWrestle Association Rに変更）。この旗揚げ戦で小佐野氏は天龍＆阿修羅原と大会前のトークショーの司会まで行なっているのだから、その“龍魂”ぶりは筋金入りである。





ワァオ!! バカサバイバー あの"真也"がハッスル初観戦!!

青木真也が観た"橋本真也追悼"7.11『ハッスル・ハウス』

あの青木真也がファイティング・オペラを初観戦!
"バカサバイバー"の目に『ハッスル』、そして髙田総統や天龍"ゲイ"一郎はどう見えたのか?
プロレス村とはまったく違った、独自すぎる視点からズバリと直言!

聞き手/ジャン斎藤　撮影/山口比佐夫

――青木さ～ん! 今日は初観戦された『ハッスル・ハウス』の話を聞きたいんですけど。

青木 はいはい。

――青木さんは後楽園は何度も行かれてるでしょうけど、プロレスを観るのは?

青木 後楽園では初めてです。

――実際にどうでした? 青木さんが持っているプロレスのイメージと比べて。

青木 サイッコーでしたよ! 『ハッスル』って、あまり泥臭さがないですし。

――プロレスイコール、泥臭さ(笑)。ちなみに気になった選手は?

青木 ボクは断然、/(^o^)\チエ(以下、バンザイ・チエ)!

――なぜだ(笑)。もしかしてバンザイ・チエに恋でもしたり?

青木 う～ん、なんとなく惹かれるものを感じましたから。ビビビっと。それが恋として認定されるのかわからないですけど。

――それは恋ですね。理由がわからないのはだいたい恋ですから(笑)。でも、女性ならインリン様じゃないですか?

青木 いやあ、3年後にはインリン様を超える逸材になってますよ!

――なぜそこまでほめるんですか(笑)。……もしかして、付き合ってるんじゃないでしょうね?

青木 ククク! それ、いい!!

――ところで、HG衣装で乱入した天龍(源一郎)選手のことはご存知ですか?

青木 知ってます! グーパンチの人!!

――グーパンチの人(笑)。ファンの中には、あの無骨な人がHG姿になったことにショックを受けてる人もいるんです。

青木 あ、そうなんですかぁ(ごくあたりまえのような口調で)。けっこう似合ってるんじゃないですか? 身体もムチムチしてますし。近くで言ったら、殺されそうだけど(笑)。

――ハハハハハ!

青木 あと髙田総統は"相当"おもしろいっすねぇ! はい。「相当、総統おもしろい!」(笑)。ククククク!

――(無視して)もしかして髙田総統は初体験ですか?

青木 ええ。髙田本部長とは全然キャラが違うのがいい!

――いや、別人ですから。

青木 (無視して)普段の髙田さんはたそがれてる感じじゃないですか?

――たそがれてますか(笑)。

青木 あの「ちょっといいかな?」ってマイクを持ってるイメージ。その感じとは違うのがいいんです。ホントに『ハッスル』はまた観たいし、とにかくバンザイ・チエ! 次号はバンザイ・チエとの対談でお願いします!

――そんなことより、昨日、開催の『HERO'S』で、TBS的には『PRIDE』とK-1の対抗戦が行なわれたそうなんですけど(笑)。ご感想は?

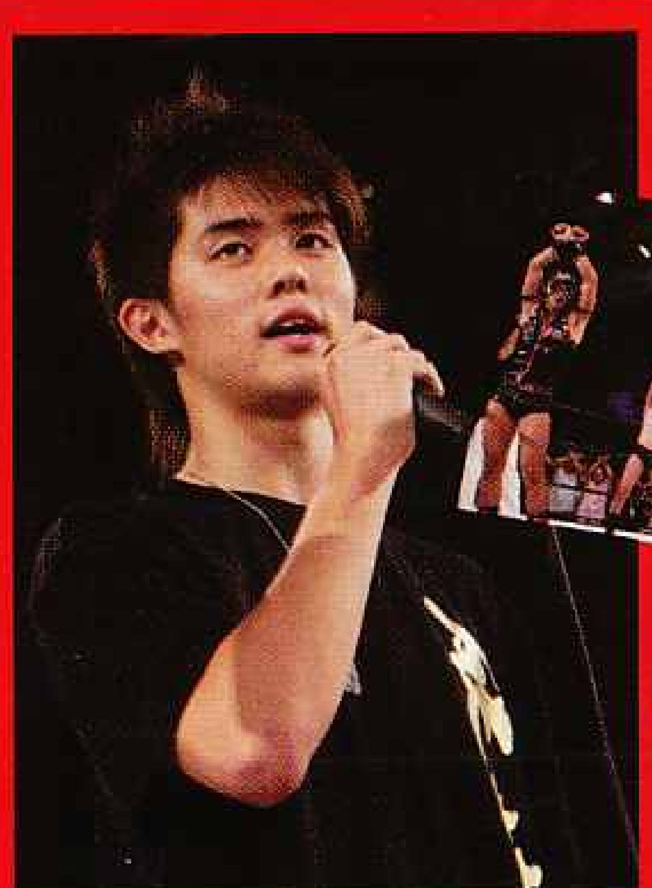
青木 『PRIDE』との対抗戦? えっ? そんなのあったんですか? わけわからないです。まぁ、どっちでもいいです。ボクはボクにしか興味ないですから(笑)。

【07年7月17日/電話取材にて収録】

天龍、待望のハッスル軍入り!! "龍ゲイ砲"結成か?(7.14浜松大会)
うわ～～ん! 大地くんがプロレスラー宣言だよ――ッ(7.11後楽園大会)

ハッスル 7月シリーズ TOPICS!!

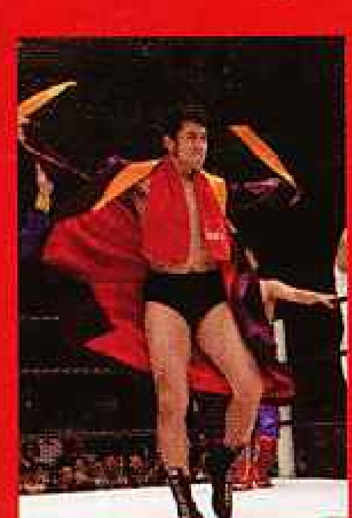
ハッスル・ハウスvol.26 ハッスル・キング フォーエバー2007
[7月11日(水)後楽園ホール]





ジャイアンばりに今度こそ、『YAH YAH YAH』のリサイタルを狙った川田だがチャゲ&飛鳥のモノマネ芸人・ノブ&フッキーが乱入! これにもめげず見事なハーモニーで絶唱!





いよいよ時は来た! 絶賛発売中の『紙の破壊王』第2弾では「期待しないで見守っててください」と語っていた破壊王ジュニア、橋本大地くんが「何年かかってもプロレスラーになります!」とズバリ!

やれんのかーッ! 芸人・アントキの猪木が『ハッスル』で(あまり馬場らしくない)パポとBI激突! 最後は「今宵はプロレスか、はたまた狂言か……」と十八番のIGFネタも披露!

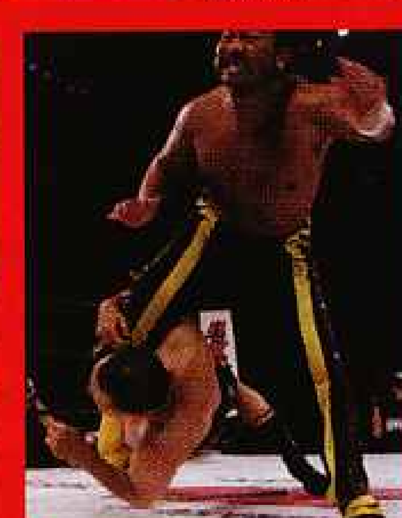
ハッスル24
[7月14日(土)アクトシティ浜松]



今年は天龍同盟結成からなんと20周年! 天龍"ゲイ"一郎から3日後の浜松大会でまたもや"龍魂"が再点火! 試合後にはハッスル軍に合流し、ハッスル・フォーのポーズも披露! こうなればHGとの"龍ゲイ砲"タッグも目前か?



こんなのプロレスの教科書にも載っていない! TAJIRIのイン乳を飲み干した大谷は、破壊的なパワーで大激勝!



ボクにもできたヨウ! RGが川田に初ドラゴンスクリュー! 天龍との"WARG"結成にまた一歩近づいた!?



後楽園でご懐卵が発覚したインリン様がお産を決意! 妊娠生活マガジン『たまごクラブ』(ベネッセ刊)によれば、お産にはビタミンCの補給がマスト。"浜名湖みかん"をパクリ!

ハッスル・ハウスvol.27　8月15日(水)後楽園ホール　開場18:00/開演19:00
[入場料金(全席指定・消費税込)]ハッスルVIP〈ハッスル・ビップ〉10,000円/スタンドS 7,000円/スタンドA 5,000円/スタンドB 3,000円

ハッスル24　8月18日(土)愛知県体育館　開場14:00/開演15:00
[入場料金(全席指定・消費税込)]ハッスルVIP〈ハッスル・ビップ〉(ハッスルグッズ付)12,000円/RRS〈ロイヤルリングサイド〉8,000円/スタンドS 6,000円/スタンドA 4,000円
※ スタンドA席のみ小学生以下は2,000円。ハッスルエンターテインメントにて受付

[お問い合わせ]ハッスルエンターテインメント　TEL.03-5464-1731　http://www.hustlehustle.com/

南半球発
本格



夢とファンタジーが足りないマット界へ!!

いまこそ プロレススターウォーズ!!

みのもけんじ



いま、マット界には夢が足りない!!　ということで、現状のマット界に“活”を入れるべく『kamipro』に登場してくれたのが、かつてプロレスファンを虜にしまくった『プロレス・スターウォーズ』の作者みのもけんじ氏である!　『プロレス・スターウォーズ』といえば、スペクタクル&ファンタジーにあふれる“最狂”のプロレス漫画（詳細は次ページへ）であり、熱狂的なプロレスファンであるみのも先生ならではの傑作である。そんなみのも先生が本インタビューで現在のプロレス界、さらにはMMAシーンに言及。ロマンあふれすぎる妄想を展開してくれた!!

聞き手／堀江ガンツ

うわ〜ん、うわ〜ん、みのもけんじ先生が『kamipro』に登場してるよ〜（泣）。

というわけで、数あるプロレスファンを陶酔させてやまなかった伝説の漫画、『プロレス・スターウォーズ』（以下、『プロスタ』）をご存知だろうか。『プロスタ』といえば1984年から87年まで『フレッシュジャンプ』（集英社刊）にて連載されていた〝史上最狂〟のプロレス漫画であるが、単にプロレス漫画という範疇で語るにはあまりにも窮屈すぎる傑作なのである！

原案は原康史（元『東スポ』桜井康雄氏のペンネーム）、画はみのもけんじというタッグで生み出されたこの『プロスタ』は、80年代のあるときに日本プロレス界にアメリカプロレス界が全面戦争を仕掛けてくるというダイナミックなストーリー。この緊急事態に、当時、全日本プロレス、新日本プロレスのヘッド&ライバル関係にあったジャイアント馬場、アントニオ猪木が手を取り合い、さらには長州力、藤波辰巳（当時）、ジャンボ鶴田、天龍源一郎ら、あらゆるレスラーが団体の垣根を越えて日本プロレスを守り抜くという夢の展開が繰り広げられるのだ。しかも、その登場人物はすべて実在するレスラーが本物の名前で登場〜ッ。いまでは絶対考えられませんっ!!

またストーリーもさることながら、漫画の描写においても、生身の人間であるはずのレスラーが『ドラゴンボール』ばりに空高くジャンプしたり、あるいは急に目が光ったり、さらには江原啓之もビックリ！　幽体離脱まで実現してしまうという現実を超越したものに!!　しかも、そこまで現実離れしたことをやりながら、なぜかリアリティは保ち続けていたのが『プロスタ』の『プロスタ』たるゆえん。ここまでくるとさすがに『プロスタ』の素晴らしき世界がご想像いただけるだろうか。



©原康史・みのもけんじ／ホーム社

ここでは、そんなプロレスファンを興奮のるつぼに落とし込み、桃源郷へと誘った『プロスタ』の作者、みのもけんじ先生にインタビューを試みている。『プロスタ』という夢とファンタジーにあふれた素晴らしき傑作はいかにして生み出されたのか？　そして、〝プロレス狂〟の一人として、いま、みのもけんじ先生がマット界に思うこととは!?

――「いま、マット界には夢やファンタジーが足りない！」というわけで、今日は伝説のスーパープロレス漫画『プロレス・スターウォーズ』の作者、みのもけんじ先生に『プロスタ』のすべてを語っていただきたいと思います！

みのも　よろしくお願いします。お役に立てるかどうかわかりませんが（笑）。

――ちなみに、僕はちょうど『プロスタ』の直撃世代というか、小学校4、5、6年のときに『フレッシュジャンプ』の連載を読んでた世代なんですよ。

みのも　そうなんですか。いまはおいくつなんですか？

――33歳です（笑）。

みのも　僕も歳をとるはずだよねえ〜（しみじみと）。

――ダハハハハ！　でも、当時は本当にプロレスの黄金期というか、『フレッシュジャンプ』の中でも目玉の一つとしてプロレス漫画っていうのが確固たる地位を築いてましたよね。

みのも　一時期、『フレッシュジャンプ』はプロレスものばっかりになったんですよ。だって編集長が中野和雄さんでしたからね。あのキン肉マンに出てくる……。

――えっ!?　もしかしてアデランスの中野さんですか？

みのも　そうそう（笑）。あの人が編集長だったんですよ。それで連載陣がゆでたまごさん、コンタロウさん、それから僕とかがいるから、みんな「プロレスで特集本を作ろう！」とか、そういう雰囲気はあったんだよね。

――『CAN☆キャンえぶりでい』（ひすわし作）だって、父親がハルク・ホーガンそっくりの設定でしたもんね。

みのも　詳しいねえ（笑）。

――熱心な読者でしたから（笑）。でも『プロスタ』って初めはどういうふうにしてスタートすることになったんですか？

みのも　最初、僕は野球漫画とかそういうのを描いてたんだけど、編集長の中野さんが僕がプロレス好きなのを知ってて、ある日「テリー・ファンクに会わせてあげる」って言ってくれたんですよ。それがきっかけで『さよならテリー』っていう読みきり漫画を描いたんですけど、それがなかなか評判がよかったらしいんです。それから、中野さんと「じゃあ、プロレス漫画を描きましょうか」ということで始まったんですよね。

――アデランスの中野さんの発案でスタートした、と（笑）。

みのも　で、どういうストーリーにしようかと考えたときに、僕自身が子どもの頃に読んでた桜井（康雄）さんの『プロレス太平洋戦争』っていう小説があったんだけど、それが凄くおもしろくて印象に残っててね。それで、その小説をそのまま漫画にしよう、と。だから、『プロスタ』の初期は、ほぼ『プロレス太平洋戦争』そのままのストーリーなんですよ。

――そうだったんですか！

思い入れがあるのは、やっぱり猪木の幽体離脱とかウォリアーズの回かなあ

みのも　だから導入部分のアントニオ猪木とジャンボ鶴田が日本選手権をやってて、次はジャイアント馬場が猪木に挑戦するというのは、『プロレス太平洋戦争』そのままですね。あの小説が凄くおもしろかったから、桜井さんに「ぜひ描かせてください！」っていう話を持っていったんですよ。そしたら「どうぞ、どうぞ」って。

――ということは、当初は『プロレス太平洋戦争』の原作に基づいて描こうということだったわけですね。

みのも　まあ、さすがにタイトルは変えなきゃいけないねって話はしたんだけどね。だって、『プロレス太平洋戦争』じゃあ、ちょっとおっかないでしょ？（笑）。

――よく聞くと凄いタイトルですよね（笑）。少なくとも『フレッシュジャンプ』では載せられなさそうです。

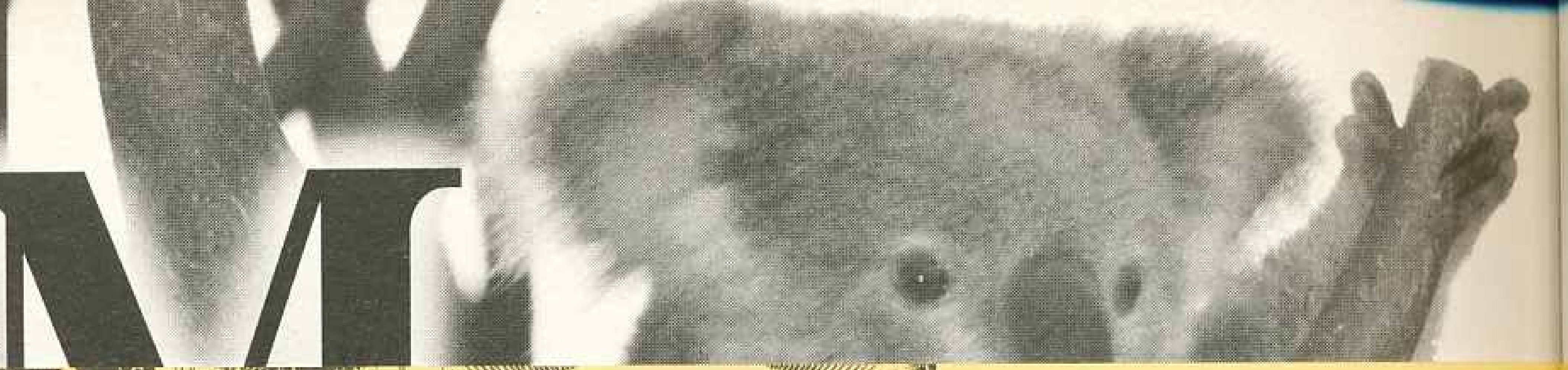
みのも　だから、当時は映画の『スターウォーズ』が流行ってたから、もう、それにしようというね。

――よく言われると思うんですけど、『プロスタ』って全員が実名で登場してるじゃないですか。それっていまでは考えられないことですよね。

みのも　だから、やっぱり桜井さんがいたからこそ描けたんだよねえ。ありがたいことに「なんかあったら僕が話をするから、みのもくんは思いっきり描いてよ！」って言っていただきましたからね。

――当時の『東京スポーツ』桜井康雄といえば、プロレスのコミッショナーみたいなもんでしたもんね。

みのも　その人のお墨付きがあったおかげで、僕も本当に自分の好きなよーに描けたんですよね。凄い楽しかったですもん！





©原康史・みのもけんじ／ホーム社

――そりゃ楽しいでしょう（笑）。だって、言ってしまえばマッチメイカーで、夢のカードがどんどん実現できるわけですもんね。

みのも　そりゃ、漫画に出てくる子どもも泣いちゃうよねえ（笑）。

――ダハハハハ！『プロスタ』って客席は子どもたちばっかりっていうシーンがほとんどでしたけど、あれって要は読者層が子どもだったからってことなんですよね？

みのも　そうね。最初はそこまで意識してなかったんだけど、やっぱり僕の漫画を読むのは小学生だし、彼らがコメントしてたほうがおもしろいんだろうなと思って描いてましたね。そしたら、みんな泣くようになっちゃった（笑）。

――非常に感受性豊かな小学生たちですよね（笑）。

みのも　自分でもなんであぁいうふうになっちゃったのかわからないんだよ！　でも、描いてるうちに「馬場と猪木がこんなことやったら、やっぱり泣くよなあ」とか思ったりしてね。

――BI砲に涙を流して夜明けまで応援している子どもたちって凄いですけどね（笑）。ちなみに、みのも先生が一番思い入れをもって描いたシーンってどの部分ですか？

キン肉マンは超人だからいいけど、BI砲は目が光ったり、あり得ないくらい高く飛んでたよねえ

みのも　やっぱり、ロード・ウォリアーズの回とか、猪木の幽体離脱とか、そのあたりになるねえ。

――猪木の幽体離脱（笑）。試合内容がどんどんスペクタクルになってくる時期ですね。

みのも　そうそう（笑）。ウォリアーズの回あたりからだもんね、話が"バケモノ化"しちゃったのは。

――それからはもう試合内容が『キン肉マン』以上というか、実在する人物でスペクタクルになってましたよね！

みのも　『キン肉マン』の場合は超人だからいいんだけどねえ。でも、どんどんエスカレートして、BI砲の目が光ったり、あり得ないくらい高くジャンプしちゃったりね（笑）。

――それが、読んでてなんの違和感も感じないっていうのが、また凄いですけどね。

みのも　それに、ウォリアーズとか外国人レスラーって、昔は来日する前は写真1枚とかしか情報がなかったじゃない。ウォリアーズも来日するまでは暴走族スタイルの写真がちょこっとしか載ってなくて、どんな動きをするかもわからなかったんだけど、漫画ではなぜか日米対抗5対5タッグマッチのメンバーに入れちゃったんですよ。でも、描いたはいいけどそっから情報がまったくないもんだから「こりゃ、最後に登場させるしかないなぁ」とか思いながら描いたんだよね。

――見切り発車ですか（笑）。

みのも　でも、そしたらちょうど『世界のプロレス』っていう番組でウォリアーズのことが出てて「これは凄いレスラーじゃないか！」って。それで、漫画のウォリアーズがあんなに強くなっちゃったんだよ。

――でも、あのウォリアーズ人気って、絶対に『世界のプロレス』と『プロスタ』のおかげだったと思うんですけど。

みのも　ああ、そういうふうに言っていただくこともあるみたいですね（照れながら）。

――しかも、明らかに実物よりも漫画のウォリアーズのほうがおもしろくて強いっていう（笑）。

みのも　漫画では強かったもんねえ～。自分で言っちゃうのもなんだけど（笑）。

――さらに凄いのが、BI砲がじつは力道山が作り上げたウォリアーズだったっていう話の飛躍の仕方ですよね（笑）。

みのも　アハハハハ！　べつに、僕もホラ吹こうと思ってやってたんじゃないんだけど、どんどんアイデアが出てきちゃったんですよ。いまだったら「嘘ついちゃいけないな」とか思いながら描くかもしれないんだけど……。猪木の幽体離脱だって、明らかにあり得ないもんね！

――"イタコ"が登場する『ハッスル』ですら、まだ幽体離脱には到達してません（笑）。

みのも　僕もなんであんなの描いちゃったんだろうなあって思うことなあるんだよね～。そういうのって、小学校の頃に読んで

©原康史・みのもけんじ／ホーム社



ソクジュもビックリ！　『プロスタ』に登場したジャイアント・キマラは、殺したライオンの生首片手に入場。人間界のキリンこと（?）馬場さんと対戦。まさに“アフリカン・アサシン”だ!

てどう思ってました？

——いや、なんの疑問も抱かずにひたすら読んでましたけどね。

みのも　目が光ろうが？　リングが割れようが？

——まぁ、『キャプテン翼』だって20メートルぐらいジャンプしてましたからね。ウォリアーズなら、壁ぐらい突き破るだろう、と（笑）。

みのも　そうだよねえ。ああなったらリズムだし、目が光ったり、会場ぶち壊したほうがカッコいいしね！

——そういう漫画的表現よりも、ボブ・ガイゲルとか、ジム・クロケットJr.とか、マニアックなアメリカンプロレス関係者が登場してたことのほうが驚きでしたよ（笑）。あとは、ミッシング・リンクとか未来日のレスラーも描かれてましたよね？

みのも　そうだねぇ。しかも、それがまたワケありげに境遇を語ったりするからね！

——どんな人生を送ってきてるんだってぐらい（笑）。

みのも　ジャイアント・キマラなんかライオンの肉を食べながら入場してたでしょ？

——しかも、そのライオンの〝お頭〟を鷲づかみにして入場してました（笑）。

みのも　僕もキマラにはそんなにめちゃくちゃ思い入れがあったわけじゃないんだけど、何かの本で「みのもさんは、よっぽどキマラが好きなんだろうな」って書かれたこともあったんですよ。僕は単純に、子どもが喜ぶかなあと思って描いただけなんだけどさあ。

——確かに、僕も子どもの頃はああいうレスラー大好きでしたよ！　カブキ&ナガサキ組とか、幻想が高まってしょうがなかったです。

みのも　でも、なんでキマラはあんなこと描いたんだろうなあ。……（深く考え込んで）確か、向こうの人は獣を捕まえたときにボコボコにして肉を軟らかくして食べるっていう話があったからだったような気がするんだけどねえ。

——いずれにしても、実在のキマラとは関係ないわけですね（笑）。でも、確かに当時のプロレス雑誌とかって、報道自体がもう『プロスタ』と紙一重でしたもんね。

みのも　そうそうそう。ウォリアーズはスラム街でネズミを食って生活してたとかね（笑）。でも、けっこうマニアックっていうか、あまり知られてないレスラーとかを出しすぎると、編集の人たちから「みのもさん、そこ知ってるかなあ？」とか言われてたんだけどね（笑）。

一つだけ『プロスタ』で後悔していることがあるんですよ。それは……

——アンドレが国際プロレスの故・吉原社長のために闘ったりする回は、少年誌の枠をかなり超えてたと思いますね（笑）。

みのも　でもさぁ、僕としてはやっぱり「吉原社長はちゃんと漫画の中でも10カウントを鳴らさなきゃいけない！」っていう思いがあったりしたんですよ。アンドレだって、きっと吉原社長のために泣くだろうしね。

——将軍KYワカマツだって、もちろん泣くだろう、と（笑）。

みのも　そりゃそうですよ！　あと、編集の人には一番初めにレスラーを描いたときに「レスラーって、もうちょっと首がでかいんじゃないですか？」って言われたこともありましたね。それで「ああ、確かに顔よりも首を大きく描くようになったら決まるなあ」と思って描いてたんだけど、そうしてるうちに、どんどん筋肉質になっていったっていうのもあったけどね。馬場さんはそんな身体じゃないだろ！　って思いながらも（笑）。

——怒りに震えて、馬場さんの身体が倍以上にマッチョになったシーンは、すでにジャイアント馬場像を超越してましたよね（笑）。

みのも　いま見たら、へんだもんねえ、やっぱり（笑）。でも、馬場さんに一回その絵を見せたときに「いい男に描いてくれてありがとう」って言われたんだよね。

——ダハハハハ！　でも、編集者の方も非常にいいアドバイスをしますよねえ。

みのも　彼らもプロレス好きだったから。ただ、やっぱり「人気があるレスラーを使わなくちゃダメだ」ってことはよく言われてましたね。だからミッシング・リンクとか出したときは「誰だ、これは？」とか言われたりしましたけど。

——少年誌で天龍源一郎vsミッシング・リンクが延々と描かれてたのって、もはや奇跡ですよ！（笑）。

みのも　僕はミッシング・リンクというより、むしろマネージャーのプリングル三世、のちのポール・ベアラーを描きたかったんですよ。だからミッシング・リンクを登場させたんだよねえ。……あ、そういえば、僕、『プロスタ』で一つだけ後悔していることがあるんですよ。

——ほう。どんな後悔でしょう？

みのも　ビンス（・マクマホン）なんだけどさ、当時のビンスなんか、「こんな人、出してわかるかなあ」と思うくらいまだ知られてない状態で漫画に出してたんだけど、僕もそれなりに想像力を働かせて「ビンスはこのくらいさせたほうが絶対におもしろい！」って思いながら、レフェリーにさせたりしてたんですよ。

——ああ、そうでしたよね。アメリカンプロレス軍の首領が、レフェリーとして登場してましたよね。

ビンス　でも、いま実際のビンスは、レフェリーどころか、プロレスやってたりするでしょ？　だから、「負けたなあ〜」と思って（悔しそうに）。

——ダハハハハ！　本物のビンスは『プロスタ』を超えましたか！（笑）。

みのも　超えられたよ〜。だって、自分でプロレスやってるんだもん。息子を殴ったりさあ、いろいろやってるでしょ？

——最近は爆死までしましたからねえ（笑）。

みのも　そうだよねえ。だから、やっぱり



後半は〝恐竜パワー〟とかそっちにいってゴチャゴチャになっちゃったよね

ハルク・ホーガンみたいにバリバリっと服を破ってマッチョなビンスが試合をしてたら完成だったんだろうなあ〜。

——それは悔やまれますねえ（笑）。

みのも　ちょっとその頃は情熱がなくなってたもんなあ。情熱的だったらもうちょっと膨らませたのかもしれないけどさあ。

——でも、そういう意味では現実と漫画の乖離している部分において、読者から「馬場はこんなんじゃねえ！」みたいな抗議っていうのはなかったんですか？

みのも　う〜ん、それはなかったねえ。だって、ファンレターくれる子たちって、確実にプロレス好きな子でしょ？　プロレス好きじゃない人はたぶん見てないだろうからそういうのはないんじゃない？

——でもプロレスファンでも、自分の中の猪木像だったり、長州像だったりがあるわけじゃないですか。そこが違ったりする人もいたかもしれないのになあって。

みのも　なるほどね。でも、文句みたいなのはなかったねえ。たぶん、僕の場合って当時のプロレスファンと同じだったんだろうね、思考回路が。れっきとした大人なのに、小学生の気持ちで描いてましたから。

——反対にプロレス団体からのプレッシャーはどうでした？

みのも　ぜんぜん！　そこは本当に桜井さんのおかげなんだけど。

——でも、さすがに勝敗っていうのは気を使ったんじゃないですか？

みのも　それはやっぱり当たり障りのないようにしたよね（笑）。だから、引き分けの試合とかも描いてたでしょ？

——日米タッグマッチの鶴田＆藤波vsハンセン＆ブロディですよね。

みのも　まだまだ新日、全日が分かれてるときだから、負けさせたらこれはヤバイだろうなっところはあったよね。

——外国人レスラーでも日本でレギュラー参戦していない選手は「負けさせていいな」っていうのが見受けられたんですよ（笑）。だから、キマラとかラシアンズは負けても、ハンセン、ブロディとかレギュラー外人は簡単には負けなかったですもんね。

みのも　でも、やっぱりハンセン、ブロディも猪木には負けなくちゃしょうがないから、そこは負けたけどね。本当、どっちも持ち上げて持ち上げて描いて作ってたような気がするねえ。それがたぶん後半は限度がきちゃったんだろうなあ。〝恐竜パワー〟とかそっちのほうにいっちゃったからね（笑）。最終回なんてドリフのエンディングみたいにゴチャゴチャになっちゃうっていう。

——勢いで終わらせちゃいましたか（笑）。

みのも　いろんなレスラーが出てきてメチャクチャになって、「やっぱりプロレスって最高だよなあ〜」で終わっちゃったじゃない。あれは我ながら力技だよねえ。

——そしてBI砲はなぜか泣いてるという（笑）。

みのも　でも、これは手塚治虫さんが『鉄腕アトム』を作ったときに言われてたんだけど、アトムが日本で一番強いロボットになって、次に世界で一番強いロボットになって、最後に宇宙のロボットみたいなことやったじゃない。そしたら「もうやることがなくなっちゃった」って言ったんですよね。それみたいに、僕も目を光らせたり幽体離脱とかさせちゃうと、やることがなくなっちゃったんだよね。

——えてして少年漫画ってそういう宿命にあるものですけど、凄いのは実在する人しか出てこないのに、ここまで続けられたっていうことだったり、最後までリアリティを保ってたってことだと思うんですけど。

みのも　やっぱ好きだったんだろうなあ。でね、レスラーの人たちもよく読んでくれてたみたいで、三沢（光晴）さんもタイガーマスク時代に「僕も出してくださいよ」みたいなことを言ってくれてたんだよね。まあ、さすがにマスクを被ってる以上は出せないよなあってことになったんだけど（苦笑）。

——ああ、なるほど。プロレスラーの肖像権は桜井さんの顔でなんとかなるけど、『タイガーマスク』の肖像権はなんとかならなかった、と（笑）。

みのも　『タイガーマスク』は梶原一騎さんの漫画だからね。それで「マスクを脱いだときに描いてくださいね」みたいな話をされてたんだけど、その頃はもう終わってたからね。

——いまだったら、たぶんこれタイガーマスクだけじゃなくて、全員に肖像権が発生してますよね（笑）。

みのも　だからいまは全部漫画で『プロスタ』をやるのは難しいってことで、『モバイ

©原康史・みのもけんじ／ホーム社



ドーン!　でたぁ〜、おばけ〜〜!　瀕死の猪木にブロディがトドメのキングコングニーを叩き込もうとすると、猪木の中から“猪鬼”が登場!　このあたりから『プロスタ』は“なんでもあり”路線がスタート、ビガロが恐竜になったり、ケビン・サリバンが大蛇になったりしたのだ。

ル・ゴング』なんかでも小説にしてたんだよね。描いても何も言わないのかもしれないけど、言われたらやっぱり大変じゃない。

——いまはゲームでもなんでも、実名で登場させる場合はお金が発生しますからね。

みのも 水島新司先生の漫画もでしょ？

——『ドカベン』も「プロ野球編」になってからは大変そうですよね。昔は少年漫画とかでも長嶋とか王とかいっぱい出てましたけどね。そう考えると、やっぱりいまの時代に、いまのプロレスで『プロスタ』っていうのはなかなか難しいですよね？

みのも それに、選手が自分よりぜんぜん若いでしょ？ そうすると思い入れっていうのがまた子どもの頃に見てたものと違うじゃないですか。ちっちゃいときに見たレスラーに対する思い入れと比べるとね。だから、そういうところが難しいですよね。でも、たぶん若い人たちがやれば情熱をもってできるんじゃないですか？ ……年寄りみたいなこといっちゃうけど（笑）。

——やっぱり情熱が違いますか。

みのも だってさ、当時はレスラー一人一人が生い立ちを含め魅力的な話をすでに持ってたでしょ？ でもいまは全部身近な話が多いというか、妄想するまでもいかないじゃない。「○○高校卒業して、インターハイに出ました」とかね。僕はそんなんじゃなくて、「お父さんが木こりで2メートルある、お母さんも2メートルある」とかさ。「どっかから木を担いで出てきた」とか、そういう話を聞くと興奮するわけよ！

——それは妄想しがいがありますよね（笑）。

みのも そいつらがどんな技を使うのかとかを考えるとね、やっぱりどんどん描けるんですよ！

——技といえば、『プロスタ』の中には素晴らしいオリジナル技がたくさん出てきましたよね。「逆卍固め」とか「ダブルスピニングトーホールド」なんかもありましたし。

みのも あ、あのダブルスピニングトーホールドはね、のちの大仁田厚が一度テリー・ファンクと一緒にやったんですよ！ あれはちょっと嬉しかったなあ～（しみじみと）。

——僕も、当時は友だちとプロレスごっこやりながら、『プロスタ』の技を実際にかけたりしてたんですよ。相手を仰向けにしてのリバーススピニングトーホールドとか。猪木の逆卍固めとか。でも、あれははっきり言ってできませんね！（笑）。

みのも アハハハ！ あ、そう!?

——とくにリバーススピニングトーホールド。あれは人間の脚はあっちには曲がらないですよ！

みのも だから（タイガー・ジェット・）シンは脚が折れたんだよお!!

——ダハハハハ！ じゃあ、猪木の逆卍固めは？

みのも う～ん、あれはできないよねえ。荒川静香くらいだったら技にかかるかもしれないけど、普通の人じゃたぶんできない。なんで考えついたんだろうなあ～。

——でも、あまりにも凄い技になると、「ドガン！」とか「ガガガガ！」とか効果音だけで、結果的に相手がリング上に倒れてたりするシーンもありましたよね（笑）。

みのも あった、あった！ あれはいまだに自分でもどういう技だったのかわからないもね！

——ダハハハハ！ みのも先生にもわかりませんか。そりゃ誰にもわからないはずだ!!

みのも でも、何か凄いことが起こってるだろうね。それを観てリングサイドの子どもたちが震えてるっていう感じでね。

——素晴らしき漫画の手法ですよね（笑）。

みのも ホントだよねえ。僕も取り憑かれてたんだろうなあ。でも、技ってことでいうと、いまはレスラーのほうがいろいろ凄い技を考えたりしてるみたいだけどね。

——いまプロレス技ははてしなくありますからね。先生はいまでもプロレスはご覧になってるんですか？

みのも 地上波はもちろん観てるし、G+とかCSでも観てます。ただ、スカパー！にはまだ入ってないんだけど……、そこに入

人間の脚はあっちに曲がらないって？ だからシンは脚が折れたんだよお！

©原康史・みのもけんじ／ホーム社



これがみのも先生もどんな技かわからないという、ロード・ウォリアーズの超荒技、ウォリアーズ・クラッシュNO.3だ！ あまりにも速く、そして強烈なこの技は「バキッ、バァキィ!!」という音だけが聞こえ、次の瞬間、BI砲が宙を舞う！ ウォリアーズがこの時点で未来日なことをいいことに、怪物化させすぎだって！

注釈

■フレッシュジャンプ
集英社が刊行していた月刊漫画雑誌。1982年創刊、1989年休刊。新人漫画家の読みきり漫画を掲載することから「フレッシュ」ジャンプだったが、ゆでたまごや鳥山明など、超売れっ子が週刊連載と並行して連載していたことから、小学生を中心に熱い支持を受けていた。また、プロレスブームだったこともあり、やたらとプロレス色が強い特集が組まれ、紙相撲ふうプロレスやウォリアーズのピンナップなどがあたりまえのように付録としてついていた。

■アデランスの中野さん
漫画『キン肉マン』に登場する、カツラを被ったテレビ解説者。口癖は「女房を質に入れても見なあきませんな！」。そのモデルは『週刊少年ジャンプ』の編集者、『月刊フレッシュジャンプ』の編集長だった中野和雄氏。コンタロウ、ゆでたまご、小林よしのりなど、なぜかプロレス好きの漫画家を担当することが多く、『プロレス・スターウォーズ』の発案者でもあった。ちなみに、アデランスの中野さんは、キン消しやフィギュアにもなっているので、マニアは女房を質に入れてでも手に入れることをオススメします。

■桜井康雄
『東京スポーツ運動部』に所属した、昭和のプロレス記者の代名詞的存在。『ワールドプロレスリング』の解説者としても「猪木くんはねぇ」の名調子で活躍した。また、原康史のペンネームで『馬場と猪木』など、プロレス小説を多数執筆。外人レスラーの逸話や、異名はかなり桜井氏の手によるものがあるという。“プロレス”を作った男でもある。現在はフリー。

■プロレス太平洋戦争
『月刊ゴング』誌で昭和50年代前半に足かけ4年間にわたり連載されていた、プロレス架空小説。実在のプロレスラーが多数登場するリアリティあふれる描写に、当時のプロレスファンは大興奮して読んでいた。みのも先生もそのファンの一人で、この小説が『プロレス・スターウォーズ』の原案でもある。ちなみに、小説版では「うわ～ん、うわ～ん」とやたら泣くちびっ子ファンは登場していない。

■世界のプロレス
80年代半ば、テレビ東京系で月曜夜8時から放映されていた伝説のプロレス番組。CS放送はおろか、ビデオソフトすらそれほど流通してなかった時代に、アメリカンプロレスの試合映像を「これでもか！」と毎週放送し、マニアを狂喜させた。ロード・ウォリアーズはこの番組から火がつき人気爆発。全日本プロレスに初来日した際は、成田空港に一般誌やスポーツニュースのカメラも駆けつける社会現象となった。なお、同名のプロレス団体が数年前に存在したが、番組とはまったく関係ない。



みのも　あ、あのダブルスピニングトーホ

——でも、あまりにも凄い技になると、「ド

はまだ入ってないんだけど……、そこに入

ると怖いんですよねえ。

——怖いというと？

みのも　だって毎日観るようになるでしょ？　プロレスニュース（S－ARENA）だってあるし、それを追ってたらもう手に負えなくなるよ。飽きるほど観ちゃう！

——子どもの頃にそんなのがあったら学校に行かなかったかもしれないですね。

みのも　行かない、行かない。ずーっと観る。それに、いまの時代はインターネットとかもあるじゃない。もう、プロレス以外のことは何もできないよね！

——でも、『プロスタ』はあまり情報がない時代だったからああいうストーリーでできたって部分もありますもんね。

みのも　それはあるよ。だって、「よく知ってますねえ」なんて言われることもあるけど、僕だって本で出てる部分の知識しかなくて、自分が実際に足で稼いで調べたわけじゃないからね。

——それこそ桜井さんがでっち上げた話だったり（笑）。

みのも　でも、当時はそれが本当だと思われてたりしたわけじゃないですか。それと梶原一騎さんの『プロレススーパースター列伝』も好きで見てたから、あれも一つの情報源だったね。その中からイメージを膨らませて描いてたんですよ。でも、だいたい当時のレスラーのイメージって雑誌も新聞もだいたい一緒だったよね。

——団体側も記者が作り上げたストーリーみたいなのに沿って試合を組み立ててたっていう感じがありましたもんね。だって、日本ではスーパー・ベビーフェースのテリー・ファンクが、母国アメリカではブッチャーも真っ青の大悪党だとは思いもよりませんでしたからね（笑）。

みのも　そうそう。アメリカではヒールだったっていうのはいっさい出しませんでしたよね。だから、たまにアメリカからの中継なんかがあると、テリーに対して明らかにブーイングが飛んでるのに、倉持アナは「テリー・ファンクに大歓声！」とか実況してたりして（笑）。あれはよかったなあ～。

——でも、最近はプロレス自体にそういう〝夢の世界〟っていう部分が少なくなってきたかなってのはありますよね。

みのも　だって、暴露本だのなんだので裏ネタがいっぱい出てきてるじゃない。「キャラはこうで、アングルはこうだ」みたいなのがね。あれをやっちゃったらもうつまんないですよ。やっぱり外国人レスラーがいたほうがおもしろいっていうのも、情報が限られてるから幻想が高まるんであってね。

——夢の部分が少なくなって、プロレスは少しずつスケール感が小さくなっていったんですかねえ。

みのも　だって、実際は日本のプロレスのほうが激しかったりするわけでしょ？　WWEなんかより。だから、ノアなんかでプロレスができるガイジンレスラーだったら、もうアメリカでやったほうが早いんだろうし、そうなると日本のプロレスはどんどん小さくなってしまうよねえ。

——いま考えると、昔が異常だったのかもしれないですけどね。

みのも　それこそ「血拓」とかいって、色紙にブッチャーの血をにじませたりしてたでしょ。僕の友だちが当時の「血拓」持ってるんだけど、いま見たら変色して気持ち悪くなってるし。

——明らかに気持ち悪いでしょうね。

みのも　それとか、レスラーに殴られたり

©原康史・みのもけんじ／ホーム社



『プロスタ』では、実際にはありえない、オリジナル・ホールドも多数登場。その中でも傑作が、この逆卍固め！　生身の人間が仕掛けることは不可能ながら、なんとなくリアリティがあるところが素晴らしい！　ちなみにこの技を受けられるのは「荒川静香ぐらい」（みのも談）とのこと。

暴露本とかでネタが出ちゃってるけど あれをやっちゃつまらないんですよ

■ボブ・ガイゲル
元AWA世界タッグ王者。70年代にはカンザスやミズーリなど、NWAのテリトリーでプロモーターとしても活躍し、79年からはNWA会長も務めた。はげ頭にメガネがトレードマーク。

■ジム・クロケットJr.
80年代後半、NWA会長を務め、ジム・クロケット・プロモーションとして興行権も掌握していたプロモーター。『プロスタ』では、第3次世界プロレスウォーのアメリカ側のボスとして、超大物に描かれているが、実際はテレビ王テッド・ターナーに買収され、NWAを事実上消滅させてしまった。

■ミッシング・リンク
古生物の分野において、進化の途上に位置する、発見されていない中間形の化石のこと。つまり、猿から人間に進化するあいだにあったとされる前世人類。プロレスラー、ミッシング・リンクは顔面ペイントの原始人キャラレスラー。ちなみに『プロスタ』では天龍と対戦。分身の術を使い、四方のコーナーから同時に空中殺法を使うとんでもないレスラーとして描かれている。

■ジャイアント・キマラ
アフリカ民族差別ギリギリを思わせるギミックレスラー。80年代初頭はテネシーで、80年代半ばはWWF（現WWE）で活躍。アフリカ探検家ルックのマネージャーをつけていた。『プロスタ』では、生きたライオンを食い殺し、ブロディ、ハンセンら名レスラーの技がすべて使えるという、『キン肉マン』におけるミスターVTRのような強豪レスラーだったが、実際は奇声を発しながらのチョップとフライング・ボディプレス、お腹を叩くパフォーマンスが目立つ程度のショーマンであった。ちなみに全日本プロレスで活躍したジャイアント・キマラは2代目（キマラ2号のリングネームも使用）。

■故・吉原社長
67～81年まで存在した国際プロレスの社長、吉原功。デスマッチや外国人エースなど、パイオニア精神が信条の団体運営をし、人柄もよく所属レスラーから慕われ、尊敬されていた。また、ガイジンレスラーはアメリカ人が大半だった時代に、ヨーロッパから選手を招聘し、モンスター・ロシモフ（のちのアンドレ・ザ・ジャイアント）を発掘したことでも有名。アンドレも吉原社長には恩義を感じていたといわれている。

■シンは脚が折れた
『プロスタ』におけるザ・ファンクスvsブッチャー&シン組で、テリー・ファンクのリバーススピニングトーホールド（漫画の中でのみ存在する技）で、シンは脚を骨折。最凶コンビはザ・ファンクスに敗れることとなった。

■プロレススーパースター列伝
梶原一騎原作、原田久仁信画のプロレス漫画の古典にして金字塔。実在するプロレスラーが登場し、「列伝」という名のとおり、書かれたすべてのストーリーはすべて「事実」とされたが、そこは梶原一騎。ほとんどのエピソードはファンタジーあふれるものだった。

ハッシモト！ハッシモト!!

kamipro books

したら大喜びしてたじゃない。それで、控室に運ばれていろんなレスラーに心配されるとかね。そんな贅沢なことをしながらも、それでもメインが観られなくて凄い残念がってたヤツもいて。

——ダハハハハ！　まさに変態です（笑）。でも、逆に、いまだったらプロレスじゃなくて総合格闘技のほうで『プロスタ』を描いたほうがおもしろそうですけど。

みのも　総合で描けたらいいよねえ。でも、絶対に描けないよね〜。

——もし『プロレス・スターウォーズ〜MMA編〜』が実現したら、夢が広がりますよ。ダナ・ホワイトなんて、まさに悪のアメリカMMA軍の親玉にピッタリじゃないですか（笑）。

みのも　ヒョードルの目が光ったりしたらおもしろしね。

——たぶん、『プロスタ』だったらヒョードルは、零下40度の雪山で熊と格闘トレーニングをしてるでしょうね（笑）。

みのも　いいねえ!!　流氷に乗って来日してもいいしね。それに、ノゲイラが見たこともないような関節技で「ガガガガ！」っと極めて、相手の身体中の骨を折ったりね。

いや〜、役者が揃ってるなあ（しみじみと）。

——ジョシュ・バーネットだってカール・ゴッチが作り上げた最強マシンとして出てきそうですもんね。

みのも　それだ！　もう、ストーリー完成してるじゃない!!

——やっぱり最初は『PRIDE』とK—1が連合軍としてアメリカ軍と全面対抗戦を闘うべきですかね（笑）。

みのも　そして、日本の最終兵器には曙が出てくるっていうね！

——ダハハハハ！　曙ですか（笑）。

みのも　もちろん、そこに貴乃花とか若乃花がサポートで絡まないといけないね！

——そうなると、朝青龍もリング上でまげを切り落として、参戦表明しかねませんね（笑）。

みのも　そうなってくると、白鵬のお父さんが黙っちゃいないだろうなあ。伝説のモンゴル相撲横綱としてね。

——極めつけはブラジルの奥地から猪木の隠し子とか出てくるかもしれないですし（笑）。

みのも　おっ！　それは何十人出てきてもいいんじゃないの!?

——グレイシー一族ばりに、猪木一族がブラジルから来襲ですか！（笑）。



うわ〜ん、うわ〜ん！　ただいま絶賛発売中の『紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也爆勝証言集』でも、みのも先生が書き下ろし漫画『紙のプロレス・スターウォーズ 破壊王復活編』を描いてくれたよ〜！　破壊王Jr.大地くんの前に現われた破壊王、これからどうなる!?　すぐ書店に走れ！ ちなみに左のラーメン屋のオヤジチックな男は大谷晋二郎だよ〜！

MMAで描くんだったら、ヒョードルは流氷に乗って来日してもいいしね

みのも　みんなホームレスの格好だったり、坊さんの格好だったり、ねえ！　そんなのやれたら楽しいよねえ。

——名前とか変えて、できませんかね？

みのも　いや、ああいうのは名前変えたり顔を変えちゃうと、ダメなんですよね。やっぱり『プロスタ』も本物の猪木が幽体離脱したり、目が光ったりするからいいのであって、あれが〝アントニオ猪本〟だと「あれ？」ってなっちゃうじゃない。

——確かにミルコ・クロコップが〝ミルク・シロコップ〟になってたら、かなり興ざめしますね（笑）。

みのも　そうそうそう。本当の名前で出さないとやっぱり意味がないしねえ。

——なんとか実現させたいんですけどねえ。

みのも　でも、いまの総合って、『HERO'S』はやってるけど、『PRIDE』って大会がないじゃない。五味（隆典）とか、いま旬の時期なのにどうするんだろうねえ。

——そこはもったいないところですよね。

みのも　だって、国内で大会やれば絶対お客さん入るじゃない。それに、この1、2年って彼にとっても大きいわけでしょ？

——そういう意味でも、やっぱり馬場と猪木が急きょ手を結んだように、なんとか日本のマット界も一致団結しないといけないですかね。

みのも　していいんじゃない!?　K—1と『PRIDE』と全部合わせてやっていいよ！　っていうか、しなくちゃダメだよ!!

——ダハハハハ！　アメリカ軍に対抗するためには、やはり日本軍がまとまらないとダメですか。

みのも　絶対に好きな人はいるわけだから、そういう人がやっぱり集まらないといけないんだよね。みんなで集まって、レスラーの人にも集まってもらってさ！

——いまこそ『プロスタ』を実写版でやるときですよね！

みのも　やっぱり結局は猪木の言うように「バカになれ！」じゃないのかな。目の前で大きい男たちがケンカしているような、子どもの頃に感じたあの「うわー!!」っていうのを見せてほしいよね。

——僕もぜひそういう世界を見たいと思います。今日はありがとうございました！

【07年7月5日／みのもけんじ宅にて収録】



みのも・けんじ■1984年から『月刊フレッシュジャンプ』（集英社刊）にて『プロレス・スターウォーズ』を連載。その後、前田日明をモデルとした『おれが強気』や『獅子の時代』、またプロレス以外でも熱血柔道漫画の『ひかる！　チャチャチャ!!』、野球漫画である『ぼくたちのプレイボール』などスポーツ漫画を手がける。最近では、再び原康史の原作で『グレイシーを創った男』が発売に。

原康雄＆みのもけんじの最強タッグ再び！

『グレイシーを創った男』vol.1 アメリカ死闘編



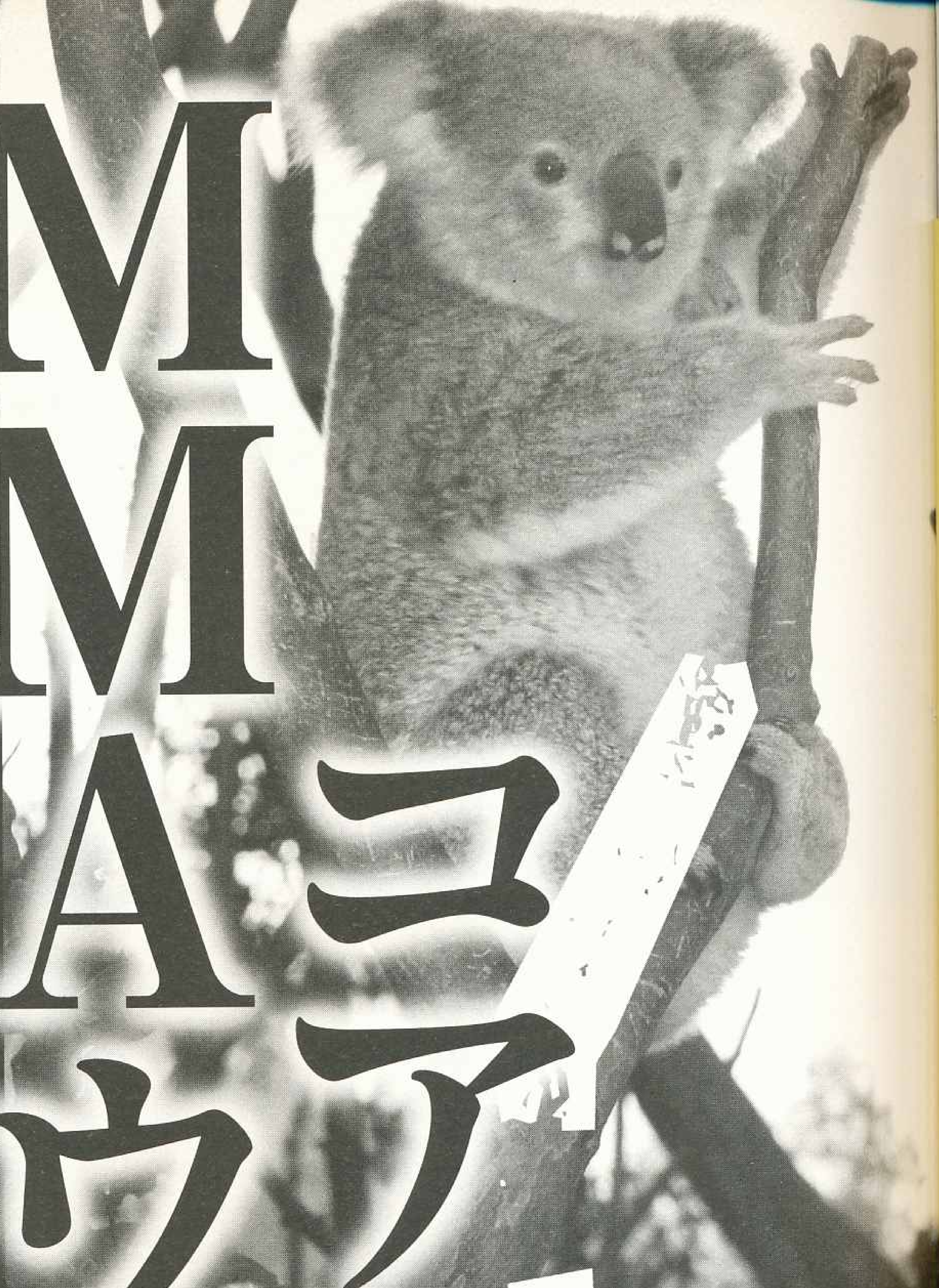
あのグレイシー一族に柔術を教えた武道家・前田光世の知られざる血闘が描かれた作品ダー!!　7月30日、全国コンビニで発売スタート〜。ぜひチェックしよう！

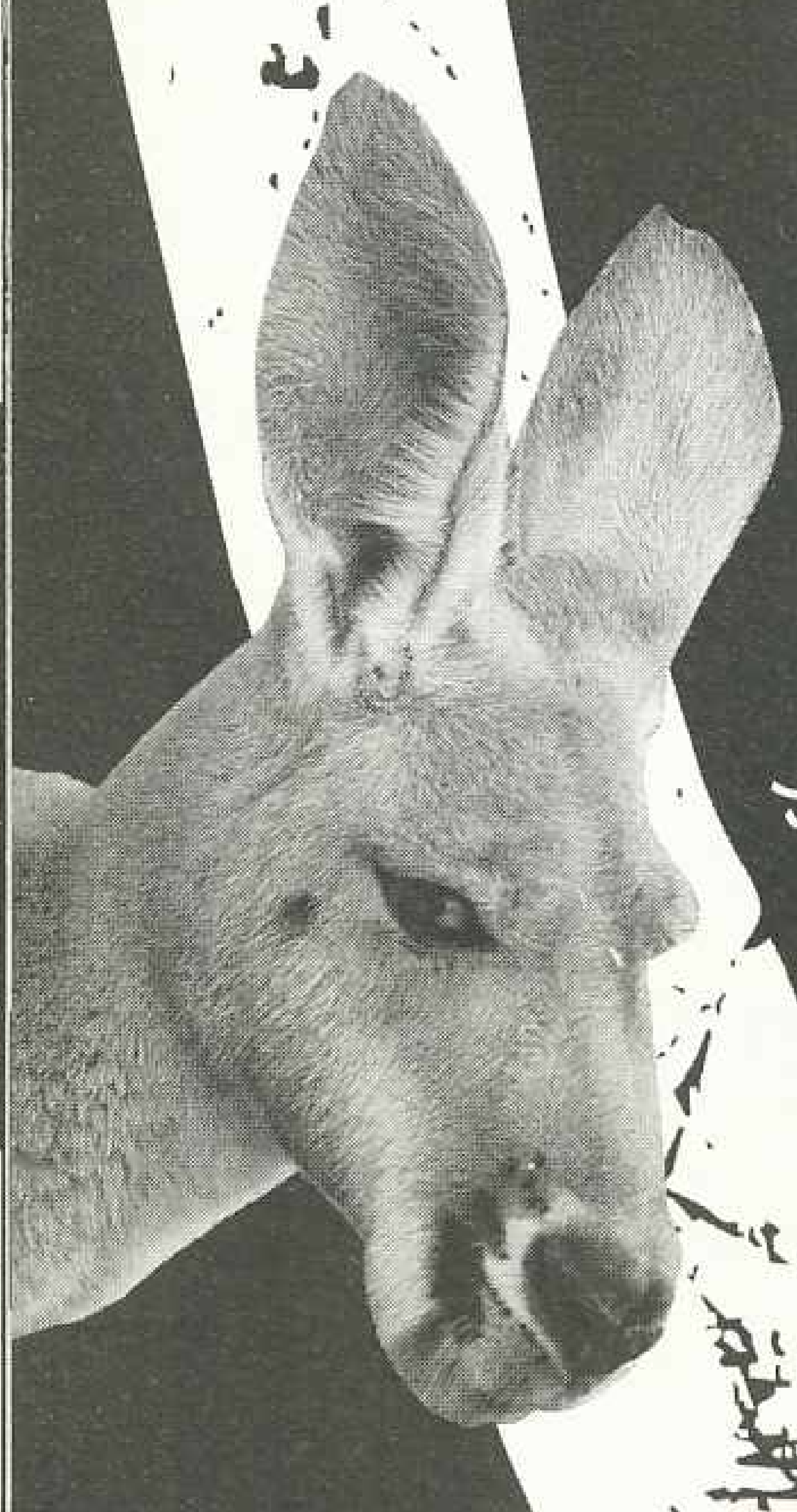
『グレイシーを創った男』vol.1 アメリカ死闘編／600円（税込）／集英社

南半球発

ボードッグを超える格闘技イベント本格発進!!

コアラとMMAウォーズ





カンガルーも熱視線!?

え〜、わたくし松澤チョロは6月22日、オーストラリアのゴールドコーストで開催された南半球最大の格闘技イベント『XPLOSION』の取材に行ってきました。UFCや『PRIDE』、ボードッグ等々、ここ最近、海外取材の多い『kamipro』ですが、南半球の大会には初上陸！「なぜ、いまオーストラリアなの?」「そもそも『XPLOSION』って何？」「キリンの次はコアラ最強説!?」……。ページをめくれば、すべての謎が明かされるぞ、コアラッ！（弱火）。

取材／松澤チョロ
撮影協力／アンダーヴィジュアルウォーター、mashroom.jp

**前大会では会場内で銃撃戦が……！
はたして生きて帰ってこられるのか!?**

チョロの『XPLOSION』珍道中記



「俺もゴールドコーストに行きたかったぁ〜」

今回、ボクが『XPLOSION』の取材でゴールドコーストへ行くことを知った『DEEP』の佐伯代表は、帰国後、顔を合わせるたびに冒頭の言葉を連呼してます。ほかにも、ボクが取材でオーストラリアへ行くことを聞いた人からは口々に「うらやましい！」と言われました。確かに、ゴールドコーストは海も街並みもキレイだし、気候もよくて最高！ 肝心の『XPLOSION』も大盛り上がりの大盛況に終わりました。

「終わりよければすべてよし」なんて、ことわざがありますが、ボクは旅立つ前、かなりの不安を感じていたんです。いまとなっては知らない人のほうが多いと思いますが、数年前、ボクはUFCの取材でアメリカへ行き、なんと8ページも原稿を落としてしまうという、前代未聞の失敗をしでかしているからです。

それ以来、当然のようにボクに海外取材の声はかからなくなりました。そんなボクが、なぜ今回『XPLOSION』の取材に行ったかというと、大会関係者や選手に顔見知りがたくさんいたからというのが大きいです。同じ時期にはサップ復帰のK—1オランダ大会もありましたが、あえて『XPLOSION』を選んだ理由は、関係者から「大会も期待してほしいですけど、今後の『XPLOSION』関連で大きな発表があるかもしれない」と、具体的な話をいくつか耳にしたからです。その話を聞いた瞬間、「それが実現したら、『XPLOSION』はボーダッグ級のイベントになるかも？」と思い、行くことを決意した次第です。

決意したはいいものの、不安感は消えません。トラウマがある海外取材というのも原因の一つですが、もう一つの不安は出発日が前号の『kamipro』や、絶賛発売中の破壊王追悼本の締め切りと重なっていたことです。締め切りはなんとか前日の真夜中にクリアできたのですが、取材の準備は何一つできていなかったのです。おまけにボクは旅行用バッグを持っていなく、誰かに借りなきゃと思いながら、出発前日を迎えてしまいました。すでに、『kamipro Hand』でネタばらしをされたので読んだ方もいるかと思いますが、そこで奇跡が起こったのです。夜の街をあてもなくフラフラ歩いていると、会社からほど近いゴミ置き場に、立派な旅行バッグが落ちていたのです。ボクは躊躇なく、そのバッグを拾い会社に持って帰りました。会社に戻ると、みんなの目が点になっていましたが、ボクには気にしている時間はありません。

出発当日もドタバタしまくりで、結局、飛行機に搭乗できたのは出発ギリギリでした。いろんな疲れもあって、飛行機に乗り数時間後には爆睡。気がつけば、大会が開催されるゴールドコーストに到着してました。

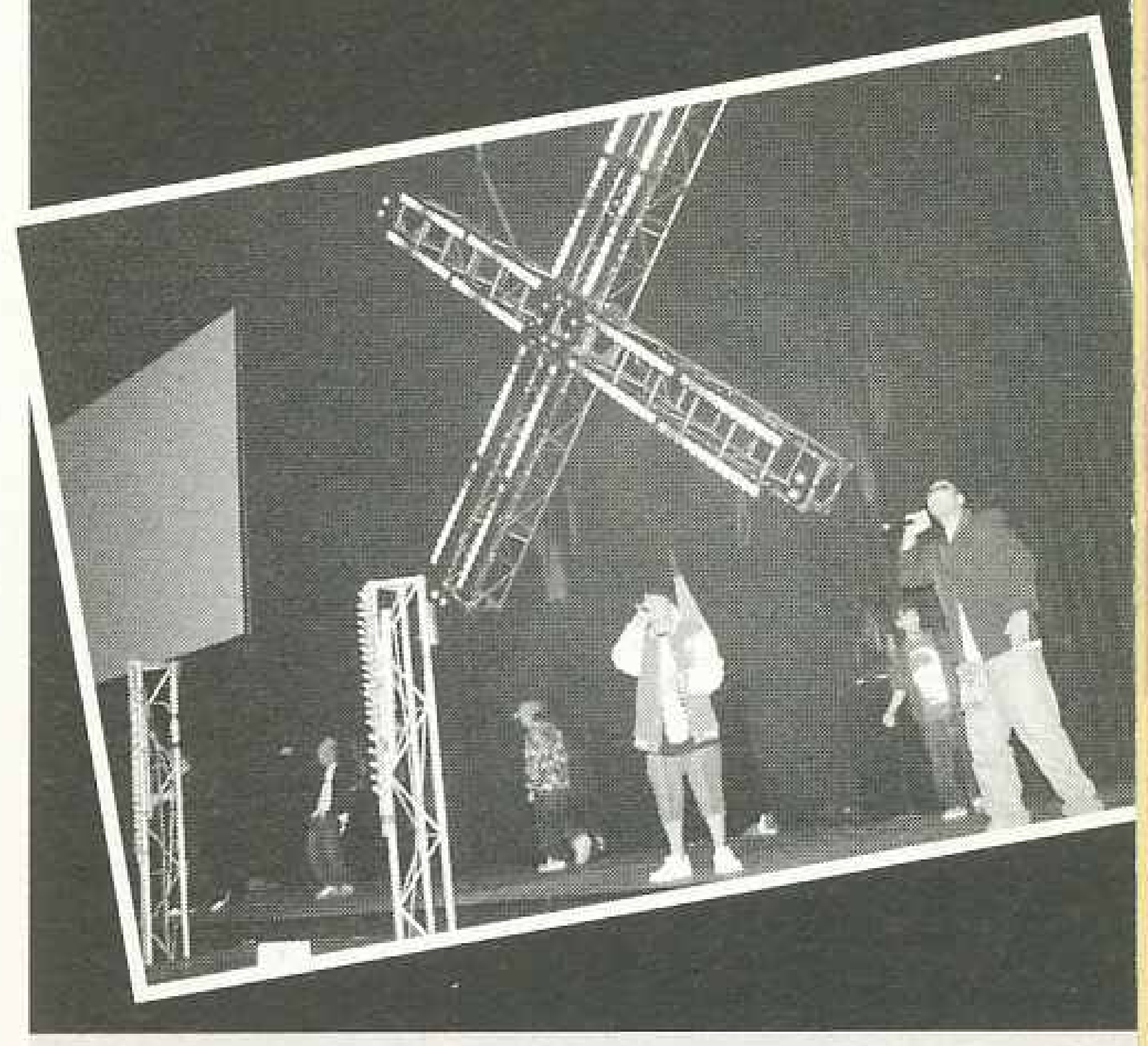
そこまでは単独行動だったのですが、宿泊先のホテルに着くと、スマックガールの篠泰樹代表や、ジャッジサポート代表にしてレフェリーとしても活躍するジャッジ金子氏をはじめ日本人だらけで、不安はちょっと和らぎました。荷物を置くと、K—1MAXで活躍するイアン・シャファーらが所属するファイブ・リングス道場まで足を延ばし、『XPLOSION』の主催者であるレイ松村氏に挨拶に行きました。

その日の夜には取材に訪れたマスコミ向けに歓迎パーティが開かれました。このパーティは高級ホテルのスイートルームを貸し切って行なわれたのですが、中に入ってみると、井上和香のような胸元パックリの現地在住日本人女性がズラリ！ その数、約20名!! ボクをはじめマスコミ陣の『XPLOSION』株は大会前から急上昇です！（単純）。

前歯もなく、みすぼらしいボクにも5人ぐらいの美女が取り囲んでくれたのですが、携帯サイト用の原稿書きがあるため泣く泣くホテルに戻りました。翌朝聞いた話だと、パーティのあとボク以外の日本人チーム（約10名）は、日本人女性だらけのキャバクラ組と、カジノ組に分かれてゴールドコーストの夜を満喫していたようです。うらやましい！

そんなこんなで大会当日。試合開始30分前になっても、人はまばらで「大丈夫かな？」と人ごとながら心配していたのですが、休憩前には、ほぼ満員状態。その後、大会中に、ちょっとしたハプニングが。セコンドとして来場するというマーク・ハントの取材を前日にお願いしていたのですが、大会当日、楽しみにしていた、たま☆ちゃんの試合直前に「いまなら取材を受けられるそうです」と関係者から連絡が入ったのです。一瞬、悩みましたが、この機会を逃すと、いつ取材ができるかわからないとのことなので、ハントがいる控室に直行してインタビューを敢行しました（30ページ参照）。

休憩明けには、リング上でナイスバディなチアガールが武富士ダンサーズ顔負けの激しいダンスを披露。その興奮のまま突入したメインでは、地元の英雄ネイサンが日本でもおなじみのガオグライにKO勝ち！ その瞬間、観客は一斉にスタンディングオベーションの大熱狂です。最後はリング上に出場選手から関係者までが勢揃い、主催者のレイさんも満面の笑みを浮かべています。それはそうでしょう。詳しくはこのあとのレイさんのインタビューを読んでいただきたいのですが、前回のゴールドコースト大会では大会中に銃撃戦がボッ発し、セミ&メインが中止になるというトンデモ事件が起こっていたのです。大会が無事終わったば



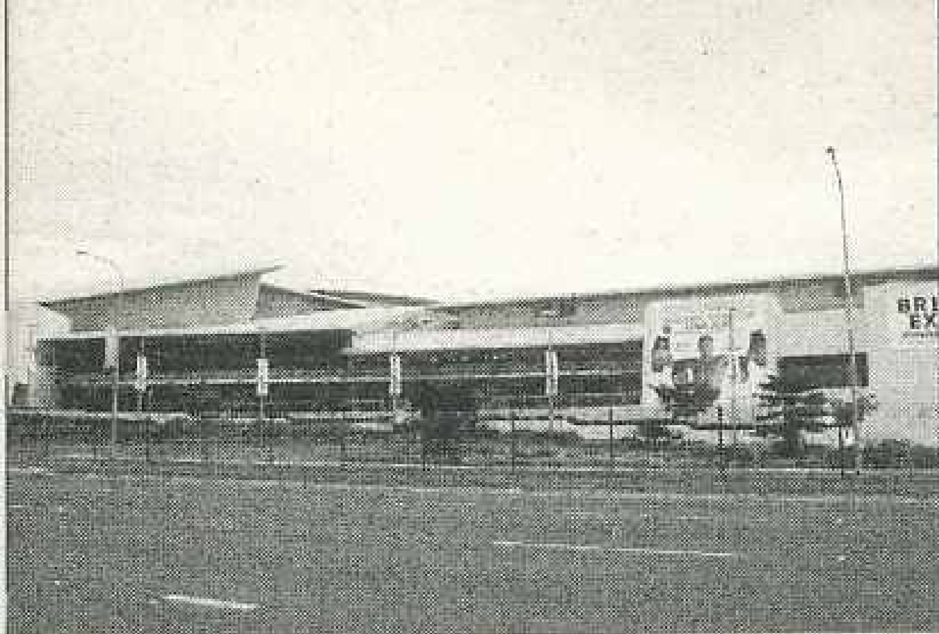


こちらは大会翌日の打ち上げパーティの様子。パーティには現地在住の日本人ギャルがわんさか。彼女たちはゴールドコーストの日本人キャバクラ（2軒あるらしい）で働いてる娘たちだ。こんなパーティを開いてくれる『XPLOSION』最高です！

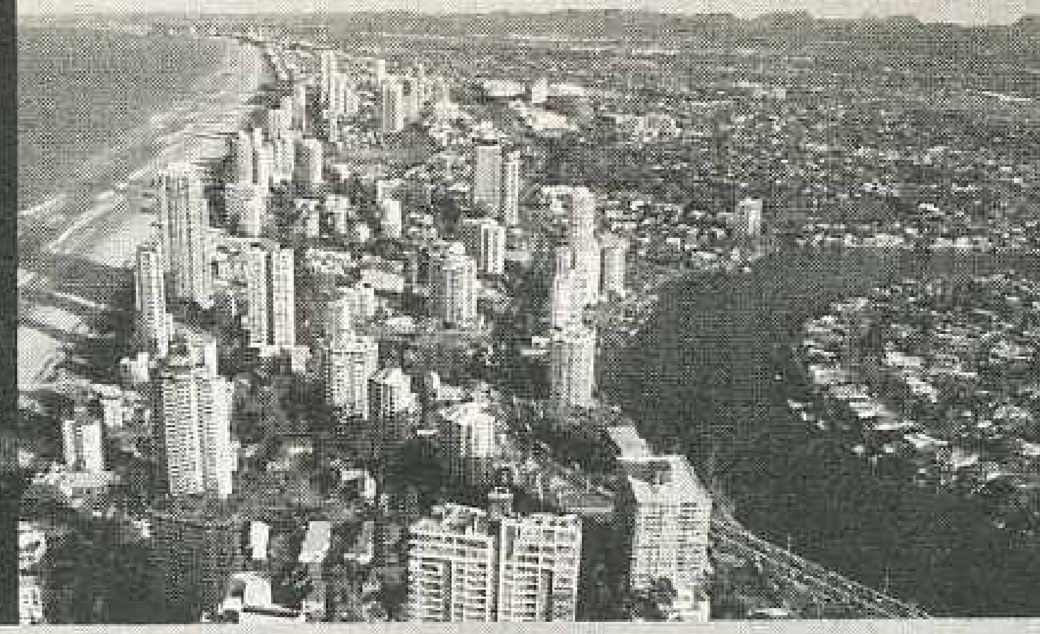
チョロプレ



こちらが本文中に出てくる出発前日、チョロがゴミ捨て場から拾ってきた旅行バッグだ。中にはフリスクがいっぱい入ってましたが、迷わず食べちゃいました。テヘ。このバッグを1名様にプレゼントします！ 宛先は158ページ参照!!









佐伯さんもうらやむ、これがゴールドコーストだ!!

キレイな海と近代的な高層ビルが一体となっているゴールドコースト。季節的には秋から冬へと向かっている時期でしたが、海岸では多くの人がサーフィンを楽しんでました。左上は『XPLOSION』の会場となったゴールドコースト・コンベンションセンター。壁には地元の英雄、ネイサン・コーベットの巨大ポスターが。リングサイド周りは食事を楽しみながら観戦できるテーブル席がズラリ。中心街からちょっと足を延ばすと、コアラやカンガルーとも触れ合える動物園もありました。



かりか、自らの道場のエースが見事なかたちでメインを締めたわけで、感慨もひとしおだったことでしょう。

大会から一夜明けた23日は、午後からファイブ・リングス道場にて、レイさんと、『XPLOSION』に出場した現地在住の日本人3選手の取材をしました。4人ともキャラが濃く、おもしろいエピソードが次から次へと飛び出したのですが、中でも印象深いのがムエタイファイターのヨシ上田選手です。インタビュー時に「道場に住んでるんです」と聞いていたので、取材後に部屋を案内してもらったのですが、事務所の奥の奥のさらに奥まで突き進んだところにある、隠し部屋のような部屋の扉を開けてビックリ。一言でいうと〝汚い〟。そのときは周囲の人に合わせ「うわっ、汚ねぇ！」と声を出してしまったのですが、正直なところ自分の部屋を見るようで、なんだか親近感が湧いてきました。……とはいっても、ただのダメ人間のボクと違ってヨシ選手はムエタイ王者なんだよなぁ。ガンバレ、俺☆

そんなこんなで、取材関係はこれにて終了。この日の夜は大会の打ち上げパーティがあるとのこと。初日と同じく、場所は例の高級ホテルのスイートルーム。「さすがに今日は女の子はいないだろうなぁ」なんて、思いながら会場に到着すると、ドアの向こうには約25名のドレス姿のジャパニーズガール！　ボクは思わず「パワーアップでオー！」と、数年前のオーちゃんばりに絶叫（当然、女の子は永田さんばりの白い目）。

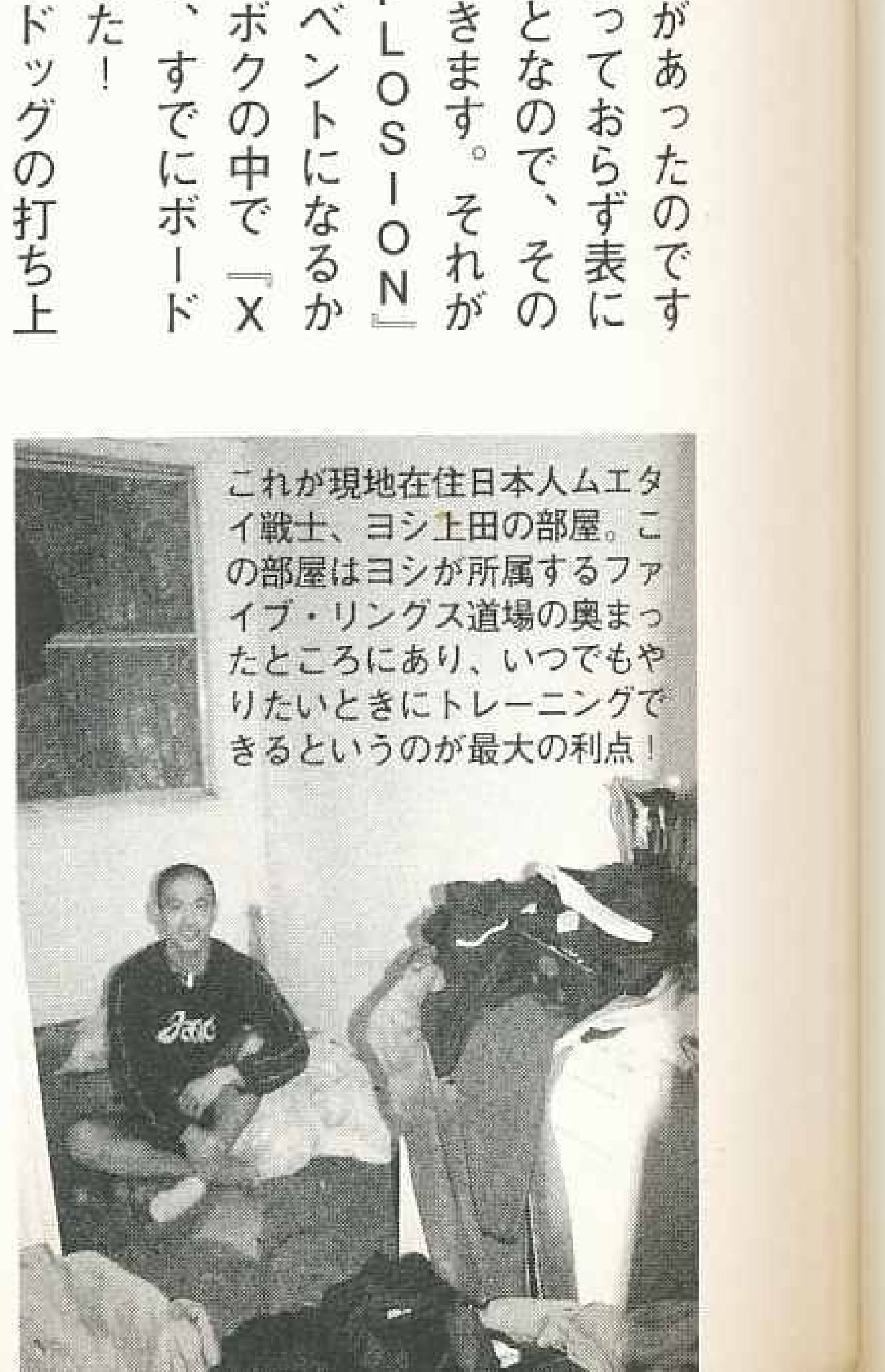
このパーティの最中には、レイさんやスマックの篠代表、スポンサー＆某関係者から冒頭にも書いた、ある大きな発表ごとがあったのですが、まだ詳細が固まっておらず表には出せないということなので、その日まで内緒にしておきます。それが実現したとき『XPLOSION』がボードッグ級のイベントになるかどうかはさておき、ボクの中で『XPLOSION』は、すでにボードッグを追い抜きました！

なぜって？　ボードッグの打ち上げパーティでは裸にボディペイントのボードッグガールが踊ってるらしいですが、こちとら『XPLOSION』は話も通じるかわいい日本人女性がわんさかいるんですよぉぉ！

「よ～し、今日はハメを外して、あわよくばハメ……」と、頭の中は、よからぬ妄想でいっぱいになりましたが、ボクは酔っぱらわないと女の子とまともに話せないことを思い出しました。あちこちで2ショットができ、電話番号交換までしている人もいる中、ボクはといえば、某男性ライターと長話。トホホ。

パーティも終わり、外に出ると午前2時半。出発までの時間をどうすごすか考えていると、ジャッジサポートの若手から「さっきストリップの割引券もらったんですけど、そこに行きません？」とのお誘いが。「まだ2時間はある。よし、行こう！」とボクは即決。男二人で、そのストリップまで駆け足で向かったのです。しかし、ダメなときは何をやってもダメなもんです。お店はすでに電気も消え、閉店済み。

肩を落としながら、早朝のバスに乗り込み、日本へ向け出発。正直、いろいろと悔いは残りましたが、銃撃戦に巻き込まれることもなく3泊4日のオーストラリア取材は無事終了……、と思ったら帰りの飛行機が遅れに遅れ、成田到着19時の予定が実際に着いたのは23時過ぎ。すでに成田発の電車は終了、臨時バスで、なんとか都内まで戻ったのが深夜の1時でした……。アディダス。

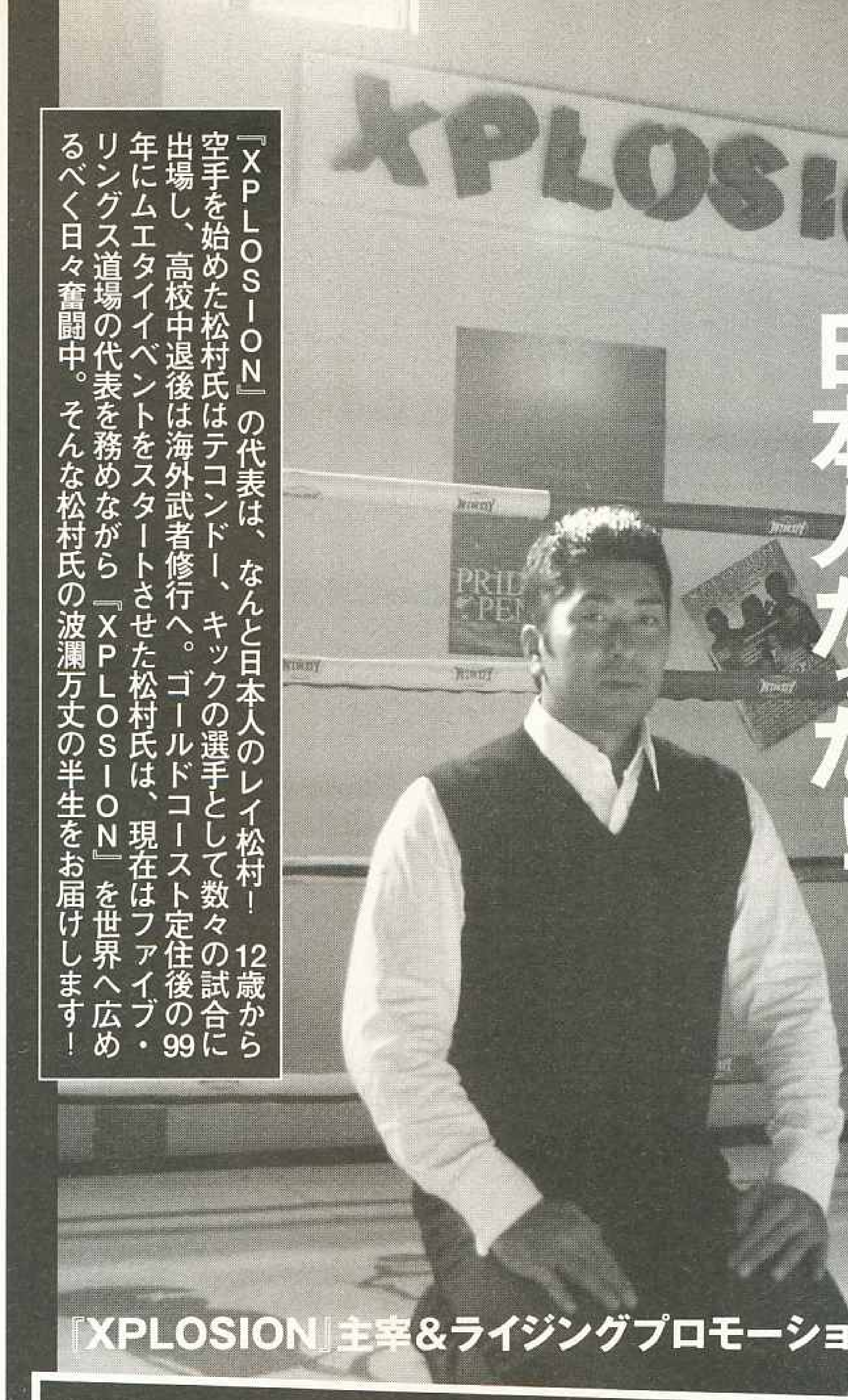


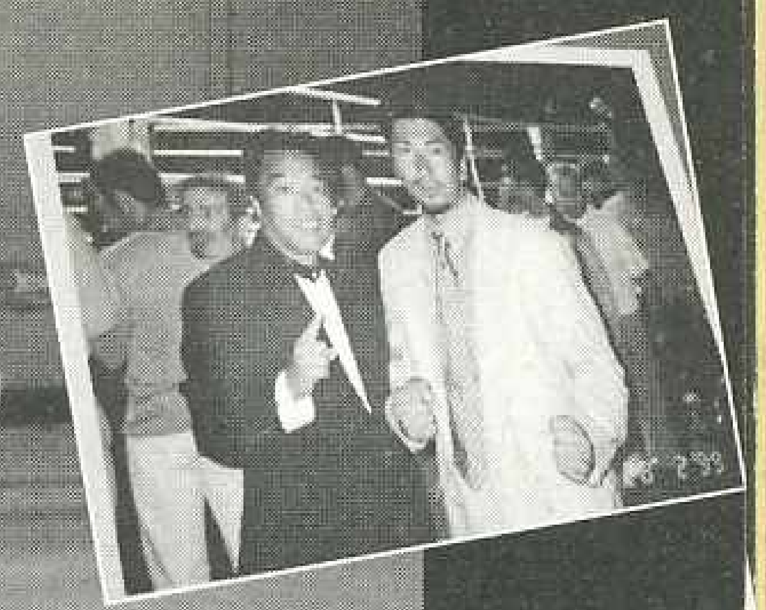
これが現地在住日本人ムエタイ戦士、ヨシ上田の部屋。この部屋はヨシが所属するファイブ・リングス道場の奥まったところにあり、いつでもやりたいときにトレーニングできるというのが最大の利点！

目指すは世界!『XPLOSION』とスマックガールを某IT企業がバックアップ!!



打ち上げパーティ会場でがっちり握手を交わしているのは『XPLOSION』代表の松村氏とスマックガール代表の篠氏、そしてIT企業代表の森下氏。『XPLOSION』とスマックの懸け橋となっているのは両大会のインターネット配信をバックアップする（スマックも今後インターネット配信を予定）森下氏だ。両大会ともインターネットを活用して世界市場で闘うことを狙っているようだ。ちなみに松村氏と篠氏はともに38歳。日本人離れした感覚も似ているようで、出会ってすぐに意気投合！　そのまま篠氏は初対面にも関わらず泥酔し、松村氏や森下氏と家族付き合いを提言したあとに気絶。その流れでなぜか、『XPLOSION』にスマック絡みの試合が組まれることとなったようだ。今大会ではスマック代表として参戦した、たま☆ちゃんが松村氏認定の大会MVPに輝くなど、結果として、この提携は大好評。今後もなんらかのかたちで手を組んでいくことを泥酔しながら協議している模様！





豪州格闘技界を仕切るのは
石井前館長も認める 日本人だった!

『XPLOSION』主宰&ライジングプロモーション代表

レイ松村

『XPLOSION』の代表は、なんと日本人のレイ松村! 12歳から空手を始めた松村氏はテコンドー、キックの選手として数々の試合に出場し、高校中退後は海外武者修行へ。ゴールドコースト定住後の99年にムエタイイベントをスタートさせた松村氏は、現在はファイブ・リングス道場の代表を務めながら『XPLOSION』を世界へ広めるべく日々奮闘中。そんな松村氏の波瀾万丈の半生をお届けします!

――昨日の大会はお疲れさまでした!

松村　お疲れさまでした。でも、実際に観てどう思いました?

――まあ客観的に観ても、メインではエースのネイサン選手がガオグライにKO勝ちして会場も爆発してましたし、大成功じゃないですか?

松村　いや〜、ボクの中では100点満点中65点でしたね。

――65点!　それは、ちょっと厳しくないですか?

松村　選手はよくやってくれたなって思いましたけどね。ただ、僕はいままでどんなに成功した大会でも100点満点はつけたことないんで。いつも反省しかないんですよ。まあ、大会に向けて2ヵ月間くらいやってきて、当日になって「なんでこうしなかったんだろう?」っていうのが一つと、もう一つは4800人くらい入る会場だったんですけど、ホントは、入りきれなかったお客さんに「すいません!」って言いたかったっていうのがありますね。

――満員でしたけど、札止めとはいきませんでしたからね。日本のマニアックな格闘技ファンなら『XPLOSION』のことは知ってるんでしょうけど、一般の読者からすると、失礼ながら「レイ松村って誰だ?」と思うでしょうから、今日はレイ松村とは何者かってことをお聞きしたいと思ってます!

松村　わかりました。ボクもこれを機に「自分は何者なんだろう」って確認できると思うんで(笑)。

――自分で確認しますか(笑)。レイさんは、高校を中退して、さまざまな国を渡り歩いてたと聞いてますが、最初はどちらへ行かれたんですか?

松村　最初は高校を中退してオーストラリアのシドニーに行きました。1年くらいいたんですけど、そこに禅道会空手っていうのがあって入ったんですよ。

――禅道会ってオーストラリアにもあったんですか?

松村　20年以上前からありますよ。日本の禅道会とは違うんですけど、字はまったく同じで。そこでグローブ空手を始めたんですけど、そこのボブ・ジョーンズ会長がタイへムエタイ修行に行ってきて、帰ってきたら全員にムエタイパンツを強制的に買わせて(笑)。「ムエタイはこうやるんだ」って学んだのが最初ですね。

――実際、高校中退してシドニーに行こうと思ったのは何か理由があったんでしょうか?

松村　ボクは一応、小・中・高とエリートコースだったんですよ。そんな中でも曲がったことが嫌いな性格だったんです。昔、いじめてたヤツをヌンチャクで殴ったら警察に捕まって自分が悪者にされたことがあって。でも「自分は悪くない。いじめたヤツをやっつけたのになんでオレが悪者なんだ」って警察に言ったんですけど、そこからいろんな歯車がずれていって「日本の社会が間違ってるんだ!」っていうのがあって。

――日本の社会が悪いんだ、と?(笑)。

松村　そうですね(笑)。学校では小・中・高とずっと学級委員長兼ガキ大将でしたね。

――そうでしたか(笑)。シドニーのあとも、いろいろと海外を放浪されてたみたいですけど、一時期、日本に帰国してるときに、いま魔裟斗選手の事務所のシルバーウルフ代表のHARUさんと六本木を中心にブイブイ言わせてたといろんな人から聞いてるんですが(笑)。

松村　23歳になる前くらいに日本に帰ってきて、そのときに六本木とかをフラフラしてたんですけど、あるときテーブルの上に片足上げて飲んでいたヤツがいて、「オマエ、おもしろいヤツだな。一緒に飲もうぜ!」って話しかけたヤツがHARUだったんですよ。その前にも、どっかで会ったことがあったらしいんですけど、それから意気投合して。3年くらい一緒に住んでましたからね。

――一緒に住んでたんですか?

松村　そうですね。一緒にいていろんな騒動起こしたりとかありましたけどね(笑)。そのあとバブルが崩壊して景気がよくなるまで外国に行こうかなって思って、ボクの中でLAかオーストラリアかって考えて。そのときは完全に外国で生活しようって思ってたんで荷物から何から電信柱の下に捨ててたんですよ。

――不法投棄ですね(笑)。それで、結局、オーストラリア行きを決めるわけですよね?

松村　そうですね。そのときオーストラリアにしようって思ったのは、当時のオーストラリアは、よくできたコロニーみたいなもので、まだでき上がってなかったんですよ。その代わり、よくできた国で生活保護も受けられるし、安全だし。アメリカの裏社会とかも見たんですけど、やっぱり厳しいんですよね。どうせ行くならオーストラリアでパイオニアになりたいなって思って。

――で、実際に現在はオーストラリアの格闘技界のパイオニア的な存在になった、と?

松村　パイオニアではないですけどね(笑)。最初に大会を開いたのが1999年で、27〜28歳ぐらいのときかな。最初はムエタイの興行をやったんですけど、やっていくうちに、ジョン・ウェイン・パーとかダニエ

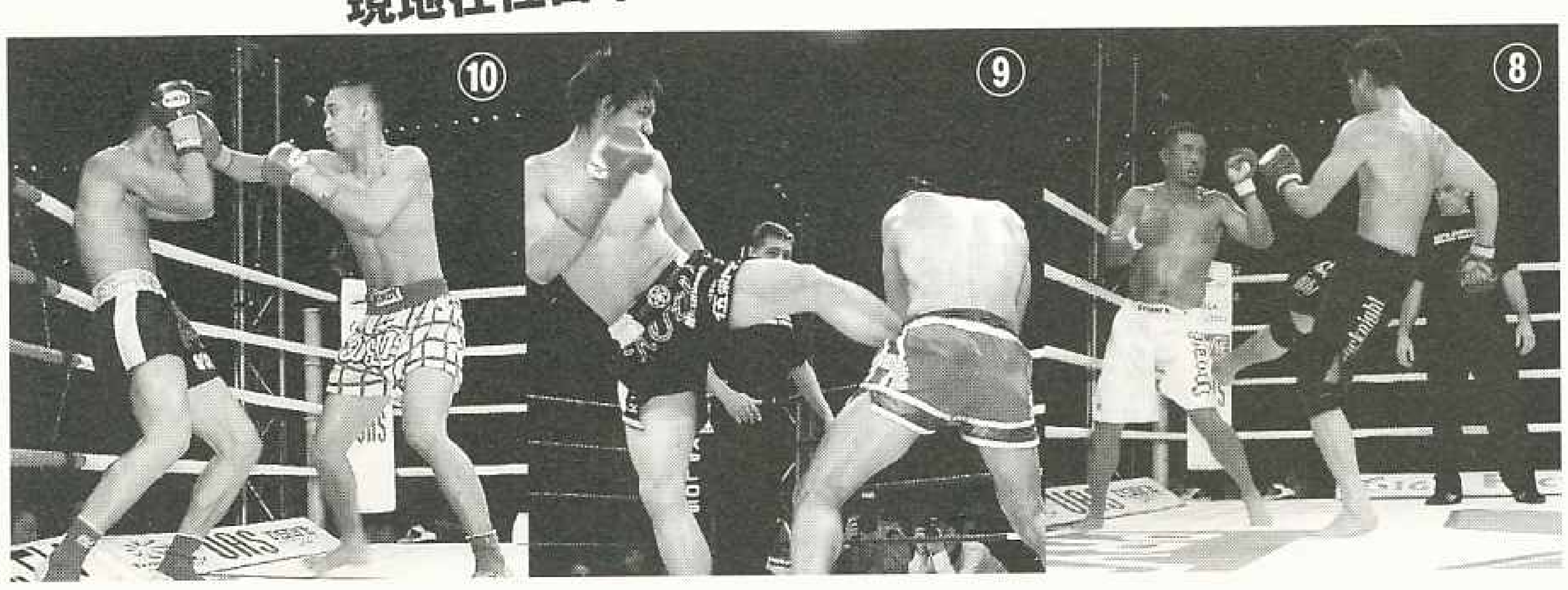
6.22『XPLOSION』ダイジェスト

メインは地元の英雄がガオグライを完全KO！

大会MVPはたま☆ちゃん！



現地在住日本人ファイターが3人も参戦！



①メインは地元の英雄、ネイサン・コーベットがK-1でも活躍するガオグライ・ゲーンノラシン相手に2ラウンド終了間際、得意のヒジ攻撃からのパンチで見事なKO勝利！②セミ前には松村代表の呼びかけで、マーク・ハント、ジョン・ウェイン・パー、イアン・シャファーらがリングに登場。③セミではボクシング世界ランカーのダニエル・ドーソンがブルース・マックフィーから3度ダウンを奪ってのKO勝ち！ ④⑤スマック代表として参戦した、たま☆ちゃんが立ち技&総合をミックスしたXルールでタニール・メイと対戦。たま☆ちゃんはド派手な大車輪キックで会場を沸かせると最後は腕十字で一本勝ち！⑥試合の合間にはチアガールがダンシング！⑦禅堂会熊本支部の上田亮輔は修斗でも活躍するダニエル・リマと対戦するも判定負け。⑧3人登場した現地在住日本人選手は2勝1敗という結果に。岩崎恵一はジェーミー・ヘンダーソンに判定負け。⑨蜜山剛三はムラット・クマスにTKO勝利！⑩ヨシ上田はツァン・ホイ・クアンに判定勝ち！

ル・ドーソンとか日本で活躍してる選手とも知り合うようになって。

――でも、単純に考えて、日本人が海外で興行をやるっていうのは、かなり大変なことだと思うんですけど。

松村 言える話から言えない話まで、いろいろと大変ですよ（苦笑）。

――その極めつけというか、以前、『XPLOSION』の大会中に会場内で銃撃戦があったんですよね？

松村 前回のゴールドコースト大会（※2006年3月18日）ですね。高瀬（大樹）選手とヘクター・ロンバートの試合のあとで起こってしまいました（苦笑）。あんまり思い出したくないんですけどね（笑）。

――失礼しました（笑）。で、今回は、それ以来のゴールドコースト大会だったんですね。

松村 そうです。ロイヤルパインズホテルっていう今回より小さい会場だったんですけど、そこでやった大会で気がついたら銃撃戦が起こっちゃって（笑）。

――気がついたら銃撃戦（笑）。その予兆みたいなのは主催者としては感じてたんですか？

松村 それを感じたのはメインの2試合を残して休憩でお姉ちゃんの踊りを入れるのがあったんですけど。

――今回もチアガールのダンスがありましたけど、あれは素晴らしかったです！

松村 それが終わった頃にモハメド・アリのサイン入りグローブとかのオークションをやってたんですけど、僕らにとってはそれが休憩時間なんでトイレとか行ってたんです。帰ってきたらオークションやってるMCがリングの中から「あっちのほうで何かプレッシャーがかかってるからヤバイ！」って言ってて。目が本気だったから、なんだろうと思って各テーブルを回ったんですよ。

銃撃戦についてはあんまり思い出したくないんですけどね（笑）

――今回もリングサイド周りはテーブル席でしたよね。

松村 そうです。で、順番に回っていって問題のテーブルに着くまではもう「今回の大会は最高だ！」って思ってたんですけど（笑）、そのテーブルに着いたらリングに背を向けて座ってるヤツらがいて。

――背を向けて座ってましたか（笑）。

松村 「なんだコイツら」って思って。その中に長身の190センチオーバーぐらいの人間が一人の人間を指差して「おまえだけは出ろ！」みたいなこと言ってて。ボクは直感で「これが問題起こしている酔っぱらいだ」って思って、両手を出して「やめろ」って立ちふさがったんです。

――まあ、そこまでだったら日本でもあり得るシーンですよね。

松村 「この大会でそんなことするんじゃない」って言って、そのとき雇ってた警察官4人くらいと目が合って「外に出せ」って目で合図したんですよ。そしたら警察官が首を横に振ってそいつのシャツを引っぱってるだけで止めないんですよ。「何やってんだ！」って思った瞬間、25～26人ぐらいの全身刺青の強面ギャングが並んでたんです。

――うわ～。

松村 そこで座ってた二つのグループが全員イスを鷲づかみにしている状態で。で、5人ぐらいが走ってきて、そのうしろからも走ってきてヤバイって思ったら、誰かがそのとき「うるさい」って真ん中にイスを投げたらしくて。それがきっかけで暴動になって、ボクはイスが当たって殴られて、歯も欠けて気絶してしまったんですよ（苦笑）。

――えっ、レイさんが殴られて気絶してしまったんですか？

松村 一番最初にやられたのがボクで。そこから会場にいたヘルスエンジェルスがイスを持っての殴り合い

K—1と『PRIDE』のいいとこ取りが『XPLOSION』かな（笑）

を始めちゃって。

—プロレスみたいですね（笑）。

松村 そんな感じで（笑）。そこから4人ぐらいで拳銃の撃ち合いになって。タイタニックの映画のようだったって言ってますけど、みんな一斉に会場から出ていきましたよ（笑）。

—まあ、そうなるでしょうね。

松村 その撃ち合いの真ん中でボクは気絶してたんですよ。あとで警察官がカメラを見て言うには「気絶してなかったらヤバかったよ」って。

—そのときの映像もあるんですか？

松村 ありますよ。今度見せましょうか？

—ゼヒお願いします！（笑）。

松村 今回、メディアの取材が多かったのは、また何かあるんじゃないか思ったからじゃないかって。だから『kamipro』さんもわざわざ来たんじゃないですか（笑）。

—いえいえ（笑）。

松村 でもCNNのニュースで世界ネットで流れておかげさまで有名人ですよ（笑）。

—日本でも会場内でケンカぐらいならありますけど、さすがに銃撃戦はないですからね。

松村 ないでしょうね。

—そういう状態になって大会は大丈夫だったんですか？

松村 いや、全然大丈夫じゃなかったです（笑）。セミがニコラス・ペタスの試合で、メインが今回と同じくネイサン（・コーベット）だったんですけど、結局、中止になりましたからね。

—それは大変でしたね。

松村 ボクは気絶して15分ぐらい経って意識が戻ったんですけど、なぜか血まみれになってキッチンにいたんですよ。

—気がついたら血まみれでキッチンにいましたか（笑）。

松村 はい（笑）。それでボクは「メインやらなきゃ」って言ってたら「レイさん、メインどころじゃないですよ。銃撃戦ですよ！」って。

—それどころじゃないですよね。

松村 で、大会が終わってから100通ぐらい手紙が来ましたからね。

—それはどんな内容だったんですか？

松村 「あなたのように勇敢な人は見たことない」って（笑）。何十人いるギャングの抗争に両手を挙げて立ち向かった男はいないっていう。この街の警察署長も「スーパーマンでも止めに入れないような事件を止めに入った君は勇気ある人間だ」って言われました。

—レイさんはスーパーマン以上だった、と（笑）。

松村 でも、そのあとに警察官から「気絶してたから撃たれなくてよかったね」って言われて「オマエらいい加減にしろよ！」って思いましたけど（笑）。

—でも、幸いなことに死者は出なかったみたいですね？

松村 そうです。ホント、不幸中の幸いでしたね。流れ弾に当たったヤツと一般人では僕とでケガしたのは二人だけだったんで。

—オーストラリアは治安がいいって日本には伝わってますけど、そんなこともあるんですね。

松村 ギャングはいますからね。オーストラリアはシドニーオリンピック手前で拳銃とか禁止されてるんですけど、3年前ぐらいから治安が悪くなってるなって感じてます。

—そうなんですか。

松村 あと、この市は世界一人口増加率が高い市なんですよ。週に1000人ずつ人が増えてるんです。

—へえ～、それは凄いですね。で、今大会から大きなスポンサーもついたみたいですけど、聞くところによると、年末ぐらいからワールドツアーも考えてるんですよね？

松村 そうですね。ワールドツアーの一環で日本でも大会をやりたいと思ってるんですよ。

—レイさん的には〝日本へのリベンジ〟っていう気持ちもあるんじゃないですか？

松村 いや、リベンジってほどではないですけど、やるからには長いこと外国に住んでるんで、日本の大会とは違う感覚を出したいなって気持ちはありますね。

—じゃあリベンジというより、マーケットの一つとして考えていると？

松村 そうですね。やっぱりボクは日本人ですから、逆輸入っていうことで。アメリカで作ったトヨタがレクサスとして日本に来てもいいじゃないですか。オーストラリアで育った『XPLOSION』を日本に持っていくって考えるとドキドキしますね。

—日本では『PRIDE』はちょっと沈黙を続けてますけど、基本的にK—1と『PRIDE』が二大組織としてありますが、そこに対抗していきたいっていう気持ちは？

松村 いや、対抗意識はないですね（笑）。気持ち的には、その二つのあいだに入れる感じでいきたいですけど、組織的には全然下ですからね。これまでもありましたけど、今度ウチの選手がその二つの団体に出るってなっても「また帰ってきてね」ってみたいにやりたいですね。

—そういえば、レイさんは、K—1の石井和義前館長や、シュートボクシングのシーザー武志会長、新日本キックの伊原信一会長といった格闘界の大御所とも親しいんですよね。

松村 かわいがってもらってますね。ただ、実際に日本で興行をやると、ライバルになるわけですし、実際に大会をやってみて潰されるのかウェルカムなのか見てみたいし、ダメだったらまたオーストラリアで専念すればいいとは思ってますけどね。

—まあ、潰されることはないと思いますけど（笑）。

松村 まあでも、日本でやるときは、大きな会場じゃなくてもいいんで、ボクらのノリでやってみたいですね。K—1さんや『PRIDE』さんみたいに大きくなっていけば薄くなっていく部分があるじゃないですか。ボクたちみたいに日本ではかたちもできてないところが大きな会場でやっても、いろんな意味で薄くなっていくと思うんですよ。だから、日本でやるときは濃いまんまの『X

not RINGSオーストラリア！ ここがファイブ・リングス道場だ!!



これがファイブ・リングス道場の外観だ。『HERO'S』等で活躍するイアン・シャファーはリングス・オーストラリア所属と報道されがちだが、正解はファイブ・リングス道場だって！

レイ松村氏が代表を務めるライジングプロモーションの真横にあるファイブ・リングス道場。この道場はムエタイ、キックボクシング、ブラジリアン柔術、総合格闘技とすべてのプロ格闘技をカバーできるのが大きなウリとなっている。ムエタイ5冠王のネイサン・コーベット、K-1や『HERO'S』で活躍するイアン・シャファー、修斗世界フェザー級ランカーのダニエル・リマといった日本でもおなじみのファイターも多数所属。現地在住のヘクター・ロンバートもトレーニングに訪れているという。

PLOSION』を見せたいですね。
——そのときは今回同様、チアガールもお願いします！（笑）。
松村　わかりました（笑）。
——ちなみに、石井前館長に最後に会われたのはいつになるんですか？
松村　去年の暮れのK—1GPで会ったのが最後ですね。そのあとに某ホテルのコーヒーショップで二人で6～7時間話したんですけど、「おまえとシルバーウルフは信用してるから」って言っていただいて。
——へぇ～、それは凄いですね。
松村　「おまえ、トップに立つってことは孤独なんだぞ」とも言われて、6～7時間も話し込んでいると、さすがに俺も孤独の意味がわかった気がしましたけど（笑）。
——アハハハハハ！
松村　あとは、ここでは言えないようなこともいろいろと話しましたけど（笑）。
——え～～、それは、またの機会にうかがいます（笑）。
松村　でも、石井（前）館長には以前から、いろいろと気にかけてもらってますし、感謝と尊敬の気持ちが強いですね。もちろん、シーザー会長や伊原会長にも同じ気持ちなんですけど（笑）。
——そうですか（笑）。では、最後にK—1は立ち技最強を決める場、『PRIDE』は60億分の1を決める場というキャッチフレーズがありますが、『XPLOSION』の一番のウリはなんになるんでしょうか？
松村　う～ん……なんだろう（笑）。
——『XPLOSION』の特徴として、立ち技ルールも総合ルールもどちらもやってますよね。
松村　そうですね。今回からは立ち技と総合をミックスしたXルールっていうのも始めましたしね。今後はこのルールを中心に大会を開いていきたいので、「世界でもっとも過酷なルールで、世界最高の格闘技術者を決める場」と考えてもらえば。でもまあ、簡単に言うと、K—1と『PRIDE』のいいとこ取りが『XPLOSION』かな（笑）。
——アハハハハハ！　非常にわかりやすい答えですね（笑）。
松村　ボクとしては、試合はもちろんですけど、パフォーマンスや演出も含めて、お客さんに楽しんでもらえるようなエンターテインメント空間を『XPLOSION』っていうイベントで表現していきたいと思ってますね。そのときは、またよろしくお願いします！
——わかりました。『XPLOSION』の日本逆上陸の日を期待して待ってます！
松村　まだ具体的に日にちとかは決まってないですけど、そのときは『XPLOSION』は最強で最高なんだって証明できるように頑張りますので、期待しててください！

【07年6月23日／ゴールドコースト「ライジングプロモーション」にて収録】

今大会の全試合が無料で観られる!

メインのネイサンvsガオグライ、大会MVPのたま☆ちゃんvsタニール・メイなど、熱戦が続出した6.22『XPLOSION』ゴールドコースト大会。今年のMTVアワードで日本人アーティストとして初の大賞を受賞したディルアングレイの『朔-saku-』を制作した日本を代表するミュージックビデオのクリエイター集団、ビジュアル・トラップが制作した大会の煽り映像も必見だって！　以下のアドレスをいますぐチェック！　ん～、『XPLOSION』!!

『XPLOSION』公式サイト
http://xplosion.tv

その人気は魔裟斗級！ガオグライにも圧勝の豪州のスーパースターを直撃!!



2007年K−1 スカンジナビアGP王者
ネイサン・“カーネッジ”・コーベット

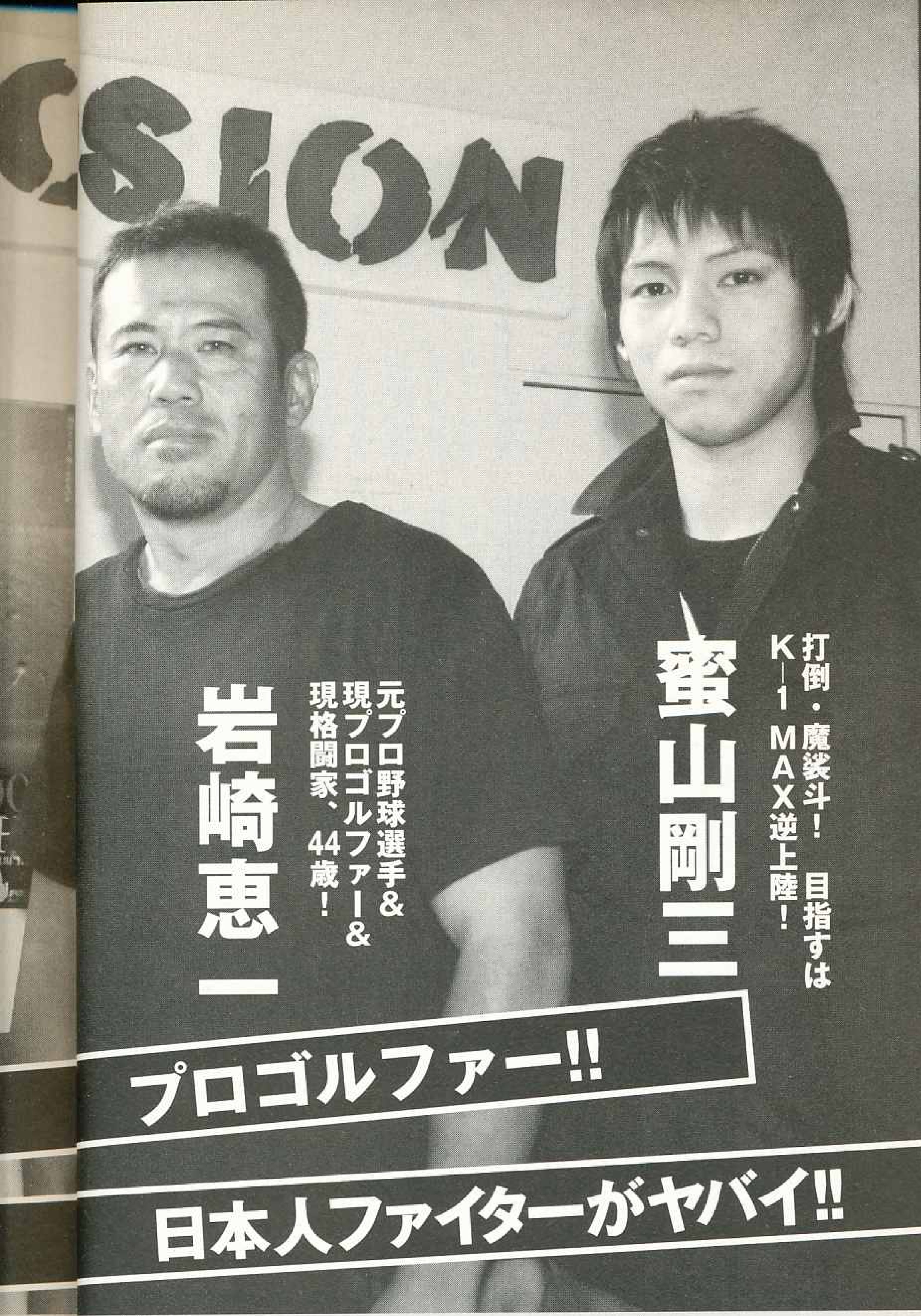
キミはネイサン・コーベットを知ってるかい？　あ、知らない？　『kamipro』読者にはなじみが薄いかもしれないが、地元ではネイサンが入場ゲートに姿を見せただけで会場は爆発、場内は大「カーネッジ」コールに包まれる、日本で言えば魔裟斗並の人気を誇るカリスマファイターなんです！　“ムエタイ世界5冠王”にして今年のK—1スカンジナビアGPで優勝するなど実績もバツグン。今回の『XPLOSION』では、あのガオグライに完全KO勝ちした“豪州の英雄”に大会翌日、プチインタビューを敢行！

——昨日のガオグライ・ゲーンノラシン戦は見事なKO勝利でしたね！
コーベット　ありがとう。最初のラウンドは距離感がつかめなかったんで、KOできるポイントを探すために様子を見てたんだ。それで2ラウンドに一気に勝負をかけたんだけど、終了間際にKOできて満足してるよ。
——ラウンド終了2秒前でしたからね。
コーベット　できすぎてるよね（微笑）。今回はムエタイルールだったけど、ムエタイのレジェンド、ガオグライが相手だったから余計にムエタイで勝ちたかったんだ。オーストラリア人でもムエタイルールでタイ人に勝てるんだってとこを証明したかったからね。
——願ったりかなったり、と。そんな“ムエタイ5冠王”のネイサン選手には失礼な質問になると思うんですが、ウチの雑誌はMMAやプロレスを中心に扱ってる雑誌なんですよ。
コーベット　もしかして、MMAをやるつもりはないかって質問かい？（笑）。
——そのとおりです（笑）。
コーベット　たまに聞かれるんだけど、自分はキックボクサーでありムエタイファイターなので、いまのところMMAの練習をすることは考えてないんだ。興味がないわけじゃないけど、いますぐにっていうのはないね。ただしXルールであれば、オレもいずれ考えないといけないだろうね。
——将来的には可能性あり、と。ネイサン選手は日本通とうかがいましたけど、日本にはどういう印象があります？
コーベット　日本人も大好きだし、日本の食べ物も好きだよ。もちろん、ジャパニーズガールもね（笑）。でも、一番好きなのは試合で勝ったあとにファンが称賛してくれるところと、キックボクシングを尊敬してくれているところかな。それに自分も日本人に負けないぐらい“ブシドー・スピリッツ”を持っていると思っているんだ。
——“ブシドー・スピリッツ”ですか！
コーベット　自分のキャリアの原点は空手にあるし“ミヤモトムサシ”の本とかもよく読んでるんだ。
——それは、かなり本格的ですね。ネイサン選手にとっては、あまり思い出したくないかもしれないですけど、これまでの戦績で唯一のKO負けを喫した『MARS』の印象を聞かせてください（※06年5月13日の『MARS』幕張大会でネイサンはアレックス・ロバーツに2R1分51秒、KO負けを喫している）。
コーベット　（顔をしかめ）『MARS』に関しては、あまり思い出したくないね。
——あ、やっぱり（笑）。
コーベット　勝てる相手だと思ってたんだけど、ラッキーなハイキックをもらってしまったんだ。生涯初めてのKO負けだったんで、いい経験にはなったと思うけど……あの試合はアンラッキーと言うしかないね。
——また、話があれば『MARS』に出たいと思います？
コーベット　う～ん、日本では、また闘ってみたいけど、正直『MARS』に関してはプロモーション的にもあまり、いい印象がないからね。だって、そのときの相手は20キロも重かったんだよ。立ち技ではありえないマッチメイクだよ。
——そうですね。ちょっと『MARS』は難しそうですね（笑）。
コーベット　アイ・ラブ・『XPLOSION』！（ニッコリ）。
——では、これからはエースとして『XPLOSION』を、これまで以上に大きくしていきたい、と？
コーベット　そうだね。『XPLOSION』はスタッフもみんな知ってるんで凄く居心地もいいし、これからもっと大きくなってほしいし、大きなスポンサーもついたみたいだから、その可能性も大きいと思う。レイ（松村『XPLOSION』代表）さんに頑張ってもらって、年に4～5回試合を組んでくれれば、もうほかのイベントには出ないだろうね。
——そこまで考えてるんですか。
コーベット　そう思っている。ただ、次の試合は8月のK—1ラスベガス大会になりそうなんだけどね（笑）。まあでも100キロ級のマッチメイクだったら出ないけどね。
——K—1もいいですけど、また日本でネイサン選手の試合が観られる日を楽しみにしてます！
コーベット　オッケー！　『MARS』以外のリングで、また会おう！（笑）。

【07年6月23日／『XPLOSION』大会翌日の打ち上げパーティにて収録】



NATHAN CARNAGE CORBETT■1979年10月23日、ニュージーランド出身。ムエタイ5冠王にして、07年K-1スカンジナビアGP王者。日本でもシュートボクシングやタイタンズ、MARSのリングに参戦。シウバ戦を控えた吉田秀彦の打撃コーチを務めたことも。06年5月のMARS幕張大会ではアレックス・ロバーツに生涯初のKO負けを喫している。184cm、85kg。



プロゴルファー!!

日本人ファイターがヤバイ!!

打倒・魔裟斗! 目指すはK−1 MAX逆上陸!

蜜山剛三

蜜山剛三

日本の裏側、オーストラリアからK−1 MAX逆上陸を目指し、日夜トレーニングに励んでいるのが、蜜山剛三(みつやま・ごうぞう)という男である。

剛三という名前のイメージとは裏腹に、所英男系のさわやかフェイスの蜜山。今回の『XPLOSION』では、アルバート・クラウスのスパーリングパートナーを務めるトルコ人のムラット・ハマスとK−1MAXルールで対戦し、ローブローを食らい苦しみながらもパンチとキックのラッシュで見事KO勝ちを収めている。

試合後のリング上では「やっぱり日本男児が一番強いですね。〝どんだけ〜〟って感じで(笑)」と、日本人にしか通用しないようなマイクアピールを披露し、現地のファンを戸惑わせていた蜜山。

そもそも、MAX参戦を夢見る蜜山は、なぜオーストラリアにいるのか。素朴な疑問をぶつけてみた。

「中学、高校と3年間、極真をやってたんですけど、キックを始めたのが19歳のときで、MAXで魔裟斗さんの試合を観てからなんですよ。それで伊原道場に入ったんですけど、その頃に、たまたまレイ(松村『XPLOSION』&ファイブ・リングス道場代表)さんに会って、『K−1 MAXに出るのが夢なんです』とか話してたら、レイさんのところで練習しながらMAXを目指そうってなって、おもいきってオーストラリアまで来ちゃったんです。あのときの行動力にはボク自身もビックリしました(笑)」

世間でよく聞く、親の仕事の都合や留学とかではなく、MAX出場を目指して、オーストラリア移住を決めたという蜜山。確かに凄い行動力だ。

高校卒業後は1年半ほど空調関係の会社に就職していたという蜜山だが、MAXを観て影響を受けると、仕事を辞め上京。伊原道場に通いながら居酒屋でバイトし、オーストラリア行きの旅費を貯めたという。

なんとかオーストラリアまでたどり着き、レイ松村氏のファイブ・リングス道場で練習漬けの毎日を送ることとなった蜜山。練習相手は、師匠と慕う松村氏のほかにも〝ムエタイ5冠王〟のネイサン・コーベットや、日本でもおなじみのイアン・シャファー、ジョン・ウェイン・パーなど、蜜山が目指すK−1のリングでも活躍している錚々たるメンバーだ。

オーストラリアに来て約1ヵ月でアマチュア大会ながらオーストラリアデビューをはたした蜜山は、それから、わずか1ヵ月後に『XPLOSION』でプロデビュー。今回のムラット戦を含み、プロ戦績は10戦7勝2敗1引き分けと、なかなかの結果を残している。ちなみに2敗のうちの一つは日本でのもの。じつは蜜山は、オープニングファイトとはいえ、すでに目標とし、夢見ているK−1 MAXのリングに2回上がっているのだ。

初めてMAXのリングに上がったのは07年2月の有明コロシアム大会。このときはASH−RA相手に1度ダウンを奪っての判定勝ち。2度目は07年4月の横浜アリーナ大会。連勝して、本戦出場のきっかけをつかみたいところだったが、蜜山は城戸康裕相手に判定負けを喫してしまう。

「2回、MAXに出られたのは、レイさんがK−1と関係があるので、チャンスをもらえたと思うんですけど、やっぱりK−1のリングは会場もデカいんで緊張感がありましたね。でも、いい試合をするのはもちろんですけど、本戦に上がるには負けちゃダメだと思うんで、また次にチャンスをもらえたら必ず活かしたいと思います」

現在はファイブ・リングス道場を中心に週6回の練習をこなしつつ、普段は週5回弁当屋でバイトをしているという蜜山。

「こっちに来てから、ずっとその店で働いてるんですけど、作ったり売ったり両方やってます。そういう意味ではボクも〝闘うフリーター〟ですね(笑)」

〝イケメン〟で〝オーストラリアからの逆上陸〟で、おまけに〝闘うフリーター〟とくれば、TBS的にも非常にプッシュしやすい存在と思われる蜜山。最後に今後の目標を聞いてみた。

「MAXの本戦に出て、最終的にはチャンピオンになりたいです。やりたい相手ですか? 誰とやりたいっていうのはとくにはないです。ボクはレイさんに『行け!』って言われれば行くだけなんで(笑)」



トルコのムラット・クマスに見事なTKO勝利を収め、トレーナーとポーズを決める蜜山。道場では階級が上のネイサンとも激しいスパーをしているという蜜山。MAX本戦登場はいつになる?

元プロ野球選手&現プロゴルファー&現格闘家、44歳!

岩崎恵一

元プロ野球選手にしてプロゴルファー、42歳にして総合格闘家デビューをはたすという凄まじい経歴を持つ日本人をオーストラリアで発見! その名は岩崎恵一、現在44歳で二人の娘のパパでもある。

その、あまりの経歴に年内にはKKベストセラーズから『どんな時でも生き抜ける明るい開き直りのすすめ』という自伝的教育書の出版も決定しているという。すべての経歴を紹介すると、それだけでページが埋まってしまうので、その波瀾万丈な人生をかいつまんで一気に紹介しよう。

長崎出身の岩崎は中学3年生を前にアメリカへ単身留学。高校時代は野球部&レスリング部でキャプテンを務め、同時にアメフト部でも活躍(その間、喧嘩による停学はなんと9回!)。テキサス州立大学に入ると、金髪美女と国際結婚(その後、離婚)。卒業後、アメリカの高校の数学の教師を務め、同時に野球、バスケ、アメフト部の顧問&コーチを務める。その後、メキシコのプロ野球球団に所属すると、ダイエーホークスの入団テストの招待を受け一時帰国するもケガのため3ヵ月で断念。英会話学校を経営しつつ高校野球のコーチを経て、スポーツマネージメントの会社に入社。そこでプロゴルファーのトレーナーやマネージメントをしながらゴルフ&テニススクールの指導&運営に携わり、同時に監督・館ひろし、ドライバー・近藤真彦のレーシングチーム・フォーミュラニッポンの運営も行なう。その後、独立して(株)デュオスポーツを設立。ゴルフのレッスンプロとして若者の育成に励む。そして、42歳にして家族と周囲の反対を押し切り総合格闘技デビューを果たすという、トンデモない男なのだ。

正直言って、どこから話を聞いていいのかサッパリわからないので、とりあえず、なんでまた42歳にして総合デビューをしようと思ったのか聞いてみました。

「何年か前にレイ(松村『XPLOSION』代表)さんに居酒屋で飯食ってたときに「いい身体してるね〜」って言われて名刺渡されて、それから1年半くらい経って自分から『やりたいんだけど』ってことで(ファイブ・リングス)道場に通い始めたんです。プロレスもそうですけど、UFCとか大好きだったんで、『オレもブッ倒してパウンドで殴りてえな』って思って。それで、3ヵ月間練習して42歳でデビューしたんですけど、周りからは『ギネスに申請しよう』って言われてますね(笑)」

確かに、42歳での総合デビューなんて、ランディ・クートゥアーはもちろん、さすがの谷津嘉章もビックリだろう。

ちなみに岩崎は今大会ではジェーミー・

イケメン！ ドラッグ!?

キャラ濃すぎ！ 豪州在住



オーストラリア特集、最後は豪州在住の日本人ファイターをクローズアップ！ タイプは全然違う3選手ですが、どの選手もキャラ濃すぎ！ 三者三様の、その半生をご覧あれ!!

ドラッグ中毒を克服したムエタイファイター！

ヨシ上田

岩崎恵一

ヘンダーソンに判定負けを喫し、これまでの戦績は1勝3敗と負け越している。

「腕っぷしには自信があったんで、前はテレビとか観ながら『なんだコイツ、よええな！』とか言ってたけど、そんなこと言ってる場合じゃないってデビューして実感しました。まあでも、個人的には3試合目と昨日の試合は負けたと思ってないんで、自分的には3勝1敗でもいいと思ってます」

このポジティブさが、これまでの波瀾万丈な人生を乗り切ってきた証しなんだろう、きっと。

そんな岩崎さんだが、引退試合で闘いたい相手がいるという。その選手の名は？

「最後は強い相手とやりたいんで、できれば所英男選手と闘いたいですね。彼なら僕の挑戦を受けてくれそうな気がするんで（笑）。その前は、金子賢とやって終わりたかったんですよ。実際、知り合いの関係で話をしてたんですよ。その人が『やれ』って言ったら、やらなきゃいけないような人だったんですけど、結局、芸能界に戻っちゃいましたからね。金子賢だったら、いい勝負だと思ったんですけど」

……つくづくポジティブシンキングの岩崎さんである。

「いまは44歳ですけど、まだ進化し続けてると思うし、たぶん引退は46歳ぐらいかな。そのときはぜひ、所選手と。引退試合だったら、これまで教えていた生徒や知り合いに声かければ2000人ぶんぐらいはチケット売れると思うんで、谷川さん、よろしくお願いします！（笑）」

谷川さんならずとも「んあ～」と言いたくなる願望ではあるが、2000人ぶんチケットがさばけるなら実現の可能性もありか？ 何はともあれ、ガンバレ、岩崎さん！



今大会では判定負けを喫した岩崎さんだったが、試合後は愛娘をリングに上げて記念撮影。将来は横峯親子と浜口親子に対抗すべく（？）、娘をゴルファーか格闘家にする計画もあるらしい。

ヨシ上田

オーストラリア在住日本人選手の最後に登場するのは〝さすらいのムエタイファイター〟ヨシ上田だ。

昨年、日本人初のオーストラリア王座（WKAウェルター級）を獲得した上田は、そのアグレッシブなファイトスタイルで地元オーストラリアのファンも多いムエタイ戦士なのだ。今大会では、中国のツァン・ホイ・クアンと対戦し判定勝ちを収めるも、試合内容に納得がいかなかったのか首をかしげながらリングをあとにした。

「倒せなかったしダウンも取れなかったんで勝ってもおもしろくないですね。観てるほうもつまんないだろうし、あんな試合じゃ気持ちよくないです」

反省しきりの上田。そんな彼は〝さすらいのムエタイファイター〟と呼ばれるだけあって、オーストラリアにたどり着く前はムエタイの本場タイで武者修行を積んだりインドを放浪したりしていたんだという。

「最初は19歳ぐらいのときにJ-NETWORKってとこでキックを始めたんですけど、トレーナーも週1～2回ぐらいしか来なかったんで、それならタイに行ったほうが早く強くなるんじゃないかなって思って、お金を貯めてタイに行くことにしたんです。で、東京だとなんだかんだでお金を使っちゃうんで、沖縄とかで1年ちょっと働いてましたね」

タイへ行くための資金稼ぎにバイトを始めようと考えた上田だったが、沖縄に行く直前、落ち込む出来事があったという。何が原因かと聞いてみると……。

「その頃、ドラッグやってたんですよ（苦笑）。それで、ガクーンと落ち込んじゃって。なぜか、当時ドラッグに凄い憧れがあって。で、やりすぎちゃったんです」

嵐こと高木功もビックリの衝撃のカミングアウトである。

「タイへ行ってからは、もうドラッグやってないんですけどね。もともとキックを始めたのもドラッグをやめたいっていうのがきっかけだったんで（笑）。実際、キックにはまってからはやめられましたから。まあムエタイも中毒性があってドラッグみたいなもんですからね。試合で負けたときも禁断症状みたいな感覚で凄い似てるし、逆に勝ったときは、もうドラッグでキマってるときと一緒な感じで（笑）」

ムエタイとドラッグは似ているかどうかは経験者じゃないとわからないが、とにかく上田はムエタイを始めてドラッグを卒業できたというから、それはそれでよかったんだろう。そんなこんなで、タイでの修行時代には日本でもおなじみのオーレ・ローセンとも練習をともにしていたという上田だったが、タイからオーストラリアへ移住した理由はなんだったのか？

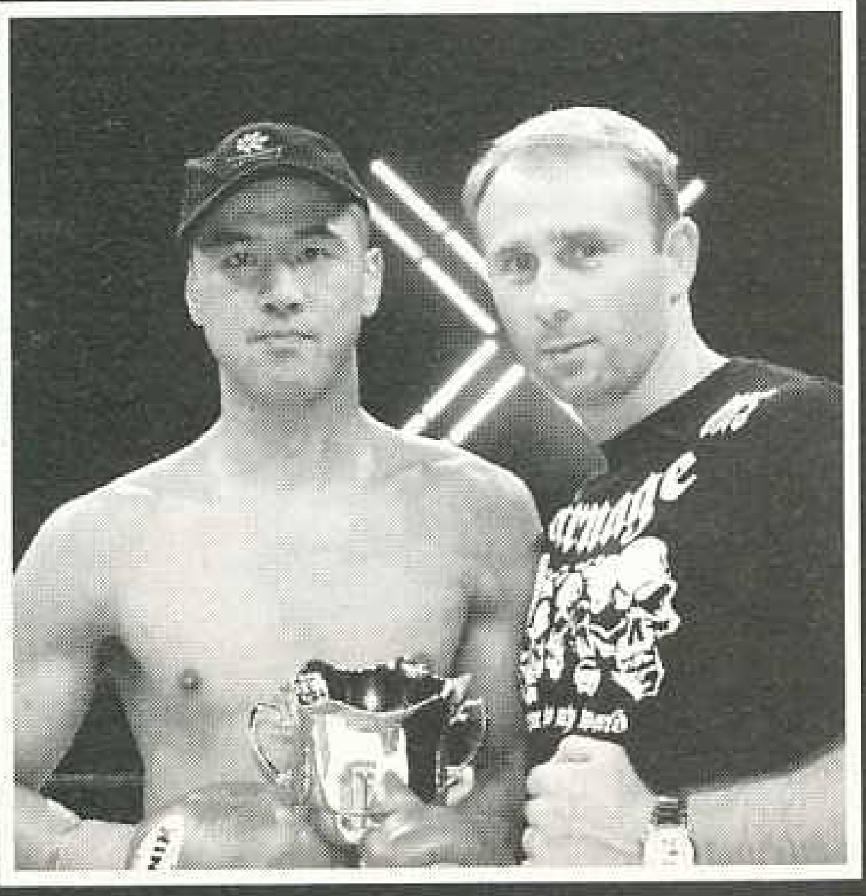
「オーストラリアへ行った理由はタイ人に勝てなくなったから。自分はスタートが遅かったんで、小さいときからやってるタイ人には勝てないなって。やっぱりタイ人に勝つにはパンチのコンビネーションを覚えるしかないんですよ。そのためにはヨーロッパしかないと思って。で、オランダかオーストラリアにしようと思ってオーレに聞いたらオランダは住宅事情が悪いらしくて。それで知り合いのオーストラリア人に聞いたら『オーストラリアは闘うところがいっぱいある』って言われて、それで即決しました」

オーストラリア行きを決意してからは一時帰国し、日本の工場で半年働き、資金を貯めたという上田。オーストラリアにたどり着いてからは、レイ松村氏のファイブ・リングス道場に住み込み、トレーニングに明け暮れる毎日だ。

そんな上田の休日の楽しみは読書と現地で知り合った日本人の彼女（19歳）とのデートだという。チャンピオンになり彼女もできた上田、将来的には日本に帰国することも考えているのだろうか？

「もうずっと、こっちに住もうと思ってます。何か日本が合わないみたいなんで。それに、自分は日本にいたらアキバ系になっちゃうと思うんですよ。日本にいるときビデオボックスが大好きでオ●ニーばっかりやってたんで（笑）。幸いなことに、オーストラリアはそういう環境があんまり整ってないんで、そのぶん、ムエタイとかほかのことに打ち込めるんで。……でも最近、ゴールドコーストにも日本のAVとか見られるビデオボックスみたいなところを発見してしまったんです。いまは誘惑と闘ってる毎日です……。頑張ります！（笑）」

オメエはそれでいいや！（笑）。



普段はドランカーチックな喋り口調の上田だが、リングに上がると一変し戦闘モードへ。今回の試合は内容に満足がいかなかったようで試合後も「サンキュー・ベリーマッチ」と一言アピール。

お詫び

大会当日に全カードが発表された
6.29 IGF……

……なんですが!!
なんと、今号において1ページも割いてないことに締め切り当日に気がつきました!!　ホント鳥肌立った。

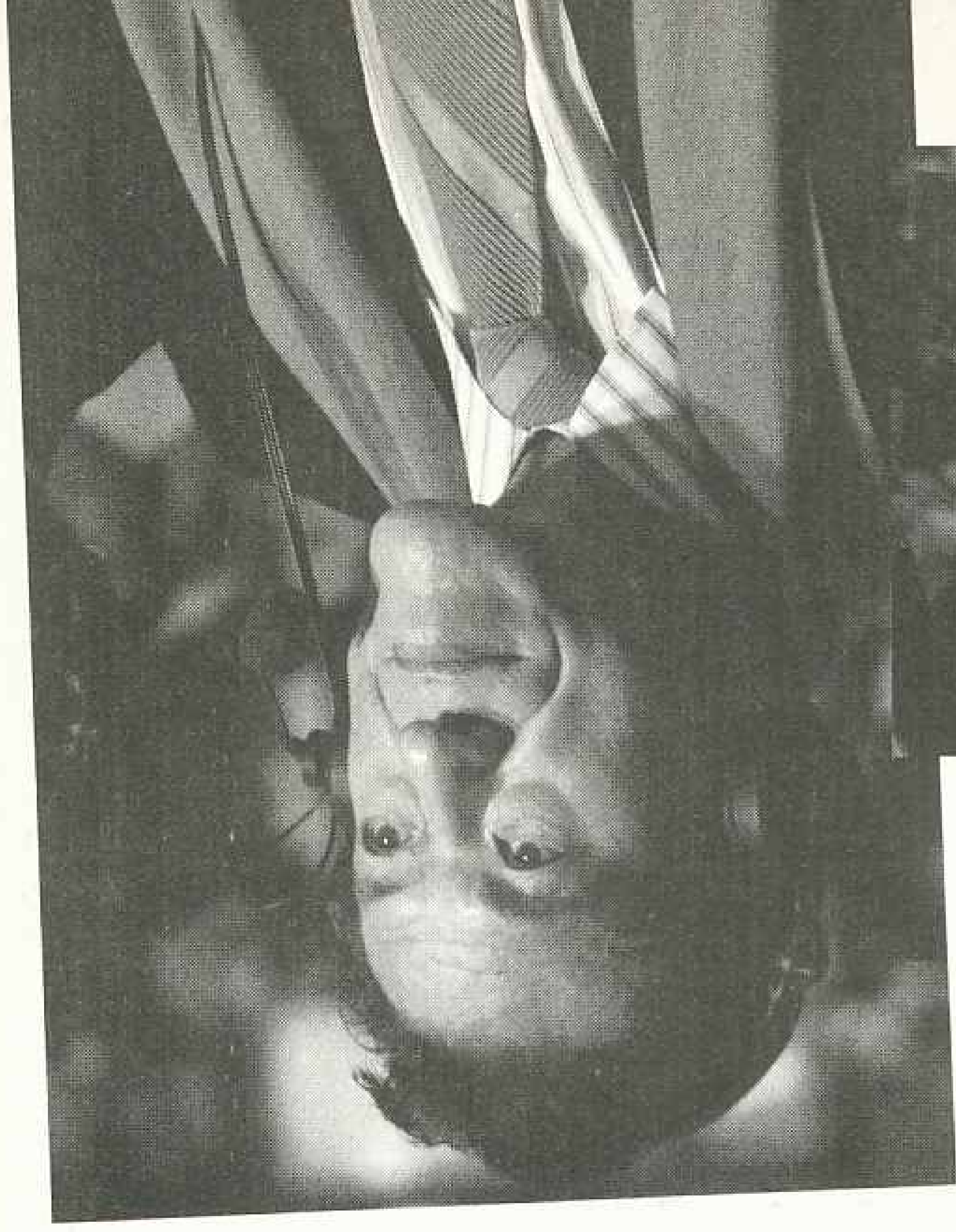
IGFを心のズンドコから応援し続け、毎号にわたって大特集をしてきた本誌としては、この“非常識”な行為に弁明の余地がありません。お詫びの意味も込めて頭を丸めました。

次回からは前もって準備を整え、当日にすべてを片づけるようなことはしないように心がけます、ズバリ言って。

本誌編集長／ジャン斉藤

というわけで、大会前までは楽しみで楽しみでしょうがなかったIGFも、終わってしまえばどーでもよくなっていた本誌ですけど、1ページもないわけにはいかない（あたりまえ）。
1ページに凝縮した豪華レポートをお届けするんダー!!

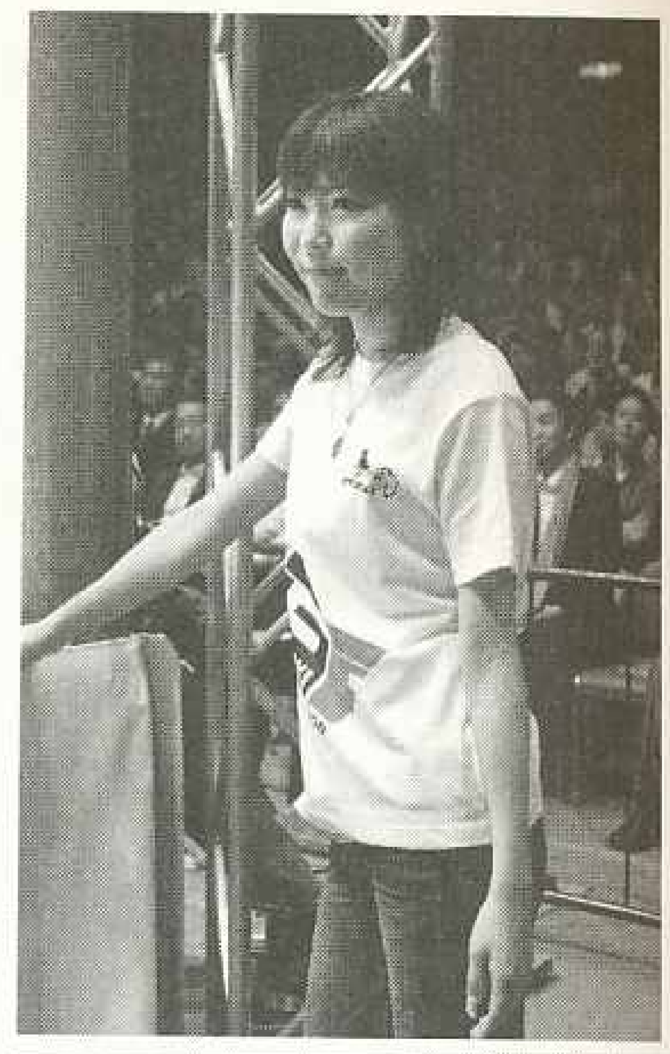
撮影／平工幸雄

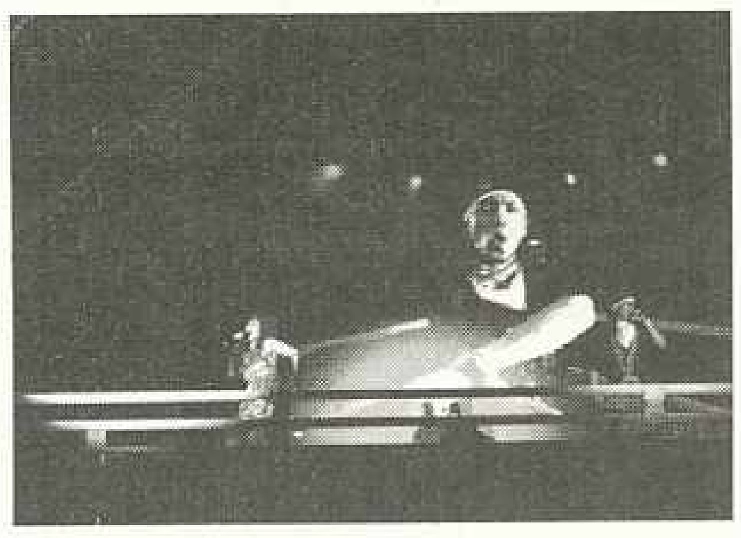


これぞ、わび・さびの世界!?
超緊急のため、非常識にお届けします！

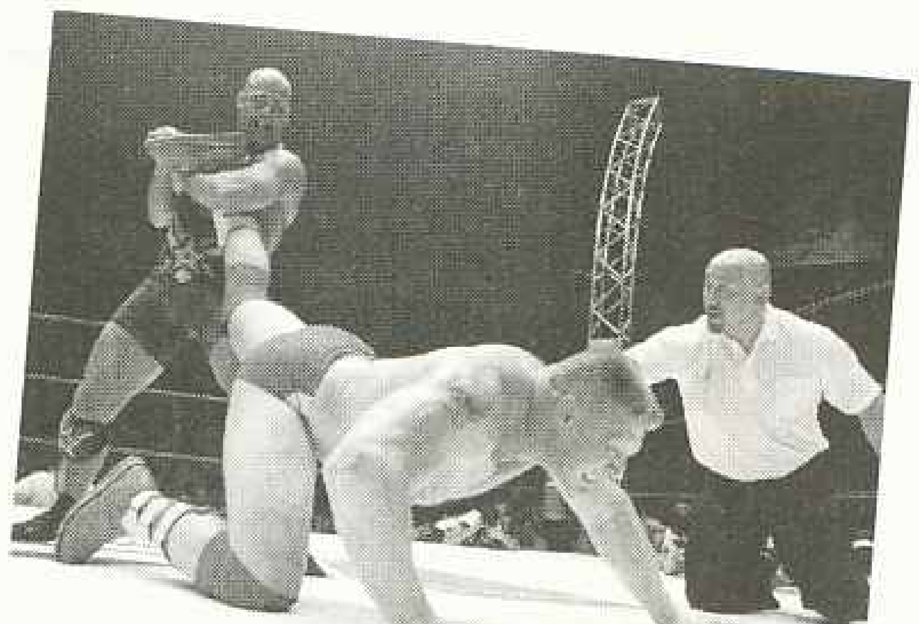


PPVの解説は、『東スポ』の柴田惣一氏、実況は辻よしなりと、元『ワールドプロレスリング』実況コンビが復活ダー！　我らがアントンはPPV中継のゲスト解説を務め、大会前の「イノキゲノムとは何か？」というお題に「元気ですか？」と、メッセージ性皆無に書き殴るから最高だ。だ、誰に問いかけているんだ……!?

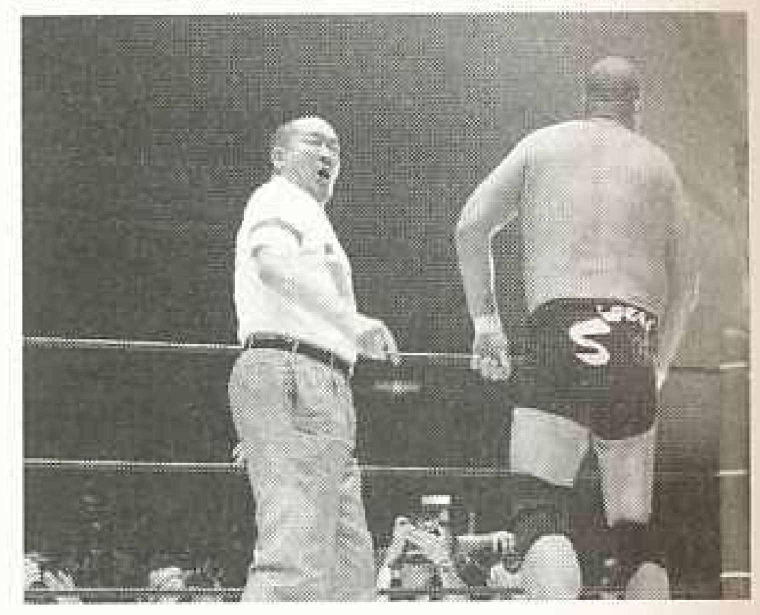




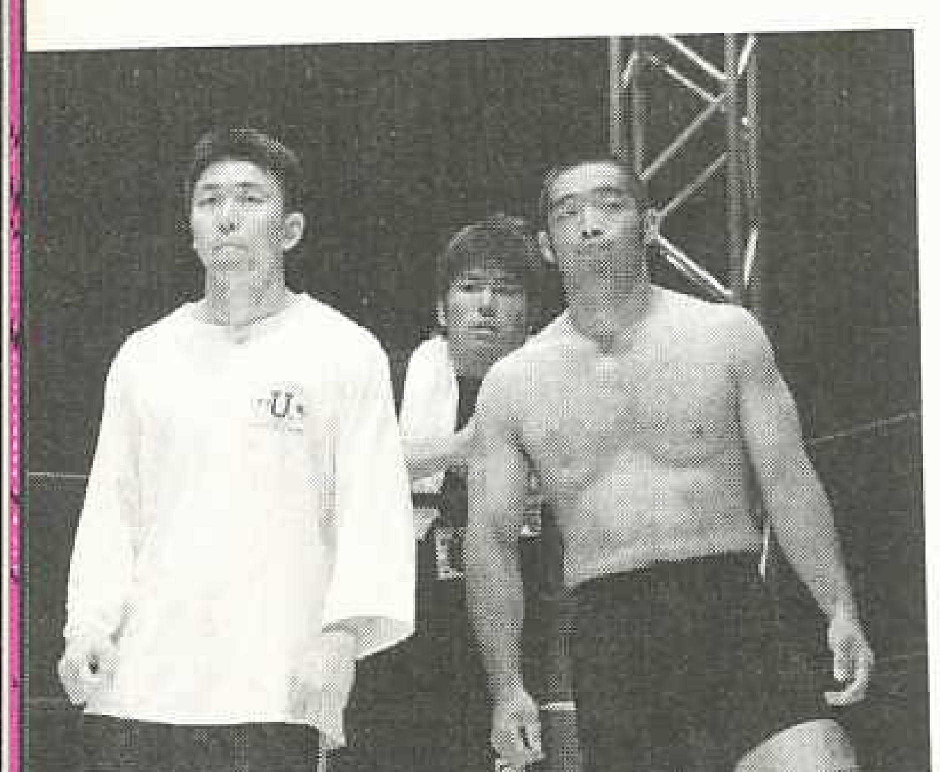
休憩中に、アントンがスーパーバイザーを務めるという、ゴキゲンなヒップポップユニットTRIPLE-Pが『道』を大胆にアレンジしたラップソングを強制披露!!　もう大胆にアレンジしすぎて、「♪ミスター猪木がチェケラッチョ!」などと歌いだすから、怒りに震えたこの拳の下ろし場所に困るというものだ。



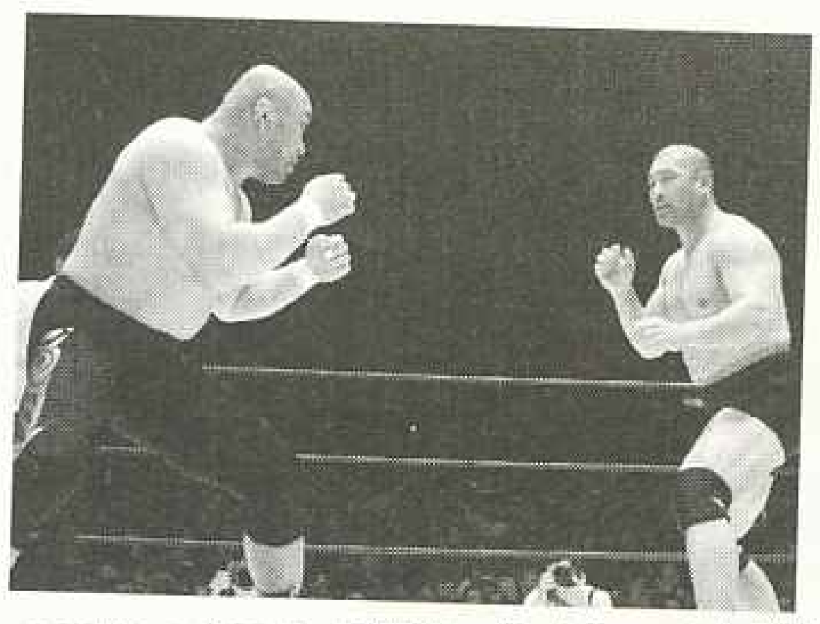
レスナーがホントにキターーーー!!　アングルもキターーーー!!　ホントに試合をヤッターーーー!!　いやあ、よかったねえ（猿さん調）。というわけで、前々から発表されていたカードをやっただけで、ありがたがられるIGFのハードルの低さに乾杯。マジメに書くと、試合も名勝負だったし、IGFはこの二人のプロ魂に救われたのであった。



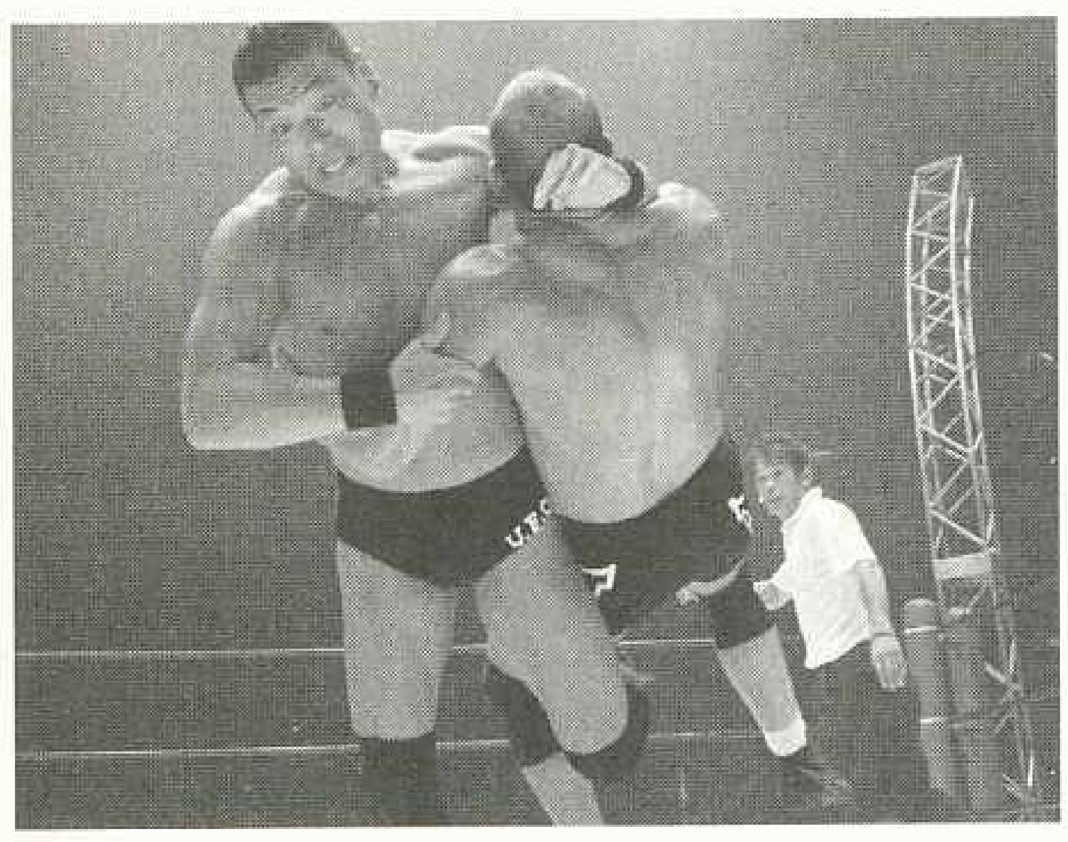
ジョシュと対戦する安田忠夫のセコンドとして、『紙の破壊王 爆勝宣言集』にも登場している娘のAYAMIちゃんの姿!!　せーの、アヤミンッ!!（野太い声で）。残念ながら全国を感動に包み込んだ「お父さん勝ったゾ!!」の再現はならず。惨敗の安田に激怒したアントンは見届け人の藤原に制裁を要求!!　命令どおり、張り手をカマした藤原は、ひしと安田を抱きしめ、涙に暮れた……って、そんなのいいから、アヤミンを出せ！　せーの、アヤミンッ!!（野太い声で）。



田村潔司の相手に注目が集まっていたが、ふたを開けてみれば、U-STYLE披露試合!!（田村潔司＆上山龍紀vs小武悠希＆松田英久）。向かって左が小武選手、右が松田選手です。U-STYLEルールに則り、ロストポイント制。ビジョンにも得点が掲示されたが、なんのアナウンスもないしからわかりにくいことこの上ないよ!!



小原道由の相手は、高岩竜一だった!!……なわけはなく、柔術家のタカ・クノウさんでした!!　あ、全然似てない？　そんなことはさておき、試合のほうは頭突き合戦で会場がヒートアップ！　無気力試合防止の番人、藤原組長も「殺せ!!」とテンションアップ!!　殺しますかーっ!?

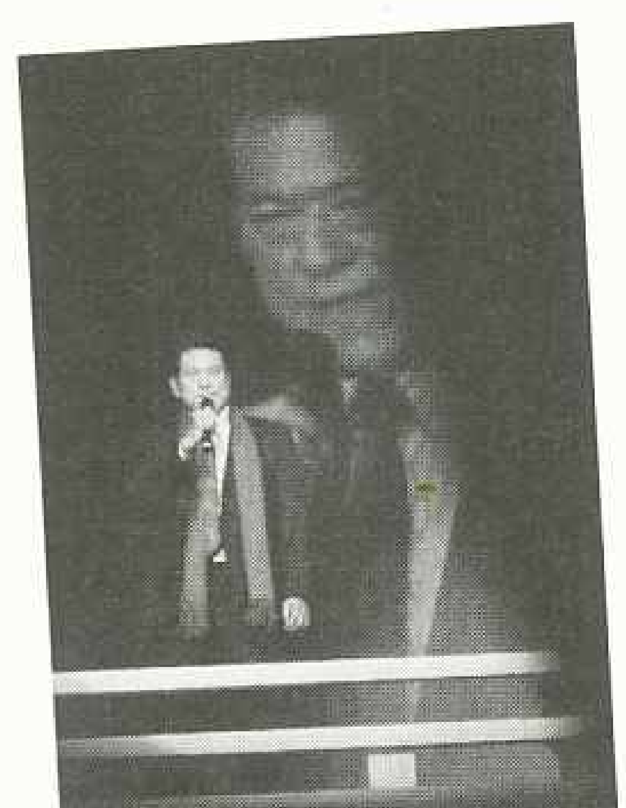


破壊王のテーマ曲『爆勝宣言』を使用したのは、小川直也いわく「破壊王もIGFで闘っている」そうなので、しょうがないのである（久間調）。しかも「IGFでは使い続ける」そうなので、お楽しみに（無表情で）。……って、オーちゃんにはいち早く「ハッスル」に復帰してもらいたいが、相手のコールマンといい、そのセコンドが安生だったりと、ある意味「ハッスル」ではあるが。



栄えあるオープニングには、2階席から狂言師が登場!!　「この道を行けば……」と、おなじみ『道』の朗読したが、あまりに遠すぎて、和泉元彌にしか見えないのが玉に瑕。そのあとアントンも2階席に登場。初めは普通に挨拶をするも「……マジメな挨拶なんつまらねえよ!?」と絶叫!!あいかわらずの芸風だ！

所変われば、男色キャラの男盛vs正体不明のマスクマンのランデルマンという異色対決になるのだが、ここはIGF！　闘いのあるリングぅ!!　ハッスルなんてクソ食らえぇぇぇぇ!!（いつかの吉野アナ調）。……というわけで、ひさしぶりにアレクのテーマ曲『AOコーナー』を聴けたファンもいたのではないだろうか。試合はランデルマンが勝利!!



エンディングは再び2階席の特別ステージにアントンが登場!!　とうとうアントンは最後までリングに上がらなかった。何か事情があったのか。38万円のVIPチケットを買った客（いるのか知らんが）の立場は……。「ということで今日はやらないはずだったんですが。やりますか？」と、ダーを敢行！　やらないはずだった!?　ん？　何か事情があったのか。



ダークマッチとしてアントニオ猪木推薦試合が2試合組まれた。一つは石川雄規vs澤宗紀のバチバチマッチ！　澤は石川を下し、師匠超えを果たした。もう一つはなぜかロッキー・ロメロvsエルブレイザーをアントンが推薦!!（詳細を書いてる時間がないので各自調査してください！）。絶対に推薦してないと思う！



新 卓球少女(仮)松下ミワの
ハガキ愛ランド

そろそろ真夏日が続くたいへんな季節になりましたが、皆さまいかがおすごしでしょうか？　しかし、そんな日は緑色の怪しい物体ともろこし体操なんてのんきにやってるヒマはありません。一刻も早く滝に打たれて"殺し"を身につけろ!!　そして、夏休み明けには一風変わったナイスな自分を見せつけて、クラスメートを唖然とさせましょう〜。それではハガキページスタート！　3、2、1、金髪、金髪、う〜、細まゆ毛!!（デビュー）。

kamipro112号へのお便り紹介

ダナ・ホワイトのインタビューが抜群だった。とはいえ、『PRIDE』が動いていないぶん、PRIDEファイターはUFC出場に向けて動いてますね。同一資本とはいえ、UFCでいい話題が出るたびに『PRIDE』に対する不安が募ります。

【福島県・紺野春樹さん・会社員・27歳】

⬇『Dynamite!! USA』に対するダナの口撃はあいかわらず凄まじいものがありましたが、やっぱり敵には回したくない方ですねえ。

菊地成孔さんのインタビューがおもしろかったです。僕がぼんやり感じていた谷川さんのイメージを見事に言語化していたのを読んで、なんだか背筋に冷たいものを感じました。

【東京都・藤瀬真さん・自営業・36歳】

⬇菊地さんの言われた『本当は怖いグリム童話』の世界がピッタリって感じのインタビューでしたが、真夏にはちょうどいいんじゃないでしょうか。

ダンヘンのインタビューがよかった。PRIDEファイターはみんなUFCに行っちゃってるけど、ダンヘンはまた『PRIDE』のリングで試合をしてくれそうなので、嬉しかった！

【山口県・田平俊一さん・高校生・17歳】

⬇ダンヘン念願の『PRIDE』での防衛戦ははたして実現するのでしょうか？　そのままベルトをもらってしまうっていうのもいいような気がしますが。

堀辺師範の「変質したグレイシーの理念」に感銘を受けました。ホイス選手と桜庭選手の再戦ということで、非常に期待をしていましたが、なにかもの足りない寂しさを感じていた気がしました。それが堀辺師範の記事で明らかになりました。ホイス選手の持っていた気高さや誇りが失なわれ、グレイシーの存在感が薄れてしまったかのように感じたのは、まさに堀辺師範の言うとおりだと納得しました。これが『PRIDE』を飲み込んだUFCをはじめとした業界の大きな流れとどこか重なる部分があります。男たちが強さを求めて身体をぶつけ合うことが文化となる日が少し遠のいたことに気づかされました。

【茨城県・熊谷新さん・自営業・33歳】

⬇桜庭vsホイス戦を語った堀辺師範のインタビューには同じような投稿が多数ありました。やっぱりこの一戦にはみんなエガちゃんばりに一言もの申したいんですねえ。皆さま、熱弁ありがとうございます！

ミヤマ☆仮面のインタビューが一番よかった！　垣原さんの近況がわかったし、なんだかホッとしました。どーせならそのまま『ハッスル』で高田総統の横に立ってほしいですね。

【京都府・山本隆行さん・自営業・42歳】

⬇人気急上昇のミヤマ☆仮面は一応ヒーローなので、モンスター軍に入れるでしょうか？　"キャプテン"不在のハッスル軍でHGとさわやか最強ダッグでもいけるかも？



谷川さんが器のデカさを発揮したサップの復活記事がよかった。今回はちゃんとバンデージを巻いて試合をして、そのあとに逃走するという若干の進歩を見せてくれた。サダハルンバを本気で怒り心頭させる唯一の男サップには、これからも忘れた頃にひょっこり出てきてほしいです。もしくはIGFに参戦を！

【神奈川県・長瀬誠さん・会社員・40歳】

⬇サップの復帰戦ともいうべきK-1アムステルダム大会には度肝を抜かれました。谷川さんいわく、サップの活動範囲はFEG主催イベントにとらわれないとコメントしてましたが……、IGFとサップのドッキングとなると、さらに怖いですねえ。

青木真也のインタビューがよかった。修斗時代の発言をいまだにいじられるのは気の毒だなあと思う。でも、それをネタにしている『kamipro』はもっとタチがワルいことに青木選手にも気づいてほしい。

【福岡県・岩永オサムさん・自営業・27歳】

⬇ひどいこと言いますね、あなた。でも、本当のことなので仕方がありません。完敗！

『ハッスル・エイド2007』に行ってきましたが、クロマティは本当に凄いレスラーだなと思いました。『ハッスル』をあれだけ理解し、しかも目ん玉ひんむいてタイガー・ジェット・シンに挑むなんて。

【石川県・かに道楽さん・20歳】

⬇クロマティにはぜひ継続参戦してほしいですね。人があんなに必死な顔をしているのを、私はひさしぶりに見ました!!



武藤敬司とマッスル坂井の対談がおもしろかった！　ビジュアル系の相撲ファイターによる「マッスル相撲」ってイケそうですね!!　追加公演ありでぜひ実現させてください！

【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

⬇実現したらホントに観たい！　しかし、いったい誰が出場してくれるんでしょうか？

112号・おもしろかった記事ランキング

1位	堀辺正史
2位	ミヤマ☆仮面
3位	ダナ・ホワイト
4位	武藤敬司×マッスル坂井
5位	鈴木修

112号おもしろい記事トップに輝いたのは、桜庭vsホイスの"不都合な真実"を直言した堀辺先生のインタビューに！　続いては、人気急上昇中のスーパーヒーロー、ミヤマ☆仮面!!　今号でも"ワル"を戒める正義の見方として登場しているぞ！　さらに、4位&5位にもプロレス関連の記事がランクイン。3位に入ったダナは毒舌トークで新たなファン層を獲得している模様でございます！

クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンにはおめでとう！　と言いたい。いろいろ苦労があったんだろうなあと思う。でも、具体的にどんな苦労があったのか知りたいので、次回はランペイジに途中で会話をさえぎられた「スポンサー探し」の話もちゃんとインタビューしてほしい。

【埼玉県・スポンサードさん・広告代理店・30歳】

⬇今度は会話をさえぎられないようにスコットに頑張ってもらいましょう！

ひさびさに所英男のインタビューが載ってたので嬉しかった。僕もYOSHIKIさんがいきなり隣に立ってたらきっとビックリすると思います。次回はマイケル・ジャクソンあたりにトロフィーをもらえるように頑張ってください！

【岩手県・整形美人さん・サラリーマン・24歳】

⬇次回、『Dynamite!! USA』にはそのくらいド級のスペシャルゲストを呼んでいただきたいですね！　でもいったいいくらかかるんダー!!

ジョシュ・バーネットがIGFにホントに参戦するとは思わなかった！　試合は観に行けなかったんですが、勝って『PRIDE』無差別級準優勝の面目を保ってくれてよかったです。ちなみに、ジョシュがミヤマ☆仮面について知っていたのは笑った！

【大阪府・上京寸前さん・コンビニ経営・31歳】

⬇「1・4事変のような手はボクには通用しない！」というジョシュは、もう"変態"の域に達していると思います。

今回はGBHのプロレス探検隊がよかった。僕は越中詩郎が出るようになってから、『kamipro』を読むようになった。これからもどんどんサムライ越中を出してほしいと思う！

【兵庫県・重岡政範さん・会社員・31歳】



⬇インタビュー中のGBHの写真は凄く和やかなムードでしたね！　ヒールにもいろんなタイプがいることがわかって勉強になりました〜。

破壊王の入場曲を作った鈴木修さんのインタビューがおもしろかった。橋本のテーマ曲へのこだわり、そのほかエピソードが素晴らしいと思った。いま橋本が生きていたら、プロレス界はもっと盛り上がっているんじゃないかなあ。

【千葉県・小瀬村博美さん・会社員・34歳】

⬇『紙の破壊王　ぼくらが愛した橋本真也　爆勝証言集』に破壊王の仰天エピソードが連発していますが、亡くなったいまでもこんなに語れるレスラーって素晴らしいですねえ。



埼玉県・棘蟹さん

⬇K−1MAX一回戦を観て、谷川さんは「魔裟斗選手はかっこいいよぉ〜」と絶賛でした。二回戦は誰と対戦するのでしょーか？



長野県・市川学さん

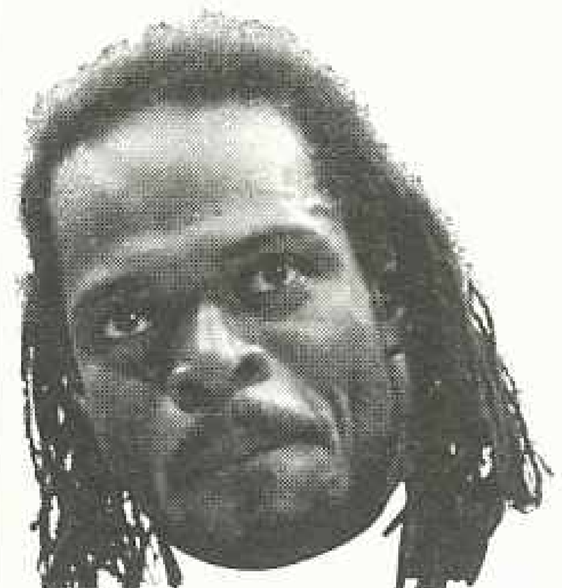
⬇本当にIGFに参戦したレスナー。大会前は「レスナー来日」のリリースのみで興奮しましたが……。



埼玉県・棘蟹さん

➡ブードゥー入りした小島聡。この構図は明らかに『週プロ』の表紙ではないか！

スクープ！ ザ・目撃!!



●代々木近辺のBOOK OFFで立ち読みした帰り道、向こうからやたらとガタイのいい黒人の人が歩いてきました。どっかで見たことある人だなあと思ってマジマジと見ていたところ、なんと！　あの漫才コンビ・塩コショーのベルナール・アッカだったことに気づきました!!　ボクがあまりにも凝視したせいか、アッカさんはまったくボクと目を合わせようとしてくれず、若干ニンマリしながら向こうへ行ってしまいました。とてもお笑いの人とは思えない堂々とした風格でビビりました！
【東京都・上沼さん】

●IGFに行ってきました。自分は前から3マス目のマス席に座っていたのですが、前のマスになんと猪木快守氏がいらっしゃいました!!（ワイシャツの袖に『猪木』の刺繍あり）。全試合終了後に「無事に終わってよかったよ。一時はどうなるかと思った」と漏らしていました。やっぱり相当ドタバタしたんでしょうね。　ちなみに快守氏の奥様と思われるレディの方が、帰り際にぼくの靴を揃えてくれました！　その心配りに感激しました。
【大山和彦さん（kamipro Hand投稿）】

●IGF興行へ行ってきました。大会が始まりしばらくすると、僕の目の前に自分の席を探してまごつく春一番と連れの姿が。猪木といえば春一番、会場入口には生花まで届けており、この興行にも何かしら絡んでいるのでは？　と思っていたのに……。当日は一番安い2階イス席（3000円）で観戦!?　この日、一番のサプライズはこの出来事でした。
【おジャ課長さん（kamipro Hand投稿）】

●6月17日『ハッスル・エイド2007』のあと、六本木でケビン・ランデルマンとマーク・コールマンと再び会いました。会場でサイン会をしていて、そのときにも声をかけていたのですが、そのことも覚えていてくれて、私の彼女含め、4人でブリブラダンスを踊ったりして楽しみました。彼らはファンを大切にし、とても紳士。やはり違うなと思いました！
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・33歳】

衝撃ショット!!

IGFに潜入したS波氏が超レアな『闘今』大入り袋をゲット!!



6月29日に行なわれた“世紀のズンドコイベント”IGFにこの男も潜入していた！　ご存知、我らが『kamipro』常連投稿者・S波氏である!!　写真を見てもらったらわかるとおり、S波氏はIGFの大入り袋までゲットし、ご満悦の表情。本人によると、この大入り袋は当日関係者を通じて手に入れたとのことで、中には500円玉が入っていたそうである！　このほか、S波氏は3000円のTシャツ×2枚、1000円のマグカップ、さらに500円の大会ポスターと、IGFグッズをことごとく購入し、アントンに大貢献〜。また、本大会の“大一番”である小川vsコールマン戦で“小川コール”が自然と巻き起こったことに、ホッと胸を撫で下ろすシーンもあったとか。S波氏、やったね!!



購入したばかりのアントンTシャツを着用し、IGFポスター掲げるS波氏。しかし、S波氏にとっては左手に持つ大入り袋こそが何よりのお宝なのだそうである！



さあ、明るい未来への列車に乗ろう！ 上井駅長の人生相談

さあ、今回からは、マット界の夢を運ぶ上井駅長に相談にのっていただけることになりました！　駅長、ありがとうございます!!　さて、その一発目に選ばれた幸運な相談というのは……!?　むむっ！　これまた駅長にぴったりの相談じゃないですか!!　では、さっそくお悩み解決、出発進行〜ッ！

人生に燃える方法を教えてください

お悩みごと

■生きがいに関する問題
（埼玉県・山田オサム・20歳・♂）

駅長に相談があります。僕は何に対してもあまり興味が持てず、人からもよく「冷めてるね」と指摘されます。僕も何か燃えるようなことをしたいとは思っているのですが、スポーツにも、勉強にも、女の人にも燃えるものを感じられず、いったい何に燃えたらいいのかもわかりません。唯一、列車の撮影にハマったことはありましたが、それも半年ほどで無気力になってしまいました。駅長はどんなときもやる気満々で、凄くうらやましいです。僕も駅長みたいになりたいのですが、どうすれば駅長のように熱血になれるのか、ぜひコツを教えてください！

上井駅長

「どうも、こんにちは。今回から相談役をさせていただく上井です！　さっそく第1回の相談ですが……物事に情熱がないということですか。う〜ん、これは正直申しまして、結局、自分次第なんですよぉ!!（熱血）。自分がどういう運命にあるのかというのは、自分で感じたり自分で見つけ出したりしないといけない。それがまだ見つかってないんじゃない？　この人は何歳なの？　え？　20歳!?　アッハッハッハ！　まだまだじゃな〜い!!（笑）。何言ってんの。僕だってまだ何かを見つけようと思ってるんだからさ！　こんだけプロレスの仕事をしててもまだ燃えるものを持ってるからね。僕も何度も挫折したけど、まだプロレスの仕事を続けてるのは、プロレスの星の下に生まれてきたし、『上井はプロレスの仕事をしなさい』って言われたんだと思ってるんだもの。だからね、この人はもっと感性を豊かにして察知すること！　そういうふうに普段から生活していないと何か打ち込めるものには出くわせないと思いますよ。それは人生のタイミングであったりね。それと、こう言うとへんかもしれないけど、この人の祖先が導いてくれるのかもしれないんだから。だから、やっぱり普段からなんに対しても感性を豊かにして察知することですよね。うん。非常に抽象的な言い方になってしまったかもしれないけど、僕に相談されたら、やっぱりこういうふうな答えになりますね！

山田オサムさん、おわかりになりましたでしょうか？　熱血駅長のご意見をぜひ参考になさってください！
※人生相談ドシドシ送ってください！　宛先は左記参照でお願いします!!

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！　お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
「radical@kamipro.com」
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス　kamipro編集部
「煙草激怒」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず 情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

Fight & Event 7 July

5 SUN.

アスレチック・コミッションの反応は?
"韓流大巨人"チェ・ホンマンが香港出撃!!



『K-1 WORLD GP 2007 IN HONG KONG』
香港・アジアワールドエキスポアリーナ(15:00)

決定対戦カード
チェ・ホンマン vs ゲーリー・グッドリッジ
出場予定選手
レミー・ボンヤスキー、バダ・ハリ、武蔵　ほか

◆新日本/大阪・大阪府立体育館(16:00)
◆全日本/埼玉・青心産業運輸アリーナ(17:00)
◆DRAGON GATE/宮城・Zepp Sendai(18:00)
◆大日本/神奈川・六角橋商店街駐車場(17:00)
◆DDT/東京・後楽園ホール(12:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆K-DOJO/千葉・BlueField(13:30&15:00)
◆DEEP/東京・後楽園ホール(18:30)
◆修斗/東京・新宿FACE(17:30)
◆JWP/東京・板橋グリーンホール(13:00)
◆NEO/東京・板橋グリーンホール(17:00)
◆SUN/東京・新宿FACE(12:00)

6 MON.

◆新日本/静岡・ツインメッセ静岡(18:30)
◆DDT/東京・新木場1st RING(19:00)

7 TUE.

◆DRAGON GATE/山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)
◆DDT/東京・新木場1st RING(19:00)

8 WED.

◆新日本/神奈川・横浜文化体育館(18:30)
◆DDT/東京・新木場1st RING(19:00)

9 THU.

◆DRAGON GATE/栃木・小山県南体育館(18:30)
◆El Dorado/東京・後楽園ホール(19:00)
◆DDT/東京・新木場1st RING(19:00)

10 FRI.

◆新日本/愛知・愛知県体育館(18:30)
◆DRAGON GATE/東京・後楽園ホール(18:30)
◆DDT/東京・新木場1st RING(19:00)

29 SUN.

◆LOCK UP/東京・後楽園ホール(12:30)
◆全日本/石川・石川県産業展示館(17:00)
◆ZERO1・MAX/和歌山・青岸渡寺三重塔前特設リング(15:00)
◆無我ワールド/大阪・大阪府立体育会館第2競技場(17:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆アパッチ/東京・新木場1st RING(18:00)
◆ターザン後藤一派/東京・浅草インディーズアリーナ(17:00)
◆RIKI OFFICE/大阪・はびきのコロセアム(12:30&15:00)
◆全日本キック/東京・後楽園ホール(18:30)
◆NJKF/東京・ディファ有明(15:30)
◆リアルディール/福岡・Zepp Fukuoka(13:10)
◆LLPW/兵庫・神戸サンボホール(16:00)
◆NEO/長野・リージョンプラザ上田創造館(17:00)

30 MON.

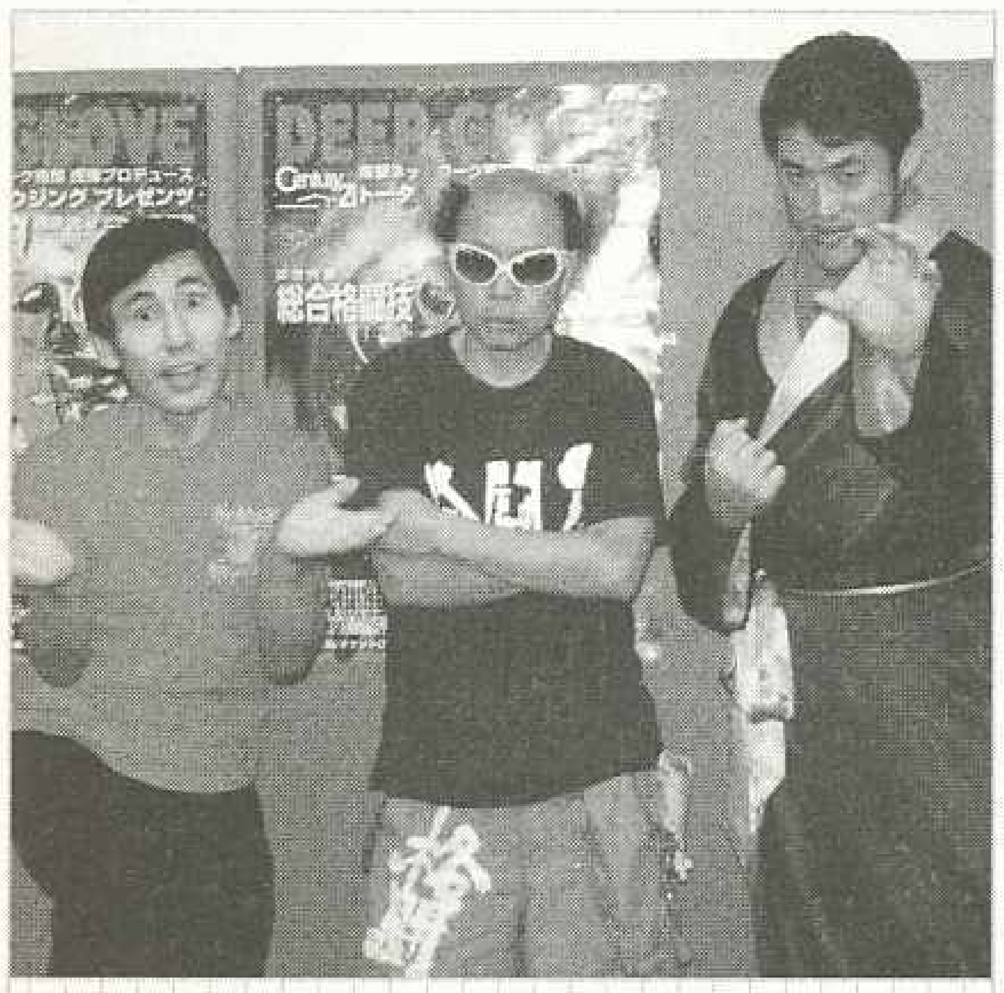
◆大日本/東京・後楽園ホール(19:00)

31 TUE.

◆ZERO1・MAX/愛知・名古屋国際会議場(18:30)

26 THU.

南部虎弾プロデューサーが衝撃のマッチメイク!
エスパー、シミケン、猪木までもがDEEPに参戦!!



『DEEP GLOVE』
東京・後楽園ホール(18:30)

決定対戦カード
桜木裕司 vs 藤井克久
参戦予定選手
エスパー伊東、清水健太郎、アントキの猪木　ほか
チケット料金
VIP席=20,000円、SRS席=15,000円、
A席=10,000円、B席=6,000円
※当日券は500円アップ
◎問=DEEP事務局 052-339-0303

27 FRI.

◆全日本/福島・ビッグパレットふくしま(18:30)
◆ZERO1・MAX/広島・広島産業会館(18:30)
◆パンクラス/東京・後楽園ホール(19:00)
◆プロレスサミット/大阪・デルフィンアリーナ(19:00)

28 SAT.

◆ZERO1・MAX/大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:00)
◆DRAGON GATE/鳥取・鳥取産業体育館(18:30)
◆みちのく/岩手・イオンスーパーセンター一関駐車場(13:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆K-DOJO/千葉・BlueField(17:30&19:00)
◆シュートボクシング/東京・後楽園ホール(18:00)

Fight & Event 8 August

1 WED.

◆大日本/神奈川・ラゾーナ川崎プラザソル(19:00)

2 THU.

◆ZERO1・MAX/東京・後楽園ホール(19:00)
◆大日本/神奈川・ラゾーナ川崎プラザソル(19:00)
◆OZアカデミー/東京・新宿FACE(19:00)

3 FRI.

◆DRAGON GATE/岐阜・多治見セラミックパークMINO(18:30)
◆大日本/神奈川・ラゾーナ川崎プラザソル(19:00)
◆VKF WRESTLE NANIWA/大阪・アゼリア大正(19:00)
◆J-NETWORK/東京・後楽園ホール(17:30)

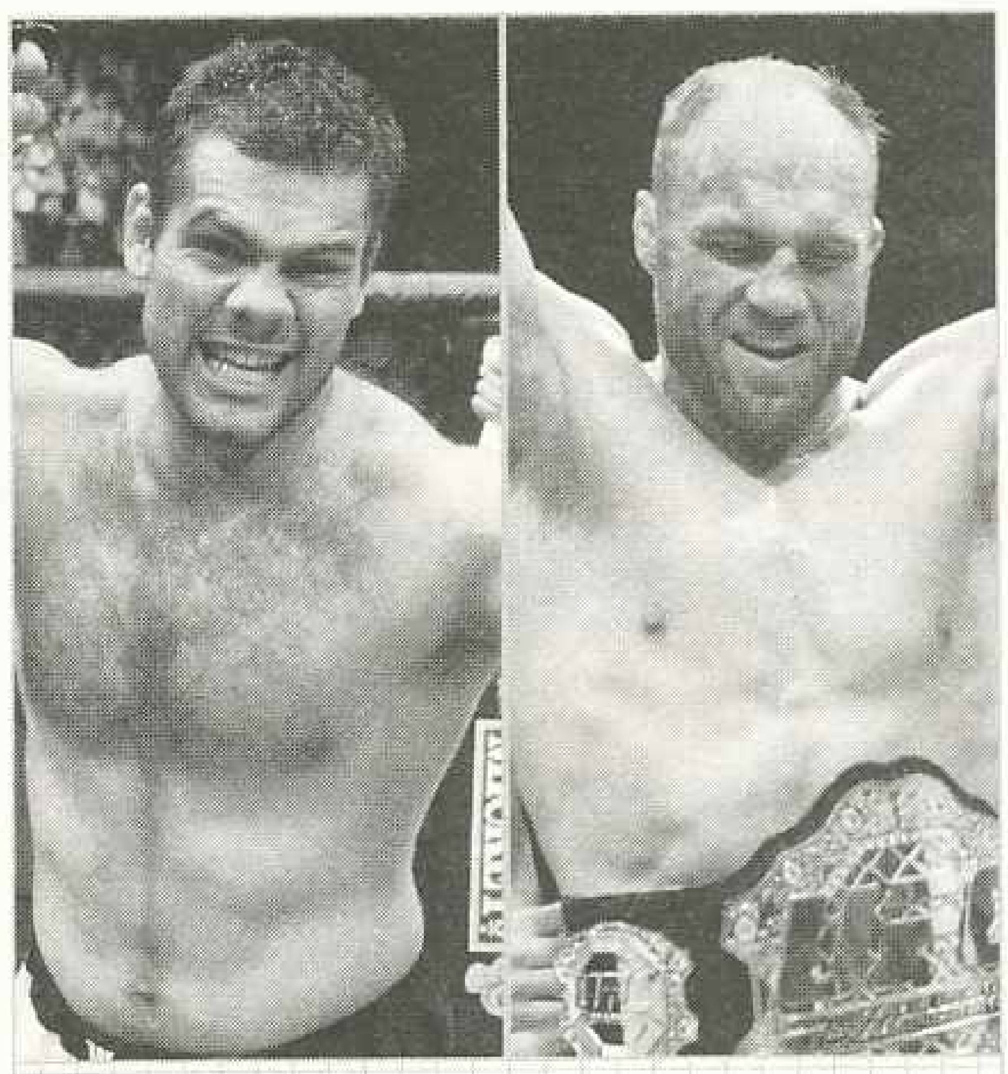
4 SAT.

◆ZERO1・MAX/宮城・石巻市総合体育館(18:00)
◆DRAGON GATE/新潟・長岡厚生会館(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

◆DRAGON GATE／北海道・旭川大成市民センター（18:30）
◆宮本和志自主興行／東京・新木場1st RING（19:00）

25 SAT.

"鉄人" vs "ミルコをKOした男"
UFCヘビー級頂上対決の行方は!?



『UFC74 Respect』
米国・ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター

決定対戦カード
【UFCヘビー級タイトルマッチ】
ランディー・クートゥアー vs
ガブリエル・"ナパオン"・ゴンザガ
ジョルジュ・サンピエール vs ジョシュ・コスチェック　ほか

◆新日本／三重・松阪市総合体育館（18:00）
◆NOAH／東京・ディファ有明（18:00）
◆DRAGON GATE／北海道・恵庭市島松体育館（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）
◆NEO／愛知・日本ガイシスポーツプラザ（17:30）

26 SUN.

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆全日本／東京・両国国技館（16:00）
◆NOAH／静岡・アクトシティ浜松（17:00）
◆ZERO1・MAX／石川・石川県産業展示館（18:00）
◆DRAGON GATE／北海道・Zepp Sapporo（16:00）
◆DDT／東京・ディファ有明（17:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆プロレスサミット／東京・ディファ有明（12:30）
◆R.I.S.E.／東京・新宿FACE（17:20）
◆JWP／東京・後楽園ホール（12:00）

27 MON.

◆DRAGON GATE／北海道・名寄市スポーツセンター（18:00）

28 TUE.

◆NOAH／高知・高知県民体育館（18:30）
◆SUN／愛知・名古屋市中区スポーツセンター（18:30）

29 WED.

◆NOAH／島根・くにびきメッセ（18:30）
◆SUN／東京・新木場1st RING（19:30）

30 THU.

◆みちのく／東京・後楽園ホール（18:30）

31 FRI.

◆NOAH／広島・広島グリーンアリーナ（18:30）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

◆バトラーツ／神奈川・小田原川東タウンセンター（16:30）
◆MAキック／東京・後楽園ホール（17:20）
◆JWP／東京・板橋グリーンホール（17:00）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（13:00）

13 MON.

◆DRAGON GATE／兵庫・SITE-KOBE（19:00）
◆大日本／岡山・揺照山ホテル特設リング（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）

14 TUE.

◆NOAH／宮城・栗原市築館総合運動公園体育館（16:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆ソウルコネクション／東京・新宿FACE（19:00）

15 WED.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール（19:00）
◆NOAH／秋田・湯沢市皆瀬総合支所前特設リング（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆アパッチ／東京・新木場1st RING（19:00）

16 THU.

◆K-1／東京・ディファ有明（16:00）
◆アパッチ／東京・新木場1st RING（19:00）
◆OZアカデミー／東京・後楽園ホール（18:30）

17 FRI.

◆アパッチ／東京・後楽園ホール（19:00）

18 SAT.

◆ハッスル／愛知・愛知県体育館（15:00）
◆DRAGON GATE／北海道・函館市民体育館（18:30）
◆DDT／大阪・豊中市立ローズ文化ホール（18:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）
◆OZアカデミー／北海道・札幌テイセンホール（19:00）

19 SUN.

◆LOCK UP／東京・新木場1st RING（18:00）
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆NOAH／東京・後楽園ホール（18:30）
◆ZERO1・MAX／茨城・取手市ふれあい道路セントラルグループ（16:00）
◆DRAGON GATE／北海道・Zepp Sapporo（18:00）
◆大日本／北海道・札幌テイセンホール（13:00）
◆El Dorado／北海道・札幌テイセンホール（19:00）
◆DEMOLITION／東京・ディファ有明（14:00&19:00）

20 MON.

◆全日本／岩手・大船渡市民体育館（18:30）
◆NOAH／新潟・五泉市総合会館（18:30）
◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）

21 TUE.

◆ZERO1・MAX／東京・新木場1st RING（19:30）
◆DRAGON GATE／北海道・根室市青少年センター（18:30）

22 WED.

◆全日本／岐阜・岐阜産業会館（18:30）
◆NOAH／富山・高岡テクノドーム（18:30）
◆ZERO1・MAX／東京・新木場1st RING（19:30）
◆DRAGON GATE／北海道・釧路市観光国際交流センター（18:30）

23 THU.

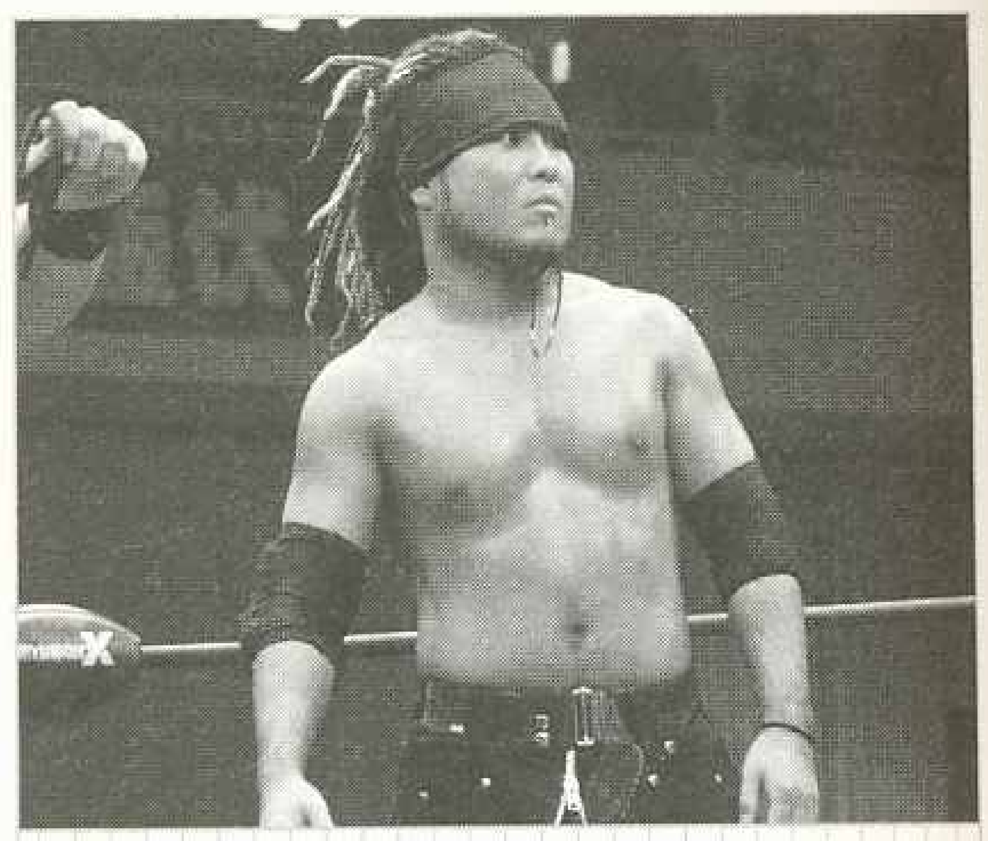
◆全日本／兵庫・明石市立産業交流センター（18:30）
◆NOAH／福井・福井市体育館（18:30）
◆ZERO1・MAX／東京・新木場1st RING（19:30）
◆DRAGON GATE／北海道・新ひだか町三石スポーツセンター（18:30）

24 FRI.

◆全日本／島根・出雲市体育館（18:30）
◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール（19:00）

11 SAT.

"brother" YASSHIが総合初挑戦!!
野地竜太も4年ぶりにキックの試合に!



『HEAT4～MEGA BATTLE HEAT from Nagoya～』
愛知・愛知県体育館（17:00）

決定対戦カード
野地竜太 vs ロイド・ヴァン・ダム
日沖発 vs グスタボ・コエーリョ　ほか
出場予定選手
"brother" YASSHI、アンドリュー・ペック　ほか
チケット料金
テーブル席=35,000円（ドリンクつき）、
SRS席=30,000円、RS席20,000円、
SS席=12,000円、S席=8,000円、A席=5,000円
◎問=シムラ 052-263-7887

◆K-1／米国ネバダ州ラスベガス・ベラージオ
◆新日本／東京・両国国技館（18:00）
◆無我ワールド／東京・東京ドームホテル（17:00&19:00）
◆DRAGON GATE／愛知・名古屋国際会議場（18:30）
◆DDT／東京・新木場1st RING（19:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆LLPW／福島・白河市中央体育館（18:30）

12 SUN.

今年ももちろん開催します!!
真夏の祭典を制するのは誰だ!?



『G1 CLIMAX 2007 最終戦』
東京・両国国技館（15:00）

チケット料金
特別リングサイド=10,000円、リングサイド=7,000円、
1階指定席=5,000円、2階特別席=6,000円、
2階指定席=4,000円、
小中学生・シニア席=2,000円（当日のみ）
◎問=新日本プロレス 03-6407-3111

◆NOAH／山梨・アイメッセ山梨（17:00）
◆ZERO1・MAX／埼玉・グッドウィルドーム（15:00）
◆DRAGON GATE／富山・富山テクノホール（18:30）
◆大日本／大阪・鶴見緑地花博記念公園水の館付属展示場（15:00）
◆DDT／東京・新木場1st RING（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆K-DOJO／東京・後楽園ホール（12:00）

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘
045-313-3922
〒222-0073 神奈川県横浜市中区岡野1-13-5 横浜西口サンエースビル7階ネオプラス内
http://www.gtkn.com/

■キングダム・エルガイツ
042-376-1639
〒206-8585 東京都多摩市関戸4-8-18 TOHO聖蹟桜ヶ丘ビル
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■健介オフィス
048-982-0960
〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング（SB）協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■日本修斗協会
03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/˜shooto/

■ハッスルエンターテインメント
03-5464-1731
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-7 カプリース青山3F
http://www.hustlehustle.com/

■バトラーツ
048-963-0005
〒343-0046 埼玉県越谷市弥生町9-8
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■無我ワールド・プロレスリング
03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区南青山4-2-4 シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IGF
03-5159-3380
〒104-0061 東京都中央区銀座1-15-2 銀座スイムビル3F
http://www.igf.jp/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■MARS
03-3368-3355
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-18-10 太陽堂ビル5F
http://www.mars-k.com

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■PRIDE FC WORLDWIDE
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com/

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■U.K.R
044-833-4130
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

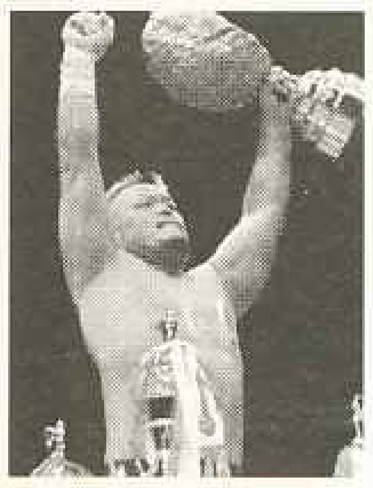
■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファーストオン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

Tour

地方の新日本ファンに朗報!!
G1決勝戦に行くならコレ! オトクな観戦プラン登場!!

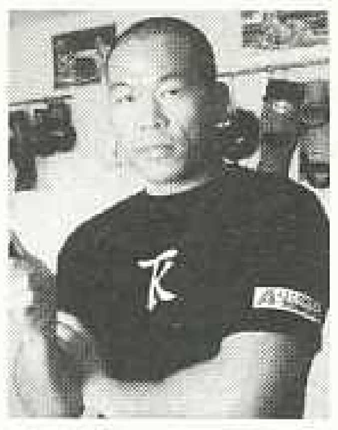


“真夏の祭典”までいよいよ待ったなし！ 西武トラベルでは、8月12日、新日本プロレスの『G1 CLIMAX 2007決勝戦』（両国国技館大会）のおトクな観戦＆宿泊プランを企画！ これはホテルへの宿泊と大会の入場券がセットになったお求めやすいもの。さらに、選手のサイン入りポスターや、ホテルの施設割引など特典も豊富！ 地方のファンは見逃せないチャンスだ。

★日程／8月11日（土）～12日（日）
★問／西武トラベル通販センター　03-3251-8186

Event

毎回好評の『TK式格闘学会』
第5弾は講演会形式!! テーマは『心』!



“世界のTK”が毎回、MMAの攻防や技術の謎に迫って大好評の『TK式格闘学会』。この学会も過去に4回開かれた。これまでは試合VTRを教材に講義と実践という二本立てだったが、9月9日には、格闘学会の第5弾として、“格闘家の心”をテーマに講演形式で行なわれることが決定！ 今回は実技指導はないが、TK先生が熱弁する講義内容は要注目だ。

★開催日／9月9日（日）　★会場／A-SQUARE（ALLIANCE-SQUARE）
★問／A-SQUARE　03-3401-6212

Book

オヤジがすべてを語った!!
“かつての側近”永島勝司 猪木本『凶獣』を出版!!



かつては新日本プロレスを舞台に、アントンと二人三脚でさまざまな話題を振りまいたアントンの側近中の側近、永島勝司がついに沈黙を破る！ 旧ソ連からイラク、北朝鮮といったアントンの海外戦略や、7万人を動員した東京ドームの猪木引退試合から、あの“1.4事変”の小川vs橋本戦の裏側！ さらに、アントンのIGF旗揚げまで！ その真相の数々をオヤジが一刀両断！

★『凶獣―側近の見たアントニオ猪木の嘘と真実』（オークラ出版）
1,575円（税込）　発売中

Dvd

エイベックスより発売決定!
新日本プロレス35周年 DVDが5ヵ月連続登場!!

やれんのかーっ！ と新日本プロレス35周年を振り返る記念DVD企画が登場！ 新日本史を彩る衝撃事件や名場面を完全収録！ さまざまなテーマで5ヵ月連続リリースする！ 9月21日にはその第一弾となる『新日本事件簿』が発売！ 第1回IWGP決勝戦の“猪木舌出し失神事件”から、ドラゴンが涙ながらに断髪する飛龍革命！ 禁断の前田vsアンドレ戦らの真相を徹底追及！

★『新日本プロレス35周年DVD』各180分（エイベックス）
6,800円（税抜）　第1弾は9月21日発売予定

Cd

IGF旗揚げ戦を震撼させた“あの曲”
噂のTRIPLE P×アントン『道』をチェケラッチョ!



「ミスター猪木がチェケラッチョ♪」「イノキ、イノキ、歩く神様♪」と世紀のズンドコイベント、IGFの『闘今BOM-BA-YE』を震撼させた“あの曲”が好評発売中！ あの有名な『道』の歌詞をアントンと親交のあるヒップホップグループ、TRIPLE-Pが「この道をゆけばどうなるものか～♪」とノリノリでカバー！ 彼らに負けじと、なんとアントンもラップ調のかけ声で参加！ このCDを聴いて、笑いながら歩こうぜ！

★『道』TRIPLE-P（Climax Entertainment）1,050円（税込）　発売中

Cd

いつ何時もノーフィアー!
高山善廣フィギュアつき! あのテーマ曲がCD化!

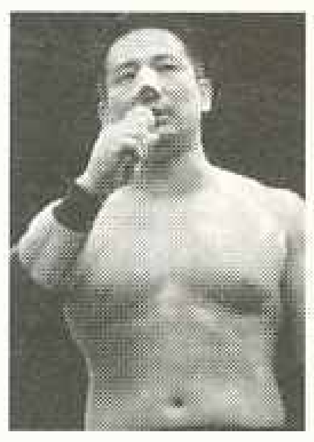


CDデビューを夢見る川田利明を本気で悔しがらせた、“帝王”高山善廣のCDがソニー・ミュージックからいよいよ発売！ だが、収録されているのは高山の唄ではなく、あのオリジナルテーマ曲！ なんと、フィギュア好きの高山がこだわったフィギュアメーカー“マルサン”製の高山人形もついての限定発売というから、プレミア化必至だ！

★『高山善廣の逆襲 The Destructive Power』（ソニー・ミュージック）
2,000円（税込）　発売中

Shop

店長にはMIKAMIが就任!
あのDDTが歌舞伎町にプロレス・バーを出店!



なんとあのDDTが新宿・歌舞伎町にてプロレス＆スポーツ・バー『ドロップキック』をプロデュース！ 7月27日にオープンする。店長にはDDTのMIKAMIが就任！ 最大30人の収容フロアに、42インチのモニターも設置！ 内装は「クールでシックなイメージ」（MIKAMI談）とのこと。プロレスファンはもちろん、スポーツ好きにも楽しめる店になりそうだから要注目だ！

★『ドロップキック』03-3209-8688　★営業時間／19:00～翌5:00（年中無休）
〒160-0021　東京都新宿区歌舞伎町1-4-12 新宿ミヤタビル5F

Dvd

これぞ“史上最大の悪フザケ”!
西口プロレス後楽園大会が完全DVD化!



昨年4月、西口プロレスがついに“聖地”に初進出!! 長州小力、アントニオ小猪木、ジャイアント小馬場といったメンバーが後楽園ホールを爆笑の渦に巻き込んだ全7試合を完全パッケージ！ また西口プロレスは7月30日に新宿FACEで、8月3日に新潟フェイズ、8月4日にはZepp仙台もツアー！ 問い合わせは西口プロレス事務局（03-5772-5742）まで！

★『後楽園ホール in 西口プロレス～史上最大のワルふざけ～』
（エイベックス）3,800円（税込）　発売中

KAMIPRO COLUMN



イラスト◎師岡とおる

第21回

今月の、のんきな作文

花くまゆうさく リングの汁

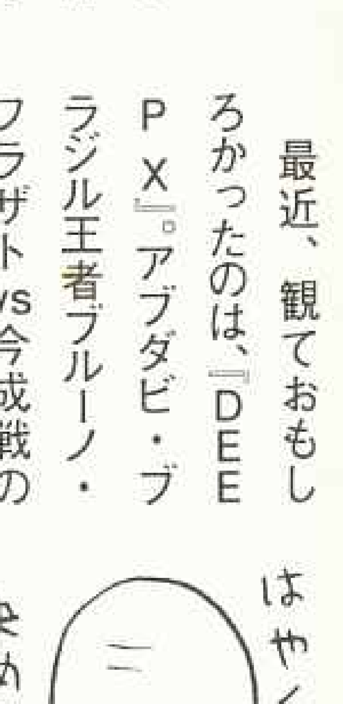
編集部からは、UFCノゲイラデビュー戦、IGF両国大会、『HERO'S』秋山復帰問題、海外流出するPRIDE選手など書いてほしいと言われているが、とくに何もない。

WOWOWも日テレG+も、UFCが放送終了しちゃったので、ノゲイラデビューは観れてない。IGFはまったく興味なし（参加選手にタカ・クノウの名があったのが意外で、少しピクッと反応したけど）。秋山のアノ事件が、すべて秋山の単独犯行なら、今年復帰なんて甘いと思う。でも実際はどうなの？ ホントに単独なのかしら？

PRIDE問題だが、UFCがテレビで観れるようになれば、みんなUFC行っちゃってもいいと思うけどね。そこで強い人同士が、ガンガン試合していけばいいんじゃないの。

ほとんど死んでいた『格通（格闘技通信）』が見る目のある、朝岡編集長復帰で、息を吹き返してきたね。ここ数年『格通』に、こびりついたダメなイメージはハンデありすぎだけど、がんばってほしい。エディ・ブラボーとイズマイウを押さえてるとこは。グッジョブです。

最近、観ておもしろかったのは、『DEEP X』。アブダビ・ブラジル王者ブルーノ・フラザトvs今成戦の凄さ&おもしろさはプロの試合だったし、牛塚愛子vsSACHIは確かに美女対決だったし（私は牛塚さんに一票）、テクニカルな小学生グラップリングマッチもよかった。



佐伯代表はサムライTVの放送で、試合中に自分から座る選手は反則にしたいと言っていたけど、それはどうかしら。座っといて、相手が来たらうしろへ下がるのはもちろん論外だが、寝技勝負しに座るのはグラップリングなんだから全然アリだと思う。そうしないと、ずっと立ちレスやってる最悪な展開になっちゃうよ。

あと、オーディエンスジャッジがあったけどゲームっぽくて、勝負の価値が少し落ちる感じが気になったかな。それにしても、小学生マッチは汚れた大人の心を洗い落としてくれる清さでキラキラしてた。負けた子が泣く姿に、条件反射でウルウルしてしまった。テクニックも感心。

小学生でポジショニングもサブミッションもできるのなら、学校でケンカになっても楽だろうね。ここ数年、柔術は全国で普及してるから、学校のケンカの技術体系も変わってきてるんだろうなぁ。

辻ちゃんvsフジメグも五味vs青木も結局、やらないのかしらね？ とりあえず今月の楽しみは、7月15日の修斗の上田将勝vs水垣偉弥戦です。



Hanakuma Yusaku
◎7月下旬、新刊『ダメ人間グランプリ』（青林工藝社）発売します。よろしく。

リング上からプライベートまで！
“なんでもあり”の質問コーナー



第5回
所英男のトコロ天国

本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです（こじつけ）。

——今日は『HERO'S』ブラックマンバ戦前の大変な時期にも関わらず、いつものように所選手にお越しいただきました！（本インタビューは6月22日に収録）。

所 よろしくお願いします！

——突然ですが、所さんは春夏秋冬でいうと、どの季節が好きですか？

所 好きな季節ですか？ う〜ん、春、夏……。いや、秋ですかねえ。まあ、どっちかっていうと夏はあんまり好きじゃないかもしれないですね。

——好きじゃない！ そうですか。そんな所さんには非常に酷かもしれませんが、今日は夏づくしの質問を集めてきたんですよねえ……。

所 （なぜか危機感を感じて）あっ、いや。ボク、夏は大好きですから！

——ワハハハハ！ なぜ急にねつ造するんですか（笑）。

所 いやー、コラムの流れ的にそう言ったほうがいいのかなって（真顔で）。

——謎のお気遣いありがとうございます（笑）。では、今日もさっそく読者への回答お願いしま〜す。

恋に関する質問

奈良県・海賊さん・20歳・大学生

僕は最近、人生で初めての彼女ができました!! それで、今年の夏はおもいきって彼女と海に行こうと思っています！ しかし、一つ悩みがあります。僕は昔からかなりのインドア派なので恥ずかしながら非常に生っ白い身体をしています。こういうときって、やっぱり事前に日焼けサロンとかに行って、ちょっとはカッコよくしておくべきなのでしょうか？

所 べつに付き合ってるんだから裸くらい見てるんじゃないですか？（キッパリ）。

——これはいきなり大人な発言ですね（笑）。でも、あえてこの悩みをぶつけてくるってことは……。

所 （さえぎって）まあでもボクも格闘技やってなかった頃、海に行く前は毎日腕立てとかやってましたね。

——やっぱりそういう見栄がありますか。

所 ありますね。だからこの人も、とりあえず海に行く1週間前ぐらいから腕立てやったほうがいいんじゃないですか？

——でも、この方はどちらかというと日焼けサロンに反応しているようですよ。男性としてはやっぱり黒いほうが誇らしいもんですか？

所 どうですかねえ。秋山（成勲）さんみたいな身体を見ると「かっこいいなあ」と思いますけど。でも、個人的には日焼けサロンには興味ないっていうか……。

——では、どうしましょうか。

所 だから、ラッシュガードでも着て海に行けば大丈夫だと思うんですけど。自信のない身体も見せなくて済んで、なおかつカッコよく見える！ っていう。

——なるほど！ それだと万全ですね。

所 ま、それより……。

——おっ！ もっといい方法が!?

所 やっぱり海に行かないっていうのが一番いいでしょう！

——元も子もない回答ありがとうございます（笑）。

教育に関する質問

岩手県・桜井かおりさん・27歳・教師

僕は私立学校の教師をしている者です。小学校は夏休みになったら毎朝ラジオ体操をしないといけないんですが、隣のクラスの担任が提案したため、どうやら今年は「ビリーズブートキャンプ」をやることになってしまいそうです。世界的にブームなのはわかるのですが、個人的には、朝っぱらから子どもにあんなハードな体操をやらせていいものかと悩んでいます。スポーツマンである所さんはどう思いますか？



ビリーは日本のラジオ体操にまで浸食してしまうのか!? その行方は所の返答次第だ!

——これは「ビリーズブートキャンプ」が大流行中のいまならではのお悩みですねえ。

所 いやー、凄い小学校があるもんですねえ。でも、持ってる人に聞いた話だと、めちゃくちゃキツいらしいですね、コレ。

——すでにリサーチ済みですか。ちなみに、所さんはご興味あります？

所 いやー、ボクはいいです。いまの時期に身体鍛えるの、つらいんで……。

——いやいや、ある意味、本職じゃないですか（笑）。でも、「夏が嫌い」というのは、そういう理由もあるんですか？

所 やっぱり暑いのが嫌いっていうか……、メシが食えなくなるんですよ、ボク。

——ああ、なるほど。そこは体重をコントロールしないといけない格闘家ならではのお悩みですよね。

所 ボクもこの仕事辞めたらまた好きになると思うんですけどねえ。

——まるでサラリーマンみたいな言い方しますね（笑）。

所 でも、ボクはやっぱりラジオ体操の平和な雰囲気が好きですね。大人になってあの曲を聴くと、なんかじんわりくるというか、いい思い出だなって。

——ということは、所さんはけっこう真面目に通っていたタイプなんですか。

所 行ってましたねえ（しみじみと）。そのあとドッジボールの練習とかもやってましたよ。夏の最後に大会に向けて町内のみんなで練習するっていう感じで。

——そういう朝の微笑ましい空間を“外来種”に崩されたくはない、と。

所 それに、ボクが将来おじいちゃんになったときに、ビリー隊長みたいな人ばっかりになったら怖いじゃないですか（眉間にしわを寄せて）。

——ワハハハ！ なぜ、そこを怖がるのかよくわからないですけど（笑）。

所 （聞かずに）なので、正直に言うとあんまり流行らないでほしいなって。

——ということですので、桜井先生、所さんの明るい老後のためにもラジオ体操を死守してください！

子育てに関する質問

栃木県・山本とおるさん&ハナさん・36歳&32歳・親

私たちは9歳の娘の両親です。毎年、小学校が夏休みになるとなるべく娘をいろんなところに連れて行っているのですが、今年はまだ行き先が決まっていません。そこで所さんにおうかがいしたいのですが、夏休みの思い出で一番心に残っている場所もしくは出来事はなんですか？ 参考にしたいので、ぜひ教えてください！

——『kamipro』読者には珍しく、非常に微笑ましい質問が届いてますねえ〜。

所 ボクの夏の思い出といえば、もう断然、名古屋球場ですね!!

——名古屋球場！ それは野球少年だった所さんらしいお答えですね。

所 夏になると、父親と実家のクリーニング店の従業員の人がボクとか兄ちゃんとか、あとは少年野球のメンバーを連れてってくれてたんですよ。毎年1回だけなんですけどね。

——その1回が夏休みだった、と。

所 それで、球場に入ると毎回キャップに止めるちっちゃいプラスチックのグッズみたいなのがもらえるんですよ。それをいっぱい帽子につけてるのがボクたちの中では凄くカッコいいっていうか、ステータスだったんです!!

——要は「オレはいっぱい球場に来てるんだぞ！」っていう証明になるってことですね。

所 そうそう！ いや〜、やっぱり野球選手は凄く憧れましたからねえ（しみじみと）。

——しかしですね、所さん。この子は残念ながら女の子なんですよ。しかも9歳の。

所 あ、そっか。でも、名古屋球場でいいんじゃないですか？（アッサリ）。

——ワハハハハ！ つべこべ言わずに名古屋球場へ行け、と。

所 もう、自分の土俵でものを話す感じでいきたいですね！（なぜか堂々と）。それか、格闘技を観るのもいいんじゃないですか？『HERO'S』は終わってますけど、夏はZSTの大会も何回かあるし！

——なるほど、なるほど。

所 ま、どっちにしてもボクはスポーツ観戦がいいと思います！

——というわけで、あくまで土俵際で粘る所さんからの提案でした〜（笑）。

Hideo Tokoro◎ところ・ひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/【ZSTのHP】http://www.zst.jp/

※所選手に解決してほしいお悩みや質問は〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・シュノ2F『kamipro編集部 トコロ天国』係まで

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第16回

私だけが知っているハレック・グレイシー

今回のコラムのテーマは、7・16『HERO'S』で柴田勝頼選手と対戦した"第三世代グレイシー"ことハレック・グレイシー選手について触れたいと思います。

締め切りの都合上、残念ながら試合前にペンを走らせておりますが、ハレックはあのホリオン・グレイシーの三男になります。

ホリオンといえば、あの衝撃的だった最初のUFCを作った人物、かつてはホイスの参謀として積極的にメディアへ露出していたグレイシーの知恵袋的存在です。戦略家のため非常に用心深く、信頼できる相手としかビジネスはしません。

また、VT（バーリ・トゥード）とMMAは別ものとして広言してはばからない人物。わかりやすい例を挙げれば、ホリオンの頭の中にはレフェリーストップという概念はありません。時間制限なんてもってのほか。彼から言わせれば、VTとは、時間無制限、レフェリーストップなしの桜庭和志vsホイス・グレイシー戦があたりまえのサンプルになるのでしょう。

そのホリオンの息子が、VTではなくMMA志向の強い『HERO'S』に出るというニュースを耳にした私は、驚きを禁じえませんでした。なぜなら、ホリオンなら絶対にその計画を許さないと思ったからです。そういえば、『Dynamite!! USA』のホイスのセコンドにハレックの姿が確認できたことからも、この参戦はホリオン主導のものではないと見るのが妥当なのかもしれません。ハレックは昔からホイスについてトレーニングを積んでいたつながりもあるのです。

ちなみにハレックは国立競技場で行なわれた『Dynamite!』の吉田秀彦vsホイス戦で、グレイシートレインの先頭に立っていました。当時のまだあどけなかった表情は、いまではヤンチャぶりが伝わってくるものへと成長しております。まだホイスがホリオンの下にいた頃、私がロスのホリオン道場を訪れたところ、オクタゴンが道場内にあり、顔つき、身体つきがすっかり戦士のものと化していたハレックを見て、将来を楽しみにしていたものでした。

柴田選手との試合結果いかんに関わらず、これからの新世代のグレイシーの今後に注目したいと思います!



国立競技場『Dynamite!』での入場シーン。先頭に立つのは若かりしハレック少年……って、エリオのじいさんじゃんか! じつはグレイシートレインの写真が一枚もなかったんです。なんてこった!!

金ちゃんのどこまでやるの?

第15回 引退試合やれんのか!?」の巻

前回のコラムで「IGFに出場することになりました」って書いたけど、皆さんご存知のとおり、結局、直前になってキャンセルしたんだよね。

なぜ、そんなことになったかというと、もともと俺はUWFインター時代の後輩であり、仲のいい友だちでもある高山（善廣）くんとタッグで、ジョシュ・バーネット相手に目一杯闘えるっていうことで、引退発表してたけど、出場することにしたんだよ。それなのに、大会の6日前になって「今回は全試合シングルマッチでいくことになりました。金原さんは○○選手と闘ってください」と急に言われてさ。そんな、なんの因縁も関わりもなかった○○選手とじゃ、引退前に出場する意味が見出せなくて、キャンセルしたんだよね。

俺自身、IGF出場をOKしてからは凄く楽しみにしてたんだけどね。ひさびさにプロレスの試合に出るってことで、昔のUWFインターvs新日本プロレスの対抗戦のビデオとかあらためて見直してみたりね。それでプロレスに出るからには、総合格闘技用のスパッツじゃなくて、プロレスのショートタイツのほうがいいだろうってことで、コスチュームまで新調して、当日に備えてたのにさ。急に「全試合シングルになりました」って言われて、ガックリきたよ〜。それはないだろうって。

そうかと思えば、「全試合シングル」のはずなのに、当日はなぜかタッグマッチが一試合組まれてるわけじゃん。それも俺がよく知っている人のタッグマッチがね（笑）。ホント、俺も高山くんもタッグ結成を楽しみにしてたのに、残念だよ。

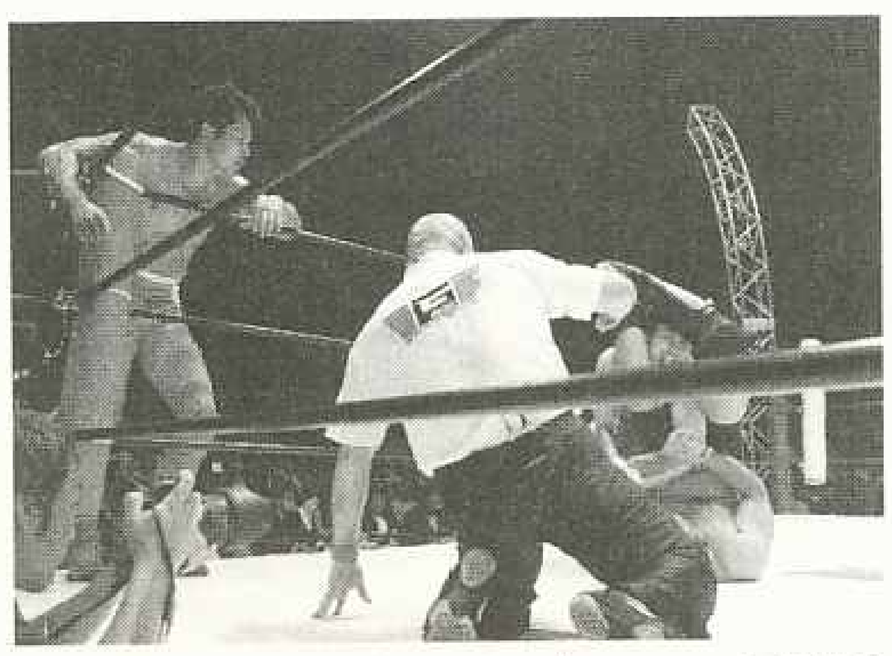
IGF出場はなくなったけど、例の前田さんから「俺の前で引退前にもう一試合」っていう話があったから、7月の『HERO'S』出場に向けて練習は続けてたんだけど、前田さんからの連絡もプッツリと途絶えちゃってさ（笑）。結局、7月の『HERO'S』参戦もなしですよ。それでIGFに続いて、『HERO'S』にも"赤いパンツ"が出てるわけでしょ? なんでそ〜なるの? って感じだよね（笑）。

1カ月ぐらい前までは、「IGFと『HERO'S』で連戦だから忙しいな」と思って、練習もガッチリやってたのに、一挙に何もスケジュールなくなっちゃってさ、いま暇でしょうがないんだよ（苦笑）。

なんかパンクラスで引退試合をやるって話もまだ進めてないし。このまま引退できないんじゃないかと心配になってきたよ（笑）。引退撤回して、普通に試合続けたほうがいいのかな〜、と思ったりしてね。引退しようにもできないから。

秋山成勲との試合もあいかわらず音沙汰ないしね。しかも、なんか田村さんが秋山とやりそうな流れができてるじゃん。ここでも、なんでそ〜なるの? だよ! 田村さんもさ、「（秋山戦は）まずは金原とやってほしい」とか一言いってくれれば、俺も「いい先輩を持ったな〜」と思うんだけどなぁ（笑）。

というわけで、今月は動きなし。来月こそ、何か発表できればいいな〜。



「全試合シングルマッチ」だったはずの6.29 IGF両国大会で、なぜか一試合組まれていたタッグマッチ（ダブルバウト?）。まさに「なんでそ〜なるの?」だが、このカードも大会前日に決定したのだという。さすがゲノム!



イラスト◎中川画伯

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

せき詩郎のサムライ三昧

シロー

第16回

越中をG1で優勝させる方法

ケンドーコバヤシさんと対談した。対談時にはG1出場が決まっていない越中を、どうすれば優勝させられるのかがテーマであった（その後、越中は無事、G1出場決定）。その模様は別のページに掲載されていると思うのでここでは割愛する。

対談が終わり、私は山手線に乗り、新宿駅にて乗り換えのために下車した。だが、どこかで事故があったらしくダイヤが乱れていた。とりあえず乗ってみた総武線だが、一向に動く気配がない。動き始めたとしても次の駅で停車し、またしばらくそのままの状態となる。PSPでもやって時間を潰そうかと思っていたら、クエストの途中だというのにすぐに電池がなくなってしまった。

まったく動かない窓からの風景を見ながら、私は先ほどの対談について考えていた。越中を優勝させるためにあれこれ考え、話し合った。だがまだ不安が残っていた。不安は潰しておいたほうがいいに決まっている。優勝に向けてまだやれることがあるなら、悔いを残さないためにもやっておいたほうが良い。私はいくつかの案を考え始めた。

まずは毒を使う方法がある。プロレスで毒といえば毒霧が有名だが、あれは色がついている。相手に気づかれず毒で攻撃するには無色透明なほうが良い。

そこで考えられるのが毒手だ。相手に触れるだけでそこから毒が広まり、相手は徐々に弱っていくのだ。越中の場合は毒尻だろうか。とにかく尻に毒を塗っておくと良いだろう。もちろん自らその毒で弱ってしまわぬよう、毒の耐性をつけておかなければいけない。そのためにどうすれば良いのかはわからないのだが、これは越中自身に考えてもらうしかない。

毒を使った場合の弱点は相手が毒属性であることだ。毒が効かない可能性があるからだ。誰が毒属性なのか、そもそも毒属性のレスラーってなんだ？　とも思いつつ、毒攻撃が効かなかった場合に有効な手段と考えれるのは「ささやき戦術」であろうか。対戦中、相手の耳元でささやき、集中力を奪ってしまう戦術である。

ささやき戦術といえば野村克也が有名だが、達川光男も行なっていた。両者の「ささやき」は種類の違うものだったと言われているが、どちらをとるかは越中次第であろう。

また対談のために渡された資料によると、越中は初戦の勝率が抜群に良い。しかしその勢いは持続することなく、徐々に敗戦が多くなり、結局決勝トーナメントには進めない状況となっている。

そこで越中に必要なのは『SLえんとつ』以外考えられない。SLえんとつをかぶり、石炭と水を入れると蒸気が発生し、身体に信じられないほどの力がみなぎるのだ。これさえあればいつまでも勢いを失うことなく突っ走れることだろう。ただ多くの煙を排出するので他の人に迷惑をかけてしまうため室内では利用しないほうがよいかもしれない。

あとは悲しみを背負って奥義を体得したり、突然オープンフィンガーグローブ着用で現われ相手を混乱させるなどの方法が考えられるが、やはり忘れていけないのはG1といえば蝶野の存在だ。

G1での蝶野戦は勝ち越している越中。これを利用し、相手にヒゲを生やさせて蝶野と間違えさせる方法をコバヤシさんは提唱していた。確かにこの方法は素晴らしい。ただ、ヒゲを生やしていたとしても、彼女の趣味や親に怒られる、バイトの面接があったなどの理由で試合前に剃ってしまう可能性がある。これだと越中が蝶野と間違えることはなくなってしまう。ヒゲもないのに「蝶野コノヤロー！」と越中が向かっていったとしたら、それはそれで問題だ。だが、蝶野と間違えさせる方法は捨てがたい。

そこで、ヒゲという視覚の利用以外に、聴覚の利用を併せておく方法の出番となる。蝶野の口癖「アイム、蝶野！」を利用するのだ。相手に「アイム、蝶野」っぽい言葉を言わせれば、ヒゲがなくても「蝶野コノヤロー！」ってことになるはずだ。

私は「アイム、蝶野！」に似た言葉を考え始めた。興奮しながら話すのでどうしても滑舌が悪くなってしまうレスラーだが、そこを利用し、彼らが言うと「アイム、蝶野！」に聞こえなくもない言葉をいくつか考えた。

いつしか電車は動き出した。何度か動いては立ち止まっていた電車だったが、今度は停まることなく私を最寄り駅まで運んでくれた。その電車と越中を重ね合わせながら、私は帰路についた。





調理師免許を持っているレスラーならば言わない可能性がなくはない台詞である。これは「調」の部分まで「アイム、蝶野!」と同じなので、越中が間違える可能性は大きい。



越中が「おまえ、どこに住んでるってことですよ」と質問したなら、もしかしたら『ハイツ蝶野』っていうとこに住んでいるレスラーがいるかもしれない。きっと「アイム、蝶野!」に聞こえることだろう。



週刊少年ジャンプを入手した越中が相手に見せびらかす。相手は驚き、こう言うことだろう。これも「アイム、蝶野!」に聞こえたところで、誰も越中を責められはしない。



越中が「蝶野がベンツを買ったら、どんなニックネームがいいってことですよ」とちょっとしたクイズを出せば、こう答えるレスラーはいるはず。「アイム、蝶野!」に聞こえてもおかしくない。



ちあきなおみや沢口靖子、中山雅史、田中裕子などのCMでお馴染みのフレーズ。リズム感が「アイム、蝶野!」に似ているので、越中が間違えたところでなんの不思議もない。



越中が「今日のおまえのスイーツは何かってことですよ」と訊いたなら、唐突すぎて意味のわからないレスラーはこう訊き返すに違いない。これまた「アイム、蝶野!」に聞こえるはずだ。



「なんか面白いことやれってことですよ!」と越中に言われれば若手は何かやらざるを得ない。「アイム、蝶野!」に聞こえ難いが、「試合中にふざけやがって!」と越中の怒りに火がつく可能性が!

椎名基樹の サムライ三昧

第16回

ノゲイラと吉江夫妻

いや〜困った。困惑してると言ってもいい。無念でもある。納得できない気持ちでいっぱいだ。ノゲイラのUFC初登場が見られないなんて、マサ斎藤風に言えば「ガ〜〜〜〜〜ッデム！ サノバアビッチ!!」である。

前回このコラムで『PRIDE』もUFCも見ることができない状況に驚かざるを得ないと書いた。あんなに好きだったバーリ・トゥード（以下・VT）なのに。突然、おもちゃを取り上げられた子どもの様だ。

余談ではあるが、いまさっき「見ることができない状況」と書いたとき、変換され最初に出てきた文字は「ミルコとができない状況」であった。ここでもまた、俺ってVTが好きだったんだなあ、と故人の品を見て懐かしむ様に、あらためて思い知らされた次第である。

さらに、困惑したことは、『PRIDE』もUFCも放送がないんじゃこのコラムで書くことがないってことに気づいたからである。このコラムのためにイノキ・ゲノムのPPVを見ようかとも思っていたのだが、いざ当日になって2100円をケチったことと、なんと言っても放送時間を見たら6時間もあったので、まさかそこまで長くはないだろうが、それでも数時間の拘束は耐え難く、申し訳ないがパスさせていただいた。何もPPVで安くない金を払わなくても、現在なんだか知らぬが、筆者的に他のスポーツが非常に盛り上がっているのだ。

レンドル、サンプラス時代、見向きもしなかったテニスも、ラファエル・ナダルの台頭でフェデラー＆ナダルの2強時代を迎え、全仏、全英と続いたテニス史に刻まれるだろう、2007ファイナルでの彼らの死闘に釘づけ、マッケンロー全盛の高校以来また熱心に見始めている。

セナの死以来見てなかったF1も、フェルナンド・アロンソが登場し、彼の時代がしばらく続くかと思っていたところに、スーパールーキー、ルイス・ハミルトンが出てくるという劇的なシナリオに魅了され、再び楽しみにしている。なんといってもマクラーレン・メルセデスのマシンが格好良すぎる！

松坂が登板する日は午前中からMLBを観戦せねばならぬし、メジャーのオールスターではイチローがMVPを取り、WBC以来すっかり人が変わってしまったイチローの非常に気味が悪いインタビューも当然生放送でチェックしなければならなかった。

サッカーもアジアカップ真っ最中であるし、U—20の選手はお調子者揃いでモノ凄くおもしろいので、U—20世界選手権もフジテレビ739だか721だかでチェックしなければならない。

当然、ボクシングも見なければならない。けっこう凡戦も多いが辛抱強く見なければならない。WOWOWの世界戦も見なければならない。粟生の試合も深夜にチェックだ。そして、マニー・パッキャオ、ミゲル・コット、イスラエル・バスケスの試合があれば手に汗握り画面に向かって声援も送らなければならない。

忙しいのである。寝る間もないのである。仕事はないのである。イノキ・ゲノムの入る余地はさすがになかったのである。

しかし、筆者は寂しい。どんなにスポーツ観戦をハシゴしようとも、一番大好きなVTはどこへいった？ あ？ ケンカはどこだ、どこだ!?

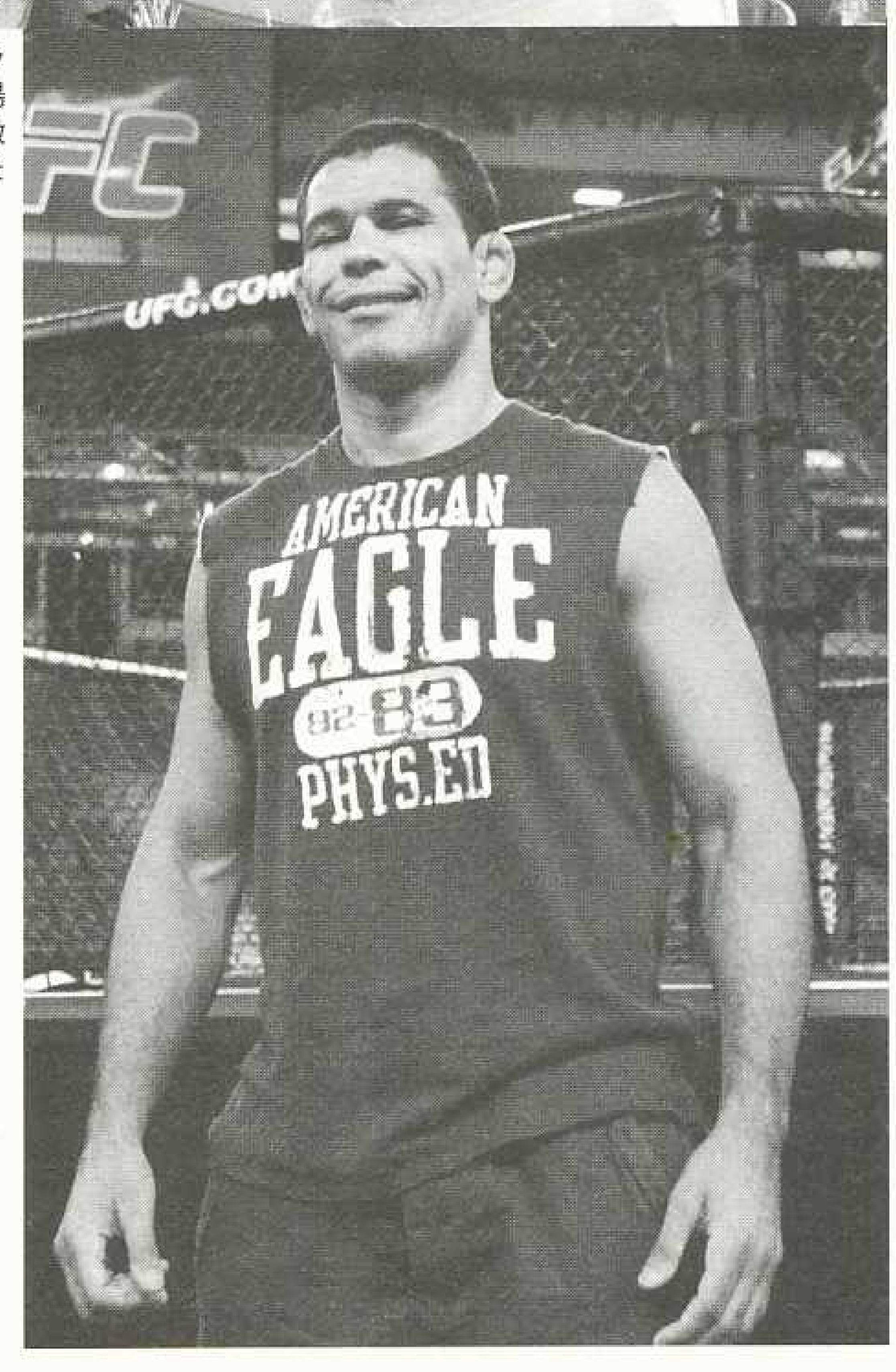
そんな中、今月唯一見たプロレスの試合は、無我ワールドの吉江豊vs川田利明。吉江のボディプレスはド迫力で見るだけで快感であった。エプロンからのボディシザースドロップでは川田が剥き出しの床に頭を痛打し、思わず声が漏れた。旧全日の四天王系プロレスの肉弾戦をひさびさに堪能できた。試合後、川田は「無我のリングにはプロレスラーだと認められる選手が揃っていて、試合していて気持ちいい」というようなことを言っていたが、確かにそうなのかもしれない。あと、余計なお世話であるが、吉江選手にはやっぱアンドレ・ザ・ジャイアントの曲で入場してしてほしい。モノ凄く似合うと思う。

さて、誌面も尽きて……きては全然いないが、この先、『PRIDE』とUFCの放送はどーなるのだろうか？ スポーツ紙にはノゲイラのUFC登場が大きく取り扱われていたが、その放送がないなんてなんだか異様な状況だ。

総合格闘技を主催しているお金持ち諸君、総合格闘技を自分の物だと思っていないか？ 筆者はUFCが始まって以来、いや、UWF、シューティングができて以来、ずーと総合格闘技の元気玉を大きくするために念じてきたのであるよ。それが具体的になんの効力があったか知れぬが、マット上で行なわれる闘いはファンの物であるのですよ。そんなイタイケなファンが、ノゲイラ初登場を見られないなんてどーゆーことよ！ このドロボーヤロー！

と、いうことで、去年、ドラゴン邸で見た吉江選手の奥さんは可愛らしかったなあ、あれから1年が経つのか……とぼんやり思いつつ、置筆。





上の写真は昨年、この連載で椎名さんが訪れた際のドラゴン邸での無我ワールド戦士の集合写真。本文中に登場する吉江の奥さんは写真左上。あれから1年、ダンナに倣ってか体重は増加中とのこと。下はUFCデビューをはたしたノゲイラ。どちらの写真も笑顔が素敵です!

イナズマKの ハードコアドージョー Special

メカのあとには"ロボ"がキタ!

"機械惑星"出身のハードコア野郎 ショックウェーブ・ザ・ロボット



Shock Wave The ROBOT■サイバトロン星出身。現在まで9年間稼動中。今年5月に田中将斗とLA道場で対戦したことがきっかけで初来日。主食はボルトやナットや空き缶類などの鉄製品で、飲料はガソリンが好物。試合中には10分ごとの充電が必須。身長は夏季が175cm、冬季が170cm（金属の収縮により若干変化）。体重は2500 energon cubes。

メカマミーに始まって、メカスタンリー、ロボ・ハヤシにロボ・みちのく、さらにロボ京平レフリー、ついでにメカサブロー（北島三郎記念館在住）と、いまや日本はロボ天国！　そんな中、ついに正真正銘（!?）のロボレスラーが、ＺＥＲＯ１・ＭＡＸのリングに現われた。その名はショックウェイヴ・ザ・ロボット！

ロサンゼルスのＩＮＯＫＩ道場こと、ＬＡ道場のサイモン猪木からの刺客！　というふれこみで登場したロボは、ピカピカと赤い目を光らせ、ロボットダンス風の動き（ロボットなので、これが自然体）で花道に登場！

リング上では、ゴツゴツしたオーバーマスクならぬオーバー顔面やロボボディを丁寧に外し、伸縮自在のバトルスーツに変身！　身長175~170センチ（金属なので夏冬で変化アリ）。そして2500ｅｎｅｒｇｏｎｃｕｂｅｓという、どれだけ重いのかさっぱり理解できぬ体重ながら、ファイヤーバードスプラッシュなど軽快なムーブも披露！　その高性能で人間界に衝撃を与えた、ある意味、ハードコアなロボレスラーに帰国直前の直撃インタビュー！

ハードコア・ロボ列伝1 "機械惑星"で日高らが大人気!!

いったいロボは何語をしゃべるのか？　恐る恐る話しかけると、「日本語でまったく問題ナイ」との返事。さすがロボ！　日本語変換機能でトークしてもらいました。

「ボクは機械惑星、サイバトロン星から地球に送られたロボレスラーなんダ」と自己紹介。「サイバトロン星は、全宇宙のテレビが見レル。日本のプロレスもノアや新日本もゼ~ンブやってるヨ。中でもＺＥＲＯ１はハイクオリティ。とくにヒダカやタナカの人気は高いネ！」となぜか機械惑星で、日高郁人や田中将斗の人気が爆発している様子。

ハードコア・ロボ列伝2 技術はすべてダウンロード済！

そんなロボは、地球に到着した頃、レスリング技術を一流レスラーからマスターした。「トム・プリチャード、スパイク・ダッドリーに"グレート・テキサン"ドリー・ファンク・ジュニア！　彼らにベーシックを教わったヨ。ハードトレーニングだったけど、ボクのコンピューターはハイスペック。一度の練習でメモリーチップにダウンロードできるカラ、絶対に忘れナイ！」と高性能をアピール。

ＩＷＡプエルトリコ、ＲＯＨら、アメリカの20以上のインディー団体を9年間も転戦してきたロボは、西海岸にたどり着く。そこがＬＡ道場だった。「ここのトレーニングはベリーベリーハード。1日でいろんな部品が悲鳴をあげたヨ」と熾烈さを語るロボ。さらにＬＡ道場を管理している、あのアントンの娘について聞いてみると「イノキ・ヒロコサン！　もちろん知ッテルヨ。ドージョーでみんなにガミガミ言ってる女性だヨネ（笑）」とズバリ。

今年5月にＬＡ道場代表として田中将斗と対戦後、ついに最終目的地であるＺＥＲＯ１・ＭＡＸへやってきたロボ。だが、中村祥之代表が「ダメなら、ＩＧＦに二束三文で売り飛ばす！」と断言していたことは初耳だったようで、「そんなバカナ……」とショックを隠せなかった。

ハードコア・ロボ列伝3 "あのメカ"とは従兄弟関係!?

では、ここで、"教えて、ショックウェーブさん！"コーナーを急遽立ち上げ、ロボについて知りたいあれこれを、ＦＡＱ方式でお届けしましょう。

Q　総額いくらで作られてるの？

A　ボクは高いヨ！　日本のメジャーペーパー（『東京スポーツ』）に、1000億円って書いてあったって？　フフフ。ま、想像にまかせるヨ。

Q　飛行機に乗るとき、大変じゃないの？

A　ああ、センサーがブーブーなるから大変ダヨ（と腕を組んで）。チョ~時間かかるネ！　でも、パスポートは、ボクの腕に内蔵されてるから問題ナイ！　入管のとき、ウィ~ンって具合に出すんだヨ。便利だぜ。ホラ、ウィ~ン。

Q　日本の有名なメカレスラー、メカマミーのことは知ってる？

A　ああ、ＹｏｕＴｕｂｅで見たヨ！　彼は私と同じＩＣチップを使ってる、遠い親戚なんだヨネ。

Q　メカマミーが、「一緒に世界最強タッグに出たい」と提案しているが？

A　オ~！　サイキョータッグ！　ぜひとも出たいヨ。ただし！　ナカムラサンに聞いてみないとネ……。

Q　ＭＭＡファイトには興味は？

A　ノー、ノー。ＵＦＣはけっこう好きだけど、金網の中に入る気はナイ！　ボクがやったら、相手をぶっ潰しちゃうダロ？

Q　好きな音楽は何？

A　スティックスの『Ｍｒ.ロボット』。全ロボット界のアンセムだヨネ。♪ドモアリガットミスターロボット ドモ~♪

Q　ぶっちゃけ、元ネタは『トランスフォーマー』ですよね？

A　………（機能停止）。

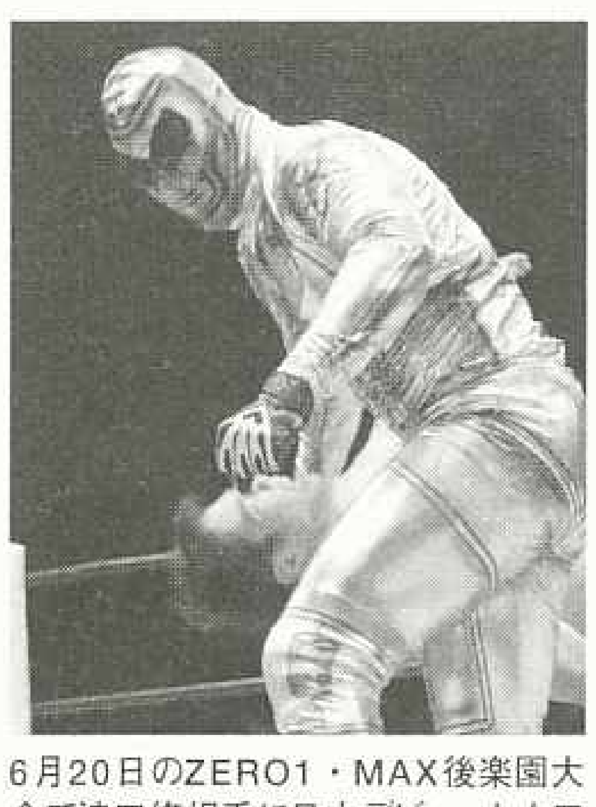
と、ロボについてマスターしたところで、日本の感想を聞いてみよう！

「ロボ人生でベスト！　サイコーに楽しい時間だったネ……（しみじみと）。ファンが熱心にサポートしてくれるのにはジ~ンときたヨ」と目をうるませたロボ。

「でも日本の湿気はサイアク！　全身のパーツに水滴が入るし、回路はショートするし、ホント大変だったヨ！」とじめじめした風土に弱いことを告白。この梅雨のため帰国、9月には再来日が噂されるが、「えっ……マジデ？」とまだロボには知らされていなかった模様。

気を取り直して、「これからＮＡＳＡのスペースシャトルでサイバトロン星まで里帰り。リペアしてくるネ。テクニックをもっとダウンロードして戻ってくるヨ！」と語ったロボ。

人の心を持った、愛すべきロボ。彼の、リアル・ロボファイトを、もっと見たいって人も少なくないはず。次回の来日も、期待してますぜ！



6月20日のZERO1・MAX後楽園大会で浪口修相手に日本デビューしたロボ。試合前にロボセット一式を外し、スリムなバトルスーツ仕様となったロボ。というか、それってロボなのか？　カクカクムーブとスピーディさを緩急自在に使い分け、喝采を浴びるロボ。勝利のあとはロボダンスを披露!!

掟ポルシェの萌え萌え女々苑



イラスト◎ゴローちゃん

女子プロレスの未来にうすぼんやりと火を灯す『レディゴン』復刊までのつなぎページ『萌え萌え女々苑』。今回のゲストは元・NHK教育「フランス語会話」のお姉さんフランソワーズ☆選手！　日仏英三ヵ国語に堪能な才媛が女子プロの道に進んだ謎を解く！

掟　グラビア等で活躍されていたフランソワーズ☆さんがLLPWでプロレスデビューしたということで話を聞きに来たんですけど、最初は全然プロレスは興味なかったんですよね？　子どもの頃は流血とかを見るだけで嫌だったとか。

フランソワーズ☆（以下・フラン）　ホントにそうなんです！　大阪プロレスでマネージャーやってたときも、失礼なんですけど、まったくやる気なくて。みんな知ってると思うけど（笑）。

掟　仕事だからしょうがないぐらいの気持ちで（笑）。

フラン　そうです。格闘技は好きでも、プロレスだけは好きになれなくて。なんかエンターテインメントとして受け取れなくて。バイオレンスとかも嫌いだったんですよ。血を見せたり、凶器を使って殴り合ったり、そういう怖いイメージで。食わず嫌いで観ようとも思わなかったから、テレビでやっててもチャンネル替えるぐらいで。

掟　マネージャーっていうのは事務所から言われた仕事って認識だったんですか？

フラン　そうですね。でも私、「マネージャー」って意味がわからなくて、ホントにスケジュールを管理するマネージャーかなと思ったんですよ（笑）。

掟　不要に小奇麗なマネージャーですよね、それ（笑）。

フラン　これもお仕事として勉強していきたいと引き受けて。あと、毎週大阪に行けるのが嬉しかったんですよ。家族が大阪にいるので。

掟　じゃあ、里帰り兼プロレスみたいな感じで？

フラン　そうですね。マネージャーは2年間ぐらいやったのかな？　で、契約が切れてからはプロレスとは接点がなくなって。それからしばらく経って、『私は何が一番やりたいんだろう？』って思ったんですよ。バラエティとかも嫌いになってきてたし。その頃、知り合いのプロレスラーの人が試合に招待してくれて、初めて客として観たんですけど、凄い感動したんですよ。「プロレスラーってこんなにカッコよかったんだ！」って、人生がその日に変わったの。そこからアンテナを張ろうと思って、絶対プロレスに関わる仕事をしようって決めて。

掟　プロレスのおもしろさを知っちゃったんですね。

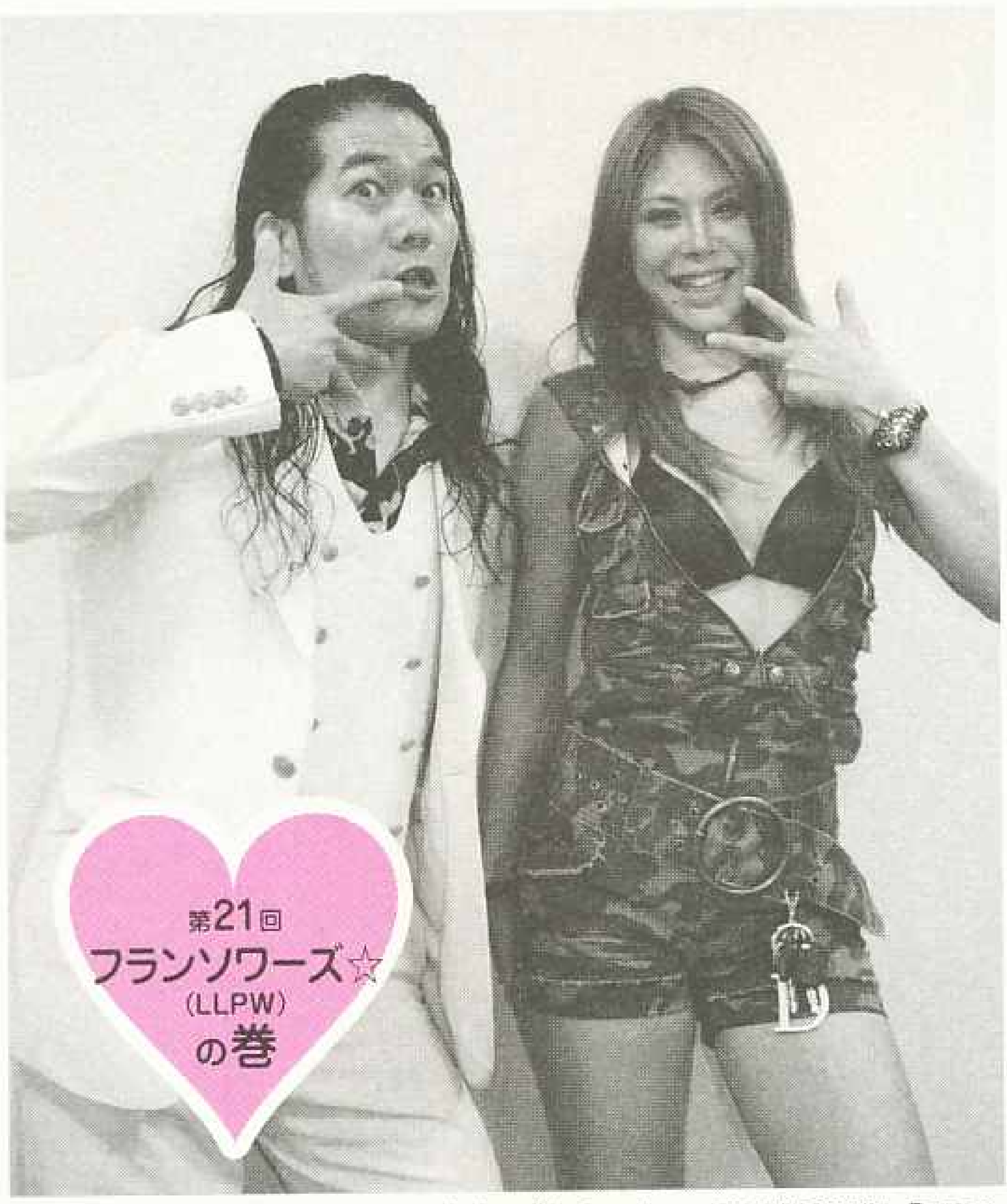
フラン　そうです。でも団体入るのにどうしたらいいか……、事務所に「探してください」とも言えなくて。

掟　プロレスをやったら当然身体に傷なんかもできますから、グラビアの仕事に差し支えるし、会社は当然反対しますよね。

フラン　事務所は格闘家として進めていきたかったんですよ。タレント兼キックボクサーみたいな感じで。でも私はタレント兼は嫌だったんです。

掟　それが、なぜLLPWに？

フラン　事務所と合わなくなってきて、自力で知り合いをたどっていったんですけど、紹介してもらったのが神取（忍）さんだったんです。そのときは即決しなかったんですけど、また別の人に相談したら「ピッタリの人がいるから会わせたい」って、その人もまた神取さんに会わせてくれて。で、3人目の人も「神取さんを紹介してあげる」ってなって、「もうこれは運命だ」と思ったから「ぜひやらせてください」って。



ふらんそわーず☆■フランス人の血をひくクオーター。NHK教育番組「フランス語会話」やバラエティ、グラビア、映画などに出演し活躍していたが、キックボクシングなど格闘技経験があったこともあり、06年にプロレスラーを目指しLLPWに入門。その後、厳しい特訓を積み、07年1月の後楽園大会での佐藤綾子戦でデビュー。過去に人気番組『めちゃイケ』のめちゃ日本女子プロレスで桜庭あつこと組み、大原かおり＆光浦靖子と闘ったことも。169cm、52kg。

掟　3人が裏で話を合わせてたとかね（笑）。

フラン　それはないです（笑）。円満退社して、以前の事務所の社長も応援してくれてますよ。

掟　将来どういう選手になりたいですか？

フラン　クールでセクシーで、『チャーリーズ・エンジェル』みたいな。でもちょっとお茶目な、小悪魔的なところもあるっていうのが目標なんですよ。

掟　お茶目に凶器攻撃とかも？

フラン　そう（笑）。闘ったら強いけど、普段はお茶目で小悪魔的でセクシーに。

掟　小悪魔的に相手の目玉をえぐるとか。

フラン　……そうですね。技を作るとしたら〝小悪魔〟って言葉を入れようと思ってて。

掟　可愛らしく丸め込んで〝小悪魔パッケージホールド〟とか。

フラン　それ誰か使ってるんですか？

掟　いや、いま思いついただけなんで誰も使ってないと思います！

フラン　いいですね、それ。使っていいですか？

掟　どうぞご自由に！　ちなみにフランソワーズ☆さんの好みの男性のタイプはどんな感じですか？

フラン　そうですね、自分の気持ちに素直な人。で、ワガママでも約束守る人。

掟　ああ〜、じゃあ俺ダメです！　約束を守らないことだけには自信がありますから！（キッパリ）。

フラン　私、約束守らないと冷めてしまうんですよ……。あと私、イジメるの好きなんです！

掟　じゃあ身の周りはM男だらけ？

フラン　どうかなぁ？　でも逆に素っ気なくされると「なんで？」って思って近寄ったりして。男友だちとかみんな仲良しですよ。へんな関係がないから余計にだと思います。私は好きな人としかそういうことはないから。

掟　生真面目ですねぇ。

フラン　でも日本人は几帳面だなって思いますね。ニュースでやってたんですけど、一番エッチしない国って日本みたいですよ。

掟　日本人は奥さんとはしないらしいんですけど、奥さん以外の人とはヤッてるみたいですよ！

フラン　奥さんを大事にしない人はダメ！　だったら結婚しなければいい！

掟　おっしゃるとおりです！

フラン　フランスは結婚しないでずっと一緒にいるから。〝フィアンセ〟ですよね（流暢なフランス語で）。日本人のキッチリしてるところとかシャイなところはいいけど、そういうのはダメですね。日本人は飽き性なんですよ！

掟　フランソワーズ☆さんは飽き性じゃないんですか？

フラン　私はけっこう情熱的ですね。冷めるときは早いですけど、長いです。

掟　冷めるときは早いけど、長い？　……う〜ん、どっちなんだろう？　ホントに小悪魔ですね！



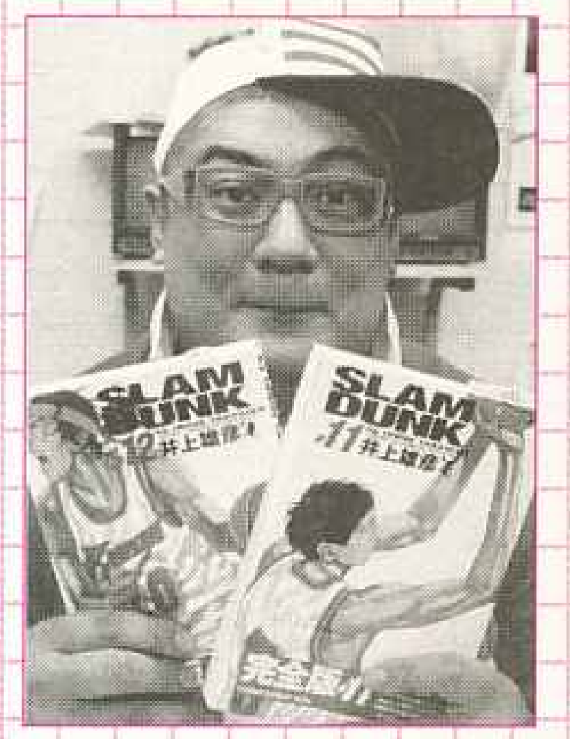
ご覧のようなセクシーかつ小悪魔チックなコスチュームで闘うフランソワーズ☆、7.29LLPW神戸大会では遠藤美月との対戦が決定。その他、大会情報及び問い合わせは→LLPW TEL.03-5228-4331　http://www.llpw.co.jp

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
■7・29（日）幕張メッセで行なわれる『ADULT TREASURE EXPO'07』に吉田豪と出演。14時〜です！　http://adultexpo.jp/main.html／その他の出演情報は掟ポルシェブログを参照【http://blog.excite.co.jp/porsche】

“俺だけの”なんでもランキング

マッスル坂井の ボクが好きなマンガ、ベスト5

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキング。“俺流のこだわり”をファイターにうかがって、ベスト5を選出！　第7回目は『マッスル』を率いる天才、マッスル坂井に、『マッスル』や自身に影響を与えたマンガへのこだわりぶりを聞いた！



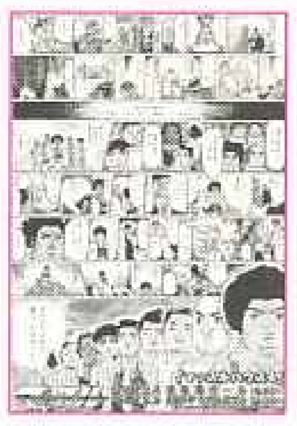
まっする・さかい■1977年11月5日。新潟県新潟市出身。本名は坂井良宏（よしひろ）。早稲田大学在学中に映像班としてDDT入社。やがて練習生へ。現在は『マッスル』を主宰、一部に熱狂的な支持を集める。186センチ、120キロ。

1



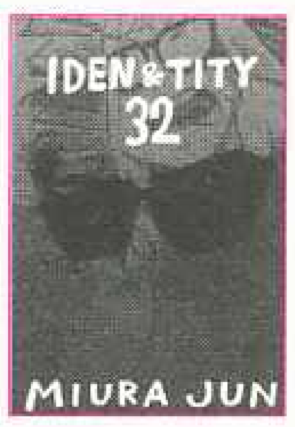
『SLAM DUNK』
井上雄彦（集英社）

2



ルノアール兄弟
※図版は『マッスルハウス4』ポスター

3



『アイデン&ティティ32 アイデン&ティティ 第3部』
みうらじゅん（青林工芸舎）

4



『キン肉マン』
ゆでたまご（集英社）

5



『さくらの唄』
安達哲（講談社）

持ち込み経験もアリ！じつはマンガ家一直線!?

あの～。もともとボクは超マンガ家大国の新潟県出身なんです（笑）。

『天才バカボン』の赤塚不二夫から『ドカベン』の水島新司、『うる星やつら』の高橋留美子、『パタリロ！』の魔夜峰央、『1・2の三四郎』小林まこと、最近は『デスノート』を描いてる小畑健……。ホント、キリがない（笑）。

マンガ家にならないほうがおかしいくらいの環境で、静岡の子どもがみんなサッカーをやるように、新潟では子どもがみんなマンガ家を目指すんです。ボクも小学校から“マンガを描くごっこ”をして見せ合ったりしてました。

ただ、どうしてもかなわない絵がうまいヤツもいるんです。そこで僕は絵で勝負するんじゃなく、『魁！男塾』（宮下あきら著）なんかの絵を切り抜いて、セリフや顔を書き換えて再構成してた。コピー・アンド・ペーストの方法論を小学生でやってて、当時から「あれでマンガなのか？」って言われてた。いまも「『マッスル』はプロレスなのか？」って言われるから、変わってないか（笑）。

で、ボクはけっこう、本気でマンガ家を目指してたんですよ。しかも当時から分業制でアシスタントまでいましたから（笑）。じつは17歳で小学館の『ビックコミックスピリッツ』に持ち込んだんです。『アストロ球団』（原作／遠崎史朗、作画／中島徳博）の柔道版で、その絵も『柔道部物語』（小林まこと著）をトレースしたりして（笑）。

それは努力賞止まりだったんですが、編集の人から「とりあえず大学に入りなさい。仕送りをもらえば、4年間は自由な時間ができる」とアドバイスされたんです。でも大学に入ったら、映像への興味のほうが強くなっちゃった。手塚治虫の『マンガの描き方』という本に「マンガ家になるには、たくさん映画を観ろ」と書いてあって、それを真に受けたのが原因かも（笑）。

『キン肉マン』は一つのプロレス団体として見ていた!!

最初に買ったマンガの単行本は、『キン肉マン』（ゆでたまご著）。これがボクの4位ですかね。ただし、ボクはマンガじゃなく、プロレス団体として見てました（笑）。新日本プロレスがゴールデンタイムだったり、K—1が大晦日で高視聴率とかありますけど、『キン肉マン』だって全試合、全国放送されてますから（笑）。全試合がアニメ化され、全選手がフィギュアになってる。経済効果からいったらWWEにも負けない（笑）。

『マッスル』では『キン肉マン』の、「バッファローマンが人の身体をバラバラにして、それをめぐって闘う」っていうネタをやったんですが、じつは同じことを吉本興業のプラン9さんの舞台でやってたのが元ネタ。だから、ホントは元ネタの元ネタなんです。

で、5位は『さくらの唄』（安達哲著）。高校生の頃、熱中して読みました。自意識過剰な青春時代に読むべきマンガ。どうすることもできない現実をどう受け入れるのか？　っていうヘビーな青春物。『マッスル』の世界間とは距離があるけど、こういうのをなんでやれないのかなって（笑）。

3位の『アイデン&ティティ』（みうらじゅん著）とともに、こういう部分が『マッスル』の“のびしろ”という感じ（笑）。『アイデン&ティティ』は自伝的な青春ロックマンガ。制作がツラくなると寝っころがって読むんですが、「できることは、しなきゃいけないことなのさ」ってフレーズがあって、それは常に胸に抱いてますね。『マッスル』の2週間前に何もアイデアが思いつかないときに凄く効きます（笑）。

2位は、ルノアール兄弟。『マッスル』のポスターも描いてくれたんですけど、この人たちはオススメ！　いまは雑誌での読みきりを中心に執筆してますが、2年後には、日本のギャグマンガを代表する顔になっていると思います。

かつて電気グルーヴってバンドの周辺にいたマンガ家さんたちはデタラメな表現が爆発してておもしろかったんですが、そこに次ぐ存在になるんじゃないか、と。ネット連載（講談社『少年シリウス』HP内、『ルノアール兄弟の愛した大童貞』）でも、マンガを描くのを放棄して、登場人物のインタビュー記事が突然掲載されたり、メチャクチャやってる（笑）。彼らにはボクの代わりに『マッスル』の台本を書いてほしい（笑）。そのくらい突き抜けてる人たちです。

マンガはプロレスの100倍先を行っている!?

1位は言わずと知れた『SLAM DUNK』（井上雄彦著）。『マッスル』でもネタにしましたけど、「安西先生、バスケットボールがしたいです！」というセリフに尽きますね（笑）。


最初は校内の不良軍団とバスケ部員との抗争の話で、その不良のボスがホントは元バスケ部で、全国中学王者の天才プレイヤーだったという。それでバスケ部の顧問の先生に復帰を嘆願するんですが、あの展開は予想できなかったし、作者的にもこんな展開にするハズじゃなかったと思うんです。でも井上さんは、ストーリーの帳尻の合わせ方が抜群にうまい。編集部や、『ジャンプ』的な事情を全部いいほうに好転させる力量には感心します。

『マッスル』でマンガネタを使うのは、『SLAM DUNK』が好きだからとかより、単純にいい話、だから。設定を借りてるだけ。あのシーンは人間を感動させる普遍的かつ、新しい構図だなと思ったから使ったまでです。だって完璧に新しいストーリーなんて作れないじゃないですか。

マンガが人を感動させる構造はプロレスの100倍先を行ってると思うんで、そこを『マッスル』にも反映させたいなって。

いや～。それにしても全体的に、童貞が主人公のマンガが多い（笑）。女性があまり描けないというのは『マッスル』にも通じるんですけど。ま、そこもこれからの課題ということで（笑）。

大誤算!! 田村潔司、『HERO'S』上陸に失敗!!



討伐ムードに翳り……!?

さまよえる秋山問題

田村潔司が『HERO'S』に緊急参戦!! その先に見据えるのは、あの秋山成勲の成敗!!……ということで、興奮の汗で身体がヌルヌルしたファンもいたかと思うが、すでにご存知のとおりの意外な結末に……。

試合写真／乾晋也



Q あなたは秋山成勲の復帰に賛成ですか？　反対ですか？

本誌の“目安箱”の結果はいかに？　携帯サイト『kamipro Hand』ユーザーの半数は、秋山成勲の復帰に反対!!「対戦相手次第」の復帰容認派を含めると「賛成」もほぼ5割に到達するからこそ、“対戦候補ナンバーワン”だった田村の敗戦がこの“復帰問題”に与えた影響は計りしれない。

※携帯サイト『kamipro Hand』にて
07年7月18日から20日までアンケート実施。

ウソ!?　金泰泳にまさかの判定負け!!

“ヌルヌル討伐”一番手

田村潔司の敗戦が秋山復帰に立ち塞がった!?

Q 7.16『HERO'S』横浜大会のワーストバウトはなんですか？

金泰泳vs田村潔司 907票

宇野薫vs永田克彦	334票
ハレック・グレイシーvs柴田勝頼	252票
アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラvs勝村周一朗	14票
メルヴィン・マヌーフvsベルナール・アッカ	9票
ブラックマンバvs所英男	8票
ビトー"シャオリン" ヒベイロvs宮田和幸	7票
アンドレ・ジダvsアルトゥール・ウマハノフ	4票



田村潔司目線で観れば消化不良の試合内容や、この先に見えていた秋山戦の後退が重なって、ブッチギリでワーストバウトに選出。TBSに勝手に"PRIDEvsK-1対抗戦"と銘打たれてしまったあげくの結末……というモヤオヤも確実にあったのだろう。『ゲリラレディオ』まで流しやがって。コンノヤロ～ォ!!（高田総統調）

Q 7.16『HERO'S』横浜大会のベストバウトはなんですか？

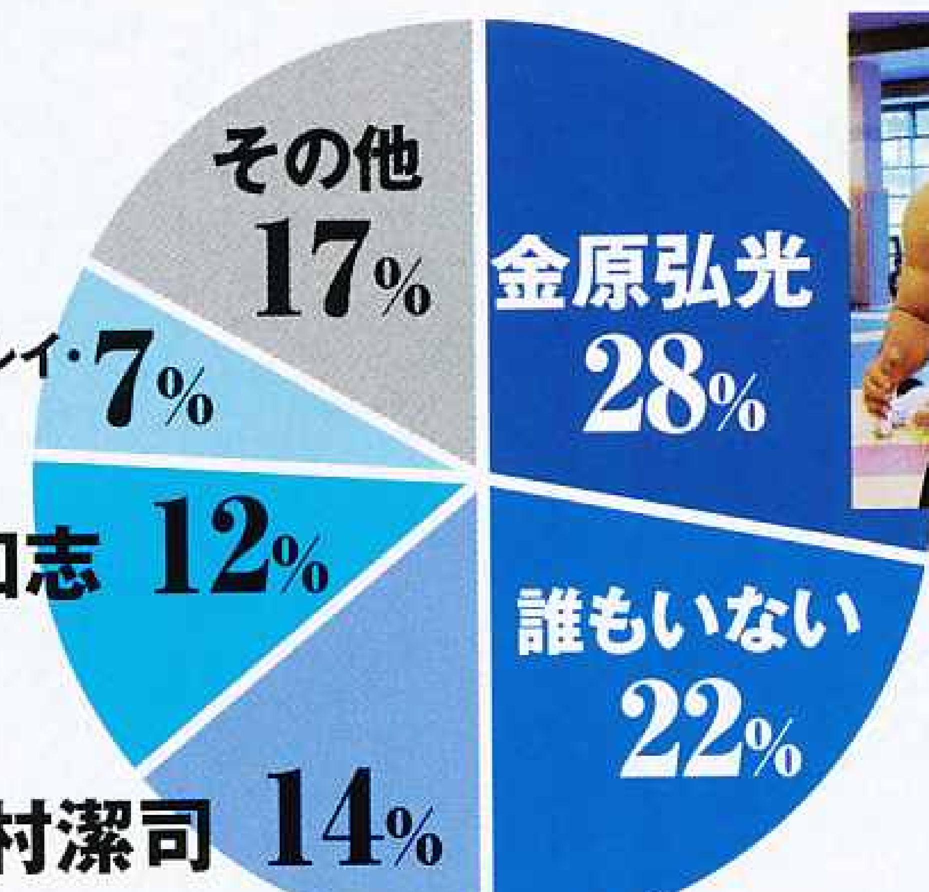
ビトー"シャオリン"ヒベイロvs宮田和幸 533票

アンドレ・ジダvsアルトゥール・ウマハノフ	352票
メルヴィン・マヌーフvsベルナール・アッカ	302票
ブラックマンバvs所英男	166票
宇野薫vs永田克彦	134票
アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラvs勝村周一朗	25票
金泰泳vs田村潔司	14票
ハレック・グレイシーvs柴田勝頼	9票



ベストバウトはハイレベルな攻防を展開した宮田和幸vsシャオリン。続いてジダvsウマハノフ、マヌーフvsアッカと続く。純粋に"いい試合"が並んだが、谷川さんいわく「PRIDEっぽい試合」を『HERO'S』で続けていくためには、いかにしてシャオリンやジダのようなガイジンをスターにするかどうかだろう。"谷川黒魔術"に期待!?

Q 秋山成勲の復帰戦は誰と対戦したらいいと思いますか？





谷川さん、もうこの男しかファンは納得しないって!! 愉快痛快な秋山への挑発ぶりが掲載時に大きな反響を呼んだ本誌No.111のインタビュー。前田日明スーパーバイザーに秋山成勲戦を直訴していたことを明かした金ちゃんだ!! ……だが前号＆今号のコラムを読むかぎり望み薄？ 田村は敗戦により支持率ダウン。「誰もいない」層が2位につけた。

田村潔司、屈辱のワーストバウト……

競技者としてのモラルや事件処理方法のモヤモヤ度からすれば、多くのファンが到底許し難いはずの秋山成勲復帰問題。そのあたりまえの"答え"を大きく揺り動かす要素があるとすれば、（夢枕）獏さんに「ルールの範疇を超えたような執念とか情念……、そういうものを観ちゃうと心が激しく揺れるんだよぉ！」と言わしめた、「人間のダーティ面に訴えるような悪魔の魅力」（by菊池成孔）になるんだろう。

秋山が反省しているからＯＫ？社会的制裁を受けたから復帰してヨシ？ ズバリ言って、そんな温かい理由で復帰を容認するファンなんてまったくいねえんです。

秋山成勲を狩れ、叩きのめせ!!

秋山成勲の本性を暴け!! いいかげんに大晦日のモヤモヤを払拭したい！ ……秋山に対して抱いてしまったそんな"悪魔の魅力"を、田村潔司のような"媒介者"を通して触りたい、壊れる瞬間を目の当たりにしたいという、背徳の欲求がじつはこの復帰問題に潜んでいた。

田村潔司にはこの問題を刺激的かつ、谷川さんの言葉によるところの「前向きに調整」してくるドラマ性を持っていたのが……。

その"媒介者"筆頭が"前哨戦"でまさかの敗北を喫してしまったために、事態はますます混迷の様相を呈してしまった。こうなれば、新たな"媒介者"が登場するか、またはクリーム塗布問題の再検証を図ってファンの根強い不信感を解くしか現実的な術はない。

田村の敗戦によって、さまようことになってしまった秋山問題——。"２００６年の大晦日"から年が明けるには、まだまだ時間がかかりそうだ。んあ～!?



これが"目安箱"!? 事前に予告されていたように秋山復帰問題について会場アンケートが実施されていた。会場入口でなぜか「秋山成勲選手、『HERO'S』復活を願う」とのボードを掲げた有志がアンケートの協力を呼びかけていたが……結果はどうなった!?

HERO'S初参戦で

すべった男 こんなことで秋山成勲とやれんのか!?



田村潔司



7.16 HERO'Sで
金泰泳に痛恨の判定負け!

調整ミスか、これが実力か、はたまた新婚ボケか？　田村潔司がいきなりすべった。“PRIDEを背負って”（※TBSのテロップより）7.16『HERO'S』に初参戦しながら、“K-1”金泰泳に痛恨の判定負けを喫してしまったのだ。『HERO'S』登場の先には、もちろんかねてから公言していた“ヌルヌル討伐”があると思われていたが、この敗戦によりその機運は大きくそがれたと言わざるを得ない。はたして、田村はどうするのか？　本誌は金泰泳戦の4日前に田村のインタビューを収録。田村は本来、どんな考えをもって『HERO'S』に参戦したのかを探るべく、あえてここに掲載しよう。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／梅木麗子　試合写真／乾晋也

—遅くなりましたけど、ご結婚おめでとうございます!

田村 いきなりその話?（笑）。まぁ、いいや。ありがとうございます。

—いかがですか、新婚生活は?

田村 いいもんですよ。一人暮らしのときにやらなきゃいけない仕事をやってもらえるんで。

—でも、そういいことがある反面、これからはおちおち合コンも行けません。

田村 ハハハハハ! そうねえ、確かに合コンはもう行けないね。

—コッソリとしか行けませんよね。

田村 そうそう、細心の注意を払ってコッソリ……って、どんな質問だよ! そんなこと言えるわけないじゃん。たとえコッソリ行ってたとしても。

—失礼しました（笑）。結婚披露宴は確か、今月末でしたよね?

田村 そうそう。

—じゃあ、4日後の『HERO'S』と式の準備で、かなり忙しいんじゃないですか?

田村 忙しいってもんじゃないね、いい迷惑だよ。

—いい迷惑（笑）。

田村 式がじゃないよ、披露宴以外のことが。いろんなことがいっぺんに押し寄せてるから大変ですよ。

—IGFからのオファーなんかは、かなり迷惑だったわけですね（笑）。

田村 いやいや、そうじゃないから! やめてよ。ありがたい話をいただいたんだから。

—でも、この春ぐらいから田村さんが凄く活動的というか、桜庭さんと『PRIDE』のリングに上がったり、ロスまで行ったり、IGFや『HERO'S』に出場を決めたりと、毎月大きな動きがあるじゃないですか。それには結婚が関係してるんじゃないか、という声もあるんですけど。

田村 そう? それはべつに関係ないでしょう。

—要は、家族を養うために稼がなきゃならないんじゃないか、と（笑）。

田村 ハハハハ、そういうわけじゃないけどさ。『PRIDE』がああいうことになって、試合に出たくても出られない選手が多い中で、いろんなお話をいただけてるんで。ありがたい話だよね。養うために稼がんといかんし（笑）。

—やっぱり稼がなきゃいけないんじゃないですか（笑）。ただ、『HERO'S』参戦は、思いのほかアッサリ決まったなという感じがするんですけど。

田村 いや、アッサリは決まってないでしょ。

—まあ、裏ではいろいろ交渉があったんでしょうけど。ファンからすると唐突感があったと思いますよ。「え、ここで?」っていうような。

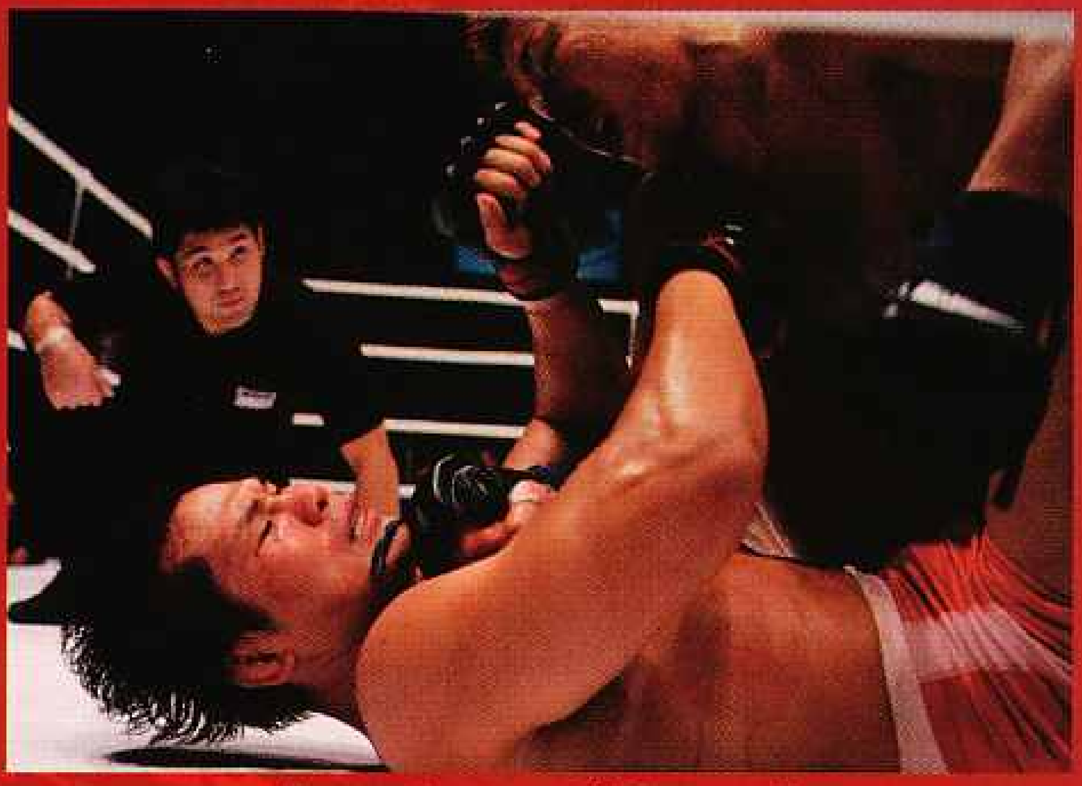
田村 ああ、そういう意味でね。そうね……今回の件は、なんだかなって感じだね。

—なんだかなってなんですか（笑）。

田村 いやぁ……ホント、なんだかなって気持ちだよ。オファーをいただけるのは凄い恵まれてるんだけど、やるとなったら、プレッシャーなりいろんなものを背負わないといけないんで。

—『HERO'S』に出るというのは、アウェーの舞台に乗り込んで行くっていう気持ちはありますか?

田村 それはもちろん。田村潔司個人の闘いではあるんだけど、いままで通ってきた道というものがあるから。「『PRIDE』を背負って出ます」って宣言するのは嫌らしいからしないけど、通ってきた道は必然的に背負うことになると思うから。



［7.16 『HERO'S』横浜アリーナ］
○金泰泳 vs 田村潔司×
（延長R 判定 3-0）

このカードでテーマは「PRIDEvsK-1」という、格闘技に愛がある人には絶対に作れない、驚愕煽りVでスタートしたこの一戦。『HERO'S』初参戦となる田村の闘いぶりが注目されたが、金泰泳のスタンドにこだわり、グラウンドではひたすらクローズドガードでブレイク待ちという、KOK時代のアイブルのような策略にハマり、凡戦の末の判定負け。田村にとっては最悪の結果になってしまった。

—田村さんの中でも、自分はPRIDEファイターだっていう自負は少なからずあるわけですか?

田村 対『HERO'S』だったら、そういう気持ちはあるね。だから、どうせ出るんだったら『PRIDE』のファンと『HERO'S』のファンがケンカになって、暴動を起こすぐらいになってほしいぐらいで（笑）。

—暴動を奨励しますか（笑）。

田村 いや、暴動はもちろん起こし

秋山みたいなバカなことやるヤツと闘うのは嫌いじゃない

ちゃいけないけどさ（笑）、他団体に出るとか、対抗戦みたいなものって、それぐらいの熱があっていいと思う。

—それぐらいの熱が生まれるような相手とやっていきたいという気持ちもあるわけですよね?

田村 そうね。そういう熱が生まれれば絶対におもしろいし、そういう流れにしなきゃいけないとは思うから。

—たとえば秋山成勲戦が実現したら、一種異様なムードになると思いますけど、今回の『HERO'S』参戦という決断は、その先の秋山戦っていうのが頭のどっかにあっての決断でもあったわけですか?

田村 もちろんそれはそうなんだけど、秋山とやるために金（泰泳）さんとやるってことじゃないから。その話をちょっと置いておけば、秋山に関しては因縁めいたものを感じるから。

—それはもちろん、大晦日の〝ヌルヌル事件〟があったからこそですよね?

田村 そうだね。ああいうことが起こらずに、たとえば秋山が桜庭に勝ったとしても、たぶん俺はやらないと思う。これはもう、大晦日のあの一戦で、流れができたと捉えてるから。

—当の秋山選手は出場停止処分中ですけど、ファンのあいだでは秋山復帰に対する是非論みたいなものがあるんですよ。田村さんは、秋山を復帰させることについてはどう思いますか?

田村 全然、何も問題ない（キッパリ）。

—何も問題ありませんか（笑）。

田村 うん。復帰させないって運動をしてること自体、俺はあんまり理解できない。だって、プロの興行として考えたら、あれは使うべきでしょう。

—まぁ、興行的にはそうなんですけど（笑）。要はスポーツ選手としてやってはいけないことをやった、と。たとえばドーピングがあったりしたら、オリンピック選手だったらメダル剥奪とか、場合によっては選手資格剥奪とかがある中で、簡単に復帰させていいのかということなんですけど。

田村 でも、秋山がやったことって、たかがクリーム塗ったぐらいでしょ。

—ガハハハハ! まあ、そう言われればそうなんですけどね。

田村 「クリーム塗ったら永久追放」っていうルールがあるならそうすべきだけど、実際はたかがクリームだからさ。

—ことの重大さはともかく、〝罪状〟自体は軽犯罪ですね。

田村 そう。桜庭に対する謝罪、補償、名誉の回復というのは別の話で、それは犯罪にたとえたら〝民事〟だから。刑事罰としてはクリーム塗っただけだからね。それで永久追放っ

俺の前で「前田日明」という言葉は禁句！いい意味でNGワードだから

ていうのは、あまりに感情論に走りすぎてると思う。

――実際の『HERO'S』ルールでの罰則は、ファイトマネーの減額だけですからね。何か塗って永久追放なら、（今年3月の高橋義生戦で）足の裏に松ヤニ塗ってきたメルヴィン・マヌーフも永久追放にならなきゃおかしいというか（笑）。

田村 そうね。だから、あの試合はすべて歯車が狂ってたんだよ。試合前にレフェリーが塗ってること気づいてたら、タオルで拭いて終わりだし。試合中に桜庭が「すべる！」って言ったとき、セコンドが入るなりレフェリーがチェックするなりしていれば、それで終わってたわけじゃん。

――そうですよね。試合前に松ヤニが発覚したマヌーフと同じで、大きな問題にはなってないはずですよね。

田村 だからあの件は、クリーム塗ってきた秋山が一番悪いけど、レフエリーとか桜庭のセコンドとか、周りも悪いから。ただ、俺はね、秋山のクリームを塗ってきたという行為自体はどうでもいいんだけど、そういうバカなことを平気でやる精神が許せない。そこに頭きてるんだよ。

――だからこそ、出場停止には反対するけど、リング上では懲らしめてやりたい、というか。

田村 うん。俺、ああいう選手とやるのは嫌いじゃないから。

――ああいう選手っていうと？

田村 秋山みたいな、クリーム塗るようなバカな選手。

――バカとやるのは嫌いじゃない（笑）。

田村 そうそう。そういう相手とはけっこうやってきたから。

――オイル塗ったり、ロープつかんだり、目に指入れてきたり。とくにリングス時代に多かったですね（笑）。

田村 でもさ、『HERO'S』の会場で秋山に関するアンケート取るんだよね？ どんなアンケート取るの？

――秋山を出場させるべきかどうかっていうことですね。

田村 その結果がどう反映されるか知らないけど、"出場させない派"が多いほうがおもしろいよね。

――どうせなら、とことん嫌われたまま出てきたほうがおもしろい、と。

田村 あそこまでのヒールはね、作ろうと思っても作れないから。そういう意味では、彼は凄いよね。あれは生まれ持ったもんだから。

――汚いことを平気でやりながら、子どもと手をつないで入場してくるわけですからね（笑）。

田村 凄いよね、天才だよね（笑）。

――嫌われる天才。

田村 そうそうそう、ホント。

――その点ではさすがの田村潔司も勝てない、と（笑）。

田村 ちょっと待って、俺は試合に関しては真面目だからね！

――でも、秋山は田村さん以上に、桜庭さんに嫌われてますよね。

田村 そういう比較をされるとね……、俺もどこまで桜庭に嫌われてんだよって話で（笑）。

――嫌われる質が違いましたね（笑）。そういえば今回、『HERO'S』に上がるとなると、ひさびさに前田さんの前で試合をすることにもなりますけど……。

田村 （さえぎって）そういうこと言わないでよ！ ただでさえいっぱいいっぱいなんだからさ、これ以上いっぱいいっぱいにさせないでよ。

――ガハハハ！ 思い出させないでくれ、と（笑）。

田村 ここで「前田日明」ってワードはダメ！ 禁止！

――「前田日明」はNGワードでしたか（笑）。

田村 これは、いい意味でだよ。

――いい意味でNGワードって、なんですかそれ（笑）。

田村 いやね、前田さんとか高田さんとかさ、あのレベルの人は、俺らの中では名前を聞いただけでドキドキするんだから、心臓に悪いからやめてよ。

――それは、試合前に失礼しました（笑）。ところで、今回『HERO'S』に上がりますけど、今後『PRIDE』が再開したらどうしますか？

田村 『PRIDE』が再開して、俺の居場所があれば全然変わらず出たいとは思うけどね。ただ……、俺の居場所はないんじゃないかな。

――それはアメリカ人オーナーになった『PRIDE』では、自分が必要されないんじゃないかということですか？

田村 うん。どう考えてるのかわからんからね。

――まぁ、ロレンゾ・フェティータが田村さんの誕生日にケーキ持って、登戸まで口説きに来るとは思えませんからね（笑）。

田村 そうそう（笑）。だから、一番大きいのはバラさんかな。あの人は車でたとえると、『PRIDE』の運転手でありながら、エンジンでもあったから。いなくなってから、その存在感がみんなわかってきたと思うけど。

――運転手が代わっても、エンジンがなきゃ車は走りませんからね（笑）。逆に言えば、バラさんという"エンジン"が残っていたら、『PRIDE』再開のメドが立たないようなことはなかったかもしれない。

田村 そうね。あの人は凄いね。まぁ、『PRIDE』がこうなって、選手にとってはこれからは、生き残りをかけた闘いだよね。俺は30歳すぎたあたりから、常にそう思ってたけど、もしダメなら次で終わるかもしれないって気持ちで挑まなきゃいけないと思ってるんで。まぁ、頑張りますよ。

――わかりました。でも、いまの田村さんはバイオリズム的に凄く前向きというか、いい感じじゃないですか？

田村 いまはいい感じだね。ただやることがいっぱいあって。もう先月のロスといい、ホントにいい迷惑だよな、もう！

――ガハハハ！ いい迷惑（笑）。

田村 俺、式の準備で忙しいのに「ロスに行け」とかさ。あのロスに行った一週間は、凄いタイムラグだよ！

――まあ、結果的にはテレビ解説しただけですからね（笑）。

田村 いろんなことが、次から次へとね、ポンポンくるから、IGFに出たのが凄く昔のことのように思うもん。っていうか、「IGFってやったっけ？」みたいな（笑）。

――ダハハ！ では、次の『HERO'S』は「やったっけ？」みたいにならないことを期待してます（笑）。

【07年7月12日／川崎市・U-FILE CAMP登戸にて収録】

この4日後、田村は『HERO'S』に出陣。金泰泳相手に「やったっけ？」じゃすまされない、敗戦を喫してしまった。正直、この結果は重い。参戦前に期待されていた、桜庭和志戦、船木誠勝戦、そして秋山成勲戦、すべての興味が後退してしまった感は否めない。

はたして田村は、この敗戦をどう挽回するのか、それともメインストリームから脱落してしまうのか⁉ 赤いパンツの頑固者は、プロレスラー生活最大の岐路に立たされた――。



たむら・きよし■69年12月17日、岡山県出身。第2次UWF、Uインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士。02年からは『PRIDE』で活躍。4・8『PRIDE・34』では、桜庭とともにリングに上がり、近い将来の対戦を期待させた。180センチ、86キロ。

“リアル”総合格闘技のパイオニアが
大晦日についに現役復帰!!

あの狂気のカリスマ、船木誠勝がリングに帰ってくる！　7.16『HERO'S』の“サプライズ”として登場した船木は、今年の大晦日に、じつに7年半ぶりに現役復帰することを宣言した。7年前にヒクソンに敗れ引退して以来、総合格闘技への復帰を否定し続けていた船木が、このタイミングでカムバックを決意するまでには、どんな心境の変化があったのか？　船木の心の奥に迫ってみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／梅木麗子　試合写真／乾晋也



――船木さん、なんだかメチャクチャ日焼けしてますねぇ。

船木　これマシーン焼けです（笑）。

――やっぱり現役復帰宣言でリングに上がるってことで、こんがりと焼いてきたわけですか？

船木　いや、自分はもともと青森出身で肌は白いんですけど、日焼けしてるイメージがあるみたいなんで、白くなると「病気ですか？」って言われちゃうんですよね。だからここ2年ぐらいは週1回は必ず日焼けサロンに行ってます。

――そうでしたか（笑）。で、昨日は前田日明スーパーバイザーの呼びかけでリングに上がり、総合格闘技の現役復帰宣言をしたわけですけど、やはり入場前は緊張しましたか？

船木　してないですね。一度、ビッグマウスのリングで「（プロレスに）復帰します」ってやっちゃってますから。あのときは緊張しましたけど、今回は冷静でした。

――ファンに受け入れてもらえるかどうかという、心配はありませんでしたか？

船木　そういう重荷はなかったです。まあ、『HERO'S』のファンって俺のことを知らない人も多いんじゃなかって思ったんで、あんまりピンとこないんじゃないかとは思いましたけど。

――でも、そういう思いとは逆に、復帰宣言をされたときは会場全体が非常に温かかったというか、いい反応でしたよね。

船木　そうですね。よかったです（笑）。

――ただ、ビッグマウスのことがあったんで、船木さんは現役復帰はするけど、それはプロレスだけで、格闘技はやらないんじゃないかと思ってたんですけど。

船木　それは自分もそう思ってました。でも、ビッグマウスを離れることになって、プロレス復帰が宙に浮いちゃって。「ここまで高ぶってた気持ちをどうすればいいんだろう？」って思ってた頃に、柴田（勝頼）と一緒に練習するようになって、今回のことが見えてきたんですよね。

――それは練習していく中で、総合での復帰の道が見つかったってことですか？

船木　最初は、どこに行くための練習かっていうのがまったく見えてない中でのトレーニングだったんですよね。でも、練習してるときっていうのが自分も柴田も一番〝生きてる感覚〟っていうのがあるなって。

――柴田さんは3月の『HERO'S』で総合デビューされたわけですけど、デビューするにあたって「船木さんから渡された刀を研いでるうちに、使いたくなった」って言ってましたよね。今回は、船木さん自身も自分の刀を研いでるうちに使いたくなったっていうのがあったんでしょうか？

船木　そうですね。正直言って、研いではいました。そういう感覚は凄くあります。毎回、毎回トレーニングして、一つ柴田が何かをつかむと、同時に自分も一緒にそれをつかんでますから。そういう意味では、二人で武器を研いでるなって。

――だからこそ、「（引退した）２０００年の船木誠勝よりも、いまのほうが成長してる部分が多い」ってコメントしていた、と。

船木　ええ。柴田と一緒にトレーニングする中で、身体が勝手に反応しちゃって、スパーリングやっても全然渡り合えるんですよ。それって最初は「柴田がもの凄く弱いからかな」って思ってたんですけど、柴田はほかの道場に行って練習させても決して弱くないんです。そういう意味では、自分の感覚がリセットされて、なおかつ自分がいままでやってきた身体の動きと神経が、ピッタリ一致したんじゃないかなって気がしてるんですよね。

――そもそも、船木さんが現役を引退されたときって、身体も精神も限界まで追い込まれていたわけですよね。それが7年経ってリフレッシュされて、いまはあのときよりいい状態にある、と。

船木　そうです。リフレッシュされすぎて、途中で歯止めが利かなくなったような状態のときもありましたけどね。

――精神が戻りすぎちゃって闘わずにはいられなくなりましたか（笑）。

船木　だから、リングで自分を表現できるっていうのがもの凄くありがたいことだなっていうのが本当にわかりましたね。

――しかし、柴田選手と練習をする中で船木さん自身にもいろんな発見があると思うんですけど、船木さんがリングから離れていたこの7年間っていうのは格闘技界全体のレベルってもの凄く上がってると思うんですよ。そういう意味で、単純に恐怖みたいなのはありますか？


船木　（即答で）ないです。だって、レベルが上がったっていっても、結局は足か腕か首を極められるか、顔面や腹に強い打撃をもらってKOされるかっていうどれかですよね。その痛みっていうのは一通り自分は経験してるんで、あとはそこに強弱があるだけの差なんで、受ける痛みというのは昔もいまも変わらないですね。

――では、負ける恐怖みたいなものは？

船木　（再び即答で）ないです。〝負け犬キャラ〟はこの7年間ずっとつきまとってきましたからね（苦笑）。いまだって使われる動画はヒクソンに落とされる動画ですし。

――昨日、リング上で自己紹介されたときは、自分から「〝惜しくも〟ヒクソンに敗れた」っていうふうにおっしゃってましたよね。

船木　あれは本音ですね。俺はあのとき絶



昔はカッコよく見せよう
強く見せようとばかりしていた。
いまは本当の船木誠勝になりたい！

船木誠勝

対にヒクソンには勝てると思ってましたから。その試合を落とした後悔って、ホントは凄くあったんですよ。でも、負けた直後は「もう終わったことだから」って自分に言い聞かせて過ごしていたんです。新しい俳優っていう仕事にも就きましたしね。でも、3年経ったとき、ちょうど俳優の仕事にも慣れてきた頃だったんですかね。そうなると、だんだんもの足りなくなってきたっていうか、引退してしまったことへの後悔がどんどん自分の中で湧き上がってくるようになったんですよ。

――刺激っていう部分では、命のやりとりをしている格闘技以上のことってなかなかないでしょうからね。

船木　だから、ヒクソン戦は本当に真剣勝負って取り返しがつかないものなんだっていうことが、凄く表面化した試合でしたね。

――船木さんは当時、ヒクソン戦は〝殺すか、殺されるか〟っていう気持ちで闘ったって言われてましたよね（笑）。

船木　ええ。でも、そういう命を懸けた試合だったにも関わらず、敗れた自分は死んでなかったんです。その後も生きなきゃいけないんですよ。それで、ごく普通の一般人になれるんだったらよかったんですけど、芸能界っていう、みんなから観られる世界にいたから余計に恥ずかしいんですよ。

――船木誠勝を知っている人は絶対に観ますからね。

船木　芸能界の仕事でも、単なる新人俳優という目で全員が見てくれるんだったらよかったんですけど、自分のことを知っている人はやっぱり「凄いですよね」って言ってくださる方もいたんで。そこは、余計につらかったなって。

――ファイターであった船木誠勝っていうのがどこまでもついてきた、と。

船木　だから、いっそのこと俳優もできなくなるくらいの大事故でも起こしたほうがよかったかなって思ったときもありますよ。本当に一般の生活を送れるように……。当時は行き場所がなかったですよね。

――そして、いろいろ考えた末にみつけた自分の生きる場所は、リングの上だった。

船木　そうなんです。そのきっかけはやっぱり柴田なんですけど、3月の『HERO'S』でセコンドとしてふとリングの中に入ったんですよね。そのときの空気感っていうのが、自分にとってもの凄く違和感がなかったというか、自分の部屋に来たみたいな感覚だったんですよね。リングの外には他人がいっぱいいるんですよ。でも、リングの中だけは間違いなく俺たちのものだよって。それに気づいちゃったんです。

――引退前っていうのはその空間から離れたくてしょうがなかったのに。

船木　そう。引退する前って、他人のためになんて闘ったことなかったですよ。常に自分の求めるものに向かってたっていうか。べつに〝求めるもの〟なんてないんですけどね。いま思えば、ただカッコつけてただけだと思うんですけど。でも、これから先は応援してくれる人がいるんであれば、そういう人はたぶんオレと同じくらいの歳なんで、その人たちと残りの人生を一緒に年とっていきたいなって思いますね。それは引退前といまとの一番の違いだと思います。もう一回一緒に、今度こそは本当に泣いたり笑ったりできると思いますね。

――3、4年くらい前にボクが船木さんにインタビューしたときに「今度、総合やるときは、本当にどちらかが死ぬまで闘う〝殺し合い〟しかしない」って言われてたんですよ。でも、いまは違うってことですよね？

船木　違いますね。そのときはたぶん、ヒクソン戦で死ねなかった自分に対する怒りがあったんですよ。

――次に総合をやったら、今度こそ死ねるんじゃないか、と。でも、いまは「どう死ぬか」ではなく、「どう生きるか」に考えが変わってきたわけですか？

船木　そうですね。生きるために闘いたいし、闘うために生きたいっていうか。そういう意味でも、前と違う船木誠勝が試合をすることになるんで、どうなるか自分でもわからないんですよね（笑）。

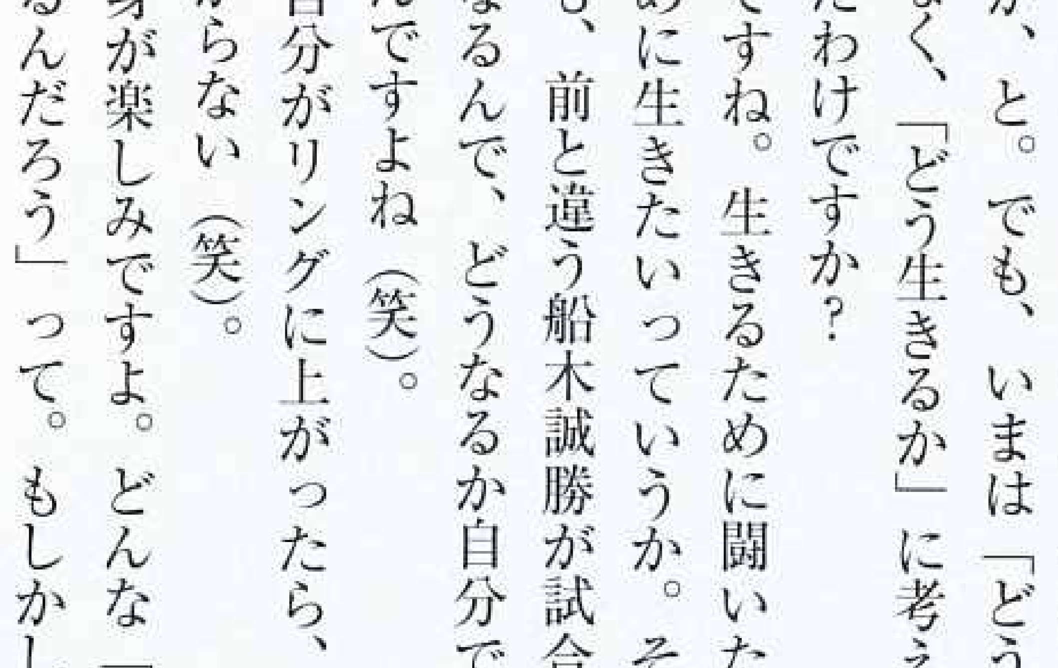
――いまの自分がリングに上がったら、どうなるかわからない（笑）。

船木　俺自身が楽しみですよ。どんな「船木が出てくるんだろう」って。もしかした



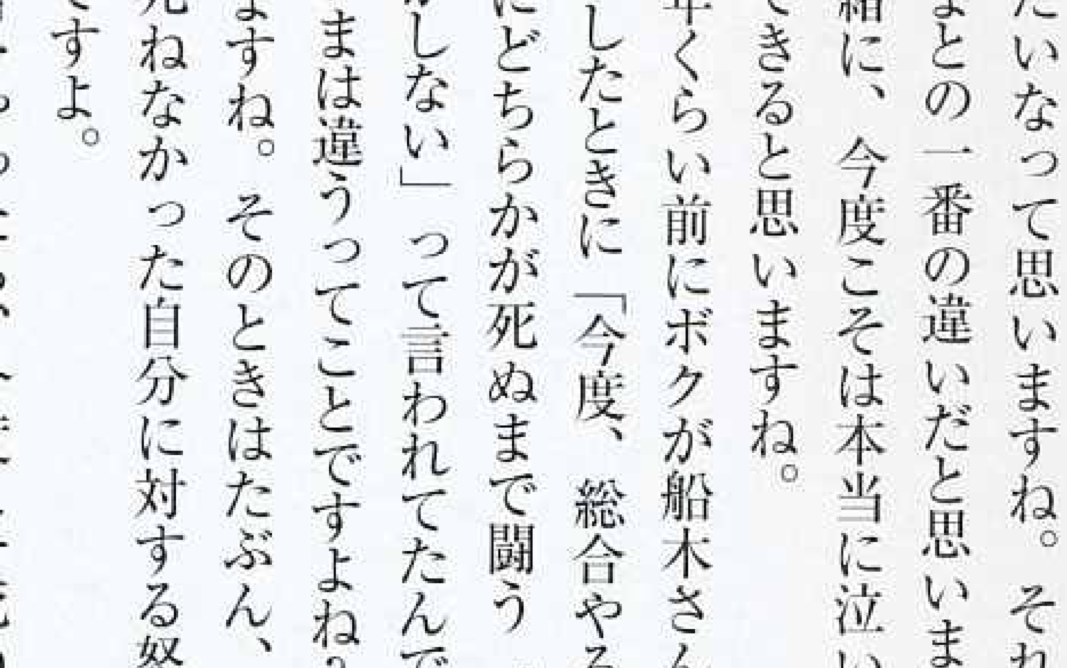
［スーパーファイト］
○ハレック・グレイシー vs 柴田勝頼×
（1R 3分5秒 腕ひしぎ十字固め）

船木の愛弟子・柴田が、グレイシー一族ホリオンの三男ハレックと対戦。序盤、柴田はパンチで尻餅をつかせる場面を作ったが、組みつかれテイクダウンを許すと、マウントパンチから腕十字でタップアウト負け。試合前、柴田は「格闘技の源流のような試合をしたい」と言っていたが、まさに初期プロレスvsグレイシーというか、技術的に源流な試合になってしまった。



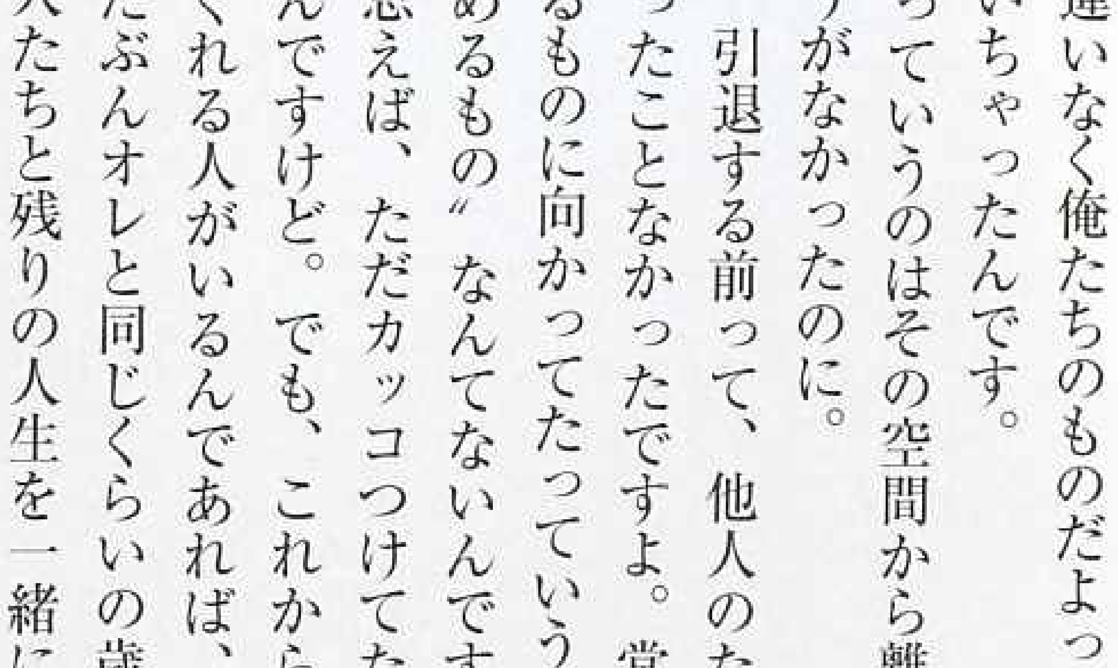
［ミドル級世界王者決定トーナメント開幕戦］
○ビトー・“シャオリン”・ヒベイロ vs 宮田和幸×
（2R 1分54秒 肩固め）

このところ成長著しい宮田が、優勝候補シャオリン相手に大善戦。得意のレスリング技術だけでなく、打撃にも磨きをかけ、1Rは試合を優勢に進める。結局、2Rにシャオリンの芸術的寝技で敗れるも、来年以降の“宮田天下”すら感じさせる奮闘ぶりだった。



［スーパーファイト］
○アンドレ・ジダ vs アルトゥール・ウマハノフ×
（1R 1分20秒 TKO）

J.Z.カルバンの負傷欠場により、なぜか対戦予定だった自分までミドル級トーナメントから外された悲運の男ジダが、急遽ロシアのウマハノフと対戦。ジダは強烈なフックを次々と叩き込み、粘るウマハノフをKO!　こんなに強いのにリザーバーだなんて、ひどいよ!



［スーパーファイト］
○A・F・ノゲイラ vs 勝村周一朗×
（2R 1分55秒 KO）

修斗ライト級戦線で絶対的強さを誇りながら、『HERO'S』では結果が出ない小ノゲイラが、所の兄貴分、勝村と対戦。前へ出る小ノゲに対し、勝村はシャドーボクシングで対抗するが、2Rに右フックを食らい失神。小ノゲが意外なKOで『HERO'S』初勝利を挙げた。



2000年5月26日、東京ドームで行なわれた格闘技イベント『コロシアム2000』のメインで、船木はヒクソン・グレイシーと対戦。この年、田村がヘンゾを、桜庭がホイスを下していただけに、ヒクソン打倒が期待されたが、1R11分46秒、チョークスリーパーで船木は失神。試合後、花道奥のステージ上からマイクで引退を発表した。

ヒクソン戦では死ねなかった いまは生きるために闘いたいし 闘うために生きていたい

ら、嬉しくて笑いながら試合してるんじゃないかってね（笑）。

——船木さんが笑いながら闘ってたら、それはそれで背筋が凍るほど恐ろしいですけどね（笑）。引退前にパンクラチオンマッチをやりだしてから、ヒクソンと闘った頃って、試合が楽しみっていう感覚はなかったんじゃないですか？

船木　ないですね。ヒクソン戦当日は、「ヒクソンを殺しに行く」って言って、家を出ていきましたから。

——ヤクザの出入りじゃないんだから（笑）。それで着流し姿で日本刀持って入場したわけですもんね。

船木　不気味ですよ。リングに上がったとき、真剣で本当に刺し殺そうとした瞬間もありましたからね。あの日、もしそれをやっていたら、あの試合のテレビ放送はお蔵入りだったでしょうね。

——お蔵入りっていうか、船木さん自身が重罪ですよ（笑）。もちろん、いまはそうじゃない船木誠勝がいるわけですよね？

船木　いまはね、本当の船木誠勝になりたいですよ。昔は名前やイメージに負けてるような気がしましたもん。

——本当の自分とは違う、〝船木誠勝像〟っていうものを作ってたんですかね？

船木　そうだと思います。弱いヤツってカッコつけるじゃないですか。みんなに同情してほしいからツッパってみたり。そんな感じですよね。

——若いときは、えてしてそうなりがちですよね。

船木　自分を強く見せよう、カッコよく見せようと思いながら、本当は常に怯えてましたからね。理想の姿に近づきたかったんでしょうけど、そのおかげで頭がへんになりそうでした。もっと人間らしく生きて、



[スーパーファイト]
○メルヴィン・マヌーフ vs ベルナール・アッカ×
（1R 2分13秒 KO）

プロ3戦目の“マスオさん芸人”が、あのルスラン・カラエフをもKOしたマヌーフと、大会直前のカード変更で対戦するという、『HERO'S』でしかありえない組み合わせ。一歩間違えたら大事故だが、アッカの善戦と、和田レフェリーの絶妙なストップで好勝負となった。



[ミドル級世界王者決定トーナメント開幕戦]
○宇野薫 vs 永田克彦×
（3R終了 判定 3-0）

元祖オシャレ格闘家、宇野薫と“我らが永田さん”の弟・永田克彦が対戦。宇野は克彦のグラウンド&パウンドを警戒し、スタンド勝負。克彦も米国AKAで修行中のパンチを何発かヒットさせるが、倒すまでに至らず。フルラウンド闘い、判定で宇野が勝利した。



[ミドル級世界王者決定トーナメント開幕戦]
○ブラックマンバ vs 所英男×
（1R 4分47秒 TKO）

“いつまで経っても戦うフリーター”こと所英男が、昨年のトーナメント1回戦で屈辱の秒殺KO負けを喫したマンバと再戦。所は足首への回転式タックルで寝技に持ち込み、好勝負を見せるが、マンバの長い足を極めることはできず、パウンドで返り討ちにされてしまった。

素直になれたら、引退しないでもっとやれたのかなって。

——当時の船木さんって、パンクラスのエースとして〝教祖〟みたいな感じでしたから、余計に弱い部分は見せられなかったというか。

船木　だから、「頑張ってください」って言われるのが嫌でしたからね。何かファンが俺から力を吸い取ろうとしてるんじゃないかと思って、近づかれるのが嫌でしたから。

——確かに、昔の船木さんって、期待されたら突き放すし、野次られたら怒るしで大変でしたよね（笑）。

船木　どうしようもないですね。たぶん、人間的に問題があったんでしょう（笑）。逆にそういう時期を経験してるんで、いまの自分がリングに上がるっていうのが楽しみなんですよね。本当にありのままの自分で闘うとどういう試合になるんだろうって。

——ちなみに、昨日は対戦希望選手として、ヒクソンの名前が挙がりましたけど……。

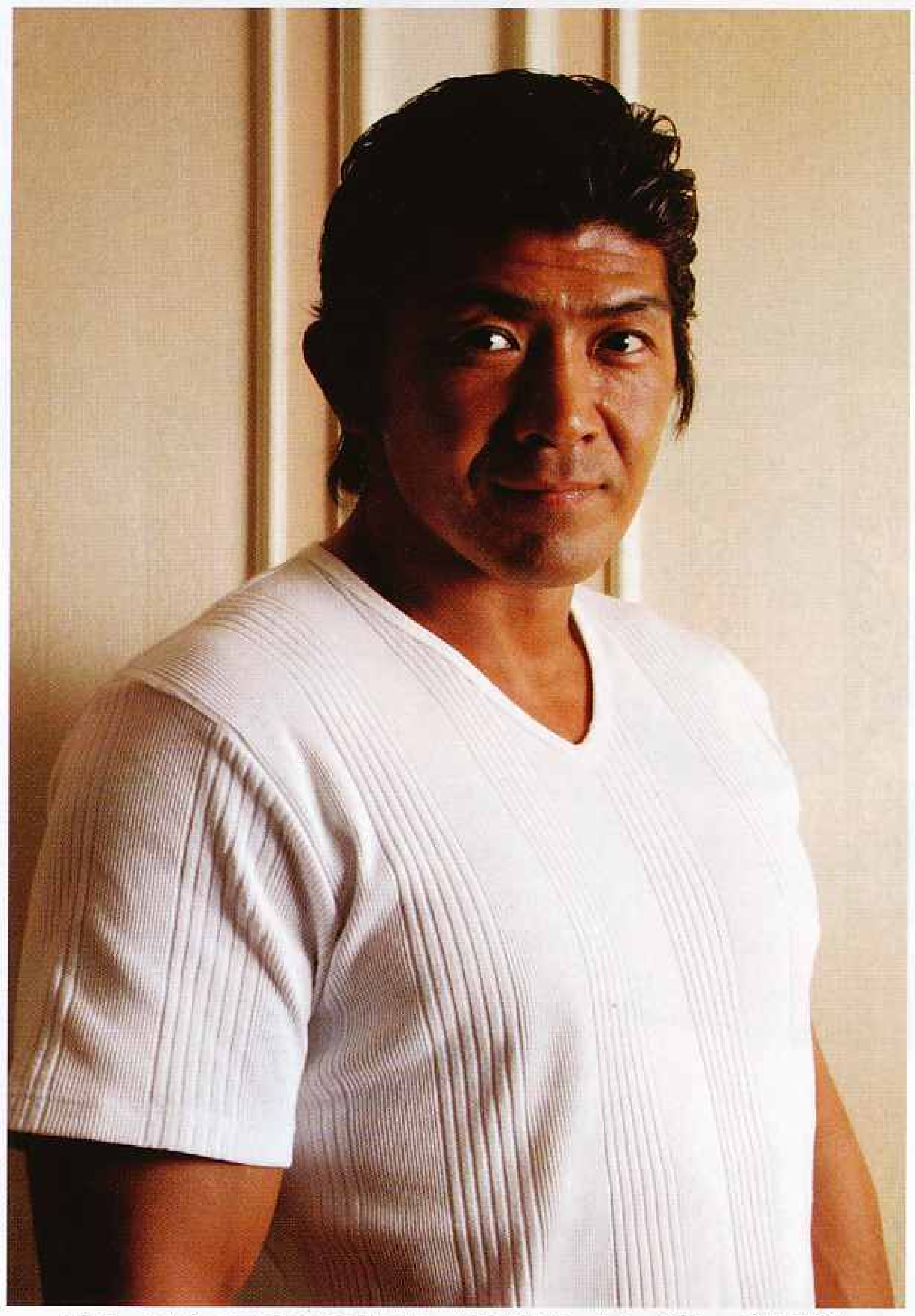
船木　（さえぎって）じつは誰でもいいんですよ。自分がリングに上がることが第一ですから。いまの自分がどんな試合をするんだろうって、それだけです。

——いま復帰するにあたって、ご自分が闘っているイメージなんかもすでにできてるんですか？

船木　頭の中にありますね。リングマットやスポットライトの感覚とか、たまにボーンと打撃を食らってたりとか、リングの中を泳ぎ回る感覚はイメージできてます。でも、対戦相手はイメージできてはいないですね。正直、『HERO'S』って二日前とかに相手が変わったりもするじゃないですか。

——ベルナール・アッカなんて大会直前にメルヴィン・マヌーフとの対戦が発表されてましたからね（笑）。

船木　それでも男らしく闘えるようにしなきゃいけないですよね。そういう意味では『HERO'S』だって華やかに見えて意外と厳しいリングですよ。



ふなき・まさかつ■1969年3月13日、青森県出身。本名・優治。中学卒業後、新日本プロレス入団。当時の史上最年少15歳でデビュー。欧州遠征後、第2次UWFに移籍。藤原組を経て、93年に"完全実力主義"を標榜したパンクラスを旗揚げ。2000年5月、ヒクソン・グレイシーに敗れ引退。俳優として活躍していたが、今年7.16『HERO'S』でついに現役復帰を宣言した。182cm、90kg。

昔の船木誠勝は、たぶん人間的に問題があったんでしょう（笑）

——その対戦相手でいうと、たとえば、いま復帰が騒がれている秋山（成勲）選手とかは興味があったりしますか？

船木　あの、無期懲役の？

——無期限出場停止です。懲役じゃありません（笑）。

船木　ああ、そうか。その出場停止期間が解けたら大丈夫ですけど、その処罰が解けないのに「俺がやりたい」とか言って無理やりリングに上げるとかは考えてないです。スポンサーに傷がついたりしたらたまらないですからね。

——でも、選手としての興味はある、と。

船木　正直、もったいないですよね。せっかく『HERO'S』でチャンピオンになったのに、その次の大会で〝天国から地獄〟じゃないですけど、そういう状態になったじゃないですか。

——天国から地獄（笑）。

船木　自分とはちょっと違うパターンですけど、頂点からいきなり〝犯罪者（扱い）〟になった秋山選手って、たぶんこの半年間でいろんな経験をしてると思うんですよ。だから、人間的にもの凄くひねくれるか、もの凄く達観しているか、どっちかの状態で戻ってくると思うんです。そういう意味では、逆に次にリングに上がるときって見ものだと思いますね。

——表情一つにしても注目すべきものがありますよね。

船木　リングに上がってない時期にどういう生活をしてきたかっていうのは、全部試合に出ますから。絶対に嘘はつけない。だからオレはリングが好きなんだろうなって思いますしね。……そういえば、いま思い出しましたけど、ヒクソン戦のあとって、俺、すぐ控室に帰っちゃったんですよね。

——ええ。一方的に「15年間ありがとうございました」ってマイクでしゃべって、バーッと花道奥のステージからいなくなってしまいました（笑）。

船木　いづらかったんですよ、おもいっきり。カッコ悪くてどうしようもなくて、逃げたんです。

——でも、あの当時はそういうふうに去っていくのが美学だっていうふうに思われていたのかなって思ったんですけど。

船木　「負けた者は一刻も早くリングを去らないといけない」みたいな哲学があったんでしょうかね。でも、そういうことをしたのって、一生懸命やってなかったからだと思うんですよ、いま思うと。

——先ほども「勝てた試合だった」って言われてましたけど、やっぱりあれは船木さんにとって、本当の意味で一生懸命な試合じゃなかったんですか？

船木　だって、一生懸命やったんだったら堂々とできますもん。バス・ルッテン戦なんか、負けはしましたけど最後の最後までリング上にいたでしょ？

——確かに、試合後のセレモニーのあとマイクアピールして、ある意味チャンピオンより目立ってましたからね。そういう意味では、復帰戦では完全燃焼できるようにしたい、と。

船木　そうですね。その日の実力を目一杯出したいです。勝つにしても負けるにしても、相手とおもいっきり闘いたいなって。残された若さみたいなのを今度は正常なかたちで使いたいですよね。もうリング上から逃げたくないです。

——わかりました。では大晦日の復帰戦、期待します！

【07年7月17日／都内・ホテルグランドパレスにて収録】



ワる

いのに、矛盾してますよ！　ただし、　ただし！　最近、クワレスと似た大



「許せないっ‼」

森とクワガタを愛する〝クワレスラー〟がまたまた登場‼

“元”・桜庭和志の先輩レスラー！
“現”・正義を愛する子どもの味方‼

ミヤマ☆仮面が秋山問題を一刀両断‼

クワクワ！『kamipro』No.112で衝撃の登場をはたした“愛と正義のクワレスラー”が再登場‼　子どもたちの味方であり、桜庭和志の先輩でもあるミヤマ☆仮面が、子どもたちの夢を裏切った秋山成勲にズバリもの申す‼

聞き手／真下義之　撮影／戸成嘉則　大会写真／乾晋也

――もしも～し、ミヤマ☆仮面さんでしょうか?

ミヤマ　クワクワ！　私がミヤマ☆仮面です。

――いやあ、前号のインタビュー、大好評ですよ！

ミヤマ　ありがとうございます！　あの記事は昆虫業界でも評判になってますから（笑）。その勢いで僕も毎日クワんばってますよ。

――クワんばってますか（笑）。で、今回はズバリ、〝正義の味方〟から見た一連の秋山（成勲）問題をうかがいたいと思うんですが……。

ミヤマ　（さえぎって）僕は秋山選手の入場シーンに凄くひっかかってね！

――入場シーンといいますと?

ミヤマ　ええ。子どもたちをズラリと連れてきたじゃないですか。あれは共感しましたねぇ～。もちろん桜庭はUWFインターの後輩ですから、桜庭びいきの目もありましたけど、あれ一発で親近感が湧いて、「お互い、子どもの味方だよな！」と。



06年12月31日、『Dynamite!!』（大阪ドーム）で、子どもたちと一緒に入場した秋山成勲。ヌルヌルの末の試合後には子どもたちに「柔道ってなかなか、強ぇやろ?」とマイクまでしていたのだから“凄玉”であることは間違いない。

――自分を投影するくらい共感された、と（笑）。それが一夜明けたらヌルヌル問題が発覚して大騒ぎで。

ミヤマ　（暗い声で）……そうですね。なんで子どもの目の前でああいうことを……。だって、本来、彼は夢を与える立場にいるわけじゃないですか?

――子どもたちを裏切るような行為ですよね。

ミヤマ　許せないっ‼（キッパリ）。プレイヤーとしても、人間としてもどうなんだ⁉　って。

――本来は子どもに「俺の生き様を見ろ！」って部分もあったでしょうし。

ミヤマ　そういうことですよ！（と憤慨して）。勝ち負け以上の生き様や、夢だったりを見せないといけないのに、矛盾してますよ！　ただし、ミヤマ☆仮面的には〝罪を憎んで人を憎まず〟！　だから、これを機になんとか更生してほしいですね。

――更生には、何が必要でしょう?

ミヤマ　やはり、健全な精神を持つ必要がありますから。アドバイスするなら、「秋山選手よ、森の中に入れ！」と。

――心の特効薬は森！

ミヤマ　新鮮な空気や素晴らしい景色を見て、感じてほしい！　やっぱり、こういうことを起こす人には自然が足りないんですよ。だから彼には「相模湖の森に来い！　なんなら一緒に合宿をしようじゃないか?」って言いたいですね。

――合宿まで張りますか（笑）。

ミヤマ　ええ。彼にその気があればね。もし、そういうことになったらガンガン付き合いますし、もう合宿で何泊しても、ぜったいにマスクは脱ぎませんよ！

――なぜだ（笑）。でもそのツーショットは見たいですね。

ミヤマ　日本をしょって立つ格闘家だと思ってますから、協力できるならなんでもやりますよ。たとえ、クワレスのスケジュールがキツくても、寝ずにつき合います。

――一睡もせずに！

ミヤマ　Uインター時代の先輩の田村（潔司）選手や金原（弘光）選手は対戦表明してますけど。僕は違ったスタンスで、彼の〝悪魔の心〟を取り払ってあげたいですね。

――ちなみに、クワレスでこういった不正というのはあるんですか?

ミヤマ　さすがにないですねぇ（笑）。ただし！　最近、クワレスと似た大会で、人間が飲む栄養剤を試合前にクワガタに飲ませる、ドーピング的なことしている人もいるみたいで。

――昆虫の世界にもそんなことが！

ミヤマ　子ども中心のクワレスにはないですけど、そういうことが頻発するならクワレスもドーピング検査を考えないと……。

――クワレス・コミッションを発動しますか（笑）。その秋山選手は、復帰の話も出てきてます。

ミヤマ　ただ、秋山選手自身は反省されてるんでしょうけど、その反省の度合いがあまり伝わってきてないですね。

――そういう意味でも〝わかりやすい絵〟はほしいですね。

ミヤマ　そういう絵作りには、「やっぱり森だよ！」と。TBSのテレビクルーにも来てもらってね。

――ハハハ！　ただ、何かしらのケジメは必要でしょうね。

ミヤマ　僕も「いつ何時も、子どもたちのお手本であれ！」と肝に命じてますから。ただ気をつけなきゃいけないのは、捕っちゃいけないところで、捕っちゃいけないものを捕っちゃったり（笑）。

――珍しいクワガタに目がくらんでしまうのが怖い（笑）。

ミヤマ　そこだけにはホントに注意したいです。正義の味方がそんなことしたら、威厳も何もないですから。

――充分、気をつけてください（笑）。本日もありがとうございました！

ミヤマ　またよろしくお願いします～。クワクワ！

【07年7月6日／電話取材にて収録】

語録で振り返る

"復帰"への足音が近づいてきた……!?

「すべらせろ!」

【06年12月31日/『Dynamite!!』当日】

(山田武士トレーナー)

▼セコンドの山田トレーナーが試合中に発していた"禁断の一言"。山田氏は「あれは地面を這うように蹴れ!っていう意味だったんだけど……」と語っていたが、ファンはそんなこと知ったこっちゃない!!「やっぱり怪しい!!」「セコンドもすべらせろと言ってる!」など、過激な意見がウェブ上に飛び散り、図らずも"秋山問題"に油を注ぐことになってしまった……。

「すごいすべるよ!!」

(桜庭和志)

▼「すべる! すべるって!!」と桜庭が終始叫び続けるという異様な空気の中で行なわれた"疑惑の"桜庭vs秋山戦。ゴング後、早い段階から秋山の身体に異変を感じた桜庭は、秋山に殴られ続けながらもレフェリーに「すべる!」と猛アピールし、格闘技の試合では前代未聞と思われる「タイム」を要求! 解説席にいた谷川代表、船木誠勝、宇野薫も「なんか、しゃべってますね!?」と不穏な空気を感じていたが……。試合はレフェリーのチェックが入ることなく続行され、結局リングサイドの協議により、この日は秋山のTKO勝ちに。

「何かもどかしい気持ちはありますが、しっかりした結果が出せたと思います」

(秋山成勲)

▼桜庭戦直後にコメントした秋山は、「身体がすべると言われたけど、審判団とセコンドからも大丈夫だと言われた」と、あくまで桜庭からのTKO勝ち(裁定発表前)が"真っ白な"勝利であることを主張。一方、試合後も一向に怒りが収まらない桜庭は、この日はノーコメントのまま会場をあとに……。

「抗議されても答えようがない」

【07年1月1日/一夜明け会見】

(秋山成勲)

▼どこか後味の悪い雰囲気で幕を閉じた『Dynamite!!』。翌日の一夜明け会見では、やはり疑念が拭えないマスコミ陣が桜庭の「すべるよ!」発言の真相を徹底追及。しかし、まったく表情を変えない秋山は「いま考えれば、途中で調べてもらえばよかった」と珠玉のコメント。この堂々たる風格たるや、やはり"ただ者"ではない!?

「試合前からおかしかった」

【07年1月10日/『東京スポーツ』紙上】

(高山善廣)

▼一連の"ヌルヌル疑惑"に瞬時に噛みついた高山善廣。「ゴングが鳴る前にタラタラ(道衣を)脱いでいた」「(グローブの異物混入疑惑は)スポンサーを大切にする谷川さんだから、落ち度はないハズ」と独自の論調をブチ上げ疑惑追及態勢へ。

「私もそのクリームを自分で買ってきて塗ってみました」

【07年1月11日/桜庭vs秋山戦 裁定発表記者会見】

(谷川FEG代表)

▼"ヌルヌル疑惑"の裁定がついに下る! 谷川氏は審判団を含む関係者にこの問題を「徹底的に解明してください」と厳しく要請し、バックステージの映像をかき集めて徹底究明。それだけには留まらず、なんとFEG代表自らクリームを身体に塗ってヌルヌル度を検証するという徹底ぶり! う~ん、サダハルンバはエラい!?

「桜庭さんと機会があれば笑ってリングの上で闘えればと思うのと、しっかり桜庭さんの目を見て謝罪したいと思います」

(秋山成勲)

▼なんと、裁定発表記者会見に"張本人"秋山が登場! 右腕にギプスという痛々しい姿で壇上に姿を現わすと、140人の柔道の子どもたちに謝罪の弁を述べるとともに、「悪意を持っておりません」とあくまで故意ではないことを主張! その後、桜庭に"しっかりと目を見て謝罪"はできてないようであるが、二人が顔を合わせる日は来るのだろうか……!?

「それがしっかり塗り物だと判断できるように、今後、発見していきたい」

(梅木良則レフェリー)

▼「すっごいすべるよ!」というリング上での桜庭の猛アピールに対し、「アクションしないと止めるぞ!」とあくまで試合続行を促した梅木レフェリー。しかし、そのレフェリングに対する抗議が自身のブログに、なんと1万2000件以上も殺到するというとんだ事態に!! 当日はリング上でも秋山の身体に触り、塗布物の確認をしているが……。クリームを見抜けなかった反省の念を会見であらためて述べたのだった。

「謝ればすむ問題ではないけれど謝ってほしい」

(桜庭和志コメント)

▼裁定発表会見の席には姿を現わさなかった桜庭。短いコメントをFEG関係者に託していたのだが……。なんとも桜庭の怒りがヒシヒシと伝わってくるフレーズである。

「それ以上、言わないほうがいい」

【07年1月12日/TBS『みのもんたの朝ズバッ!』】

(みのもんた)

▼秋山に「失格」の裁定が下った翌日、『朝ズバッ!』ではこの会見の模様を放送。秋山の愚行に対して眉間にしわを寄せたみのさんだったが、なぜか「ファイトマネーを上乗せして再戦やろうよ」「打ち上げの司会は私がやりますから」と、なんとも浮かれた提案を連発! さらに桜庭には「言ってることは正しい。でもこれ以上押し通そうとすると反動がくる」と、こちらには厳しい"アドバイス"。いったい、何がなんだか……。

「ばれた今になって乾燥肌だから……と発言したことに、僕ははやり疑問を感じます」

【07年1月14日/阪神タイガース・下柳剛ブログ】

(阪神タイガース・下柳剛)

▼『Dynamite!!』当日、桜庭のセコンドとしてリング脇にいた下柳は、「秋山失格」の裁定が下ったあともまったく納得いかない様子。「多汗症と試合後には言ったのに、なぜクリームのことは言わなかったのか」と、やはり怒りの追及。下柳の指摘する"故意か、過失か"はいまだに闇の中~。

「桜庭選手にも謝っておいてください」

【07年1月14日/『日刊スポーツ』紙上】

(オリックスバファローズ・清原和博)

▼"セコンド清原"が桜庭に謝罪! 秋山の裁定を聞いた清原が、自主トレ先のアメリカ・アリゾナ州から、桜庭のセコンドを務めた下柳に電話し、「アキ(秋山)が故意にやったのではないにしろ、俺もセコンドを務めた立場で責任がある」と"番長っぷり"を発揮!! "清原に捧げた勝利"が、まさかこんな展開になってしまうとは。

「僕が主張したのは、ヌルヌルすると」

【07年1月17日/秋山成勲追加処分発表記者会見】

(桜庭和志)

▼秋山の追加処分が発表されたこの日、なんと桜庭が初めて公の場で"ヌルヌル事件"に言及。この問題はクリーム塗布から発展し、なんとメリケンサック使用疑惑、さらには国籍にまで触れるようなネット書き込みまであり、もはやわけがわからない乱痴気騒ぎとなっていたのだが……。当会見で桜庭本人から、問題は"ヌルヌルすること"であることがあらためて語られたのだった。

「『お客さんの前で謝罪をしたい』という対応についてはお断りをさせていただきました」

(谷川FEG代表)

▼秋山「失格」の裁定に加え「無期限出場停止」という厳しい追加処分を下した谷川代表。最終的にこの裁定は"断腸の思い"を抱きながらも、谷川代表の独断で決心したとコメントした。さらに、「みんなの前で謝罪したい」という秋山の申し出についてもキッパリ拒否! サダハルンバも厳しいときは厳しいのだ!!

「『HERO'S』が一番しっかりしてるなと言われるようなルール作りをしていきたい」

(谷川FEG代表)

▼「選手を交えたレフェリーミーティングを早急に実施します」と力強く語った谷川代表。しかし、3・12『HERO'S』名古屋大会では、リングに上がるまでメルヴィン・マヌーフの松ヤニの塗布を見抜けず、とんだ失態!! ガンバレ、『HERO'S』審判団!

「桜庭vs秋山は人間のダーティ面に訴えるような悪魔の魅力があるんです」

【07年1月22日/『kamipro』No.107誌上】

(菊地成孔)

▼『Dynamite!!』開催直後(秋山に裁定が下る前)に収録されたインタビューで、批評家・菊地成孔は一連の"秋山問題"を「凄くよくできた構造」と"感心"! 秋山、桜庭の胸中に潜む心情、そして前田日明『HERO'S』スーパーバイザーらの立場を考慮し、"これぞ、プロレスの魅力!"と饒舌にコメントした。

「ルールの範疇を超えたような執念とか情念……そういうモノを見ちゃうと俺の心は激しく揺れるんだよぉ!」

(夢枕獏)

▼"疑惑の"桜庭vs秋山戦は、"史上最強の格闘技ファン"獏さんもシビれさせていた! こちらも秋山に裁定が下る前のインタビューではあるが、獏さんは、秋山の柔道時代のさまざまな疑惑、さらには06・8・5『HERO'S』金泰泳戦まで振り返り、異常なまでの"勝利への執念"を大絶賛!! まさに秋山は"ロマン派"獏さんのハートを激しく揺り動かしていたのだった。

「桜庭が引退する前に、韓国人選手が彼に復讐することを願っていた」

(韓国経済紙『プライム経済』)

▼国が変われば主張も変わる!? 日本のファン

やマスコミが秋山に疑惑の声を上げる一方、韓国マスコミでは、なんと「被害者は秋山、疑わしきは桜庭」の論調一色に！　これには韓国人の桜庭に対する特別な感情があるようで、「韓国の英雄ユン・ドンシクを秒殺した桜庭を、誰かに復讐してほしかった！」という感情的な意見が経済紙に掲載されるという、とんだ事態に！　勝利に対するここまでの執着心は見習うべきものがある!?

「俺が秋山とやって負けたら五厘刈りにしてもいい！」

(田村潔司)

▼大晦日前のインタビューで「桜庭が負けたら坊主になってもいい」と語っていた田村だが、〝ヌルヌル事件〟を受けて急激に方向転換！　あいかわらず見事な嗅覚を発揮し、〝秋山狩り〟を宣言した!!　また「秋山のボケは何してんの!?」という田村の発言が谷川代表のアンテナに引っかかり、サダハルンバは「秋山選手の相手はやっぱり田村選手がいいなあ～」と各方面でコメント。その後、7・16『HERO'S』出場をはたした田村だったが……。

【07年1月24／前田日明ブログ】

「1月24日現在、この問題についての各種ミーティング、記者会見等には一度も呼ばれていません」

(前田日明『HERO'S』スーパーバイザー)

▼一連の〝秋山問題〟では、すっかり鳴りを潜めていた日明兄さんがついに動きだした!!　なんと、ブログ上で自身の見解を発表したのだ！　ルール問題や審判団の対応、さらには国籍の問題にまで言及するなど、〝独自の論調〟を展開したが……。それよりも「会見等には呼ばれてない」という一言が異様に印象に残ってしまったのは気のせいだろうか!?

【07年2月21日／『kamipro』No.109誌上】

「『反則野郎』が今後どういう生き方をしていくのか、プロとして見られるわけですよ」

(宮戸優光)

▼かつて秋山と同じように半ば〝永久追報〟状態になっていた北尾光司をリングに上げ、〝大ヒール〟として見事に興行を成功に導いた〝Uインターの頭脳〟宮戸優光は、多くのファンが怒濤のバッシングを展開する中、秋山のヒールとしての価値を早々と評価！「イベンターという立場から見たら、おもしろい存在になりうる」と、〝プロレス心〟をくすぐる秋山に高い興味を示した。

秋山問題

「『いままでどおり教えるのは無理だよ』ってハッキリ言った」

(山田武士トレーナー)

▼「すべらせろ！」発言でとんでもない被害を被った山田トレーナーは、秋山がクリームを塗った事実を聞かされるや否や「もう見ない」「教えない！」とキッパリ断罪!!　疑惑発覚まで秋山を信じ続けた山田トレーナーだっただけに、余計にやるせない気持ちを隠せずにいたのか……。

「勝たなきゃなんないときは、人間ってのは拳銃でもなんでも出したくなるんだよ」

(安部譲二)

▼人生の裏街道を知りつくす男・安部譲二が〝秋山問題〟をブッタ斬る！「いざというときは、人間なんだってやるんだ!!」と必要以上に睨みを利かせた安倍氏。さらに「俺が興行師だったら？　レフェリーに全部、罪をおっかぶせる！」など、大胆不敵な発言連発!!　さすが、人間社会の陰にペンを走らせるアウトロー作家は発想が素敵だ！

「桜庭がもう一回やりたいっていう気持ちがあるんなら、次は無期限出場停止を撤回するように手を貸してやればおもしろい」

(真樹日佐夫)

▼劇画『ワル』の原作者であり、格闘技界の重鎮である真樹先生は「秋山はワルというより、気が抜けてるというか、間が抜けてるよな」と、あきれた様子。「だいたい、本物の〝ワル〟というのは……」と切々とワル論を展開した。しかし、桜庭が秋山の復帰に手を貸すというのは……、正直、難しいと思われます!!

「最高やないの。プロは話題になってナンボよ！」

(星野勘太郎)

▼〝喧嘩無敗〟の突貫小僧こと星野勘太郎は、一連の〝秋山問題〟を手放しで肯定！　各方面で炎上しているこの騒動に対して「ここまでなったら、次、みんな観るやろ!?」と、こちらも手放しでうなずきたくなるコメントを連発！　また「ヌルヌルが効いた？　効いたっていったら、パンチのほうが効いとったやろ」など、秋山のポテンシャルも高く評価。ここまでビッシビシ言えるのは、勘太郎さんしかいません!!

「アマチュア競技というのはこの手のことは日常茶飯事なんですよ」

(永田裕志)

▼日本体育大学レスリング部出身のエリートレスラー永田さんから言わせれば、〝秋山問題〟なんて「よくあること」！　勝ってナンボの世界であるアマチュア競技では「秋山は、むしろ〝普通〟である」という持論を語り、五輪出場を懸けた裏舞台の熾烈な争いを暴露。まさに「言っちゃっていいんだね!?（敬礼ポーズ）」な永田さんなのだった！

「んなケチなことすんな。やるんだったら徹底的にやれ！」

(アントニオ猪木)

▼基本的に〝秋山問題〟にはあんまり興味なさげなアントン。なぜかといえば、それは「ズバリ言って、俺から言わせれば、そんなのワルでもなんでもない」からである!!　そんなことより、アントンは「人間の生き残り」や「精子」の話に夢中。〝秋山問題〟のような〝ケチ〟な話題なんて、ズバリ言って、どうでもいい!?

【07年5月22日／『kamipro』No.111誌上】

「柔道上がりの優遇っぷりは腹が立つ！」

(金原弘光)

▼07・3・18パンクラス・川村亮戦後、〝引退まであと一試合〟を表明した金ちゃん。その最後の試合に、なんと秋山戦を志願！「（柔道出身選手は）総合格闘技では新人なのに、いきなり待遇が違うんだもん」と〝柔道上がり〟を目の敵にする発言を連発し、秋山を挑発したが……。田村潔司さんに秋山の復帰戦を持っていかれてしまいそうな雰囲気であった金ちゃんだが、また風向きが変わった!?

【07年6月27日／『kamipro』No.112誌上】

「アキヤマみたいな人間はリングに上がって試合をする価値はない」

(ジョシュ・バーネット)

▼秋山に怒りを露わにする男がここにもいた！「リングに上がればギャラも出るし、スポットライトも浴びることになる。ヤツにそんな権利はない！」と語る蒼い目のケンシロウは完全なる〝秋山永久追報派〟。さらに「控室でやってやる」と凄みのある一言までプレゼント。不思議なくらい殺気に満ちたジョシュ・バーネットさんだった。ほわたっ！

【07年7月3日／7・16『HERO'S』カード発表会見】

「7月には間に合いません」

(谷川FEG代表)

▼「本当は7月にライトヘビー級トーナメントを開催して、それに秋山選手も出したかった」と語った谷川代表だが、本誌インタビューでも語っているとおり、残念ながら（？）各方面で調整がつかず。「柴田選手や田村選手との対戦も見たいんですけどね」と〝灰色の脳細胞〟の中ではすでに構想ができあがっている様子だが……、復帰はいったいいつになるんダー!!

「ダウンタウンとかが若手芸人をいじめて笑いを取っている。とんねるずもやっていたでしょ？　唯一やっていないといえば、ウッチャンナンチャンくらい」

(前田日明『HERO'S』スーパーバイザー)

▼秋山復帰が現実味を帯びる中、なんと前田日明『HERO'S』スーパーバイザーから穏やかでない発言が！　いまだに止まらない秋山への抗議を〝いじめ〟と表現した日明兄さんは、「日本の社会全体が子どものいじめとかよく言うけど、子どもの世界っていうのは大人の世界の映し」と、なぜか問題を巨大化！　さらには、お笑い界にも批判の声を向けてしまうから、もう止められない!!　まったくいじられない若手芸人のほうが、ある意味かわいそうだと思うんですが……。

【07年7月5日／『日刊スポーツ』紙上、ほか】

「目安箱を設置します」

(谷川FEG代表)

▼これも、〝秋山問題〟の混乱が成せる業なのか!?　谷川代表は「ファンの皆さまの声が判断材料になる！」として、なんと秋山の処遇に関する意見をファンから集めるため、7・16『HERO'S』の会場に「目安箱を設置する」というのだ!!　今号掲載の谷川代表インタビューによると、この目安箱は新聞記者数名からの提案だと語っているが……。目安箱の〝本当の存在意義〟を深く考えさせられる出来事である。

【07年7月15日／7・16『HERO'S』前日会見】

「悪質なものはサーバーアドレスとって警察に出してます」

(前田日明『HERO'S』スーパーバイザー)

▼秋山復帰を阻む〝ネットの連中〟に日明兄さんが喝ッ！「あれは脅迫やからね」と語る日明兄さんは、なんと自分のブログに書き込まれた〝悪質な〟コメントを徹底して警察に届け出ているというエピソードを披露。ちなみに、このカコミ取材はTBSの局内で行なわれたため、例によって日明兄さんが炎上しているすぐそばを、『アッコにおまかせ！』の出演者である和田アキ子や夏川純らがバンバン通りすぎていってたという。なんだかよくわからないけど、凄いぞ!!

【07年7月16日／7・16『HERO'S』当日】

「階段を踏み外してしまった」

(田村潔司)

▼7月10日の記者会見で『HERO'S』への電撃参戦が発表された田村。なぜか〝PRIDE vs K―1対抗戦！〟という不思議な打ち出しで金泰泳と対戦することになったのだが……、なんと！　田村が判定負けするという〝すべてを破壊する〟事態が発生!!「秋山のボケー！」と噛みつき、〝秋山成敗〟をおおいに期待させた田村であったが、いったいこの先〝秋山問題〟はどうなってしまうのだろうか……。

インサイドコリア
인 사이드 코리아

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

第17回 韓国でkamipro批判勃発!? その後の“秋山問題”

文／大川“隊長”義之

7・16『HERO'S』横浜アリーナ大会で、無期限出場停止中の秋山成勲の復帰について〝目安箱〟が設けられた。しかし日本のウェブ上では、秋山の復帰に反対する意見が根強く見られるのも事実である。これに対して韓国の格闘技メディアは、秋山を擁護し、日本の格闘技界に対する批判的な記事を掲載している。今回は両者の立場を紹介しながら進むべき方向性について考えてみたい。

■変わらぬ韓国メディアの感情的批判

まず、韓国での「秋山問題」に対する言い分を見てみよう。

韓国の格闘技専門雑誌『HOLOS』の公式サイト上では、7月4日と10日に「秋山復帰問題」に関するコラムが掲載されており、日本の格闘技界と日本のファンを強く批判している。

二つの記事の要旨は、『秋山への懲罰は過剰だ』、『ほかは処罰されないのに、秋山だけが処罰されている』、『人種差別がすべての問題の根本にある』というもの。本来、加害者として処分を受けている秋山が「被害者」として扱われているのがじつに韓国らしい。

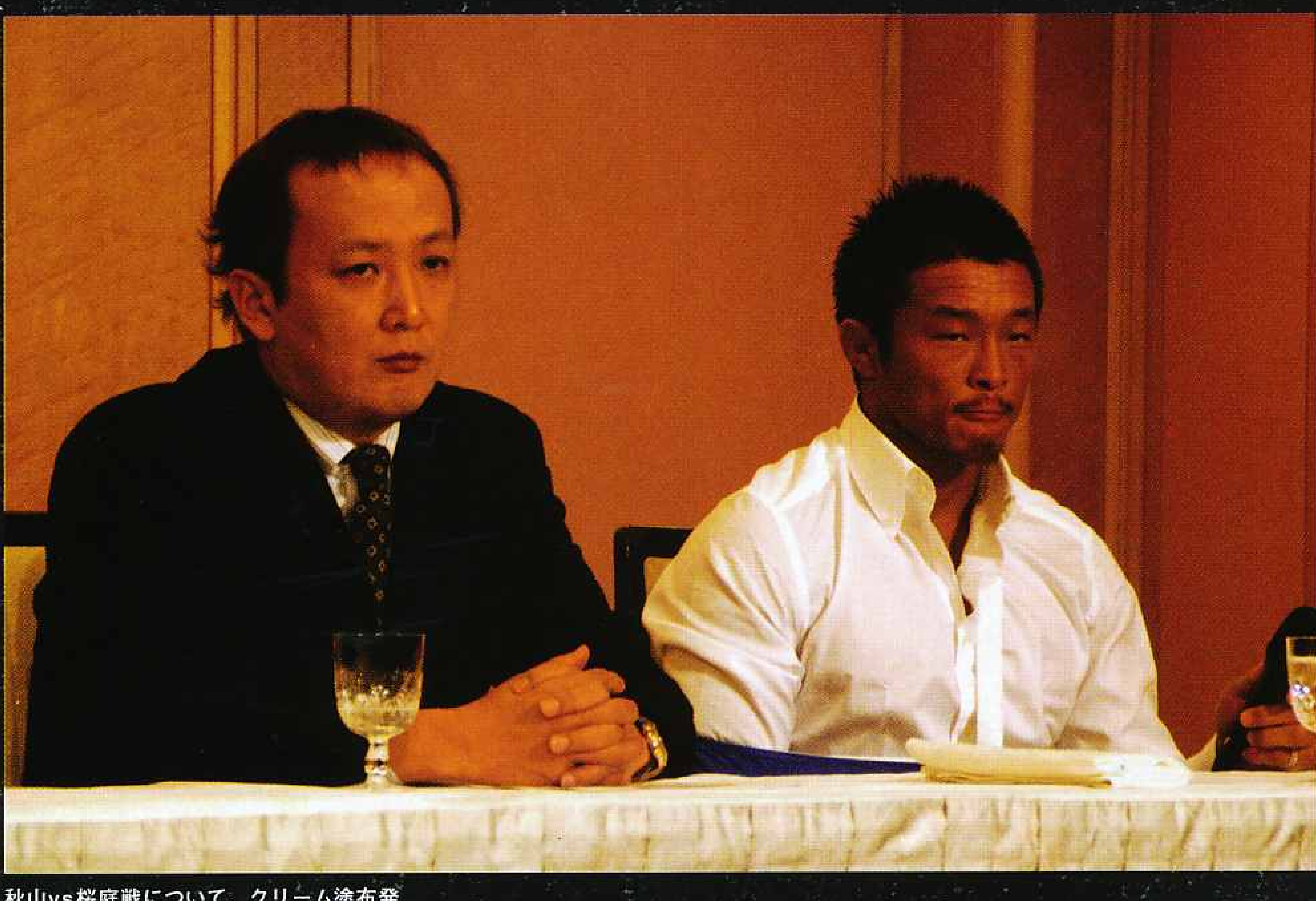
とくに7月10日の記事では、当コラムを名指しで批判している。

「日本の『Kamipro』という雑誌は韓国常駐リポーターの記事を通して〝韓国メディアが無条件に秋山成勲の肩入れをしている〟と非難した。なぜ格闘技のようなスポーツに民族の論理を持ち出すのか、というのだ。だが、自ら脱線したのは、全体主義の罠に陥った日本と日本のマスコミだ。注意に終わったほかの選手と違って、なぜ秋山成勲は重い懲戒を受けなければならないのか」

韓国のマスコミは日本の格闘技界を批判 秋山成勲の処罰の過剰性を訴えている

このように秋山への処罰の過剰性を訴えている。当コラムへの批判の正当性については、当該コラム（『Kamipro』No．102参照）の記事をよく読んでもらえば、いかにトンチンカンな批判であるかがわかってもらえると思うので、ここではあえて触れない。

筆者に日本の格闘技界や日本人を擁護しようという気持ちはまったくないが、批判された以上、韓国メディアに対する客観的な反論を試みたいと思う。



秋山vs桜庭戦について、クリーム塗布発覚前から“反日感情”丸出しの報道が相次いだ韓国。なにしろ普段は格闘技を取り扱わない一般紙にも「筆者はひそかに、桜庭が引退する前に韓国人選手が彼に復讐してくれることを願っていた」などと書き殴る輩がいるから、客観性を失なっていることは明らかだ。

■秋山の懲罰は過剰か？

まず『秋山への懲罰は過剰だ』と『ほかは処罰されないのに、秋山だけが処罰されている』という指摘について。『HOLOS』の記事では「リングドクターに暴行した山本KID徳郁や、試合後に相手に殴りかかった五味隆典の反則には大きな処分を科さないのに、どうして秋山にはこんなに

秋山がバッシングを受けているのは単に試合で重大な反則をしたから



秋山成勲の国籍を絡めて騒ぎ立てる一部のファンに大激怒する前田日明。確かに前田日明が指摘するとおりだが、多くのファンが持っているクリーム塗布問題の不信感は、いまだ不透明な問題の決着によるものだ。

重い処罰を科すのか（大意）」とある。

KIDの暴行とは、60年2月17日の修斗大会の試合後、控室でKILLER BEE所属選手の治療を施した中山リングドクターに暴行を振るったとされる事件を言っているのだろう。

だが、KIDはこの試合で、修斗コミッションから秋山同様に「無期限の出場停止処分」を受けている。いや、「KILLER BEE所属選手もすべて無期限出場停止」なのだから、秋山よりも厳しい処分である。出場停止期間も3月6日から10月12日までの7ヵ月間にも及んだことから、現在7ヵ月目である秋山の処罰期間が特別に長いとは言えないだろう。

また、KIDは02年9月16日、修斗の勝田哲夫戦終了後、倒れている相手を殴り続けたとして120日間のライセンス停止処分を受けている。

五味隆典に関しては、05年5月22日、『PRIDE武士道・其の七』でのルイス・アゼレード戦のことだ。五味もKID同様、試合終了後に相手に襲いかかったが、この行為により五味はイエローカード（ギャランティの10パーセントを没収）を提示されている。KIDに比べて処分が軽いのは、五味のパンチが相手に当っていなかったからだろう。

このように、KIDや五味がスターだからといって決して罪を免れているわけではないのである。

さらに言えば、過去には秋山よりも重い処分が科せられた例がある。パンクラスでは93年のキース・ベーゼムス、01年のマルセロ・タイガーは、それぞれヒジ打ちとサミングの反則によって永久追放を受けている。日本格闘技界には、韓国メディアが指摘されるような「ほかは注意で済ませて秋山だけを処分する」というような事実はない。

もし仮に秋山の犯した「クリーム塗布事件」が故意であると判断されていたら、秋山はFEGが主催するイベントから永久追放になっていたことは間違いない。

ちなみにFEGは、この試合に関わった芹沢健一審判員、平直之審判長、礒野審判員、大成敦審判員、梅木審判員、和田良覚審判員のギャラを50パーセント没収し、芹沢審判員には6カ月の職務停止処分を科している。これだけ見ても秋山「だけ」が理不尽に、また「過剰に」処罰されているというのは説得力を欠いており、被害妄想というほかない。

■日本格闘技界と朝鮮半島の血

続いて「人種差別問題」だが、秋山がバッシングを受けているのは、彼が在日韓国人だからではなく、単に試合で重大な反則を犯したからである。この試合は日本中から注目を浴びた大晦日イベントのメインであり、そしてクリーム塗布の調査の過程で、秋山が柔道家時代に道衣を細工していたことが明らかとなり、問題が一層拡大した。

07年上半期のインターネットの検索ランキング（スポーツ男子選手）で「秋山成勲」が第3位に入っていることを見れば、この一戦がいかに国民的な関心事となっていたかがわかるだろう。

また主催者のFEGの谷川プロデューサーが「いまや韓国格闘技界は日本を超えた」と発言し、アメリカ初進出となった『Dynamite!! USA』では、在米コリアンコネクションを活かすことで開催にこぎつけた。韓国市場を重視するFEGにとっては、韓国にカリスマ性と知名度を持つ秋山は、一刻も早く復帰してほしい選手であろう。FEG内における韓国人選手の多さ（チェ・ホンマン、チェ・ムベ、キム・ミンス、ユン・ドンシク、ランディ・キムやシルム戦士など）を見れば、主催者側が意図的に秋山に「だけ」重い処罰を科す差別的対応をすることは、まず考えられない。

また過去を振り返ってみても、日本のプロレス&格闘技界は、在日コリアンや朝鮮半島の血を排他してはいない。むしろ日本人は力道山、大山倍達、長州力、前田日明、徳山昌守などといった実力やカリスマ性を持つ選手を熱烈に支持してきた。彼らの国籍が明らかにされた場合でも、その功績に対する日本のファンの評価は変わっていない。

そんな事実をしっかり把握もせずに、憶測や感情で物事を判断しようとする行為は、理不尽な差別をしようとする人間の思考回路と大差はなく、問題解決につながらないばかりか、むしろ根本的な問題から視線を遠ざけてしまうことにもつながりかねない。

我々はこれらを反面教師とし、秋山成勲の問題を考えるべきだろう。

空きカン拾いから考える“秋山問題”とは!?

「やっぱり反省行為って大切だよなあ～」



交通違反による累積点数超過でなんと！

サダハルンバに強制奉仕活動(空き缶拾い)の指令が!!

今号から さわやか宣言!!

谷川貞治

FEG代表

昨年末に勃発した“ヌルヌル事件”から約半年、いよいよ“秋山問題”も大詰めとなってきた!?　ここ最近、会見の席でも話題にのぼる秋山成勲の復帰。しかし、そこにはテレビ局、スポンサー、ファンなどさまざまな調整が必要なのだが……、サダハルンバはいったいこの問題をどう解決に導こうとしているのか？　なぜか“空きカン拾い”から秋山を考える笑顔が素敵なサダハルンバ。その真意とはいったい!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／平工幸雄

「秋山復帰」の文字が紙面で踊る昨今、谷川代表の〝灰色の脳細胞〟はすでにその先の秋山成勲vs田村潔司というカードを思い描いているようであった――。本インタビューは7・16『HERO'S』の1週間前に収録されたものであるが、ここでも谷川代表は田村vs秋山戦の必要性について熱弁！　しかし……!!

複雑な問題だけど秋山選手の道を完全に閉ざすわけにもいかない

谷川　（いきなり）ああ、『HERO'S』のカードが決まらない。

——そんなに難航してるんですか？

谷川　秋山（成勲）選手が出ないことになったから、大幅に予定が狂っちゃって。なんとか頑張ってるんだけど……（この取材終了後に田村潔司との交渉に成功した模様）。

——大会前のお忙しい中、すいません！　で、今日はその秋山選手の復帰問題についてお聞きしたいんです。

谷川　じゃあ、マジメに話さないといけないね！（身を乗り出して）。

——さっそくうかがいますが、先日、ターザン山本！さんとひさしぶりに対談されたそうですね。

谷川　ぜんぜんマジメな話じゃないじゃない。

——すいません（笑）。

谷川　山本さんとはお会いしましたよ。なんか……痩せましたねぇ、山本さん（ポツリと）。

——いろいろ大変みたいなんですよ（笑）。ちなみにターザンはなんの取材だったんですか？

谷川　なんかね、UWFの本が出るみたいで「UWFの話をしてくれ！」って。

——ゆ、ゆ、UWFぅ!?　なぜいまこの時代に（笑）。

谷川　（首をかしげて）さあ〜？　やっぱり急にUWFって言われても困るよねえ。

——もっと考えるべきことがありますよね、谷川さんは（笑）。

谷川　秋山選手のこともそうですよ！

——最近の会見でも秋山選手の話題はちょくちょく出てきてますけど、先ほどの「予定が狂った」話でいえば、今回の『HERO'S』に秋山選手を出したかったんですか？

谷川　それはまず、なぜかと言うと、今年もライトヘビー級トーナメントを開催したいなあって思ってたんですよ。でも、それならやっぱり秋山選手かサクちゃんが出ないとまったく意味がないなあって。サクちゃんは連戦になっちゃうから、秋山選手の出場を考えていたんです。

——ついに復活の機会を、と。

谷川　秋山選手も一回戦からもう一度、出直すことで「視聴率とか含めて『HERO'S』に貢献できるんだったらやります」って言ってくれたんですね。ただ、ちょっと調整をつけるには時間が足りなかったなって。

——その〝調整〟というのは、テレビ局やスポンサー関係に対する調整ってことですよね。具体的にはどういう作業が必要になるんですか？

谷川　要は「秋山選手を出します。でも、こういうデメリットがあるかもしれません」ということをあらかじめ伝えておくってことですよね。秋山選手に関しては、皆さんに心配していただいてる状況ですけど、問題が起こった直後は本当に各方面にいろんな反響があったので。そこは慎重にやらないとマズイですから。

——一方、ファンに対しての調整というのはどうでしょう？

谷川　あの頃はファンの人たちは「もう出すな！」みたいな声が多かったんで、最終的な結論を出すのは我々であるにしろ、やっぱりファンにも納得してもらえるような作業をしなきゃいけないなって思ってます。……でもさあ、ファンの見方もだいぶ変わっちゃったと思わない？

——ええと、谷川さんが言いたいのは、以前は秋山選手みたいな〝無法者〟はむしろ「リングに上げて成敗しろ!!」という声のほうが多かったということですよね。

谷川　そっちのファンのほうが圧倒的に多かったでしょ!?　だから、調整というのは二つの方向があって、一つは、言い方は悪いですけど、秋山選手を〝賞金首〟に仕立て上げる方法ですよね。「秋山は反則をしました。だから、誰か秋山を制裁してください！」と。

——言ってみればポジティブな調整。

谷川　もう一つは、ボクらが想定していた調整とは違うやり方なんだけど、「秋山選手をそろそろ出してもいいですかぁ？」って、おうかがいを立てる調整なんですよ。

——谷川さんは前者をやりたかったけど、現実は後者の方法に追われているわけですね。

谷川　そう！　今回の目安箱の設置とかは後者ですよね。

——ああ、『HERO'S』の会場で設置する目安箱。そもそも目安箱って、そういうものでしたっけ？（笑）。

谷川　あれは新聞社の方たちの意見なんですよ。会場に目安箱を置いて意見を聞いたらいいんじゃないか、みたいなことを言ってくれたんですね。そういう意味でも、マスコミも「秋山問題に取り組んでいかなきゃいけない」みたいなムードになってるというか。

——たぶんファン心理でいうと、多くの人はいまだに「故意か？　過失か？」ってところで議論してると思うんですよ。「バックステージでクリームを塗ってる映像を見せろ！」という声が出てくるのはそういうことなんじゃないかなって。

谷川　でも映像を見せても、結局「それも編集しただろう」とかいう話になったりするし、映像自体もFEGの持ち物ではないですから。秋山選手の違法行為を明らかにしたわけですし、それ以上の波風は立てたくないのが正直なところですね。あとはやっぱり、前田（日明）さんにもお叱りを受けたんですけど、審判団もチェックができてなかったのもよくなかったと思うんですよ。チェック機構としていかに信頼してもらえることをやるかっていうことが、審判団がやるべきことですよね。

——でも、3・12『HERO'S』名古屋大会で、メルヴィン・マヌーフが足裏に松ヤニを塗ってリングインしたのを見抜けませんでしたよね。あいう不備がある時点で、審判団への信用性は、いまのところまるでないと思うんですよ。

谷川　……そうですねえ。そういう部分では、より厳しくやらないとダメですね。

——あと、秋山選手の復活の道としては、谷川さんは「桜庭さんの気持ちも大切にしたい」ってことを常々言われてますけど、この件について桜庭さんとお話は……？

谷川　正直、しっかりとはできてないですね。でも、とにかく桜庭選手の主張というのは「総合格闘技をよくしたい。だからいい加減なことはしたくない」っていうことだったと思うんですよ。それに関しては、FEGが考えうる最高の行動をとったことで、桜庭さんは満足してくれていると思っています。

——ただ、秋山選手個人に対してのわだかまりはまったく解けてない雰囲気はありますよね。桜庭さんの自伝『ぼく…。』（東邦出版刊）でも、秋山選手の記述に関しては「例の彼」っていう書き方をしてますし。

谷川　そこは複雑だと思います。ボクにも「秋山くん、イチからやり直しなよ」っていう雰囲気には見えないですしね。桜庭選手に関しては気持ちを大切にしてあげたいですけど、



1月11日に行なわれた「桜庭vs秋山 裁定発表記者会見」に出席して以来、公の場に登場していない秋山。現在も熱心にトレーニングをしているということで、“華やかな”飲みの席にはいっさい出席を控えているそうである。

だからといって秋山選手の道をまったく閉ざしてしまうわけにはいかないと思うんですよ。

――目安箱に「出すな！」っていう意見が殺到したらどうします？

谷川　う～ん……。だったらヨソのリングに出すしかないですねえ。

――ヨソのリングですか。

谷川　ヨソに上がるしかないってことですよ。まあ、FEGの問題でもあるから、我々も秋山選手のことを考えてあげないといけないと思うんですけど……。まあ、それはぜんぜん望むことじゃないですけどね。だって、秋山選手は本当に逸材というか、やりがいがある選手ですから！

――プロモーターにとっては。

谷川　でしょ？　だって……、これは山本さんと対談したUWFの話とかぶるんだけど、ここで言っちゃっていいかなあ？

――え～、よくわかりませんが、大丈夫なんじゃないでしょうか（笑）。

谷川　じゃあ、とりあえず話すけど、UWFってボクの中の定義では〝最後のプロレス〟っていう感じがするんですよね。このあいだIGFってあったじゃない？

――ああ、あまりにも何も起こらなかったIGF。

谷川　試合もよかったって話だし、それは素晴らしいなと思うんですけど、でもボクのプロレスのイメージって、やっぱり同じ釜の飯を食った人たちが閉鎖的な空間で繰り広げる嫉妬だとか、憎悪だとか、それから友情だとか、そういうガチンコの感情が湧き出る闘いがプロレスだって思うんですよ。つまり、ノゲイラvsヒョードルよりも、ボクは髙田延彦vs田村潔司のほうが大好き!!

彼の今後はいい〝プロレス〟になるという思いがあるんですよ

――確かに髙田延彦vs田村潔司は〝極上のプロレス〟でしたね。

谷川　そうそう。それって秋山選手にも言えることで、彼の今後というのはいい〝プロレス〟になるなあという思いがあるんですよ。でも、いまは、秋山の復帰戦よりもランディ・クートゥアーvsチャック・リデルが観たいっていうファンがたくさんいるというのが、なんだか時代は変わったと思わざるを得ないんですよ。

――時代は変わりましたか（笑）。

谷川　うん。ボクはみんな『kamipro』の読者みたいなファンばっかりだと思っていたんだけどねえ。

――ウチの読者をなんだと思ってるんですか（笑）。まあ、クートゥアーvsリデルも魅力的ですけど、〝その先〟の魅力にはイマイチ欠けますよね。競技的には挑戦者とどんどん闘っていくんでしょうけど。

谷川　そう！　クートゥアーvsリデルは〝点〟なんです！　だって、田村vs秋山とか、柴田vs秋山とか、その先の船木vs秋山とか。

――ああ、船木さんまで（笑）。

谷川　もちろんです！　もしくは桜庭選手の弟子が出てきてもいいですしね。ボクはそこに一番ガチンコの感情が見られると思うし、プロモーターとしては、それをリング上で見せなくてどうするんだ！　って。

――まあ、ファンも秋山問題をどう捉えたらいいのか揺れ動いていると思うんですけどね。たとえば、「田村vs秋山を観たい！」という『kamipro』の読者はあたりまえのようにいるんですよ。でもそのファンは「でも、秋山だけは絶対に許さない！」というスタンスだったりもするんです。

谷川　許すか、許さないかに関係なく、ボクはリングに上げるべきだと思いますよ。そうして秋山選手は自分の間違ったこととかを証明していかなくちゃいけないってことですよ。この次にまた同じ反則をやったら、それはもう終わりだと思うんですけどね。

――また次回もクリームを塗ってきたら凄いですけどね（笑）。そうなったら〝バカ勝ち〟ですよ！

谷川　だけど、選手としての秋山選手は凄く素晴らしい。可能性があるし、まだまだ伸び盛りじゃないですか。そういうときに生の感情をリング上で見せることが凄く重要だと思うんですよね。

――ただ、残念だったのは、先日、前田さんがちょっと迂闊な発言をしちゃったことなんですけど……。

谷川　そうなの？　ボク、ちゃんと

秋山選手の復帰戦？　やっぱりボクは田村選手がいいですね

聞いてなかったんだけど、なんて言ってました？

――要は、秋山は反省してるのに、ファンが復帰できないようにいじめてる、と。そして、このいじめは日本社会全体の問題だと言われてて。

谷川　ふんふん。それで？

――これはダウンタウンとか、とんねるずが若手の芸人をいじめてるのをテレビで観て、ファンも影響を受けちゃってるっていう言い方をされてたと思います。ついでに、そういうことをしてないのはウッチャンナンチャンぐらいですよ！　って（笑）。

谷川　へえ～。おもしろいなあ、前田さんは……。

――ボクもこのウンナン発言には爆笑してしまったんですけど、でも「田村vs秋山は観たいけど、秋山はやっぱり許せない」というファンからすると、「ファンがいじめてる」っていう発言は反感を買いそうだなって。

谷川　なるほどねえ。そういうのも含めて秋山問題って特殊ですよね。ただ、明らかに「これは、いじめてるな」という動きも多いですよ。たぶん、前田さんが引っかかってるのは、国籍の問題とかでしょう。

――へえ～、まだそういう意見ってあるんですか？

谷川　これだけ韓流ブームなのに、同じ日本人としてボクも目を覆いたくなるような論調はありますからね。でも、秋山選手だってこれだけいろいろと世間を騒がせておいて反省してないってことはないと思いますよ。

――うーん。でも、その反省してるかどうかって、ボクたちには非常にわかりづらいですよね。だって、あの謝罪会見以来、秋山選手は公の場には出てないわけじゃないですか。

谷川　公の場に出てないっていうのは自粛しているからで、よっぽどのイベントとかじゃない限り、仕事もまったく入れてないんですよ。いまでも秋山選手ってイベントもののオファーがけっこう来てるんですけど、極力、行かない姿勢をとってるみたいですね。

――なるほど。

谷川　あと華やかな場所へ飲みにも行ってないし。

――それじゃ禁酒による願掛けですよ（笑）。まあ、反省の度合いを測るのは難しいですよね。

谷川　反省の話で思い出したけど、ボク、このあいだ千葉県の交通署から「交通違反の点数が累積してるから、船橋駅の前で空きカンを拾え」っていうお手紙が来たんですよぉ!!

――ガハハハハハハハ！

谷川　しかもさあ、ちょうど『HERO'S』の翌日に時間指定されてるんだよねえ。だから、どうしても一夜明け会見があるから「出られないです」って言ったんですけど、そしたら「日にちを変えるから！」って。

――ガハハハ！　逃れられない運命ですね（笑）。

谷川　監視員に見張られながらみんなと一緒に拾わないといけないんだよねえ。しかもゼッケン着けて！

――いいなあ（笑）。でも、空きカンを拾ったところで谷川さんは交通違反しないように反省しますか？

谷川　反省ねえ……。まあ、反省っていうよりも、こんな恥ずかしい気持ちはヤだなっていうのはありますね。

――交通違反自体はどうでもいい、と（笑）。

谷川　そう考えると、空きカンを拾わせるような行為も大切なんだろうなあ。秋山選手もそういうことをやればいいのかなあ。

――もし秋山選手が復帰するとしたら谷川さん的に相手は誰を？

谷川　田村選手がいいですね。

――TBSとしてはどうなんですかね。田村潔司って。

谷川　それを言ったら高田vs田村もフジテレビさんからしたら、高田vs吉田（秀彦）とか、同じ師弟対決だったら高田vs桜庭のほうがよかったかもしれないですよ。だから、そこは気にならないですね。

――ちなみに、桜庭選手との再戦というのはどうですか？

谷川　桜庭選手自身がやりたくないでしょうね。それに、あの二人はあんまりやる必要もないと思うんですよ。



「いままで練習でも試合でもあそこまでヌルヌルすることはなかった」とあらためて会見場で語った桜庭和志。同席でFEGサイドに感謝の意を示した桜庭であるが、秋山への態度はいまだに厳しいようである。

たとえばトーナメントとかで勝ち上がったとかだったら対戦しないといけないし、そういう意味ではどっかで対戦するかもしれないけど。

――やっぱり、格闘技ってへんにドラマがあるとマッチメイクは難しそうですねえ。

谷川　でもねえ、それを考えないとUFCみたいになっちゃうんですよ。クートゥアーvsリデルみたいな！

――そこまで否定しなくてもいいじゃないですか（笑）。

谷川　（無視して）あと、たとえばハリトーノフとヒョードルを5億円使って闘わせても、興奮しないねっ!!

――とりあえず落ち着いてください（笑）。

谷川　だから、やっぱりボクはいいプロレスっていうか、あくまで秋山選手が生み出したドラマというか、ガチンコの感情をリング上で見させてもらいたいなと思いますよ。

――高田vs田村ばりのプロレスを！

谷川　高田vs田村はリングに上がるまで10年近くかかってるけど、秋山選手は驚くくらい短期間ですからね。そういう意味でもやっぱり彼は逸材ですよ！

――谷川さんも負けず劣らない逸材ですけどね（笑）。空きカン拾い、頑張ってください!!

【07年7月9日／都内・FEG赤坂分室にて収録】

と、谷川代表には田村vs秋山戦待望論を切々と語っていただいたのだが…、7・16『HERO'S』で田村潔司がなんと世紀の大すべり！　いったい"秋山問題"はどうなってしまうのだろうか!?　んあ～。

ードッグが世界を黒く塗りつぶす!!

文／高崎計三　構成／松下ミワ



「今年後半から年末にかけて、ビッグサプライズを用意している。いまは言えないけどね」

2月にコスタリカ大会を取材した際、インタビューに応じたボードッグのディレクター兼マッチメイカー、ミゲル・イトゥラーテは、いつもの早口でこう答えた。この言葉が単なるブラフなのか、それとも確たる裏づけを伴なった世界に対する宣戦布告なのか……。

UFCが『PRIDE』を飲み込んでさらなる巨大化をはたしている現状で、この言葉の持つ意味はさらに大きくなってきている。

ご存知のとおり、4月のロシア大会では現PRIDEヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルを参戦させ、さらに同大会にはあのプーチン・ロシア大統領も来場したことで存在感をおおいにアピールしたボードッグ。その資金力に政治力まで加わったら――。ダナ・ホワイトの言うとおり〝ジョーク団体〟で終わるのか、世界MMA戦争の一方の雄として君臨するのかという岐路に立つボードッグにとって、これは大きなアピールとなった。

UFCの一人勝ちに立ちはだかる闇の勢力再び――

天変地異の秘策アリ!? ボー



だからこそ下半期にはさらなる実弾、さらなるサプライズがなければならない。でなければ、『PRIDE』のトップファイターを続々と登場させて刺激を提供し続けているUFCには対抗できないだろう。

しかし、ここへきてやや情勢に変化が見られるのも事実だ。あちこちから漏れ聞こえる話から判断するに、UFCとボードッグの選手獲得競争はどうやらUFCが有利のようだし、ヒョードルは次に参戦する団体をまだ明言していない。IONネットワークで初の無料放送イベントとなる7・14ニュージャージー大会も、世界が驚くような新顔の参戦はない。はたしてボードッグに秘策はあるのか？

本誌がつかんだ情報では、今年後半にかけてもボードッグは"世界戦略"を継続していくようだ。キーワードは財力と政治力。ロシアで見せたこの方向性を、さらに推し進めるとすれば……。

さあ、連想ゲームだ。財力、政治力、そして格闘技。ある名前が、ある顔が思い浮かばないか？ カルビン・エアーが紹介されたとき、「国家予算規模の資産を持つ」といわれたが、それどころか「国家」に直結する立場の人物がいなかったか？ そういえば、ミゲルがアメリカでのプロモート権を持つグラップリングの世界大会は……。今年5月、その大会のスポンサーについたのは……。あれっ、そういやその大会と、今回のボードッグは同じ会場だ……。

ボードッグが"あの人"とガッチリ手を結ぶとすれば、本当に世界の格闘技情勢が塗り替わりかねない。07年下半期、一寸先はラクダ……なのか!?

7.14（現地時間）
ボードッグ・ニュージャージー大会
in ソブリンバンク・アリーナ



大会は、余裕の延長ラウンド突入へ!

"豊田真奈美イズム"ついに炸裂か!?
ボードッグ・アメリカ初上陸大会で

日付越え達成!

―驚異の6時間興行―

またしても歴史的快挙!

セミ前、第8試合の終了のゴングの頃、ちょうど館内のデジタル時計が「0：00」になった。おめでとうございます! ……って、おい! 日付が変わりました! ボードッグ3回目の有料大会、そして初のアメリカ進出となったニュージャージー大会は、午後7時30分開始、そのまま日付が変わっても続き、なんと6時間かかって午前1時半近くに終了するという〝偉業〟を成し遂げてしまった!

タイのムエタイ興行なんかではよくある話だが、日本の感覚ではやっぱり異常。やはり日付を越えて大変な騒ぎになった、93年4月2日の全日本女子プロレス・横浜アリーナ大会が脳裏をよぎる。ん? 全女? あっ、そういやボードッグ・コミッショナーのジェフ・オズボーンが、豊田真奈美のファンだって言ってたっけ! そうか、全女イズムの継承だ!（違う）。

北米がMMAバブル真っただ中といわれ、まんまとPRIDEファイターたちを手中に収めたUFCがさらに勢いを増す中、その代表のダナ・ホワイトから「ジョーク」と言われた最初の団体、ボードッグが初めてアメリカ本土にその足跡を記す。普通に考えれば、それはボードッグにとっても一大事業のはずであり、かつてないほど気合いが入っていても不思議ではない。だが、筆者が大会2日前に現地入りし、全試合と記者会見が終了して会場をあとにするまで感じたのは、そうした気合いとは無縁な、ボードッグらしい……、いや、いつも以上にチグハグなムードだった。

選手を迎え入れる体制作り、会場での演出、その他モロモロ……。まず感じられるのは、「今回はあまりお金をかけていないな」だった。もちろん、選手・スタッフのホテルは一流のハイアットだったりして、決して〝貧乏くさい〟わけではないのだが、コスタリカでのスケールのデカいバカバカしさ、ロシアでのレーザー光線飛び交うド派手な演出を見ていると、どうしても今回はスケールダウンを感じてしまう。

試合のラインナップに、前回のヒョードルのような「世界的な目玉」がなかったのも事実だ。メインに据えられたのは、ボードッグ・前ウェルター級王者エディ・アルバレスとマット・リーの一戦。タイトルマッチも2試合組まれ、協力関係にあるレッドデビル、パンクラスからも選手が派遣されている。もの凄くスケールダウンしたわけではないのだが、やはり全米でPPVが売れるようなカードでないことは確かだ（今回はPPVではなく、ケーブルテレビでの無料放送だが）。

そのチグハグさは大会が始まっても続いた。試合のあいだにやたらと不必要な〝間〟が挟まり、へんなタイミングでエディの過



客席をお揃いのTシャツで黄緑に染めていたアルバレスの応援団。観衆の半分はアルバレスがお目当てと見受けられた。ちなみに、今大会の入場チケットは、165ドルから65ドルまでの5種類。日本円で、2万円から8000円といったところか。

題。客席をお揃いの

では、やはりジョークはジョークと認め

一大事業であるはずのアメリカ進出で
とんでもない偉業を成し遂げてしまった……



[ボードッグ・ミドル級初代王座決定戦]
×近藤有己 vs トレバー・プラングレー○（2R終了時　TKO ※近藤の顔面負傷による出血でドクターストップ）
1、2ラウンドともにプラングレーのパンチからテイクダウン、パウンドで近藤は左まぶたをカット。無念のドクターストップとなり、初代王座はプラングレーのものに。プラングレーはスタミナを消費しており、長期戦になれば勝機はあったが……。

去の試合がビジョンで上映されたりする。気づけば、ディレクターのミゲル・イトゥラーテをはじめ、リング周りのスタッフがやたらとモメているようだ。結局それがなんだったかはわからないが、そんなこんなが積もり積もって6時間という興行時間になってしまったのである。

そもそも客入りも悪かった。昨年12月のバンクーバー大会も入りは悪かったようだが、MMAブームと言われるアメリカ本土でこれでは、思わずボードッグの行く末が心配になってしまっても不思議ではない。前のページではボードッグの世界戦略について書いているが、大会がいきなりこれでは、いろんな方面から「ほら見ろ、やっぱりジョークだっただろ？」という声が聞こえてきそうだ。

試合のほうも、日本の期待を背負った近藤有己、高橋和生（義生改め）がともに敗れ、メインのアルバレスは格下相手に苦戦しての判定勝利と、話題的にはいま一つ。女子のタイトルマッチ、タラ・ラローサvsケリー・コボルドは場内から「今日の最高試合だ！」との声が飛ぶほど素晴らしい攻防だったのだが、女子はやはり注目度が低い。恒例のスペシャルゲストもなく、その点でも物足りなさが残った。

では、場内が冷え切っていたのかというと、それはまた別問題。客席をお揃いのTシャツで黄緑に染めていたアルバレスの応援団は、試合開始が午前1時を過ぎようともガンガンに盛り上がっていたし、セミで新王者になったラローサも地元出身とあって、大歓声。それ以外の試合、アメリカvs外国の試合では「USA！」の大合唱が起こって、正直言って客入りからは想像つかないほど沸いていた。観客も、興行が長引いても怒り出す様子もないし、その多くは満足して家路についたのではないか？

だが、それではダメなのである。「まあ、今日は地元のファンで盛り上がったよね」的なレベルで終わっていては、そのへんのローカル・プロモーションと一緒だ。世界を黒く染めるはずのボードッグが、莫大な資金力であのヒョードルをもリングに上げてしまったボードッグが、やってることではないのである。その意味でもやはり、今回の大会は「失敗」と言いきってしまってもいいのではないかと思う。まあハッキリ言えば、このままではUFCの背中は、まだまだ見えないほど遠い彼方だ。

これから明らかになってくるかもしれないが、ボードッグのこんな現状の裏には、いろんな派閥争いや、グループ内の対立などが隠されているらしい。もしかしたらそのせいで、近日、内部的に大きな動きが起こるかもしれないという。今回のドタバタは、そう聞けばすぐに合点がいくような状況だった。急に出てきて、なにしろ「金はある」ということが喧伝されただけにいろんな人間が寄ってきて、ご多聞に漏れず内外がゴタゴタしているということだ。

では、やはりジョークはジョークと認めて、近いうちにボードッグはMMAから撤退してしまうのだろうか？　これも内部情報によれば、それはあり得ないという。MMA事業は、少なくともあと数年は続けることになっている。そうなると今回のアメリカ大会は「ああ、最初はいろいろあったよね……」になるのか、それとも「あれが悪夢の始まりだった……」になるのか？言えることは一つ。ボードッグは、アメリカに対してこのままで済ますわけにはいかないだろう、ということだ！



○エディ・アルバレス vs マット・リー×
（3R 判定3-0）
開始早々から得意のパンチで攻めるアルバレスだが、パンクラス参戦経験もあるリーはテイクダウンを許さず、長期戦に。アルバレスは1ラウンド終盤からパンチも失速気味だったが、それでも主導権は渡さず、判定勝利。地元ファンの前で勝利した。



×高橋和生 vs マイク・バーチ○
（1R 3分45秒 KO ※ヒザ蹴りからのグラウンドパンチ連打）
コスタリカ大会（ノーコンテスト）の再戦。コーナーに詰めてパンチを振るってくる120キロの巨漢バーチに左フックでの逆転を図りたい高橋だったが、首相撲からのヒザ蹴り2発で倒されたところでストップ。フリー＆改名第1戦を飾れず。



ボードッグ特派員・高崎計三の

スーダラ紀行 in ニュージャージー編

ボードッグ・アメリカ初上陸の今大会。今回はスムーズに取材ができるかと思いきや……、そこにはまたまた熾烈な現実が待っていた！
さあ〜、今回もボードッグ特派員が目の当たりにした現地でのズンドコ一部始終を読め!!

12日 木　米上陸、大成功〜！ いきなりTK vs 近藤の夢の対決が実現!?

やっと来れたぜ、ニュージャージー！　ボードッグ遠征シリーズ第3弾、初のアメリカ編だ。2月のコスタリカ、4月のロシアに比べたら国そのものの〝難易度〟は格段に下がったものの、ここにたどり着くまでは一番大変だった。じつは今回、オレはボードッグにご招待してもらえるはずだった。というのも、4月のロシア大会でプーチンがらみのトバッチリを食らいリングサイド撮影ができなくなったお詫びにと、向こうからオファーしてくれたのだ。だが直前になって話は二転三転。結局「ご招待できなくなりました」という結論が届いたのが大会1週間前！


TKと近藤は現地のゴールドジムで入念にスパー。ボードッグは今大会、このジムのボクシング練習場を20時〜23時まで借り切ってたという。テニスコートにマットを敷いて練習場にしていたコスタリカ大会とは大違いだ！

オイオイ、いまから自分でチケット手配かよ！　そんなわけなんで、選手やスタッフたちと同じホテルに宿泊できたという現実にホッと一安心なんである。

成田を発って16時間近く、カナダのトロントを経由して着いたのがフィラデルフィア空港。映画ファンには『ロッキー』、プロレスファンにはECWアリーナがあったことで有名な場所である。ホテルがあるのはニューヨークの南西に位置し、フィラデルフィアから車で1時間近く走ったニュージャージー州プリンストン。


ホテル周辺はミネラルウォーターを買うのも一苦労なほど何もない町だが、こぢんまりしていながらも非常に洗練された町並みだった。

初日の12日は、ホテルに行って関係者らと落ち合い、まずは腰を落ち着けて……というはずだったが、彼らによると、「いまから日本人選手たちは近くのゴールドジムに行って練習する」とのこと。今回、こちらに来ている日本人選手は、近藤有己、高橋和生の二人。それぞれのセコンドとして、パンクラスの金井一朗、〝TK〟こと高阪剛が来ている。

緊急の情報を受けてオレもジムへ直行すると、さすがはゴールドジム、アメリカでも日本と同じ雰囲気！　……いや、こっちが本場なんだった!!　すでに多くの選手が練習しており、中には近藤とタイトルマッチを闘うトレバー・プラングレーの姿も。ジムでは近藤とTKのスパーという、けっこうな夢の組み合わせを目撃でき、迷わず直行した甲斐あり！

2時間あまり練習を見学し、ようやくホテルへ。今回、選手たちには食費が現金支給されているらしい。オレには……もちろんない。しかし、あの有名なハイアット・リージェンシーにボードッグのおかげでかなり安い値段で泊まれているので、ヨシとするか。

13日 金　アスレチック・コミッションに同行 その後、近藤らと日本食レストランへ……!!


計量後、日本食レストランでポークしょうが焼きをほおばる近藤。日本人の訪問も多いのか、たいがいの日本食はここでいただける。

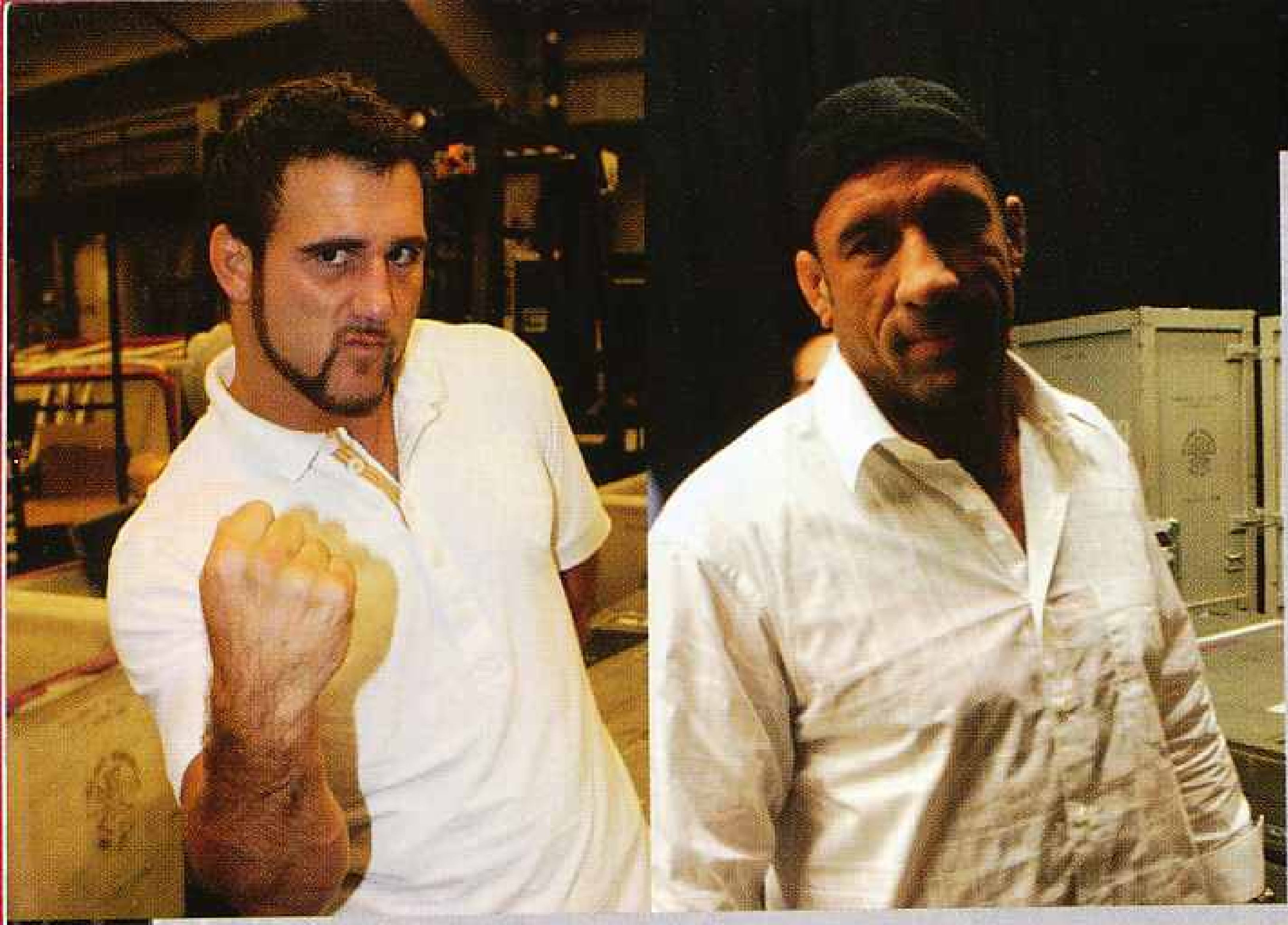
ニュージャージー2日目は、朝9時にロビー集合。パンクラスの坂本靖常務がセコンドとしてのライセンスをニュージャージー州アスレチック・コミッションに申請しに行くというので、一緒に取材することに。

ミゲルの先導の下、バンで20分ほど移動し、トレントンという町にあるコミッションへ（州の司法事務所内にある）。建物の入口で写真を撮られ、顔写真入りの即席入館パスをもらう。これはいいお土産だと思ったが、帰りには回収されてしまった。事前に坂本氏がもらった申請フォームを見ると、大会に関わるいろんな人に申請料が発生していることがわかる。選手は一番安くて5ドル、セコンド25ドル、レフェリーやジャッジは75ドル、プロモーターやマッチメイカーは300ドル……といった具合（うろ覚え）。大会を開催するのも大変だ。

バンでホテルに戻り、午後は公開計量へ。場所は、昨日行ったゴールドジムだ。ちなみにこの出発までのあいだ、ホテルの近くを歩いてみたのだが、店舗の類はまる


この奇妙なお面を見よ！　じつはこれ、現地で売っているキャンディで、「お面に、おやつにどうぞ」みたいなキャッチフレーズがついている。なんだよ、その選択肢は！

でナシ。けっこう歩いたところに銀行（まさにソブリンバンク！）、企業、町医者などがあったが、ミネラルウォーター一本買える場所はなかった。近所に住んでる人もいるにはいるようだが…。
　計量が終わると、近藤とそのセコンドら6人で食事へ。近藤の希望で日本食レストランへ行くことになった。プリンストンにある「一番」というレストランは、スシ、テンプラ、焼き物など一通り揃っており、近藤はポークしょうが焼き、オレはチキン照り焼きを注文。それにしても量が多い。
　宿に戻るともう午後8時。しかし緯度が高いせいで日が長く、まだ外は充分明るい。そんな遅い時間に日本人選手たちは急きょ、テレビ用のインタビュー収録に呼ばれる。これも見学したが、スタッフの一室でアナウンサーや解説陣がいろいろと質問。やりとりを聞いていると、やはり近藤と高橋に対しては「総合のベテラン」というイメージが濃いようだ。なにしろ、70戦なんていう戦績の持ち主はほかにいないから、それだけでも彼らには驚きなのだ。しかし、「やっと格闘技が楽しめるようになった」という近藤の言葉には一同さらに驚いた様子。さすがだ！



ハンマーハウス所属選手であるブランドン・リー・ヒンクルのセコンドとして来場していた二人。今回、プーチン大統領並みのスペシャルゲストは現われなかったようである。



町の電光掲示板には今大会のメインイベントであるエディ・アルバレスvsマット・リーのカードが！　ニュージャージーはアルバレスの地元ということもあり、宣伝効果は抜群か!?

14日（土）

またしてもトラブル発生！　特派員が見た理不尽なリングサイド事情とは!?

　ついに迎えた大会当日　しかし……、大変だ！　この日、午後7時30分に始まった大会が終了したのはなんと午前1時半近く!!　6時間興行だ!!　これだけ長いのは日本でも経験した気がするが、さすがに日付を越えるとは思わなかった。会見を終え、みんなでホテルに戻ってきたのが午前2時半ですよ。そんでオレ、5時半には空港に向かって発たないといけないんですけど（泣）。
　なぜそんなに遅くなってしまったのか。まず例によって、なんだかわからない“間”が多い。試合間に意味不明な時間があるし、15分とアナウンスされたはずの休憩も30分以上に！　こうして、セミ前の第8試合中に、日付は変わったのだ。全女の横浜アリーナじゃねえんだから！
　進行以外のことでも、いろいろあった。まず、前回のロシア大会でリングサイドから追い出されて撮影できなくなるという大騒動があったが、今回もリングサイドへ行ってみたら、リングの一辺の半分もないスペースに10人以上のカメラマンが入らなければならないことになってるではないか！　こんなの無理!!
　最初、ひしめき合って撮ってると、警備のスーパーマリオみたいなオヤジが来て「試合を選べ。かわりばんこで撮れ」なんて抜かしやがる。結局、ほかのカメラマンとラウンドごとに交代して、どうにかしましたよ。しかも、「タイトルマッチとメインはみんな必要なんだから、どうにかならないか」と訴えると、「オレはどの試合が大事かなんて知らない。とにかくかわりばんこで撮れ。オマエたち、ラウンドごとに交代してたじゃないか。アレはいい手だ」なんつって、とりあってもくれないのだ。まあそんなこんなしつつも、どうにか必要な試合は押さえたのだが。ホント、ボードッグのリングサイドは“何か”が起こるよ。
　また、リングサイド席の1列目に熱狂的な愛国者のオヤジがいて、アマール・スロエフの入場時なんか、「ロシアに帰れ！」とか叫んで、おもいっきり睨まれてたのも印象的。オイオイ、スロエフなんか怒らせたら、殺されるよ！　結局そのオヤジ、あまりにもヤジがひどいもんで、スーパーマリオにきつく注意されてた。ま、そりゃそうですわな。
　というわけで、最後までシッチャカメッチャカだった今大会。というか、いつもか!?　……とにかく！　前ページで“サプライズ”のことをさんざん書いているのに……大丈夫か、ボードッグ！　何はなくとも次回こそ、リングサイドの環境を整備してくれ～。頼む!!



今回ボードッグが行なわれたソブリンバンク・アリーナは、過去にWWEや各種コンサートなどにも利用されているようで、ロビーには出演者のサインパネルが掲示してあった。



カルビン様はいなくとも、ボードッグ・ガールズはアメリカでも健在なり！　しかし、恒例の打ち上げパーティは開催されず……。



今大会のボードッグの勝利者賞はコレ！　このでっかい指輪には、「ボードッグ・ニュージャージー大会」という文字が掘られている。なんだか小洒落ているぞ！

kamipro SHOPPING

ゴー・フォー・ブロック! と新作発表!!
8月発売予定! 首を長くして待て!!

kamipro
Legend goods





近日発売

『ワールドプロレスリング』実況席のあの興奮がいまよみがえる!!

©mmsaito Co. Ltd. 2007 All Right Reserved.

マサ斎藤Tシャツ
[M·L·XL　ブラック] ¥3,150(税込)
※デザインは変更になる可能性があります

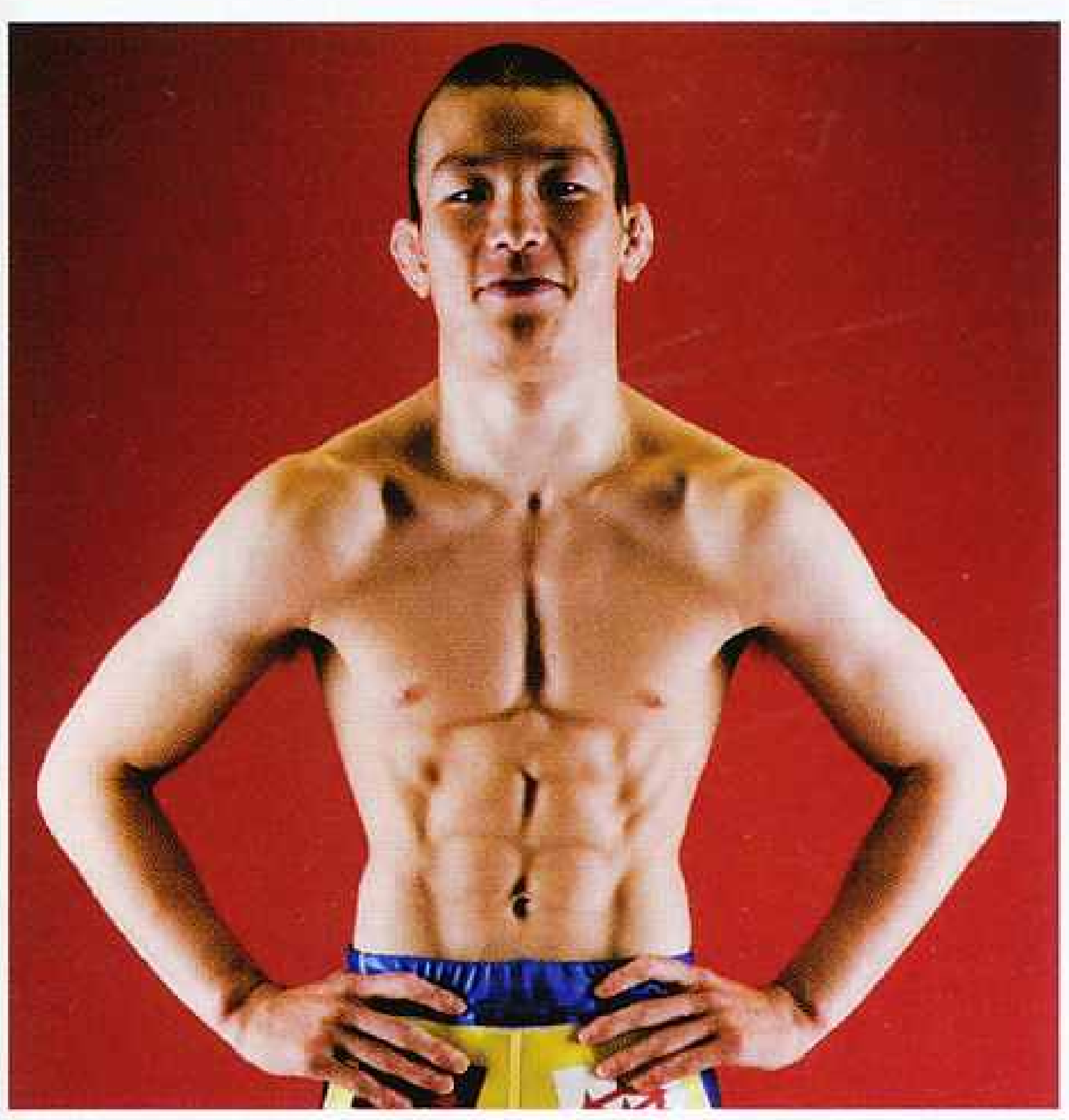


こちらは絶賛発売中!
喫茶店トークを忘れるな!!

I編集長"殺し"Tシャツ
[S·M·L·XL ブルー]
¥3,990(税込)

PRIDE goods

ブッちぎりの売れ行き
ナンバーワン! ワォ!!





青木LOCK STAR Tシャツ
[S·M·L·XL　イエロー/ネイビー]
¥4,200(税込)

ケータイサイトは
もちろん
24時間受付OK!
非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo　iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!
au/TU-KA　トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
SoftBank　メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM　趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターテイメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

さまよえる“死神”がボクシング転向!? 次は北京五輪で!

kamipro ハリトーノフ Goods



ハリトーノフFACE Tシャツ [★]
[S･M･L･XL カーキ] ¥3,990(税込)



ハリトーノフ“死神”Tシャツ
[S･M･L･XL ホワイト] ¥4,200(税込)



ハリトーノフSTAR Tシャツ
[S･M･L･XL レッド] ¥3,990(税込)





ハリトーノフ パラシュートパーカー [★]
[M･L･XL アッシュグレー/ネイビー] ¥6,300(税込)



ハリトーノフ ジャージ
[M･L･XL ホワイト&レッド] ¥7,350(税込)



ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150(税込)

ハッスル & kamipro Collaboration Goods

母が“第二子”を妊卵!
姉・ニューリン様をお忘れなく!!

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]



(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24



ニューリン様“SIGN”Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)



ニューリン様“SIGN”Tシャツ
[M･L･XL ブラック] ¥3,990(税込)



ニューリン様“SIGN”パーカー
[Lady's M アッシュグレー] ¥6,300(税込)



ニューリン様“SIGN”パーカー
[M･L･XL ブラック] ¥6,300(税込)



ニューリン様“BERO”Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)
(身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm)



ニューリン様“BERO”Tシャツ
[M･L･XL ブラック] ¥3,990(税込)

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せください)

★代引き手数料は315円です。(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元/(株)ダブルクロス

ハッスル Goods

VIVA 新体制!
ハッスル新作Tシャツ続々入荷!!



ハッスルワールド Tシャツ
[S･M･L･XL ホワイト/ブラック]
¥3,675(税込)



ハッスル! ハッスル!! Tシャツ
[S･M･L･XL ブラック/レッド/オレンジ]
¥3,675(税込)



インリン様 NEW Tシャツ
[S･M･L･XL ブラック]
¥3,990(税込)



日本ハッスル計画 Tシャツ
[S･M･L･XL ホワイト/ブラック]
¥3,990(税込)



ハッスルNo.1 Tシャツ
[S･M･L･XL ブラック/ブルー/レッド]
¥3,990(税込)

※価格はすべて税込みです [★]の商品は在庫終了次第、販売終了となります

（読プレも）おまえのものは 俺のもの!!

俺はダナ・ホワイト～♪　ガキ大将～♪

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は7月22日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦この夏の観戦予定の大会は?⑧読みたいコラム

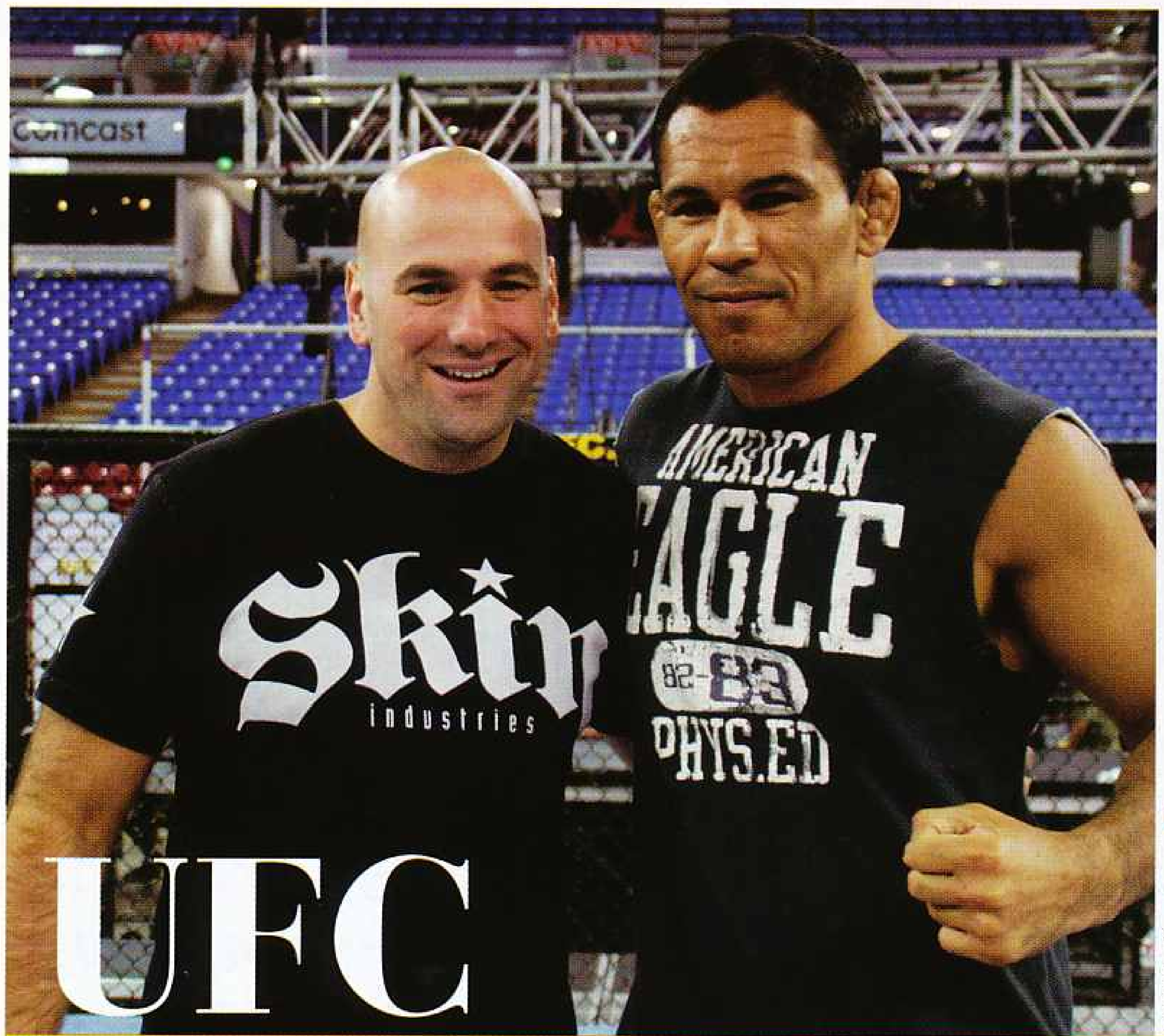
【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「俺のものは俺のもの」係まで

※締切は2007年8月20日（月）当日消印有効

kamipro 113 応募券 HUSTLE AND ROMANCE

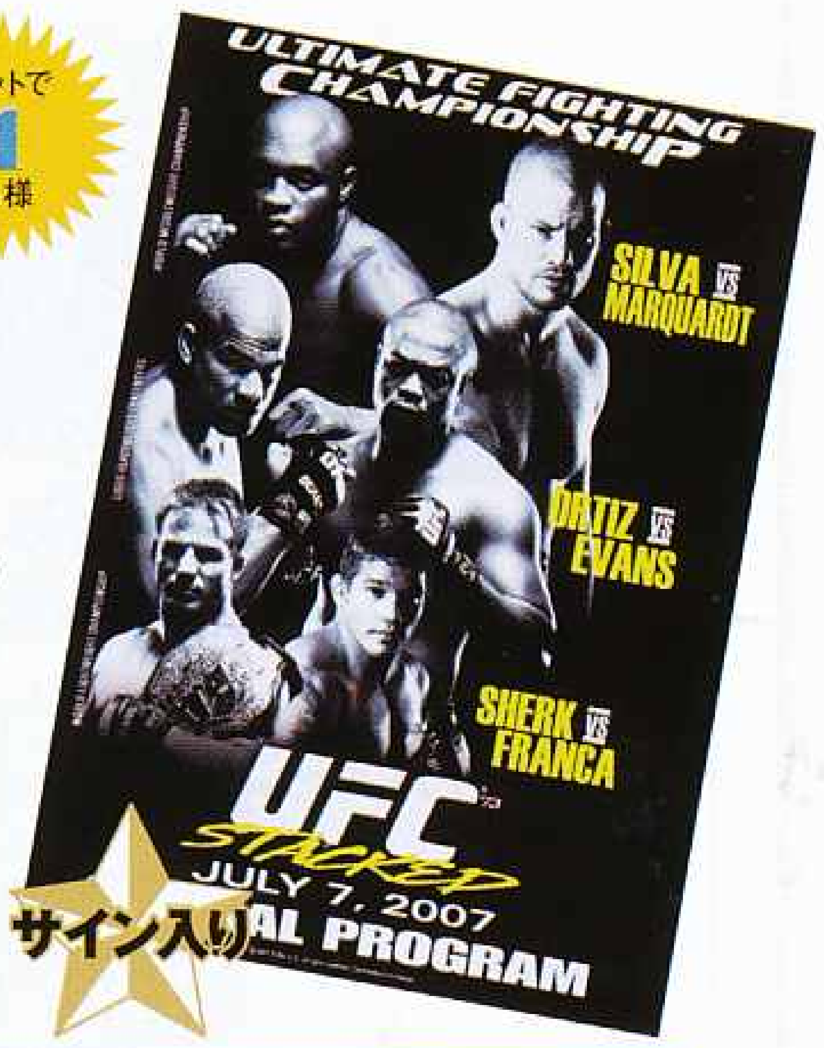
ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

UFC





セットで 1 名様



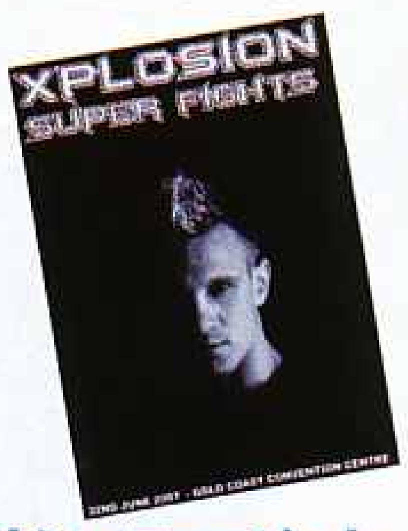
サイン入り

UFCキャップ&『UFC73』ダナ・ホワイトサイン入りパンフレット

俺のものは俺のもの!　おまえのものは俺のもの!　とジャイアンイズム全開でMMAワールドを闊歩するダナ。今回は堀江ガンツ特派員が『UFC73』現地取材でゲットしたサイン入りパンフレットとUFCキャップをセットで放出!!

UFC■http://www.ufc.com/

XPLOSION





サイン入り

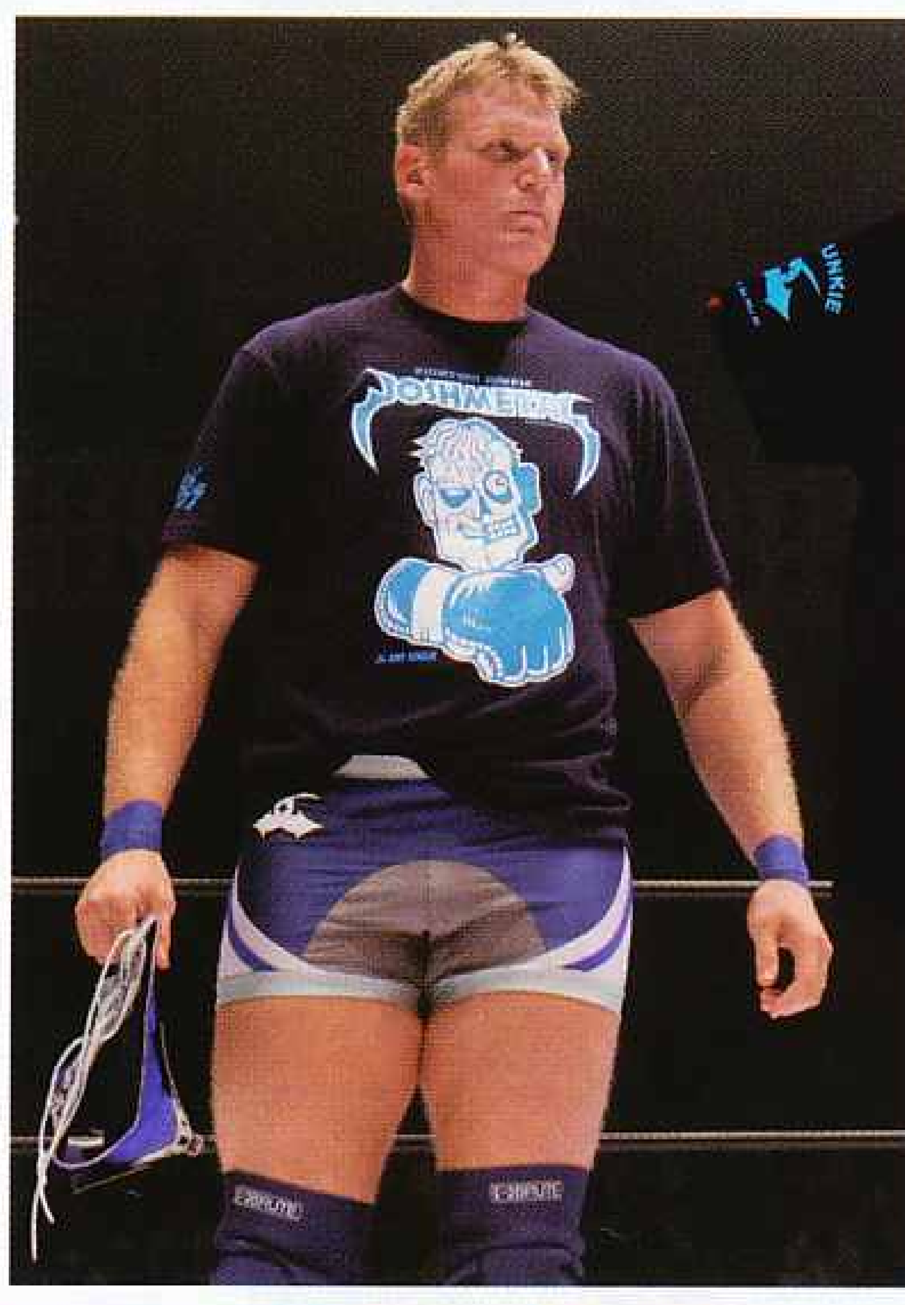
ネイサン・コーベットサイン入りTシャツ&XPLOSION大会パンフレット

セットで 1 名様

今度はコアラだ!　本誌・松澤チョロ特派員が、現地レポートしてくれた新興格闘技イベント『XPLOSION』から、エース格のネイサン・コーベットTシャツ&パンフをご提供!

XPLOSION■http://xplosion.tv/

IGF





Back

1 名様

ジョシュメタルvol.1 6.29出撃記念モデル

ネイビー／¥4,725（税込）

"世紀のズンドコイベント"IGF旗揚げ戦にホントに出場したジョシュ・バーネット。アートジャンキーからIGF限定のジョシュメタルTシャツが到着!!　あたたたっ!　とゲットせよ!

HAKAIOH



3 名様

『紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集』

（エンターブレイン刊）／¥1,890（税込）

またまた時は来た!　橋本真也の三回忌追善本は、破壊王弁当級の大ボリュームで絶賛発売中!　破壊王ファミリーに藤波辰爾などが語る珠玉のトンパチエピソードが満載!

エンターブレイン■http://www.enterbrain.co.jp/





1 名様

橋本真也ハッスルキングTシャツ

カモフラージュ／¥4,200（税込）

ハッシモト!　ハッシモト!　なんと破壊王の待望の新作Tシャツが『ハッスル』より緊急リリース!　いつ何時もヤンチャでトンパチな橋本らしく、ボディはカモフラージュ柄!!

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/



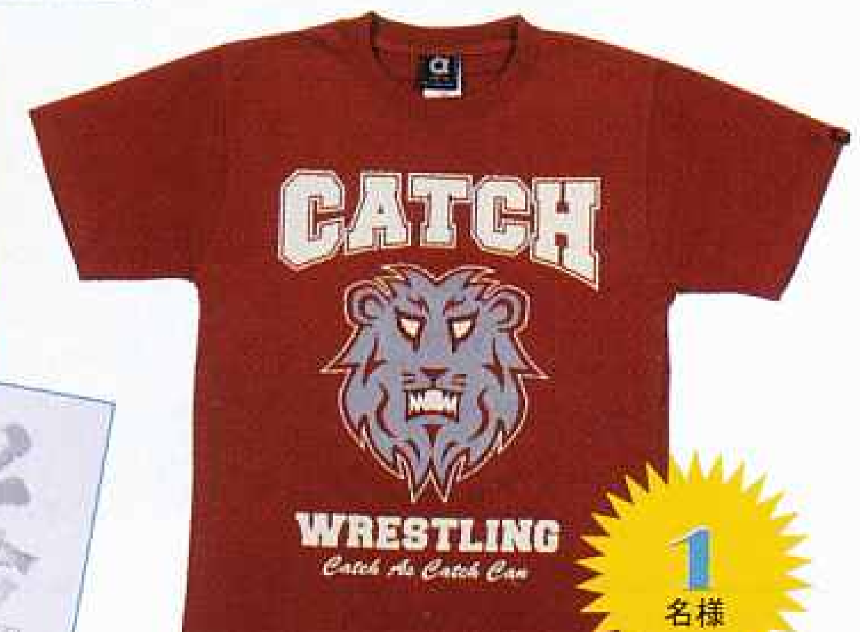


IGF 旗揚げ戦パンフレット

1 名様

「大会にズンドコぶりが足りなかった」とお嘆きのゲノムマニアにオススメなのが、旗揚げパンフ。アントンがインタビューで「切符は絶対に売れない!」と断言など、奇跡的な出来映え。

IGF■http://www.igf.jp/



1 名様

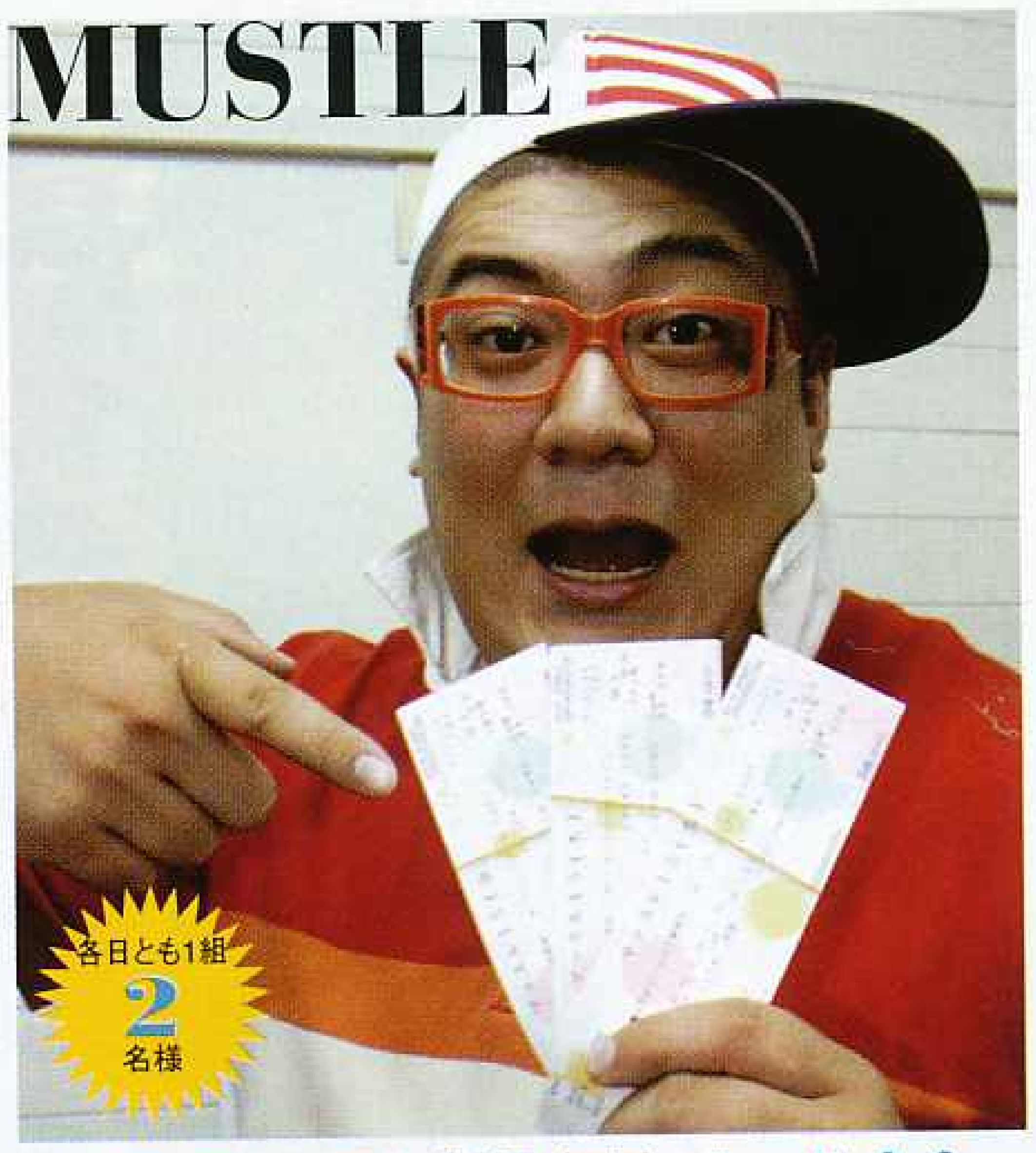
キャッチレスリングTシャツ

デニム／¥4,200（税込）

あのジョシュも「柔術は紳士のスポーツ。でもキャッチはVIOLENT ARTなんダ!」と語って、日々愛用しているキャッチTシャツ。このシャツを着てキャッチの奥義を感じろ!

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

MUSTLE



各日とも1組 2 名様

『マッスル15』北沢タウンホール大会 9月15日(土)、9月16日(日)招待チケット

話題沸騰の『マッスル』が9月に北沢タウンホールで初の3連戦! チケットはすでに完売状態だが、なんとマッスル坂井が各日とも1組2名様にプレミアチケットを太っ腹にご提供!

マッスル■http://www.ddttec.jp/muscle/



1 名様

サイン入り

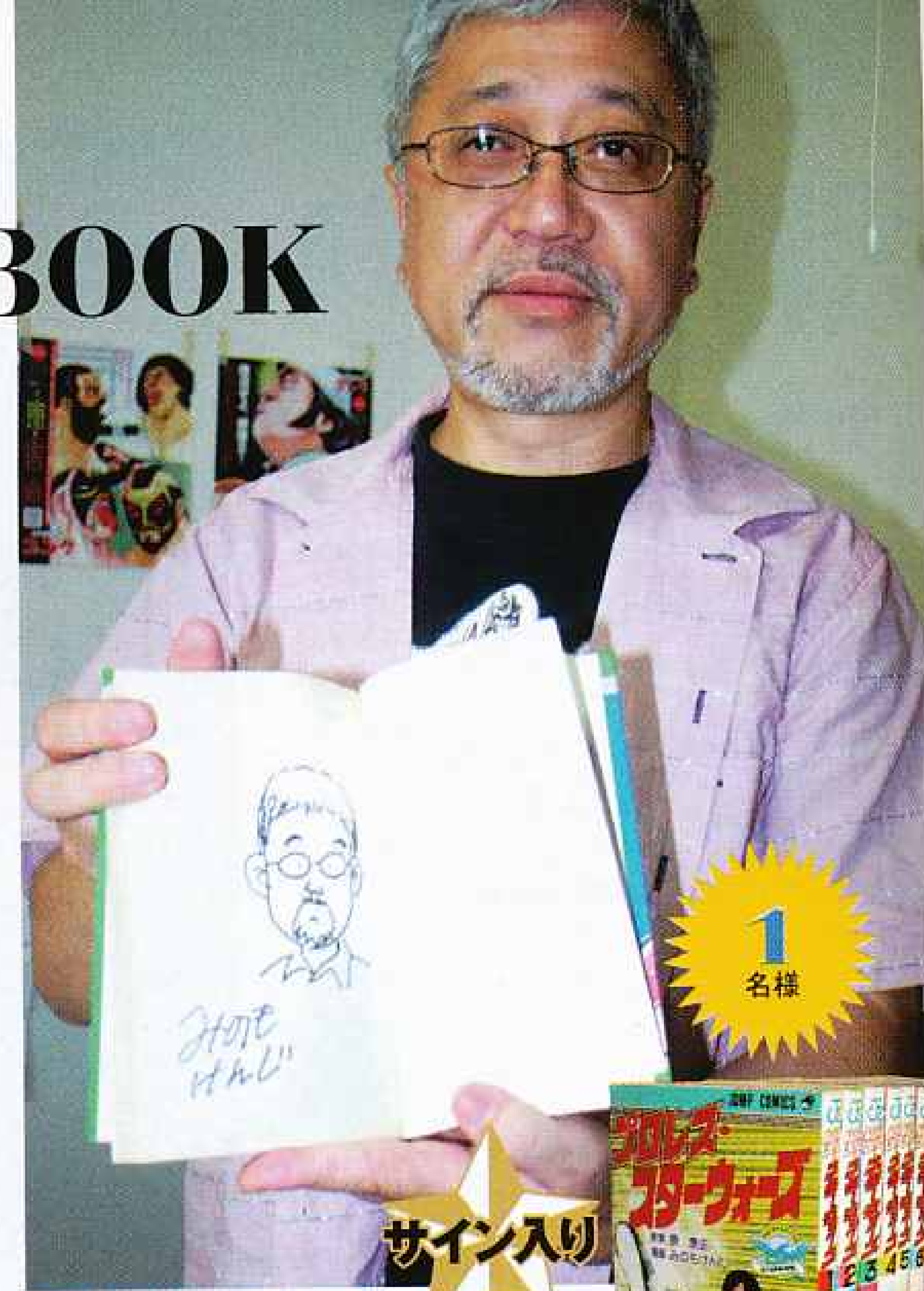
越中詩郎&ケンドーコバヤシ
『やってやるって!!』

(扶桑社刊) 1,300円(税込)

『越中詩郎をG1クライマックスで優勝させる会』も大推薦! 越中&ケンコバの共著『やってやるって!!』をケンコバ&本書に寄稿している、せき詩郎氏のサインも入れて1名に!

扶桑社■http://www.fusosha.co.jp/

BOOK



1 名様

サイン入り



みのもけんじサイン入り
『プロレス・スターウォーズ』全巻セット

うわ〜〜ん! うわ〜〜ん! みのも先生の名作マンガ『プロレス・スターウォーズ』がサイン入りでプレゼントだよーーッ! と号泣必至の全巻セットを気前よく大放出!

BAMBAM BIGELOW

各 1 名様



MDT "ファイティングコンピュータ" Tシャツ
ヘザーグレー/¥4,200(税込)

MDT "ロビンマスク" Tシャツ
ホワイト/¥4,200(税込)

MDT "マンモスマン" Tシャツ
ホワイト/¥4,200(税込)

MDT "ネプチューンキング" Tシャツ
ブラウン/¥4,200(税込)

7月31日で下北沢店を閉店する、あのプロレス格闘技ブランドのショップ『バンバンビガロ』から、『キン肉マン』シリーズの新作シャツをご提供!
今後の展開はHPでチェックせよ! ©ゆでたまご/スタジオエッグ ©YUDETAMAGO/STUDIO EGG Co.,Ltd.

バンバンビガロ■http://www.bambam88.com/

MINORU



製造元/HAOアーツオフィス
販権元/ワールドパンクラスクリエイト
発売・販売元/RINGSIDE
運営会社/ときめきドットコム

HAO鈴木みのるフィギュア

¥3,990(税込)

1 名様

風になれ! 数多くのスポーツ選手のフィギュアを生み出した、"HAOフィギュア"より三冠王者・鈴木みのるの挑発的なベロ出しフィギュアが到着! リアルな表情は完成度抜群!

RINGSIDE■http://ringside.jp

DVD



『後楽園ホール in 西口プロレス〜史上最大のワルふざけ〜』

120分/¥3、800(税込)※アントニオ小猪木サイン付き!!

2006年4月、ついに西口プロレスが"聖地"後楽園ホールに進出!! アントニオ小猪木対佐々木孫悟空のノーロープデスマッチも収録。小猪木のサイン付き!!

西口プロレス■http://www.wgwf.com/

各 1 名様



『ADCC 2007 JAPAN TRIAL』

240分/¥5,880(税込)

アブダビ王子に会いた〜い!! 世界最高峰の組技の祭典! ADCC出場を目指し、日本中からグラップラーが大集結! 一瞬も眼が離せないテクニカル合戦にうなれ!

『武神館秘巻伝照シリーズ初見良昭 口伝 その五』 97分/¥5、040(税込)

『植松直哉 総合格闘技完全教則 DVD-BOX』 477分/¥15、750(税込)

『島津兼治 柳生心眼流教傳所竹翁舎 実戦篇』 85分/¥5、880(税込)



QUEST■http://www.queststation.com/

HARDCORE CHOCOLATE

各 1 名様



インディーサミットTシャツ

ブラック/¥3,675(税込)

06年末に後楽園ホールにて行なわれた、あの『インディーサミット』のオフィシャルTシャツを最狂Tシャツブランド、ハードコアチョコレートが担当! レアな逸品をあなたに!

激突! おんなの60時間!

ブラック/¥3,675(税込)

王拳聖もビックリ! これが新しいカンフーの夜明け! 最強の女の名をほしいままにする"女ドラゴン"Tシャツをハードコアチョコレートが新発売!

ハードコアチョコレート■http://blog.core-choco.com/

kamipro 紙のプロレス

No.113
2007年8月9日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
真下義之
八木賢太郎（サンバの達人探しのため非番）

エスパー
上杉シンスキー

電気部
松澤チョロ

早期失踪!?
もとぞのくん

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長（闇の御意見番）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子

お勘定&衣料部
ニュー林様

夏だ！ ブートキャンプだ!!
入江隊長（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“サイクル”芳司

新弟子編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。



kamipro 2007 113

すべての道はUFCに通じるのか？
PRIDEのものは俺のもの!!

2007年8月9日
発行人／浜村弘一　編集人／宮脇俊一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社 ©2007 ENTERBRAIN,INC. ©2007 DOUBLECROSS

eb! enterbrain

9784757737082
定価：本体838円＋税
雑誌61955-22 Ⓗ2007.11
Printed in Japan 図書印刷
ISBN978-4-7577-3708-2
C9476 ¥838E
1929476008381